

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第177集

堺市

堺環濠都市遺跡 I

(SKT959地点)

戎之町団地建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008年3月

財団法人 大阪府文化財センター

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第177集

堺市

堺環濠都市遺跡 I

(SKT959地点)

戎之町団地建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人 大阪府文化財センター

序 文

本書で報告いたします堺環濠都市遺跡は、堺市の中心部に広がる中・近世の遺跡です。戦国末期、堺の人々は経済力を背景に町を囲む濠を掘り、自らの土地を守って「自由都市」を実現しました。堺は海外貿易の拠点であり、鉄砲や刀の生産に秀でて、商工業ともに隆盛を極めた国内屈指の都市でした。「黄金の日日」と呼ばれた町が、私達の足元に埋もれているのです。

このたび、戎之町団地の建替に伴い発掘調査を実施いたしました。調査地は、南海高野線堺東駅西方約600mの地点です。遺跡内では第959地点目の調査に当たります。この場所は16世紀代に掘られた濠の近くで、当時の中心街からは外れています。しかし、大和へつながる長尾街道が近くを通っていて、割合に賑わいのある場所だったと思われます。

堺の町を象徴する濠は、天正十四（1586）年に豊臣秀吉の命により埋められました。さらに慶長二十（1615）年には、大坂夏の陣の前哨線として豊臣方に焼き討ちされ、町はほぼ壊滅したといわれています。ところがすぐに新たな町割が施工され、旧来よりも広い範囲を囲むように濠を掘り直し、町は復興を遂げました。敗戦後、フェニックスの木々に託した人々の願いは、堺大空襲で焼野原となったこの町の復興でした。中世以来、幾度も壊滅的な打撃をこうむりなら、その都度不死鳥のように堺は甦ってきたのです。

今回の調査では、16世紀中頃から江戸時代後期までの7面の生活面を発見し、蔵が立ち並んだ中世後期や江戸時代の町屋の復元や、元禄二（1689）年に作成された絵図との対応ができました。また江戸時代末から敗戦前まで続いた酒蔵も見つかかり、堺の歴史を考える上で貴重な調査成果となりました。

調査にあたりましては、大阪府住宅供給公社、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、堺市文化財調査事務所をはじめとする関係各位から多大なご指導・ご助力をいただき、厚く感謝いたしております。また今後とも当センターへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年 3月

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野 正好

例 言

1. 本書は大阪府堺市堺区戎之町東4丁地内に所在する堺環濠都市遺跡06-2（SKT959地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は大阪府住宅供給公社から財団法人 大阪府文化財センターが平成18年10月2日～平成20年3月31日の間委託を受け、平成18年10月27日から翌年5月31日まで現地調査を行ない、平成19年6月1日から平成19年12月28日まで遺物整理作業を行ない、平成20年3月31日本書刊行を以て完了した。
3. 発掘調査および整理作業は以下の体制で実施した。
調査部長 赤木克視、調整課長 田中和弘、南部調査事務所長 大野 薫、調査第二係長 中村淳磯、主査 三木 弘、副主査 立花正治 [写真]、専門調査員 小林恒孝
4. 調査の実施にあたっては、奈良拓弥（南部調査事務所調査第一係専門調査員）の援助があった。
5. 出土した貝類については、池田 研氏（（財）大阪市文化財協会）に同定・分析をお願いし、玉稿を賜った。
6. 出土した動物遺存体については、松井章氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）、丸山真史氏（京都大学大学院）に同定・分析をお願いし、玉稿を賜った。
7. 出土した石製品については、井本伸廣氏（京都教育大学名誉教授）に石材鑑定をお願いした。
8. 英文サマリーについては、池内明峰氏をお願いした。
9. 調査の実施にあたっては、大阪府住宅供給公社をはじめ、関係諸機関や下記の方々の援助を賜った。記して感謝します（敬称略・50音順）。

安芸毬子，赤松和佳，池峰龍彦，石井 啓，石田 惣，市川 創，市川寛明，岩宮美地子，内本勝彦，扇浦正義，大澤研一，大橋康二，大八木謙司，岡 泰正，小長谷正治，柿沼奈穂，川口宏海，神崎 勝，菊池誠一，北野俊明，北野隆亮，小谷正樹，近藤康司，齊藤 進，嶋谷和彦，白神典之，末吉一恵，末吉正典，鈴木裕子，関野 豊，玉井 功，續伸一郎，角山 榮，土井和幸，栩木 真，土山健史，永井正浩，永松 実，中村大介，仲光克顕，仁木 宏，西田宏子，能芝 勉，野田芳正，乗岡 実，橋本清孝，橋本高明，長谷川眞，東 和幸，樋口吉文，深見裕伸，藤本史子，増田達彦，松尾信裕，水岡育子，美濃部達也，宮副淳子，森島康雄，森村健一，矢内一磨，山上 弘，山西良平，吉田晶子，吉田 豊，和島恭仁雄
伊丹市教育委員会，1617会，江戸東京博物館，大阪市立自然史博物館，大阪府教育委員会，関西近世考古学研究会，熊野校区自治連合，神戸市教育委員会，神戸市埋蔵文化財センター，堺市博物館，堺市文化財調査事務所，新宿区教育委員会，なにわの海の時空館

10. 本書の編集は三木および渡辺晴香（本センター非常勤職員）が行ない、三木、渡辺、小林が執筆した。各文責は目次に示した。
11. 本調査に係わる写真、実測図などの各種記録類は、大阪府文化財センターで保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 本書中の基準高は、すべて東京湾平均海水位（T.P.）+値を使用している。
2. 遺構図の座標は国土座標軸（世界測地系）を使用し、第Ⅵ座標系に準拠している。表記の単位はすべてmである。
3. 方位はすべて座標北で示した。調査地の座標北は磁北より東へ $6^{\circ}50'$ 、真北より西へ $0^{\circ}18'$ 振れる。
4. 現地調査および遺物整理は、財団法人大阪府文化財センター2003『遺跡調査基本マニュアル（暫定版）』に準拠した。

調査区の地区割りは、大阪府発行の10,000分の1地形図を基準にして、第Ⅰ～第Ⅳの最少4段階の細分で示している。第Ⅰ区画は、10,000分の1地形図の南西隅を基点にして、南北を15分割（A～O）、東西を9分割（0～8）して、縦（南北）6km、横（東西）8kmに分割した区画。第Ⅱ区画は、第Ⅰ区画を南北・東西それぞれ4分割した縦（南北）1.5km、横（東西）2.0kmの区画で、南西端区画を1番として順次横方向に施番する。第Ⅲ区画は、第Ⅱ区画の北東隅を基点にして南北を15分割（A～O）、東西を20分割（1～20）した、1辺100mの区画。第Ⅳ区画は、第Ⅲ区画の北東隅を基点として南北10分割（a～j）、東西10分割（1～10）した1辺10mの区画。地区割りの第Ⅰ区画はF5、第Ⅱ区画は9で、第Ⅲ区画以下は細分される。
5. 本書で使用した土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2006年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。
6. 遺構番号は、検出順に付与した。なお本書では、遺構番号の後に遺構種類を付して表示した。
7. 遺構実測図の縮尺は、各遺構面平面図は $1/100 \cdot 1/300$ 、遺構図は $1/40 \cdot 1/60$ を基本としているが、必要に応じて縮尺を変えたものもある。
8. 遺物実測図は通し番号とした。遺物図面の縮尺は土器類・石製品・鉄製品・ガラス製品： $1/3$ 、小型玩具・銅製品・骨製品： $1/2$ 、硯・砥石： $1/4$ 、石造物： $1/5$ 、瓦質製品・瓦： $1/6$ 、大型甕： $1/10$ 、銭貨： $1/1$ を基本としたが、大きさに応じて縮尺を変えたものもある。
9. 写真図版の縮尺は任意である。

目 次

序文

例言・凡例

第1章 調査の経緯と経過

- 第1節 調査の経緯(三木)… 1
第2節 調査の経過(三木)… 2

第2章 調査地の立地環境と歴史的状況

- 第1節 立地環境(三木)… 3
第2節 調査地周辺の調査成果(三木)… 3
第3節 元禄2年作堺絵図との対応(三木)… 6

第3章 調査成果

- 第1節 基本層序(三木)… 7
第2節 検出面の概要(三木)… 15
第3節 検出遺構(三木)… 33
第4節 出土遺物(渡辺)… 73

第4章 自然遺存体

- 第1節 SKT959地点出土の貝類(池田・小林)… 149
第2節 SKT959地点出土の脊椎動物遺存体(松井・丸山)… 153
第3節 SKT959地点出土の珊瑚化石(三木)… 155

第5章 まとめ

- 第1節 遺構の変遷(三木)… 157
第2節 天文期～慶長20年の屋敷地割の一様相(三木)… 168

参考文献 171

遺構一覧表 174

遺物観察表 190

挿 図 目 次

第1図	堺市と調査地の位置	1	第40図	166埴列建物／床下状況	52
第2図	調査地と周辺の主要調査地点	1	第41図	166埴列建物／土層	52
第3図	調査地グリッド割	2	第42図	300礎石建物	53
第4図	調査地と堺環濠都市	4	第43図	302礎石建物	53
第5図	元禄2年の堺絵図と調査地	6	第44図	279土坑	54
第6図	調査地の層序概念	7	第45図	207合甕	54
第7図	調査地の土層	13・14	第46図	192土坑	55
第8図	第7面検出遺構	19・20	第47図	683礎石建物	56
第9図	第6面検出遺構	21・22	第48図	684礎石建物	57
第10図	第5面検出遺構	23・24	第49図	122土坑	58
第11図	第4面検出遺構	25・26	第50図	133土坑	59
第12図	第3面検出遺構	27・28	第51図	136・137土坑(1)	60
第13図	第2面検出遺構	29・30	第52図	136・137土坑(2)	61
第14図	第1面検出遺構	31・32	第53図	118土坑	61
第15図	669焼土域	33	第54図	121溝	62
第16図	652・677土坑	34	第55図	161土坑	62
第17図	657土坑・654溝	34	第56図	012土坑	63
第18図	556・517焼土域	36	第57図	016土坑	63
第19図	530埴列建物	37	第58図	001・002土坑	64
第20図	583礎石建物	38	第59図	096土坑	65
第21図	582礎石建物	39	第60図	003井戸	66
第22図	581礎石建物	39	第61図	106土坑	66
第23図	584礎石建物	40	第62図	054・094溝	69・70
第24図	532～537土坑・538小穴	40	第63図	099小穴	71
第25図	510井戸	41	第64図	685地鎮遺構	71
第26図	414埴列建物／平面	42	第65図	中世整地土Ⅲ出土遺物(1)	74
第27図	414埴列建物／土層	42	第66図	中世整地土Ⅲ出土遺物(2)	75
第28図	415埴列建物／平面	43	第67図	中世整地土Ⅲ出土遺物(3)	76
第29図	415埴列建物／床下状況・土層	44	第68図	第7面遺構出土遺物	77
第30図	421側溝	45	第69図	第7面焼土層・遺構出土遺物	78
第31図	454土坑	45	第70図	中世整地土Ⅱ出土遺物(1)	79
第32図	162埴列建物／床下状況・平面	46	第71図	中世整地土Ⅱ出土遺物(2)	80
第33図	162埴列建物／土層	47	第72図	第6面遺構出土遺物(1)	81
第34図	163埴列建物／平面	48	第73図	第6面遺構出土遺物(2)	82
第35図	163埴列建物／床下状況	49	第74図	中世整地土Ⅰ出土遺物(1)	83
第36図	163埴列建物／土層	49	第75図	中世整地土Ⅰ出土遺物(2)	84
第37図	165埴列建物／平面	50	第76図	中世整地土Ⅰ出土遺物(3)	85
第38図	165埴列建物／土層	50	第77図	第5面焼土層出土遺物	87
第39図	166埴列建物／平面	51	第78図	第5面遺構出土遺物	88

第79図	天正整地土出土遺物 (1) ……	89	第110図	006井戸出土遺物 ……	122
第80図	天正整地土出土遺物 (2) ……	90	第111図	099小穴・685地鎮遺構出土遺物 ……	123
第81図	162埴列建物出土遺物 (1) ……	92	第112図	埋甕共伴遺物 ……	124
第82図	162埴列建物出土遺物 (2) ……	93	第113図	遺構・埋甕遺構出土甕 (1) ……	125
第83図	162埴列建物出土遺物 (3) ……	94	第114図	遺構・埋甕遺構出土甕 (2) ……	126
第84図	162埴列建物出土遺物 (4) ……	95	第115図	遺構・埋甕遺構出土甕 (3) ……	127
第85図	162埴列建物出土遺物 (5) ……	96	第116図	近世遺構・層出土遺物 (1) ……	128
第86図	第4面遺構出土遺物 ……	97	第117図	近世遺構・層出土遺物 (2) ……	129
第87図	014井戸出土遺物 (1) ……	98	第118図	近世遺構・層出土遺物 (3) ……	130
第88図	014井戸出土遺物 (2) ……	99	第119図	玩具 ……	132
第89図	192・626土坑出土遺物 ……	100	第120図	銭貨 ……	133
第90図	161土坑出土遺物 (1) ……	101	第121図	銅製品 ……	134
第91図	161土坑出土遺物 (2) ……	102	第122図	鉄製品 ……	135
第92図	160井戸出土遺物 ……	103	第123図	骨製品 ……	135
第93図	137土坑出土遺物 ……	104	第124図	硯 ……	136
第94図	136土坑出土遺物 (1) ……	105	第125図	砥石 ……	137
第95図	136土坑出土遺物 (2) ……	106	第126図	火打石 ……	138
第96図	122土坑出土遺物 (1) ……	107	第127図	石造物 ……	139
第97図	122土坑出土遺物 (2) ……	108	第128図	瓦質製品 ……	140
第98図	070土坑出土遺物 (1) ……	109	第129図	平瓦・埴 ……	141
第99図	070土坑出土遺物 (2) ……	110	第130図	丸瓦 ……	142
第100図	070土坑出土遺物 (3) ……	111	第131図	軒瓦 ……	143
第101図	012土坑出土遺物 (1) ……	112	第132図	鬼瓦 ……	144
第102図	012土坑出土遺物 (2) ……	113	第133図	窯業関係遺物 ……	145
第103図	012土坑出土遺物 (3) ……	114	第134図	鑄・鍛造関係遺物 (1) ……	146
第104図	016土坑出土遺物 (1) ……	115	第135図	鑄・鍛造関係遺物 (2) ……	147
第105図	016土坑出土遺物 (2) ……	116	第136図	遺構の変遷 (第7～5遺構面) ……	159
第106図	016土坑出土遺物 (3) ……	117	第137図	遺構の変遷 (第4・3遺構面) ……	160
第107図	016土坑出土遺物 (4) ……	118	第138図	遺構の変遷 (第2・1遺構面) ……	161
第108図	003井戸出土遺物 ……	119	第139図	第6・5遺構面屋敷地概念 ……	169
第109図	054溝出土遺物 ……	121	第140図	第4遺構面屋敷地概念 ……	170

挿 表 目 次

表1	調査地周辺の主要調査地点 ……	5	表6	羽口法量 ……	148
表2	埴列建物一覧 ……	72	表7	SKT959地点出土具類一覧 ……	151
表3	埋甕一覧 ……	72	表8	SKT959地点出土動物遺存体集計表(1) ……	154
表4	瓦刻印一覧 ……	145	表9	SKT959地点出土動物遺存体集計表(2) ……	155
表5	とりべ法量 ……	148	表10	SKT959地点出土珊瑚化石一覧 ……	156

写 真 目 次

写真1	SKT959地点出土珊瑚化石 ……	156
-----	-------------------	-----

図版目次

図版表紙 イギリス製銅版転写皿

図版1 第7面

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 第7面／全景（南東から） | 2 654溝／全景（北から） |
| 3 657土坑／全景（西から） | 4 669焼土域／全景（東から） |

図版2 第6面

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 第6面／全景（北東から） | 2 第6面／全景（南東から） |
|----------------|----------------|

図版3 第6面

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 530埴列建物／全景（西から） | |
| 2 581礎石建物／全景（北から） | 3 582礎石建物／全景（北から） |
| 4 556・517焼土域 左：全景（南西から） | 右：全景（東から） |

図版4 第5面

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 第5面／全景（垂直） | 2 416埴列建物／全景（西から） |
|--------------|-------------------|

図版5 第5面

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 415埴列建物／全景（西から） | 2 414埴列建物／全景（東から） |
|-------------------|-------------------|

図版6 第5面

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 419埴列建物／全景（北東から） | 2 418埴列建物／全景（北から） |
| 3 421側溝／全景（東から） | 4 454土坑／全景（東から） |
| 5 417埴列建物 左：全景（東から） | 右上：東辺（北西から） 右下：北辺（南西から） |

図版7 第4面

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 第4面／全景（垂直） | 2 162埴列建物／礎石検出状況（西から） |
|--------------|-----------------------|

図版8 第4面

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 162埴列建物／床下検出状況（西から） | 2 162埴列建物／全景（東から） |
| 3 162埴列建物／入口部（西から） | 4 163埴列建物／全景（北から） |

図版9 第4面

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 165埴列建物／全景（南西から） | |
| 2 164埴列建物／全景（南東から） | 3 166埴列建物／全景（北から） |
| 4 167埴列建物／西辺（南東から） | 5 301埴列建物／西隅（北東から） |

図版10 第3面

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 第3面／全景（北東から） | |
| 2 207合甕 左：全景（北西から） | 右：全景（南東から） |
| 3 192土坑 左：土層断面（北から） | 右：全景（東から） |

図版11 第2面

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 第2面／全景（南東から） | |
| 2 118土坑／検出状況（北西から） | 3 136土坑／遺物出土状況（北西から） |

図版12 第1面

- | |
|--------------|
| 1 第1面／全景（垂直） |
|--------------|

2 001土坑 上：遺物出土状況（北東から） 下：土層断面（東から）

3 002土坑 上：遺物出土状況（北西から） 下：土層断面（東から）

図版13 第1面

1 099地鎮遺構／全景（南西から）

2 122土坑／遺物出土状況（北東から）

3 012土坑／全景（南西から）

4 016土坑／全景（北東から）

5 106土坑／全景（北西から）

6 003井戸／全景（南西から）

7 054溝／全景（北東から）

8 094溝／全景（南西から）

図版14 出土遺物（1）

1 第6・7面焼土層出土遺物

2 669焼土域（第7面焼土）出土遺物

3・4 681井戸出土遺物

図版15 出土遺物（2）

1 162埧列建物出土中国製染付

2 162埧列建物出土中国製染付

図版16 出土遺物（3）

1 162埧列建物出土国産陶器

2・3 162埧列建物出土中国製白磁碗

図版17 出土遺物（4）

1 中国製陶器壺

2 中国製陶器黄釉壺

3 中国製陶器黒釉瓶

4 中国製陶器鉄絵壺

5 中国製宜興窯急須

図版18 出土遺物（5）

1 中国製軟質施釉陶器（明代）

2 中国製軟質施釉陶器（清代）

3 朝鮮王朝製陶磁器

図版19 出土遺物（6）

1 東南アジア製陶器壺

2 タイ製鉄絵突鉢

3 ベトナム製陶器鉄絵皿

4 オランダ製ワインボトル

5 ベトナム製陶器鉄絵鉢

図版20 出土遺物（7）

1～4 ベトナム製陶器長胴壺

図版21 出土遺物（8）

1 貝製駒

2 碁石

3 土人形

4 バイ独楽・土製模倣バイ独楽

5・6 墨書土器

図版22 出土遺物（9）

1 砥石

2 硯

図版23 出土遺物（10）

1 硯

2 砂岩製茶臼

3 花崗岩製一石五輪塔

4 石臼に残る焼柱痕跡

5 砂岩製石錘

6 砂岩製一石五輪塔

7 花崗岩製一石五輪塔

8・9 砂岩製蓮座

図版24 出土遺物 (11)

1～3 鬼瓦

5・6 瓦質不明品

8 瓦質U字溝材

4 天窓瓦

7 瓦質管

図版25 出土遺物 (12)

1～4 銅製品

6・7 骨製品

5 銅製鈴

図版26 出土遺物 (13)

1～3 鉄製品

5 鉄滓

4 銅滓

6 鋳型

図版27 出土遺物 (14)

1・2 鋳型

4 とりべ

6 埴塼

3 三叉状土製品

5 羽口

7 炉壁

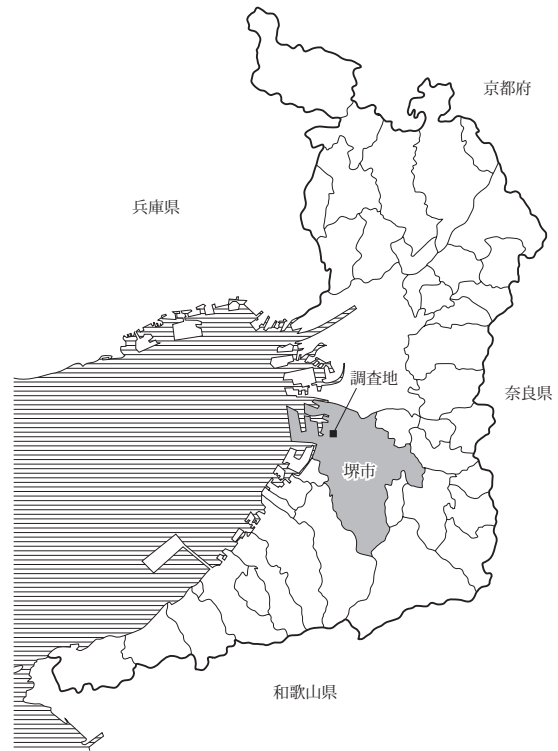
第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

堺市堺区戎之町東4丁地内に所在する戎之町団地が老朽化し、建替えが計画された。昭和30年代に団地が建築されてから、すでに40年以上を経ている。

団地は周知の埋蔵文化財包蔵地である堺環濠都市遺跡の一角に当たっているため、団地建設の事業者である大阪府住宅供給公社と大阪府教育委員会文化財保護課の間で発掘についての協議が行われ、発掘調査および整理事業を当センターに委託することとなった。センターでは、それを受託することとし、平成18年10月1日付で契約を交わし、翌日から平成20年3月31日までの期間に発掘調査、整理作業および報告書の刊行を行なうこととした。

なお当センターでは少林寺町3丁所在少林寺団地建築に伴う堺環濠都市遺跡の発掘調査も並行して実施することから、当調査地については、事業名を堺環濠都市遺跡（その2）、調査名を堺環濠都市遺跡06-2、さらに遺跡内での調査次数をSKT959地点とした。



第1図 堺市と調査地の位置



第2図 調査地と周辺の主要調査地点

第2節 調査の経過

発掘調査に伴う工事請負は平成18年10月27日～19年5月31日、航空測量は平成18年10月31日～19年6月29日を契約期間として実施した。なお空中撮影については、調査地が市街地内にあるため、ヘリコプターではなく、トラッククレーンにより行なった。

発掘調査は平成18年12月6日より開始した。まず旧団地建築時の盛土、第2次世界大戦時の焼土、近・現代の盛土や攪乱土などを重機により除去した。旧団地建築時の造成掘削が調査地西半で著しく、機械掘削停止面が東半に比べて0.6m低くなった。そのため西半では、ほぼ近世全期間にわたる、東半第1～3面分を第1面として捉えることになった。南東部には、旧団地の浄化槽が撤去されず残っていた。

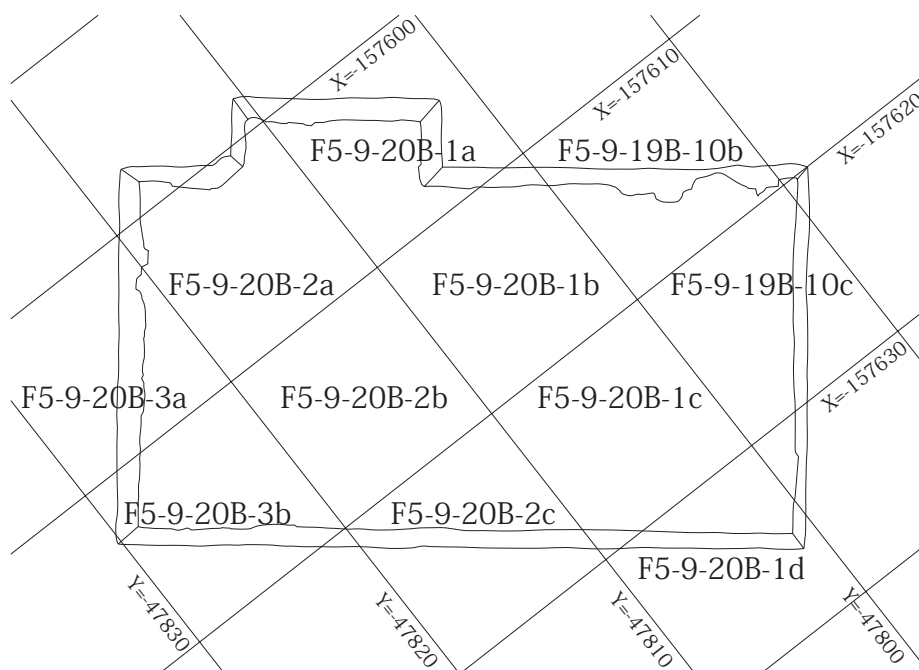
航空測量は第1・4・5面について実施し、それ以外は人力により遺構全体図(1/20)を作成した。ただし塙列建物については、平面図(1/20)および塙の設置状況図(平面・立面図1/10)を改めて人力で作成し、また埋甕、複雑な構造の遺構、出土遺物の多い遺構などについては、どの遺構面であっても微細図(1/10)を作成した。遺物の取り上げについては、凡例に記した調査地区割に従い10mグリッドで行なった。出土位置の記録が必要な遺物については、座標値に基づいて取り上げた。

なお建物基礎が及ばず、工事掘削深度も浅い調査地中央部について、現地表下1.5m以下を長さ22m、底幅3mの範囲で保存することとした。そこで、南北両辺に側溝(北辺側溝を中央トレンチと呼ぶ)を設け、範囲明示と土層確認を行なった。第6面以下が保存対象だが、530塙列建物の東半がその範囲に延びたため、その部分は掘り下げた。よってその東方および第7面の保存域では、遺構は未確認である。

発掘調査の進展につれ、当地における町屋の様相が明らかになった。ことに慶長20(1615)年の大坂夏の陣の被災面では、複数の塙列建物が存在し、町屋の様子をよく捉えられることから、3月10日に現地説明会を開催した。参加者は740名にのぼった。発掘成果は新聞やテレビでも取り上げられた。さらに、次の天正3(1575)年の遺構面でも塙列建物が多く見付き、町屋の遺存状況がよかったことから、4月19日に改めて現地公開を実施した。平日にもかかわらず、140名ほどの参加者があった。

発掘調査により第7面まで検出し、その基盤層(中世整地土Ⅲ)を掘り下げ、遺物を取り上げた。その後、深掘トレンチを設定し、それ以下に整地土や遺構面のないことを確認し、5月31日に調査を終了した。なお最終日に、107搾場遺構の北方部分を拡張し、搾場の北辺状況を捉えた。

調査方法については、凡例の通りである。



第3図 調査地グリッド割

第2章 調査地の立地環境と歴史的状況

第1節 立地環境

調査地は現況標高（T.P.：東京湾平均海水位）4m前後、基盤層上面では1.5m弱である。堺環濠都市遺跡の西は大阪湾であり、海を臨む場所に中・近世の町が形成された。

遺跡は沖積平野に立地し、その内部は主に海岸平野、砂（礫）堆・砂（礫）州、後背湿地からなる。調査地は砂（礫）堆・砂（礫）州上に当たっている。このことは、深掘トレンチの状況からも確認できる。ただし、トレンチの上半では砂層は顕著だが、下半は砂質土が主体であることから、遺跡内であっても比較的地盤の安定した場所であるといえる。

またこのことを示すように、各調査面ともに水はけがよかった。掘削が進み、調査面が湿潤になったのは、基盤層に至ってからであった。

調査地の東方には、大仙（仁徳陵）古墳が位置する中位段丘面が広がる。そして、その西辺に沿って下位段丘面が、さらに西には南西－北東方向に延びた幅500mほどの後背湿地が平行するように存在している。調査地から後背湿地までは、最短では約50mである。

調査地が立地する砂（礫）堆・砂（礫）州もまた平坦ではない。現在阪堺電車の走行する大道筋（紀州街道）およびそれと直交する大小路沿いが高く、道の両側方向に地形が下降する。調査地の基盤層が南西～北西方向に下降しているのは、大道および大小路から後背湿地方向に地形が下がっているためである。この傾斜する地形を、積み上げる整地土量の調整で解消している。

第2節 調査地周辺の調査成果

調査地は、堺環濠都市遺跡の中央東寄りの地点にあたる。江戸期の環濠から約240m西であるが、SKT133地点（府立泉陽高校内）で検出された中世期の外濠を南方に延長すると、50m程度離れているにすぎず、町の東端近くに位置していたといえる。

一方、南海高野線堺東駅北を東西方向にはしる長尾街道を西に延ばすと、調査地はその10～12m北に位置することになる。街道に面した建物が平入構造であったとすれば、調査地と街道との間には東西方向に1列分の屋敷地がさらに並んでいたと推測され、調査地で検出された町屋は街道に直接面してはいなかったとみられる。とはいえ、比較的賑わいのある地点であったろう。

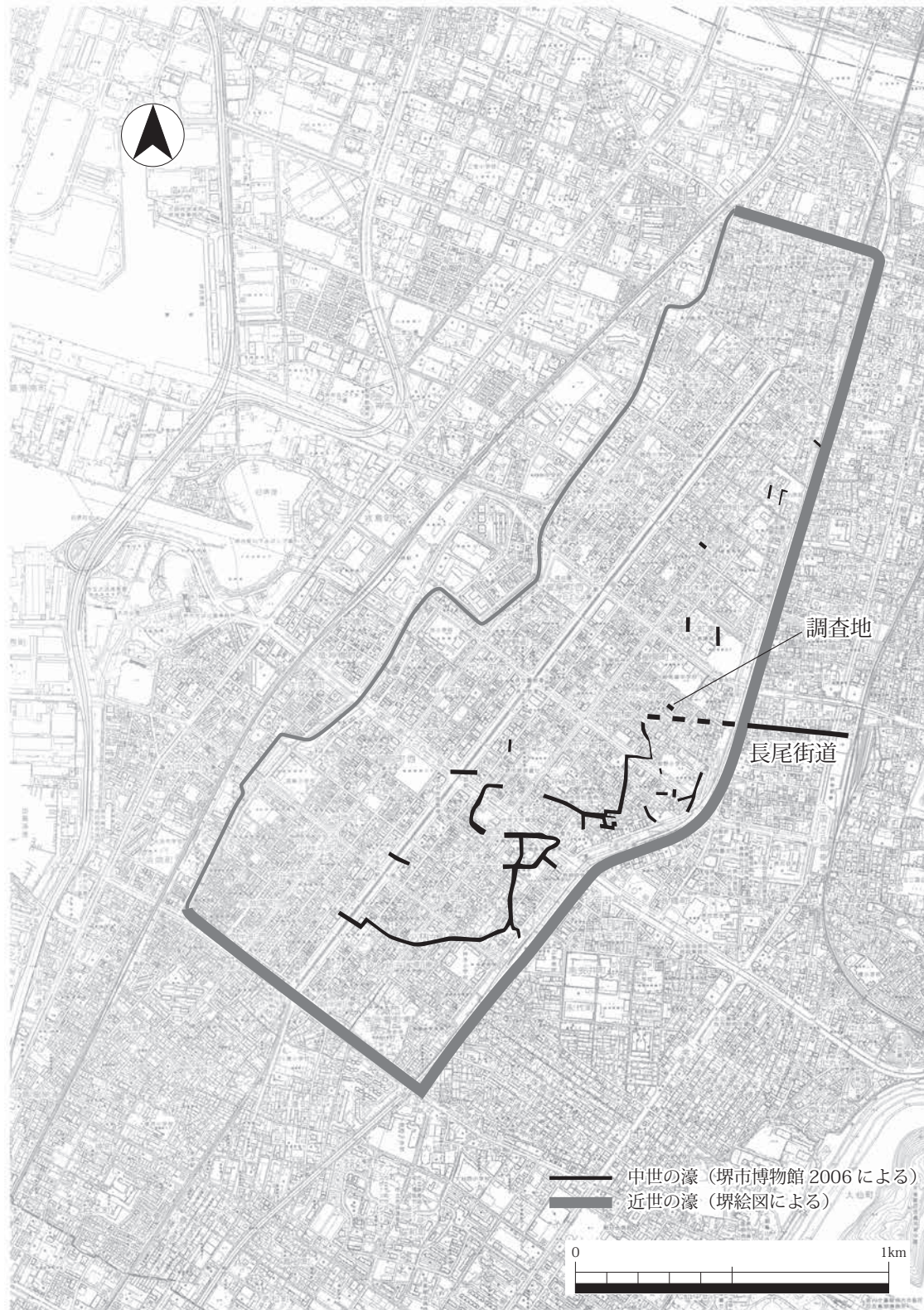
調査地周辺では堺市教育委員会による発掘調査が数多く実施され、また府立泉陽高校内については大阪府教育委員会により調査がなされている（第2図・表1）。

そのうち、本調査地に近接するSKT3地点（堺市立殿馬場中学校内）では、慶長20年、天正3年、天文22年、天文元（1532）年の被災面が確認されている。慶長20年、天正3年、天文22年の面が本調査地の第4面、第5面および第6・7面と対応すると考えられるが、北方にある後背湿地に向かって下降する地形のため、本調査地の検出面よりも1m前後低い。

SKT701地点は、本調査地の北西約180mに位置する。この地点では、慶長20年の火災面（第3遺構面）を含め4面が確認され、第6遺構面が天文22年の被災面に比定されている。第3遺構面の標高はT.P.2.55mで、本調査地の第4面とほぼ等しい。第6遺構面はT.P.2.04mで、本調査地の第6面と第

7面の中間値にあたり、検出面の年代と標高値がほぼ整合している。

本調査地の南約70mに位置するSKT336地点では4面の遺構面が検出され、第2面が慶長20年の被災面に比定されている。その標高はT.P.3.9m程で、本調査地第4面より1.3m前後高い。SKT336地点では第3・4面の年代付けがなされていないので、それらについては直接対応することができない。ただ、



第4図 調査地と堺環濠都市

この地点とSKT3地点の慶長20年被災面の標高を結ぶと本調査地の第4面に対応するので、SKT336地点からSKT3地点へは直線的に下降していたと考えられる。よって標高値T.P.3.46mのSKT336地点の第3面は、先の傾斜率を考慮すると、本調査地の第5面に対応するといえる。

本調査地の西90mに位置するSKT536地点では、5面の遺構面が確認されていて、第2遺構面が慶長20年の被災面に比定されている。さらに第3遺構面を16世紀後半、第4遺構面を16世紀中葉、第5遺構面を16世紀前半に年代付けている。それぞれ天正3年、天文22年、天文元年の被災面とみることができるとは推測する。各面の標高値は、本調査地よりも0.3～0.7m高い。また第5遺構面と本調査地第7面との年代にも若干の開きがある。とはいえ、おおまかにはここでも同様の時期変遷を認めることができる。

このように周辺の調査成果から、本調査地の第4面を慶長20年、第5面を天正3年の被災面に比定することが可能であると考えられる。この点は、出土遺物とも齟齬はない。ただし、第6面および第7面については、後述するように比定期間にほとんど時間差を認めがたいことから、どちらの面を天文22年の被災面と認定すべきか不明である。

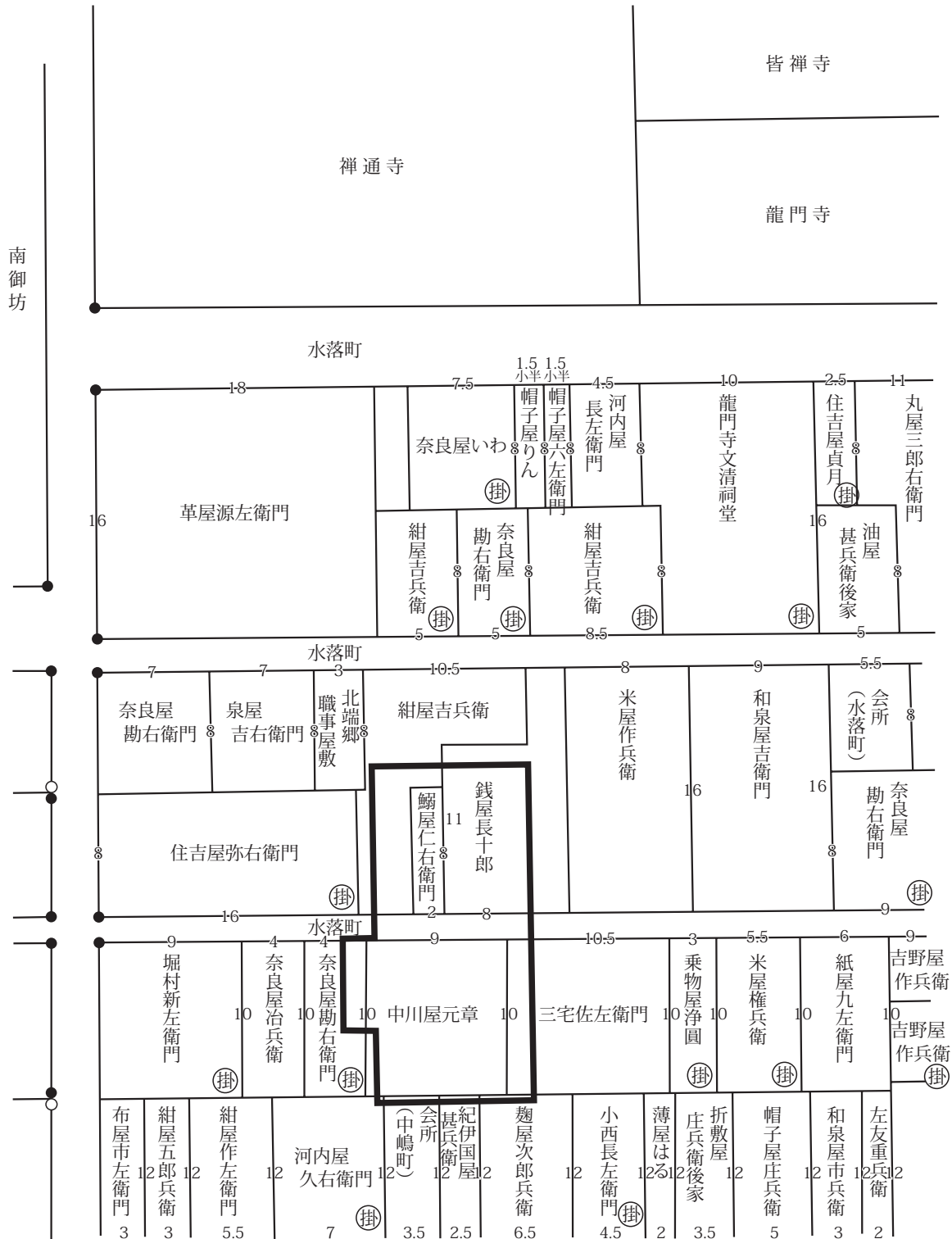
ところで、環濠都市内でも東寄りの場所は、遅れて開発が始まった地域といわれている。SKT336地点では、大規模な整地地業が実施されたのは16世紀後半代に入ってからとみられている。調査地周辺で16世紀前半代およびそれ以前の遺構面が確認されたのはSKT286地点（5面：15世紀前半、6面：15世紀初頭～14世紀末、7面：14世紀後半）、SKT394地点（8面：16世紀前半）、SKT421地点（7面：16世紀第1四半期）、SKT505地点（9・10面：15世紀中葉～）、SKT787地点（8面：15世紀後半～中頃）である。このうち15世紀代まで遡るのは、SKT505地点（府立泉陽高校内）を除くと大道筋近くの地点である。本調査地の調査成果も勘案すると、付近では16世紀前半代に旧地形の造成・整地がなされ、町作りが始まったとみられる。

地点	所在地	面積	報告書	検出遺構・遺物	備考
3	榑屋町東3丁2	1400	報告書15	天文元年・天文22年・天正3年・慶長20年の火災面を含む4面。中国製陶磁器多量出土。	
9	熊野町東2丁2	300	報告書6	応永6年・天文元(22)年・慶長20年の火災層および整地ベース面。	
11	市之町東1丁	96	報告書7	第1～4遺構面。永樂通寶・瓦質小皿群一括(15C後半)、瓦器群(12C後半)	
19	市之町東4丁16ほか	520	報告書20	第1～4遺構面。天文～慶長期の濠を検出。天正13年銘木簡出土。	
133	車之町東(府立泉陽高校内)	533	府概要I	2層。上層は元禄2年焼土層。16世紀末～17世紀初頭埋没濠。	
193	車之町東(府立泉陽高校内)	700	府概要II	2面。上面は慶長20年以降。	
212	市之町東4丁	50	概要4	2層。上層は慶長20年火災層。	
237	市之町東5丁1	98	概要10	第1～4遺構面。第1遺構面は江戸初頭。	
245	熊野町東4丁36	180	概要11	2面。下面は慶長20年被災面。	
261	市之町東6丁1	69	概要9	2面。文禄・慶長期埋没の濠。	
270	市之町東3丁19	70	概要9	第1～5遺構面。第1面では17世紀初頭以降の遺構重複。	
286	市之町東1丁1	700	概要46	第1～7遺構面(1面:17世紀前半、2面:16世紀後半、3面:16世紀前～中頃、4面:15世紀末～16世紀前半、5面:15世紀前半、6面:14世紀末～15世紀初頭、7面:14世紀後半)。	
308	熊野町東1丁15	59	概要22	2面。上面は慶長20年被災面。被災面下層に石組水路遺構と石敷遺構。	
314	熊野町東1丁31	73	概要30	第1～5遺構面(1面:慶長20年整地土、2面:慶長20年被災面)。	
336	熊野町東4丁13	188	概要30	第1～4遺構面。16世紀の濠状堆積、道、礎石建物、茶室、炉壇。	
351	戎之町東1丁10	45	概要22	第1～3遺構面(1面:慶長20年被災面)。第1面下より道、礎石建物。	
359	榑屋町東2丁20	66	概要31	第1～3遺構面(1面:慶長期、2面:16世紀前半)。永禄・文明銘五輪塔。	362と同一地点
362	榑屋町東2丁21				359と同一地点
369	熊野町東1・2丁	342	概要28・37	第1～3層。16～18世紀の埵列建物、道、石組遺構。墨書土器。	
394	市之町東5丁2	210	概要56	第1～9遺構面(5面:慶長20年被災面、6面:16世紀末、7面:16世紀後半、8面:16世紀前半)。	
396	戎之町東1丁19	65	概要35	第1～3遺構面(1・2面:16世紀後半～17世紀前半)。	
421	熊野町東5丁	50	概要42・49・71	1・3区:第1～4遺構面、2区:第1～7遺構面(2面:慶長20年被災面、3面:16世紀第4四半期、4・5面:16世紀第2～3四半期、7面:16世紀第1四半期)。	
505	車之町東(府立泉陽高校内)		現地説明会資料	第1～10遺構面(第3面:慶長20年被災面、第4・5面:慶長・伏見被災面、第6・7面:16世紀後半、第8面:16世紀第3四半期、第9・10面:15世紀中葉～)。第3～8面は同じ町割を踏襲。	
536	戎之町東3丁54	80	概要56	第1～5遺構面(2面:慶長20年被災面、3面:16世紀後半、4面:16世紀中葉、5面:16世紀前半)。	
701	戎之町東3丁6	260	概要93	第1～7遺構面(3面:慶長20年被災面、4面:16世紀末～17世紀初頭被災面、6面:天文22年被災面)。	
702	熊野町東3丁5・6	56	概要83	第1～6遺構面(1面:慶長20年被災面、2面:16世紀末頃、3面:16世紀後半、4面:16世紀中頃)。	
741	熊野町東2丁4	110	概要90	第1～4遺構面(1面:慶長20年被災面)。	
758	市之町東3丁55ほか	50	概要85	第2遺構面(慶長20年被災面)のみ調査。2面以下5枚の焼土層確認。14世紀後半の丹波播鉢出土。	
787	熊野町東2丁13ほか	200	概要98	第1～8遺構面(1面:慶長20年焼土直上、2面:慶長20年被災面、4面:16世紀後半～末葉、5面:16世紀中葉～後半、8面:15世紀中頃～後半)。	
871	熊野町東4丁35	138	概要106	第1～3遺構面(1面:17世紀中葉～19世紀代、2面:慶長20年直後～17世紀中葉、3面:慶長20年被災面)。	

表1 調査地周辺の主要調査地点

第3節 元禄2年作堺絵図との対応

堺の町を描いた元禄2（1689）年作成の絵図は、正確な縮小率で屋敷地や通りを記し、各屋敷地の間口・奥行を表示している。一方調査によって、絵図中に「水落町」と記された通りの側溝を検出した。現存していないが、054溝と094溝、さらに268溝と350溝に挟まれた間であることはほぼ間違いない。そして南御坊前の通りが現道だと考え、こうした状況に基づいて絵図に調査地を投影した（第5図）。



第5図 元禄2年の堺絵図と調査地

第3章 調査成果

第1節 基本層序

機械掘削により0.5~1.6mの近・現代層を除去したのち、人力掘削により0.7~1.6m掘り下げて、基盤層に至った。この人力掘削層は、遺物包含層ではあるが、遺構面上に人為的に盛土を施した地層であり、各整地土上面が生活面となる。

西壁では中世整地土Ⅲを挟んで黄色系の硬質整地土が上下に認められた。土層観察面で硬質整地土を捉えることができたのはこの西壁だけであったが、調査の進行に伴って同様の硬質土を各生活面上で、広狭差はあるが検出した。整地土上にこの硬質土を貼り、生活面を安定させたのであるが、この土層を手掛りに遺構面を捉えることにもなった。整地土は8層分認められた。

【近世整地土Ⅰ】19世紀前半以降、明治時代を含む。肥前磁器広東碗・筒形碗・端反碗、萩陶器、瀬戸美濃磁器、京焼系磁器、大谷陶器が存在。

【近世整地土Ⅱ】18世紀前半~17世紀後葉。肥前陶器銅緑釉碗、肥前磁器コンニャク印判文碗、京焼風陶器碗、堺播鉢、波佐見で焼かれた碗・皿類が存在。

【近世整地土Ⅲ】17世紀後葉~17世紀中葉。肥前陶器呉器手碗・銅緑釉碗、肥前磁器一重網目文碗、肥前磁器高台無釉碗・高台小径皿が存在。

【慶長整地土】大坂夏の陣被災の焼土層およびその上の整地土。17世紀前葉~1615年。胎土目肥前陶器や志野・織部が残る。唐津の存在は顕著。櫛目の丹波播鉢が下層より多くなる。

【天正整地土】天正3年の火災層およびその上の整地土。1615年~1575年。志野・唐津、中国製染付芙蓉手皿の出現。斜交差目の備前播鉢存在。

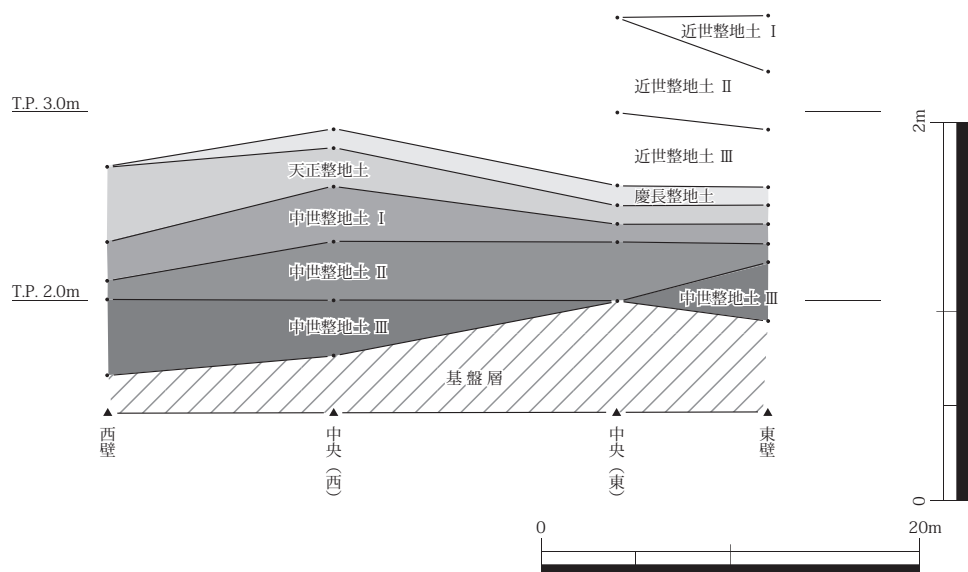
【中世整地土Ⅰ】16世紀後葉~16世紀中葉。瓦質羽釜が下層より減少。

【中世整地土Ⅱ】16世紀中葉。中国製染付が下層より増加。

【中世整地土Ⅲ】16世紀前葉~15世紀後半。中国製染付が上層より少ない。

中世整地土Ⅲによって基盤層の高低差はほぼ解消されるが、中世整地土Ⅱ以降になると西壁から12m東付近が高められている。

この地点は、大坂夏の陣以降に町割が変更されてから、昭和30年代の団地建設まで通り（水落町）であった。



第6図 調査地の層序概念

中央トレンチ

1	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土若干含む、粘性ややあり、締りあり
2	灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、粘性やや欠く、締りあり
3	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物僅か含む、明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土・風化礫含む、締りあり
4	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土	焼土・炭化物含む、黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土若干含む
5	褐灰色 (10YR4/1) 砂シルト	焼土・炭化物含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック含む、粘性やや欠く
6	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物含む、締りあり
7	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物若干含む、締りあり
8	灰色 (5Y5/1) 砂質土	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土若干含む、締りあり
9	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト	炭化物含む、灰白色 (2.5Y8/1) 粘シルト (灰?) 若干含む、締りやや欠く
10	灰白色 (10YR7/1) 砂	下部に灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土含む、締り欠く
11	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	炭化物僅か含む、締りやや欠く
12	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘土ブロック含む、粘性ややあり、締りやや欠く
13	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト	炭化物若干含む、締りやや欠く
14	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂シルト	炭化物・黄色 (5Y8/6) 粘土若干含む、締りやや欠く
15	黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土	炭化物・灰白色 (5Y8/2) 粘土若干含む、締りあり
16	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土	焼土含む、締りあり
17	黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土	炭化物含む、灰白色 (2.5Y8/1) 粘シルト・小礫若干含む、粘性・締りあり
18	黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土	焼土僅か・炭化物若干含む、灰白色 (2.5Y8/1) 粘シルト含む
19	明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土	炭化物・黄色 (2.5Y8/6) 砂質土若干含む、締りあり
20	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土僅か含む、風化礫多包、締りあり
21	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土	炭化物・焼土僅か含む、小礫若干含む
22	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
23	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土	焼土僅か含む、炭化物・黄色 (2.5Y8/6) 粘質土ブロック若干含む、粘性・締りあり
24	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土	焼土・炭化物若干含む、風化礫僅か含む、粘性やや欠く、締りあり
25	黄灰色 (2.5Y6/2) 粘シルト	炭化物・灰白色 (10Y8/1) 粘質土ブロック若干含む、締りやや欠く
26	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、灰白色 (5Y8/1) 粘質土若干含む、締りあり
27	にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土	炭化物僅か含む、締りやや欠く
28	黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土	焼土・炭化物若干含む、締りあり
29	灰色 (5Y4/1) 粘土	焼土・炭化物含む、浅黄色 (5Y7/4) 砂質土若干混入、粘性・締りやや欠く
30	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	炭化物・灰白色 (2.5Y8/2) 粘シルト若干含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
31	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土	細礫若干含む
32	灰色 (5Y4/1) 粘土	粘性やや欠く、締りあり
33	灰色 (5Y5/1) 砂質土	締りあり
34	黄灰色 (2.5Y6/2) 粘質土	炭化物・浅黄色 (5Y8/3) 粘土若干含む、締りやや欠く
35	黄灰色 (2.5Y6/2) 粘質土	34層と同質土だが全体に暗味あり
36	灰色 (7.5Y5/1) 砂質土	小～拳大礫含む
37	灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土	炭化物僅か含む、締りあり
38	浅黄色 (2.5Y7/4) 粘質土	炭化物若干含む、締りあり
39	明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土	焼土僅か・炭化物若干含む、締りあり
40	黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土	焼土僅か・炭化物含む、締りあり
41	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	焼土・炭化物・浅黄色 (5Y8/4) 砂質土僅か含む、締りあり
42	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物・小礫僅か含む、締りあり
43	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・小礫若干含む、締りあり
44	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
45	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土	焼土・炭化物含む、締りあり
46	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘シルト	灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土含む、粘性やや欠く、灰色味あり
47	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	炭化物僅か・灰色 (5Y5/1) 粘質土含む
48	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	焼土僅か含む、粘性やや欠く、締りあり
49	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	焼土・炭化物若干含む、粘性やや欠く
50	黄橙色 (10YR8/8) 粘質土	褐灰色 (10YR6/1) 粘質土含む
51	黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土	炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y6/8) 砂質土含む、粘性ややあり、堅固
52	明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土	51層に似るが明黄褐色砂質土多い、焼土・炭化物僅か含む
53	灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土	炭化物僅か含む、風化礫若干含む、締りあり
54	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土若干含む、小礫含む
55	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・破碎礫含む、締りあり
56	灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、細礫含む、締りあり
57	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土	焼土・炭化物・黄色 (2.5Y8/6) 砂質土・粘土・破碎礫若干含む、締りあり
58	にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、黄色 (2.5Y8/6) 砂質土若干含む、締りあり
59	浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土	炭化物・小礫若干含む、締りあり
60	黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土	炭化物若干・焼土僅か含む、小礫僅か含む、締りあり
61	灰黄褐色 (10YR5/2) 粘シルト	火災層、炭化物含む
62	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土	焼土僅か・炭化物含む、灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土含む、粘性あり
63	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土	焼土・炭化物多包、締りやや欠く
64	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土	焼土 (細粒) 僅か含む、締りやや欠く
65	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土	焼土僅か含む、粘性やや欠く、締りあり
66	黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
67	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土	焼土含む、炭化物僅か含む、締り欠く
68	黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
69	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
70	灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土	焼土・炭化物含む、粘性やや欠く、締りあり
71	灰白色 (5Y8/2) 砂質土	灰色 (7.5Y5/1) 粘質土僅か含む
72	オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂質土	炭化物・灰色 (5Y6/1) 粘土僅か含む、締りあり
73	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土	風化礫含む、締りやや欠く
74	灰色 (5Y6/1) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土含む、締りあり
75	明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘土	焼土・炭化物僅か含む、灰色 (5Y6/1) 粘質土若干含む、粘性やや欠く、締りあり
76	灰色 (5Y5/1) 粘土	明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土 (酸化層) 含む、小礫若干含む
77	黒褐色 (10YR3/2) 砂質土	焼土含む、炭化物多包、締り欠く
78	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり
79	灰色 (5Y5/1) 砂質土	78層に近似、焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
80	灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、細礫多包、締りやや欠く
81	灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粘質土	焼土・炭化物・細礫含む、締りやや欠く
82	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、小～拳大礫若干含む、締りあり
83	褐灰色 (10YR4/1) 砂質土	焼土若干・炭化物含む、締りあり
84	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土若干・炭化物僅か含む、浅黄色 (5Y8/4) 砂質土・破碎礫若干含む、締りあり
85	黄褐色 (10YR5/6) 砂質土	黄橙色 (10Y8/6) 砂質土含む、破碎礫若干含む、締りあり
86	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小～拳大礫若干含む
87	黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土	60層より暗味あり、焼土若干・炭化物僅か含む、黄色 (5Y8/6) 砂質土僅か含む、締りあり
88	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土	焼土僅か・炭化物若干含む、浅黄色 (5Y8/3) 砂質土・粘質土若干含む、粘性ややあり、締りあり
89	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	焼土・炭化物含む、部分的に焼土塊あり、締りやや欠く
90	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	89層に近似するが焼土・炭化物の包含やや少ない、締りやや欠く
91	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂シルト	炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
92	黒褐色 (10YR3/2) 砂質土	89層に近似するが焼土・炭化物少ない、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック若干含む、締り欠く
93	黄色 (2.5Y7/8) 粘質土	灰色 (5Y5/1) 砂質土僅か含む
94	灰色 (5Y4/1) 砂質土	焼土僅か含む、明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土若干含む、粘性強い、締りあり
95	灰色 (7.5Y4/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
96	灰色 (5Y5/1) 粘土	焼土僅か・炭化物若干含む、締りあり、鉄分ややあり
97	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土	96層土僅か含む、締りあり
98	灰色 (5Y5/1) 粘質土	オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土僅か含む、粘性やや欠く、締りあり
99	黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土	炭化物僅か含む、明黄色 (2.5Y6/6) 砂質土若干含む、粘性・締りあり、鉄分ややあり
100	灰色 (5Y5/1) 砂質土	炭化物僅か含む、締りあり、鉄分ややあり
101	灰色 (5Y5/1) 粘質土	淡黄色 (5Y8/3) 粘シルト含む、締りあり
102	灰色 (5Y4/1) 粘質土	炭化物・にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土若干含む
103	黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土	灰白色 (2.5Y8/2) 粘質土ブロック・小礫含む、締りあり
104	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土僅か含む、粘性ややあり
105	灰色 (5Y5/1) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、締りやや欠く
106	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	小礫僅か含む、締りあり
107	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土僅か含む、粘性ややあり、締りあり
108	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土若干・炭化物僅か含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
109	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・拳大礫僅か含む、締りあり

110	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/4) 砂質土若干含む、粘性・縮りややあり
111	淡黄色 (25Y6/2) 砂質土	淡黄色 (5Y7/4) 砂質土若干含む、小～拳大礫含む、縮りあり
112	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	焼土・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土若干含む、炭化物多包、粘性ややあり、縮りやや欠く
113	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	焼土若干含む、炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土含む、小～拳大礫若干含む
114	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、縮りやや欠く、暗味あり
115	灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/4) 砂質土含む、上部に破砕礫、縮りあり
116	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、黄色 (2.5Y8/6) 砂質土若干含む、縮りあり
117	暗灰黄色 (25Y5/2) 粘質土	炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘土ブロック僅か含む
118	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	焼土僅か・炭化物若干含む、黄色 (2.5Y8/6) 砂質土若干含む、縮りあり
119	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・淡黄色 (5Y8/3) 砂質土僅か含む、縮りあり
120	灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/3) 粘質土若干含む
121	灰色 (5Y4/1) 砂質土	炭化物僅か含む、縮りやや欠く
122	灰色 (5Y5/1) 粘質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土若干含む、縮り欠く
123	黄灰色 (25Y6/2) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック若干含む、粘性強い
124	灰色 (5Y4/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり、縮りあり
125	灰色 (5Y4/1) 砂質土	炭化物・黄褐色 (2.5Y5/6) 砂質土僅か含む、縮りあり
126	灰色 (N5/0) 砂質土	灰白色 (7.5Y7/1) 粘シルト僅か含む、粘性ややあり、縮りやや欠く
127	灰色 (5Y4/1) 砂質土	炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、縮りあり
128	灰色 (5Y4/1) 砂質土	127層に近似するが暗味があり、明黄褐色砂質土の包含少ない
129	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土含む、縮りあり
130	灰色 (5Y5/1) 砂質土	129層と近似するが明黄褐色砂質土の包含やや少ない
131	灰色 (5Y4/1) 砂質土	128層と近似するがやや粗質
132	オリーブ黄色 (5Y6/4) 粘土	灰色粘質土多包
133	浅黄色 (25Y7/3) 砂質土	焼土若干・炭化物僅か含む、小礫若干含む、粘性ややあり、縮りあり
134	灰白色 (5Y7/2) 粘質土	灰白色 (5Y7/2) 粘土・淡黄色 (5Y8/4) 砂質土若干含む、縮りあり
135	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、黄色 (5Y8/6) 砂質土含む、粘性・縮りあり
136	黄灰色 (25Y6/2) 砂質土	黄色 (5Y8/6) 砂質土含む、灰白色 (5Y8/2) 粘土ブロック僅か含む、粘性・縮りあり
137	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、縮りやや欠く
138	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/3) 砂質土若干含む、縮りあり
139	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/3) 砂質土若干含む、縮りあり
140	灰色 (5Y4/1) 砂シルト	焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土僅か含む、縮りやや欠く
141	黄灰色 (25Y5/1) 砂シルト	焼土・炭化物・にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土僅か含む、粘性ややあり、縮りあり
142	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり
143	灰色 (5Y6/1) 砂シルト	焼土・炭化物・浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土僅か含む、粘性やや欠く、縮りあり
144	灰色 (5Y5/1) 砂シルト	焼土・炭化物・にぶい黄色 (2.5YR6/4) 砂質土僅か含む、縮りあり
145	灰色 (7.5Y5/1) 粘シルト	炭化物若干含む、粘性ややあり、縮りやや欠く
146	灰色 (N4/0) 粘シルト	炭化物多包、灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土若干含む、縮りあり
147	灰色 (7.5Y6/1) 砂質土	炭化物・淡黄色 (5Y7/3) 砂質土僅か含む、縮りあり
148	黄灰色 (25Y6/2) 砂シルト	焼土・炭化物・浅黄色 (2.5Y7/3) 砂質土僅か含む、粘性やや欠く、縮りあり
149	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	焼土僅か・炭化物若干含む、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土僅か含む、縮りあり
150	灰色 (5Y5/1) 砂質土	炭化物・小礫僅か含む、鉄分あり
151	灰色 (5Y4/1) 砂シルト	炭化物若干含む、小礫僅か含む、縮りあり、鉄分ややあり
152	灰色 (5Y5/1) 砂シルト	焼土・炭化物僅か含む、粘性やや欠く、縮りあり、鉄分あり
153	灰色 (N5/0) 砂シルト	焼土・炭化物・小礫僅か含む
154	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/4) 砂質土若干含む、縮りあり
155	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、縮りあり
156	黄灰色 (25Y6/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、淡黄色 (5Y8/4) 砂質土若干含む、縮りあり
157	灰白色 (7.5Y7/1) 粘質土	炭化物僅か含む、灰白色 (7.5Y7/1) 粘シルト若干含む、縮りあり
158	灰白色 (5Y7/2) 粘シルト	炭化物若干含む、粘性やや欠く、縮りあり
159	灰白色 (10Y7/2) 粘質土	灰色 (7.5Y6/1) 粘質土含む、縮りあり、鉄分あり
160	灰白色 (7.5Y7/2) 粘シルト	粘性・縮りあり、鉄分あり
161	灰色 (5Y5/1) 砂シルト	炭化物僅か含む、淡黄色 (2.5Y7/4) 砂質土若干含む、縮りあり
162	灰色 (5Y6/1) 砂質土	焼土・小礫僅かに含む、粘性ややあり
163	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土若干含む、縮りやや欠く
164	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	灰白色 (7.5Y8/1) 粘土ブロック僅か含む、縮りやや欠く、鉄分あり
165	灰白色 (7.5Y7/2) 粘シルト	粘性・縮りあり、鉄分あり
166	灰白色 (5GY8/1) 粘シルト	粘性・縮りあり、上部鉄分顕著
167	灰白色 (5GY8/1) 粘シルト	粘性やや欠く、部分的砂シルト、鉄分あり
168	灰白色 (5Y7/1) 砂シルト	灰白色 (5GY8/1) 粘シルト若干含む、縮り欠く
169	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	細礫含む、縮りあり
170	灰色 (5Y5/1) 粘シルト	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土僅か含む、粘性ややあり
171	明青灰色 (5BG7/1) 砂シルト	粘性ややあり、部分的に砂質強い、鉄分ややあり
172	灰白色 (5Y7/2) 砂	部分的に明青灰色 (5BG7/1)、縮り欠く
173	灰白色 (5Y7/2) 砂質土	縮りやや欠く
174	明青灰色 (10BG7/1) 粘質土	灰色 (N6/0) 粘質土若干含む、部分的に粘シルト、縮りあり
175	明青灰色 (10BG7/1) 粘質土	灰色 (N6/0) 粘質土含む、縮りあり
176	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト	明青灰色 (10BG7/1) 砂シルト含む、粘性ややあり、縮りやや欠く、鉄分あり
177	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	褐灰色 (10YR5/1) 粗砂若干含む、小礫含む、縮りあり
178	灰色 (5Y5/1) 粘質土	灰白色 (5Y8/1) 粘シルト若干含む、縮りあり、鉄分あり
179	灰色 (5Y5/1) 砂質土	灰色 (5Y5/1) 砂シルト僅か含む、縮りあり
180	明オリーブ灰色 (5GY7/1) 粘質土	灰白色 (N7/0) 粘質土若干含む、縮りあり
181	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土僅か含む、縮りやや欠く
182	黄褐色 (10YR4/2) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック若干含む、縮りあり
183	黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性・縮りあり
184	黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、縮り欠く
185	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	縮り欠く、47層の再堆積層
186	オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質土	炭層、焼土僅か含む、灰白色 (7.5Y7/1) 粘質土 (灰?) 若干含む、粘性ややあり、縮りやや欠く
187	明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土	焼土層、酸化、縮りやや欠く、粘性ややあり
188	オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質土	186層と同質土だが暗味強い
189	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土	灰色 (5Y6/1) 砂質土若干含む
190	オリーブ黄色 (5Y6/4) 粘土	灰色 (5Y6/1) 粘質土含む、縮りやや欠く
191	灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土	焼土・炭化物・淡黄色 (5Y8/4) 粘シルト僅か含む、縮りやや欠く
192	オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土	灰色 (5Y6/1) 砂質土僅か含む、縮りあり
193	暗灰黄色 (25Y4/2) 粘質土	焼土・炭化物含む、縮り欠く
194	暗灰黄色 (25Y4/2) 粘土	焼土・炭化物含む、土壁材混入、縮りやや欠く
195	黄灰色 (25Y4/1) 粘土	焼土僅か・炭化物若干含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック僅か含む、粘性・縮りやや欠く
196	灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土	焼土・炭化物・淡黄色 (5Y8/4) 粘シルト僅か含む、縮りやや欠く
197	灰色 (7.5Y6/1) 砂質土	焼土・小礫若干含む、縮りあり
198	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	焼土若干・炭化物僅か含む、縮りあり
199	黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	焼土・炭化物含む、淡黄色 (5Y8/3) 粘土僅か含む、粘性ややあり、縮りあり
200	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物含む、黄色 (2.5Y8/6) 砂質土若干含む、縮りあり
201	灰白色 (2.5Y8/2) 砂	焼土・炭化物僅か含む、浅黄色 (2.5Y7/3) 粘土・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂含む
202	明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、縮りあり
203	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	焼土若干・炭化物僅か含む、縮りやや欠く
204	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	203層と同質土だが黄色 (5Y8/6) 砂質土混入
205	黄灰色 (25Y5/1) 砂質土	炭化物・焼土若干含む、縮りあり
206	灰色 (5Y6/1) 砂シルト	焼土若干・炭化物僅か含む、小礫僅か含む
207	灰色 (5Y4/1) 粘質土	焼土僅か・炭化物若干含む、小礫若干含む、縮りあり
208	暗灰黄色 (25Y4/2) 粘質土	焼土・炭化物僅か含む、縮りあり、漆喰 (黄色：2.5Y8/6) 塊含む
209	灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘質土	縮りあり
210	暗灰黄色 (25Y5/2) 粘質土	炭化物若干含む、灰白色 (10Y8/2) 粘土ブロック・灰白色 (7.5Y8/2) 砂含む
211	灰色 (5Y4/1) 粘質土	炭化物僅か含む、灰白色 (7.5Y7/2) 砂質土・風化礫含む、縮りやや欠く
212	灰白色 (5Y7/2) 砂質土	明緑灰色 (7.5GY8/1) 粘土ブロック含む、縮りあり
213	黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土	黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土ブロック・小礫若干含む、縮りあり
214	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト	炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、小礫若干含む、縮り欠く
215	オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、黄褐色 (10YR7/8) 砂質土若干含む
216	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	炭化物・黄色 (2.5Y7/8) 砂質土若干含む、縮りあり
217	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	灰僅かに含む、明黄褐色 (2.5Y6/8) 砂質土・小礫若干含む、縮りあり
218	褐灰色 (10YR6/1) 砂質土	炭化物僅か含む、黄色 (2.5Y7/8) 砂質土若干含む、縮りあり
219	暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小礫若干含む、縮りあり
220	灰白色 (2.5Y7/1) 砂	小～拳大礫若干含む、縮り欠く

東壁

1	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	小～拳大礫・漆喰片含む
2	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	1層に類似 (漆喰片含む) するが遺物包含量少ない
3	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	4層に近似するが焼土多包
4	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	細礫若干含む、締りあり
5	灰色 (5Y4/1) 砂質土	小礫僅か含む、粘性ややあり
6	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	小礫・漆喰片僅か含む
7	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土	焼土・炭化物若干含む
8	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土	漆喰含む
9	褐灰色 (10YR4/1) 砂質土	小～拳大礫・漆喰片含む
10	黄色 (2.5Y8/6) 砂質土	漆喰貼り
11	明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土	締りあり
12	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、にぶい黄褐色 (10YR7/3) 粘質土ブロック、締りやや欠く
13	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	16層と同質だが焼土若干、貝僅かに含む
14	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	炭化物若干含む、締りやや欠く
15	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土ブロック若干含む、締りあり
16	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
17	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
18	灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土	炭化物若干含む、締りあり
19	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	炭化物僅か含む、漆喰含む
20	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、浅黄色 (5Y7/3) 砂質土・小礫若干含む、瓦多包、締りあり
21	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (5Y7/4) 砂質土僅か含む、小礫含む、締りやや欠く
22	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
23	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物含む、小礫若干含む、締りやや欠く
24	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物含む、浅黄色 (5Y8/4) 粘質土ブロック・小礫若干含む
25	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	炭化物・浅黄色 (5Y8/4) 粘質土含む、締りやや欠く
26	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
27	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物含む、粘性・締りやや欠く
28	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	灰・炭化物僅か含む、粘性ややあり、締り欠く
29	黄褐色 (2.5Y6/1) 砂質土	灰・炭化物僅かに含む、黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締りあり
30	にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
31	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	焼土・灰・炭化物含む、細礫僅か含む、締りあり
32	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	炭化物含む、小礫僅か含む、締りあり
33	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	焼土・炭化物・黄色 (5Y8/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
34	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土・炭化物含む、粘性やや欠く
35	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	焼土・灰・炭化物含む、細礫僅か含む、締りあり
36	灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土	焼土・灰・炭化物含む、締りあり
37	灰色 (5Y6/1) 砂質土	焼土・炭化物・浅黄色 (5Y8/4) 砂質土ブロック僅か含む
38	赤灰色 (2.5YR4/1) 砂質土	焼土層、炭化物僅か含む、締り欠く
39	にぶい黄棕色 (10YR6/3) 砂質土	焼土僅か・灰・炭化物含む、締りあり
40	にぶい黄棕色 (10YR7/3) 砂質土	焼土僅か・炭化物含む、灰多包、粘性ややあり、締りやや欠く
41	灰黄褐色 (10YR6/2) 砂シルト	焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土含む、締り欠く
42	灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土	焼土・炭化物含む、締りやや欠く
43	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
44	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
45	灰色 (5Y6/1) 砂質土	焼土・炭化物・灰若干含む、粘性ややあり、締り欠く
46	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物・黄色 (5Y8/6) 砂質土若干含む、締りあり
47	灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土	焼土・炭化物含む、浅黄色 (5Y8/4) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
48	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土含む
49	灰白色 (2.5GY8/1) 砂質土	129層と同質だが黄灰色砂質土やや少ない、黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土混入
50	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土・炭化物・黄色 (2.5Y8/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
51	灰色 (5Y5/1) 砂質土	59層土・炭化物僅か含む、締りやや欠く
52	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土多包、炭化物含む、締りあり
53	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物多包、締りあり
54	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土多包、灰若干含む、締り欠く
55	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	粘性ややあり、締りあり
56	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	焼土・炭化物・灰白色 (2.5Y8/1) 粘土若干含む、締りあり
57	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 砂質土	炭化物僅か含む、小礫若干含む、締りあり
58	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	炭化物僅か含む
59	浅黄色 (5Y7/4) 砂質土	灰色 (5Y6/1) 砂質土含む、締りあり
60	淡黄色 (5Y8/3) 粘質土	炭化物・細礫若干含む、灰色 (5Y6/1) 砂質土含む、粘性やや欠く、締りあり
61	黒褐色 (10YR3/1) 砂質土	炭化物多包、灰色 (5Y5/1) 砂質土若干含む、締り欠く
62	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり
63	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	炭化物・明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 砂質土若干含む、締りやや欠く
64	浅黄色 (5Y7/3) 砂質土	灰色 (5Y6/1) 砂質土若干含む、締りあり
65	灰色 (5Y5/1) 砂質土	炭化物・淡黄色 (5Y8/3) 砂質土若干含む、締りやや欠く
66	浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土	破碎礫含む、締りあり
67	暗灰色 (N3/0) 砂質土	炭化物多包、浅黄色 (5Y7/4) 砂質土若干含む、締りやや欠く
68	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	炭化物・浅黄色 (5Y7/4) 砂質土若干含む、締りあり
69	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土	炭化物・浅黄色 (5Y7/4) 砂質土含む、締りあり
70	灰色 (5Y6/1) 砂質土	浅黄色 (5Y8/4) 砂質土含む、締りあり
71	灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土	オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土・小礫若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
72	灰色 (5Y5/1) 砂質土	炭化物・焼土僅か含む、黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締りやや欠く
73	灰色 (5Y6/1) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・細礫若干含む、締りあり
74	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	炭化物・焼土僅か含む、浅黄色 (5Y7/3) 砂質土若干含む、締りやや欠く
75	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土僅か含む、炭化物含む、灰白色 (5Y8/2) 砂質土・小礫若干含む、締りあり
76	灰色 (7.5Y6/1) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土・細礫若干含む、締りあり
77	灰色 (7.5Y6/1) 砂質土	明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土・小～細礫含む、締りあり
78	灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土	浅黄色 (5Y7/3) 砂質土・小礫若干含む、締りあり
79	灰色 (5Y5/1) 砂質土	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・小礫若干含む、締りあり
80	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小礫若干含む
81	灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土	炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、締りあり
82	褐灰色 (10YR4/1) 砂質土	黄色 (5Y8/6) 砂質土僅か含む、細礫若干含む、締りやや欠く
83	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、細礫若干含む、締りあり
84	灰色 (5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土・小～細礫若干含む、締りやや欠く
85	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土	オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土僅か含む、小～細礫含む、締りあり
86	灰色 (7.5Y4/1) 砂質土	炭化物・オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土・破碎礫若干含む、締りやや欠く
87	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	黄色 (5Y7/6) 砂質土・破碎礫僅か含む、締りあり
88	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物・小礫若干含む、締りやや欠く
89	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂シルト	灰色 (5Y4/1) 砂質土・細礫若干含む、粘性・締りやや欠く
90	灰色 (7.5Y4/1) 砂質土	炭化物・オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土・破碎礫若干含む、締りやや欠く
91	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト	締りやや欠く、全体に酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化
92	灰白色 (5Y7/1) 粘シルト	締りやや欠く
93	灰色 (5Y4/1) 粘土	灰白色 (5Y4/1) 砂質土若干含む、小礫僅か含む、締り欠く
94	灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂	小礫多包、締り欠く
95	灰白色 (10Y7/1) 砂	小～細礫含む
96	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土僅か含む、締りあり
97	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト	粘性やや欠く、締りあり、酸化
98	灰色 (5Y5/1) 砂シルト	灰色 (5Y5/1) 砂僅か含む、粘性・締りやや欠く、鉄分僅かあり
99	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物・破碎礫若干含む、暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂シルト含む、締りあり
100	灰白色 (5Y7/2) 砂質土	炭化物・黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締りあり
101	灰色 (5Y5/1) 砂シルト	黄色 (5Y7/6) 砂質土含む、粘性やや欠く、締りあり
102	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	破碎礫若干含む、締りやや欠く
103	灰色 (5Y5/1) 粘シルト	灰色 (5Y5/1) 砂僅か含む、粘性・締りやや欠く、鉄分僅かあり
104	灰白色 (5Y8/1) 粘土	粘性やや欠く、締りあり、全体に酸化し黄色 (2.5Y8/8) 化
105	黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト	締りやや欠く
106	灰白色 (5Y7/1) 粘シルト	灰白色 (5Y8/2) 粘シルト僅か含む、締りやや欠く
107	明黄褐色 (2.5Y6/8) 砂質土	108層に類似するが礫混入少なくより砂質、締り欠く
108	明黄褐色 (2.5Y6/8) 砂質土	小・破碎礫含む、締りやや欠く
109	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	炭化物僅か含む、締り欠く
110	灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	炭化物・細礫若干含む、締り欠く

111 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
112 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土
113 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土
114 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土
115 赤褐色 (2.5YR4/8) 焼土層
116 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土
117 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土
118 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
119 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
120 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土
121 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
122 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂シルト
123 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土
124 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
125 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂シルト
126 ぶい黄棕色 (10YR7/2) 粘シルト
127 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土
128 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土
129 灰白色 (2.5Y8/1) 砂質土
130 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
131 灰白色 (5Y4/1) 砂質土
132 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土
133 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
134 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土
135 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
136 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
137 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
138 淡黄色 (2.5Y8/4) 砂シルト
139 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土
140 灰白色 (5Y6/1) 砂質土
141 灰白色 (5Y4/1) 砂質土
142 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土
143 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
144 灰白色 (5Y4/1) 粘質土
145 灰白色 (5Y5/1) 砂質土
146 浅黄色 (5Y7/4) 粘質土
147 暗灰色 (N3/0) 砂質土
148 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土
149 灰白色 (5Y5/1) 砂質土
150 浅黄色 (5Y7/3) 砂質土
151 浅黄色 (5Y7/4) 砂質土
152 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
153 明赤褐色 (2.5YR5/6) 砂質土
154 暗灰色 (N3/0) 砂質土
155 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
156 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土
157 灰白色 (5Y4/1) 粘質土
158 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
159 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土
160 灰白色 (5Y5/1) 砂質土
161 黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土
162 灰白色 (5Y6/1) 砂質土
163 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
164 灰白色 (5Y5/1) 砂質土
165 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂シルト
166 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土
167 灰白色 (5Y5/1) 砂質土

焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土含む
上部に焼土・炭化物多い、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土含む
炭化物・浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土・小礫若干含む
炭化物含む、締りあり
浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
炭化物含む、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土ラミナー状堆積、締りあり
焼土・炭化物多包、浅黄色 (2.5Y7/3) 砂質土僅か含む
明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小礫僅か含む、締りやや欠く
焼土若干・炭化物僅か含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
焼土若干・炭化物僅か含む、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物・小礫若干含む、粘性ややあり、締り欠く
浅黄色 (2.5Y7/3) 砂質土僅か含む、締りあり
炭化物・焼土含む、黄色 (2.5Y8/6) 粘土ブロック若干含む、締り欠く
焼土・炭化物・小礫若干含む、締りやや欠く
灰層、焼土・炭化物若干含む、締り欠く
焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土含む、締りあり
焼土・炭化物若干含む、締りやや欠く
明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土・小礫大礫僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
112埋覆土
焼土若干・炭化物僅かに含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、淡黄色 (5Y8/4) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
炭化物・淡黄色 (5Y8/4) 粘質土ブロック若干含む、締りやや欠く
43層と同質土だが細質で炭化物も多い
109埋覆土
小礫若干含む、締りやや欠く
淡黄色 (5Y8/4) 砂質土含む、小礫僅か含む、締りあり
淡黄色 (2.5Y7/4) 砂質土若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物・黄色 (2.5Y8/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
108埋覆土
焼土僅か含む、小礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物・淡黄色 (5Y8/4) 砂質土僅か含む、粘性あり、締りやや欠く
炭化物僅か含む、粘性・締りやや欠く
炭化物主体、焼土若干含む、締りあり
焼土僅か・炭化物・灰含む、締りあり
炭化物・焼土・黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締りやや欠く
小礫若干含む、締りあり
炭化物僅か含む、締りあり
焼土僅か・炭化物若干含む、締りやや欠く
焼土層、炭化物僅か含む
炭化物主体、焼土僅か含む、締りやや欠く
焼土・灰僅か含む、炭化物含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり
黄色 (5Y8/6) 砂質土若干含む、やや砂質、締り欠く
砂質度高い
焼土多包、68層に近似、炭化物・灰白色 (7.5Y7/2) 砂質土若干混入、締りやや欠く
301埋建物内堆積土、焼土・炭化物僅か含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、黄色 (2.5Y8/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅か含む、灰白色 (7.5Y7/2) 砂質土若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、焼土層の再堆積土、締りやや欠く
淡黄色 (5Y8/3) 砂質土若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土・小礫若干含む、粘性・締りやや欠く
焼土・炭化物・黄色 (5Y8/6) 砂質土若干含む、締りやや欠く
小礫僅か含む、締りあり

西壁

1 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土
2 浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土
3 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土
4 橙色 (5YR7/6) 砂質土
5 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土
6 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
7 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
8 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
9 ぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土
10 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
11 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土
12 橙色 (5YR6/6) 砂質土
13 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土
14 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
15 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土
16 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土
17 ぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土
18 ぶい橙色 (5YR7/4) 砂質土
19 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
20 ぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土
21 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土
22 灰白色 (5Y7/2) 粘質土
23 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
24 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
25 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
26 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
27 浅黄色 (5Y7/3) 粘質土
28 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土
29 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
30 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
31 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
32 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
33 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
34 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
35 灰白色 (5Y7/2) 粘質土
36 褐灰色 (7.5YR6/1) 砂質土
37 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
38 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
39 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
40 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
41 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
42 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
43 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
44 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土
45 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
46 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
47 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
48 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
49 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
50 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
51 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土
52 浅黄色 (5Y7/4) 砂質土
53 浅黄色 (5Y7/4) 砂質土

締りやや欠く
締りやや欠く
焼土・炭化物含む、灰黄色 (2.5YR7/2) 砂質土若干含む、小礫若干含む、締りあり
焼土多包 (焼土層)、炭化物含む、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、破砕礫僅かに含む、締りあり
明黄褐色 (10YR7/6) 粘質土ブロック若干含む、締りあり、163埋建物掘方埋土
炭化物・炭化物僅かに含む、締りあり
焼土・炭化物含む、浅黄色 (2.5YR7/4) 粘質土ブロック僅かに含む、締りあり
焼土・炭化物・明黄褐色 (2.5YR7/6) 砂質土含む、細礫僅かに含む
焼土・炭化物含む、締りあり
焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (2.5YR7/4) 砂質土若干含む、締りあり
焼土層、炭化物含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、浅黄色 (2.5YR7/4) 砂質土若干含む、締りあり
焼土・炭化物含む、明黄褐色 (2.5YR7/6) 粘質土僅かに含む、締り欠く
炭化物・焼土若干含む、細礫僅かに含む、締りやや欠く
焼土・炭化物多包、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、締りあり
焼土層、炭化物多包、小礫若干含む、締りあり
焼土・炭化物多包、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅かに含む、締りあり
焼土多包、下辺に炭化物延びる、細礫若干含む、締りあり
締りあり
焼土・炭化物含む、炭化物下辺に延びる、締りやや欠く
焼土・焼土ブロック・炭化物含む
焼土・炭化物含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅かに含む、締りあり
炭化物・焼土若干含む、締りあり
炭化物・焼土若干含む、破砕礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物含む、浅黄色 (5Y7/4) 粘質土ブロック僅か含む
焼土若干含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、小礫若干含む、締りあり
焼土僅か含む、締りやや欠く
黄色 (5Y7/6) 砂質土僅か含む、小礫若干含む、締りあり
小礫若干含む、締りやや欠く
炭化物・焼土・黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土僅か含む
焼土・炭化物含む、締りやや欠く
焼土僅か含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、締りやや欠く
焼土・炭化物含む、小礫僅か含む、締りあり
炭化物僅かに含む、破砕礫・小礫含む、締りあり
焼土僅か含む、小礫大礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、拳大礫僅か含む、締りあり
締りあり
焼土・炭化物僅か含む、締りあり、拳大礫僅かに含む
炭化物僅か含む、締りやや欠く、小礫僅かに含む
焼土・炭化物・破砕礫・細礫僅か含む、締りあり
炭化物僅か含む、浅黄色 (5Y7/4) 砂質土若干混入、締りやや欠く
浅黄色 (5Y7/4) 粘質土ブロック僅かに含む、締りやや欠く
浅黄色 (5Y7/4) 粘質土若干含む、締り欠く
浅黄色 (5Y7/4) 粘質土ブロック僅かに含む、締り欠く
黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土僅か含む、鉄分あり、締りあり
浅黄色 (5Y7/4) 粘質土・灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土僅か含む、締りあり
浅黄色 (5Y7/4) 粘質土・灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土含む、締りあり

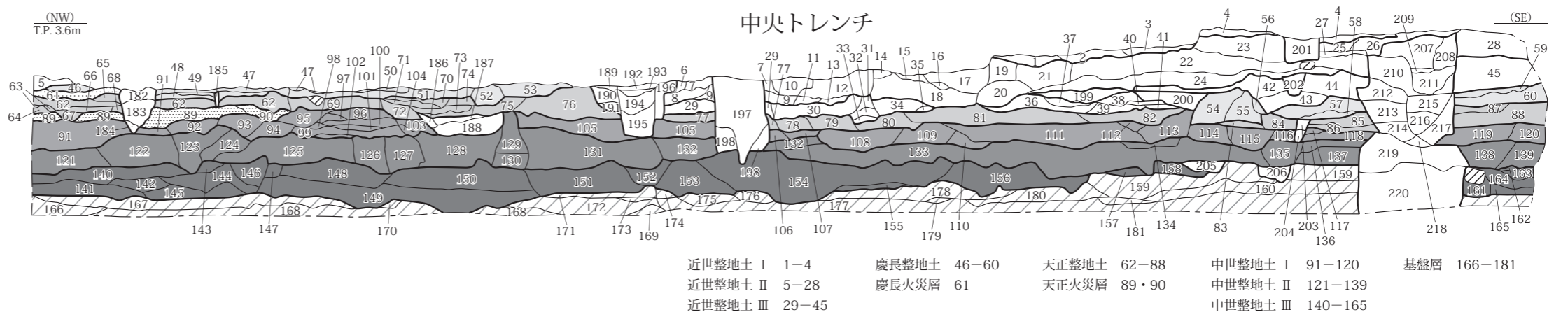
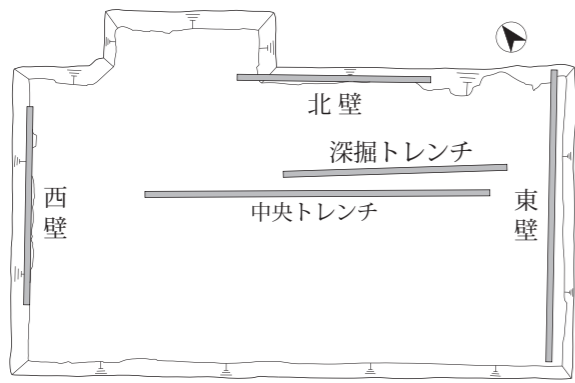
54 明黄褐色 (25Y7/6) 粘質土
55 明黄褐色 (25Y7/6) 粘質土
56 灰白色 (N7/0) 粘・砂シルト
57 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト
58 灰白色 (5Y7/1) 粗砂
59 明黄褐色 (10YR6/8) 砂シルト
60 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
61 黄褐色 (25Y5/3) 砂質土
62 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
63 褐灰色 (10YR6/1) 砂シルト
64 灰色 (N6/0) 粘シルト
65 明赤褐色 (25YR5/6) 砂質土
66 明赤褐色 (25YR5/6) 砂質土
67 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
68 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
69 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土
70 灰色 (5Y5/1) 砂質土
71 黄灰色 (25Y4/1) 砂質土
72 明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土
73 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
74 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
75 暗灰黄色 (25Y4/2) 砂質土
76 浅黄色 (25Y7/4) 粘質土
77 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
78 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
79 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土
80 黄褐色 (25Y5/3) 砂質土
81 灰白色 (10YR7/1) 砂質土
82 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
83 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
84 黄灰色 (25Y6/1) 砂質土
85 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
86 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土

黄褐色 (25Y5/3) 砂質土僅か含む、鉄分あり、締りあり
黄褐色 (25Y5/3) 砂質土僅か含む、締りあり
締りあり
粘性ややあり、締りやや欠く
小礫僅かに含む、締り欠く
明黄褐色 (10YR6/8) 砂若干含む、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物・細礫僅か含む、オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土若干含む
鉄分あり、締り欠く
焼土・炭化物・小礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物多包、締り欠く
灰層、炭化物僅か含む、締り欠く
焼土層
65層に似るが、被熱量がやや少ない
炭化物若干含む、部分的に灰混じる
焼土若干・炭化物僅か含む、締りやや欠く
焼土・炭化物若干含む、締りあり
黄色 (5Y7/6) 砂質土・破碎礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締り欠く
焼土・炭化物僅か含む、細礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物含む、粘性・締りあり、167塊列建物掘方埋土
焼土・炭化物含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
焼土多包、浅黄色 (25Y7/4) 粘質土・小礫僅かに含む
焼土多包、締りやや欠く、小礫僅か含む
焼土・炭化物含む、浅黄色 (5Y7/4) 粘質土ブロック若干含む、小礫僅かに含む
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
焼土・炭化物若干含む、締りあり、167塊列建物掘方埋土
焼土・炭化物僅か含む、細礫若干含む、締りあり
焼土含む、炭化物若干含む、締りやや欠く
焼土多包、炭化物含む、締りやや欠く
焼土含む、炭化物僅か含む、締りやや欠く
焼土含む、明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土・細礫僅か含む
焼土多包、小礫若干含む、締りやや欠く
焼土僅か含む、黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、締りやや欠く

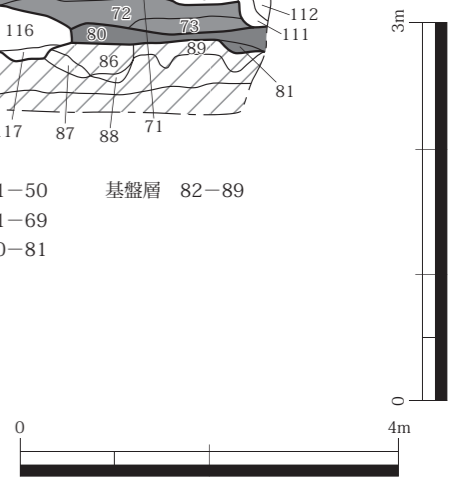
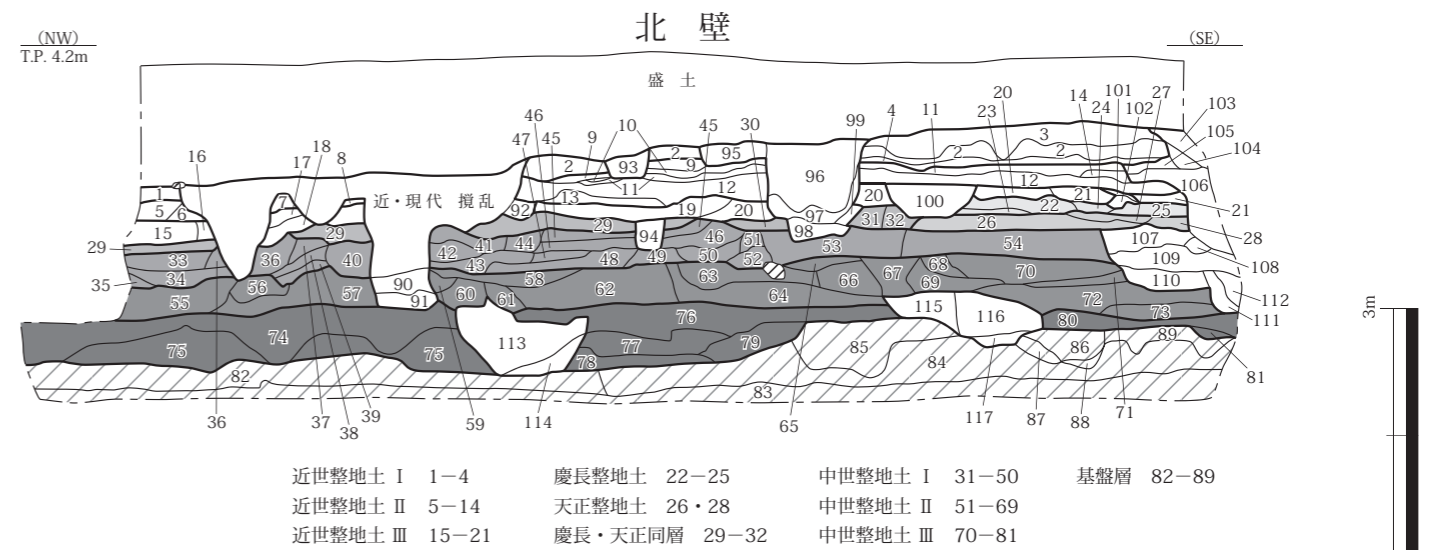
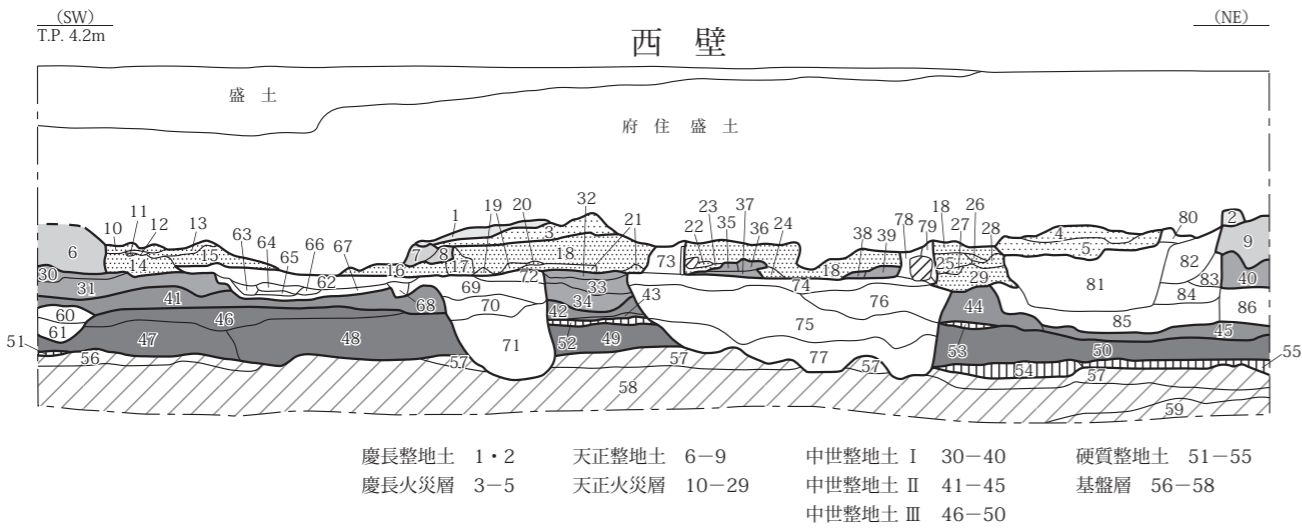
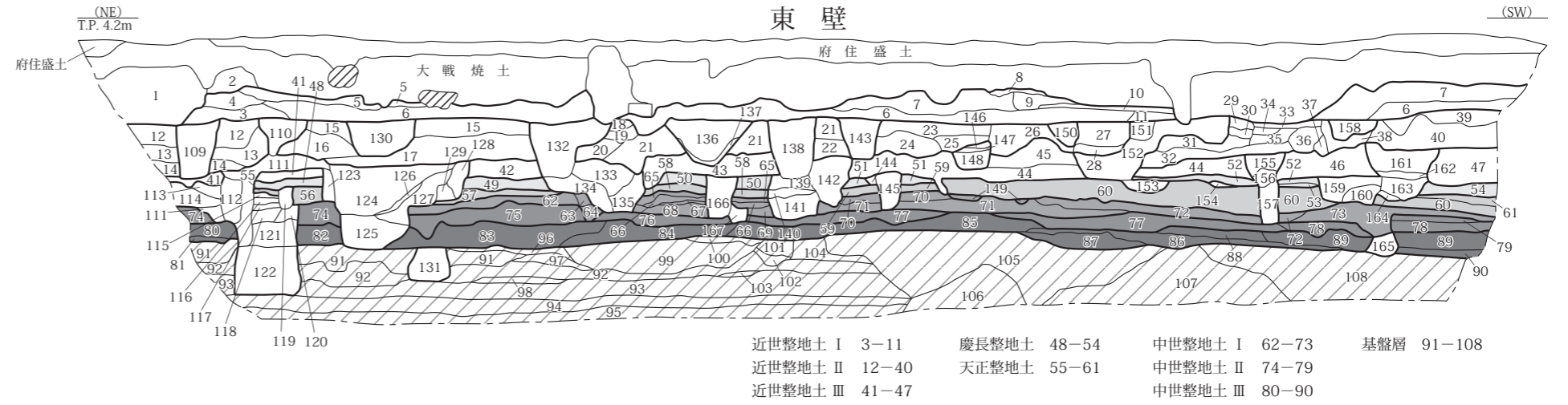
北壁

1 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
2 黄色 (25Y7/8) 砂質土
3 黄灰色 (25Y4/1) 砂質土
4 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
5 明黄褐色 (25Y6/8) 砂シルト
6 灰色 (5Y5/1) 粘質土
7 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土
8 オリーブ黄色 (5Y6/3) 粘質土
9 灰黄色 (25Y6/2) 粘質土
10 明赤灰色 (25YR7/1) 粘質土
11 灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘質土
12 にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂質土
13 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
14 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
15 明黄褐色 (25Y6/8) 粘質土
16 浅黄色 (25Y7/4) 砂質土
17 オリーブ黄色 (5Y6/3) 粘質土
18 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
19 明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土
20 黄褐色 (25Y5/3) 砂質土
21 にぶい黄色 (25Y6/3) 砂質土
22 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
23 灰白色 (10YR7/1) 砂質土
24 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土
25 灰色 (5Y6/1) 砂シルト
26 にぶい黄色 (25Y6/3) 砂質土
27 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
28 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土
29 黄色 (5Y7/6) 砂質土
30 にぶい黄色 (25Y6/3) 砂質土
31 にぶい黄褐色 (10YR7/4) 砂質土
32 灰白色 (10YR7/1) 砂質土
33 灰色 (5Y6/1) 砂質土
34 黄灰色 (25Y5/1) 砂質土
35 灰色 (5Y5/1) 砂シルト
36 灰色 (5Y6/1) 砂シルト
37 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
38 灰白色 (25Y7/1) 砂質土
39 黄灰色 (25Y5/1) 砂シルト
40 灰色 (5Y5/1) 砂質土
41 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土
42 黄灰色 (25Y6/2) 砂質土
43 黄灰色 (25Y4/1) 砂質土
44 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土
45 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
46 灰色 (5Y6/1) 砂質土
47 灰色 (5Y6/1) 砂質土
48 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
49 灰色 (7.5Y5/1) 砂質土
50 灰色 (5Y6/1) 砂質土
51 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
52 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
53 灰白色 (25Y7/1) 砂質土
54 灰黄色 (25Y6/2) 砂質土
55 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土
56 灰色 (5Y5/1) 砂シルト
57 灰色 (5Y4/1) 砂シルト
58 灰色 (5Y4/1) 砂シルト
59 灰白色 (25Y7/1) 砂質土
60 灰色 (5Y4/1) 砂シルト
61 灰色 (5Y6/1) 砂質土
62 灰白色 (10YR7/1) 砂質土
63 黄灰色 (25Y5/1) 砂質土
64 灰色 (N5/0) 砂質土
65 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
66 灰白色 (25Y7/1) 砂質土
67 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
68 灰色 (5Y6/1) 砂質土
69 灰白色 (5Y7/1) 砂質土
70 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
71 明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土
72 灰色 (5Y5/1) 砂質土
73 灰色 (5Y5/1) 砂質土
74 暗灰黄色 (25Y5/2) 砂質土
75 黄灰色 (25Y5/1) 砂質土
76 灰白色 (5Y7/1) 砂シルト
77 灰黄色 (25Y7/2) 砂シルト

炭化物僅か含む、締りやや欠く
炭化物僅か含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土若干含む、粘性・締りあり
炭化物若干含む、灰含む、粘性ややあり、締りあり、10層に近似
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土僅か含む、粘性・締りあり
灰・破碎礫含む、締りあり
炭化物僅か含む、締りあり
灰層、焼土若干・炭化物僅か含む、締りややあり
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
焼土・炭化物若干含む、破碎礫含む、粘性ややあり、締りやや欠く
炭化物若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
焼土含む、締りやや欠く
焼土・灰若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く
灰・破碎礫含む、締りあり
明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
灰・小礫若干含む、粘性ややあり、締りあり
細～小礫含む、締りあり
焼土含む (焼土層)、炭化物・灰若干含む、細礫含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、小礫若干含む、締りあり
焼土若干・炭化物僅か含む、小礫若干含む、締りあり
灰白色 (5Y7/1) 砂質土若干含む、細礫含む、締りあり
炭化物・浅黄色 (25Y7/3) 砂質土僅か含む、粘性・締りやや欠く
破碎礫・細礫含む、締りあり、418塊列建物埋土
炭化物・小礫僅か含む、締りあり
炭化物・小礫若干含む、締りあり、
灰色 (5Y5/1) 粘土若干含む、締りあり
炭化物・小礫若干含む、締りあり
炭化物僅か含む、小礫若干含む、締りあり
小礫僅か含む、締りあり
橙色 (7.5YR6/6) 砂質土僅か含む、小礫含む、締りやや欠く
小礫若干含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、締りあり
炭化物僅か含む、粘性欠く、締りあり
にぶい黄色 (25Y6/3) 砂質土若干含む、小礫含む、締りやや欠く
炭化物・小礫若干含む、締りあり
焼土・炭化物・灰黄色 (25Y7/2) 砂質土僅か含む、締りやや欠く
にぶい黄色 (25Y6/4) 砂質土・小礫僅か含む、締りあり
炭化物・小礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
浅黄色 (25Y7/3) 砂質土僅か含む、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅か含む、締りあり
炭化物僅か含む、締りあり
炭化物・小礫僅か含む、締りあり
焼土・炭化物若干含む、締りあり
炭化物僅か含む、粘性ややあり、小礫若干含む
黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、小～準大礫僅か含む、締りやや欠く
黄色 (5Y7/6) 砂質土含む、小礫若干含む、締りやや欠く
小礫僅か含む、締りあり
炭化物・小礫僅か含む、締りあり
にぶい黄褐色 (10YR7/4) 砂質土若干含む、小礫含む、締りあり
小礫含む、締りやや欠く
炭化物・小礫僅か含む、黄褐色 (10YR7/8) 砂質土若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、締りあり
炭化物若干含む、粘性・締りやや欠く
炭化物僅か含む、粘性・締りやや欠く
炭化物僅か含む、明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土含む、締りあり
炭化物・明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土・小礫僅か含む、粘性・締りやや欠く
粘性ややあり、締りやや欠く
炭化物僅か含む、細礫若干含む、締りやや欠く
焼土・炭化物僅か含む、細～小礫含む、締りやや欠く
浅黄色 (5Y7/4) 砂質土若干含む、小礫僅か含む、締りやや欠く
小礫僅か含む、締りやや欠く
小礫含む、締りやや欠く
黄色 (5Y7/6) 砂質土僅か含む、小礫含む、締りやや欠く
炭化物・黄色 (5Y7/8) 砂質土・細礫僅か含む、締りやや欠く
黄色 (5Y7/8) 砂質土・小礫含む、締りやや欠く
明黄褐色 (25Y7/6) 砂質土・小礫含む、締りやや欠く
細礫含む、締りあり
黄色 (5Y7/6) 砂質土・小礫若干含む、締りやや欠く
小礫僅か含む、締りあり
黄褐色 (10YR7/8) 砂質土僅か含む、締りあり
小礫僅か含む、締りあり
焼土・黄色 (5Y7/6) 砂質土若干含む、粘性・締りやや欠く
炭化物・黄色 (5Y7/6) 砂質土僅か含む、締りやや欠く



- | | | |
|-----------|-----------|-------|
| 近世整地土 I | 中世整地土 I | 慶長火災層 |
| 近世整地土 II | 中世整地土 II | 天正火災層 |
| 近世整地土 III | 中世整地土 III | 硬質整地土 |
| 慶長整地土 | 基盤層 | |
| 天正整地土 | | |
| 慶長・天正同層 | | |



第7図 調査地の土層

78	灰色 (5Y6/1) 砂シルト	焼土・炭化物僅か含む、締りやや欠く、鉄分あり
79	灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト	炭化物僅か含む、締りやや欠く、鉄分若干あり
80	灰白色 (5Y7/1) 砂質土	黄色 (5Y8/6) 砂質土・小礫僅か含む、締りやや欠く
81	黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック若干含む、締りやや欠く
82	緑灰色 (10G6/1) 砂シルト	部分的に砂質強い、締りやや欠く、鉄分僅かあり
83	緑灰色 (10G6/1) 砂	緑灰色 (10G6/1) 粘質土含む、小礫多包
84	灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
85	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	締りやや欠く、全体に酸化
86	灰色 (5Y4/1) 砂シルト	細礫僅か含む、締り欠く
87	灰色 (5Y4/1) 砂シルト	86層と同質土だが小礫より多い
88	灰色 (5Y4/1) 砂シルト	黄色 (5Y7/6) 粘シルト・粘土若干含む、締りやや欠く
89	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	85層に類似、締りやや欠く、全体に酸化
90	灰色 (7.5Y5/1) 砂シルト	明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土ブロック・灰色 (7.5Y5/1) 砂質土僅か含む、粘性・締りやや欠く
91	灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土	炭化物僅か含む、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小礫若干含む、締りあり
92	灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘質土	灰白色 (5Y8/2) 粘土ブロック若干含む、粘性やや欠く、締りあり
93	黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土	焼土・炭化物若干含む、小礫僅か含む、締り欠く
94	暗黄褐色 (2.5Y5/2) 砂質土	炭化物僅か含む、小礫若干含む、締り欠く
95	黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土	締り欠く
96	黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土	炭化物・明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土若干含む、小礫含む、締り欠く
97	黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土	締り欠く
98	にぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂質土	にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂質土僅か含む、破碎礫含む、締りあり
99	黄灰色 (2.5Y7/2) 砂質土	炭化物・細礫僅か含む、締りあり
100	灰白色 (7.5Y8/1) 粘シルト	焼土・炭化物若干含む、にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土含む
101	赤褐色 (5YR4/6) 砂質土	焼土層、炭化物・灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土若干含む
102	灰褐色 (5YR6/2) 砂質土	焼土含む(焼土層)、灰白色 (5Y7/1) 砂質土・小礫僅か含む、締りあり
103	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土	焼土・炭化物含む、粘性・締り欠く
104	黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土	小礫若干含む、粘性・締りやや欠く
105	灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土	炭化物・灰含む、粘性やや欠く、締りあり
106	灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土	105層に近似、炭化物より多い、焼土僅か含む
107	灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・破碎礫含む、締りあり
108	灰色 (5Y5/1) 砂質土	破碎礫多包、締りあり
109	褐灰色 (10YR5/1) 砂質土	焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり、締りあり
110	灰白色 (5Y7/2) 砂質土	小礫僅か含む、締りやや欠く
111	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土	焼土・炭化物含む、締りやや欠く
112	にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土	灰色 (7.5Y6/1) 粘質土僅か含む、粘性・締りあり
113	灰色 (N4/0) 砂質土	黄色 (5Y7/6) 砂質土・小礫僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く
114	灰色 (N4/0) 粘土	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土僅か含む、粘性強い、締りやや欠く
115	灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂シルト	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・小礫僅か含む、締りやや欠く
116	灰色 (N6/0) 砂シルト	オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂質土僅か含む、拳大礫含む、締り欠く
117	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂シルト	粘性やや欠く、締り欠く

深掘トレンチ

1	灰白色 (7.5Y7/1) 砂	締り欠く、小礫含む
2	灰白色 (10Y7/1) 砂	締り欠く、細質
3	灰白色 (7.5Y7/1) 砂	灰白色 (10Y7/1) 砂・黄色 (5Y7/6) 砂含む、締り欠く
4	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂	締り欠く、粗質、鉄分あり
5	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂	締り欠く、粗質
6	オリーブ黄色 (7.5Y6/3) 粘土	オリーブ黄色 (7.5Y6/3) 砂僅か含む、締り欠く
7	明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土	明黄褐色 (10YR6/6) 砂・拳大礫若干含む、締りあり
8	灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂	明黄褐色 (10YR6/6) 砂含む・小礫僅か含む、締り欠く
9	灰白色 (N7/0) 粘土	締りやや欠く、鉄分あり
10	灰色 (7.5Y6/1) 砂質土	灰色 (7.5Y6/1) 砂含む、小礫多包、締りやや欠く
11	灰白色 (7.5Y7/2) 砂	細質、小礫僅か含む、締り欠く
12	浅黄色 (2.5Y7/3) 砂	粗質、細礫含む、締り欠く
13	明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂	粗質、締り欠く
14	明黄褐色 (10YR7/6) 砂	粗質、小礫若干含む
15	オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂質土	小礫若干含む、粗質、締りやや欠く
16	青灰色 (5B6/1) 砂質土	小礫含む、粗質、締りやや欠く
17	緑灰色 (5G6/1) 砂質土	小礫若干含む、粗質、締りやや欠く
18	青灰色 (10BG6/1) 砂質土	粗質、鉄分ややあり、締りやや欠く

第2節 検出面の概要

先述したように近世整地土Ⅰ～中世整地土Ⅲまで、計8層の整地土を確認した。検出面は整地土間に存在する。近世整地土Ⅰ下を第1面とし、以下、各整地土下を第2～7面と呼んだ。慶長整地土下の大坂夏の陣被災面は第4面、天正整地土下の天正3年火災面は第5面である。

各面の遺構年代は、以下の通りである。第1面：19世紀前葉～18世紀後半（明治時代も一部含む）、第2面：(18世紀前半～)17世紀後葉、第3面：17世紀後葉～17世紀前葉、第4面：17世紀前葉(1615年)～16世紀後葉、第5面：16世紀後半、第6面：16世紀中葉、第7面：16世紀中葉(～16世紀前半)。なお、第6面と第7面の間には10～40cmの層厚がある中世整地土Ⅱが介在しているが、両検出面の年代観には余り違いがなく、第6面は16世紀代のほぼ中頃、第7面は16世紀前半寄りと考えられる程度である。つまり、中世整地土Ⅱの形成および第6面の被災までは、短期間であったとみられる。

以下に各面の概要を古い時代の順から記すが、遺物や配置状況から判断して、時期ごとにまとめ直した遺構の変遷については第5章第1節に記す。

第7面(16世紀中葉(～16世紀前半))

この面から慶長20年の被災面まで、地割は条里方向と一致した、ほぼ正方位をとる。この面では建物は検出されなかった。主な遺構は焼土域、溝、土坑、小穴、通路状の硬質面(662通路)である。

585・630・647・654溝は北-南方向に軸を揃え、647溝と654溝、585溝と630溝はそれぞれ直線上に位置している。このことから、区画溝である可能性が高い。しかも654溝の底面には杭穴列が認められた。

654溝の北東に、1辺1 m程の方形土坑が2基存在する(657・660土坑)。そのうち657土坑は内部に木杵が残っていた。また壁際には木杭の痕跡がみられる。660土坑でも壁際の底面に杭痕が認められ、ともに木杭によって壁面に木板が固定されていたとみられる。

調査地西辺近くでは、不整な形状を呈している669焼土域が検出された。高温被熱し、焼土の一部は硬化している。焼土内から揃いの中国製染付皿9個体が出土した。高温のためいずれの皿も器面が発泡していて、火災を被ったものとみられる。また677土坑の覆土にも多量の焼土が含まれていて、火災の片付けに伴う土坑とみられる。

建物の存在はなかったが、しかし地割が存在し、また565溝は第6面の501溝、第4面の357溝として同じ位置で存続していることから、この第7面段階に町割の基本設計がなされたと考えられる。

第6面(16世紀中葉)

この面で検出された礎石建物は4棟あるが、塼列建物は2棟だけで、後続する第5・4面に比べて建物分布は散漫で、空閑地が目立つ。塼列建物はともに遺存状況が悪く、530塼列建物では僅かな数の塼と、塼の掘方底を捉えたにすぎず、558塼列建物では北東隅の塼が僅かに残っているだけであった。

530塼列建物を囲む543・561・572溝は、屋敷地の区画溝とみられる。また572溝が第5面や第4面における中央の屋敷地の側辺とほぼ同位置にある。こうしたことから、この溝と501溝を結ぶラインが町屋群形成時の基本的な地割であった可能性が高い。

530塼列建物の南西角に切り込まれて556・517焼土域が存在する。この遺構は、下部に長径4 m程の不整形な掘方を持ち、上面は焼土で密閉されている。焼土上面は厚さ5～10 cmほどが硬化している。また硬化面の下も熱を受けて変色している。銅滓が出土したことから、この遺構は金属製品の生産に関連すると考えられる。しかも位置は多少異なるが、第5・4面へと同様の遺構が存続していく。

なお北西隅で重複して検出された532～537土坑のうち、536土坑を除くいずれの覆土にも多量の焼土が含まれていた。これらは、火災の片付けに伴う遺構である可能性が高い。

第5面(16世紀後半)

この面の主要遺構は塼列建物、礎石建物、通路、廃棄土坑、埋甕、および鉄滓、炉壁や炭化物が出土した469土坑である。塼列建物は7棟、礎石建物は2棟を数え、第6面に比べて町屋群の様相が顕在化している。また礎石建物のうち、475礎石建物のみが塼列建物(416)と対をなしている。なおこの面上を覆った焼土は散在的で、調査地の西辺および南東隅で一定の広がりがみられるにすぎなかった。

この面での屋敷地の様相は大きく3分割される。調査地西に位置する414塼列建物と415塼列建物は、西に入口を向け、417塼列建物も状況からみて同方向の入口である可能性が極めて高い。したがって、これらの蔵を建てた屋敷地は、短冊形に分割された西間口であったとみられる。ただし、414・415塼列建物と416・417塼列建物の背位置は異なり、後者の屋敷地端が西に寄って奥部が短くなっている。

調査地東の418塼列建物と419塼列建物はともに南向の入口で、前者の正面には南から延びる通路も検出された。よってこの屋敷地には、東から延びた通路に接する南北通路により往来したとみられる。

この東西の塼列建物群に挟まれた中央部分が空閑地として残ることになる。この部分では、中央に硬質面が10×6 mの規模で広がっている。建物自体は検出されなかったが、土間のある構造物があったとみられる。この硬質面の北端に469土坑が位置している。上述のように、この土坑から多量の鉄滓をはじめ、炉壁や炭化物が出土していて、金属製品の生産に関連したと考えられる遺構である。この構造物の存在によって、付近の屋敷地割に不規則さが生じたと考えられる。

第4面（17世紀前葉～16世紀後葉）

この面まで近・現代の攪乱の影響がなく、調査地全域で均一に遺構を検出することができた。また大坂夏の陣の焼土は、調査地東西端では堆積が顕著であるが、それに対して中央付近では希薄である。

この面の主要遺構は、埴列建物、礎石建物、通路、廃棄土坑、埋甕である。埴列建物は8棟、礎石建物は3棟検出された。そのうち163埴列建物と299礎石建物、301埴列建物と302礎石建物が対をなしている。また279土坑は、163埴列建物や299礎石建物から出た廃材の廃棄土坑である。

8棟の埴列建物のうち、4棟で入口が確認された。入口を西に向けるもの（162・163埴列建物）と南に向けるもの（165・166埴列建物）がある。屋敷地割は第5面とさほど変わらないとみられる。ただ、166埴列建物と300礎石建物の東辺の位置が一致し、164埴列建物の背も近い位置にあることから、それら建物の東辺に沿って屋敷地境があったとみられる。この区画により、第5面よりも中央部分の空闲地の範囲がより明確になっている。また調査地東半では、第5面と同じく、東西方向の通路とみられる硬質面があり、それを挟んで屋敷地が分かれる。

調査地中央～西では、165埴列建物と166埴列建物があり、両者間に南北6m、東西5mほどの範囲の硬質面が存在する。その面はさらに南に広がる状況を示している。その硬質面は、土間と考えられる。

第3面（17世紀後葉～17世紀前葉）

慶長20年の被災後に復興された町割に基づく町屋群である。正方位に対し約45度傾き、現在まで踏襲されている。新しい地割により、調査地の中央を北東-南西方向に延びる通りが設けられ、調査地は2分される。第4面で検出された268・350溝がその側溝で、第1面検出の059・094溝へと継承される。

ただし、旧団地建築時の掘削のため調査地西半が著しく削平されていて、この面で捉えることができた遺構の範囲は東半のみである。

主要遺構は通りと側溝、廃棄土坑、埋甕であるが、第1面で検出された101焼土域は出土遺物からみて、この面に伴うと考えられる。この101焼土域は、貼土を挟んだ2枚の硬質焼土層からなり、金属生産に関連した施設痕跡の可能性が高い。

192・195土坑からは瓦をはじめとする多量の遺物が出土していて、屋敷の片付けに伴う廃棄土坑とみられる。屋敷地の裏庭を掘削したと考えられる。また調査地北辺近くに位置する168土坑も、規模こそ小さいが、1辺5～10cm程度に割られた瓦片が充満していて、廃棄土坑と考えられる。

調査地東半の中段に位置する207合甕は特殊な構造をもつ。屋敷地境に位置していたとみられる。

第2面（18世紀前半）～17世紀後葉）

この面の遺構も、東半のみで捉えた。主要遺構は通り・側溝、礎石建物、廃棄土坑、瓦質材組の排水溝、埋甕である。

調査地東半の中央やや北寄り（133土坑と122土坑の間）を境に整地層の地質が異なり、ここに屋敷地の境があったとみられる。屋敷地境を挟んで南北それぞれに廃棄土坑が存在するが、北の122土坑は出土遺物から本来は第1面に伴うと考えられる。なお第1面検出の070土坑とは僅かに重複関係をもち、122土坑が先行する。この第2面段階の大型廃棄土坑は、南側屋敷地の重複する2基（136・137土坑）である。これらの土坑は、第3面の192・195土坑と幾分重複する。136土坑の北1.5mに位置する133土坑を含めた3基の土坑からは、中国製染付以外の貿易陶磁器が複数点出土しており、注目される。

136土坑が埋没したのちに、684礎石建物が構築される。北辺は整地層の分割に示された屋敷地境の際にあり、南北に桁行をとっている。屋敷地の奥まったところに設けられた建物ではあるが、堺絵図では

当該地点の屋敷地の奥行は11間と記されていて、調査地東辺よりさらに南東へ6 m程敷地が広がっていた可能性があるため、屋敷地内での位置は最奥とは限らない。

北の屋敷地に伴う遺構としては、瓦質材を並べた東西方向の排水溝（121溝）がある。屋敷の表間口が西向であるので、屋敷地奥へ排水し、屋敷背の近くに汚水を溜める穴が設けられていたであろう。

121溝の北約2 mに、118土坑がある。土坑内に木杵を納め、中に貝殻を含んだ灰が充填されていた。118土坑に被さるように683礎石建物が位置している。第2面では、灰を投棄した土坑・小穴が多く、この118土坑を始め、142・144土坑、157小穴などがある。

さらに、第3面での検出となったが、灰を多量に含んだ土坑・小穴は、北辺付近にまとまる241土坑・242小穴・245土坑や236土坑・237土坑・238土坑もある。これらは、位置的状况からすると、屋敷地の表間口近くに存在することになる。これらに近接している243土坑や244土坑からは、壁土が出土した。

なお、第1面で検出された161土坑は、出土遺物から第2面の遺構と考えられる。

第1面（19世紀前葉～18世紀後半）

第1面では、通り・側溝、廃棄土坑、井戸、埋甕が主要遺構である。旧団地構築時に調査地西半が著しく削平されたため、その範囲では第1～3面に該当する遺構のうち、深い掘方のものが集約的に残存していた。これに対して東半では、ほぼ当該期のみの遺構分布が認められた。なおこの面で検出された通りと側溝（054・094溝）は第2面にも継承されている。

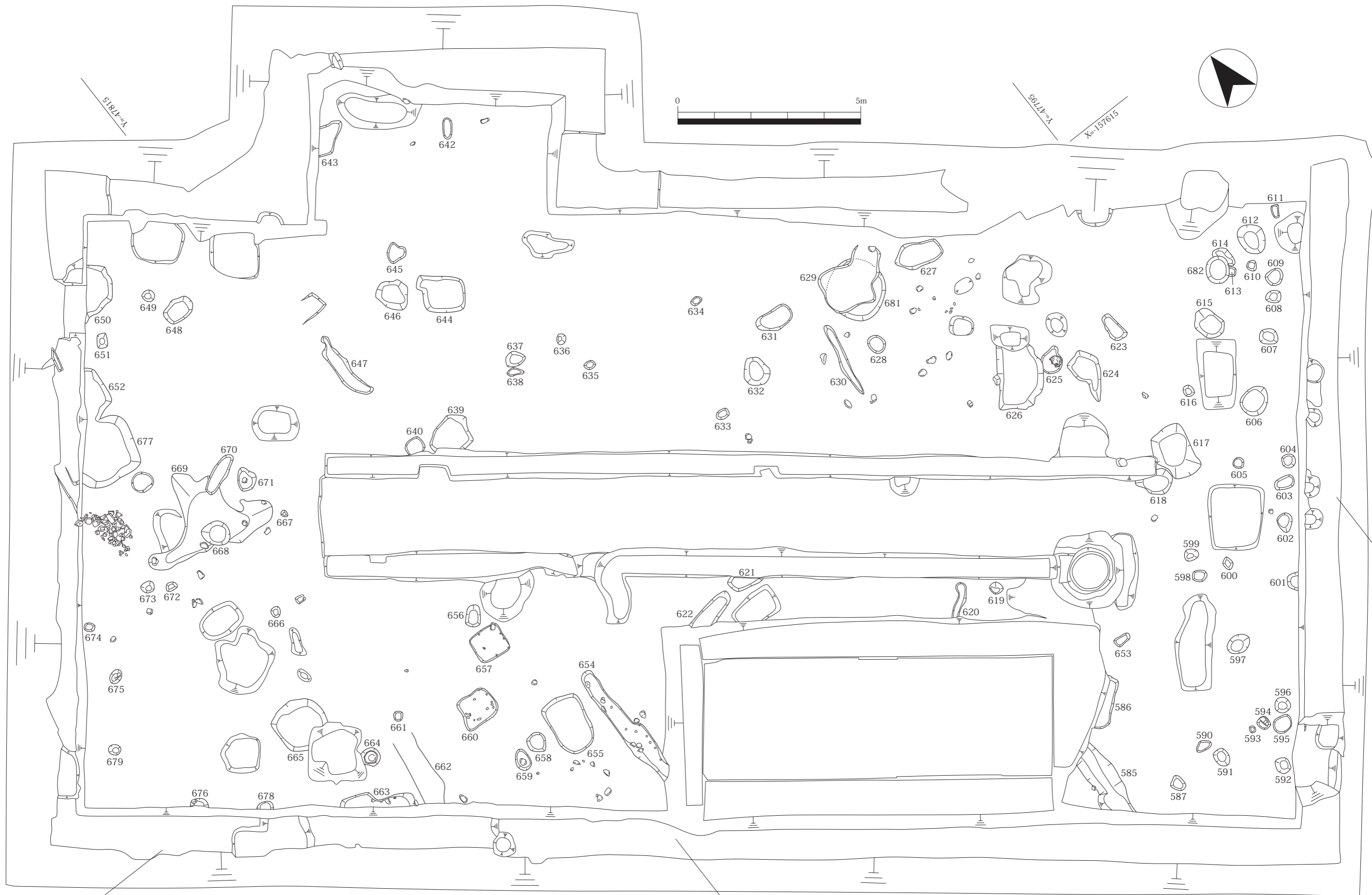
堺絵図によれば、調査地東半は3軒の屋敷地に分割されている。これに対して西半では、南北端で異なる屋敷地が僅かに存在する可能性があるものの、ほぼ1軒の屋敷地が占めている。ところが、2基の廃棄土坑（001・002土坑）や井戸（006・028井戸）が対称的に位置している。この状況からすると、18世紀後半以降、西半においても南北で屋敷地が分かれていた可能性が高い。

一方、遺存状況のよい東半では、北半に069・070土坑、南半に083土坑が分布している。これらは廃棄土坑であり、各屋敷地の片付けに伴うものとみられる。堺絵図によれば、調査地東半では通りの間が16間で、大半のところは8間ずつに割られているが、調査地に該当する屋敷地には8間と11間、そして16間の奥行がみられる。したがって調査地東辺がほぼ屋敷地の背に当たり、その奥庭にあたる範囲に廃棄土坑が掘削された場合もあるが、第2面の684礎石建物についてみたように、屋敷地背がさらに東にあった可能性もある。

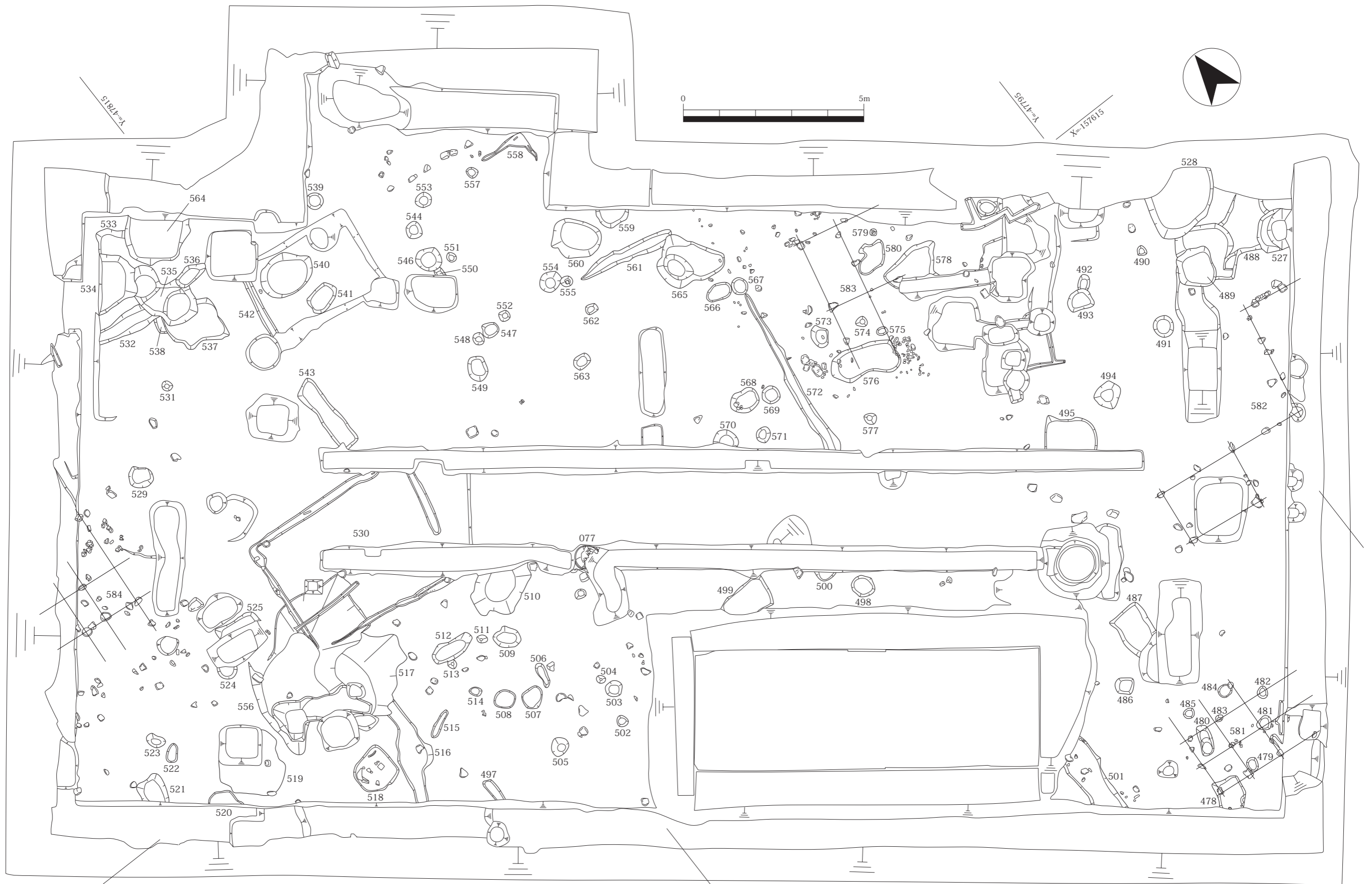
なお070土坑は第2面の整地土境と重複する位置にあることから、その形成段階では屋敷地の統合がなされていた可能性が考えられる。

ところで、調査地北東で検出された石組遺構（107搾場遺構）は、酒蔵の搾場であることが判明した。石組自体は明治時代のものとみられるが、搾場そのものは近世末から構築されたとみられる。近世末から明治時代にかけての遺構としては、井杵専用瓦を用いた065井戸、調査地東辺で直列する108～112埋甕（便槽）があり、東西方向に直列した089～092小穴も埋甕の抜取穴の可能性もある。こうした遺構も、107搾場遺構とともに酒蔵の一部であったとみられる。搾場遺構に関しては、『大阪文化財研究』第32号（（財）大阪府文化財センター2007年10月）に詳細を記している。

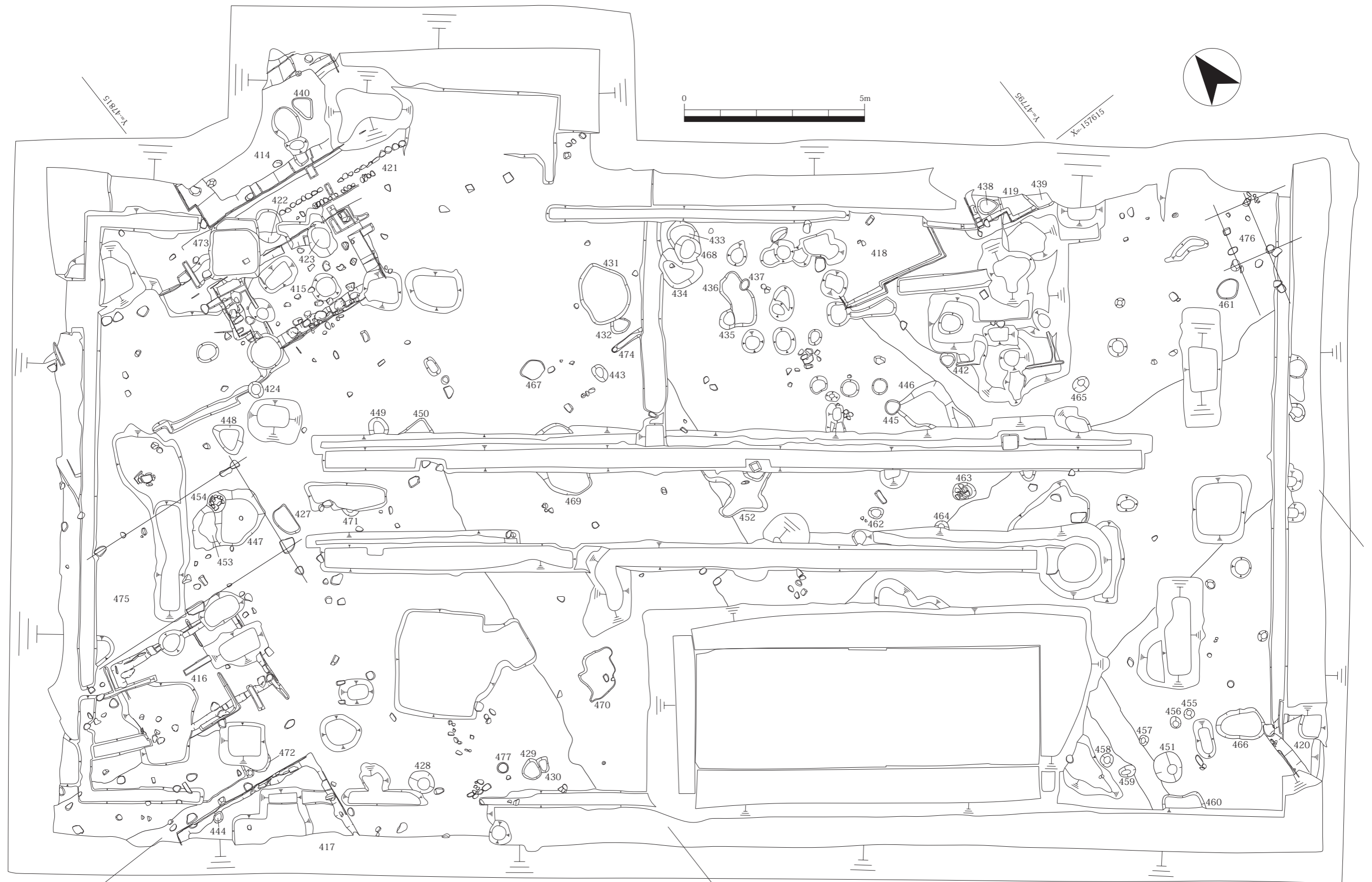
この107搾場遺構に切り崩されて096土坑が存在する。灰を多量に包含する土坑や整地土内の灰は第1面から第4面までの間で顕著に認められるが、この096土坑がそうした遺構や灰分布の下限である。出土した遺物は17世紀末～18世紀前半の年代が与えられるものだが、検出状況からは近世整地土Ⅰの形成前後、すなわち19世紀初頭あるいは18世紀末の形成と考えられる。



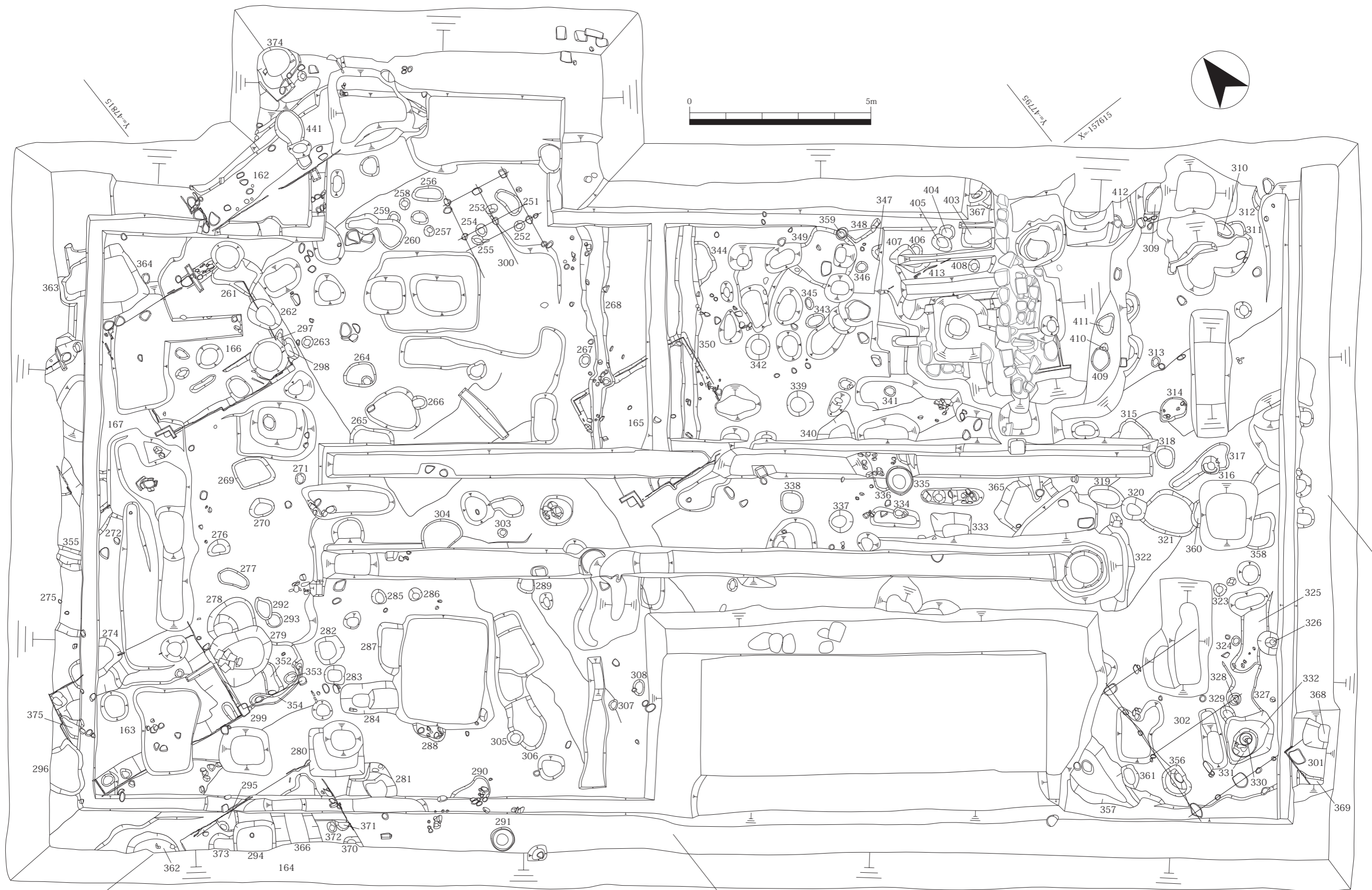
第8図 第7面検出遺構



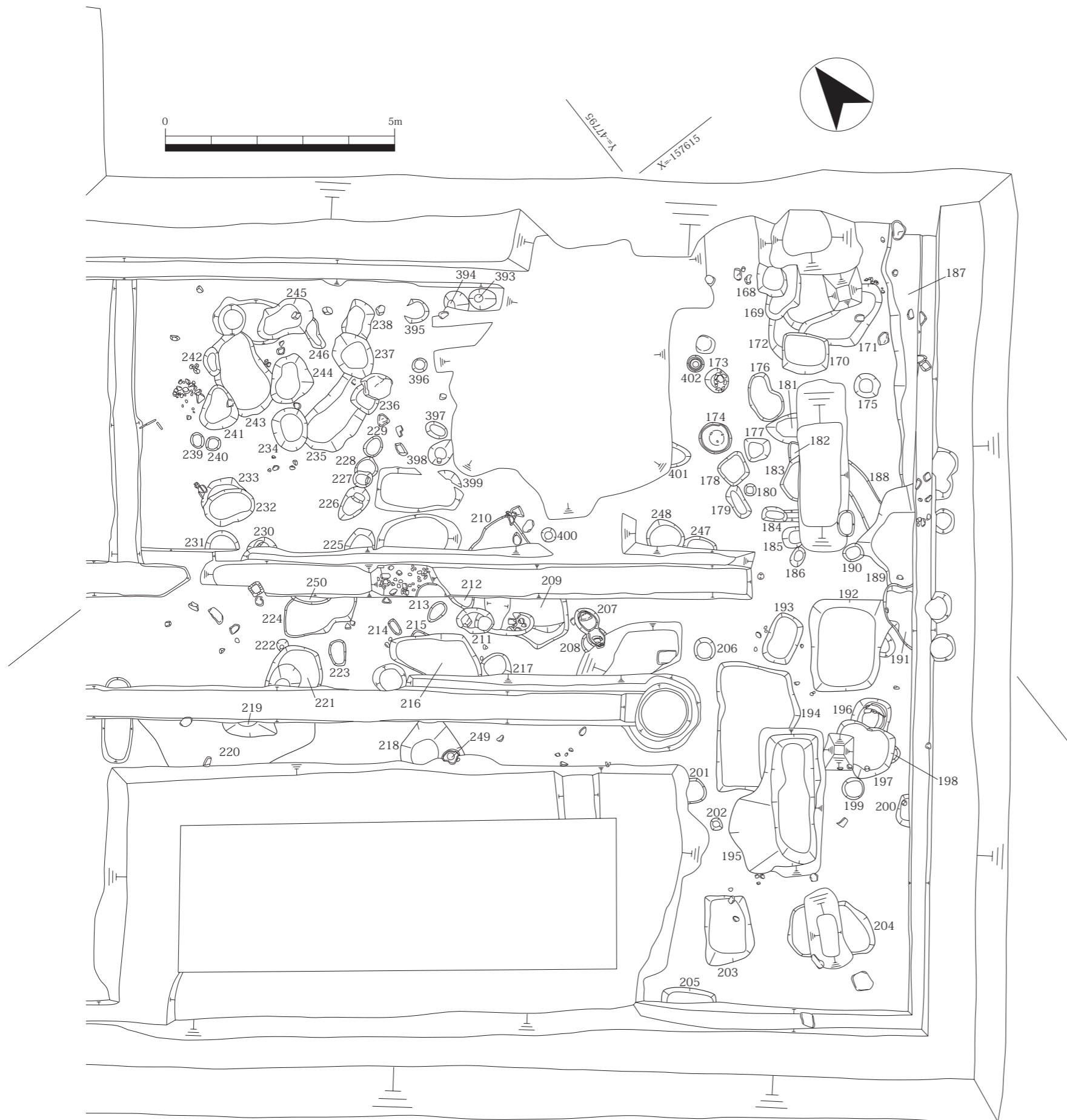
第9図 第6面検出遺構



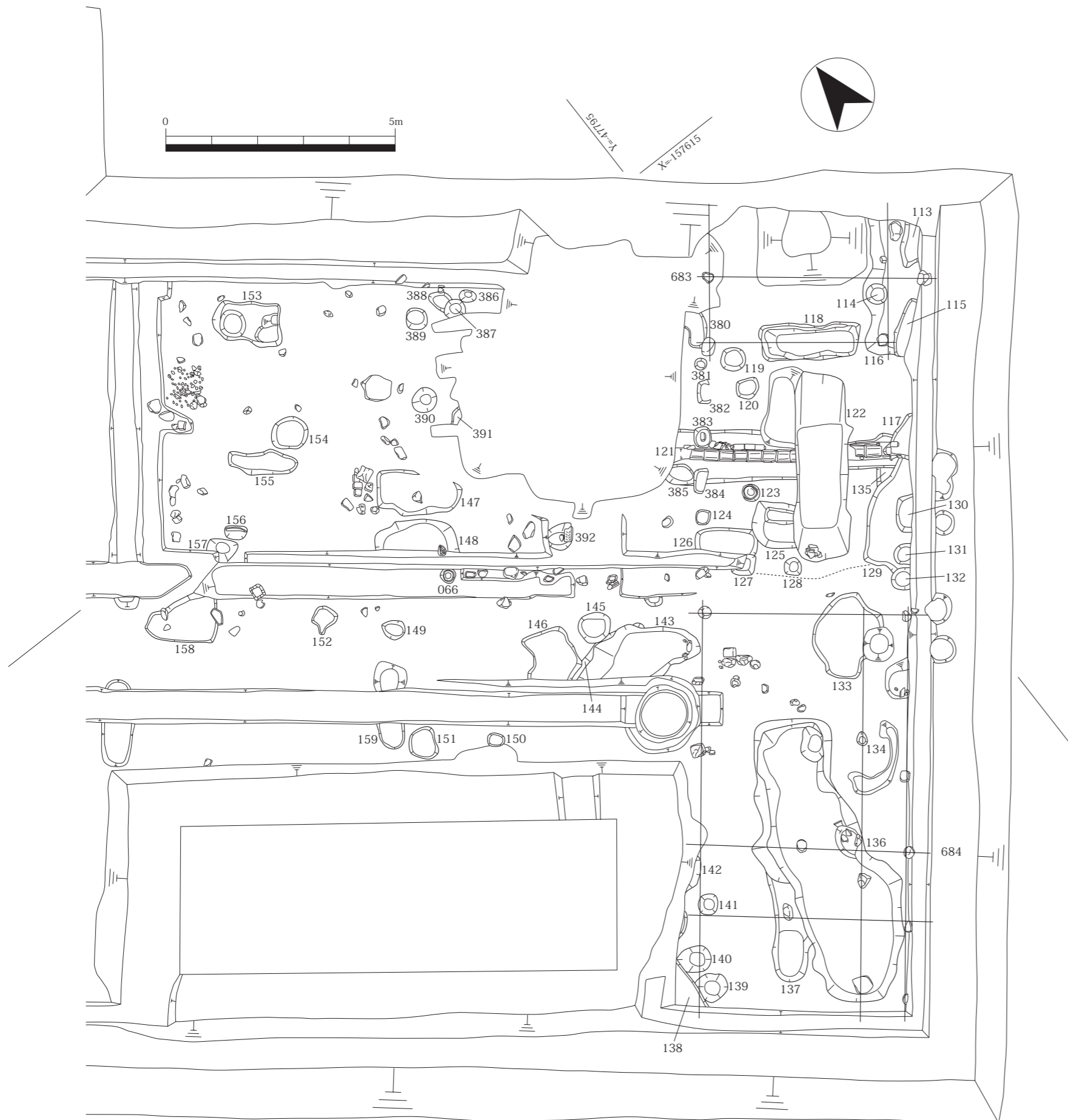
第10図 第5面検出遺構



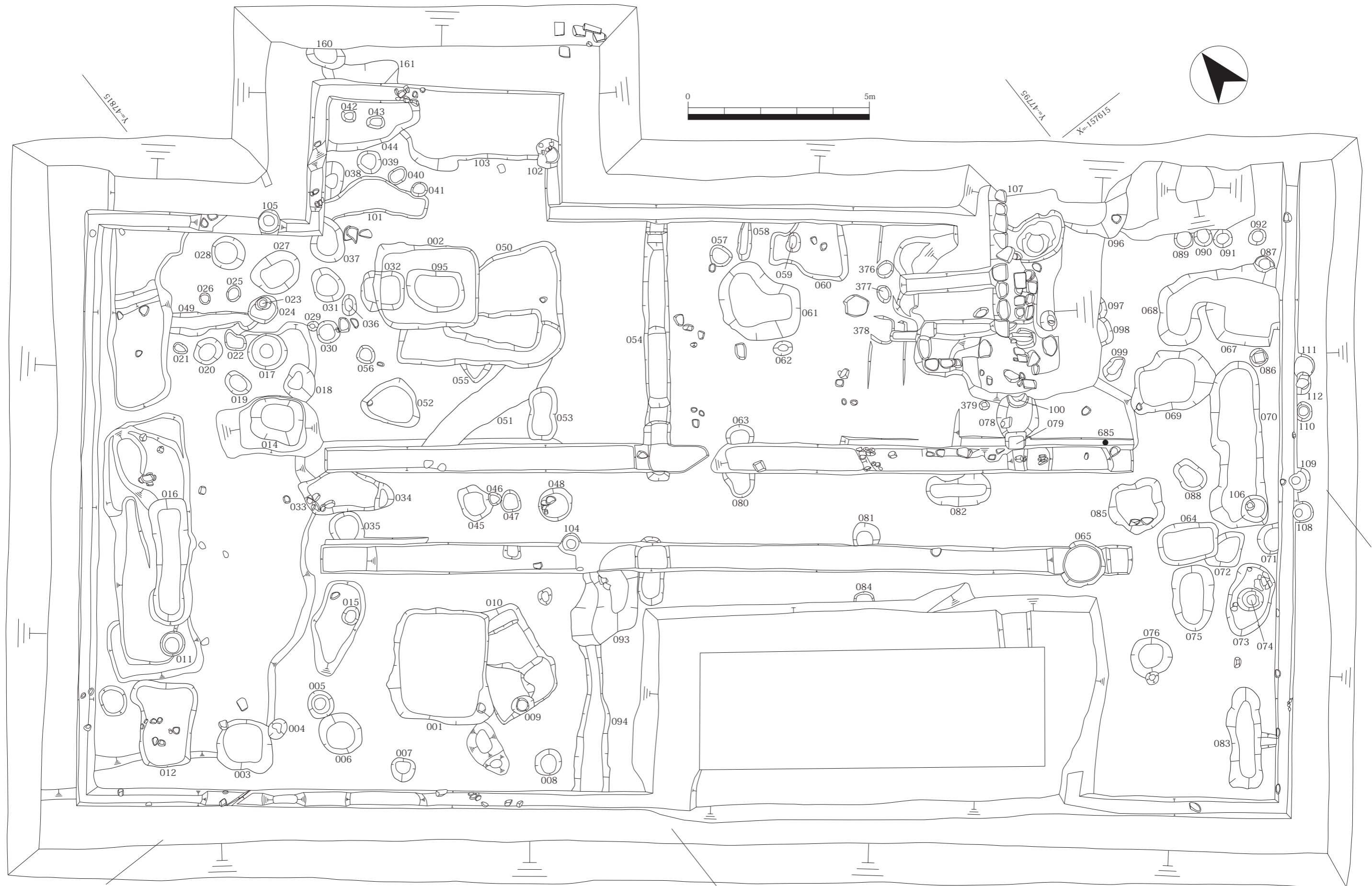
第11図 第4面検出遺構



第12図 第3面検出遺構



第13図 第2面検出遺構



第14図 第1面検出遺構

第3節 検出遺構

SKT959地点の調査では、673基の遺構を検出した。慶長20年以前では埴列建物や礎石建物が、20年以降では廃棄土坑が町屋群復元の鍵となる。すべての遺構については遺構一覧表（P174～189）に記したが、ここでは各面の年代比定や生活空間の復元にあたって留意されるものを取り上げる。

(1) 第7面

669焼土域（第15図）〈F5-9-20B-3a〉 3方に広がる不定形を呈し、深さも最大8cmと浅い。しかも底面も幾分被熱を受けているように観察されたことから、土坑ではなく焼土域とした。

ただし、中国製染付の揃い皿9個体を始め、備前甕、基石、貝製双六駒などが出土していて、焼土と共に廃棄された可能性が高い。この遺構地点で火災に遭ったものがそのまま遺棄されたと考えられる。ことに皿は、いずれも被熱のため器面が発砲し、融着したのものもある。

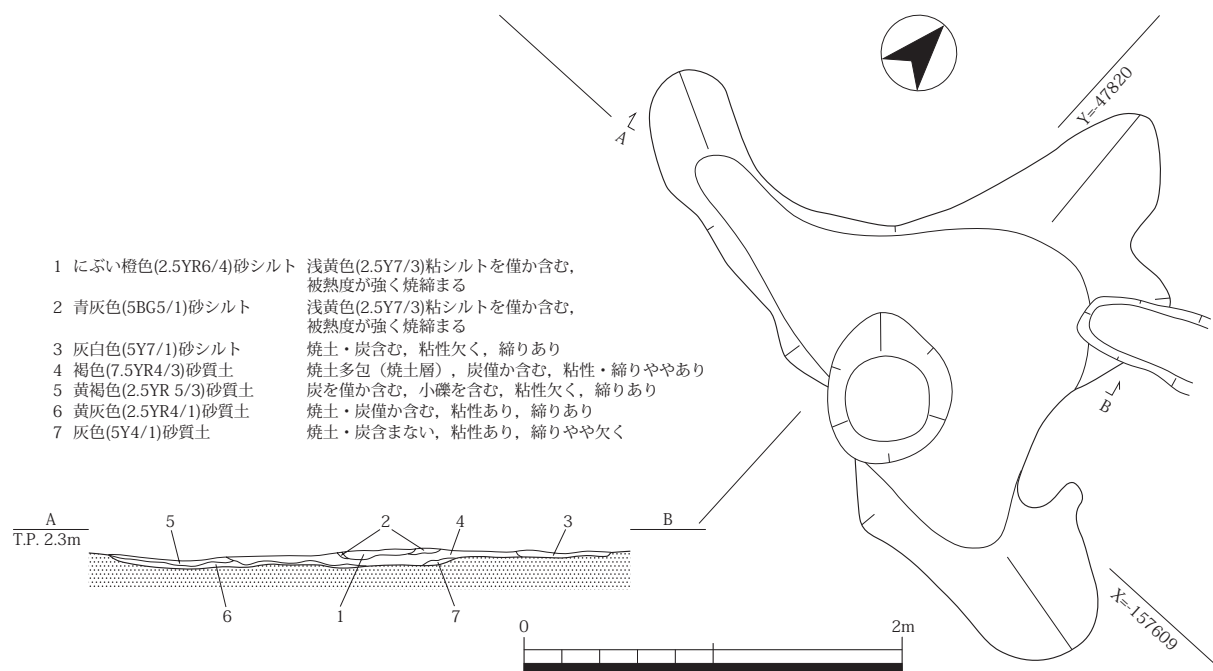
覆土は、焼土を多包する4層が大半を占め、その上に被熱硬化した1・2層がのる。中国製染付皿はこの硬化した層から出土した。

652・677土坑（第16図）〈F5-9-20B-3a〉 遺構検出時には一部が重複する2基の土坑と考え、個別に遺構番号を付した。しかし、土層観察から一体の土坑であることが判明した。

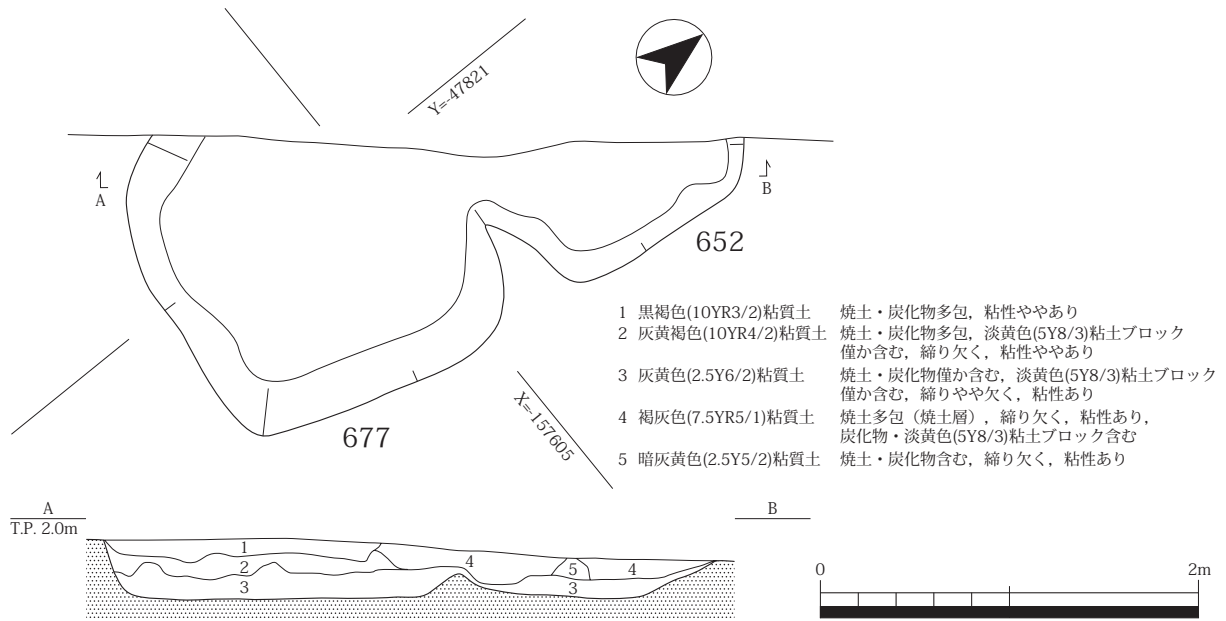
底面上の3層には焼土や炭化物は少ないが、上半を占める1・2・4層には焼土が多包されている。焼土内からはコンテナ1箱分の遺物が出土した。中国製青磁1個体や陶磁器の小破片もあるが、大半は焼けた瓦や壁土であった。669焼土域の北1mに位置していて、それと同様に、火災の片付けに関連した土坑と考える。

657土坑（第17図）〈F5-9-20B-2b〉 1辺0.9mを測る方形土坑である。深さは0.2m程で、上面が削平されている可能性があるが、西を除く3壁には横わたしされた木板が残存していた。しかも壁際には、木板を固定する木杭の痕跡も認められた。

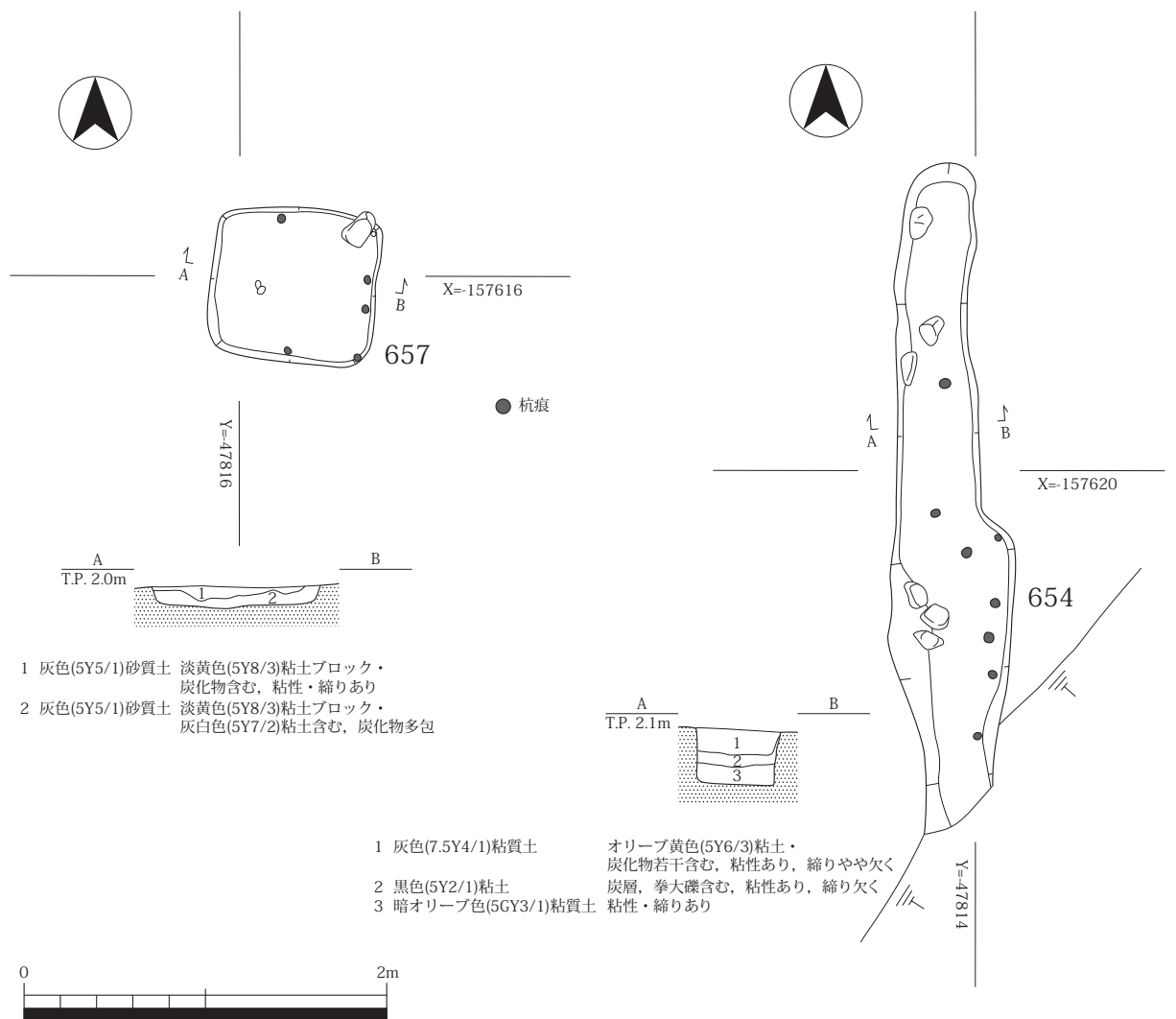
覆土は上下に分かれるが、ともに灰色砂質土である。底面上で、炭化した繊維状の有機物が出土した。



第15図 669焼土域



第16図 652・677土坑



第17図 657土坑・654溝

ただしその具体的な性質については不明である。その他、中国製青磁碗や土師質土器、瓦質土器なども検出されたが、出土量は少ない。木枠を組む構造および規模の点から、便所跡の可能性が考えられる。

なおこの遺構の南西1mの地点でも、1辺1m前後、現状の深さ約0.2mの方形土坑(660土坑)が存在する。壁際の底面には、木杭痕が認められ、657土坑と同じく、便所跡の可能性が高い。なおこの面で検出された664埋甕は、本来は第4面に伴うと考えられるので、この面に比定される埋甕の存在はない。木枠便所から埋甕便所へ変遷した可能性も考えられる。

654溝(第17図)〈F5-9-20B-2b〉 南北方向の溝であるが、長さ3.7mにわたって検出したにすぎない。深さは、現状で最大0.3mを測る。北端の立ち上がりは、垂直に近い。

この溝の底面には、木杭の痕跡が認められ、しかも南半の東壁には木板が僅かに残存していた。この木板は、溝壁面の崩落を防止するために固定されたのであろう。

覆土は3層に分かれるが、いずれも水平に堆積していることから、自然埋没したとみられる。備前播鉢や土師質土器塼、瓦などがコンテナ1箱分出土した。

この溝の北方約9.5mで、同一軸上にある647溝(状遺構)が存在する。現状の深さは0.1mにすぎず、溝とは呼びがたいが、状況からすると654溝の延長部分とみられる。さらに東約10mには、南北方向に軸をとった585溝と630溝があり、これらも同一溝の各一部であろう。これら654溝-647溝、585溝-630溝は、第7面における地割のための区画溝と考えられる。

(2) 第6面

556・517焼土域(第18図)〈F5-9-20B-2b・3b〉 遺構検出時には2基の遺構が重複していると考えたが、調査の結果、同一の焼土域であることが判明した。530塼列建物に先行するが、出土遺物からすると、その時間差は極めて小さい。

平面は不定形を呈し、底部の中心が南に偏った掘り込みをもつ。この焼土域の上面は、厚さ5~10cmにわたり被熱硬化している。ことに、現状の南端の最も下がった長さ1.3m、幅0.5mの範囲で顕著である。この層から掘方底面までの間に堆積した2・3層や16層は、硬化してはいないが、被熱のために赤色化している。また硬化面下のベース層にも、変色した部分がみられた。以上のことから、浅い皿状に窪めた掘方を設け、若干埋め戻したのち、その上で高温状態に焚火を保ち続けていたと考えられる。

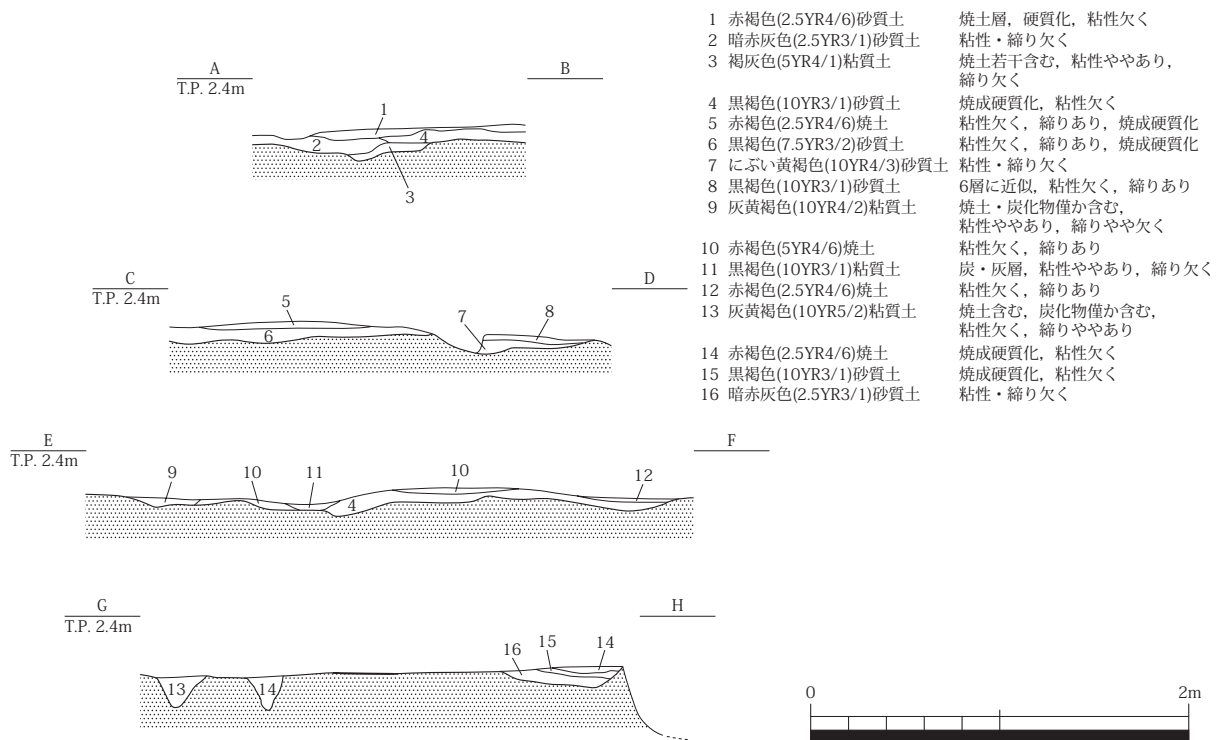
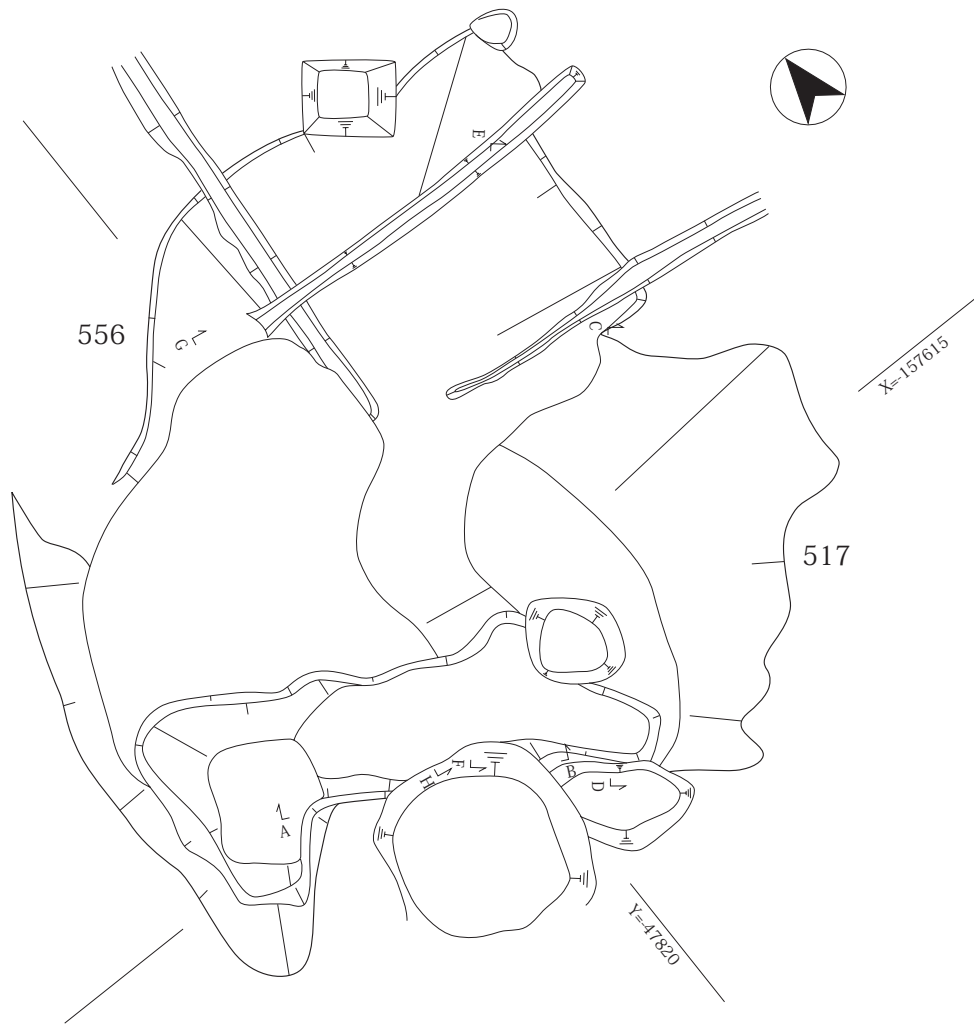
遺構内からは朝鮮王朝製陶磁器や備前甕・播鉢、土師質土器、瓦なども出土したが、銅滓や再加工用と考えられる銅片、あるいは溶けた金属によって接着した土師質土器皿などが出土した。このことから、この焼土域は青銅器の鑄造に関連した遺構と考えられる。

なおこの遺構の廃絶に伴って、窪みに砂質土を埋め込み、地形を水平に整えたのち530塼列建物が構築された。

530塼列建物(第19図)〈F5-9-20B-2b〉 第6面では558塼列建物も検出された。しかしその遺存状態は悪く、北・東辺のごく一部が捉えられたにすぎない。この面で、全体の形状をほぼ捉えることができたのは、この530塼列建物だけであった。

とはいえ、この建物においても大半の塼を欠失していて、南東隅や南西隅で幾分まとまって遺存していただいだけである。建物の形状は、塼列の掘方、あるいは溝状に掘られた塼の抜取穴を手掛かりに捉えたにすぎない。なお遺存部分の塼は、1段分のみであった。また塼を固定するために掘方内に埋め込まれた粘質土・砂質土の存在は、判然としなかった。

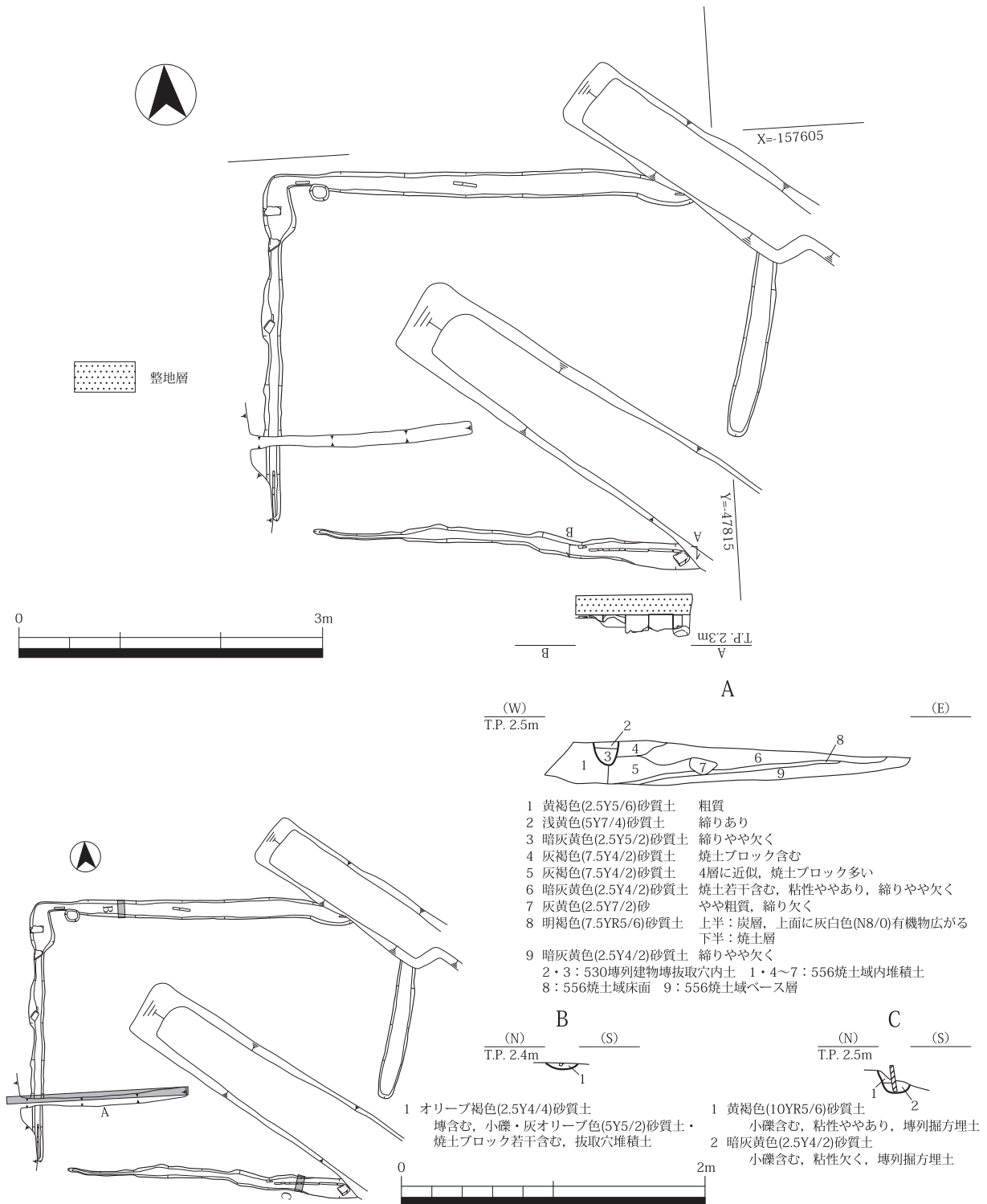
建物の規模は、東西4.8~5.0m、南北3.6~3.8mを測る。東辺を除くと、塼の並びをほぼ推測するこ



第18図 556・517焼土域

とができるが、その3辺において入口に比定できる突出部は認められなかった。したがって入口は攪乱を受けた南東部にあり、東向であったと推測される。

ところで、この530埴列建物に使用された埴は、第4・5面検出の埴列建物に使用されたものに比べ、同等かそれ以上の厚みがある。それに反して焼成が悪く、脆いものばかりであった。この点は558埴列建物の埴にも共通している。よって、959地点における16世紀中葉段階の建物に使用された埴は、良質のものではなかったとみられる。



第19図 530埴列建物

583礎石建物（第20図）〈F5-9-20B-1b〉 南北3m、東西2mの範囲で礎石が検出されたにすぎない。周辺にはほぼ同大の礫が散在しているので、建物の片付けや整地土の形成時に礎石の一部が動いた可能性はある。

礎石の大きさは、長径15~30cmを測り、小振りである。礎石の間隔は、2mと1mを基本としている。礎石に近接して数基の小穴が存在している。そのうちの幾つかは、礎石の抜取穴かも知れない。

建物の桁行方向は不明である。また礎石上面に、柱の痕跡は残っていなかった。

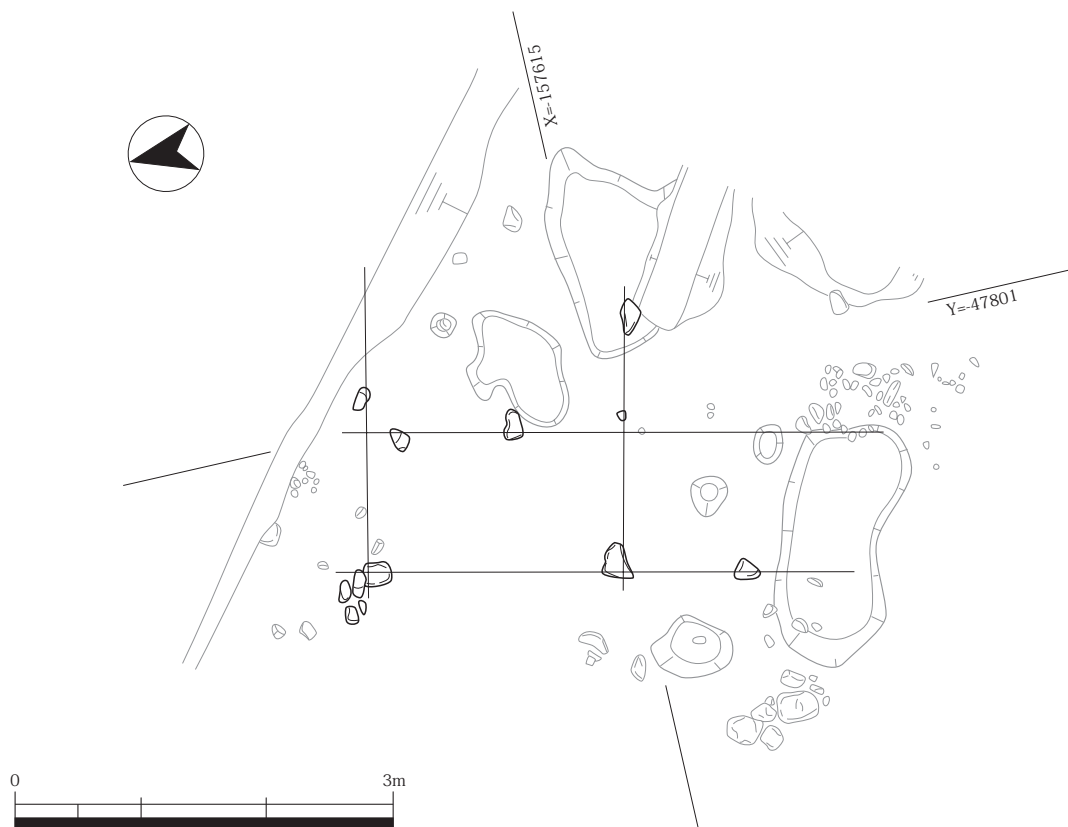
582礎石建物（第21図）〈F5-9-19B-10c〉 東西6m、南北5mの範囲で礎石が検出された。現状では、「L」字状に礎石配列が認められ、曲屋と考えられる。ただし、桁行方向の異なる南北2棟の隣接した建物により構成されている可能性もある。第6面で検出された4棟の礎石建物の中では礎石並びが最も明瞭で、構造を捉えやすい。

礎石の大きさは、長径10cm程度の小振りのものもあるが、大半は20~30cmを測る。また礎石間はほぼ1mを基準としていて、その間に配された礎石もある。

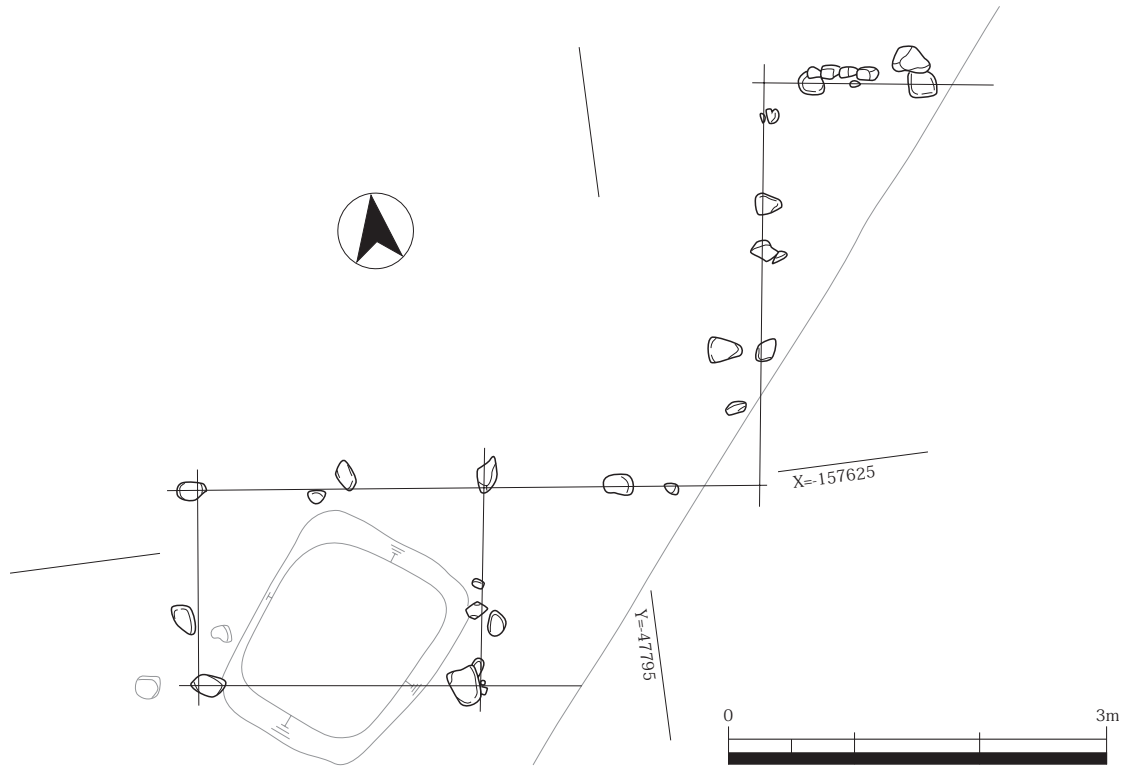
建物の北方約1.5mには488土坑が位置している。遺物の出土はなかったが、覆土中に焼土が多量に含まれていて、この建物の被災と関連するかも知れない。

581礎石建物（第22図）〈F5-9-20B-1d〉 東西3m、南北2.5mの範囲で礎石が検出された。礎石建物の範囲には、479・481~485小穴が存在し、礎石に隣接したものもある。それらは、先行する建物の礎石抜取穴であるかも知れない。

礎石の大きさは、長径10~30cmで、不揃いである。礎石間は0.9~1.0mを測り、比較的整っている。現状からすると、東西方向に桁行をとった建物と考えられる。なおこの建物の西辺と501溝との間に、南の通り（長尾街道）から入る南北方向の通路があったと推定される。



第20図 583礎石建物



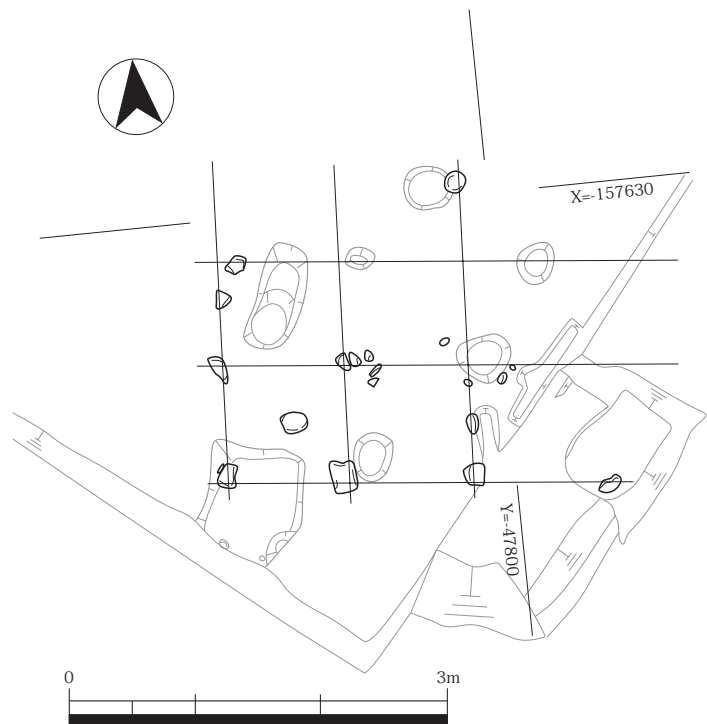
第21図 582礎石建物

584礎石建物 (第23図)

〈F 5 - 9 - 20B - 3 a〉

南北3.5m、東西2mの範囲で礎石が検出されたにすぎない。ただ、周辺には同大の礫が散在し、ことに建物の南2m前後では礫が東西方向に揃って広がり、その付近まで建物が延びていた可能性はある。

礫の大きさは長径20~30cmを測る。礎石間は0.5~1.1mであり、やや不均等である。上面に柱の痕跡が残っている礎石はなかった。



第22図 581礎石建物

532~537土坑・538小穴 (第24図)

〈F 5 - 9 - 20B - 2 a〉 6基の土坑

と1基の小穴が重複、群在している。この

うち536土坑と538小穴では、覆土中に含まれた焼土は少量にすぎないが、その他の土坑にあっては多量の焼土が覆土中に包含されていた。また534土坑を始め、幾つかの土坑からは、焼けた壁土も出土した。

こうした状況から、火災の片付けのために連続して形成された不規則な掘り込みだと考えられる。また537土坑の4層は炭層で、焼成により炭化した有機物である。

中国製染付・白磁、備前陶器(播鉢・甕)、土師質土器、瓦質土器などを出土した土坑もあるが、出

土遺物のほとんどが小破片で、しかも点数も少ない。したがって遺構の時期比定は難しいが、16世紀中葉に位置付けても齟齬はない。

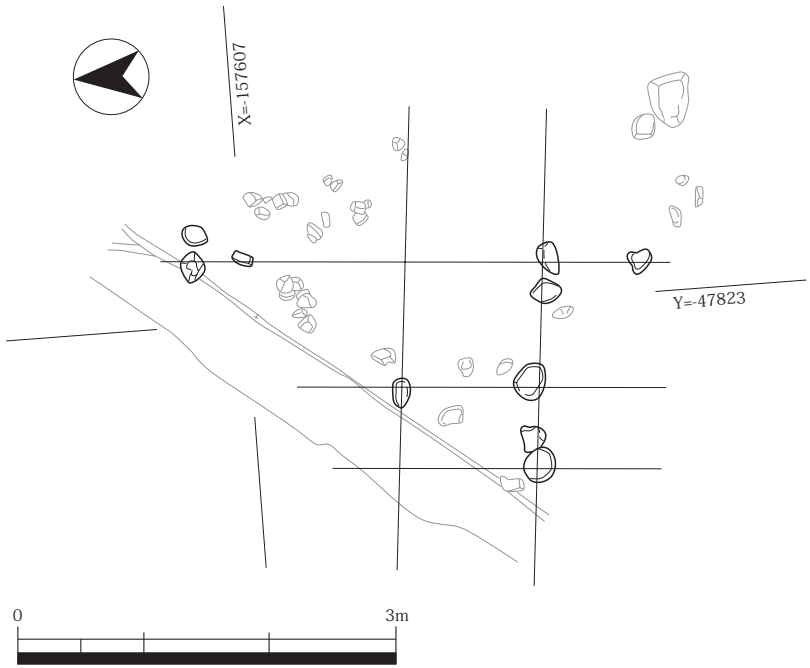
第6面において、火災の片付けに伴う遺構と考えられるのは、この遺構群と先述した582礎石建物の北に位置する488土坑であり、調査地の東西両端のみで認められた。

510井戸（第25図）

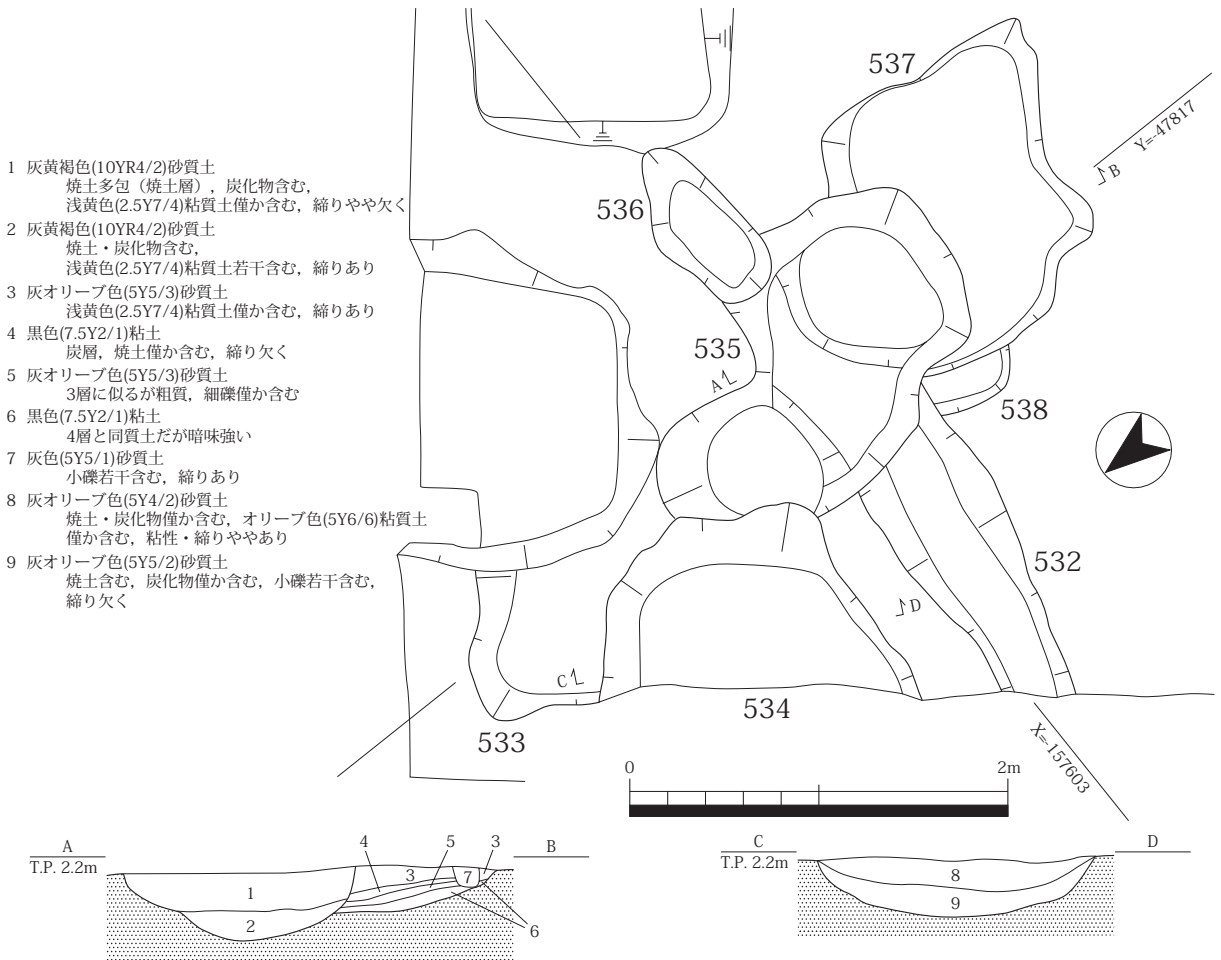
〈F5-9-20B-2b〉

東半が中央トレンチにより崩されているため、全体の形状や規模は不明である。東西方向の現存長は1.6m、南北長は1.2mを測る。平面は長方形を呈する。

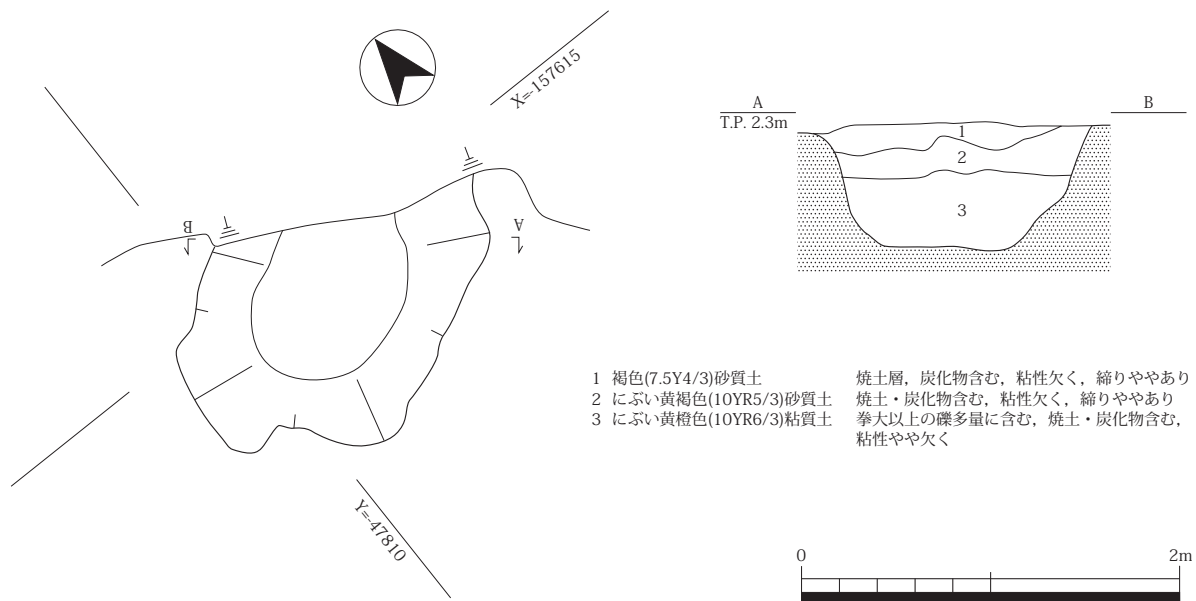
現状の深さは0.7mで、底面の標高値はT.P.1.55m。底面からは著しい湧水をみた。覆土の下半を占



第23図 584礎石建物



第24図 532～537土坑・538小穴



第25図 510井戸

める3層には拳大以上の大きさの礫が多量に含まれていた。廃絶時に投入されたとみられる。

覆土中からはコンテナ3箱分の遺物が出土した。国産陶器、土師質土器、瓦質土器、石製品、羽口、鉄滓などがみられるが、井戸枠瓦は含まれていなかった。木枠の痕跡も認められないことから、素掘り井戸であった可能性が高い。

(3) 第5面

414埴列建物 (第26・27図) 〈F5-9-20B-2a〉 ほぼ同位置の上部に162埴列建物が重複しているため、幾分削平されているが、現状でも2段分の埴が遺存している。

建物規模は、東西5.4m、南北2.8mを測る。西辺中央に0.2m程突出した入口を設けている。北が調査地外に延びているため、入口幅は不明である。

埴は約0.5m幅の掘方内に納められている。掘方は、内側を傾斜させ、外側はほぼ垂直に掘り込まれ、その直立する壁に沿って埴が立てられている。掘方は、主として灰色系の粘(質)土で埋められている。

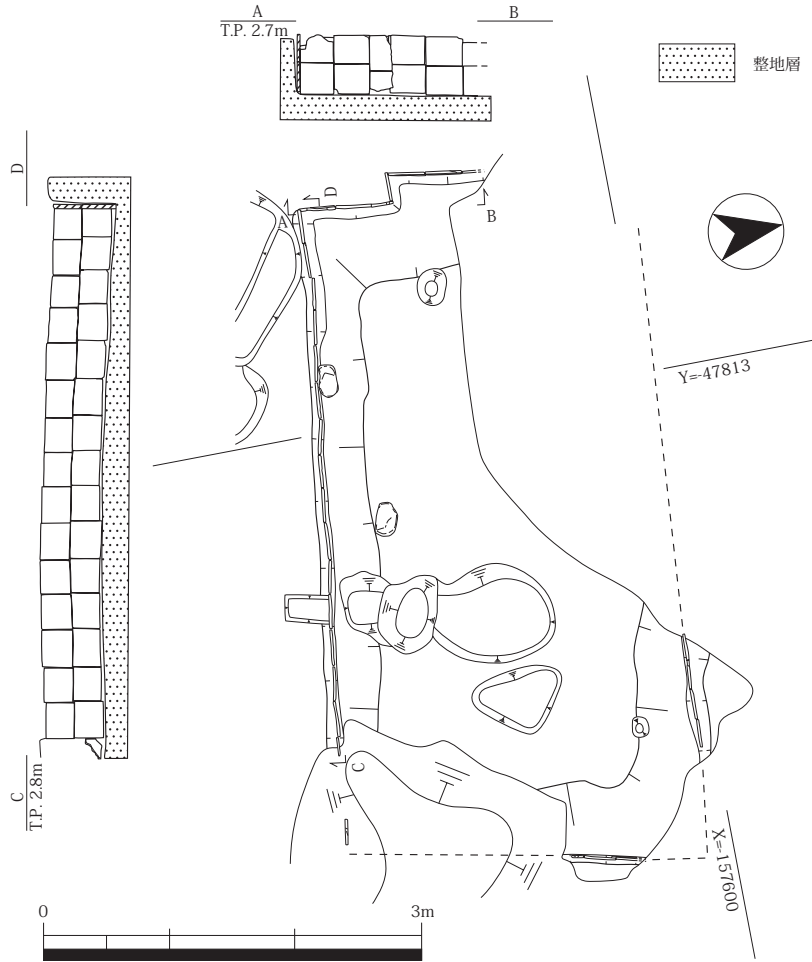
上段の埴の底辺から中程の高さで床下となる掘方粘土(7層)が認められるので、上部に位置する162埴列建物と同じく、建物域全体を掘り下げて床下を形成し、埴を納める部分をさらに1段掘り込んだ構造である。ただし、底面上に小礫や貝を敷いた状況は認められなかった。また、長径20cmほどの礫が2石遺存し、それが礎石とみられる以外、礎石の存在はなかった。建物の廃絶時に礎石や小礫・貝を取り出し、別の埴列建物に再利用したのかも知れない。

底面近くまで162埴列建物が切り込んでいるので、414埴列建物の崩壊時の堆積土はほとんど認められなかったが、僅かに残る堆積土からは中国製染付皿・白磁皿、ベトナム製長胴壺、備前播鉢などが出土した。しかしその中に混じって肥前陶器(唐津)瓶がみられることから、建物内の堆積土中に162埴列建物の遺物が一部混じり込んでいる可能性がある。

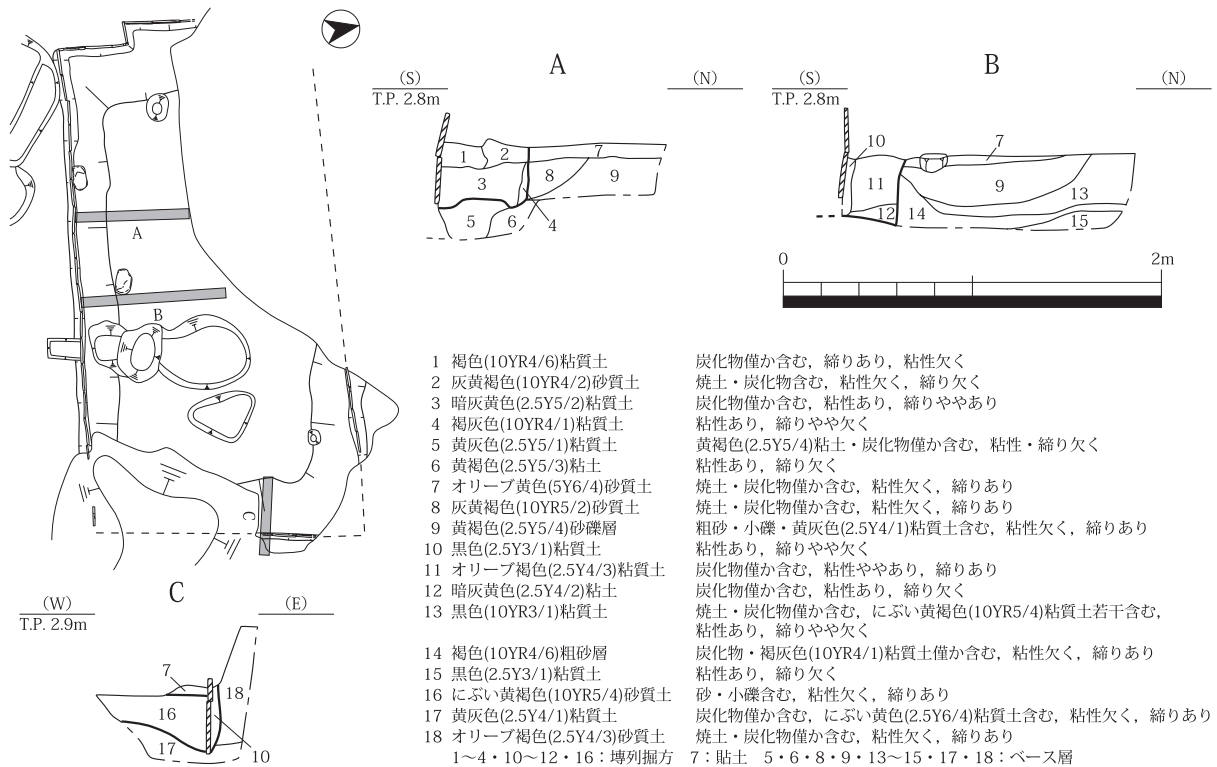
415埴列建物 (第28・29図) 〈F5-9-20B-2a〉 414埴列建物の南に隣接して位置する。東西4m、南北2.4mを測る。西辺北半に、約0.3m突出させた幅1.6mの入口を設けている。第4面検出の166埴列建物と1m程の重複部分があるが、その範囲も含めて遺存状態は比較的良好である。埴は2段分が検出されたが、上段の埴はほとんど残っていなかった。

塼列の掘方は、幅0.3~0.5mを測る。建物内側を傾斜させ、外側を垂直に掘り下げている。掘方内を主に黄褐色系粘(砂)質土で埋め戻し、その上に長径20~30cmの礫を礎石として並べる。北辺や東辺で礎石が検出されなかったのは、後世の影響だろう。礎石は規則的に並べられ、しかも掘方上の塼際のもは大振り、内寄りの小振りという、用材の使い分けをしている。これは柱を据えるか根太を置くかの違いに対応している。

底上には、攪乱された部分を除き、貝敷が認められた。その範囲は、塼の掘方上面に及ばない。これは、掘方の埋め土を礎石上面近くまで盛り上げて、塼を強固に固定したため四周が高まり、貝敷はその内側のみになされたためである。黄灰色・明黄褐色粘質土が底



第26図 414塼列建物／平面



第27図 414塼列建物／土層

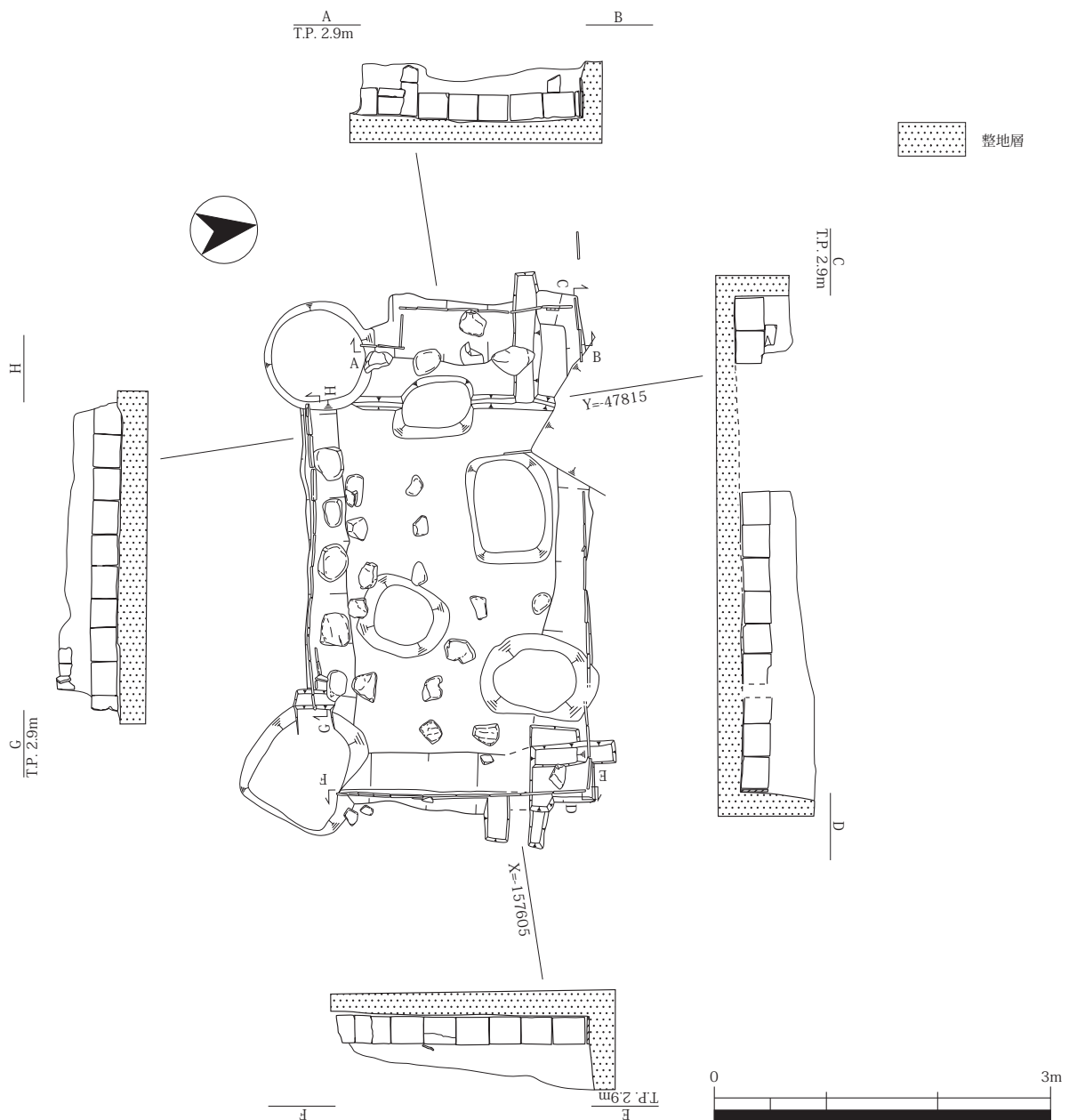
上に貼られ、下層（2層）には締りがある。

整地土を除去すると貼土および礎石上面が現れたが、塼列の大半は、上段も含め、掘方内に納まったままであった。したがってこの建物は、建物域全体を掘り下げて形成するのではなく、主として塼を納める部分を掘り込んだ構造である。

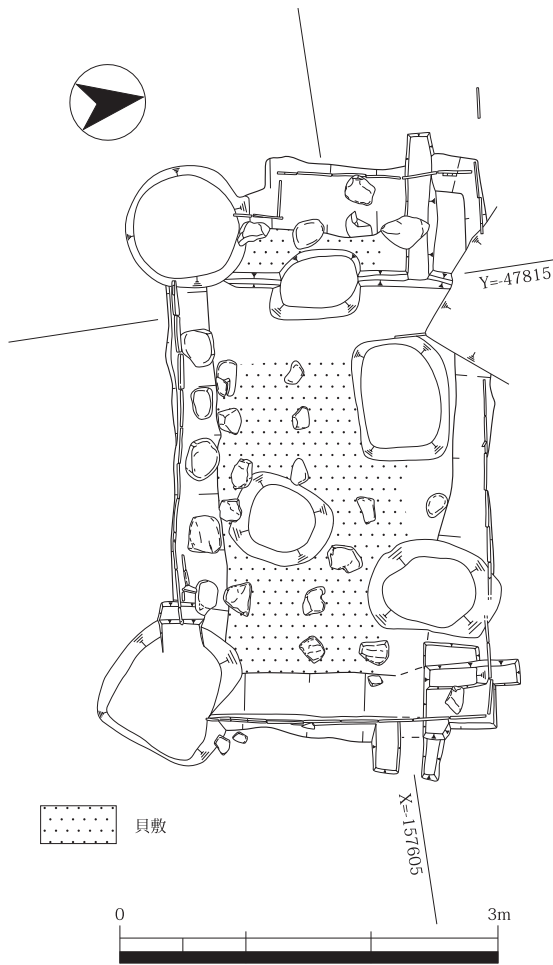
建物内に落ち込んだ堆積土からは、中国製染付や備前甕・播鉢、土師質土器甕・鉢、瓦質土器羽釜・皿など比較的多種の遺物が出土した。

421側溝（第30図）〈F5-9-20B-2a〉 414塼列建物と415塼列建物との間の通路の南辺に沿った礫組みの側溝である。長さ4mにわたり検出した。東端はほぼ現状の位置で終わっていると考えられる。一方、西については、後出遺構の切り込みが著しく、422土坑以西では検出できなかったが、屋敷地の表間口まで延びていたと推測される。溝の幅は0.2m程で、その両肩に礫を並べている。

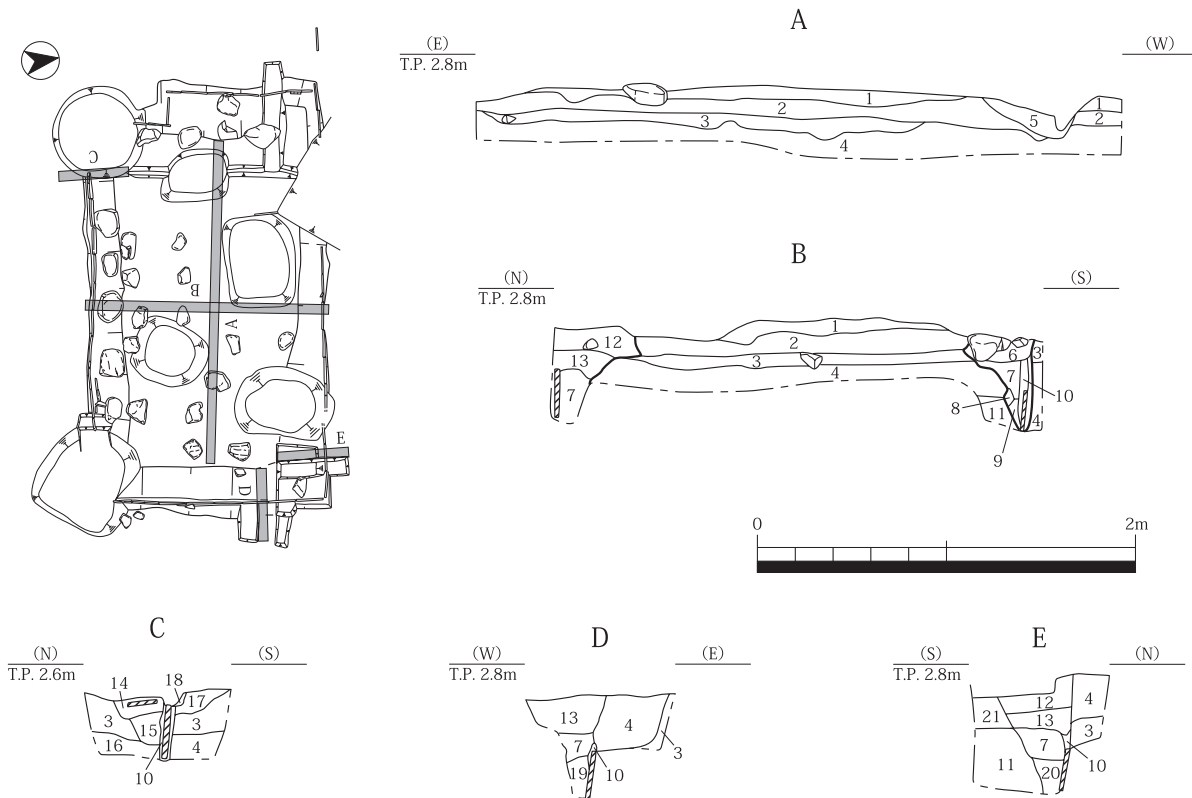
礫の上面は北列が5cm低く、そのまま通路上面につながっていく。このことから、通路および側溝は



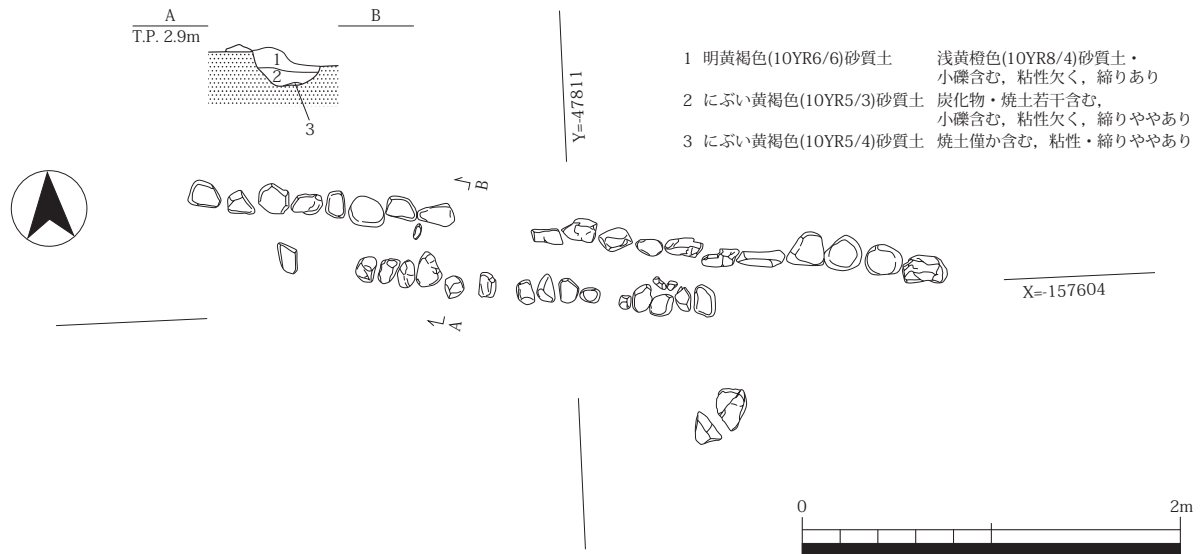
第28図 415塼列建物／平面



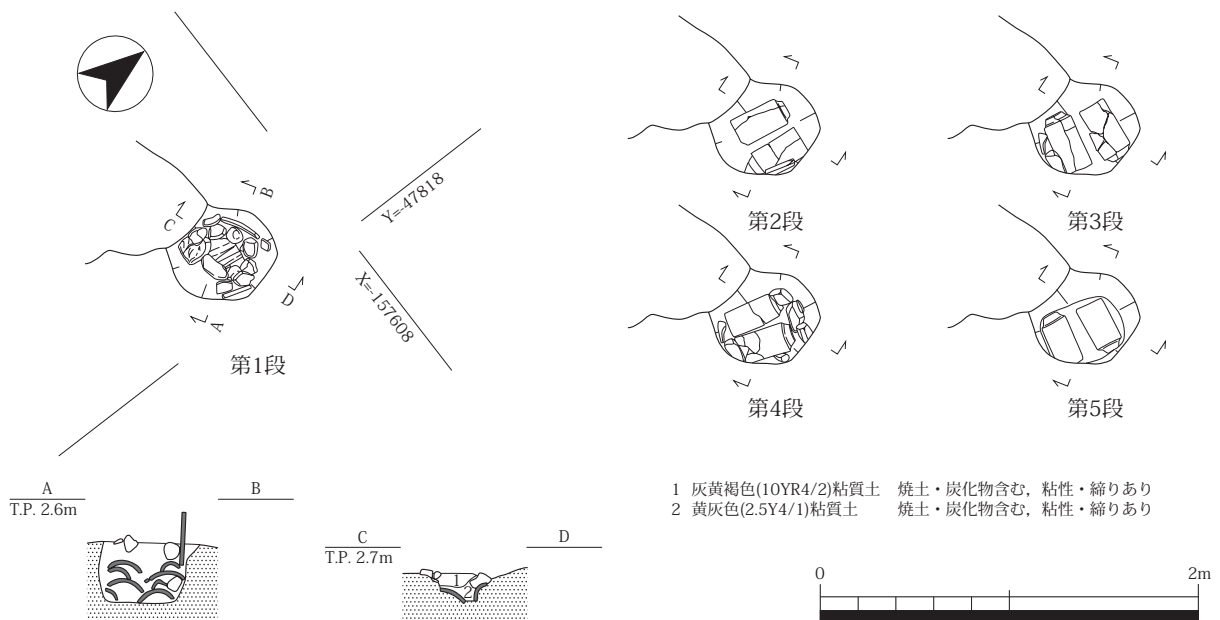
- | | |
|-----------------------|--|
| 1 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土 | 貝殻多包, 縮りやや欠く |
| 2 明黄褐色(2.5Y7/6)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む, 縮りあり, 部分的に粗質 |
| 3 黒褐色(10YR3/2)粘質土 | 焼土若干・炭化物僅か含む, 灰オリブ色(7.5Y6/2)砂質土含む |
| 4 黒褐色(10YR3/2)粘質土 | 焼土・炭化物若干含む, 縮りあり |
| 5 灰色(5Y6/1)砂質土 | 焼土僅か含む, 破碎礫若干含む, 縮りやや欠く, 粗質 |
| 6 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 灰色(7.5Y6/1)砂質土若干含む, 縮りあり, やや粗質 |
| 7 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 | 焼土・炭化物若干含む, 粘性・縮りあり |
| 8 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 | にぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土若干含む |
| 9 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 | 粘性ややあり, 縮りやや欠く |
| 10 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 縮りあり |
| 11 黒褐色(10YR3/2)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む, 縮りあり |
| 12 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 小礫僅か含む, 縮りあり, やや粗質 |
| 13 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 黒褐色(10YR3/2)粘質土僅か含む |
| 14 にぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土 | 粘性欠く, 縮りやや欠く, やや砂質 |
| 15 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土 | 焼土・炭若干含む, 粘性欠く, 縮りあり |
| 16 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 | 焼土・炭僅か含む, にぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂含む, 粘性あり, 縮り欠く |
| 17 明黄褐色(10YR6/8)粘質土 | 焼土僅か含む, 縮りあり, 粘性欠く |
| 18 にぶい黄褐色(2.5Y6/4)粘質土 | 縮りやや欠く, やや砂質 |
| 19 褐灰色(10YR4/1)粘質土 | 粘性あり, 縮りやや欠く |
| 20 オリブ黒色(5Y3/1)粘土 | 炭化物僅か含む, 粘性あり, 縮りやや欠く |
| 21 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む, 粘性欠く, 縮りあり |
- 1・2: 粘土 6~10・12・13・15・18~20: 埴列掘方
14・21: 床下盛土 3・4・11・16・17: ベース層



第29図 415埴列建物／床下状況・土層



第30図 421側溝



第31図 454土坑

北に位置する414埴列建物に伴うと考えられる。

礫は長径10~20cmの大きさで、北列は側面を、南列は小口を揃えて並べている。側溝内の覆土は、黄褐色系の砂質土である。

454土坑（第31図）〈F5-9-20B-3a〉 径0.5~0.6m、現状の深さ0.3mを測るこの土坑は、複雑な構造である。まず土坑底に2枚の丸瓦を東西方向に互い違いに伏せ並べ（第5段）、その上に同方向の丸瓦2枚を下の2枚と直交させて置き、周囲に礫を詰める（第4段）。その上に再び東西方向に2枚の丸瓦を互い違いに置き（第3段）、それとは直交方向に丸瓦2枚をやはり互い違いに並べる（第2段）。そのち黄色系の粘質土で埋めつつ、平瓦を立て、内寄りに礫を充填する（第1段）。

平瓦は、遺構確認面から18cm程度出た状態で検出された。この立てられた平瓦が、検出された1枚だけなのか、あるいは土坑壁に沿って廻るように並べられていたのかは不明である。今回の調査では同様の遺構はなく、機能については不明であるが、雨落ち穴の可能性がひとつにはあろう。

(4) 第4面

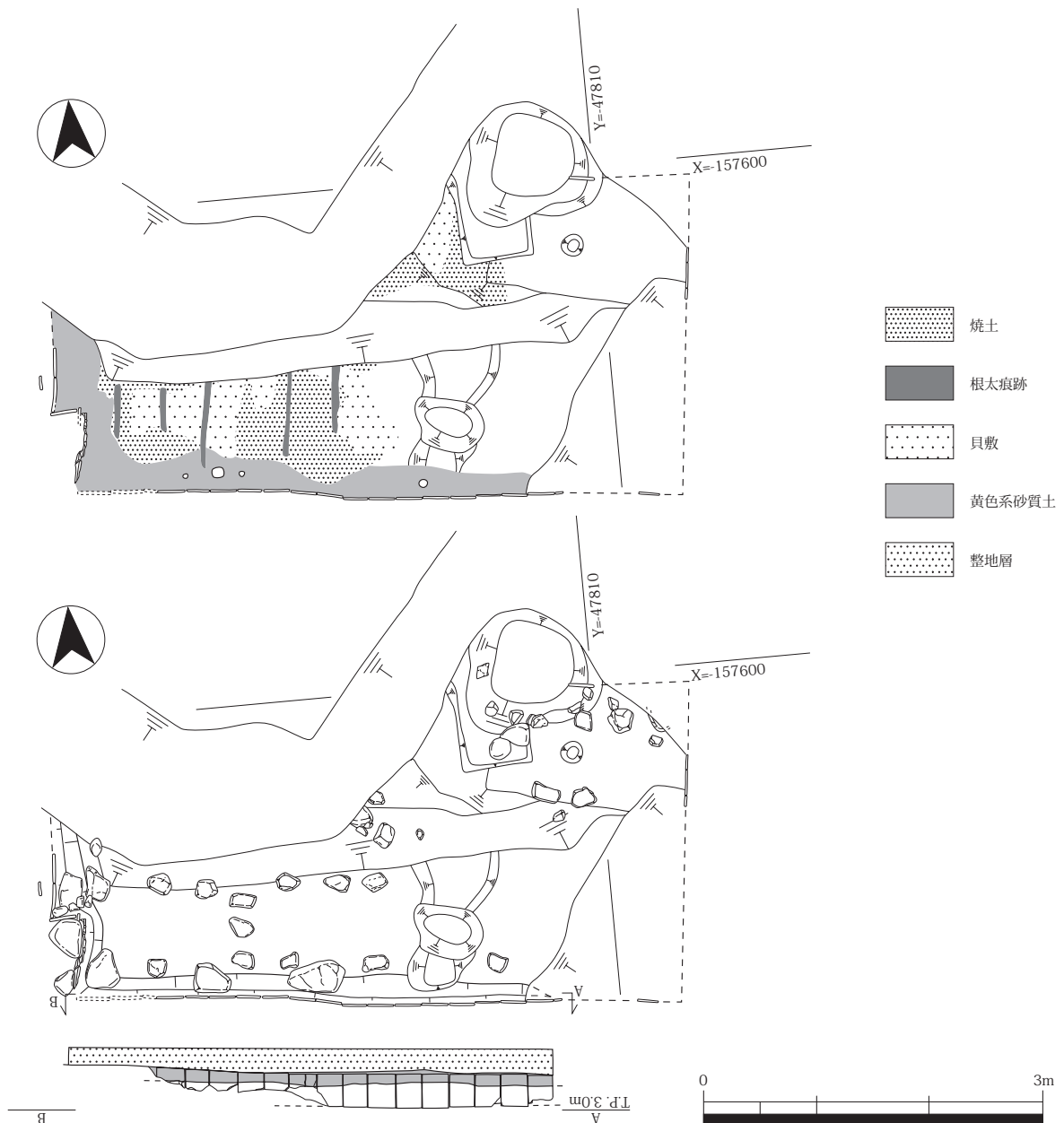
162埴列建物（第32・33図）〈F5-9-20B-2a〉 第5面検出の414埴列建物とほぼ同位置で重複する。現状の規模・形状は、414埴列建物とほぼ等しい。

また、建物域全体を掘り下げ、掘方底面に礎石を置き、防湿用に貝を敷いた点は先述の415埴列建物と同じであるが、遺存状態はさらによく、礎石上にわたされた根太や柱間の木舞の痕跡も認められた。根太は約0.35m間隔でわたされている。

根太下から底面上にかけて、後世の攪乱部分を除いて貝敷が認められた。415埴列建物と同じく、掘方内の充填土が埴の側部に覆い被さるように盛られているため、掘方の内側範囲にのみ貝が敷かれる。

貝敷下には、径1～2cmの小礫が5cmの厚さで敷かれている。この小礫層もまた、防湿のために施されたのであろう。

これら貝層や小礫層が礎石を覆っていたことから、礎石の設置が先行する。礎石は、先述の415埴列



第32図 162埴列建物／床下状況・平面

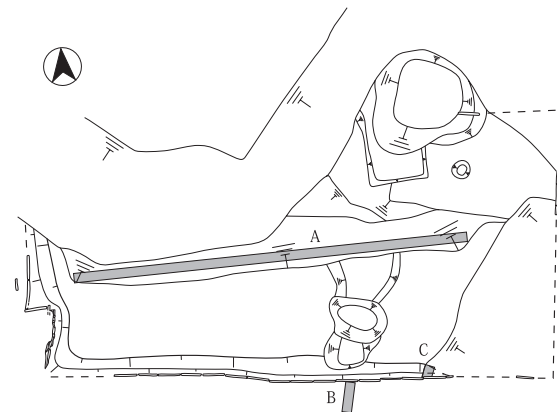
建物と同じく、塙列掘方の埋め土上に柱設置用の長径30cm程の大振りの礫を、内寄りには根太をわたすための長径15~20cmの小振りの礫を、それぞれ配している。

建物内に落ち込んだ焼土(3層)から、中国製染付・青磁・白磁・黒釉、ベトナム製長胴壺、備前(瓶・甕・播鉢)・信楽・丹波(播鉢)・肥前(鉢・碗・皿・向付・鉄絵鉢)の陶器、肥前磁器(染付碗・青磁碗・天目形碗)、土師質土器(甕・鍋・焼塩壺蓋・皿・羽釜)、瓦質土器(甕)、石製品(砥石・石臼)、鉄釘、銅銭など多種の遺物が出土した。今回の調査で検出された塙列建物の中では、遺物出土量が最も多い。これは、掘方底面が生活面より下がるという建物構造に起因している。

163塙列建物 (第34~36図) 〈F5-9-20B-3b〉 検出面で、床下に配された貝敷が既に露出していた。貝敷の残存状態は悪く、僅かに検出されたにすぎない。

南辺中央に0.1m突出した幅1.2m程の入口が設けられていた。塙列の掘方幅はおよそ0.5mで、広めである。掘方は、主として黄色系の砂質土で埋め戻され、そののち黄灰色砂質土を貼っている。塙は2段分が残っていたが、上段の塙は大半が欠失していた。

塙列掘方の埋め土の上に礎石が配されたのであろうが、現状では南東隅の1石が遺存しているにすぎない。長径30cmを測る。



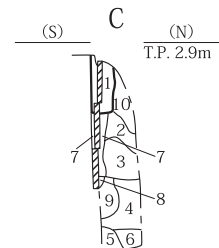
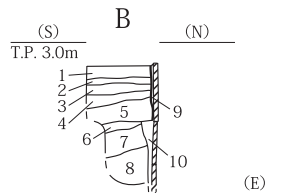
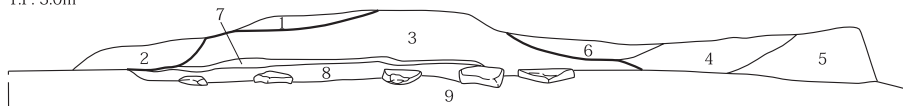
- A**
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質土 焼土層、焼瓦含む
 - 2 黒褐色(10YR3/2)砂質土 1層と同質土だが焼土多い
 - 3 黒褐色(10YR3/2)砂質土 炭化物・焼土・焼瓦多包、粘性・縮りややあり
 - 4 灰色(5Y6/1)砂質土 炭化物・焼土多包、貝含む、粘性欠く、縮りあり
 - 5 灰黄色(2.5Y7/2)砂質土 焼土・炭化物多包、小礫含む、貝・焼瓦多包、粘性欠く、縮りややあり
 - 6 浅黄色(2.5Y7/4)粘質土 粘性ややあり、縮りあり
 - 7 貝層
 - 8 礫層 径1cm程の礫、灰白色(10YR7/1)砂質土含む
 - 9 オリーブ色(5Y6/6)砂質土 黒褐色(10YR3/1)砂質土含む、粘性・縮りやや欠く
- 3: 建物内堆積土 7・8: 貼土 1・2・4~6: 再堆積土 9: ベース層

- B**
- 1 明黄褐色(10YR6/6)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、縮りあり
 - 2 にぶい黄褐色(10YR6/3)砂質土 灰白色(10YR8/1)砂質土含む、小礫多包、粘性欠く、縮りあり
 - 3 黄褐色(2.5Y5/6)砂質土 小礫含む、粘性欠く、縮りあり
 - 4 褐色(10YR4/6)砂質土 褐色(10YR5/1)砂質土ブロック含む、小礫多包、粘性欠く、縮りあり
 - 5 明黄褐色(10YR7/6)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、縮りややあり
 - 6 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土 焼土・炭化物多包、粘性欠く、縮りややあり
 - 7 にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、縮りあり
 - 8 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 粘性・縮りやや欠く
 - 9 にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、粘性欠く、縮りややあり
 - 10 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土 粘性・縮りやや欠く
- 9: 162建物塙列掘方 10: 414建物塙列掘方 1~8: ベース層

- C**
- 1 にぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土 焼土・炭化物若干含む、粘性やや欠く、縮りややあり
 - 2 黄褐色(10YR5/6)砂質土 小礫含む、粘性欠く、縮りあり
 - 3 褐色(10YR4/1)砂質土 黄褐色(2.5Y5/6)砂質土含む、焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり、縮りやや欠く
 - 4 褐色(10YR4/1)砂質土 焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり、縮りやや欠く
 - 5 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 粘性・縮りやや欠く
 - 6 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 小礫含む、粘性・縮りやや欠く
 - 7 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土 黒褐色(2.5Y3/2)粘質土ブロック・小礫含む、焼土・炭化物僅か含む、粘性・縮りやや欠く
 - 8 褐色(10YR4/1)砂質土 粘性・縮りやや欠く
 - 9 褐色(10YR4/1)砂質土 暗褐色(10YR3/4)砂質土・小礫含む、粘性欠く、縮りあり
 - 10 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土 焼土・炭化物・貝・焼瓦含む、粘性欠く、縮りややあり
- 1: 162建物塙列掘方 7・8: 414建物塙列掘方 2~6・9・10: ベース層



(W) T.P. 3.0m



第33図 162塙列建物/土層

南辺の外には、塼と接するように置かれた礫2石が認められた。恐らく外方から塼を押さえた置石であろう。

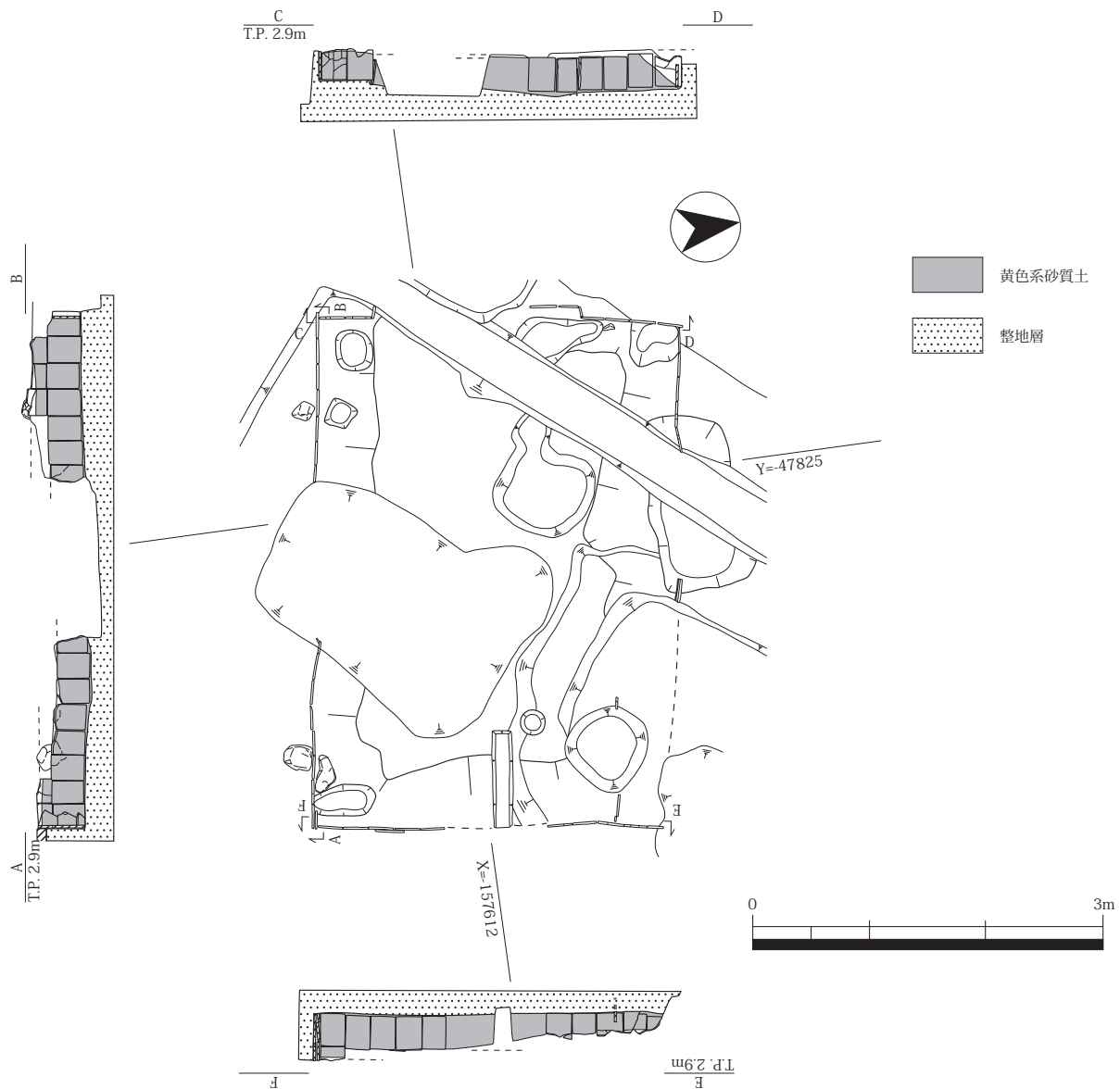
建物底面上に残る焼土を中心に、堆積土内からは中国製染付・青磁・白磁、備前陶器、土師質土器などが出土した。多くが小破片で、出土点数も少ない。

299礎石建物（第35図）〈F5-9-20B-3b〉 163塼列建物の東奥にほぼ接して建てられた礎石建物である。南北2.0m、東西1.8mの1間四方の建物で、北東の礎石を欠失している。

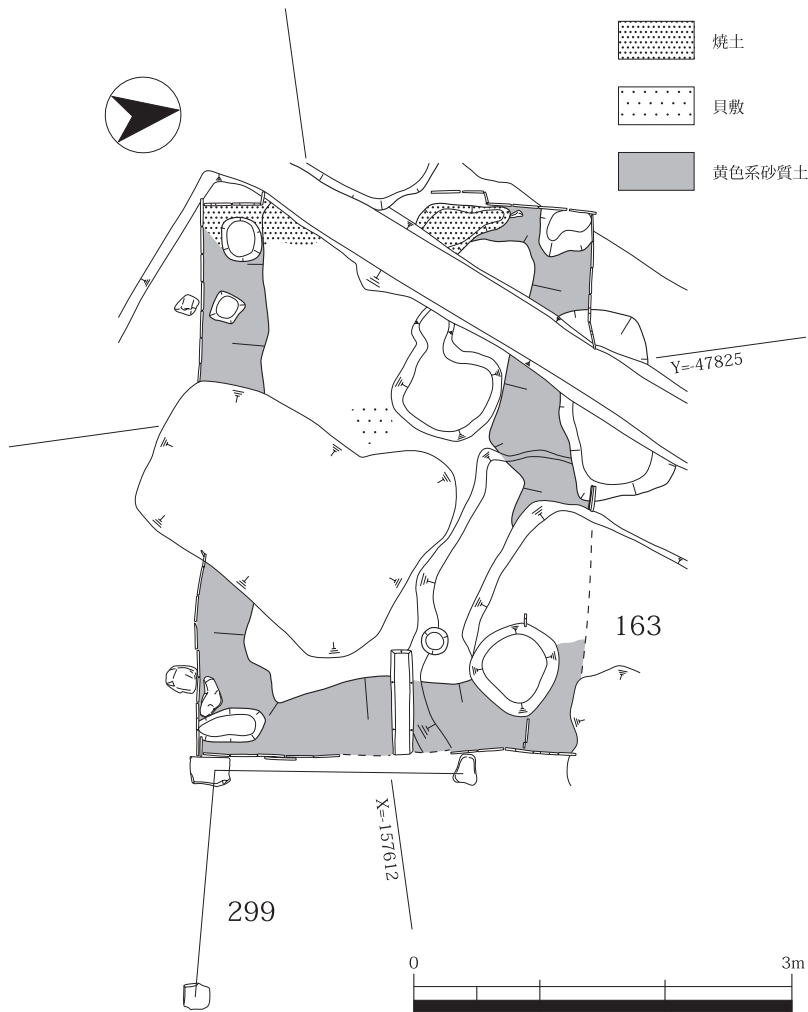
163塼列建物とは南辺を揃え、さらにその南には通路が東西に延び、この礎石建物の東端で終わっている。このことから、163塼列建物・299礎石建物・通路は一体的なものであったといえる。なお通路の東端に塼を埋め込み、区切りとしている。

礎石は長径20～30cmで、その上面には柱に使用された1辺8cm程の角材の痕跡が残っている。

165塼列建物（第37・38図）〈F5-9-20B-1b〉 遺存状態が悪く、2段あった塼のうち下段の塼も大半が上辺を削り取られていた。とはいえ、平面規模および入口の構造を捉えることはできた。



第34図 163塼列建物／平面



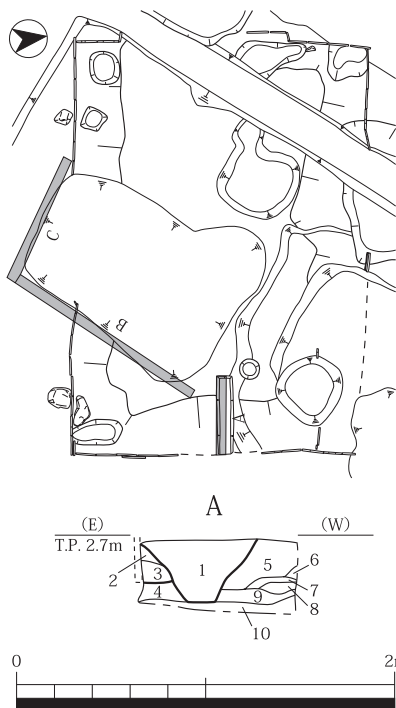
第35図 163罫列建物／床下状況

規模は、南北3.2m、東西3.5mを測り、平面は正方形に近い。こうした平面形態の罫列建物は、今回の調査で見つかった中では唯一である。また南辺中央に設けられた入口は、両側の罫を内傾させて埋置している。

この形状のゆがみは、上部構造で解消されたのであろう。

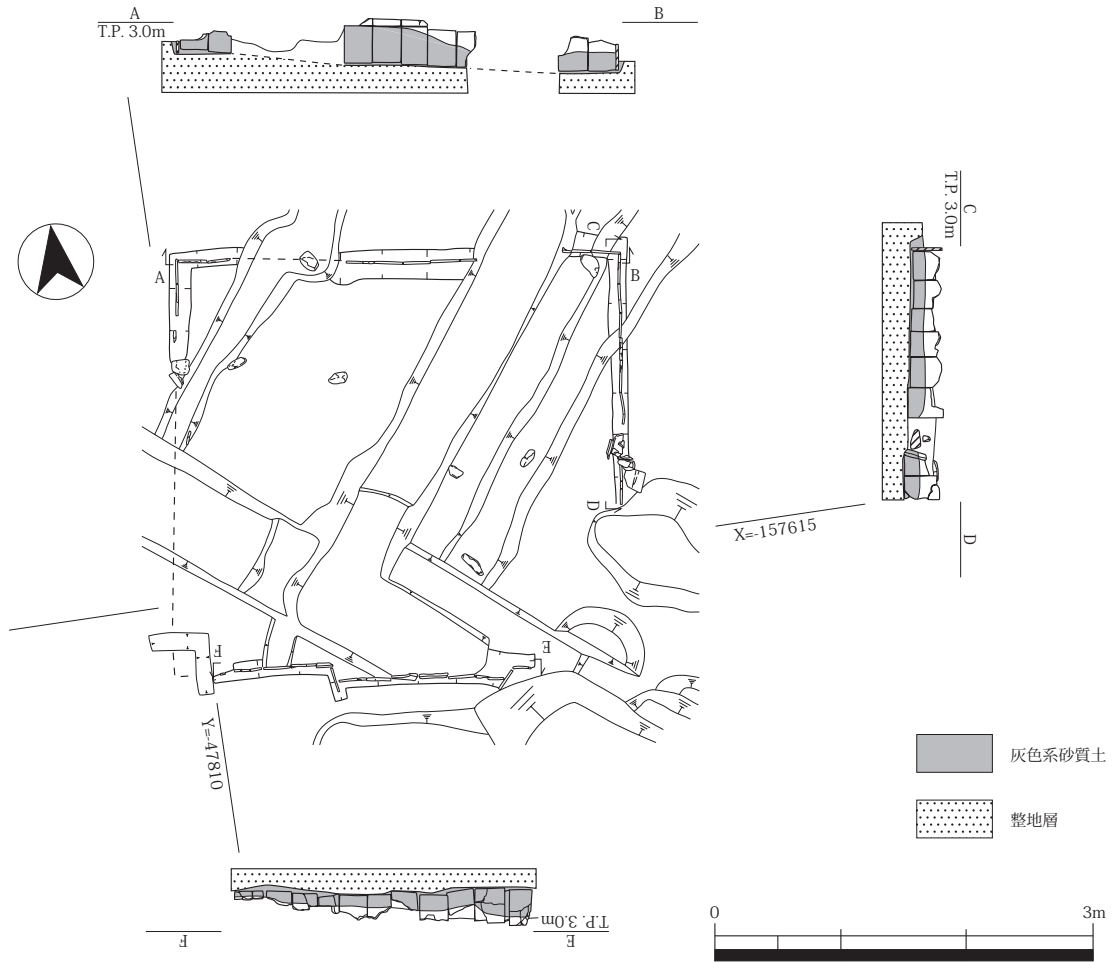
南辺に入口を設けた建物は、この165罫列建物以外に、第4面では166罫列建物、第5面では418・419罫列建物がある。検出面は異なるが、いずれも調査地中央に位置している。南を向く入口方向は、この付近の地割と深く関わっている。

罫列の掘方幅は0.5mであり、第5面の419罫列建物と同じく広めである。その掘方内の埋め土は灰色系の砂（粘）質土で、締りがある。掘方は、内寄

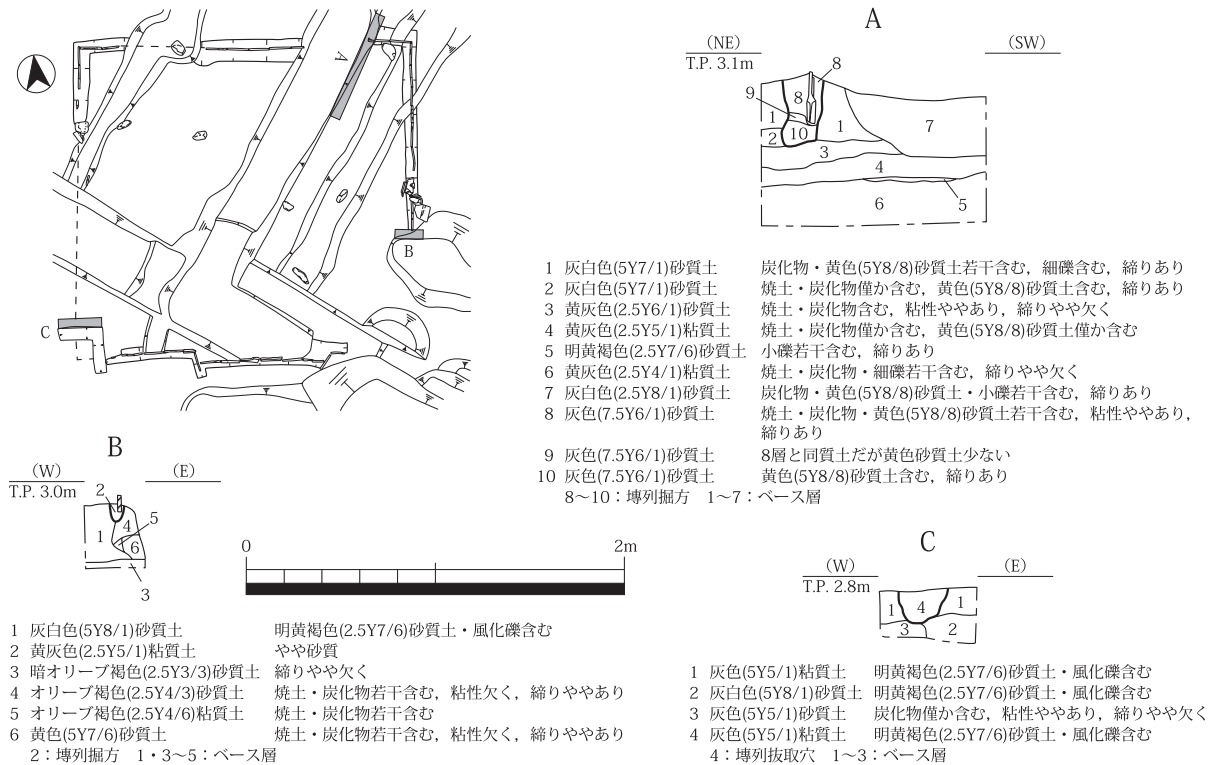


- | | | |
|---|----------------------|---|
| A | 1 明黄褐色(10YR6/6)砂質土 | 灰白色(2.5Y8/2)砂質土・暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土含む、風化礫多包 |
| | 2 にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土 | 炭化物僅か含む、小礫多包、粘性欠く、締りやや欠く |
| | 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 | 炭化物僅か含む、明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土若干含む、締りあり、 |
| | 4 黄褐色(2.5Y5/6)粘質土 | 炭化物若干・暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土若干含む、締りあり、粘性あり |
| | 5 黄褐色(2.5Y5/6)粘質土 | 粘性・締りややあり |
| | 6 黒褐色(7.5YR3/2)粘質土 | 焼土・炭化物多包、粘性・締りあり |
| | 7 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土 | 締りあり、粘性ややあり |
| | 8 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 | 貝殻多包、粘性・締りあり |
| | 9 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 | 焼土僅か含む、黄褐色(2.5Y5/4)粘質土含む、粘性・締りあり |
| | 10 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土 | 焼土・炭化物若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く |
| | 1: 罫列掘方 2~10: ベース層 | |
| B | 1 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 焼土・炭化物・焼瓦若干含む、黄灰色(2.5Y6/1)砂質土僅か含む、粘性欠く |
| | 2 黒褐色(5YR3/1)焼土 | 焼土・炭化物多包、焼瓦僅か含む、粘性・締り欠く |
| C | 3 明黄褐色(10YR6/6)粘質土 | 焼土・炭化物若干含む、暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土・拳大礫僅か含む |
| | 4 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む、貝殻含む、粘性ややあり、締りあり |
| | 5 浅黄色(2.5Y7/4)砂礫層 | 炭化物僅か含む、砂・小礫含む、粘性欠く、締りあり |
| | 6 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 | 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土僅か含む、粘性欠く、締りあり |
| | 7 灰色(5Y5/1)砂質土 | 粘性欠く、締りあり、上部炭層 |
| | 8 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土僅か含む、粘性欠く、締りあり |
| | 9 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む、小礫若干含む、粘性・締りやや欠く |
| | 10 明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土 | 炭化物僅か含む、灰黄色(2.5Y6/2)砂質土若干含む、粘性欠く、締りあり |
| | 11 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土 | 焼土・炭化物・黄褐色(10YR5/6)粘質土・オリーブ黄色(5Y6/3)粘質土含む |
| | 12 にぶい褐色(7.5YR6/3)焼土 | 焼土多包、炭化物僅か含む、粘性欠く、締りややあり |
| | 13 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土 | 焼土・炭化物僅か含む、細礫・明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土若干含む |
| | 14 浅黄色(2.5Y7/4)砂礫層 | 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土僅か含む、砂・小礫含む、粘性欠く、締りあり |
| | 15 浅黄色(2.5Y7/4)粘質土 | 炭化物僅か含む、粘性欠く、締りあり |
| | 5・6・9・13~15: 罫列掘方 | 8: 貼土 1~4・8・10・11ベース層 7・12再堆積土 |

第36図 163罫列建物／土層



第37図 165号建物の平面



第38図 165号建物の土層

りを傾斜させ、外側の壁際をほぼ垂直に掘り下げている。

掘方底への削平が著しいため、現状では貝敷は認められなかった。また建物の礎石らしい礫が点在しているが、本来の位置を保ったものはない。

遺物の出土点数は極めて乏しいが、備前（甕）・丹波（あるいは信楽）の陶器、土師質土器甕・羽釜などの小破片が認められた。

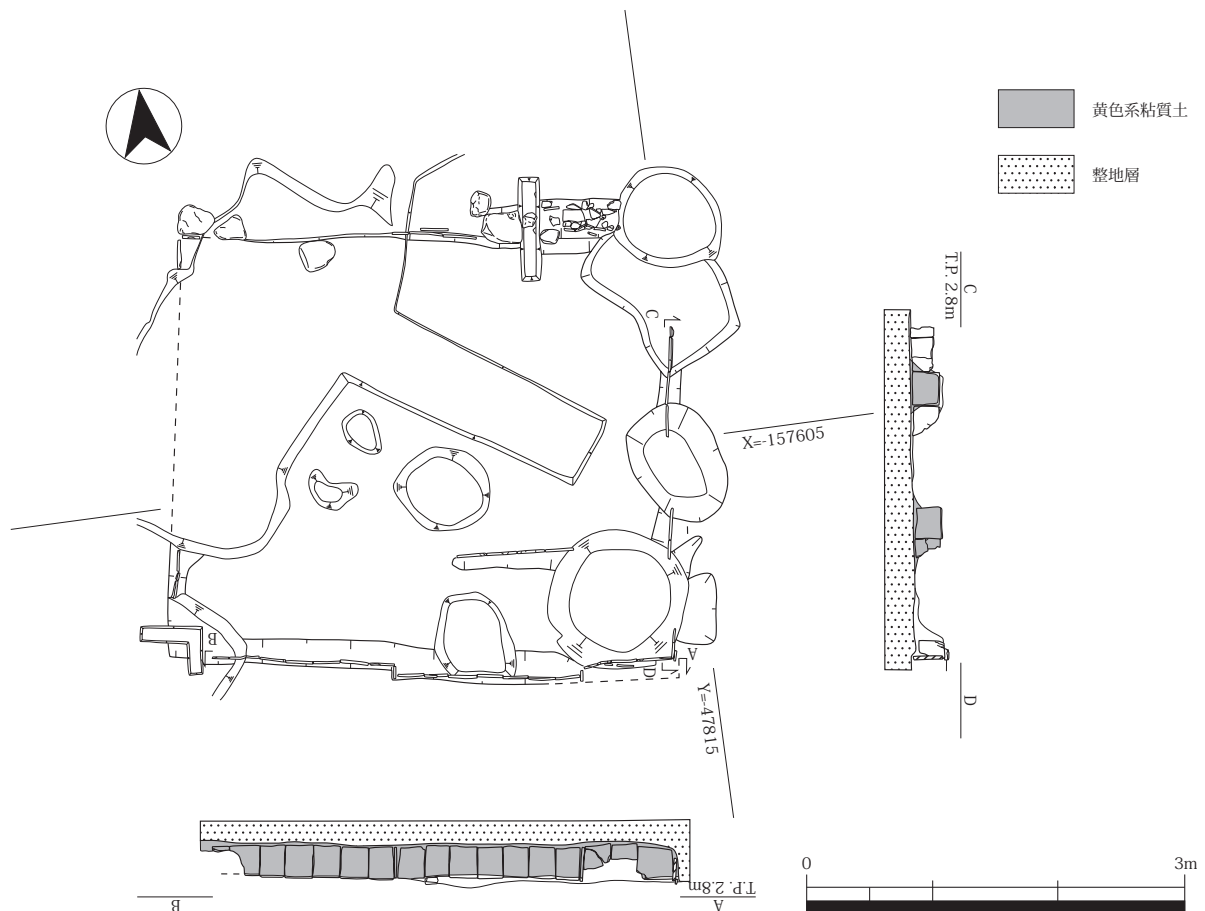
166埴列建物（第39～41図）〈F5-9-20B-2a〉 西辺の大半を欠失していて、そこでは僅かに3枚の埴が残っているにすぎないが、全体の形状はほぼ捉えることができた。南北3.3m、東西4.0mを測り、165埴列建物ほどではないが、正方形気味の形状を呈している。南辺中央に、0.1m程突出した幅1.5mの入口が設けられている。

埴列の掘方は幅0.2m程で、黄色系粘質土で埋め戻している。埴は現状で1段分を確認した。この埋め土を覆うように、浅黄色砂質土が貼られている。

掘方底への攪乱が著しく、そのため現状では貝敷は認められない。また礎石も、北辺でその可能性のある長径20cmの礫1石が検出されたのみである。攪乱を受けた範囲にあるので確実に礎石とはいえない。しかし礫の上面と埴の上辺とは同じ高さで、その高さが建物の底面に当たることから、礎石とみられるのである。また埴列北辺外側に沿って、置石が配されていた。

焼土などの建物内堆積土から、中国製染付、備前（播鉢・甕）・瀬戸美濃（天目碗）の陶器、土師質土器などが出土した。しかしその点数は少なく、またほとんどが小破片であった。

なお北東隅に埴列の抜取穴があり、埴の破片のほか礎石とみられる礫が投棄されていた。また建物内



第39図 166埴列建物／平面

の南寄り、南辺から北0.9mの位置に、東西に4枚並んだ埴列が検出された。埴は1段分だけ埋置されていた。この埴列が建物当初の南辺に当たり、南へ規模を拡張した可能性も考えた。しかし、埴が西方に続かないことから、整地に伴う土留めのために埋め込まれたと考える。

300礎石建物 (第42図)

〈F5-9-20B-1a〉

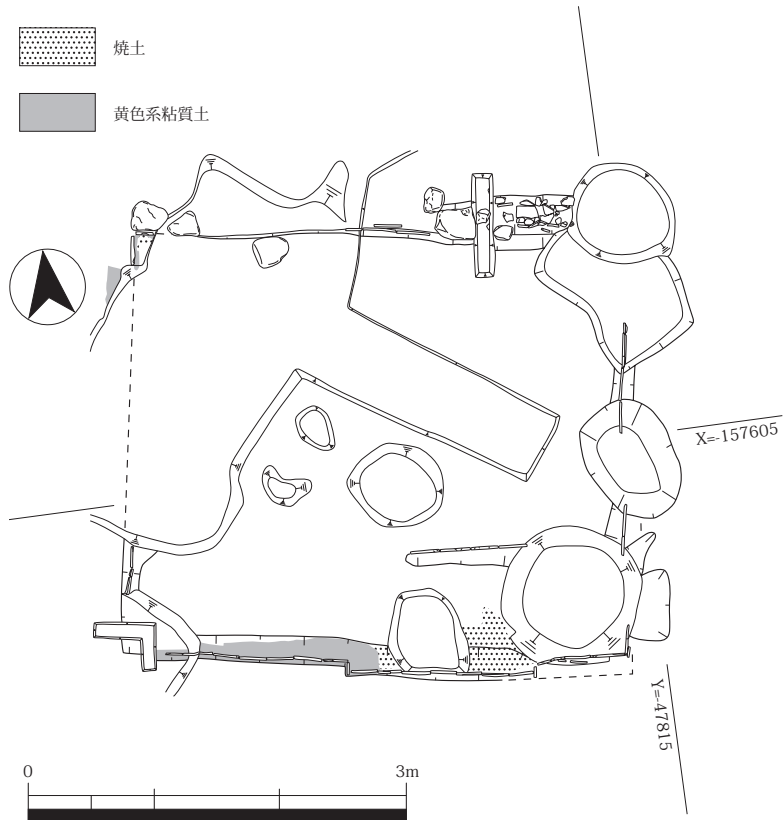
南北2.5m、東西2mの範囲で礎石が検出された。東西は0.9m間隔で礎石が並ぶ。現状部分での礎石の遺存状況はよい。

一方、南北方向は幾分不規則であるが、およそ1m間隔を基準としているようである。

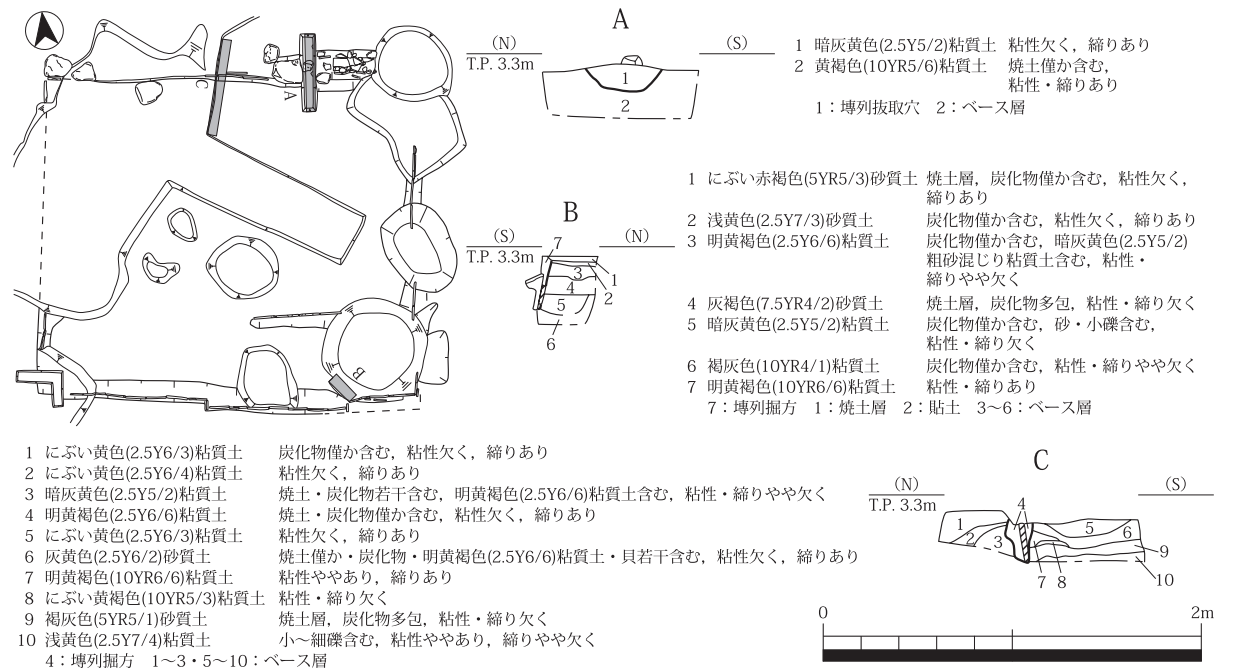
現状からすると、建物の桁行は南北方向とみられる。

礎石の大きさは長径15~20cm程で、やや小振りな礫を使用している。礎石上面には、柱材の痕跡は見当たらなかった。

302礎石建物 (第43図) 〈F5-9-20B-1c・1d〉 南北4m、東西3mの範囲で礎石が検出された。礎石の欠失が著しいが、残存する礎石から推測すると、およそ0.7m間隔で礎石が配されていた



第40図 166埴列建物/床下状況



第41図 166埴列建物/土層

ようである。

礎石には大小あり、大振りのものは長径35～50cm程、小振りのものは長径20cm程である。南辺では大小の礎石が交互に配されている。

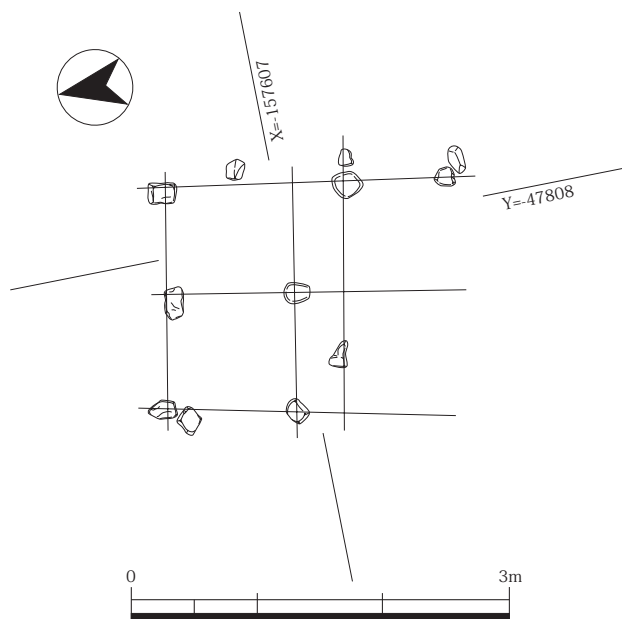
また大振りの3石の上面には、柱材の痕跡が認められた。それからすると、この建物では1辺約11cmの角柱が使用されていたとみられる。

279土坑（第44図）〈F5-9-20B-3b〉

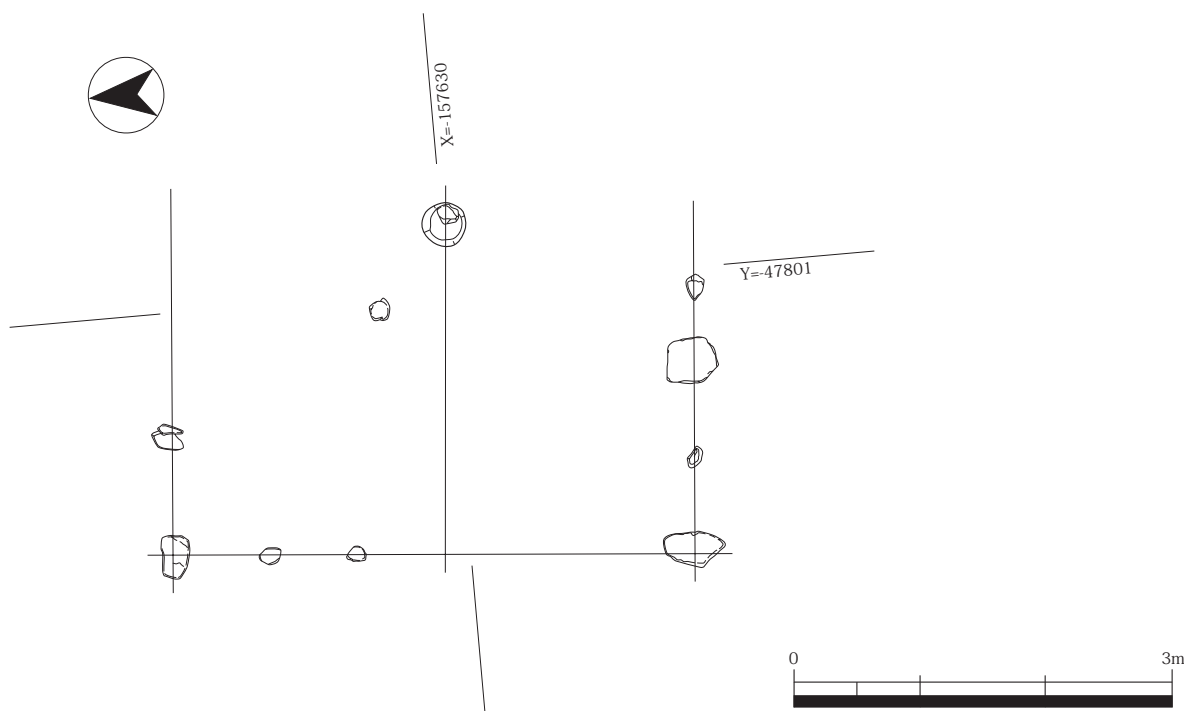
299礎石建物の北半と重複する位置に掘削された土坑である。西部分は、163埴列建物の東辺に合わせて掘削が止められている。また北および東部分も、299礎石建物の範囲に合わせたかのように掘削されている。

深さは0.9mを測る。壁面の立ち上りは垂直に近い。覆土は、オリーブ褐色砂質土の間層を挟んで上下に分かれ、下層はにぶい褐色砂質土、上層は灰黄褐色砂質土で、両層ともに焼土と炭化物が多包されていた。しかも上層からは焼けた瓦の破片が大量に出土し、また下層では163埴列建物の東辺から崩れ落ちた状態の埴が複数枚検出された。こうした状況から、火災に遭った163埴列建物や299礎石建物の廃棄物を処理するために形成された廃棄土坑であり、主に前者の建物の片付けに伴うと考えられる。

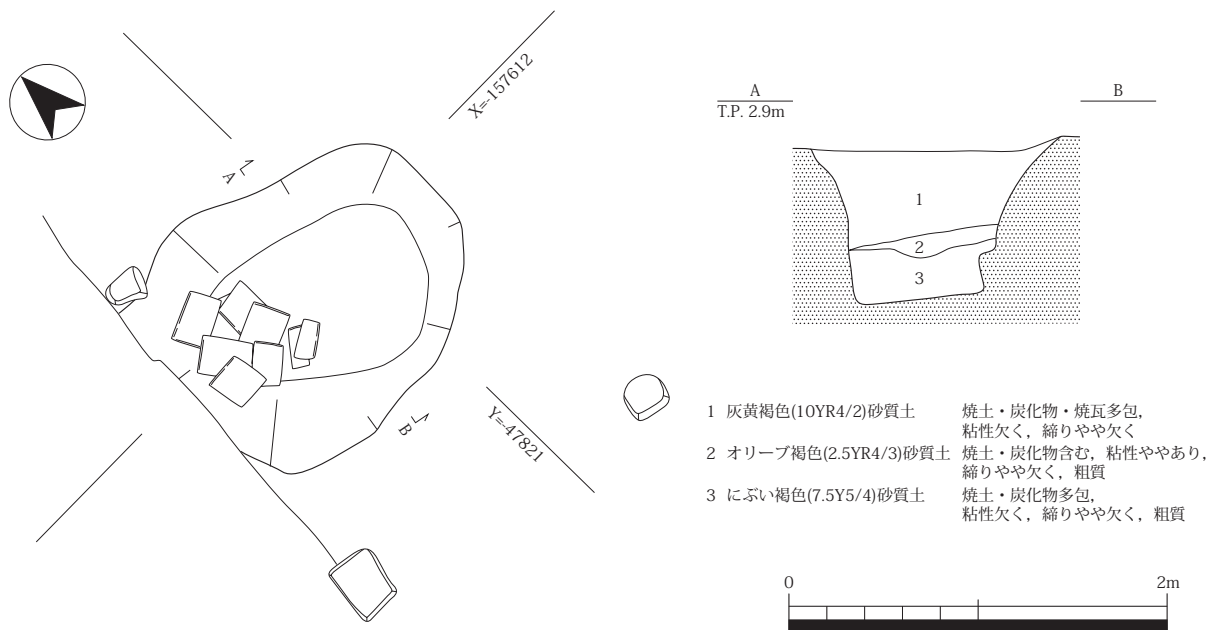
土坑内からは、焼瓦や埴あるいは壁土のほか、備前（甕・播鉢）・志野（皿）・信楽（壺）・伊賀・肥前の陶器、土師質土器、瓦質土器など多種の遺物が出土した。これらは本来、埴列建物あるいは礎石建物内で保有されていたものであろう。しかし、出土遺物の多くは小破片であり、被災したものを意図的



第42図 300礎石建物



第43図 302礎石建物



第44図 279土坑

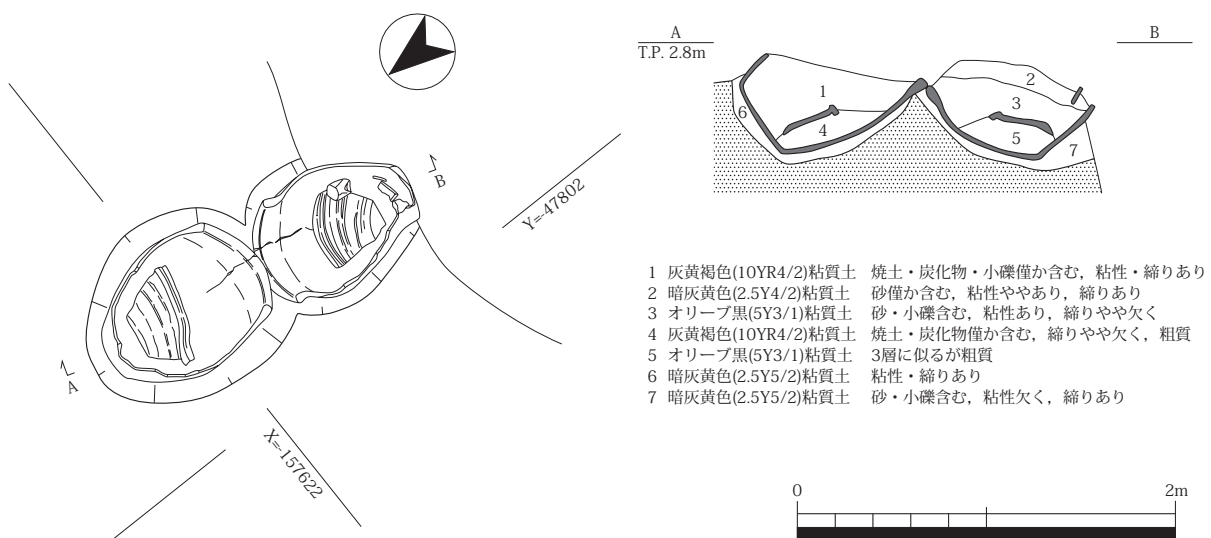
に廃棄したというよりも、覆土中に混入したような状況であった。とすればこの廃棄土坑は、被災した家屋の廃材を片付けることが目的であったと考えられる。

(5) 第3面

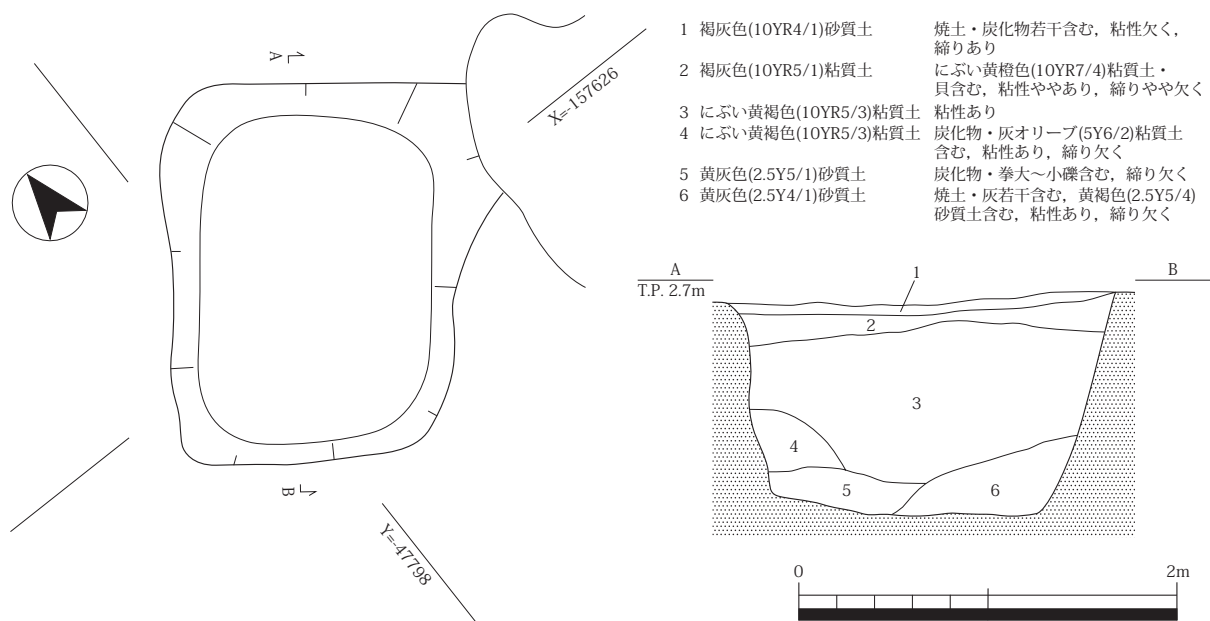
207合甕 (第45図) 〈F 5 - 9 - 20B - 1c〉 在地製土師質土器甕 2 個体を、それぞれ口縁部を合わせつつ、上方が若干開口するように傾斜させて埋置した遺構である。南北方向に直線的に並ぶ。

掘方は、それぞれの甕を埋置できる最小の規模で設けられている。また掘方内の6・7層には、甕内の覆土にみられる焼土や炭化物が含まれていない。それらは、甕を安定させる目的で意図的に掘方内に充填された粘質土である。

ところで検出時には、上半部が胴部中程から口縁部にかけて欠失していた。したがって本来は検出面よりも高い位置まで口縁部が伸び出していたことになる。とすれば、甕を覆うような盛土がなされていた可能性も捨て切れない。



第45図 207合甕



第46図 192土坑

両甕の内部には、4分の1の大きさに縦割りした備前播鉢の破片が、甕と口縁部方向を合わせて各々伏せ置かれていた。甕・播鉢ともに対称になるように意識して配されているのである。

播鉢片の下には堆積土（4・5層）が存在するが、上に堆積した土（1～3層）と大差はなかった。よって、4・5層も自然流入したものとみられる。なおいずれの堆積土についても水洗を行なったが、陶磁器や土師質土器・瓦質土器の小破片以外には何も検出されなかった。

甕や播鉢破片の設置状況は明らかに意図的であるが、機能・目的については不明である。

192土坑（第46図）〈F 5 - 9 - 19B - 10c〉 深さ1.3m程を測る土坑である。覆土の大部分を占める3層には瓦の破片が多包されていた。また最下部の5層には、拳大の礫が多量に廃棄されていた。焼土や炭化物は顕著には認められないが、瓦の多量廃棄から、家屋の片付けに伴う廃棄土坑と考える。

瓦以外には、中国製染付、備前（甕・播鉢）・丹波（播鉢）・肥前の陶器、肥前磁器、土師質土器、瓦質土器、竈石、砥石なども出土している。ただ、コンテナ40箱に及ぶ出土遺物の大半は瓦である。

土坑の北東辺は、第2面で捉えた屋敷地の整地土境と一致している。よって、この土坑は屋敷地の北辺に沿って設けられたものである。

(6) 第2面

683礎石建物（第47図）〈F 5 - 9 - 19B - 10b・10c〉 南北3m、東西5mの範囲で礎石が検出された。攪乱や別遺構との重複のため、礎石の幾つかは欠失している。ただ、南西方にある684礎石建物と類似した礎石配列であり、近似した建物構造であったと推測される。

礎石の大きさは長径25～50cmと不揃いであるが、大振りの礎石がやや多い。また、礎石上面に柱痕跡の認められるものはなかった。

現状の南辺で、118土坑と重複している。先後関係を決める直接の根拠はないが、後述する684礎石建物が136土坑と重複関係にあり、建物が後出していることから、この683礎石建物も118土坑の廃棄後に構築された可能性が考えられる。

684礎石建物（第48図）〈F 5 - 9 - 19B - 10c・20B - 1d〉 南北9m、東西5mの範囲で礎石が

検出された。北東－南西方向に桁行をとる。

調査地西壁の側溝際に、北東－南西方向におよそ1.5m間隔で礎石が直列している。この礎石の並びの北西約1mと4.5mの位置にも、平行する礎石列が認められる。ただ礎石は、必ずしも揃った位置にはなく、若干不揃いな配置である。まとめ置きされた、礎石とみられる礫もあり、廃絶後に多少動かされた礎石があったのかも知れない。また礎石の抜取穴とみられる小穴も存在する。

この礎石建物は、礎石の一部が136土坑の覆土上に位置することから、土坑埋没後に構築されたものである。土坑は17世紀末～18世紀前葉に年代比定されるので、建物は18世紀前半代頃のものであろう。

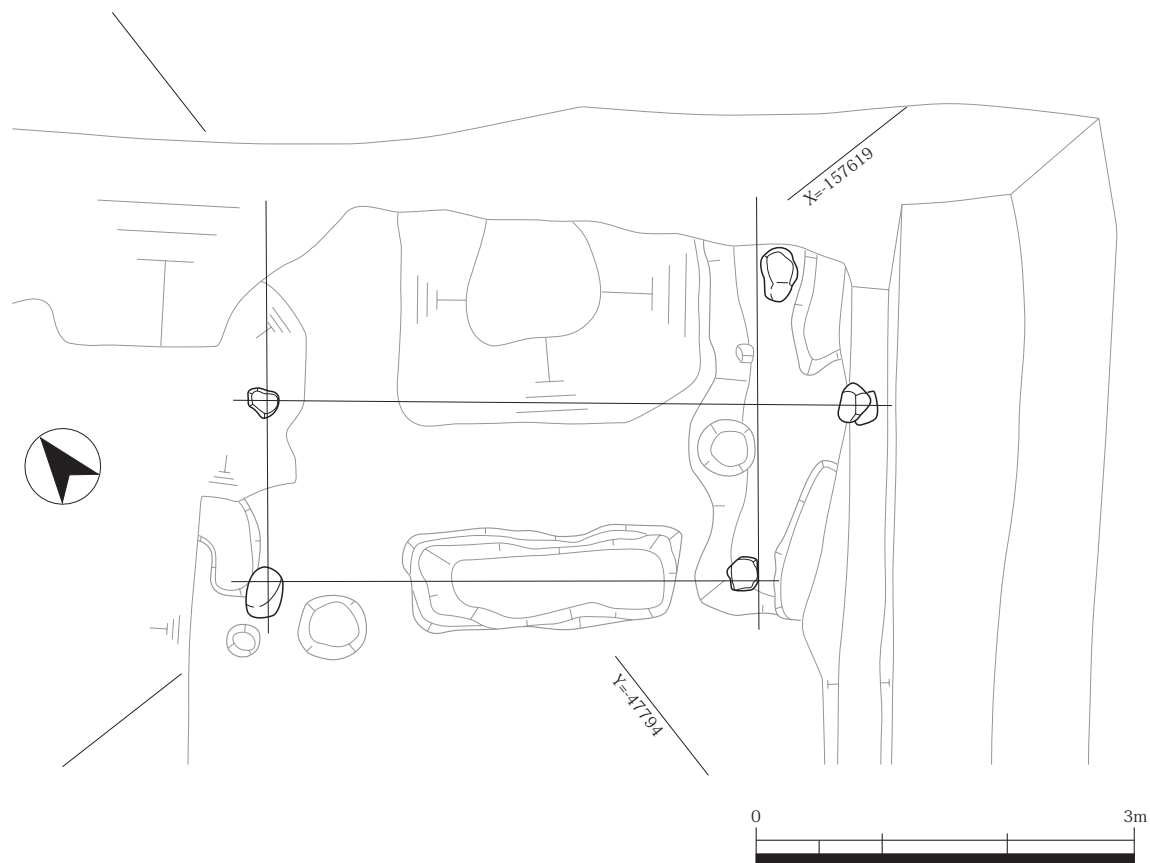
礎石はいずれも小振りで、長径25～35cmである。また礎石上面には、柱の痕跡は認められなかった。

122土坑（第49図）〈F5-9-19B-10c〉 家屋の廃材を片付けるための廃棄土坑である。検出面は第2面だが、本来は第1面の時期に形成されたものである。第1面で検出できなかったのは、067・068・069・070土坑が上部に重複していて、この遺構の輪郭を捉えることができなかったためである。

第1面の070土坑は、この土坑の南東辺に沿うように位置している。一部で重複しているので122土坑が先行するが、しかしほぼ平行する状況から、両土坑は近似した時期に形成されたとみられる。この点は、出土遺物の年代相からも裏付けられる。

覆土は上下に2分されるが、下層の暗灰黄色砂質土が大半を占める。この層には若干程度の焼土や炭化物は含まれているが、顕著な存在ではない。よって、火災に伴う片付けではなかったと考えられる。

暗灰黄色砂質土（2層）から中国製青磁、ベトナム製染付鉢、国産の陶器（堺、京焼系、瀬戸美濃、肥前）、肥前磁器、土師質土器、瓦質土器、石製品、鉄・銅製品など多種のものが数多く出土している。さらに壁材とみられる漆喰の破片や瓦片も多包されている。



第47図 683礎石建物

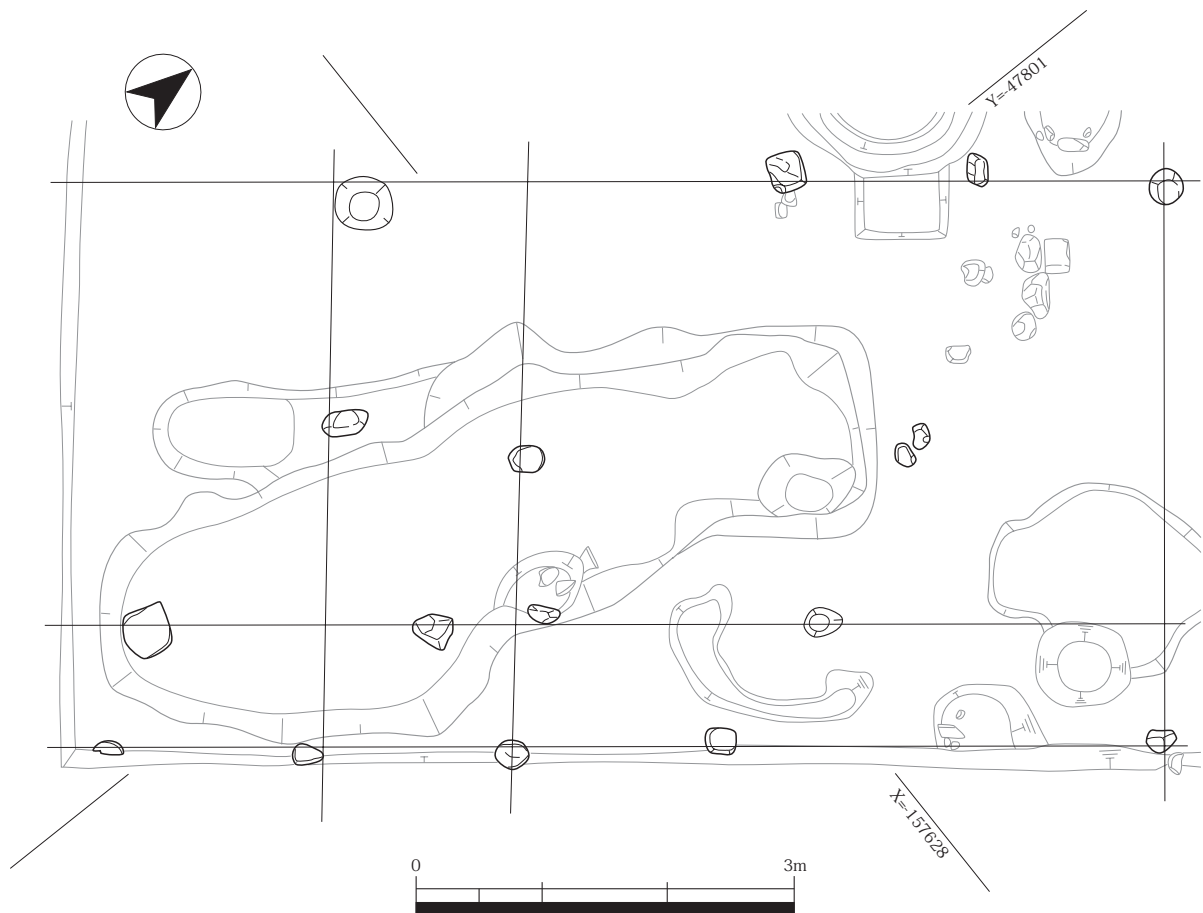
133土坑（第50図）〈F5-9-19B-10c〉 現状の深さは約0.2mと浅めであり、また長径も1.9mにすぎないため廃棄土坑とは呼びがたいが、覆土の大半を占める灰白色砂質土（1層）から拳大以上の大きさの礫とともに下記のような比較的多種の遺物が出土していて、廃棄物の処理用に形成された土坑である可能性は捨て切れない。なおこの土坑の覆土にも、焼土・炭化物は若干程度認められるが、多包された状況ではなかった。よって火災の片付けに伴うものではない。

出土遺物は、備前（甕・鉢）・肥前（碗・鉢）の陶器、肥前磁器（碗・皿・瓶・油壺・水滴）、土師質土器（甕・鍋・灯明受皿・皿）、瓦質土器（火鉢）、瓦などがあり、日用品が中心である。ところが、それらに混じって中国製の五彩皿と華南三彩盤が出土した。中国製染付の盛行時期は過ぎているが、それ以外の貿易陶磁器が含まれている点は注目される。

136・137土坑（第51・52図）〈F5-9-19B-10c・20B-1d〉 重複関係にある2基の廃棄土坑である。先行する137土坑は、検出面から最大1.0mの深さを測る。長さは、推定5.6mである。しかし段掘りされていて、深さのある部分の長さは3.5m程とみられる。

137土坑内には灰が多量に廃棄され、また瓦片も多く出土した。瓦以外には備前（甕・播鉢）・瀬戸美濃（壺・碗・香炉）・丹波（播鉢）・肥前（碗・鉢）の陶器、肥前磁器（碗・皿・杯・瓶）、土師質土器（甕・皿・焙烙・火鉢・十能）、瓦質土器、石製品（石臼・硯・砥石）などの日用品が多く含まれていた。さらに、中国製染付皿、朝鮮王朝製白磁、ベトナム製長胴壺も出土した。

136土坑は、137土坑に覆い被さるように掘削されている。長さ6.3m、幅2.3mを測り、今回の調査で検出された廃棄土坑のなかでは最大規模である。



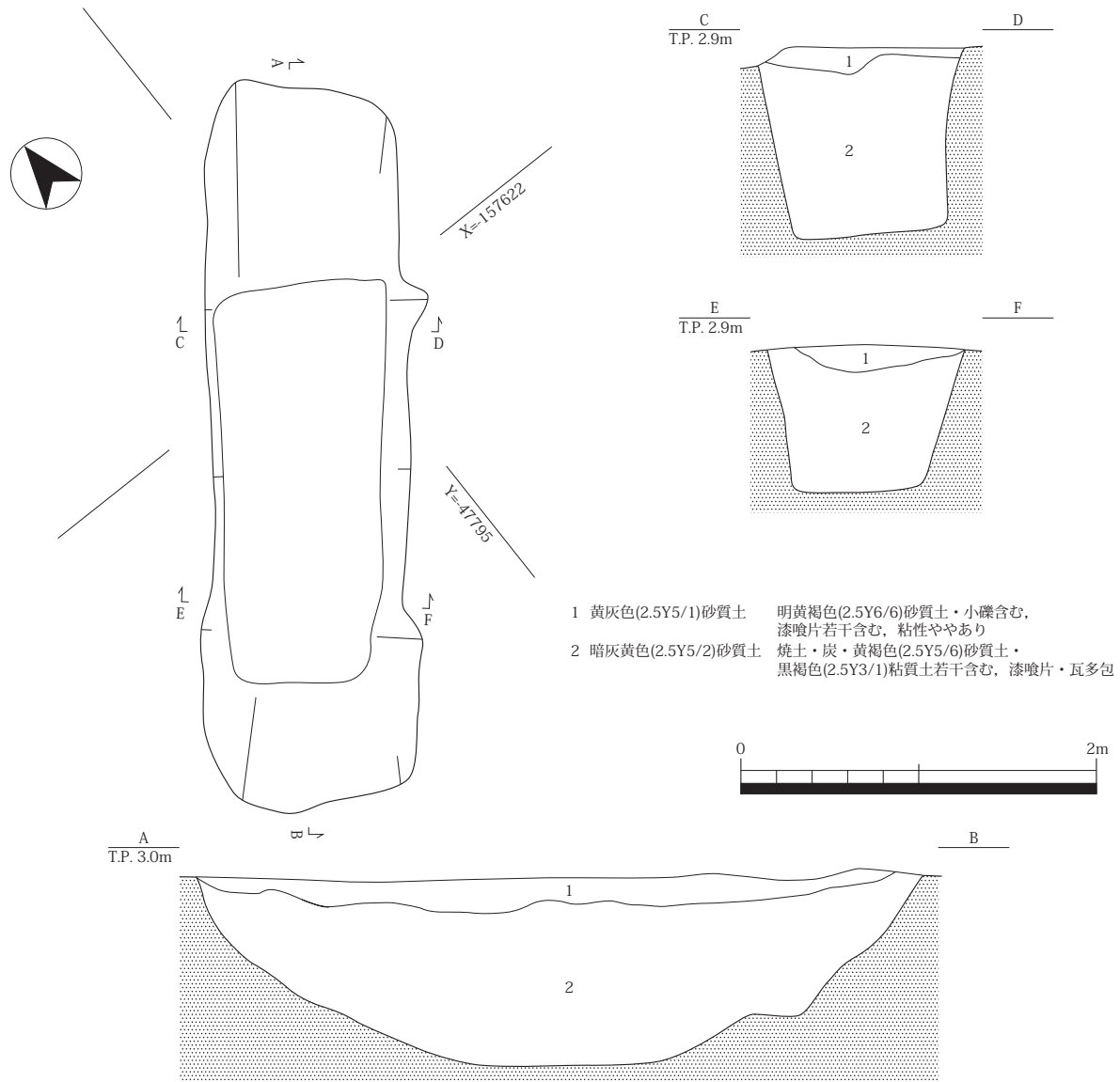
第48図 684礎石建物

覆土内には焼土や炭化物は含まれるが、137土坑のように灰が充満した状況は認められない。その一方で、137土坑に比べてより多くの瓦片が廃棄されていた。

覆土中から瓦と共に、堺（播鉢）・備前（甕・播鉢）・京焼系（土鍋・土瓶）・瀬戸美濃（壺・茶入・碗）・丹波（播鉢）・肥前（碗・鉢）の陶器、肥前磁器（碗・皿・瓶、青磁）、土師質土器（甕・皿・焙烙・火鉢・焼塩壺）、瓦質土器（羽釜）など日用品が多く出土した。さらに、中国製の色絵皿や清朝三彩皿、ベトナム製焼締壺が含まれていた。

136土坑と137土坑とは先後関係があり、しかも前者は瓦片が、後者は灰が多量投棄されるという点も異なる。しかし両土坑からは中国製染付以外の南中国・東南アジア製の貿易陶磁器が共通して出土し、また廃棄された日用品類も類似していることから、同一の屋敷から廃棄されたと考えられる。

ところで両土坑からは、土師質土器皿が多量に出土した。ほとんどが灯火具とみられるが、その多さは通常の家で使用する量をはるかに超えている。屋敷の生業と関連するのかも知れないが、具体的な内容は不詳である。ただ、五彩皿と華南三彩盤が出土した133土坑も含め、これらの土坑を形成した屋敷地所有者像の一端が廃棄遺物に現れているといえよう。



第49図 122土坑

118土坑（第53図）〈F5-9-19B-10c〉 長さ2.2m、幅0.8mの方形の掘方内に木枠を納めた土坑である。木枠は腐蝕し、粘土化していたが、土坑の壁際にその痕跡が認められた。木枠の内法は長さ1.9m、幅0.5m程度である。高さは、現状で0.15m程にすぎない。底板の有無については判然としないが、痕跡はまったく認められない。

覆土中の3・6層に灰が多包されていた。したがって木枠内には灰が充填されていたのであろう。覆土内からは陶磁器や土師質土器、瓦が出土したが、いずれも小破片であり、しかも点数も少ないことから、混入したものと考えられる。

これに対して、灰に混じって出土した多量の貝は、その多さから、偶然の混入とは認めがたい。灰と何らかの関連があるのだろう。ともかくも、灰を意図的に納めた土坑といえる。

121溝（第54図）〈F5-9-19B-10b・10c〉 断面「U」字形の瓦質材を直列に組み、肩部を擁護するために丸瓦を伏せ並べた排水溝である。長さ4.2mにわたって検出された。

瓦質材（第128図752）は長さ35cm。上幅は、噛合せるために広狭差をつけ、受部側が25cm、挿入部側が21cmである。底面幅は15cm、高さは13cmで、前後に凹凸部を設けることで接合が強固になる。なお目地に漆喰などが充填されることはなかった。

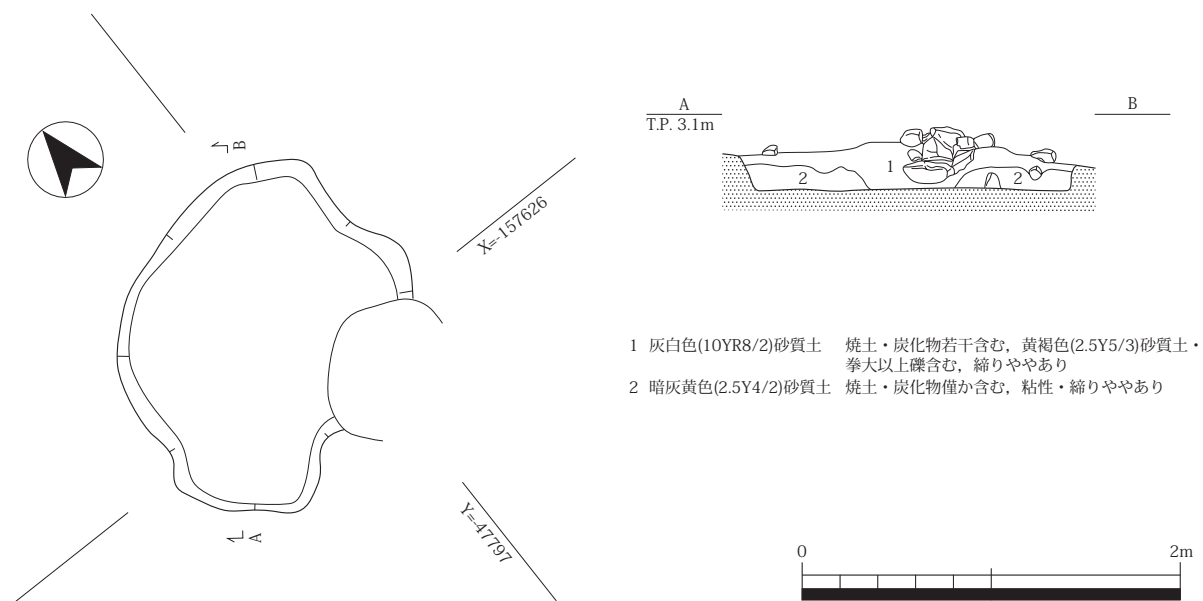
溝は本来、1.1mの幅であったが、それを埋め戻したのち、幅0.5mの掘方を改めて設け、瓦質材を埋め込み、そして丸瓦を並べたのである。

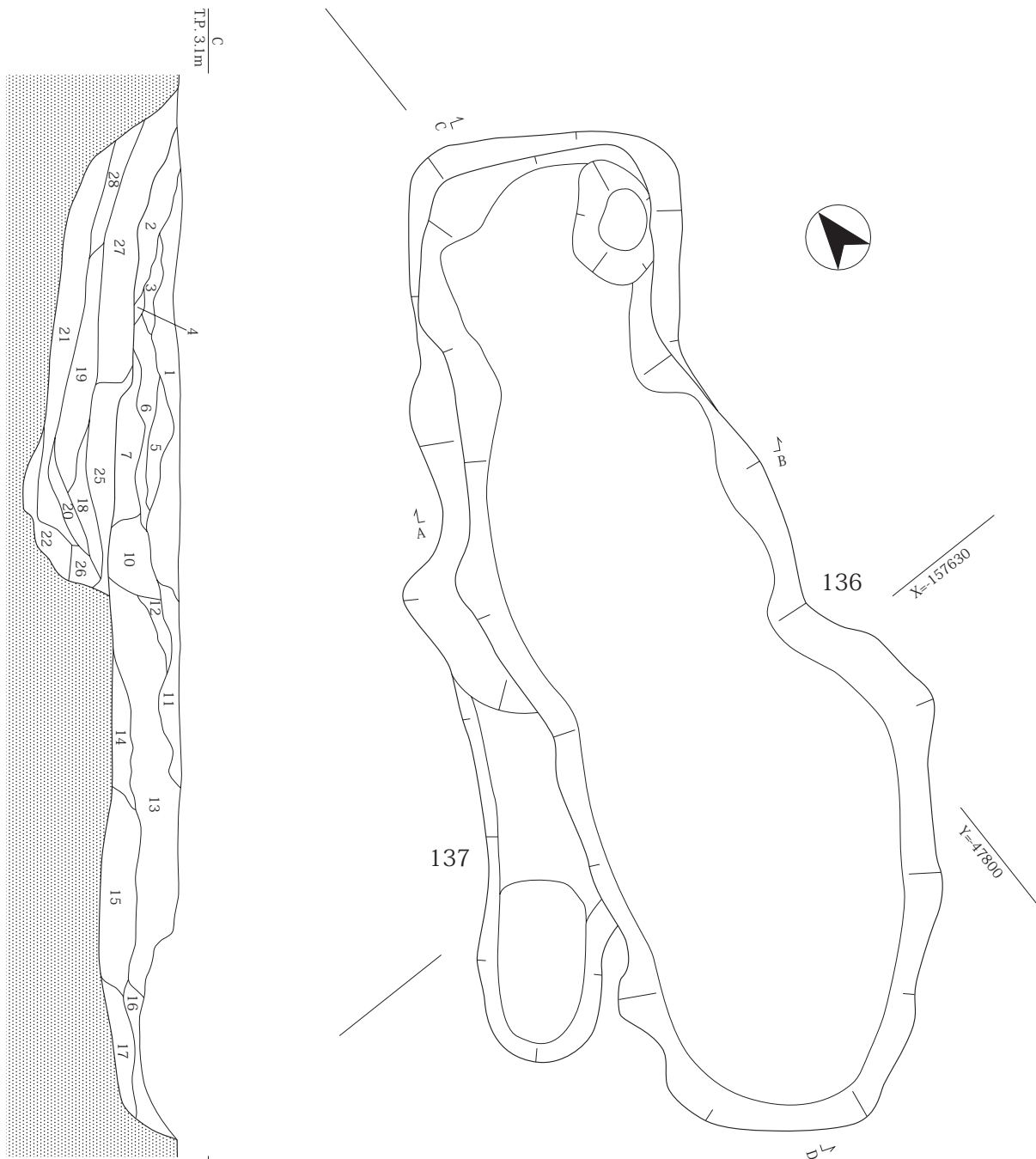
瓦質材は10個体残っていた。瓦質材内面底の標高値は、現状では北西端よりも南東端が4cm低い。したがって南東方向へ排水されたとみられる。ただ、南東部では屋敷地裏の境界が近接していると考えられることから、背割溝などがないとすれば、貯水用の穴が設けられていた可能性が高い。

なお北西側は107搾場遺構によって崩され、さらにその北西には延長していない。よって、107搾場遺構の範囲内に排水元があったと考えられる。ただしそれが家屋の内か外かは不明である。

掘方内からは陶磁器や土器類が出土した。しかし、いずれも小破片で、しかも点数も少ないので遺構の時期を比定するだけの資料とはなり得ない。

それに対して排水溝の覆土からは中国製染付・白磁、備前甕、肥前陶器皿、肥前磁器、土師質土器、

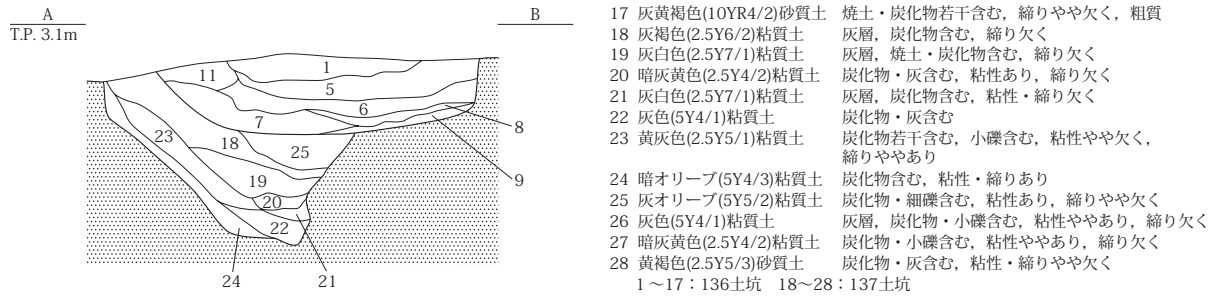




- | | |
|---------------------|--|
| 1 褐灰色(10YR5/1)砂質土 | 焼土・炭素僅か含む、漆喰片・貝若干含む、締りやや欠く、やや粗質 |
| 2 褐灰色(10YR5/1)砂質土 | 焼土・炭素・貝僅か・灰若干含む、締り欠く |
| 3 明赤灰色(2.5YR7/1)粘質土 | 灰層、炭化物含む、粘性・締りやや欠く |
| 4 褐灰色(10YR5/1)砂質土 | 3層土含む、締りやや欠く |
| 5 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 | 焼土・焼土ブロック含む、炭化物若干含む、締りやや欠く |
| 6 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 | 焼土・炭素若干含む、黄色(2.5Y8/8)砂質土僅か含む、粘性ややあり、締りやや欠く |
| 7 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物・灰若干含む、貝僅か含む、締りやや欠く、やや粗質 |
| 8 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土 | 明黄褐色(2.5Y6/6)砂質含む、締りあり、粗質 |
| 9 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む、締りやや欠く |
| 10 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物・明黄褐色(2.6Y7/6)砂質土若干含む、締りやや欠く、粗質 |
| 11 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 焼土・炭化物僅か・小礫若干含む、締りやや欠く、粗質 |
| 12 灰色(5Y5/1)砂質土 | 炭化物・小礫含む、締りあり、やや粗質 |
| 13 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 小礫含む、締りあり、粗質 |
| 14 灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物・壁土若干含む、粘性ややあり、締りやや欠く |
| 15 褐灰色(10YR4/1)粘質土 | 焼土・炭化物僅か含む、小礫若干含む、粘性やや欠く、細質 |
| 16 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土 | 焼土・炭化物含む、締りあり、やや砂質 |



第51図 136・137土坑 (1)



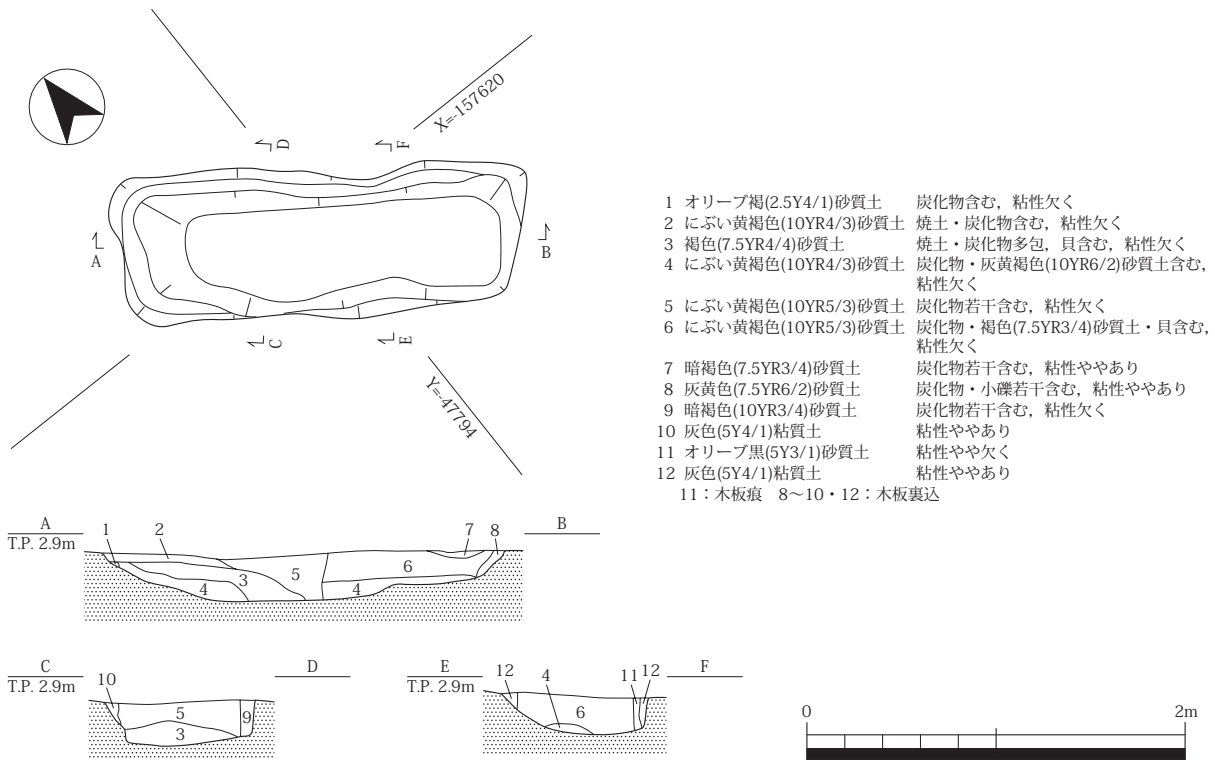
第52図 136・137土坑 (2)

瓦質土器などが出土した。いずれも小破片であるが、これらの遺物から、この溝は17世紀中葉に廃絶されたとみられる。またこの121溝を切り込んでいる122土坑との間にも、年代的な矛盾はない。

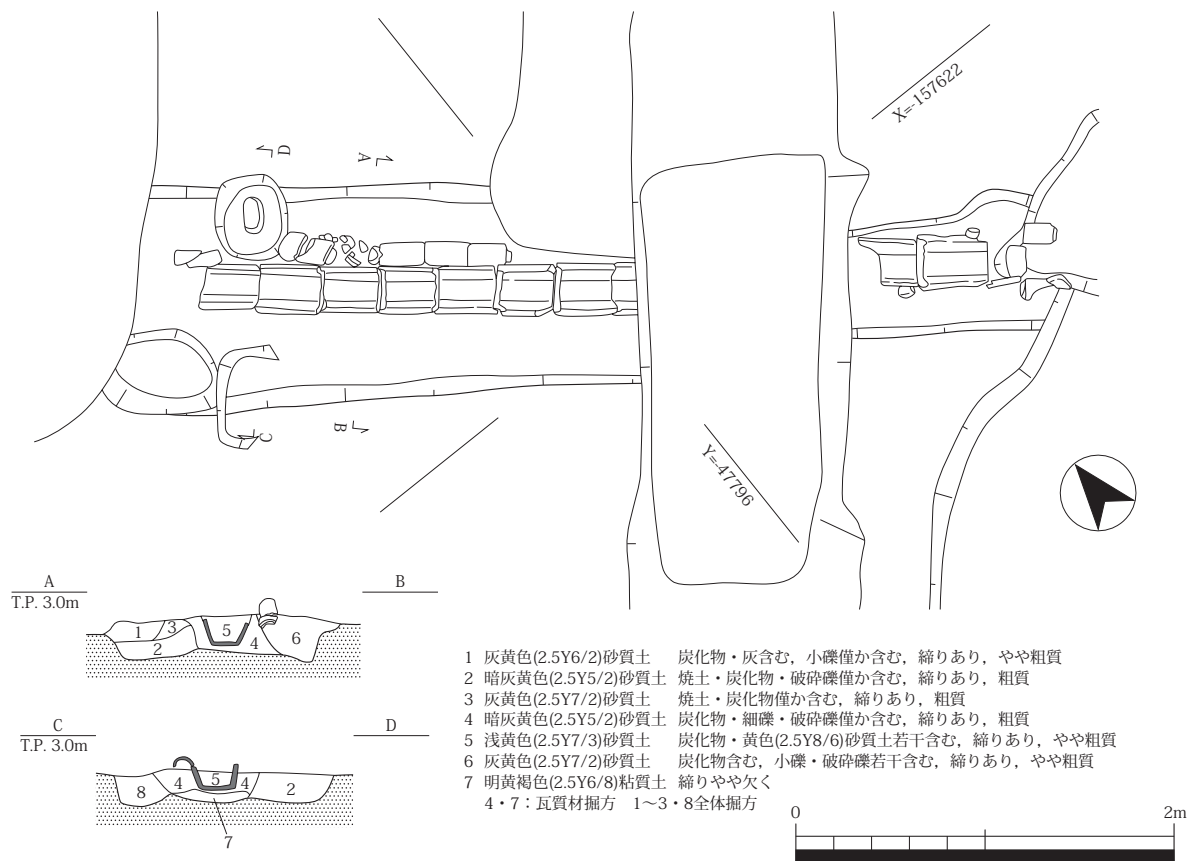
161土坑 (第55図) 〈F5-9-20B-1a〉 162博列建物を捉えるために拡張した部分で検出した土坑である。遺構の位置は第1面の全体図に投影したが、時期は第2面に対応する。また第1面検出の044土坑とは同一遺構である。土坑全体の上部0.13mまでを044土坑、それ以下の1.5mを161土坑と呼んだ。遺物もそれに対応して取り上げた。

161土坑の覆土は8層に分かれるが、いずれの層にも灰が含まれていた。また3層では焼土が顕著に認められたが、それ以外では包含量は多くなかった。したがって火災の片付けに伴う廃棄土坑とは考えられない。さらに、主に7層から多量の瓦が出土した。その量は、コンテナ20箱に及ぶ。灰と共に意図的に瓦が廃棄されたとみられる。なお、044土坑部分では灰の包含は多いが、瓦は少ない。

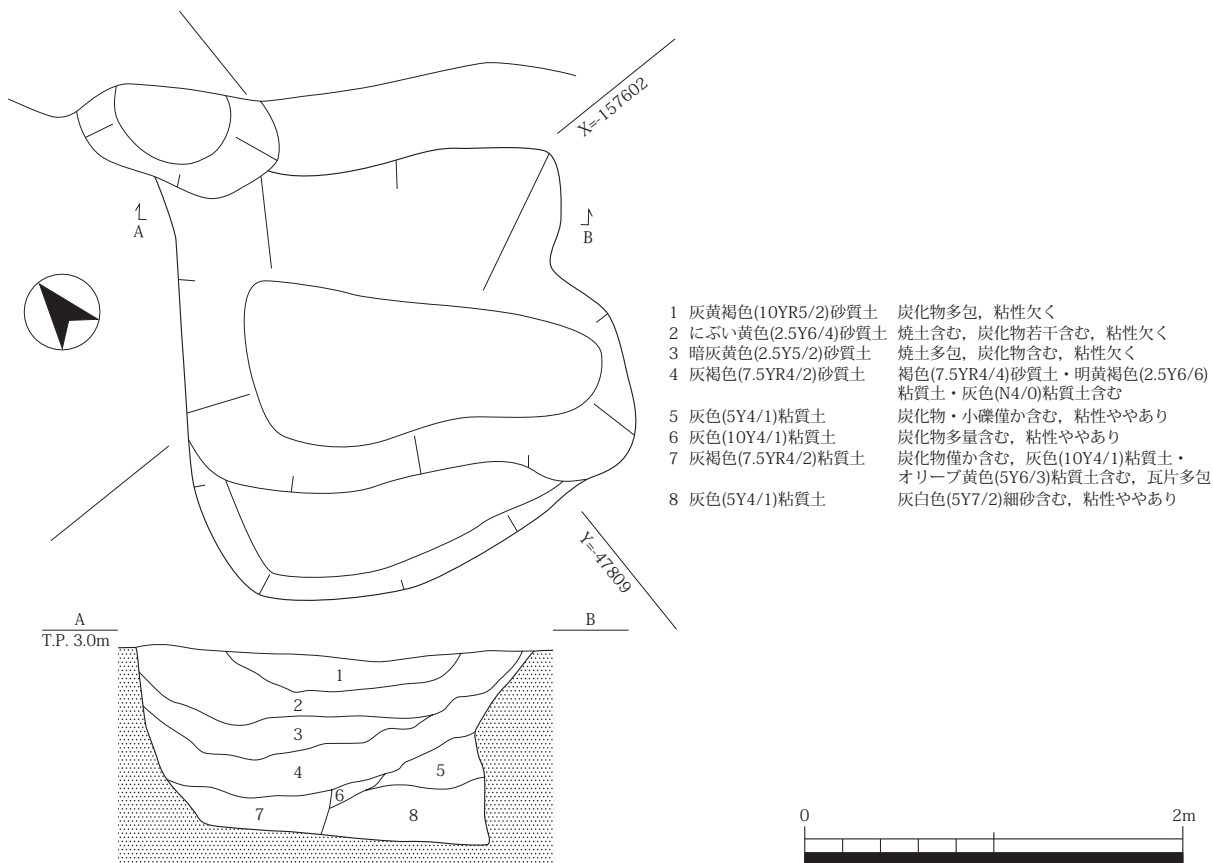
044土坑の遺物を含めると、瓦以外には中国製染付・白磁を始め、堺(播鉢)・備前(甕・瓶)・京焼系・肥前(碗・鉢・皿)・丹波(播鉢・甕)の陶器、肥前磁器、土師質土器、竈石などが出土した。点数は多く、瓦と共に投棄されたと考えられる。



第53図 118土坑



第54図 121溝



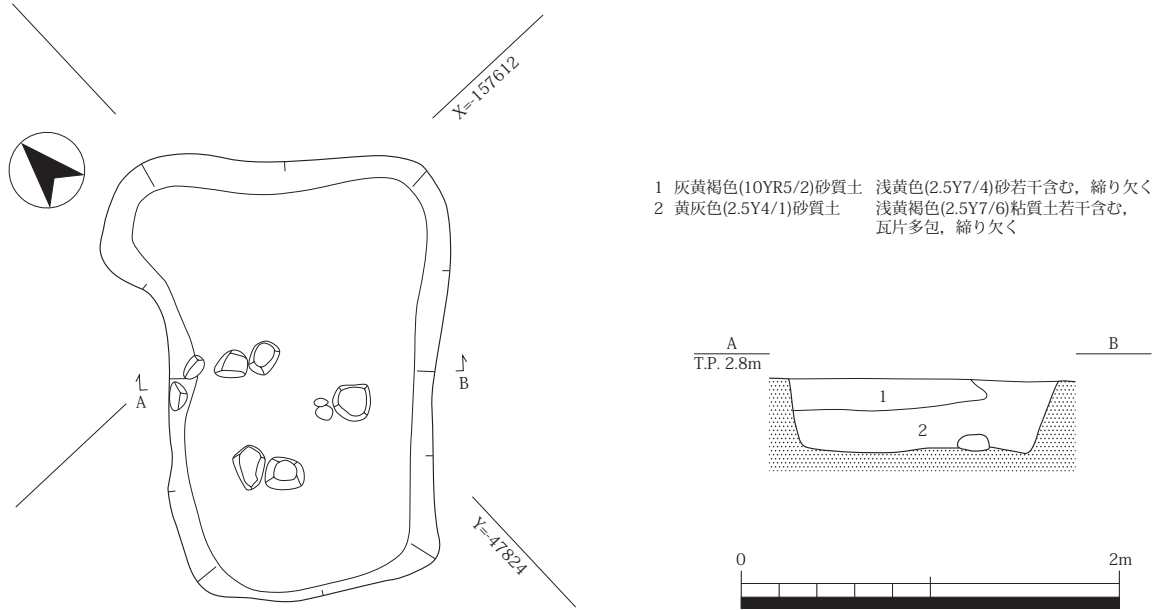
第55図 161土坑

土坑内の覆土は、底面上の5～8層が不整な堆積状況を示しているものの、1～4層は規則的な人為堆積とみられる。この点は、後述の灰を多包した096土坑と共通している。また焼土が少なく、瓦と灰が多量廃棄された点は先の136・137土坑と同じである。

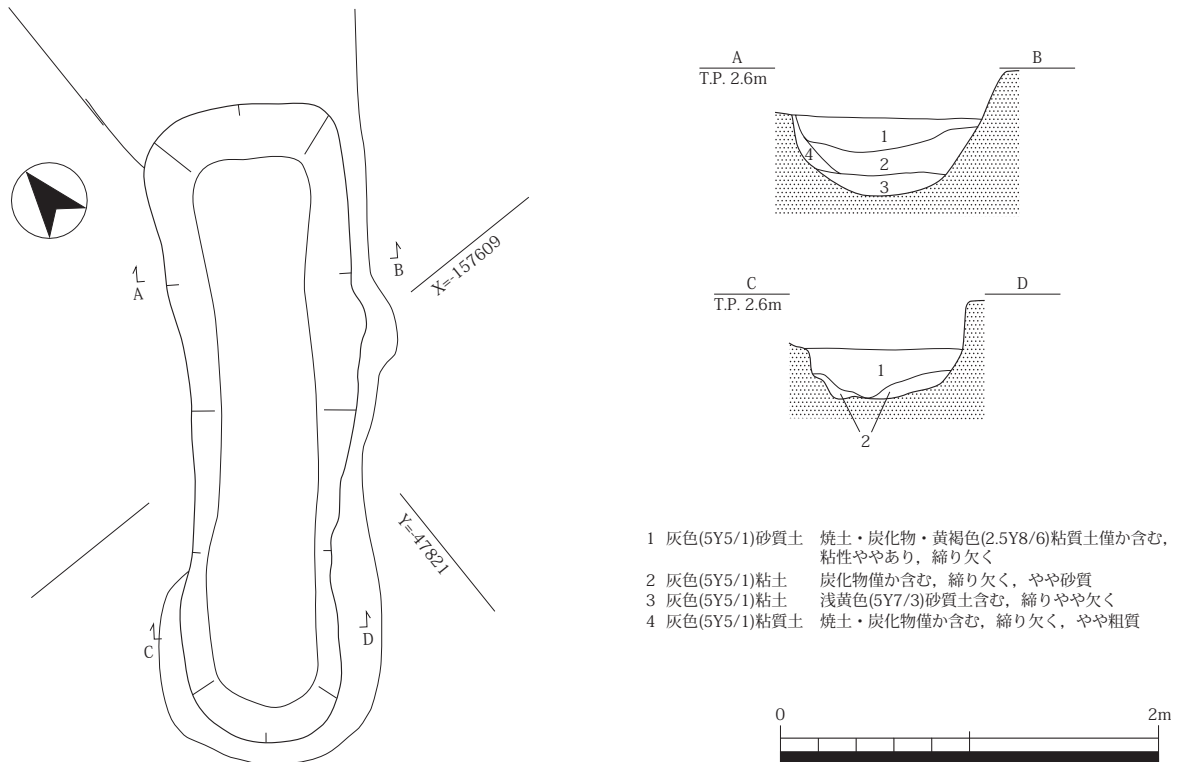
(7) 第1面

012土坑 (第56図) 〈F5-9-2B-3b〉 上面が旧団地建築時に削平され、検出面が下がっているため、現状の深さは0.4mを測るにすぎない。

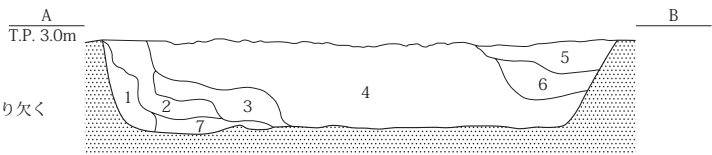
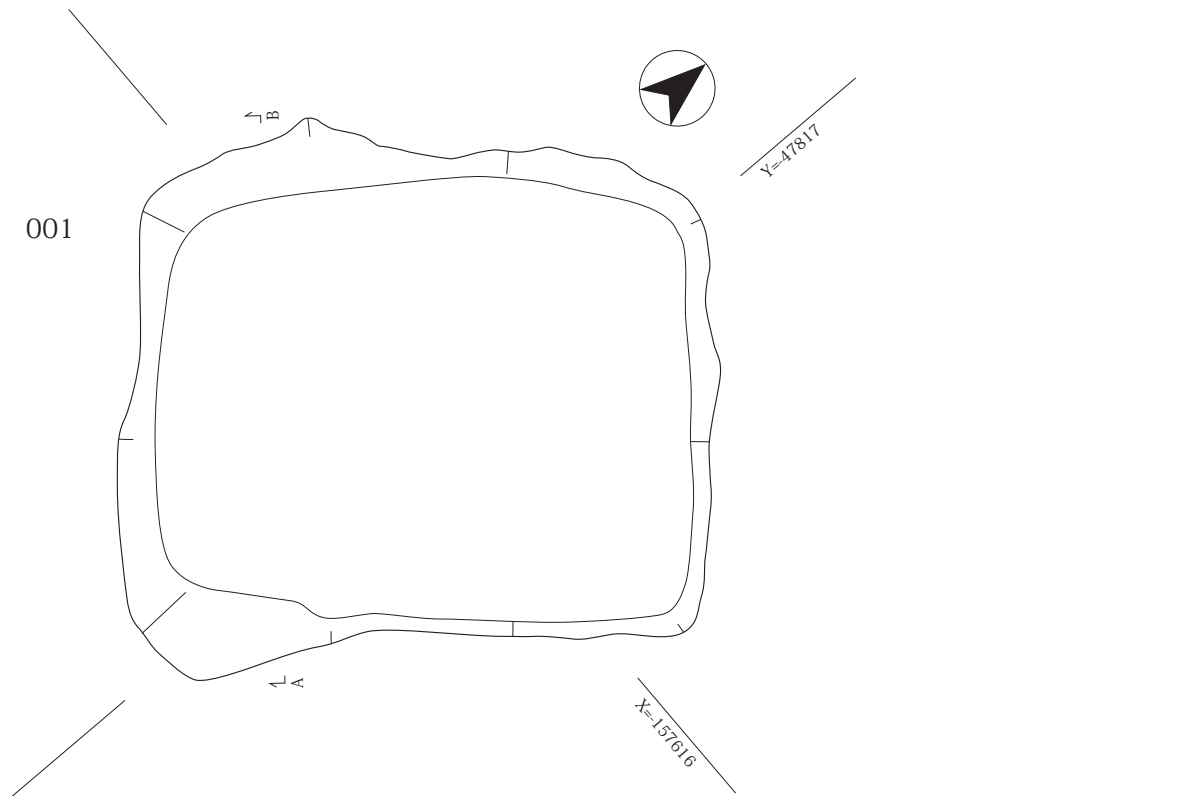
覆土は上下2層に分かれるが、下層には瓦片が多量に含まれていて、この土坑も家屋廃材の片付けに



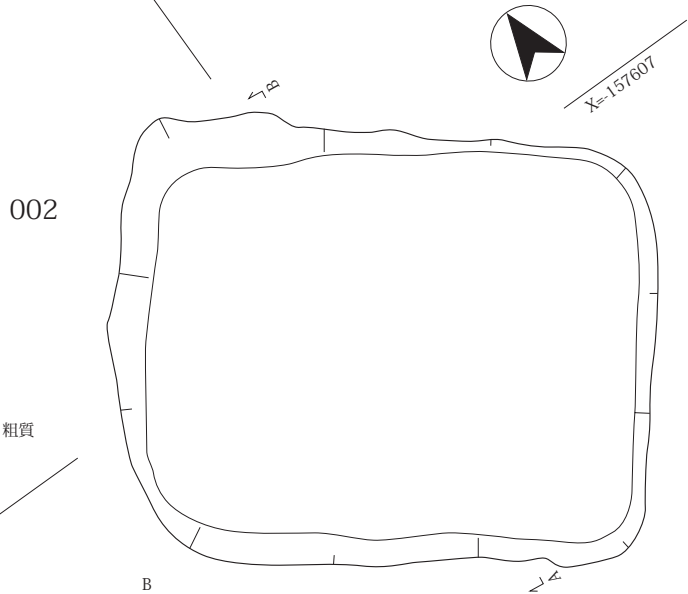
第56図 012土坑



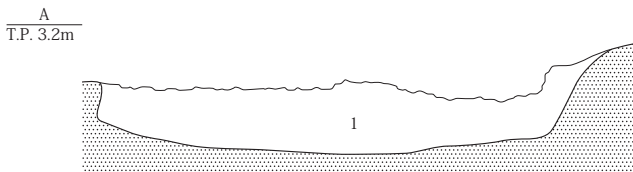
第57図 016土坑



- 1 褐灰色(10YR6/1)粘土 明黄褐色(2.5Y7/6)粘質土含む、締り欠く
- 2 浅黄色(2.5Y7/4)砂質土 炭化物含む、締り欠く、粗質
- 3 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘質土 炭化物若干含む、締り欠く
- 4 明灰黄色(2.5Y4/2)粘質土 瓦片(1辺10cm程)多包、やや砂質
- 5 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土 焼土含む、粘性ややあり、締り欠く、粗質
- 6 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土 5層と同質土だが焼土少量
- 7 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土 炭化物多包、締り欠く



- 1 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土 瓦片(1辺10cm~半裁)多包、
瓦の隙間に土砂が入り込む、やや砂質・粗質



第58図 001・002土坑

伴う廃棄土坑と考えられる。なお1・2層ともに、焼土や炭化物の包含は顕著ではない。

瓦以外に罫（挿鉢・甕）・京焼系（灯明受皿・土瓶）の陶器、磁器、土師質土器、石臼などが出土したが、その点数は少なく、001土坑や002土坑と幾分共通した状況である。

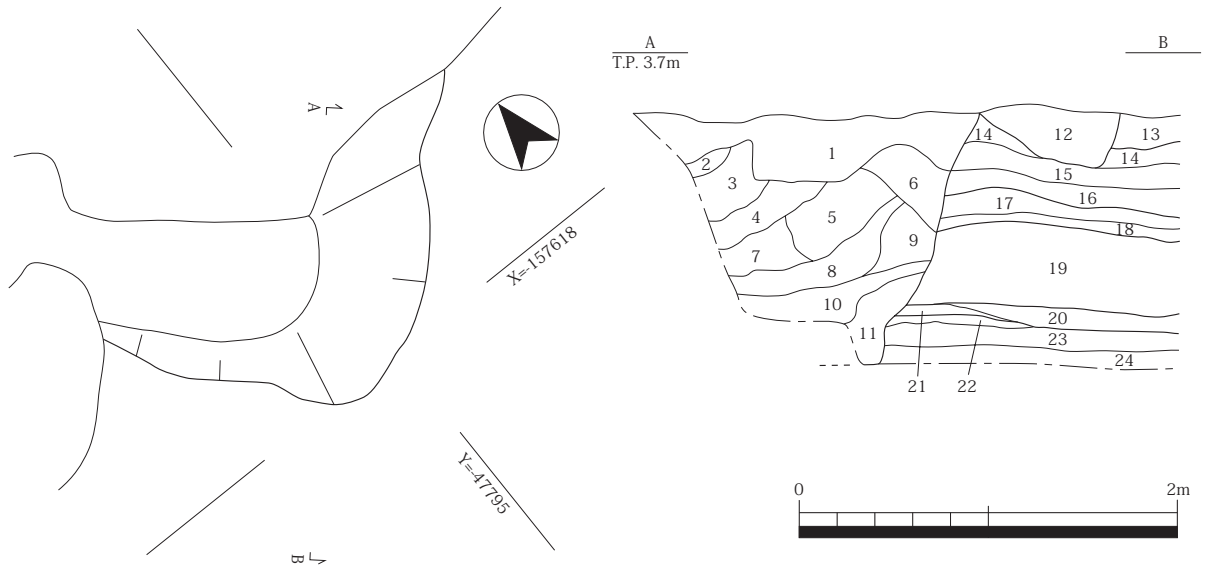
なお底面上で、長径20cm程の礫5石が並んだような状況で検出された。この礫は、012土坑が切り込んだ163専列建物の礎石の可能性はある。

016土坑（第57図）〈F5-9-2B-3c〉 上面が削平されている上に、さらに攪乱を受けているので、検出面はかなり下がっている。しかし、現状でも深さは0.8mを測り、本来はかなり深い掘方の土坑であったと考えられる。

平面形状は、調査地東半の070土坑や083土坑に類似していて、長方形を呈する。覆土は灰色系の砂質土と粘土が主体である。焼土・炭化物をほとんど含まない。

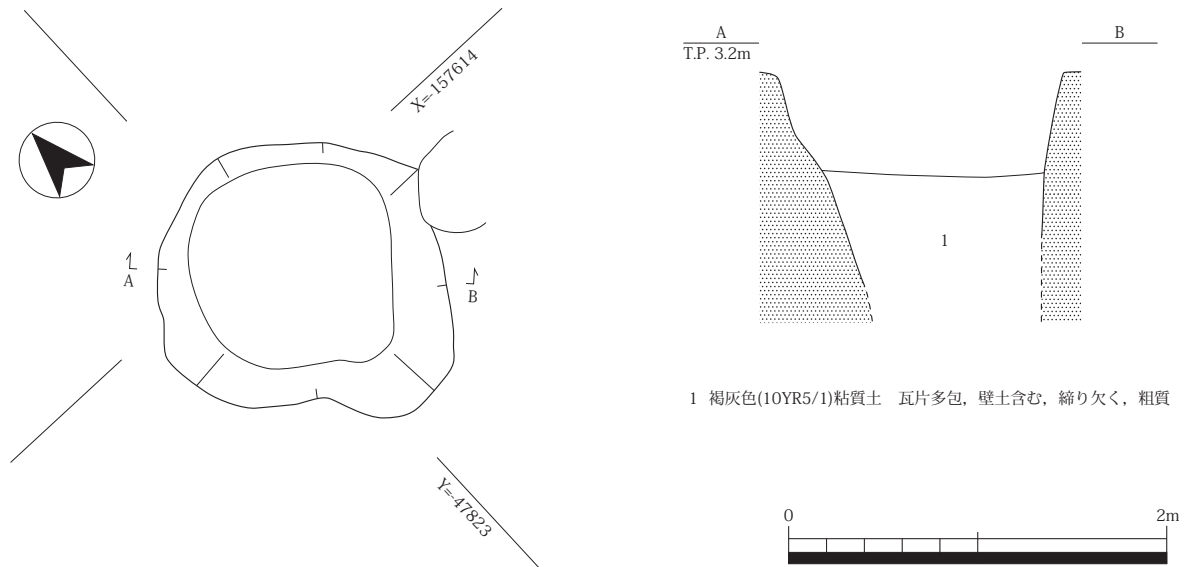
この土坑では、中国製青磁を始め、備前（徳利）・丹波（壺）・肥前（碗）の陶器、肥前磁器、土師質土器（皿・焙烙）、瓦質土器などが出土しているが、瓦片は多くない。したがって、日用品の廃棄土坑であると考えられる。

001土坑（第58図）〈F5-9-20B-2b〉 1辺3m前後を測る方形の廃棄土坑である。覆土の大半を占める4層中には、1辺10cm程に割られた瓦片が多量に含まれていた。覆土には、焼土や炭化物を



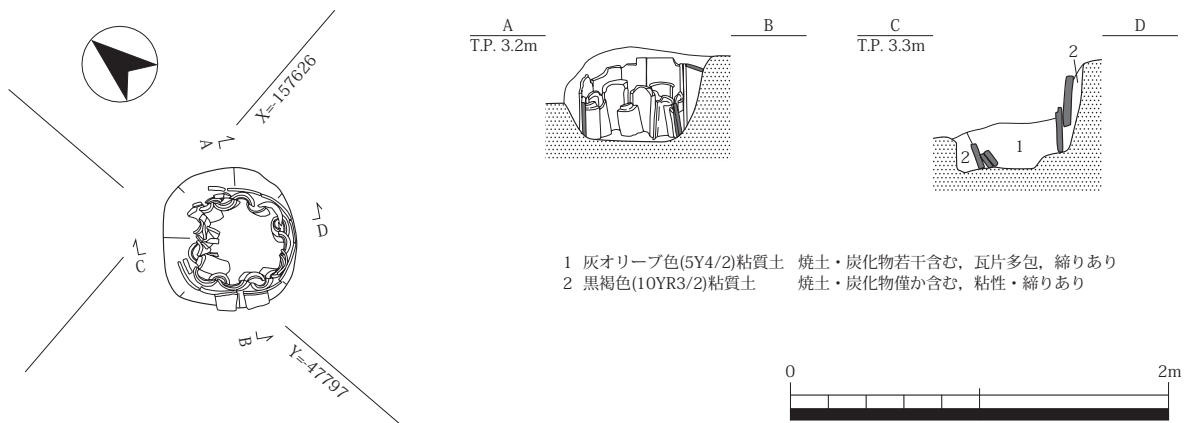
- | | | | |
|------------------------|--------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|
| 1 明紫灰色(5RB7/1)粘シルト | 灰層、漆喰片含む、粘性・縮り欠く、粗質 | 14 灰白色(5YR8/1)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、炭化物多包、粘性・縮りやや欠く |
| 2 明紫灰色(5RB7/1)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、粘性やや欠く、縮りあり | 15 にぶい黄橙色(10YR7/2)砂質土 | 炭化物多包、灰白色(5YR8/1)粘シルト含む、小礫若干含む、縮りあり |
| 3 明紫灰色(5P)粘シルト | 灰層、炭化物・灰白色(5Y8/1)粘質土ブロック含む、粘性・縮りやや欠く | 16 明黄褐色(10YR7/6)砂質土 | 炭化物多包、灰白色(5YR8/1)粘シルト・小礫含む、やや粗質 |
| 4 明褐色(7.5Y7/1)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、炭化物含む、粘性・縮りやや欠く | 17 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 炭化物・明黄褐色(10YR7/6)砂質土若干含む、縮りあり |
| 5 明褐色(7.5Y7/1)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、炭化物多包、粘性・縮り欠く | 18 明黄褐色(10YR7/6)砂質土 | 細礫若干含む、硬質、整地土 |
| 6 灰白色(5YR8/1)粘シルト | 灰層、炭化物多包、粘性・縮り欠く | 19 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 焼土・炭化物・明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土若干含む、縮りやや欠く |
| 7 灰白色(5YR8/2)粘シルト | 灰層、焼土僅か・炭化物若干含む、粘性・縮り欠く | 20 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 焼土・炭化物・黄色(5Y7/6)砂質土若干含む |
| 8 灰白色(10YR7/1)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、炭化物含む、粘性・縮りやや欠く | 21 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土 | 焼土・炭化物含む、淡黄色(2.5Y8/4)粘シルト僅か含む、粘性ややあり |
| 9 にぶい黄橙色(10YR7/3)粘シルト | 灰層、炭化物若干含む、粘性・縮りあり | 22 灰黄色(2.5Y6/2)粘シルト | 明黄褐色(10YR7/6)砂質土僅か含む、縮りあり |
| 10 にぶい黄橙色(10YR6/3)粘シルト | 灰層、焼土僅か含む、炭化物・灰白色(5YR8/1)粘シルト含む、縮り欠く | 23 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土 | 焼土・炭化物・細礫僅か含む、縮りあり、やや粗質 |
| 11 にぶい黄橙色(10YR6/3)粘シルト | 灰層、炭化物・褐灰色(10YR6/1)砂質土若干含む、粘性・縮り欠く | 24 灰色(5Y6/1)砂質土 | 黄色(5Y7/6)砂質土若干含む、縮りあり |
| 12 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 | 炭化物・小礫若干含む、縮り欠く、粗質 | 1~11: 096覆土 | 13・17・18: 近世整地土II |
| 13 褐灰色(10YR6/1)砂質土 | 焼土・漆喰片僅か含む、炭化物若干含む、粘性ややあり、縮りやや欠く | 19: 近世整地土III | 20: 慶長整地土 |
| | | 21: 慶長整地土 | 22~24: 天正整地土 |

第59図 096土坑



第60図 003井戸

1 褐灰色(10YR5/1)粘質土 瓦片多包, 壁土含む, 締り欠く, 粗質



第61図 106土坑

1 灰オリーブ色(5Y4/2)粘質土 焼土・炭化物若干含む, 瓦片多包, 締りあり
 2 黒褐色(10YR3/2)粘質土 焼土・炭化物僅か含む, 粘性・締りあり

含んだ層もあるが、火災の片付けに伴ったとみられるほどの多さではない。

家屋の床下に、小割りした瓦を充填した土坑を設け、調湿の役割を求めた可能性も考えられなくはないが、002土坑では瓦片と共に竈石や溝用の「U」字型石材も投入されていて、瓦片だけが詰まっているのではない。したがって、家屋構造の一部とみるにも躊躇される。

なおこの土坑からは、上述の瓦片と共に、堺（播鉢）・瀬戸美濃（茶碗・皿）・京焼系（土鍋）・肥前（鉢）の陶器、肥前磁器、土師質土器（焜炉・焙烙・火鉢）、瓦質土器（火鉢）などの日用品も出土している。現状では、廃材と共に生活関連品の廃棄もなされたとみるのが適当であろう。

002土坑（第58図）〈F5-9-20B-2b〉 001土坑より僅かに小規模とはいえ、ほぼ同大の廃棄土坑である。001土坑と同じく、1辺10cm程度に割られた瓦片を充填している。上述のように、瓦片に混じって石製品の大型破片も出土していて、瓦片だけを土坑内に投入したのではない。このことから、001土坑と共に、廃材を処理するための廃棄土坑と考えておく。

この土坑からは、中国製染付を始め、備前（瓶）・肥前（皿）の陶器、肥前磁器、土師質土器なども出土している。日用品が含まれている点は、001土坑と共通する。

なお土坑底面の標高値はT.P.2.4mで、001土坑より0.2m程低いものの、ほぼ等しい。このことから、両土坑は同時期に、計画的に形成されたと考えられる。

096土坑（第59図）〈F5-9-19B-10b〉 土層断面図では近世整地土Ⅱとの直接の切り合い関係はみられないが、整地土Ⅱを掘り込んだ土坑である。西半は107搾場遺構に、北半は調査地外に延び出しているため、全体の4分の1程度を捉えたにすぎない。深さは1.3mを測る。

この土坑の覆土は、各層とも灰を基調としている。しかも1・6層を除いて、基本的には南から北へ下降する、整合的な堆積状況が認められる。

覆土中には焼土や炭化物も若干は含まれているが、しかし混入土はほとんど存在しない。このことから、土坑内に自然流入した灰とは考えがたい。意図的に南側から徐々に灰を投入したのであろう。

土坑内からは中国製青磁・染付、肥前（大鉢・碗）・丹波（徳利）の陶器、肥前磁器（碗・皿）、土師質土器（甕・火鉢・焙烙）、瓦質土器（蓋・甕）など多種の遺物が出土した。ただ点数は少なく、コンテナ1箱分程度である。また小破片も多い。瓦片が多いということもなかった。この点で、先の137土坑とは異なる。

この096土坑の遺物年代相は17世紀末～18世紀前半に求められる。しかし近世整地土Ⅱを掘り込んであることから、18世紀末～19世紀初頭に年代比定できる。古い時期の遺物のみが含まれた理由については不明であるが、17世紀末～18世紀前半の遺構を切り崩してこの土坑が掘削された、あるいは土坑壁際にその時期の遺構の遺物が残っていたなど、幾つかの可能性が考えられよう。

灰を充填した土坑や小穴は、今回の調査では数多く検出された。また整地土内に含まれた灰層も数箇所認められた。そうした中で、この098土坑が最も新しい時期のものである。

003井戸（第60図）〈F5-9-2B-3b〉 検出面から約2m掘り下げて底面に達した。その標高値はT.P.1.0mである。底面では湧水が著しかった。

覆土は、検出面から1.1m下までの範囲で確認したが、その間は褐灰色粘質土の単一層であった。覆土から多量の瓦片が出土し、また壁土も投棄されていた。

覆土内からは中国製染付を始め、堺（播鉢）・備前（甕）・京焼系（土瓶・土鍋・灯明皿）・瀬戸美濃（志野蓋・碗・皿・仏花瓶）の陶器や玩具も出土した。これらの遺物から18世紀末～19世紀初頭に埋められたとみられる。井戸の廃絶に伴って、廃材や不用品が投棄されたのであろう。

なお廃絶時期は、先の001土坑や002土坑と一致する。

106土坑（第61図）〈F5-9-19B-10c〉 直径0.8m、深さ0.7m程の掘方内に、平瓦と丸瓦を並べた遺構である。まず円形の土坑壁に沿って平瓦を立て並べる。そしてその内側に、噛合うように交互に向きを変えて、丸瓦を組み並べている。2重あるいは3重に平瓦を配した部分もある。現状で、平瓦12枚、丸瓦20枚を数えた。平瓦と土坑壁の間には、黒褐色粘質土が詰められていた。締まりはよい。丸瓦はいずれも玉縁を上に向けている。丸瓦内の土坑底は、掘方底のままである。

瓦組みの内部から、中国製色絵皿、肥前磁器、土師質土器、硯が出土し、さらに竈石も検出された。したがって機能を終えた段階で、廃棄物の処理土坑にされたとみられる。

この遺構について、機能を明らかにし得ないが、第5面検出の454土坑などと共に雨垂れを受けるためのものではないかと推測する。

054溝（第62図）〈F5-9-20B-1a・1b〉 北東-南西方向に、直線的に延びた溝である。当該期の町割においては正軸方向である。調査地中央の2条の側溝間では、ほとんど確認できなかったが、浄化槽の掘方（攪乱）付近までは延びていて、10.5mにわたって検出された。幅は約0.7mである。

この溝は、次に述べる094溝と対をなした、通りの側溝である。溝間はおよそ1mである。元禄2年

の堺絵図では、この通りは「水落町」と記されている。

溝はほぼ垂直に掘られている。ところが底面には高低差がつけられている。調査地北辺から7.1m間についてみると、北東端より0.2m間が深度0.05m、以下、2.7m間・0.7m、2.1m間・0.9m、0.6m間・0.2m、1.5m間・0.7mである。このような高低差を設けた理由は不明である。なお中央の側溝間でその存在を確認できなかったのは、溝自体の深度が浅く、後世の削平により消滅したためとみられる。

この底部の状況とともに、いまひとつこの溝で注意されるのは、溝内から多量の瓦片が出土したことである。瓦片は1辺10cm程度に細かく割られていて、001土坑や002土坑に廃棄された瓦片と状態が類似していた。溝内の覆土のうち、大半を占める2層中に多く含まれていて、溝内は瓦片が充満した状況であった。この瓦片が溝の機能と結びつくもので、意図的に投入されたのか、それとも溝の廃絶に伴って瓦片を投棄したのかは不明である。ただ瓦片に混じって、堺（播鉢・鉢）・京焼系（碗・土瓶）・瀬戸美濃（茶碗）・丹波（徳利）・肥前（甕・壺・小杯）・萩の陶器、肥前磁器（碗・鉢、青磁）、土師質土器（大鉢・焙烙・風炉）、砥石など多種の遺物も出土し、混入品とは言いがたい点数であった。したがって溝の廃絶時に、瓦片と共にこうしたものも廃棄されたのであろう。

094溝（第62図）〈F5-9-20B-2b・2c〉 054溝と対をなした通りの側溝である。調査地南辺から、長さ4mまでは確認できたが、093土坑に切り込まれ、その北東方向においては延長部分を認めることができなかった。これについては、先の054溝と同じく、掘方の浅さに起因すると考える。

この溝もほぼ垂直に掘り込まれているものの054溝ほどではなく、立ち上がりに幾分傾斜がついている。また幅も、現状で0.6mほどの広狭差がみられ、054溝より粗雑な掘り込みである。

覆土は黄灰色系の砂質土を基調としている。覆土内から中国製染付、備前甕、土師質土器、瓦、砥石が出土した。瓦の包含量は多くない。054溝に比べて遺物の種類や点数が少なく、小破片が多い。

出土遺物の年代相は17世紀前半であるが、遺物の点数や遺存状態から覆土への混入品である可能性が高く、この溝も054溝と同じく18世紀後葉～19世紀初頭に廃棄されたと考える。

099小穴（第63図）〈F5-9-19B-10c〉 長さ0.8m、幅0.5mの、やや不整な楕円形を呈する小穴である。深さは、現状で0.1mにすぎない。

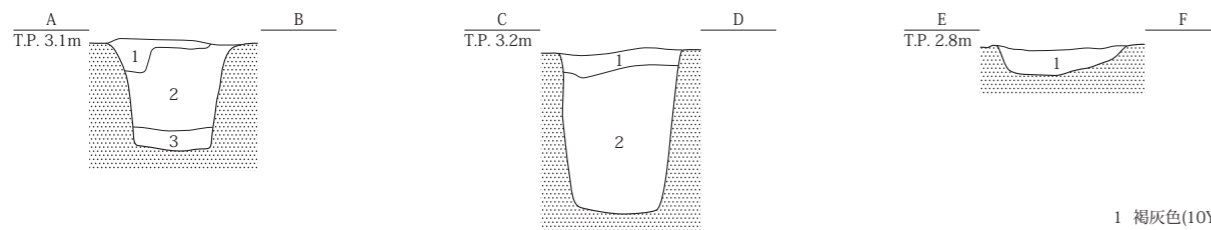
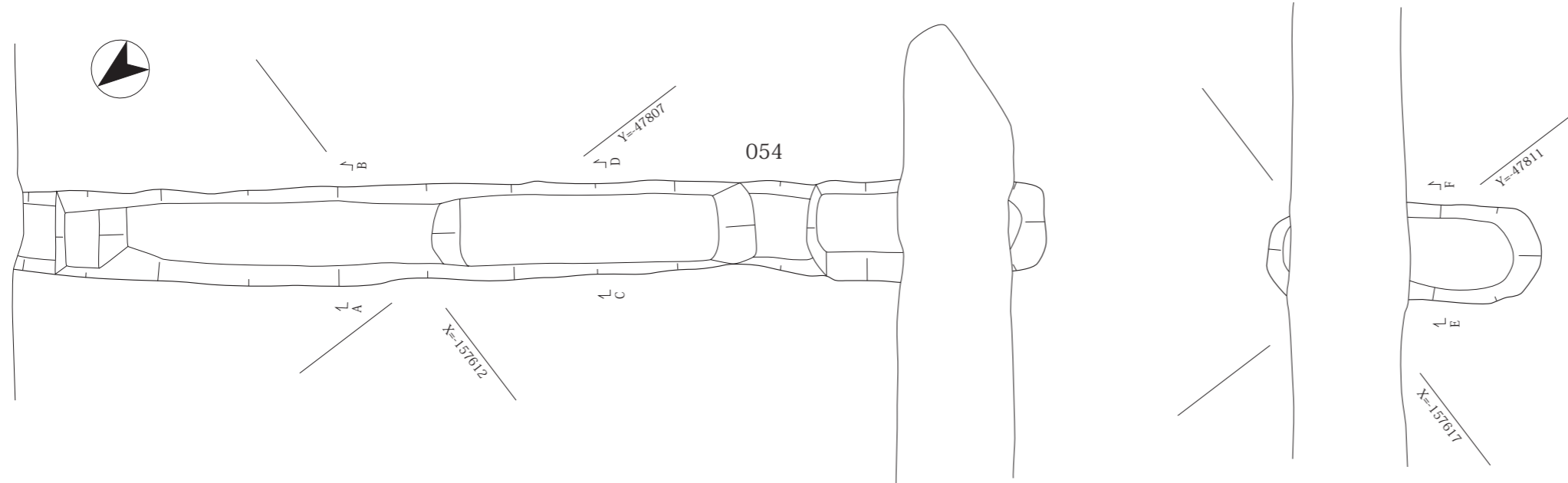
この掘方の中に、肥前磁器瓶2個体、土師質土器皿4個体、チャート製火打石1個体が納められていた。このほかにも、肥前陶器や肥前磁器、瓦質土器、瓦の小破片も出土した。しかし、先の6個体が完形であったことから、それらは覆土へ混入したものと判断される。

瓶と皿は供膳用とみられ、この小穴は地鎮に関連した遺構と考えられる。なお瓶、皿、火打石のいずれもが、小穴の北東半にまとまって置かれていた。皿のうち1個体（500）は伏せられていたが、他の3個体は正位であった。瓶はおそらく立てて置かれたものが、埋める際に倒れたのであろう。火打石は、遺物群の中では最も北東端に置かれていた。

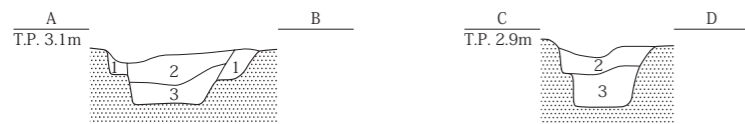
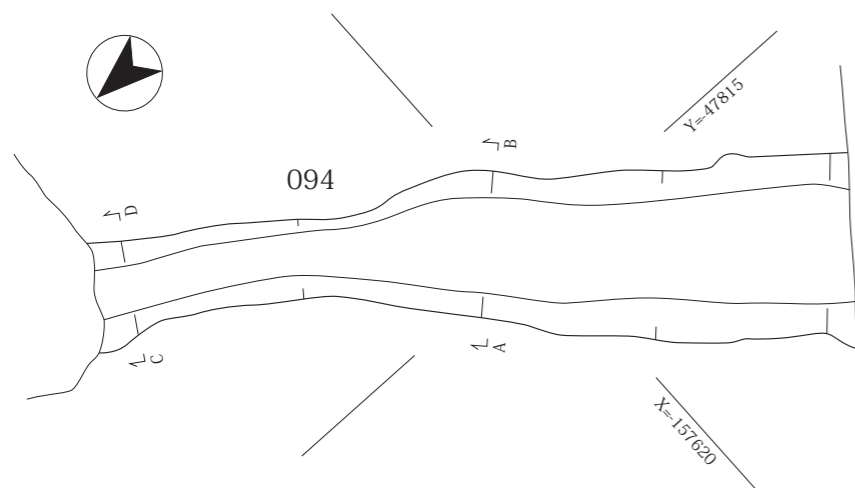
なお瓶と土師質土器皿の年代相は17世紀中葉～後葉であるが、小穴は近世整地土Ⅱを掘り込んでいて、明らかに第1面に伴う。したがって、遺構の形成時期は18世紀後半～19世紀前葉と考える。

685地鎮遺構（第64図）〈F5-9-19B-10b〉 近世整地土Ⅱの形成途中に、地鎮具を埋め込んだ遺構である。したがってその規模は、地鎮具の大きさ自体である。

地鎮具は肥前磁器皿1個体、瓦質土器火鉢1個体、土師質土器皿2個体からなる。火鉢の中に土師質土器皿2個体を正位で納め、火鉢の口縁部内径に合わせて周囲を打ち欠いた磁器皿で蓋をする。そして全体を上下逆にして、整地土中に納めたのである。検出時には、火鉢の底部が上面であった。



- 1 褐灰色(10YR5/1)砂質土 明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅か含む、粘性ややあり、締り欠く、やや粗質
- 2 褐灰色(10YR5/1)砂質土 1層に似るが瓦片(1辺10cm程)充滿
- 3 灰色(5Y5/1)粘質土 明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅か含む、粘性・締りやや欠く



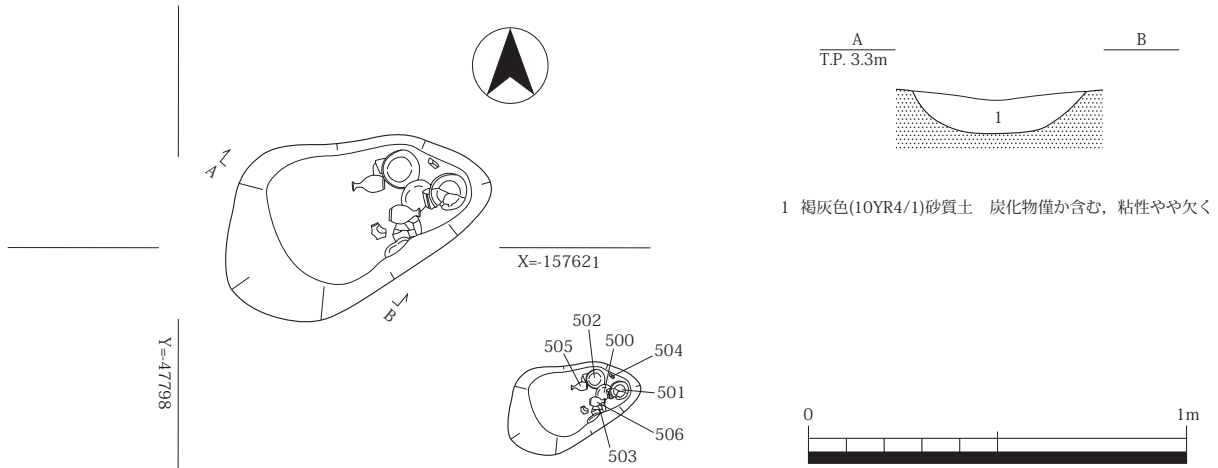
- 1 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、粘性ややあり
- 2 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 焼土・炭化物・黄褐色(2.5Y5/6)砂質土若干含む
- 3 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土 焼土・炭化物僅か含む、オリーブ黄色(5Y6/3)粘質土若干含む



第62図 054・094溝

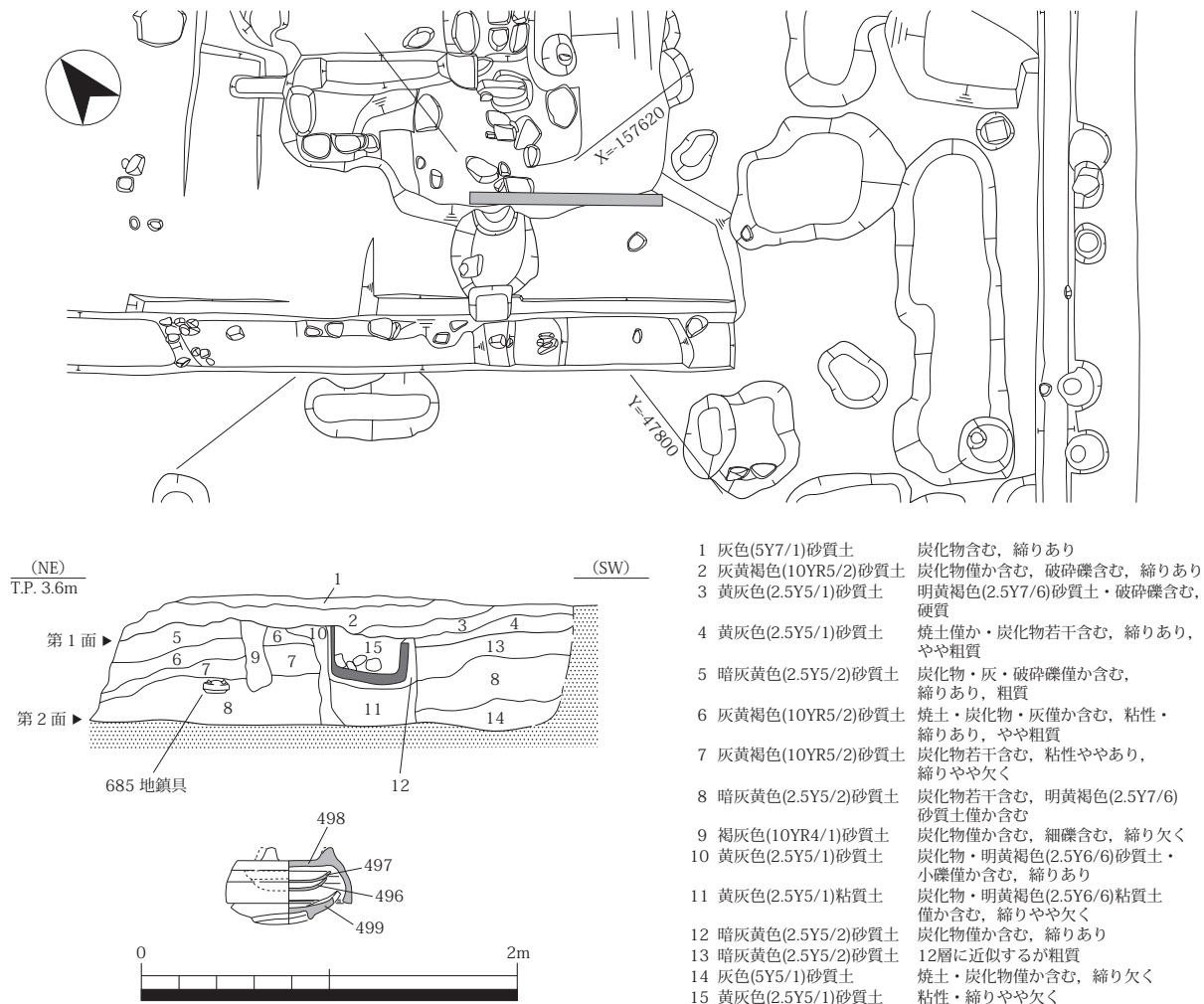
また火鉢内の土師質土器皿が、器内の上寄りにあったことから、皿の上下に土を入れ、内部で動かないようにしたとみられる。火鉢内の土をすべて水洗したが、何も見つからなかった。

肥前磁器皿および土師質土器皿の年代相は、17世紀中葉～後葉である。近世整地土Ⅱの形成は17世紀後葉～18世紀前葉、その上の第1面の遺構は18世紀後半以降である。したがって、この685地鎮遺構の形成時期は、17世紀後葉頃と考えられる。



1 褐灰色(10YR4/1)砂質土 炭化物僅か含む、粘性やや欠く

第63図 099小穴



- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1 灰色(5Y7/1)砂質土 | 炭化物含む、縮りあり |
| 2 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 | 炭化物僅か含む、破碎礫含む、縮りあり |
| 3 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土 | 明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土・破碎礫含む、硬質 |
| 4 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土 | 焼土僅か・炭化物若干含む、縮りあり、やや粗質 |
| 5 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物・灰・破碎礫僅か含む、縮りあり、粗質 |
| 6 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 | 焼土・炭化物・灰僅か含む、粘性・縮りあり、やや粗質 |
| 7 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 | 炭化物若干含む、粘性ややあり、縮りやや欠く |
| 8 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物若干含む、明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅か含む |
| 9 褐灰色(10YR4/1)砂質土 | 炭化物僅か含む、細礫含む、縮り欠く |
| 10 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土 | 炭化物・明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土・小礫僅か含む、縮りあり |
| 11 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土 | 炭化物・明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土僅か含む、縮りやや欠く |
| 12 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 炭化物僅か含む、縮りあり |
| 13 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 | 12層に近似するが粗質 |
| 14 灰色(5Y5/1)砂質土 | 焼土・炭化物僅か含む、縮り欠く |
| 15 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土 | 粘性・縮りやや欠く |

第64図 685地鎮遺構

建物番号	検出面	規模(m)		主軸方向	入口			床下構造	残存埴段数	構造タイプ	底深度	埴掘方幅	埴(平均値)			検出埴数	備考
		長軸	短軸		位置	突出長	横幅						縦長	横幅	厚		
162	第4面	5.5	2.8	東西	東辺中央	0.2	0.6*	礎石, 根太痕, 小礎, 貝敷	1	II	0.15	0.3	28.2	22.7	2.0	18	遺存状態よい
163	第4面	4.3	3.0	東西	東辺中央	0.1	1.2	貝敷	2	I		0.5	27.7	21.4	2.0	51	埴掘方広い
164	第4面	4.2	2.6*	東西	東辺?	—	—		1	I		0.1	27.1	23.1	2.0	22	遺存状態悪い
165	第4面	3.5	3.2	東西	南辺中央	0.2	1.5		2	I		0.2	28.0	21.7	2.0	37	底面遺存状態悪い
166	第4面	4.0	3.3	東西	南辺中央	0.1	1.5		1	I		0.2	24.4	22.2	1.9	40	遺存状態悪い
167	第4面	4.1	3.0	南北	東辺?	—	—		1	I		0.3	27.7	24.1	2.2	11	遺存状態悪い
301	第4面	1.3*	0.3*	—	—	—	—	礎石, 貝敷	1	II	0.05	0.2	26.3	23.1	2.2	7	北西隅のみ検出
413	第4面	2.0*	0.1*	—	—	—	—		1	—		—	26.5	21.1	2.1	8	遺存状態悪い(2辺のみ確認)
414	第5面	5.4	2.8	東西	東辺中央	0.2	0.7*	礎石(残少)	2	II	0.3	0.4	27.9	23.0	2.2	54	162埴列建物と重複
415	第5面	4.0	2.4	東西	東辺北端	0.3	1.6	礎石, 貝敷	2	I		0.3	28.8	23.9	2.1	47	埴掘方除いて貝敷床一面
416	第5面	3.8	2.2*	東西	東辺?	—	—	礎石, 貝敷	1	I		0.4	27.6	22.2	2.3	15	南辺埴列検出されず
417	第5面	4.3	2.6*	東西	東辺?	—	—	礎石	1	I		0.3	27.2	23.0	2.0	31	埴掘方内に礎石
418	第5面	推3.0	0.3*	東西	南辺西端	0.2	1.2		1	I		0.2	26.9	20.6	1.9	6	埴大半採取されている
419	第5面	1.7*	0.9*	—	南辺	0.3	0.8*		1	I		0.5	28.4	22.6	2.2	13	南西部のみ検出, 埴列掘方広い
420	第5面	1.3*	0.8*	—	—	—	—		1	I		0.4	27.7	21.8	2.2	6	301埴列建物と重複
530	第6面	推5.0	推3.8	東西	西辺南端?	—	—		1	I		0.2	—	23.2	2.3	10	埴大半採取されている
558	第6面	0.2*	0.2*	—	—	—	—		1	I		0.1*	—	—	2.3	3	北東隅の採取部分のみ検出

構造タイプI: 埴列部分を主に掘り下げ、床面はほとんど下げない
 II: 建物床域全体を掘り下げ、埴列部分をさらに1段下げる
 計測値の単位は、建物についてはm、埴についてはcm
 *は現存長

表2 埴列建物一覧

遺構番号	検出面	産地	比定遺構面	甕部					掘方					堆積土	備考	出土遺物年代
				底径(cm)	胴径(cm)	口縁部標高	底部標高	残高(cm)	長径(cm)	短径(cm)	検出標高	底部標高	残高(cm)			
004	第1面・西	信楽	第1面	18	27	—	3.038	8	59	50	3.103	3.013	9	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土		
005	第1面・西	在土師質	第2面	29	52	—	2.673	33	83	73	3.003	2.673	33	黄褐色系砂質土	底部脇穿孔	18C前
011	第1面・西	在土師質	第2面	32	57	—	2.039	47	71	70	2.529	2.004	53	灰色(7.5Y4/1)粘土主体		17C末~18C初
017	第1面・西	備前	第1面	42	85	—	2.123	54	110	103	2.723	2.083	64	にぶい黄褐色(10YR7/2)単一層	甕底部下漆喰	近現代
023	第1面・西	不明	第1面	20	33	—	2.803	6	45	34	2.883	2.743	14	(堆積土掘削・未確認)	甕底部下漆喰	近現代
066	第2面	在土師質	第1面	15	16	—	2.630	8	17	17	2.700	2.590	11	黄灰色(2.5Y4/1)砂質土		
074	第1面・東	在土師質	第1面	39	48	—	3.069	12	57	54	3.219	3.029	19	(堆積土掘削・未確認)		18C後
077	第6面	備前	第5面	43	73	—	2.026	26	74	—	2.274	1.974	30	暗灰黄色(2.5Y4/2)粘・砂質土		
086	第1面・東	大谷	第1面	20	44	—	2.899	24	47	46	3.154	2.879	28	褐色(7.5YR4/3)粘質土主体	甕底部内漆喰	近現代
087	第1面・東	大谷	第1面	20	47	—	2.909	24	55	—	3.149	2.879	27	明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土	甕底部内漆喰	近現代
100	第1面・東	在土師質	第1面	34	54	—	2.539	48	59	—	3.024	2.454	57	にぶい黄褐色(2.5Y6/3)主体	底部抜く?	
102	第1面・西	在土師質	第3面	32	42	—	2.669	30	80	—	3.119	2.639	48	オリープ色粘・砂質土主体		
104	第1面・西	在土師質	第2面	35	48	—	2.579	16	52	—	2.769	2.574	20	暗褐色(10YR3/4)砂質土主体	底部脇穿孔	17C中
105	第1面・西	在土師質	第1面	46	56	—	2.584	27	63	58	2.849	2.569	28	黒褐色(10YR3/2)砂質土		近現代
108	第1面・東	大谷	第1面	22	48	—	2.795	42	123	112	3.215	2.760	46	黄褐色(2.5Y5/3)粘質土主体		近現代
109	第1面・東	備前	第1面	26	52	—	2.670	52	64	—	3.195	2.595	60	淡黄色(2.5Y8/4)シルト主体		近現代
110	第1面・東	大谷	第1面	26	42	—	3.095	14	58	—	3.215	3.075	14	褐色(10YR4/4)砂質土	甕底部内漆喰	近現代
111	第1面・東	在土師質	第1面	24	54	—	2.775	34	62	—	3.195	2.695	50	黒褐色(10YR3/1)砂質土主体		近現代
112	第1面・東	大谷	第1面	29	42	—	3.065	10	68	—	3.175	3.005	17	明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土	甕底部内漆喰	近現代
173	第3面	在土師質	第3面	—	—	—	2.408	21	102	98	2.618	2.368	25	オリープ褐色(2.5Y4/3)粘質土主体	欠損著しい	
174	第3面	在土師質	第3面	38	60	—	2.248	43	71	65	2.678	2.228	45	暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土主体		
196	第3面	在土師質	第3面	—	56	2.588	2.128	46	95	87	2.628	2.138	49	オリープ黒色(5Y3/2)粘質土主体		
249	第3面	在土師質	第3面	17	31	—	2.496	16	43	—	2.630	2.480	15	暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土		
271	第4面	在土師質	第3面	14	19	—	2.645	6	29	26	2.720	2.640	8	(堆積土掘削・未確認)		17C前
291	第4面	在土師質	第1面	31	49	—	2.784	29	65	63	3.054	2.754	30	にぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土主体		
330	第4面	在土師質	第2面	—	32	—	2.326	15	83	68	2.481	2.241	24	暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土	甕上半逆位設置	17C後
335	第4面	在土師質	第3面	48	66	—	2.111	58	79	71	2.661	2.061	60	オリープ褐色(2.5Y4/3)砂質土主体	口縁部落込む	16C代
359	第4面	在土師質	第3面	19	25	—	2.691	19	34	30	2.886	2.686	20	黄褐色系粘(質)土		17C中・後
402	第3面	在土師質	第3面	23	32	2.864	2.454	41	36	35	2.799	2.444	36	黄褐色(10YR5/6)粘質土主体		
424	第5面	在土師質	第5面	29	42	—	2.183	27	48	44	2.434	1.946	49	黄褐色(2.5Y4/3)砂質土主体		
428	第5面	在土師質	第4面	32	50	—	2.431	33	74	66	2.751	2.396	36	明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土主体		16C後
468	第5面	在土師質	第4面	50	70	—	2.380	28	81	76	2.750	2.408	35	黒褐色(2.5Y3/1)粘質土主体		
471	第5面	在土師質	第4面	30	45	—	2.311	24	50	—	2.550	2.292	26	黄褐色(2.5Y5/3)粘質土		
477	第5面	在地瓦質	第4面	18	26	—	2.541	18	33	30	2.726	2.526	20	黄褐色(2.5Y5/4)砂質土		
529	第6面	在地瓦質	第6面	—	—	2.084	—	13	66	57	2.074	1.824	25	にぶい黄色(2.5Y6/2)粘質土	甕上半のみ設置	
664	第7面	備前	第4面	26	34	—	1.836	22	55	47	1.946	1.824	13	黄灰色(2.5Y4/1)粘質土主体?		16C末~17C初

標高: T. P. m

表3 埴甕一覧

第4節 出土遺物

(1) 中世

今回の調査では、地山直上の中世整地土Ⅲから第1面、15世紀後半から19世紀代までの約400年間の遺物が出土した。ここで扱う遺物は、調査によって検出した面ではなく、出土遺構を出土遺物の年代観にあわせた遺構面に帰属させた報告となる。

中世整地土Ⅲ（第65～67図） 中世整地土Ⅲは、調査地が堺環濠都市内に組み込まれる際の整地に伴って、地山直上に整地された層である。この為、中世整地土Ⅲからは15世紀代を中心年代とする瓦質土器、土師質土器、備前、中国製青磁・白磁、少量の中国製染付、瓦類が出土している。

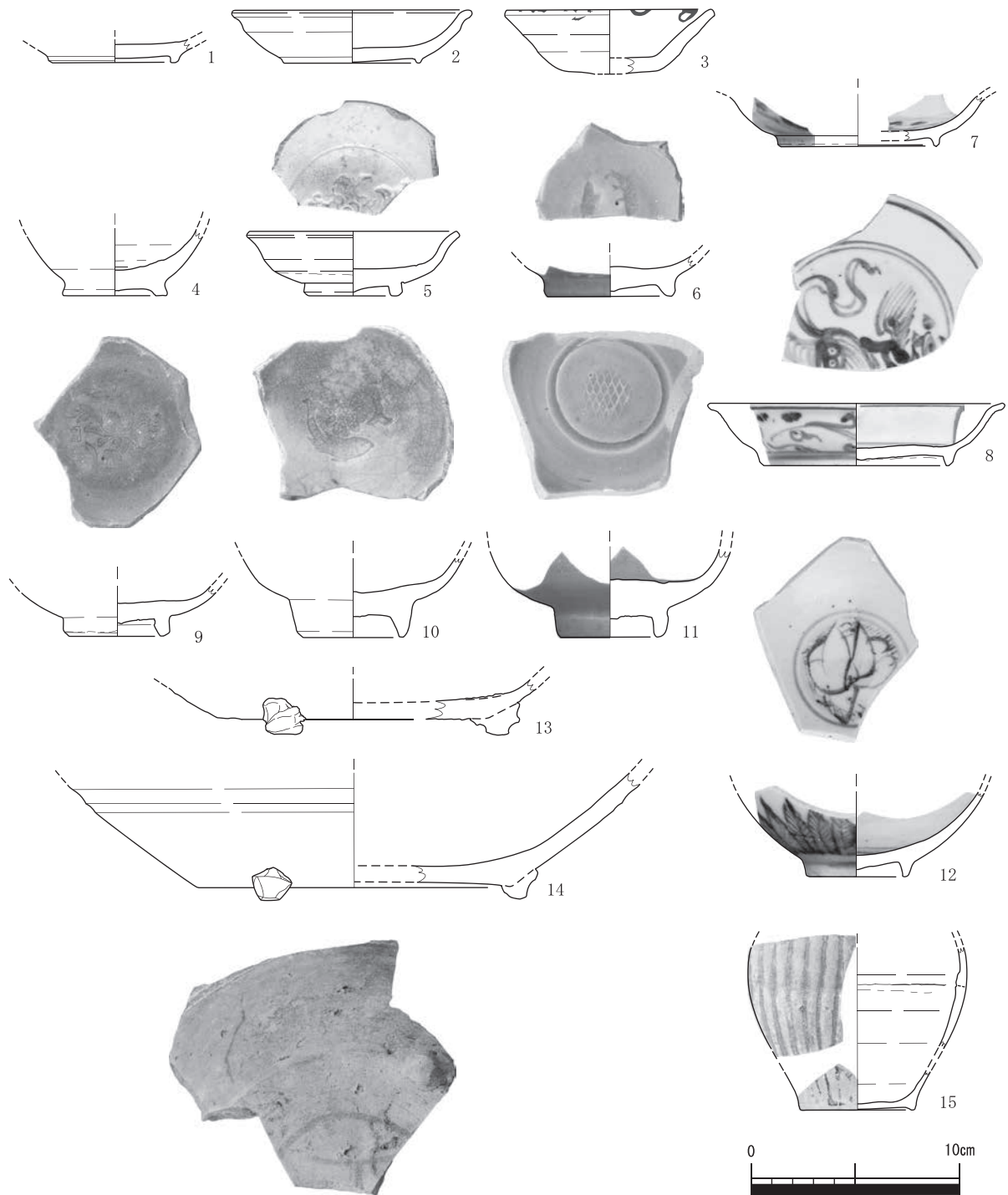
国産陶器は備前が多く、それに瀬戸美濃が続き、丹波、常滑が極少量出土した。瀬戸美濃は灰釉皿（1・2）・灰釉大皿（13・14）のほか、鉄釉卸皿などがある。備前は壺（16・17）・甕（536）が目立ち、皿（3）・播鉢は少ない。皿は土師質土器皿を模した形をしており、灯明皿として使用している。備前播鉢（18・19）の口縁端部は丸く、外縁部はやや下がり、播目の間隔は広い。

貿易陶磁器は中国製青磁・白磁が中心で、それに少量の染付が加わる。白磁は、陶器質の胎土に体部下半部が露胎の皿（以下、白磁皿D群）・精緻な胎土で端反皿（以下、白磁皿E群）、青磁は稜花皿や外面無文の碗（以下、青磁碗E類）（9・10）を中心として出土した。雷文帯をもつ青磁碗はほとんど出土していない。染付は極少量出土しており、玉取獅子文端反皿（以下、皿B群）（7・8）・碁笥底皿（以下、皿C群）、広く開いた碗（以下、碗C群）（12）が出土している。

土器の多くは瓦質土器であり、そこに土師質土器が一定量含まれる。中世の土器皿は形態で大きく3つに分類できる。体部が底部から開いた形のヘソ皿（I類）、I類と同じく体部が開き、平底の皿（II類）、浅く開き、内面ハケ調整を施す皿（III類）とし、以下この分類を使用する。いずれも手づくね成形で、I・II類は土師質土器、III類は土師質土器・瓦質土器の皿である。皿I類は精緻な胎土をもち、口径約7.5cm（21・22）・8.5cm（23・24）を測る。II類もまた精緻な胎土をもち、口径約14.5cm（25・26）を測る。III類の土師質土器皿（27）は口径6.6cm・器高1.0cmを測る。胎土は赤みの強い皿（27）とそうでないものがある。それに対し、III類の瓦質土器皿は口径約9.5cm・器高1.3～1.8cm（28～30）、口径約11cm・器高2.0cm（31）と、土師質土器皿よりも口径が大型である。内面のハケ調整は、ハケが細かく丁寧に行われているもの（29～31）、放射状（28）もしくは粗く施したものなどがある。播鉢は大半が瓦質土器で、土師質土器のものは少ない。瓦質土器播鉢（33・34）は陶器播鉢を模した、口縁部の外面下方がやや垂れ下がった形をし、細かいハケで播目を施す。それに対し、土師質土器播鉢（32）の口縁部は下がらず、内面は丁寧にハケ調整後に櫛状工具で播目を施している。土師質土器播鉢は瓦質土器播鉢に比べて外面の調整が粗く、粘土紐痕が顕著である。羽釜もまた、一部土師質土器のものがあるが、多くは瓦質土器である。瓦質土器羽釜（36～38）は、口縁部が内傾し、内面に細かいハケ調整が施され、15世紀代のものが多く出土している。しかし、口縁部が直立し、ハケの目がやや粗い新しい瓦質土器羽釜（39）も出土している。このほか瓦質土器では、花瓶（35）や火鉢などが出土している。

このように、中世整地土Ⅲは15世紀後半以前に属する遺物も一定量あるが、多くは15世紀後半～16世紀前葉の遺物を包含した層であると考えられる。

第7面 第7面の調査地西側は火災の被害にあっており、焼土層が一部覆っていた。しかし、この火災に伴う焼土層は薄いため、出土遺物は数少なく、年代のわかる遺物を伴う遺構（654溝など）も少ない。



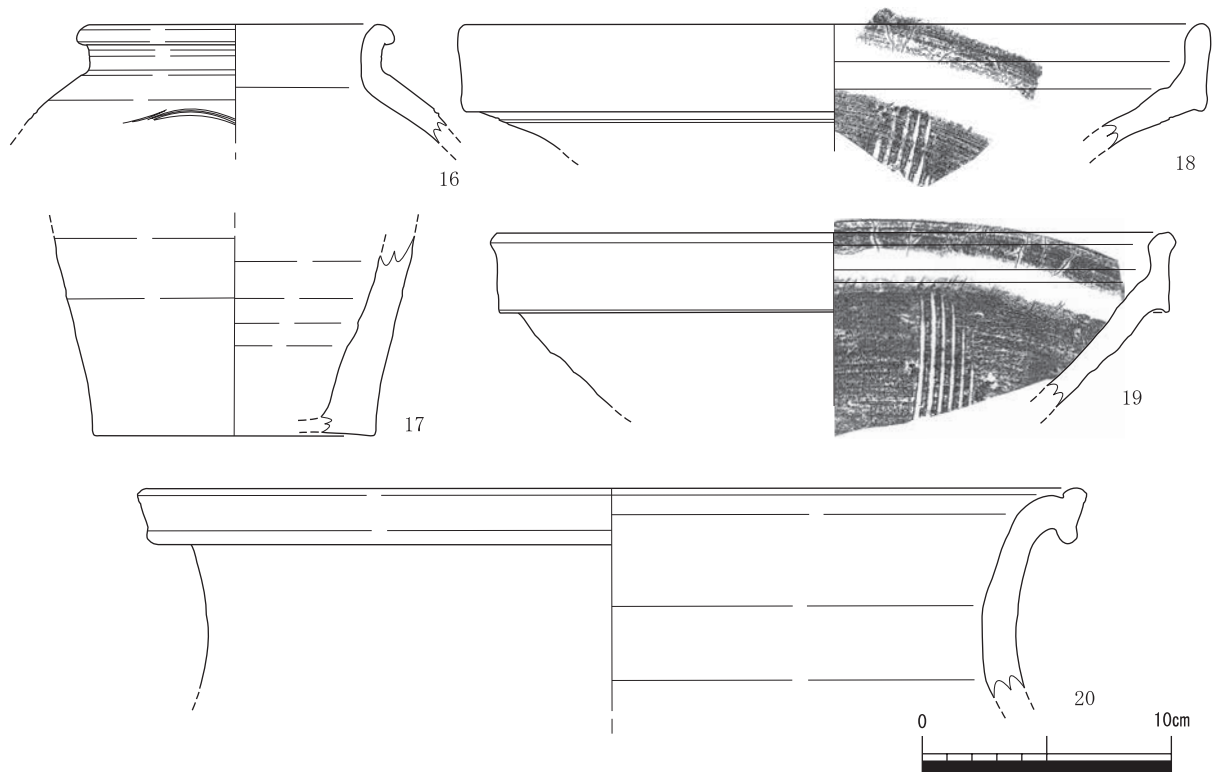
第65図 中世整地土Ⅲ出土遺物（1）

また、15世紀代の遺物のみを伴う遺構（681井戸・612小穴・632土坑など）も一部みられた。

681井戸（第68図） この井戸は出土遺物が少なく、瓦質土器のみ出土した。瓦質土器皿Ⅲ類（40）は内面を丁寧なハケ調整し、口径8.3cm・器高1.3cmを測る。一緒に出土した瓦質土器羽釜（43・44）は、口縁部が短く内傾し、外面はヘラ削り、内面は細かいハケ調整が施されている。瓦質土器羽釜（43）より瓦質土器皿（40）の方が新しい様相をもち、681井戸の出土遺物の年代観は15世紀中頃である。

612小穴（第68図） 瓦質土器羽釜（42）は、ほぼ完形で出土した。681井戸の瓦質土器羽釜（43・44）より口縁部がやや立ち上がり、内面のハケ調整の密度が粗いことから、15世紀後半のものである。

632土坑（第68図） ここからは上下方向に拡張した口縁部をもつ、13～14世紀代の丹波甕（45）



第66図 中世整地土Ⅲ出土遺物（2）

や瓦質土器花瓶（41）が出土した。丹波甕は古い様相をもつが、相伴遺物から15世紀後半の遺構である。

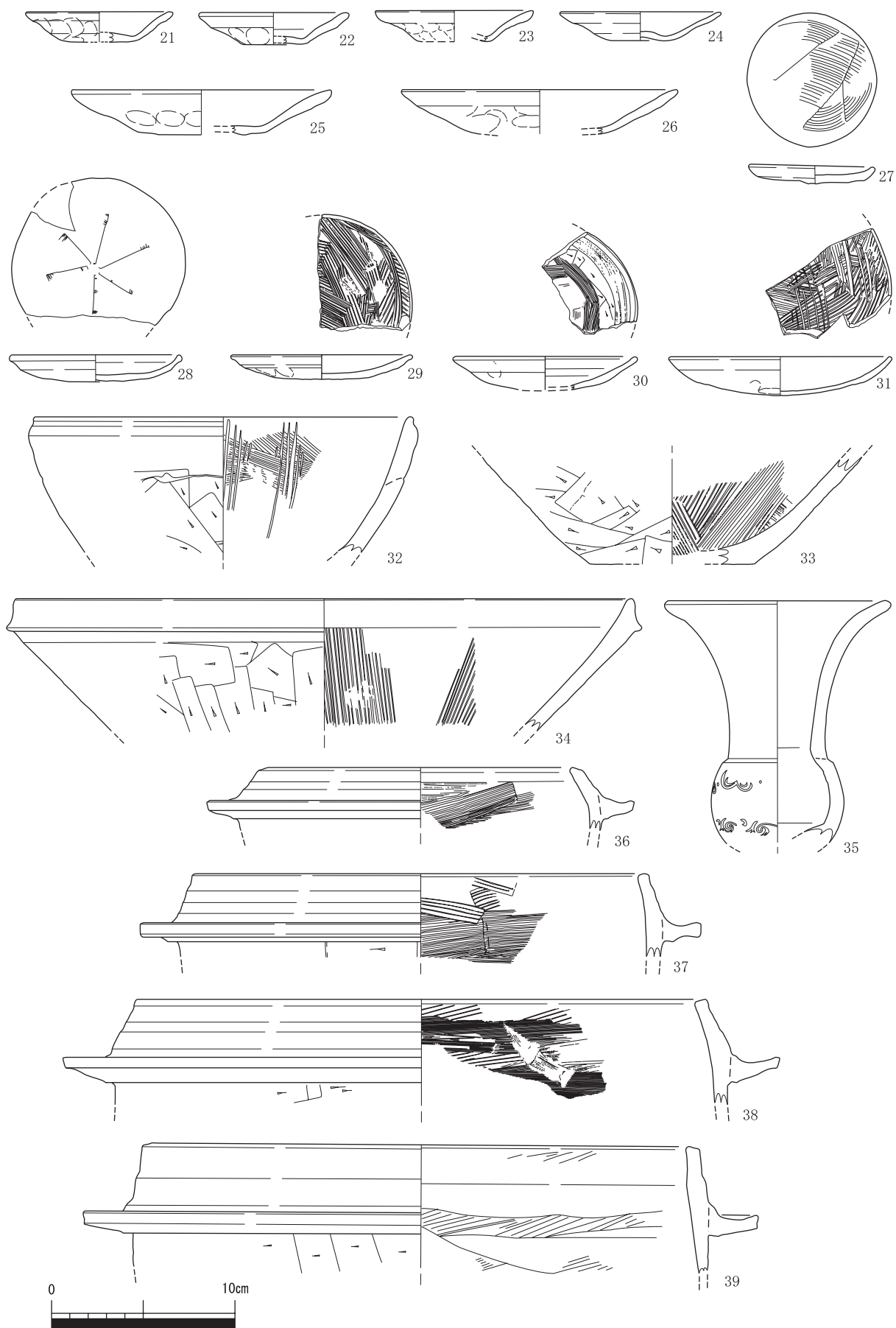
654溝（第69図） この溝からは備前播鉢（61・62）、瀬戸美濃灰釉端反皿（63）、土師質埴（64）などが出土している。土師質土器埴（64）は播磨型で、口縁部下の突帯は貼り付けではなく、強いナデにより形成される。

第7面焼土層（第69図） 第7面の火災被災遺物は少なく、土師質土器ⅢⅠ・Ⅱ・Ⅲ類、火鉢、瓦質土器ⅢⅢ類・羽釜、備前甕、中国製白磁ⅢE群、染付ⅢC群、瓦などが出土した。土師質土器ⅢⅠ・Ⅱ類はほぼ中世整地土ⅢのⅠ類と同じ大きさである。一方、土師質土器（57）・瓦質土器ⅢⅢ類（58）は口径約7.5cmと一回り小さくなっている。

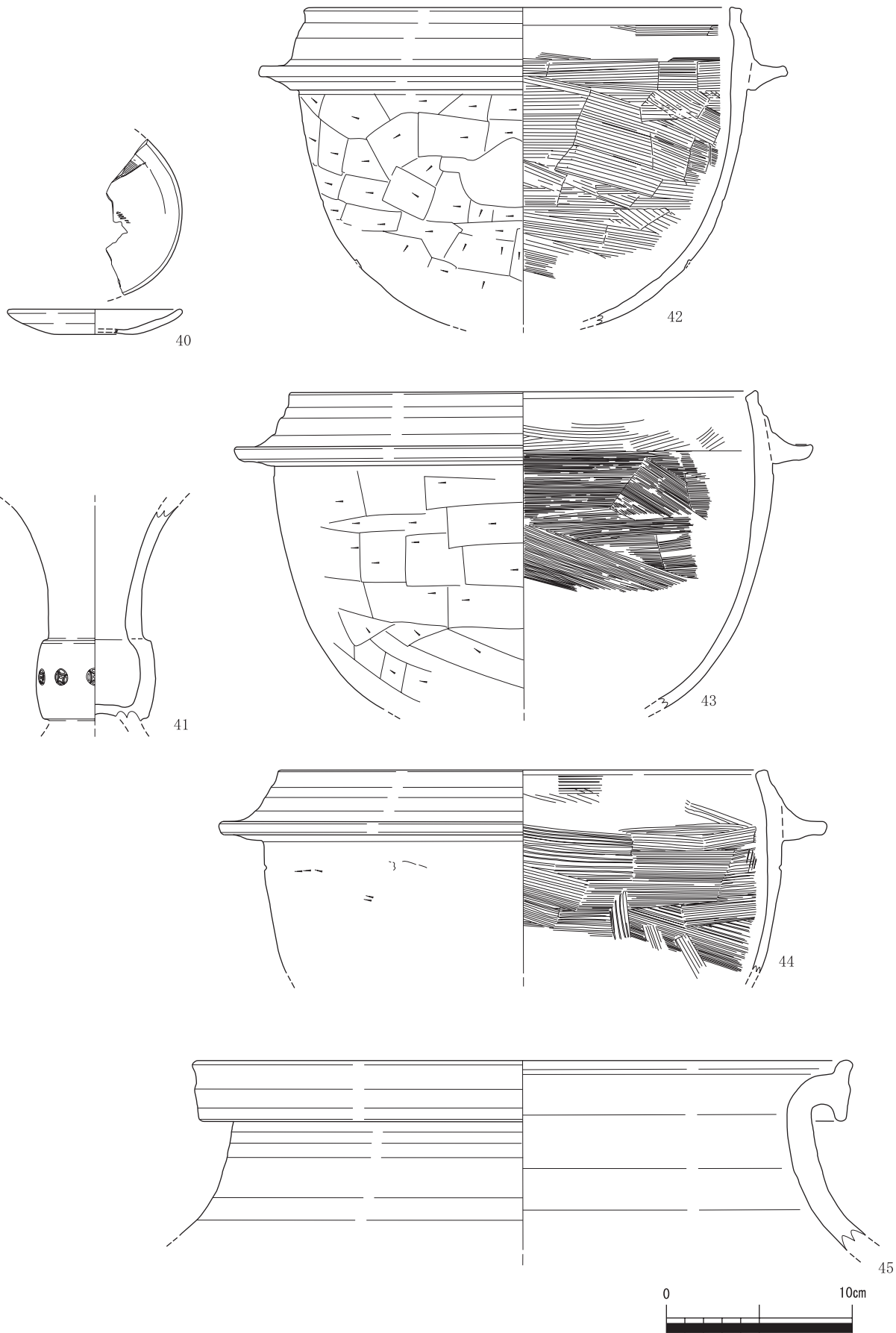
669焼土域（第69図） 第7面火災層では、とくにまとまって遺物が出土した地点を669焼土域としてとりあげた。ここからは、中国製染付ⅢC群・染付小杯、備前甕、硯、双六駒・碁石（585～591・593～602）、焼けた壁土などが出土している。中国製染付ⅢC群は華卉文（48～54）、玉取獅子文（55・56）が描かれ、華卉文Ⅲは9個体以上、玉取獅子文Ⅲは2個体以上出土しており、一部火災により釉薬が溶けて融着している（53・54）。底部は碁笥底で、口径約10cm、底径約5cmを測り、これより上面で出土する碁笥底Ⅲと比べて口径に対する底径が広く、古い様相を示す。また、硯（702・708）は凝灰質頁岩製で、火災による損傷が激しい。第7面火災の年代については、次の第6面火災の年代、第6面で検出した556焼土域との層位関係、669焼土域で出土した遺物の年代観より16世紀中葉であると考えられる。

中世整地土Ⅱ（第70・71図） 中世整地土Ⅱは、第7面焼土層直上から第6面の間に整地された層である。中世整地土Ⅲと比べて、出土遺物の組み合わせに変化はみられないが、出土遺物の量が増加し、特に瓦類の量が増加する。しかし、瓦葺建物が建っていたと言えるほどの量ではない。

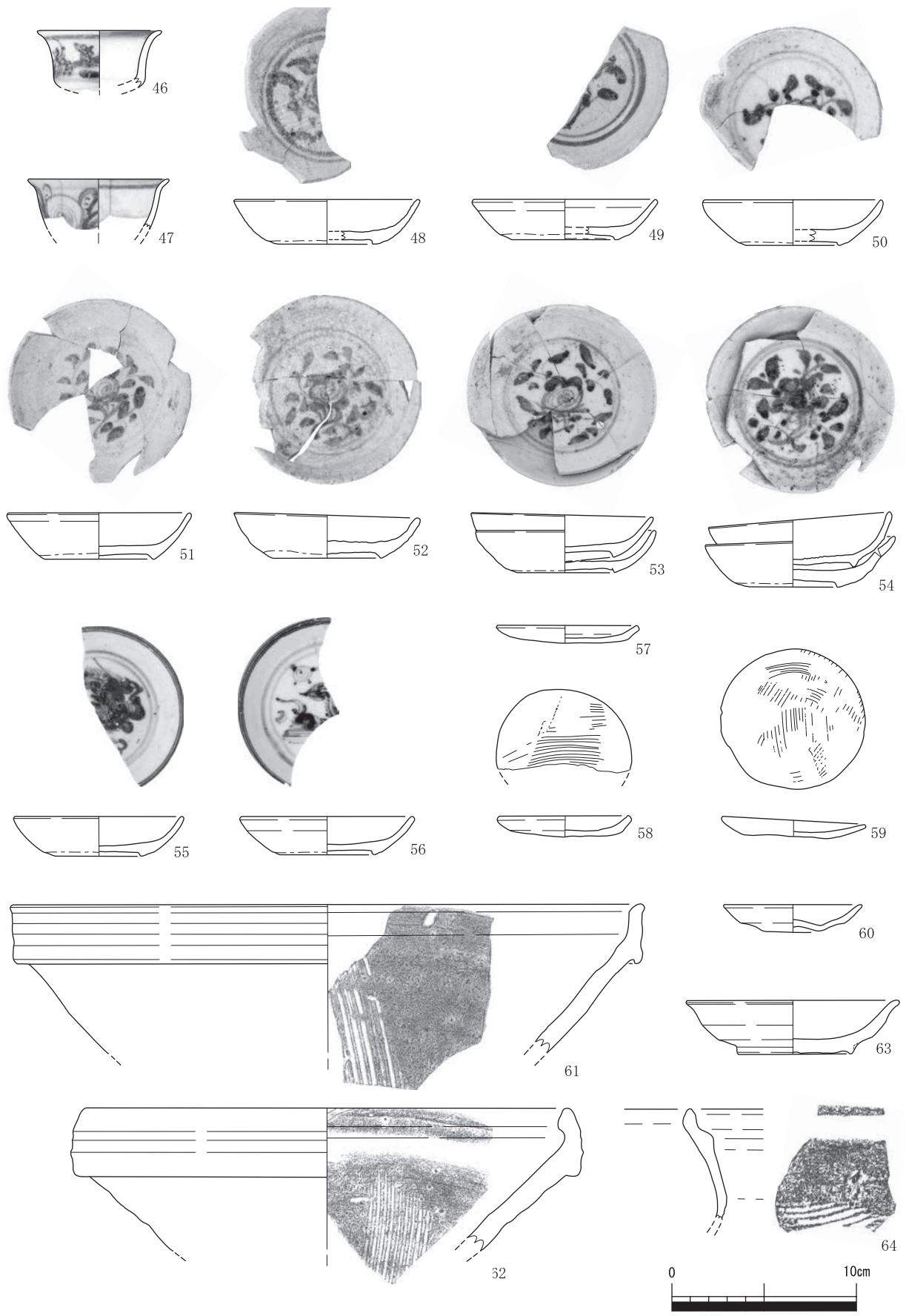
国産陶器では食膳具などの小型製品は少なく、焼締陶器の貯蔵具が多い。貯蔵具では備前壺（77）・甕が多いが、常滑甕、丹波、信楽壺（76）・甕（75）なども出土している。



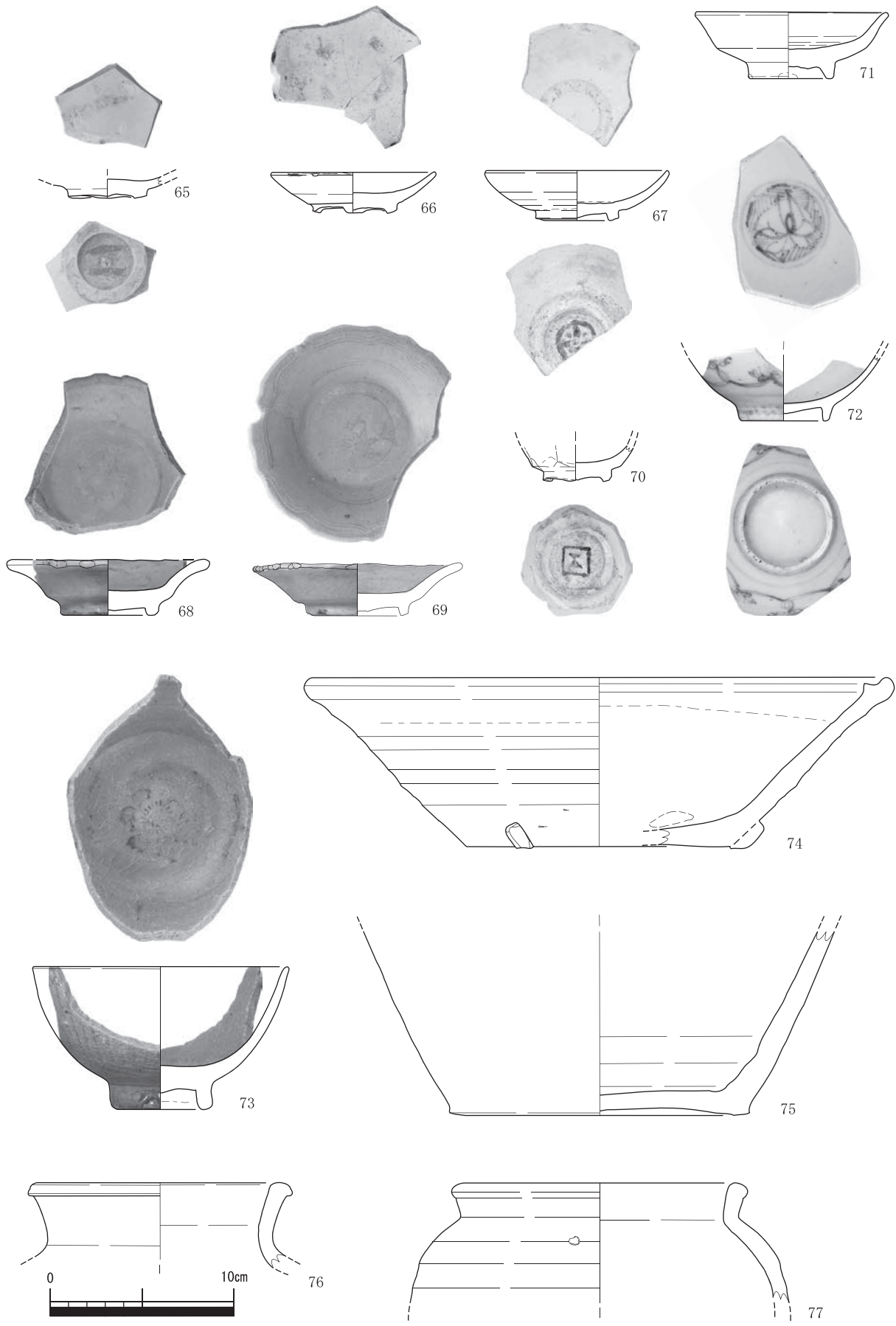
第67図 中世整地土Ⅲ出土遺物（3）



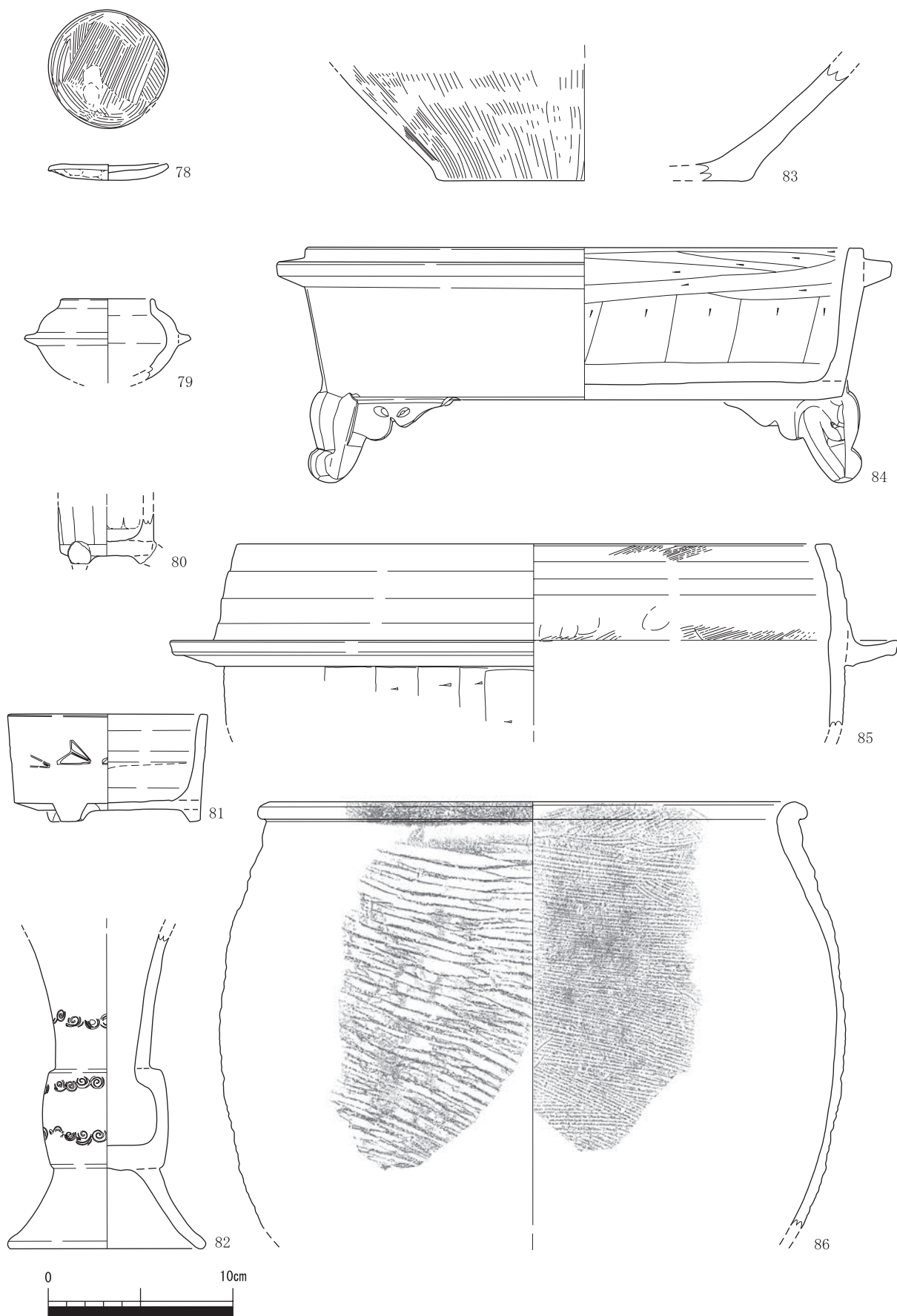
第68図 第7面遺構出土遺物



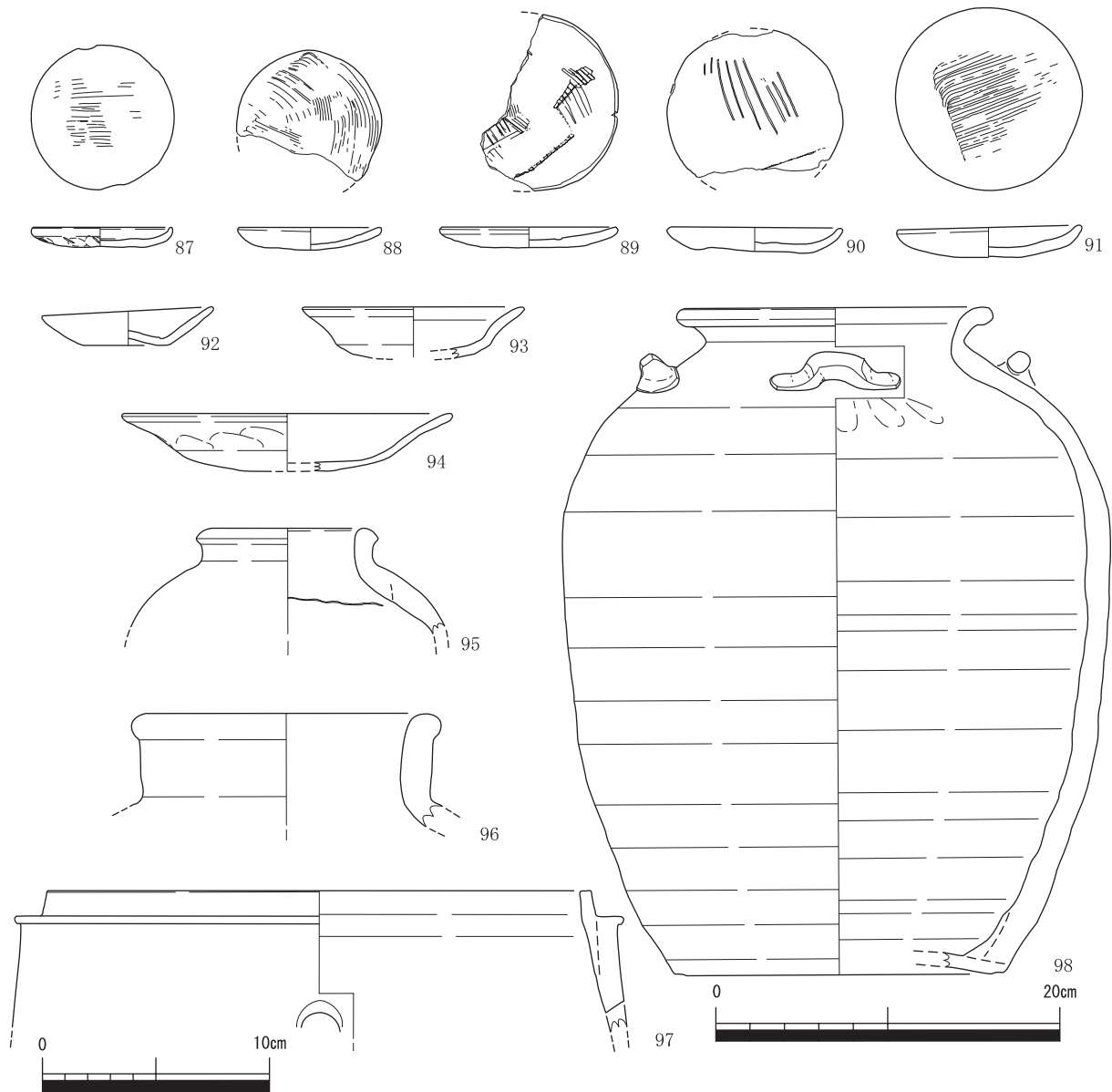
第69図 第7面焼土層・遺構出土遺物



第70図 中世整地土Ⅱ出土遺物（1）



第71図 中世整地土Ⅱ出土遺物(2)

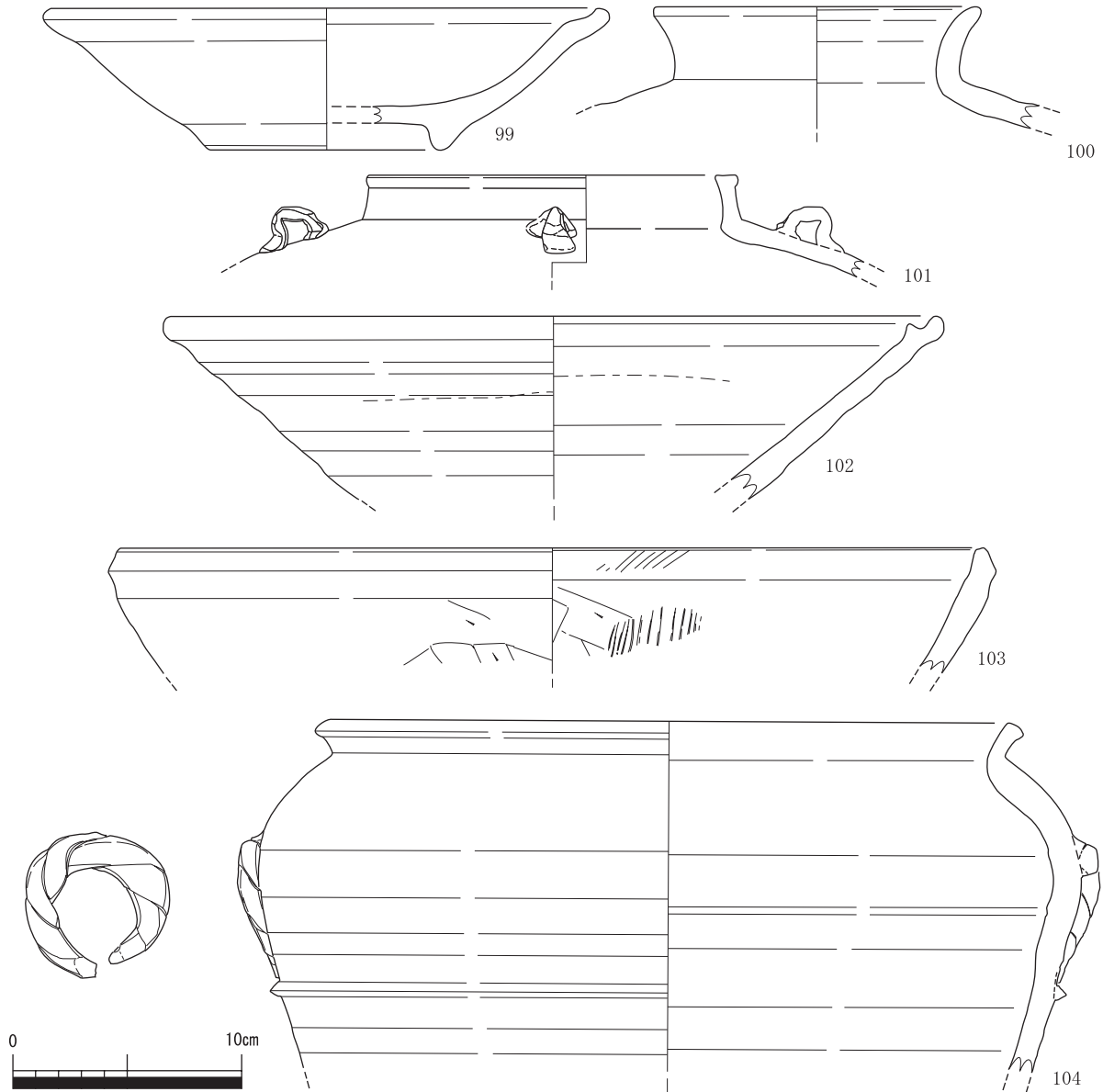


第72図 第6面遺構出土遺物（1）

貿易陶磁器は中国製白磁皿D群（65～67）・E群、青磁稜花皿（68・69）、線描きの蓮弁文青磁碗（以下、BⅣ類）（73）、幅広い高台をもつ染付碗D群（72）が出土した。白磁皿D群は高台を4箇所挟った皿（65・66）、蛇の目釉剥ぎ皿（67）があり、高台内に墨書が多くみられる。依然として青磁・白磁が多いが、染付も増加している。このほか朝鮮王朝製陶器灰釉端反皿（71）が出土している。

土器は依然として瓦質土器が多い。特に、花瓶（82）や火鉢（80・81・84）などの調度具が目立った。瓦質土器皿Ⅲ類（78）は内面のハケ調整が隙間なく入り、口径6.6cmを測る。このほかには瓦質土器ミニチュア羽釜（79）・鉢（83）・甕（86）などが出土している。土師質土器羽釜（85）は口縁部の立ち上がりが高く、やや内傾する。口径は大きく、約30cmを測る。

第6面 第6面もまた第7面と同様に、火災によって廃絶した面である。この面の焼土層も第7面と同様に調査地西側でのみ検出した。この火災に伴って掘られたと考えられる廃棄土坑のほか、火災時に開口していたとみられる土坑内にも、焼けた壁土や遺物が片付けられていた。とくに510井戸からは拳大以上の礫と共に多くの遺物が出土した。また、556焼土域上層の焼土層からは、第6・7面の火災

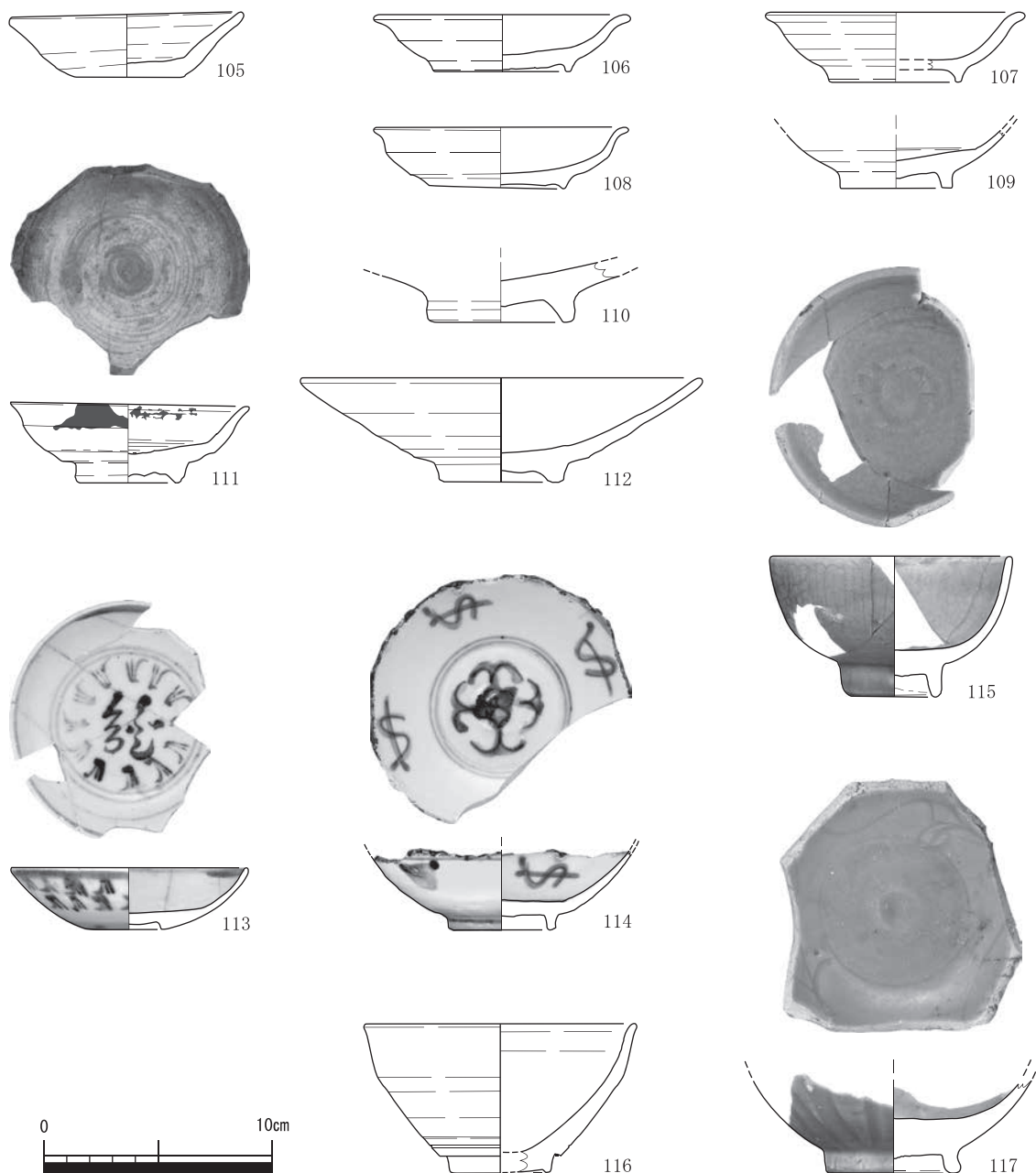


第73図 第6面遺構出土遺物（2）

年代を示す遺物が多く出土した。

556焼土域（第72図） 第6面火災により被災した530埴列建物建設時の整地土と、556焼土域間に堆積する焼土を含んだ層より、多くの焼けた土器皿、備前壺・甕・皿（93）、炭化した穀類、銅製品（659）などが出土した。このほか、銅滓なども出土しており、金属生産との関連性を示す。土器皿の組み合わせは下層と変わらないが、土師質と瓦質の判別のつかないものが多い。土師質土器皿Ⅰ類（92）は、口径約7.6cmを測る。土師質土器皿Ⅲ類（87・88）は口径が小さく、口径約6.0cmを測る。それに対し、瓦質土器皿（89～91）の口径は7.5～8.0cmとやや大型である。内面のハケ調整は下層の皿とは異なり、内面全体に施されるもの（88・89）と、形骸化したもの（87・90・91）がある。これらの皿は既存の調査での出土例から16世紀中葉に属するものであり、第7面火災層出土の皿（57～59）との間に形態差がみられないことから、第7面火災時期についても16世紀中葉という年代を導き出した。

510井戸（第72図） 出土遺物の大半は備前の甕・壺（95・96・98）である。瓦質土器火鉢（97）は外面に丁寧なミガキを施し、全体が火災の熱により赤く変色している。土師質土器皿（94）は口径



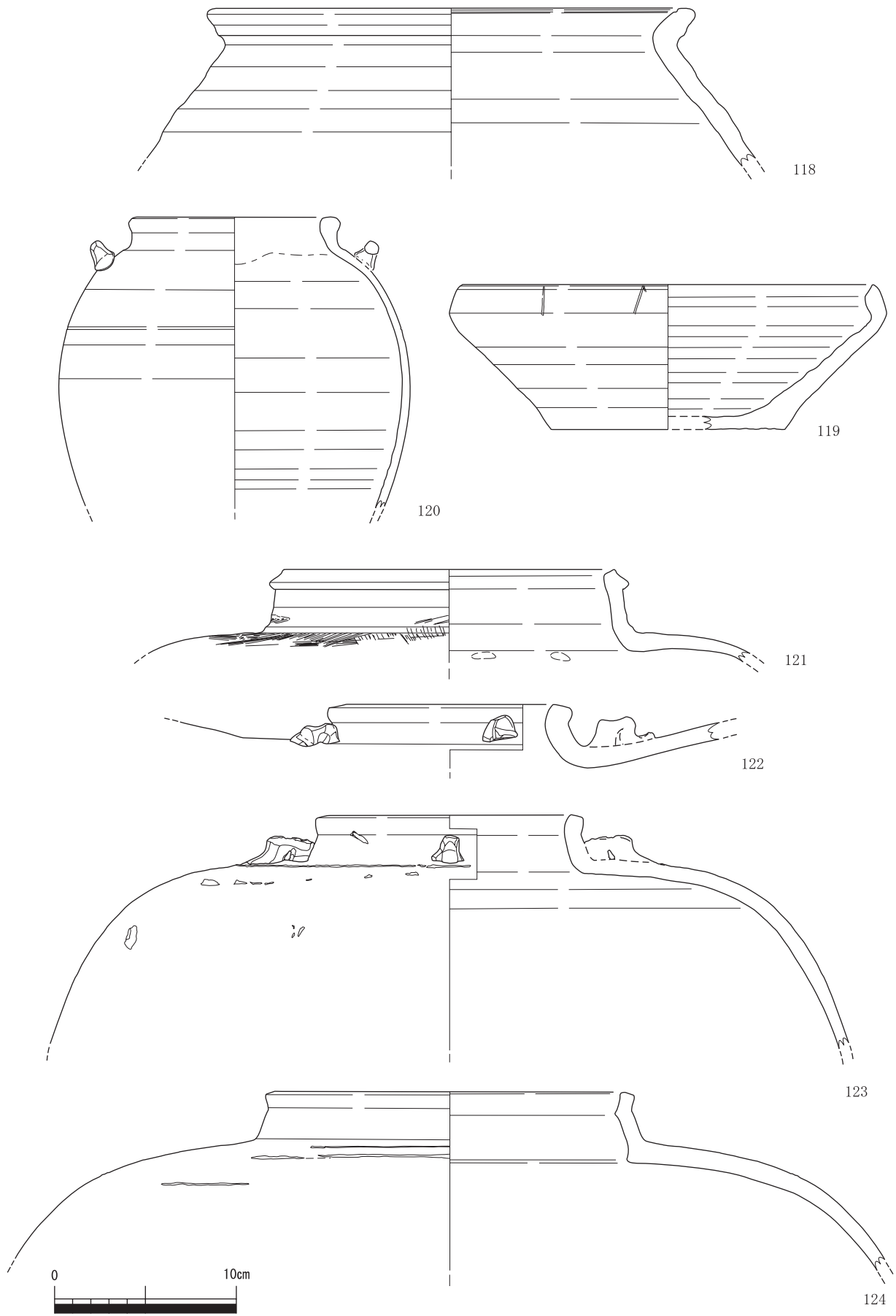
第74図 中世整地土 I 出土遺物 (1)

14.4cmを測る大型の手づくね成形の皿で、京都系の皿を意識して作られている。

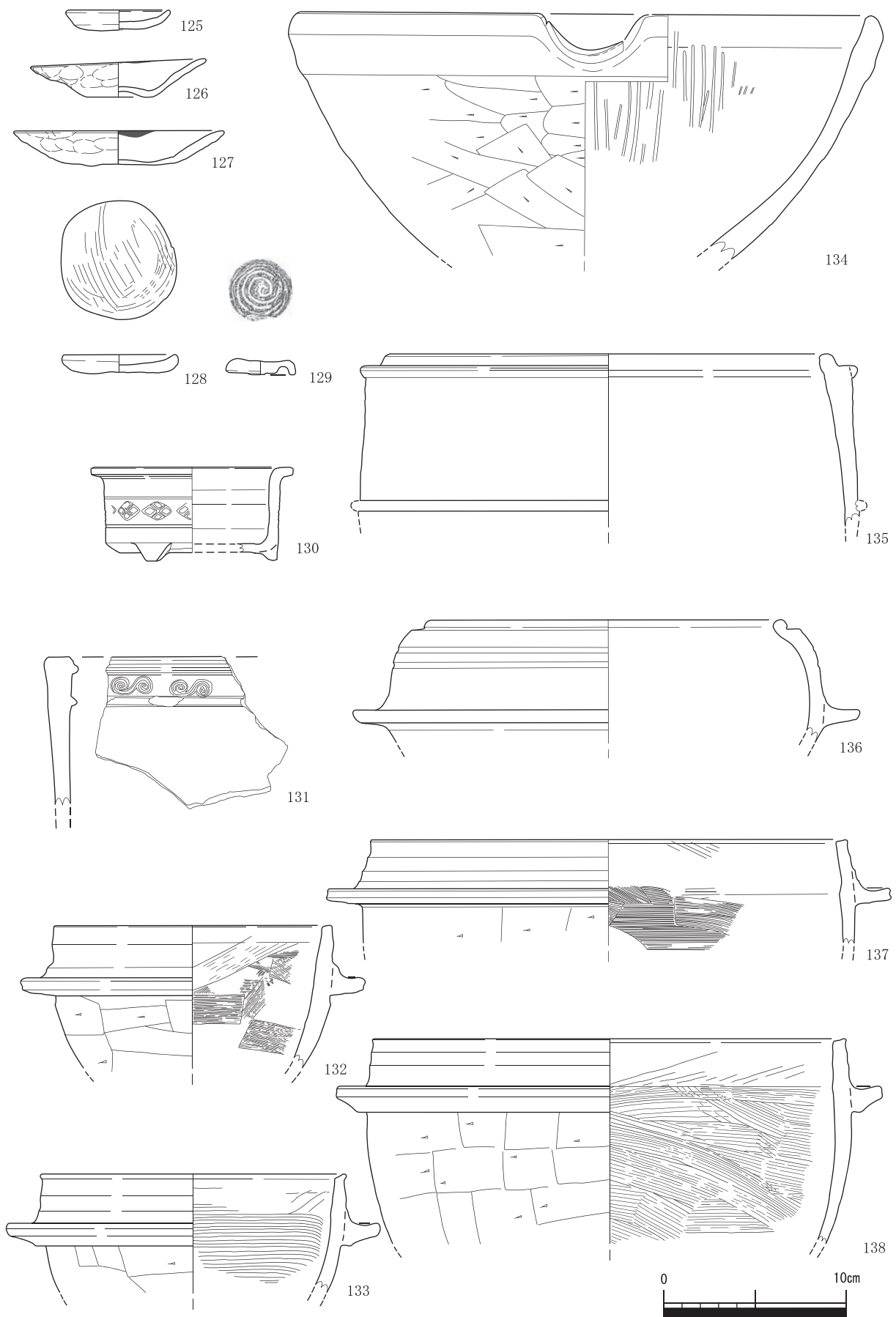
この他の焼土廃棄遺構などからは、丹波甕 (100)、備前水屋甕 (104)、中国製褐釉四耳壺 (101) や、中国製青磁皿 (99) が出土している。このように第6面火災の年代は、焼土層出土遺物、556焼土域出土土器皿の年代も含めて考えると、16世紀中葉と言わざるを得ない。このことより、今回の調査地は16世紀中葉の中で、第6・7面の2回の火災に被災したと考えられる。

中世整地土 I (第74~76図) 中世整地土 I は、第6面の火災後、次の第5面天正期火災面との間に整地された層にあたり、出土遺物の量も格段に増える。

国産陶器は依然として備前を中心としており、それに続いて瀬戸美濃、丹波が出土し、常滑はみられない。備前の皿は口径が5.2cmと小さく浅い皿と、斜めに開いた皿 (105) の2種類が出土したが、数は少ない。大半はやはり壺・甕・播鉢である。瀬戸美濃は天目碗 (116) が少量出土するが、多くは高台



第75図 中世整地土 I 出土遺物 (2)



第76図 中世整地土 I 出土遺物 (3)

を低く三角形に削り出した灰釉端反皿（106～108）であり、丸皿は少ない。

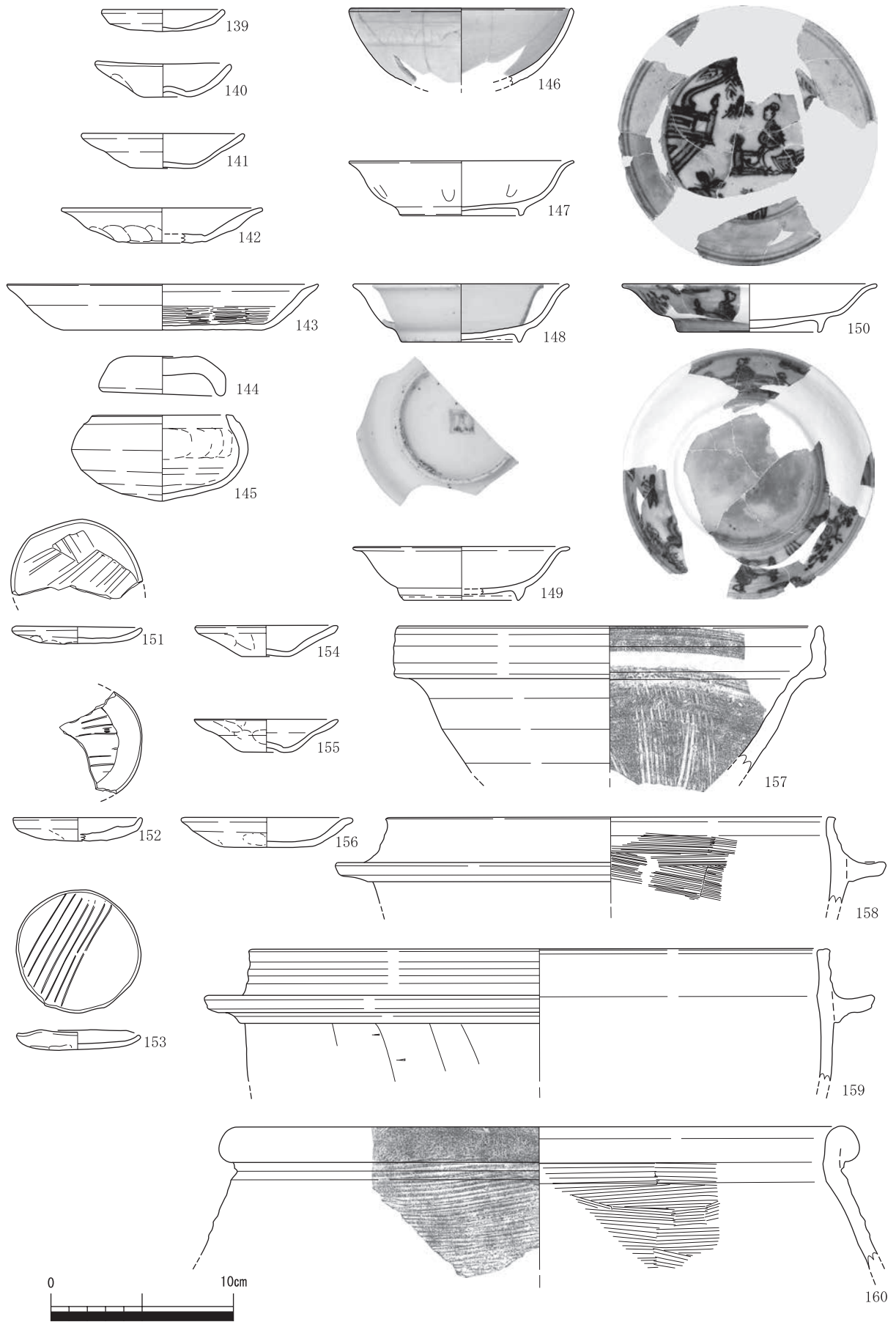
貿易陶磁器は、中国製染付が増加し、朝鮮王朝製陶磁器も目立ち始める。中国白磁皿E群、青磁稜花皿・片切り彫りの蓮弁文をもつ青磁碗（以下、BⅢ類）（117）・BⅣ類（115）は出土量が減少する。梵字文と龍字を描いた染付皿C群（113）は、口径10.4cm・底径2.8cmを測る。このほか、灯明皿に転用された、十字花文皿（114）なども出土している。中国製陶器の出土量は多くないが、壺類が目立つ。黄釉双耳壺（120）は薄手の丁寧なつくりで、他の中国製陶器壺に比べて小型である。大型の壺は微妙に口縁部の形態や耳の数、釉薬が異なる。頸部から肩部にかけて大きく反りあがった黒釉五耳壺（122）は、外面に黒釉をかけ、表面が所々せんべいの様に膨れ上がっている。褐釉壺で図示できたものは2個体あり、外面に焼成時の痕跡（重焼き痕跡か）がリング状に幾筋もまわる（123・124）。このほか図示できなかった個体もあり、これらの大型壺は、中世整地土Ⅰからの出土量が一番多かった。朝鮮王朝製陶磁器は、浅く開いた形態の碗（110・112）、灰釉皿（109）・刷毛目文皿（111）が出土している。浅く開いた碗は陶器灰釉碗（112）と白磁碗（110）があり、白磁碗はやや軟質である。刷毛目文皿（111）は見込みに渦を彫り、高台も渦高台状である。口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されている。

土器をみると、瓦質土器の出土量が一気に減少し、その中で出土する瓦質土器自体も、大和の瓦質土器と考えられるものが大半である。また、瓦質土器か土師質土器の峻別がつかない遺物も多い。土器皿では瓦質土器皿が激減し、それと共にⅢ類の皿も減少している。土師質土器皿Ⅰ類（126）は口径9.5cm、Ⅱ類（127）は口径11.2cmを測る。Ⅲ類は口径が下層のものより小型化し、土師質土器皿Ⅲ類（125）は口径5.1cm、瓦質土器皿Ⅲ類（128）は口径6.8cmを測る。土師質土器播鉢は、第6面で出土した土師質土器播鉢のように内面に明瞭なハケ調整痕もなく粗いつくりである（134）。瓦質土器火鉢は引き続き円筒形で無文の火鉢（135）や、体部にスタンプ文が巡る小型の火鉢（130）・大型の火鉢（131）などがみられる。羽釜は前段階に比べてさらに口縁部が直立し、内面のハケ調整が粗いものが多い（132・133・137・138）。また、ほかの羽釜とは異なり、口縁部が内湾する羽釜は大和のものである（136）。形態の違いとは別に、口径の小型のものとは大別でき、小型のものは15cm前後（132・133）、大型のものは25cm前後（137・138）である。小型のものは江戸後期に多く見られる陶器土鍋と同じような大きさであり、用途や使用する竈などによる規制や、使用感による大きさか。

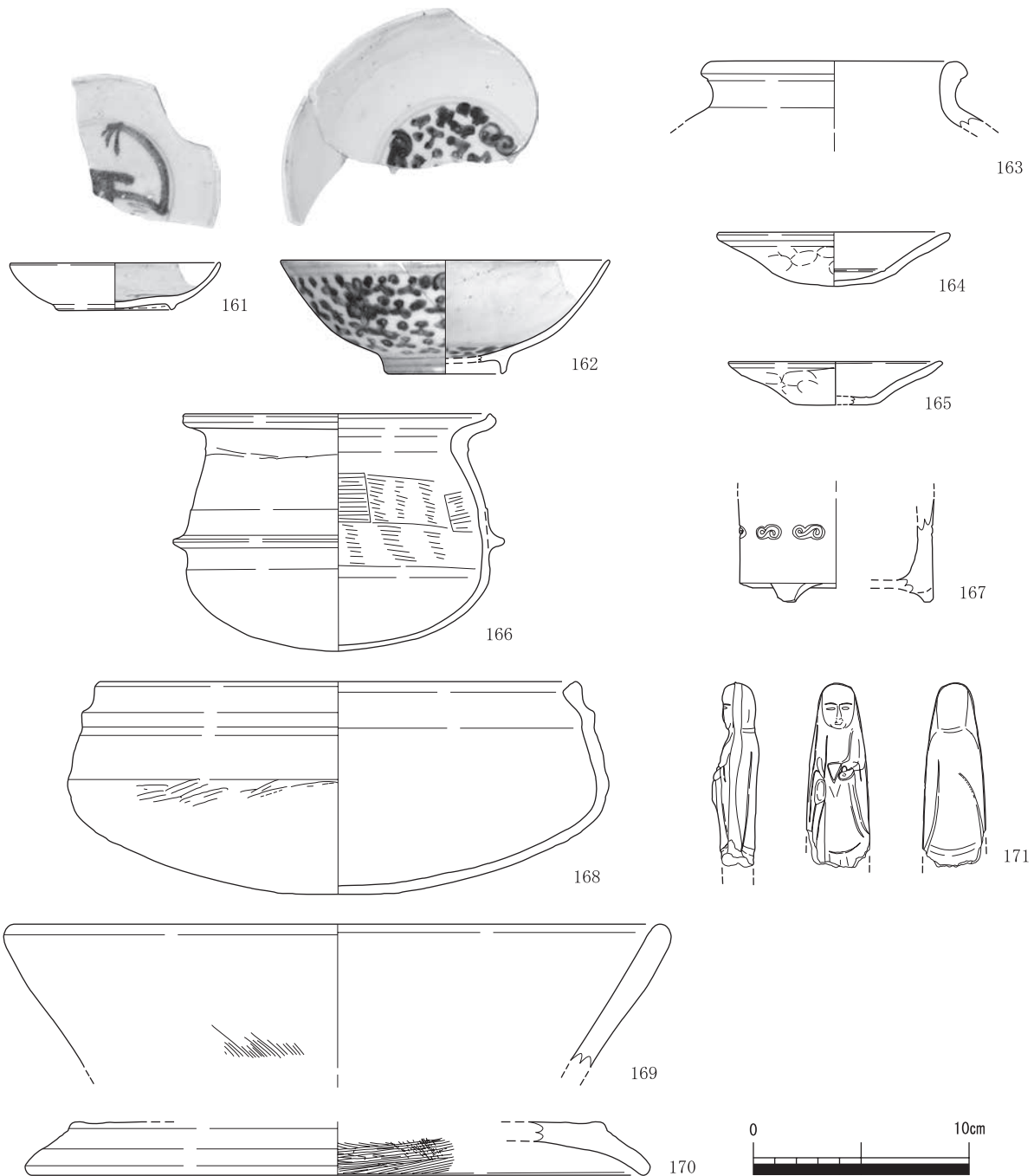
第5面焼土層（第77図） 第5面は火災の焼土層が調査地全域に広がり、火災により被災した遺物も数多く出土した。特に、壁土・瓦類の出土量は増え、塙列建物の増加に伴うものか。

中国製は白磁皿D群が姿を消し、E群のみとなる。胎土の厚い青磁碗B（蓮弁文）・E類、稜花皿もまた姿を消したが、これら龍泉窯系の厚手の碗・皿類に代わって、景德鎮窯系の薄手の製品が登場する（147）。このほか、染付類は端反皿B群（150）を中心に出土している。

土器皿は引き続き下層と同じタイプのもので出土している。瓦質土器皿はほとんど姿を消し、残っている瓦質土器皿Ⅲ類も、内面のハケは一搔きである（153）。土師質土器皿（139・151・152）・瓦質土器皿共にⅢ類は口径約6.5cmを測る。土師質土器皿Ⅰ類は口径約7.5cmを測る（140・154・155）。土師質土器皿Ⅱ類は口径9.0cm前後（141・156）、11.0cm前後（142）を測る。塙列建物上から出土した土師質土器壺（145）は、手づくね成形で、口縁部が蓋受状になっていることから、蓋を伴っていると考えられる。底面一杯には墨書で和歌のようなものが書かれている（図版25）。判読は難しく、「おやしきの・・・」までしか判読し得なかった。また、すぐそばで鉄鍋（684）も見つかっている。また、焼塩壺（144）がみられるようになるのもこの時期からである。



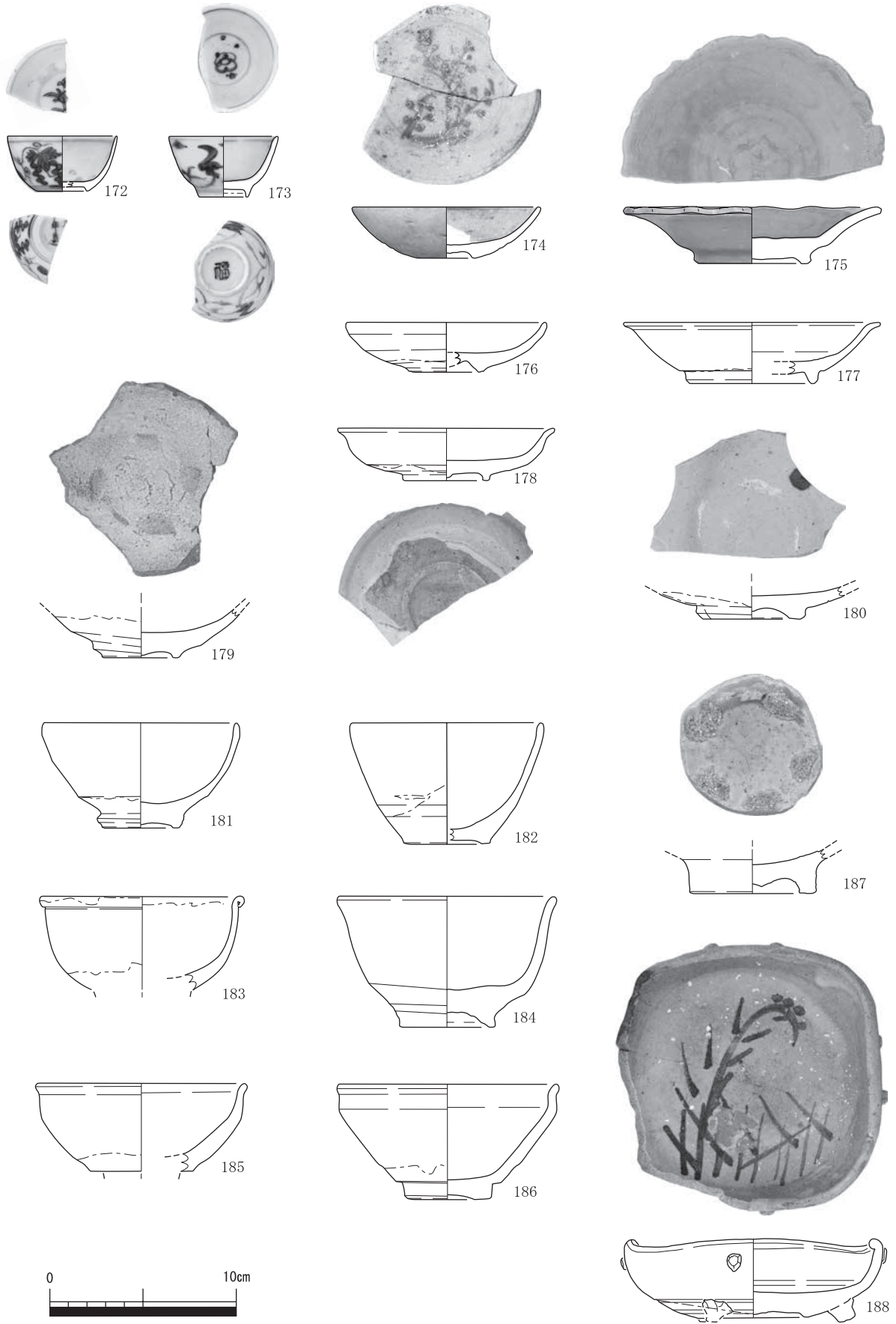
第77図 第5面焼土層出土遺物



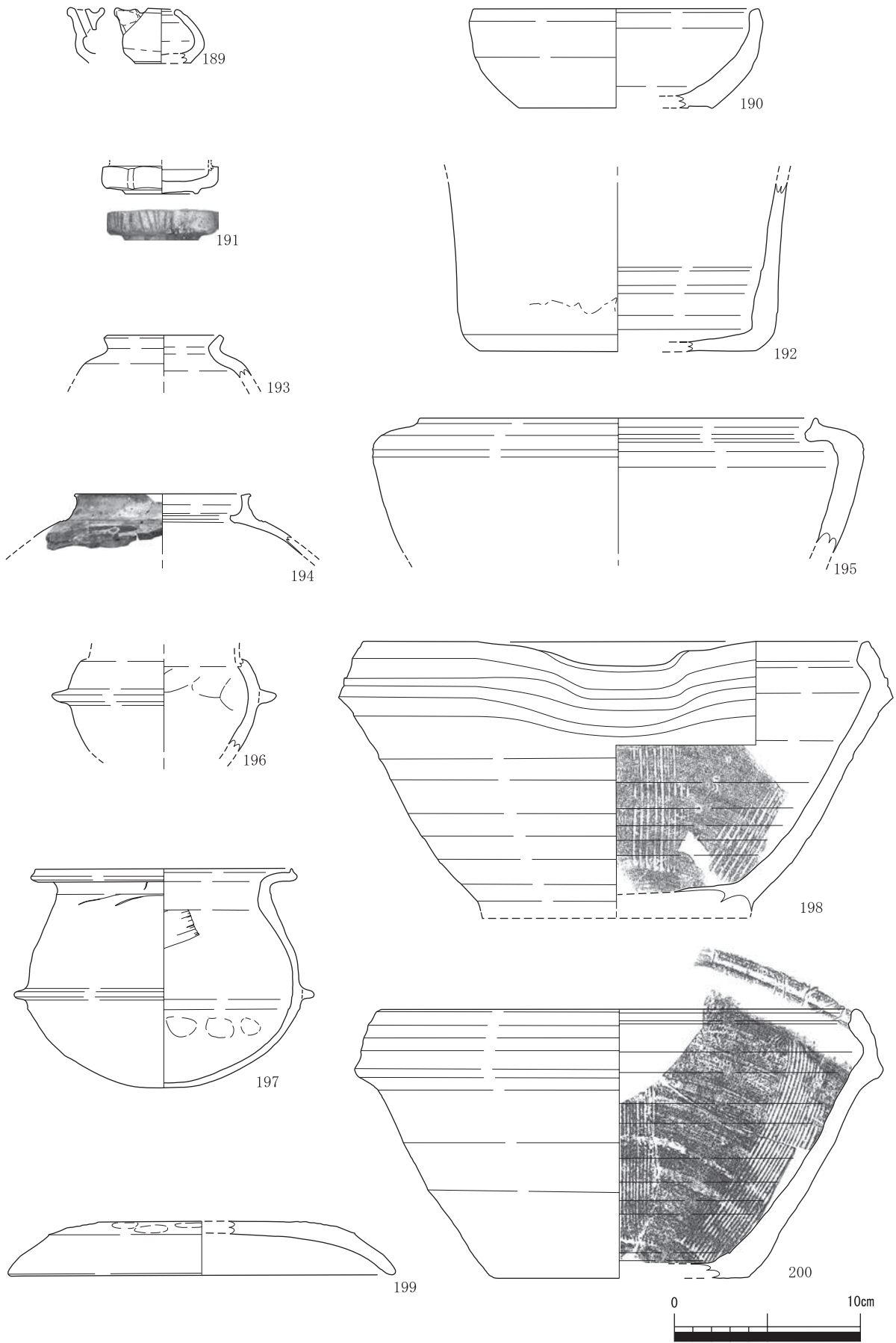
第78図 第5面遺構出土遺物

第5面遺構（第78図） 第5面で検出された遺構からは焼けた遺物が多く出土している。これらの遺物の中で目立ったものには大和型の土師質土器羽釜（166）がある。この羽釜は口径約15cmと、口径約20cmの2つに大別でき、中世整地土I でみられた羽釜の大小サイズと近い値を示す。このほか珍しいものでは、455小穴から出土した土人形（171）があげられる。型合せ成形で、側面の接合部をヘラで削る。近世後期になると型作りの人形は現れるが、16世紀代には珍しく、信仰などに関わる特別なものと考えられる。SKT642地点の調査報告書では13体以上の同じタイプの人形が報告されている。

第5面の火災年代についてしてみると、直上の層からは肥前陶器・志野が出土しているが、この面からは出土していない点が一つ特徴としてあげられる。このほか、備前播鉢の播目が斜め交差するものがほとんどみられないことなどから、天正3（1575）年の火災ではないかと考えられる。



第79図 天正整地土出土遺物（1）



第80図 天正整地土出土遺物（2）

天正整地土（第79・80図） 第5面の火災後、次の第4面との間に整地された層である。この層からは、肥前陶器・志野など桃山陶器が数多く出土した。

国産陶器では、肥前陶器・備前の出土量が多い。特にこれまで出土していた国産陶器の食膳具は、極少量の備前皿を除いて瀬戸美濃灰釉皿が大半を占め、碗は瀬戸美濃天目碗が少量出土するのみであった。それが、天正整地土からは、碗・皿に加えて鉢の出土量が増える。肥前陶器皿には丸皿（176）と端反皿（178）があり、灰釉（178・179）もしくは藁灰釉（176）が掛かる。碗には内湾する碗（181）、高台際を削らない碗（182）、端反碗（184）があり、灰釉を掛ける。高台脇の削りは不明瞭なものが多い。口縁端部が無釉になっている鉛釉鉢は、口縁部が玉縁状になることから、片口鉢になる可能性がある（183）。また、時代的特徴ともいえる、鉄絵を施した鉢も出土している（188）。底部を碁笥底状にし、脚を3足つける。丸くロクロで挽いた鉢を方形に変形させている。このほか、鉄絵香合（191）なども見つかった。一方瀬戸美濃は、引き続き天目碗（185・186）が出土している。食膳具以外では、鉄釉水注（189）、鉄釉水指（192）などもある。備前も様相に変化がみられる。下層では壺・甕・搦鉢を中心としていたが、この整地土からは、それ以外に鉢（190）・瓶・水指（195）など、出土する器種のバリエーションが増えている。また、胎土が精緻で、薄手の製品も多い。

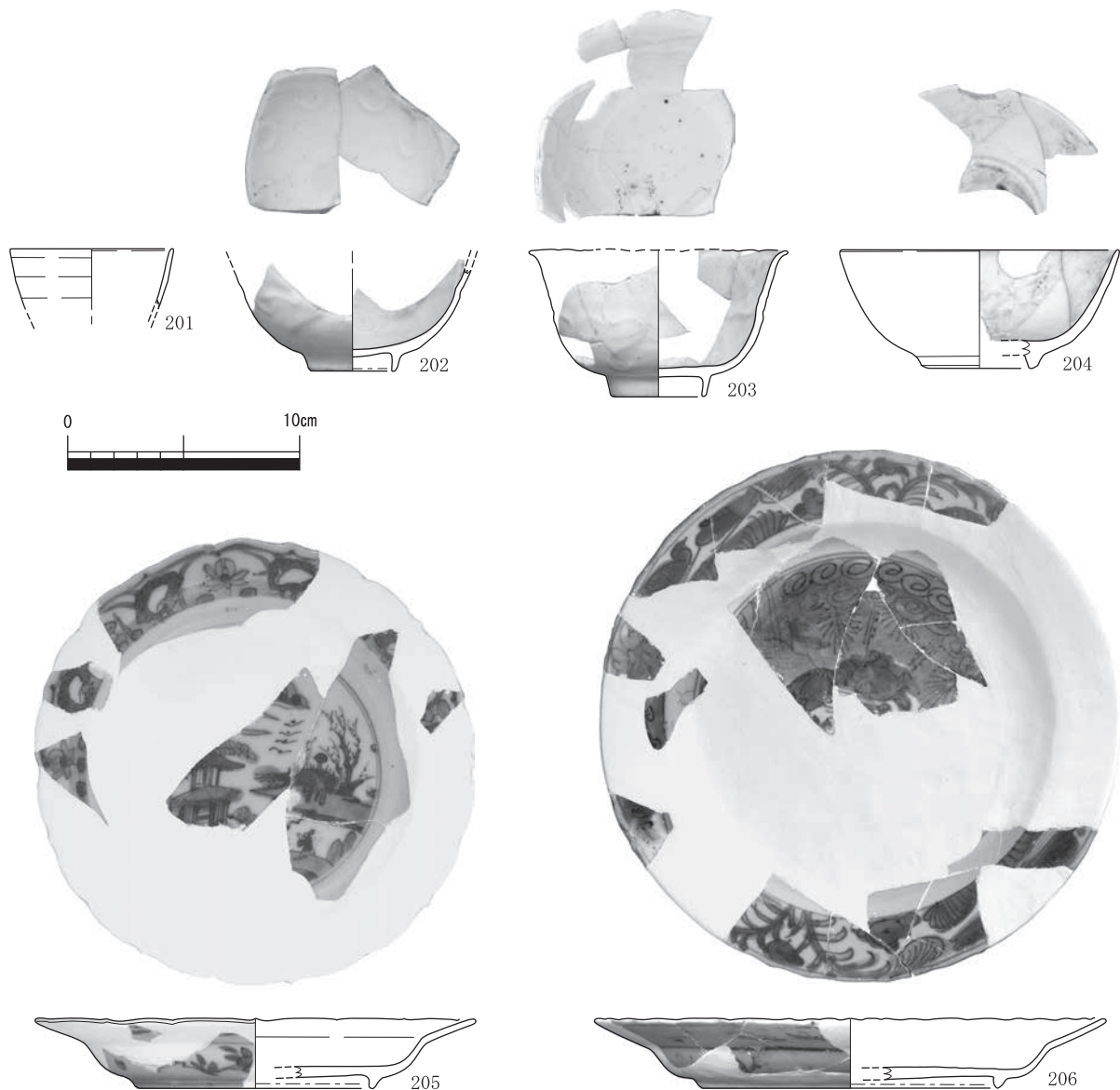
貿易陶磁器は引き続き中国製陶磁器・朝鮮王朝製陶磁器が出土している。中国製染付皿C群（174）は、口径9.9cm・底径2.4cmを測り、第7面669土坑出土の皿（48～56）より、口径に対する底径の大きさが小型化している。高台無釉粗製皿（177）などもみられる。このほか、丁寧に文様を描いた小杯（172・173）などが出土している。中国製陶器は中世整地土Iに比べて出土量が減るが、その中で1個体のみ鉄絵の施された壺（194）が出土した。口縁上端部には平坦部が設けられ、無釉である。外面には白化粧土が施され、その上から鉄釉で文様を描き、透明釉が掛けられる。朝鮮王朝製陶磁器は、やはり碗・皿類が中心である。ために削り出された高台をもつ白磁皿の砂目痕は、細かな砂で細長い痕を残す（180）。一方、粗い胎土で、薄青色に発色する釉薬を掛けた碗の砂目痕は、粗い砂粒で丸い痕を残す（187）。

土器は、皿類の皿がほとんどみられなくなり、皿類の延長上にあると考えられる口径5.0cm前後の土師質土器皿や、I・II類の皿が出土する。羽釜は、大和型の土師質土器羽釜（197）の出土量が増える。

第4面 第4面は慶長20（1615）年の被災面である。調査地ほぼ全域に焼土層が広がり、幾つかの大型焼土処理遺構（010土坑・279土坑・489井戸など）を検出した。また、第5面では埴列建物内から被災遺物はほとんど出土しなかったが、この面では162埴列建物より多量の遺物が出土した。

162埴列建物（第81～85図） ここからは、建物全域を調査できなかったにもかかわらず、多くの遺物が出土した。出土遺物の多くは焼けた瓦であり、次に多いのは中国製磁器である。碗類は少なく、薄手の白磁小杯（201）・白磁型押碗（202・203）・漳州窯系染付碗（204）など少数である。特に、漳州窯系の染付碗は極少量である。一方、皿類は大小様々な大きさで、揃い組のものも多い。口径25cm以上の皿は漳州窯系染付皿（210・217・224）で、これらは1点ものである。口径20cm以上の皿は、景德鎮窯系の樓閣山水文皿（205）・鹿文皿（206）が出土している。樓閣山水文皿は別個体分の破片も出土している。口径13cm前後の皿は一番多く出土した。この大きさの皿は様々な形態と文様パターンのものが出土したが、擬人化猿文皿（207）、獅子文皿（211・212）、宝文皿（213・214）、名山手輪花皿（218～221）、芙蓉手浅鉢（222・223）などはそれぞれ複数個体出土している。中国製陶器は出土していない。それ以外にはベトナム製陶器長胴壺片はみられたが、朝鮮王朝製陶磁器はみられなかった。

国産陶磁器では、肥前陶器と備前が大半を占める。肥前陶器では鉄絵皿（228・229）や鉄絵片口鉢（230）

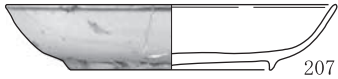


第81図 162塚列建物出土遺物（1）

のように鉄絵を描いた製品は少なく、大半が灰釉碗（226・227）・皿（231）である。その中で、口径32.6cmの大皿（236）は、灰釉を流し掛けて装飾しており、異色である。そして備前は壺（232・233）・瓶・大平鉢（235）などが出土したが、肥前陶器に比べて数は少ない。また、瀬戸美濃皿（225）などはみられたものの、志野や織部はない。このような偏りは、持ち主の嗜好性を表していると考えられる。

279土坑（第86図） ここからは、焼けた大量の瓦、瀬戸美濃鉄絵皿（241・244）と共に、備前甕（243）ほぼ1個体分が出土した。瓦は細片になるものは少なく、原形を留めているものが多かった（773・781）。すぐそばの塚列建物に葺いていた瓦を廃棄したのだろう。

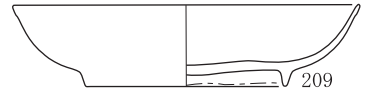
489井戸（第86図） この井戸は井筒に井戸椀瓦（753）を使用した井戸である。ここからは、瀬戸美濃灰釉皿（242）・鉄絵皿（245）や、中国製染付名山手輪花皿（248）・唐草文碗（247）・瓦などが出土しており、被熱痕跡を伴うものが多い。これらの陶磁器のほか、漆器椀、砂岩石臼、花崗岩石臼、鬼瓦（784）なども出土した。花崗岩石臼（747）は、焼けた角柱の跡が焦げ付いており、礎石として転用したものが火事で被災し、廃棄されたようである（図版23-4）。焼けた柱の痕跡は約10cm角である。



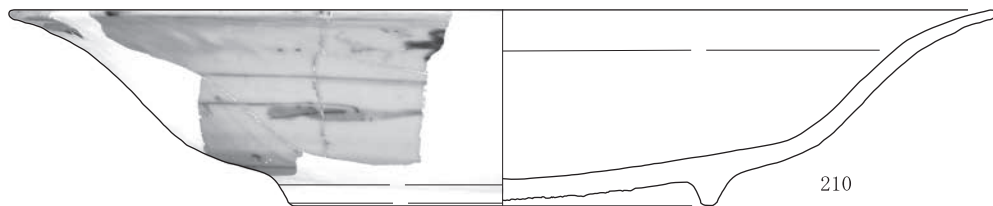
207



208

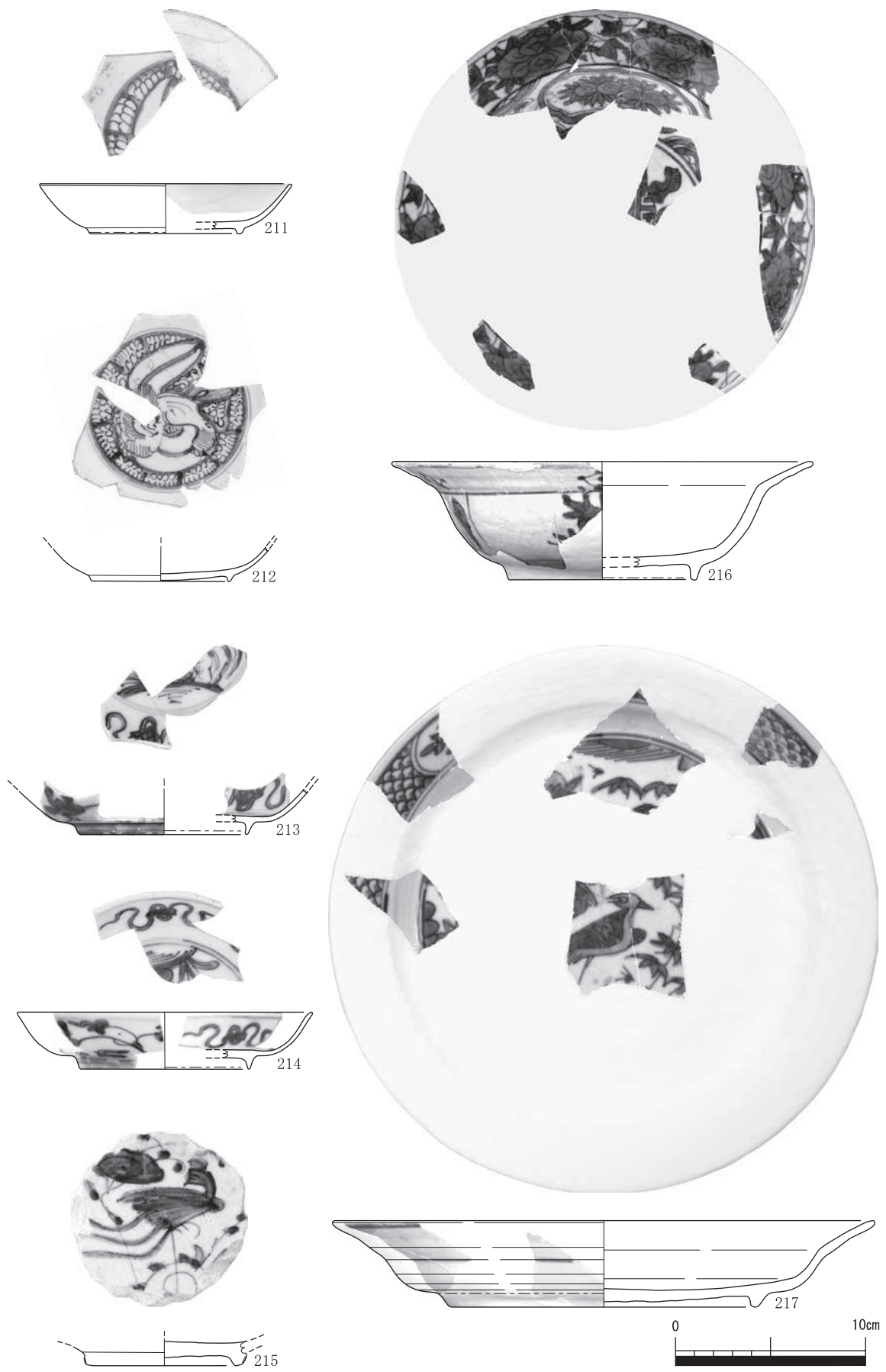


209



210

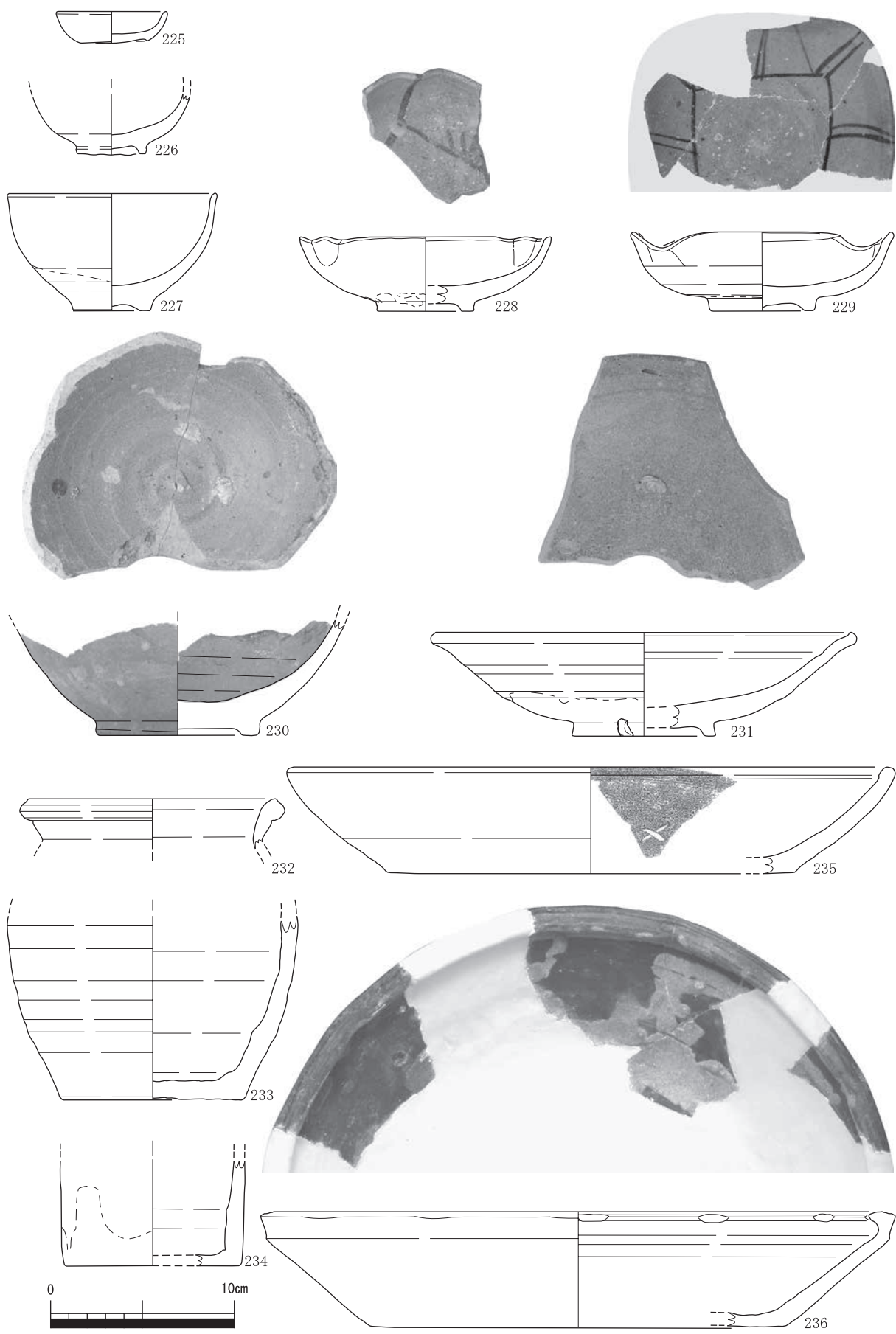
第82図 162埴列建物出土遺物（2）



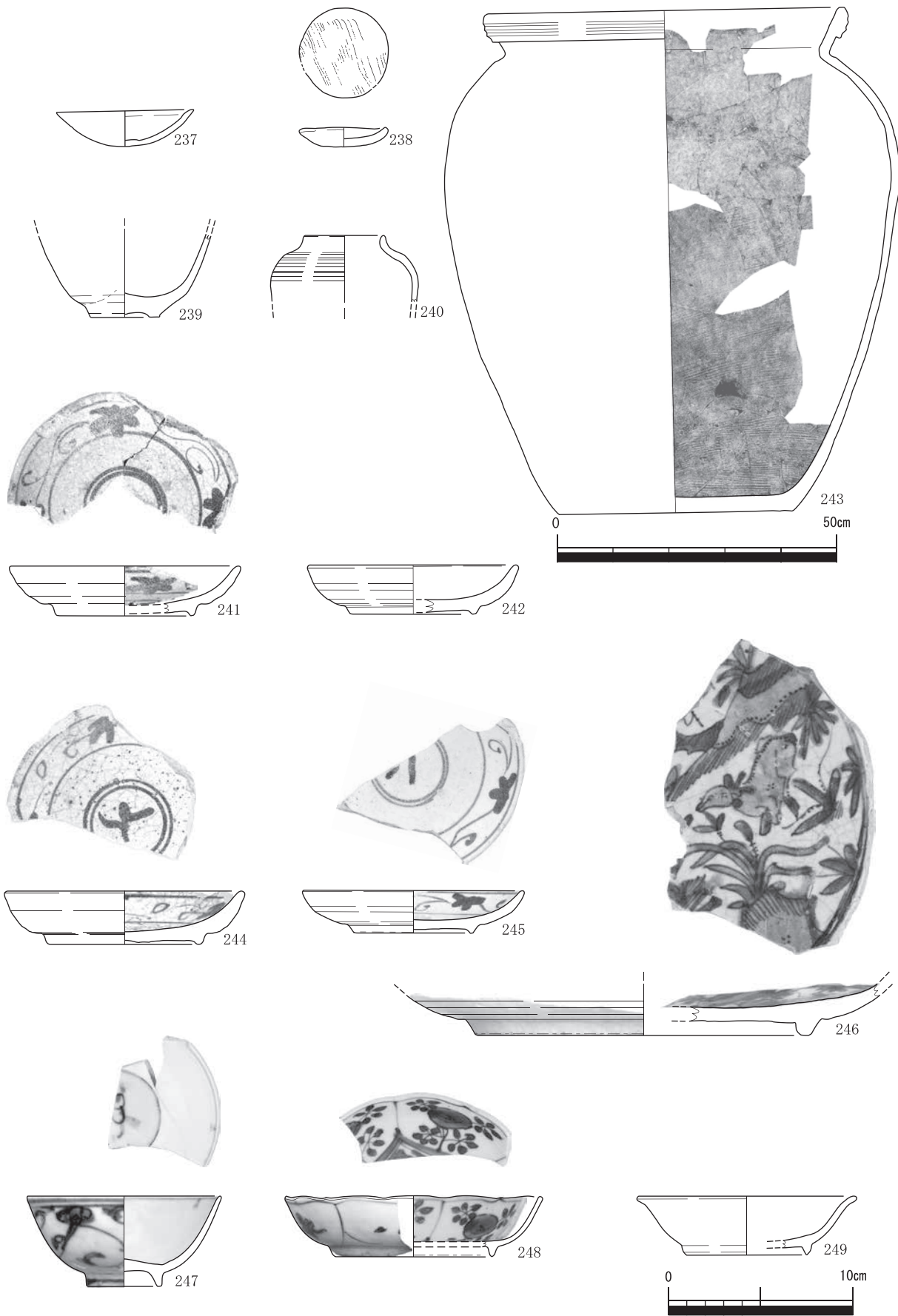
第83図 162埴列建物出土遺物（3）



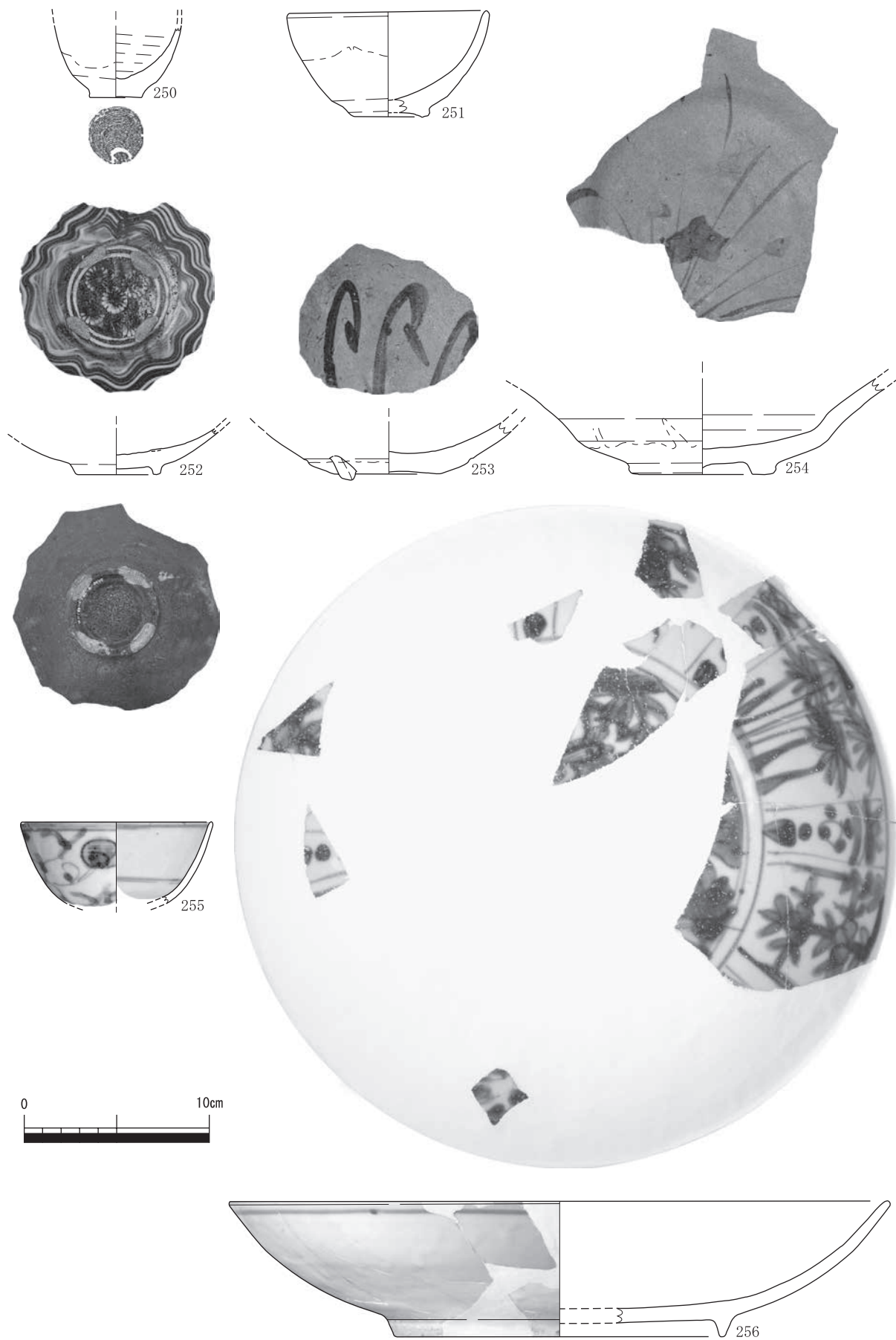
第84図 162埴列建物出土遺物（4）



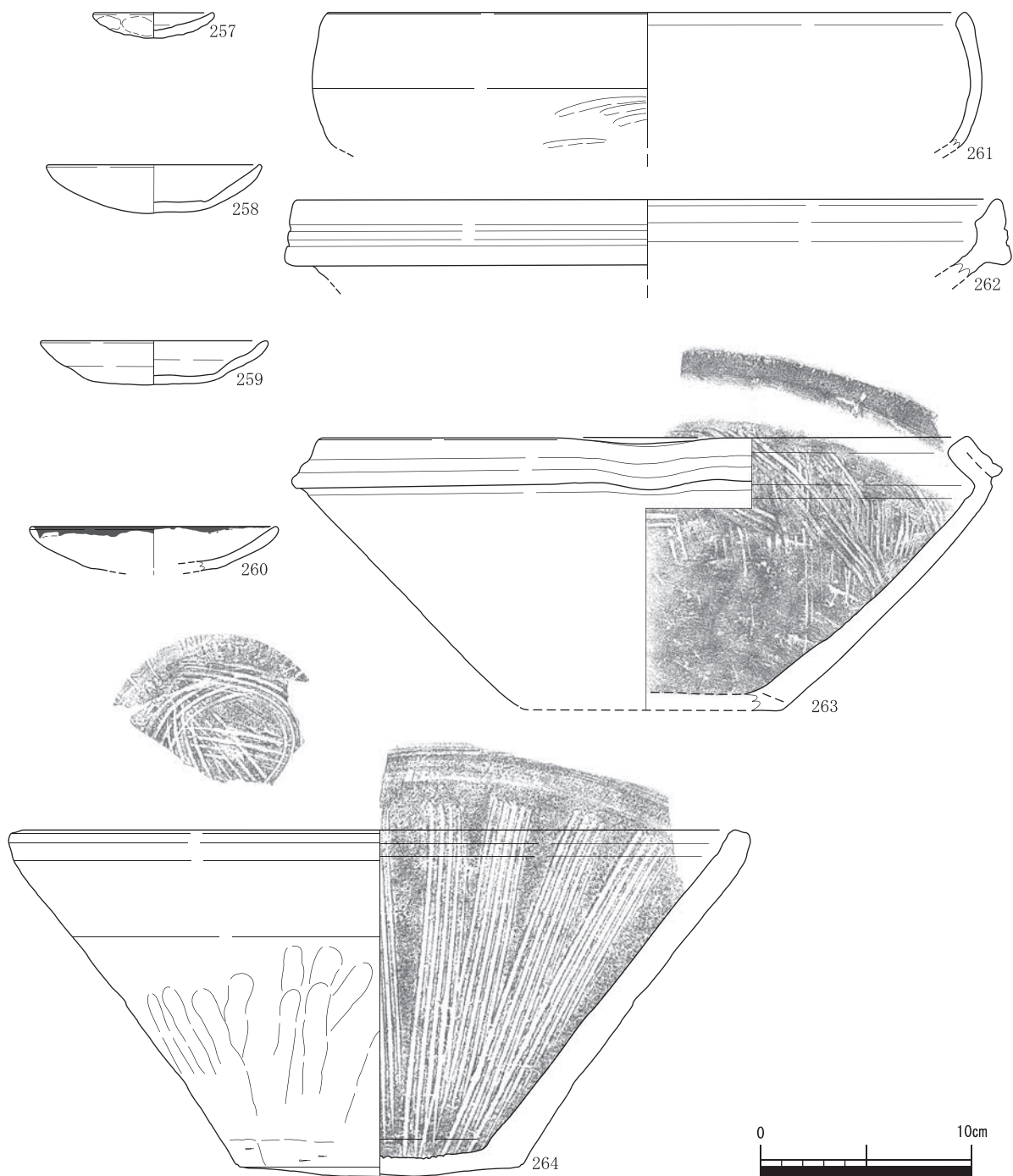
第85図 162埴列建物出土遺物（5）



第86図 第4面遺構出土遺物



第87図 014井戸出土遺物（1）

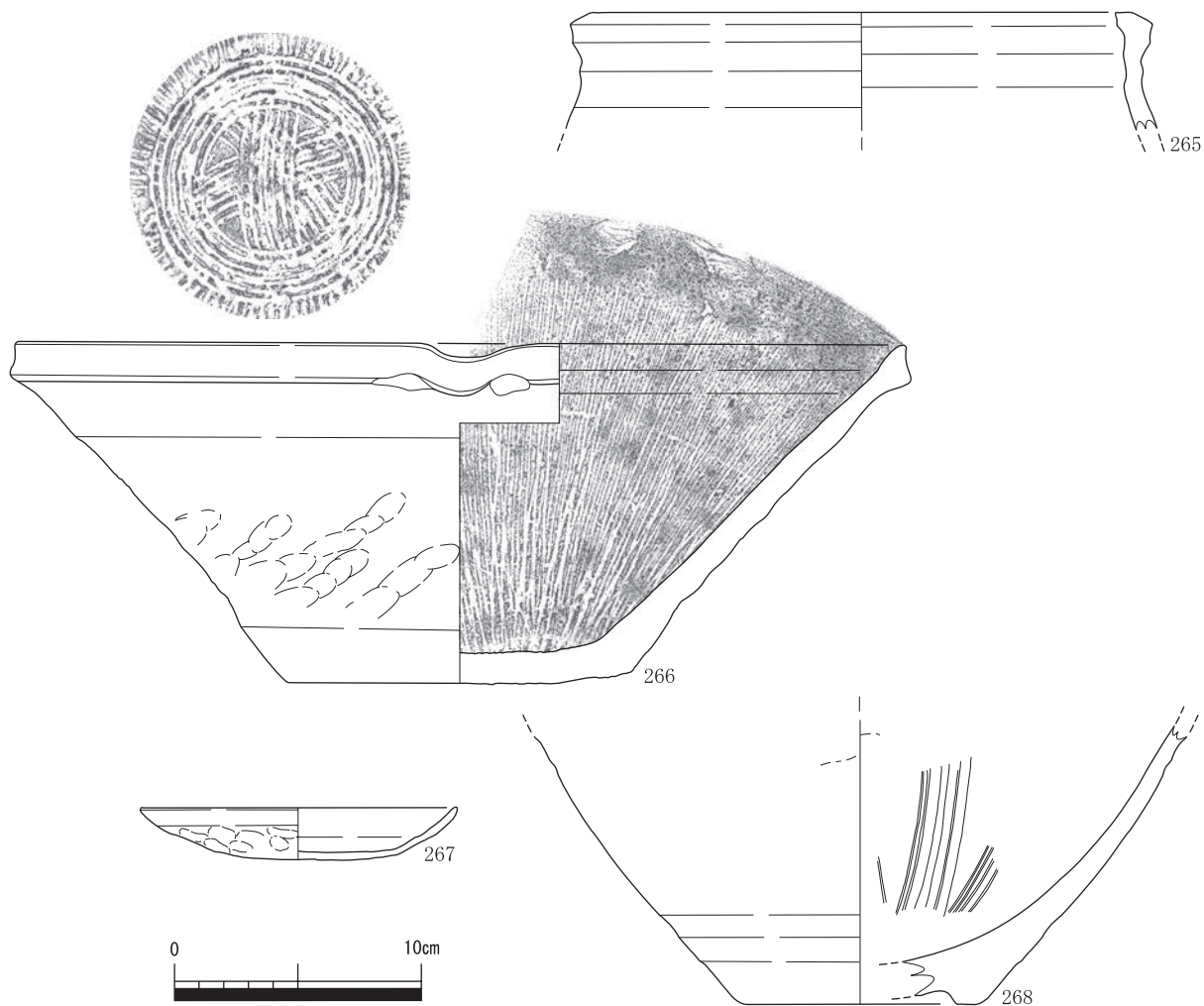


第88図 014井戸出土遺物（2）

(2) 近世

第3面 第3面は慶長20（1615）年の火災より復興した近世の面である。17世紀前葉の遺物が出土した遺構は少なく、中葉にかかる遺構が多い。

014井戸（第87・88図） この井戸から出土する遺物は第4面被災遺物の様相とほとんど変わらず、慶長20（1615）年直後の様相を示す遺構である。肥前陶器はまだ胎土目のもので、砂目のものは少ない。肥前陶器刷毛目文皿（252）は、見込みに菊花スタンプが押され、丁寧に置かれた砂目痕が残る。播鉢は、丹波（264）・備前（262）のほか、上野・高取系播鉢（263）が出土した。上野・高取系播鉢は全面に鉄化粧を施し、播目は乱雑に交差する。口縁部は外側に折り曲げ、備前播鉢を意識している。肥前磁器片が



第89図 192・626土坑出土遺物

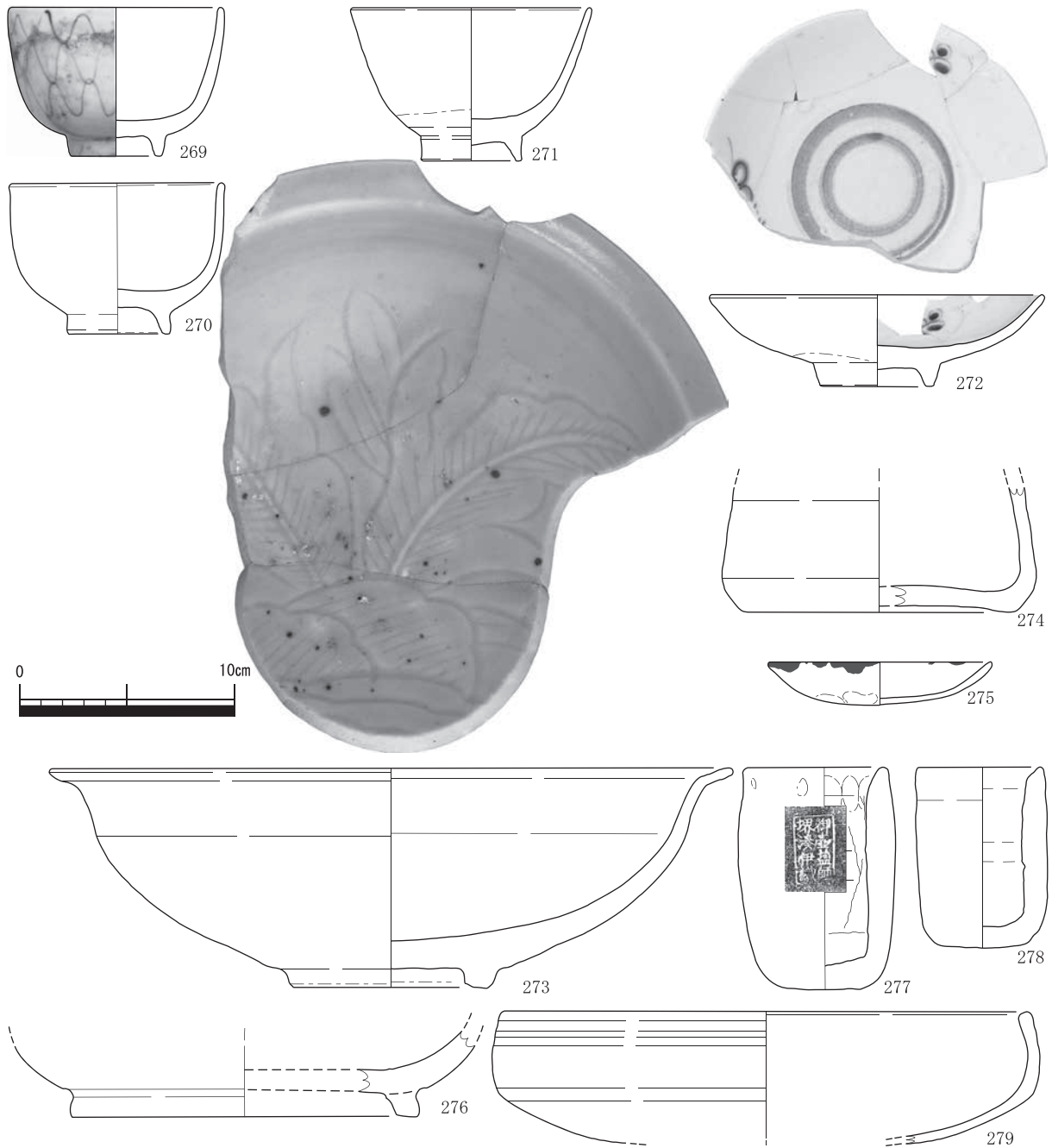
1 個体出土したが、混入の可能性が高く、それを除けば磁器は全て中国製である。

192土坑 (第89図) この遺構からは大量の瓦が出土し、瓦の廃棄土坑である。丸・平・軒瓦のほか、火炎宝珠をつけた鬼瓦 (788) が出土した。共伴遺物には肥前陶器甕 (265) や丹波播鉢 (266)、肥前磁器染付一重網目文碗などがあり、遺物の年代観は17世紀中葉である。

626土坑 (第89図) ここからは、肥前陶器播鉢 (268) や土師質土器皿 (267) のほか、丹波播鉢、高台無釉の肥前磁器青磁碗などが出土した。肥前陶器播鉢 (268) は内括りの高台で、口縁部に鉄釉が掛けられる。肥前陶器播鉢は、17世紀代の遺構より、一定量出土する。土師質土器皿 (267) は手づくね成形で、口縁部を横ナデする。中世にはなかった形態の皿である。

第2面 第2面は第3面と比べて肥前磁器の出土量が増加し、堺播鉢も出現するなど、新しい様相が多く見られる。この遺構面の年代は17世紀後葉から18世紀前葉である。

161土坑 (第90・91図) 調査地北端で検出された161土坑は、灰溜土坑であるが、瓦・陶磁器が多く出土した。肥前磁器の中心は、高台無釉の碗、一重網目文などを描いた腰の張った碗 (269) である。蛇の目釉剥ぎを施した染付皿 (272) は、蛇の目部分に鉄泥を施す。一般に17世紀後半に多くみられる蛇の目釉剥ぎ皿より口径が大きく、口径15.6cmを測る。青磁大鉢 (273) は、内面一杯に葉文を彫る。一方、肥前陶器は呉器手碗 (270) や掛分碗 (271) が主である。瀬戸美濃は、壺 (276) もしくは瓶類

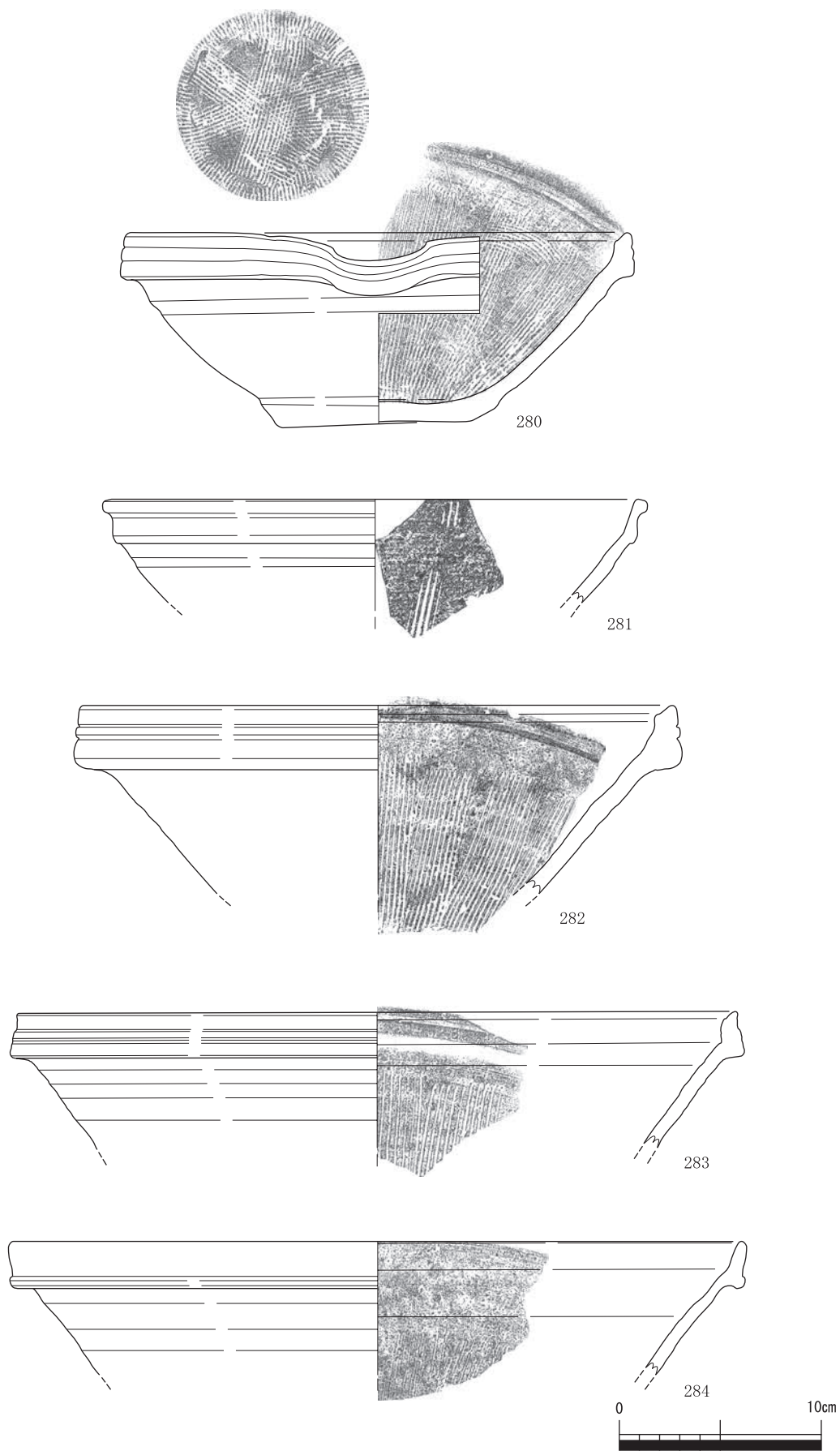


第90図 161土坑出土遺物（1）

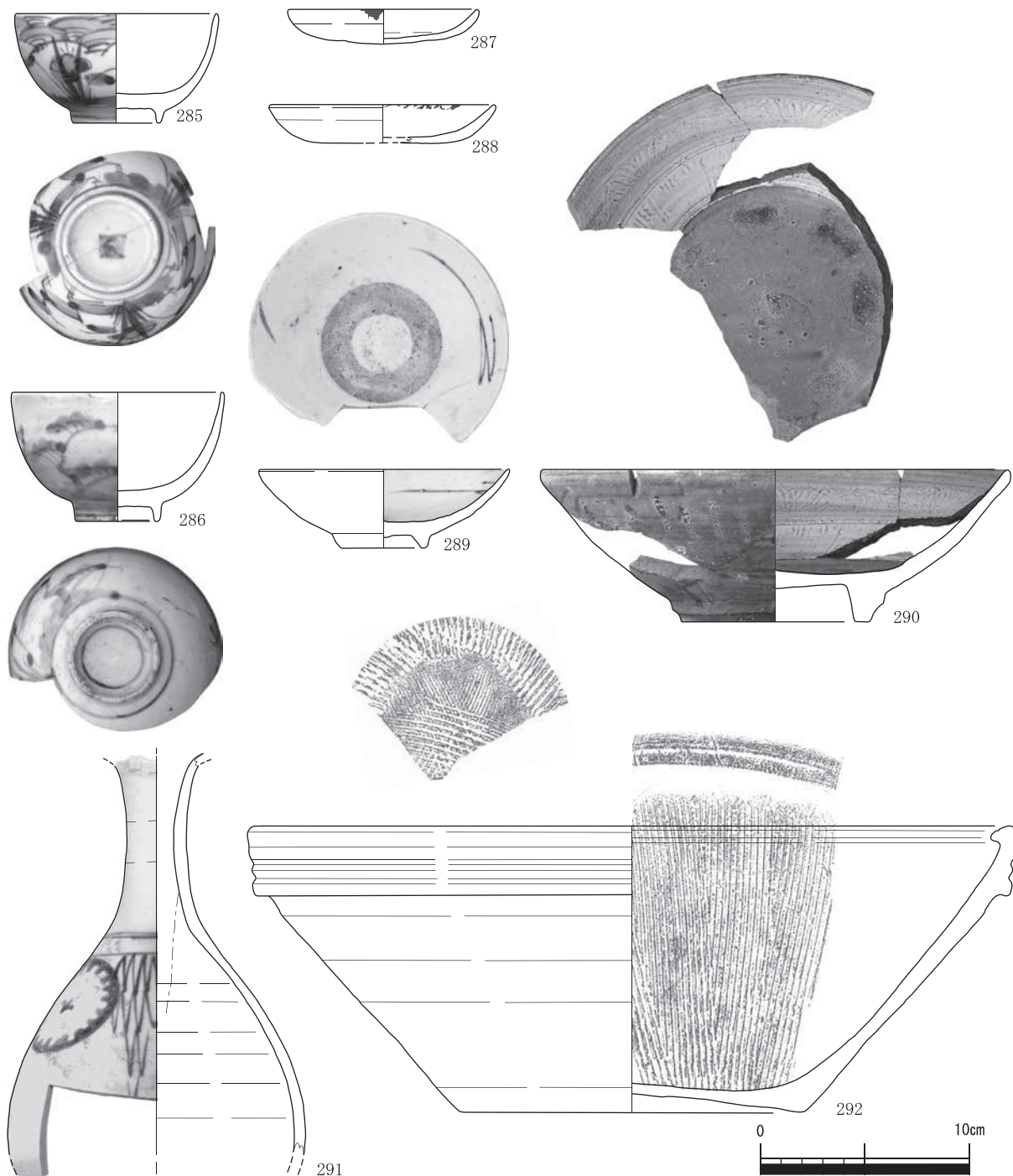
など極少量しか出土していない。信楽播鉢（281）は今回の調査ではこの1個体が出土したのみである。

播鉢はこのほか、備前（280・282）、丹波（283・284）のものがみられた。また、土師質土器焼塩壺は粘土紐巻上げ成形のものが出土している（277・278）。中には「御壺塩師堺湊伊織」の刻印をもつものがある（277）。これらの出土遺物の年代から、161土坑は17世紀中葉～後葉の年代観が与えられる。

160井戸（第92図） 160井戸は、161土坑を掠めるようにつくられた井戸である。肥前磁器は、高台径の小さな染付碗に、梅樹文やコンニャク印版文を描いた碗が主体となる（285・286）。高台無釉の蛇の目釉剥ぎ染付皿（289）は、161土坑出土の皿（272）より口径が小さく、文様も粗雑である。肥前陶器三島手鉢（290）の高台は、高台内の抉りが深くなっている。その他の新様相として、堺播鉢（292）の出土がある。堺播鉢は器壁の厚さが均等で薄く、口縁部は内側に張り出す。このように160井戸は161



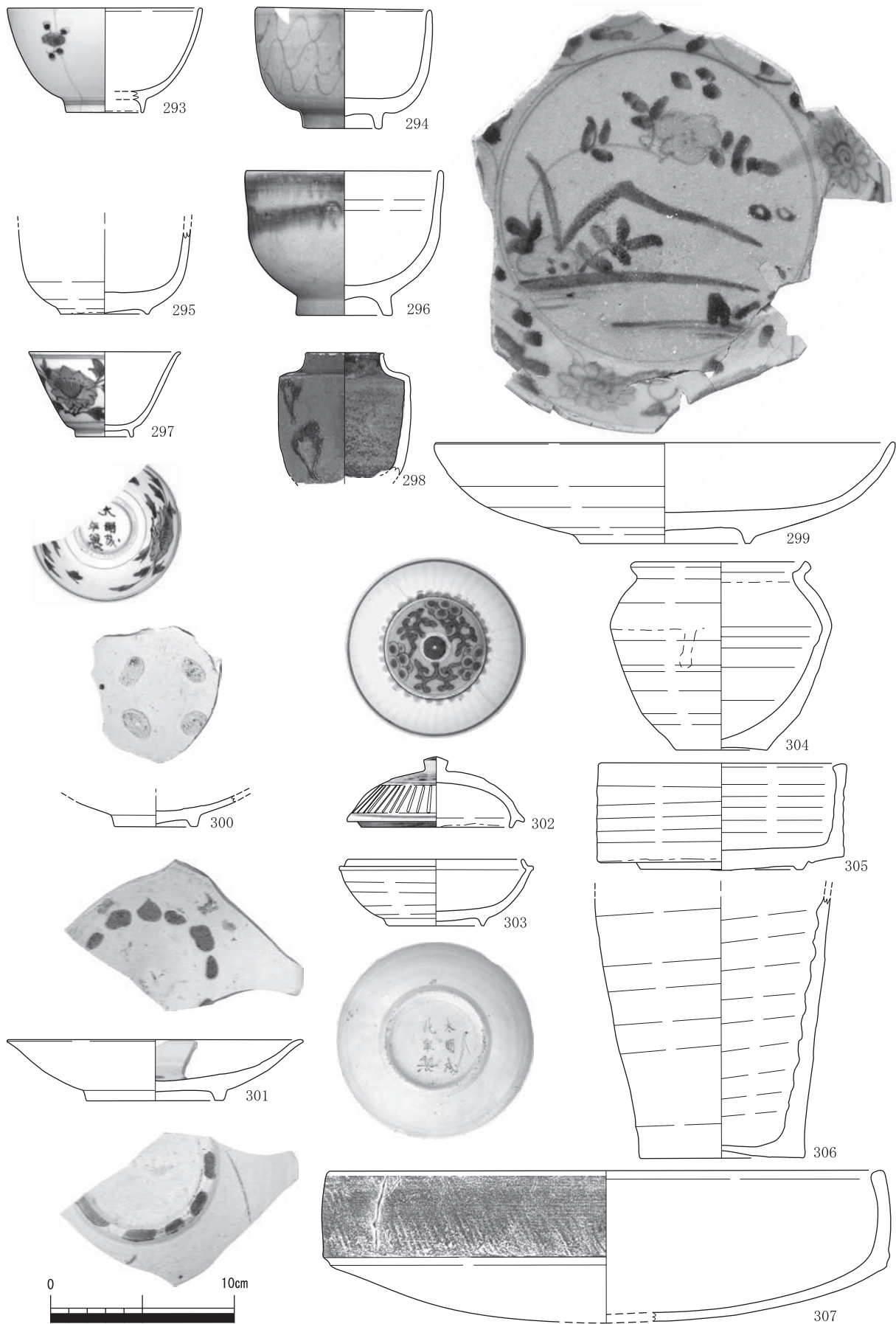
第91图 161土坑出土遺物（2）



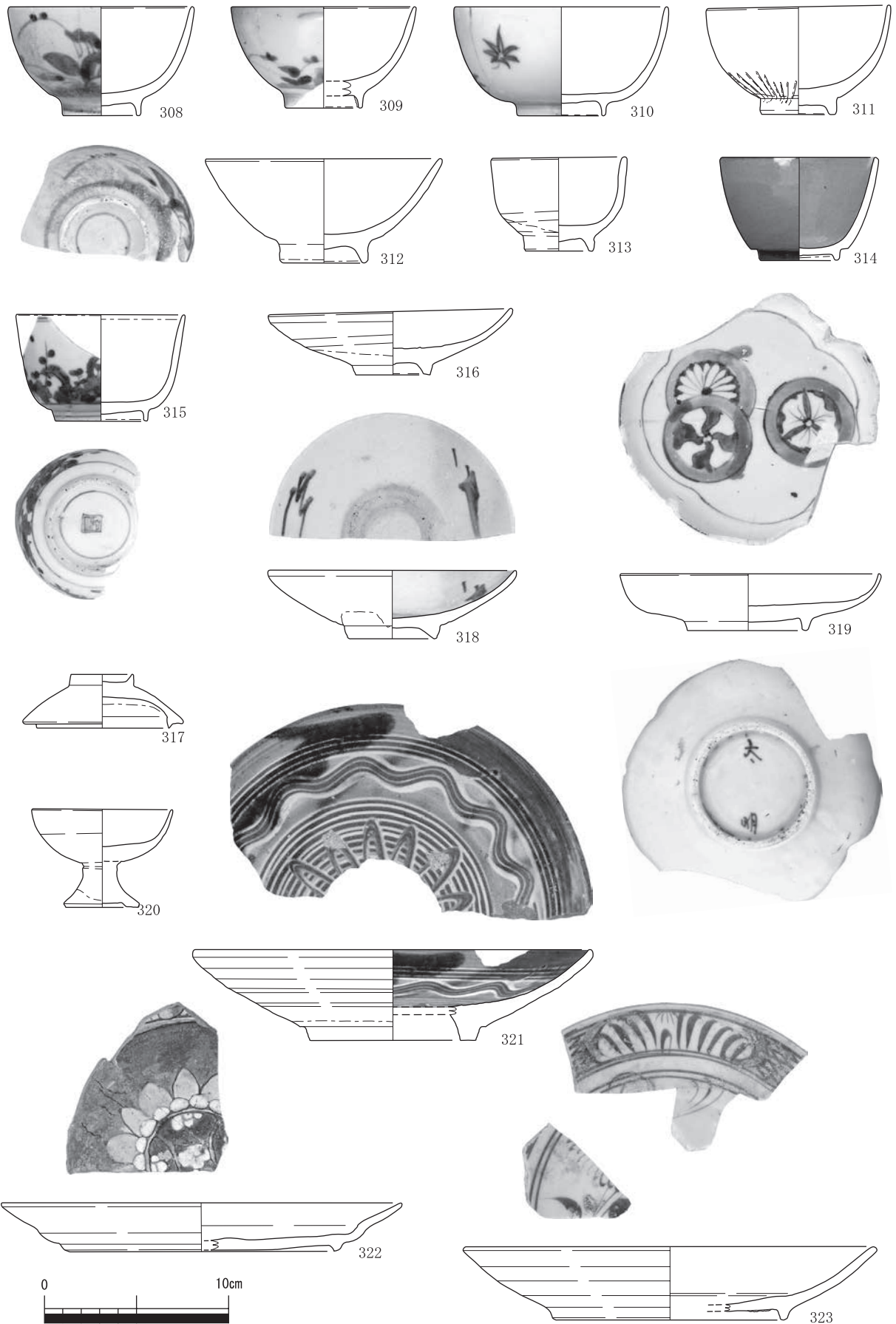
第92図 160井戸出土遺物

土坑より新しい様相を示す遺物が出土しており、17世紀末～18世紀前葉の年代観が与えられる。

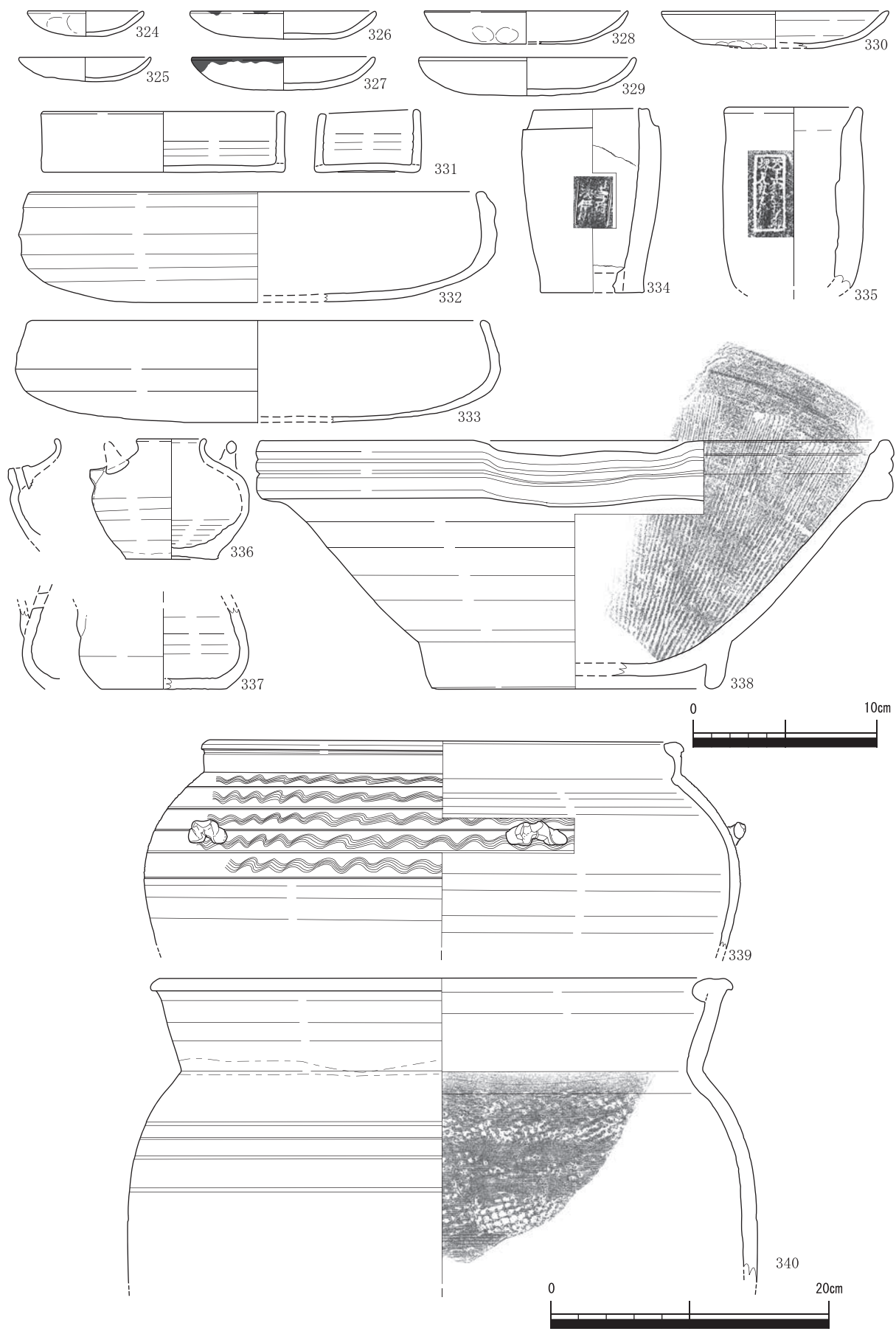
137土坑（第93図） 137土坑は、161土坑とは対極の調査地南端より検出された遺構である。直上に136土坑が作られており、遺物が混ざった可能性も考慮し、遺構間接合を行なった。137土坑から出土した肥前磁器は、161土坑と同様に、一重網目文碗（294）や高台無釉の碗、器厚が薄く、高台径の広い碗（293）が中心である。特殊な器種としては、染付蓋物（302）・合子（303）が出土している。肥前陶器は呉器手碗（296）や内野山窯系の掛分碗などが多く出土した。瀬戸美濃陶器では碗・皿などの食膳具はみられず、香炉（305）や茶入（298）などの調度具が多い。また、この137土坑からは、161土坑ではみられなかった朝鮮王朝製白磁皿（300・301）や、ベトナム製陶器長胴壺（306）などの貿易陶磁器



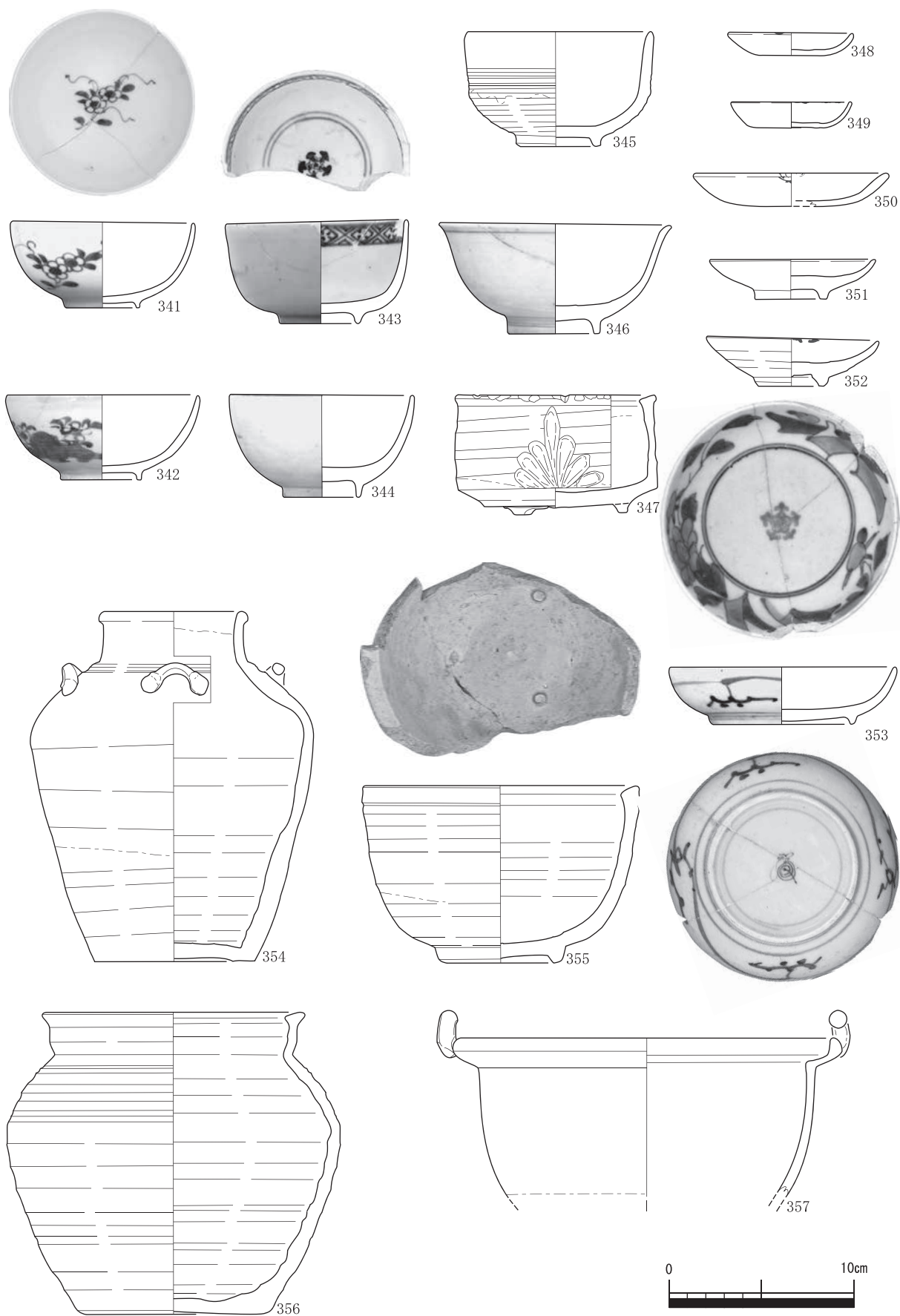
第93図 137土坑出土遺物



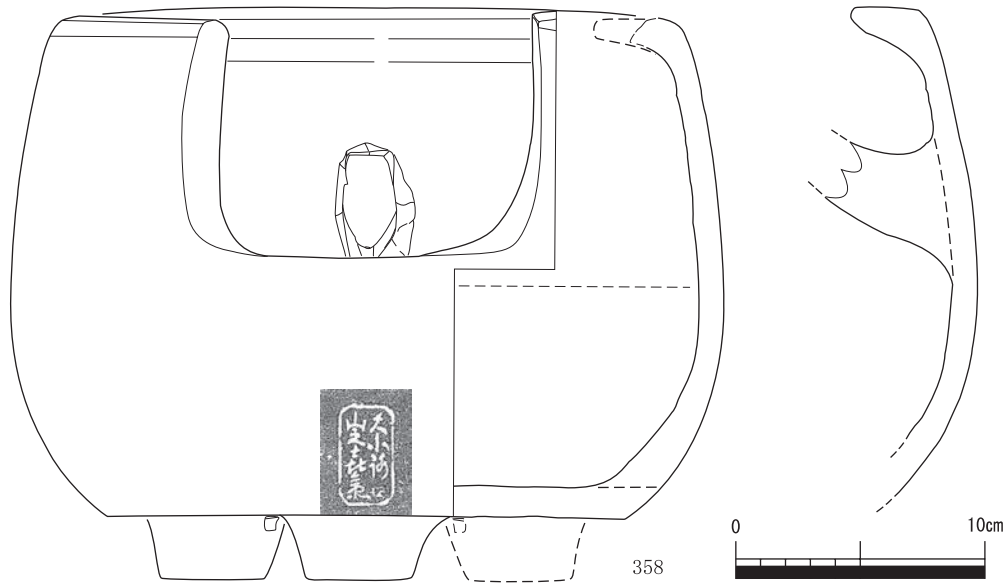
第94图 136土坑出土遺物（1）



第95图 136土坑出土遗物（2）



第96图 122土坑出土遗物（1）



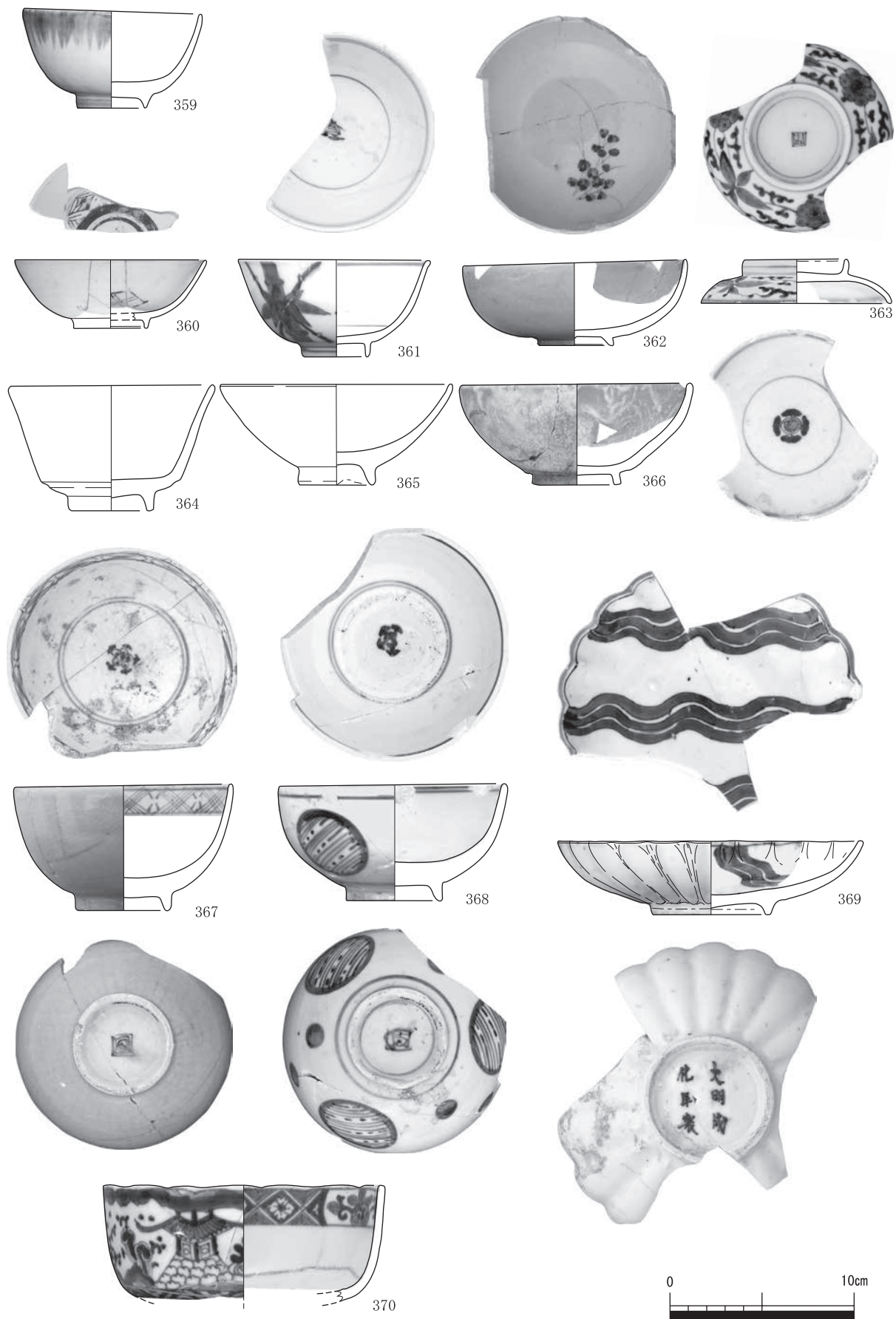
第97図 122土坑出土遺物（2）

が出土している。このほか、上層の遺構である136土坑と共通して示す様相として、土師質土器皿の出土量が多いことがあげられる。その破片の多くは煤が付着し、灯明皿として使用されていたようである。これらの土師質土器皿は、137土坑より232点、136土坑は203点の破片が見つかった。

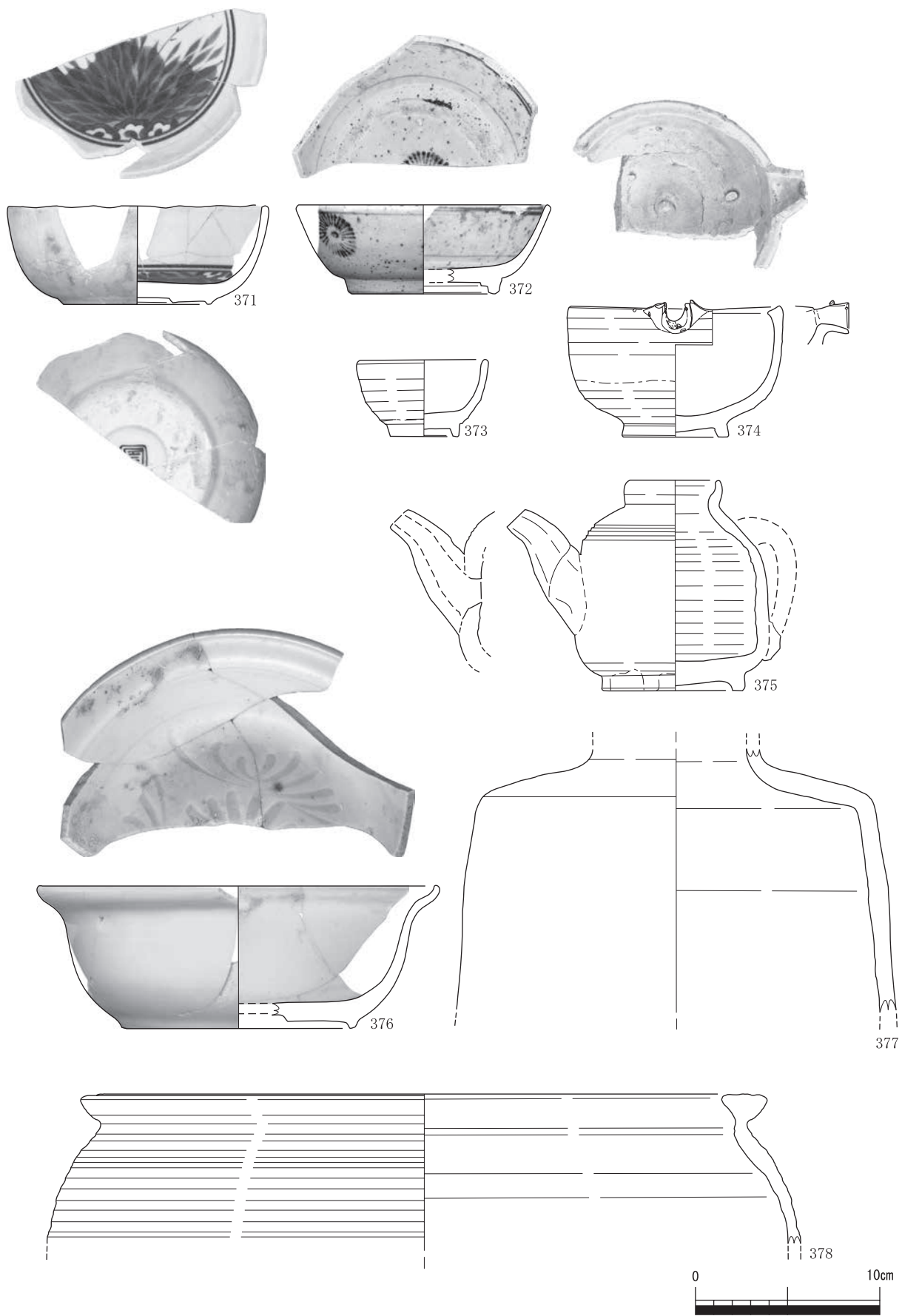
136土坑（第94・95図） この遺構からは、陶磁器と共に多くの瓦が出土した。刻印をもつ瓦（757）も見つかっており、「○」・「堺」・「衛」の刻印がみられた（表4）。肥前磁器は高台径の小さな碗（308・309）や、高台無釉皿（316・318）が主体となる。蛇の目釉剥ぎをする碗はみられない。また、137土坑と同様に蓋物（315・317）が出土している。肥前陶器は呉器手碗や内野山窯系の銅緑釉と透明釉を掛け分けた碗（311）、京焼風陶器椀形碗（314）などが主体となる。呉器手碗や掛分碗（311）は、137土坑出土のものより小振りとなっている。このほか、口縁部を内側に曲げた鉄釉甕（340）は、内面に白色の付着物があり、便甕として使用されている。このような肥前陶器甕は肥前陶器播鉢と同様に17世紀代の遺構からは出土するが、18世紀代の遺構からほとんど出土しない。播鉢は備前播鉢（338）が多く、堺播鉢は少量出土している。また、137土坑と同様に貿易陶磁器も出土している。中国製では色絵皿（323）のほか、軟質施釉陶器皿（322）が出土している。軟質施釉陶器皿（322）の胎土は赤褐色で粗く、白化粧を施した上に緑釉を掛けている。文様は、特異な花文を鉄釉で描き、その輪郭の中に黄・白・紫の釉薬を埋めている。類例は知られていないが、国産の軟質施釉陶器とは異なる点が多く、清朝期の華南三彩の可能性が高い。今回の調査ではこれと同じ胎土をもつ皿がもう1個体出土している（571）。このほか、貿易陶磁器にはベトナム製陶器長胴壺や、肩部に波状文を施した五耳壺（339）が出土した。この壺の底部の一部とみられる破片が、近くの攪乱部より出土している（581）。137土坑のところでも触れたが、土師質土器皿の多くは灯明皿として使用されている。いずれも手づくね成形で、口径6cm前後（324・325）、口径10cm前後（326・327）、口径12cm前後（328～330）の3サイズが出土した。これらの出土遺物より、136土坑の遺物廃棄年代は17世紀末～18世紀前葉であると考えられる。

第1面 この面は18世紀中葉～19世紀前葉を中心とし、一部明治時代までの遺構を検出している。その中でも、廃棄土坑の多くは19世紀初頭までに廃絶している。

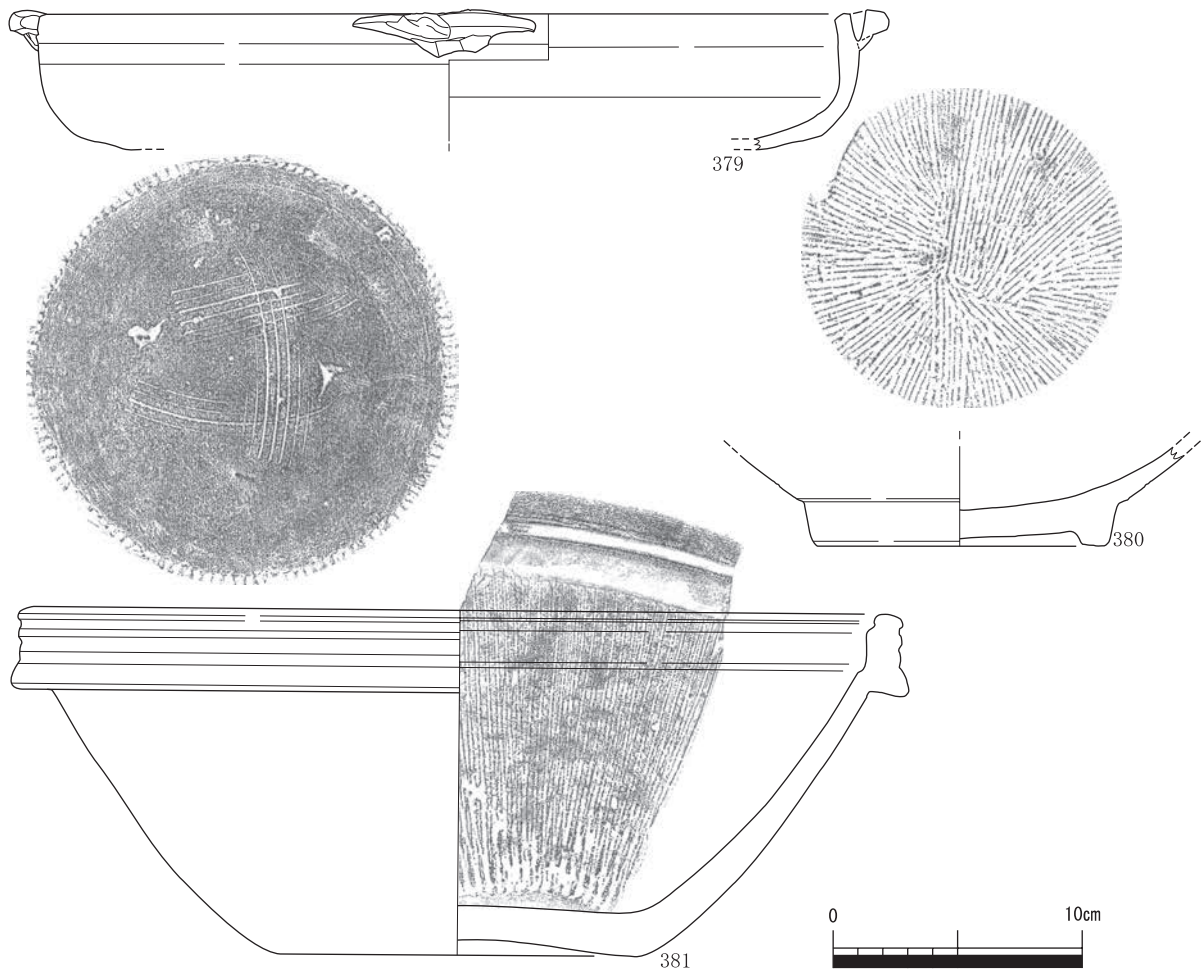
122土坑（第96・97図） この土坑は第2面で検出したが、出土遺物の年代観から、第1面に属する遺構である。大量の瓦と共に、漆喰片が多く出土した廃棄土坑である。漆喰の中には、厚みが10cm以



第98图 070土坑出土遗物(1)

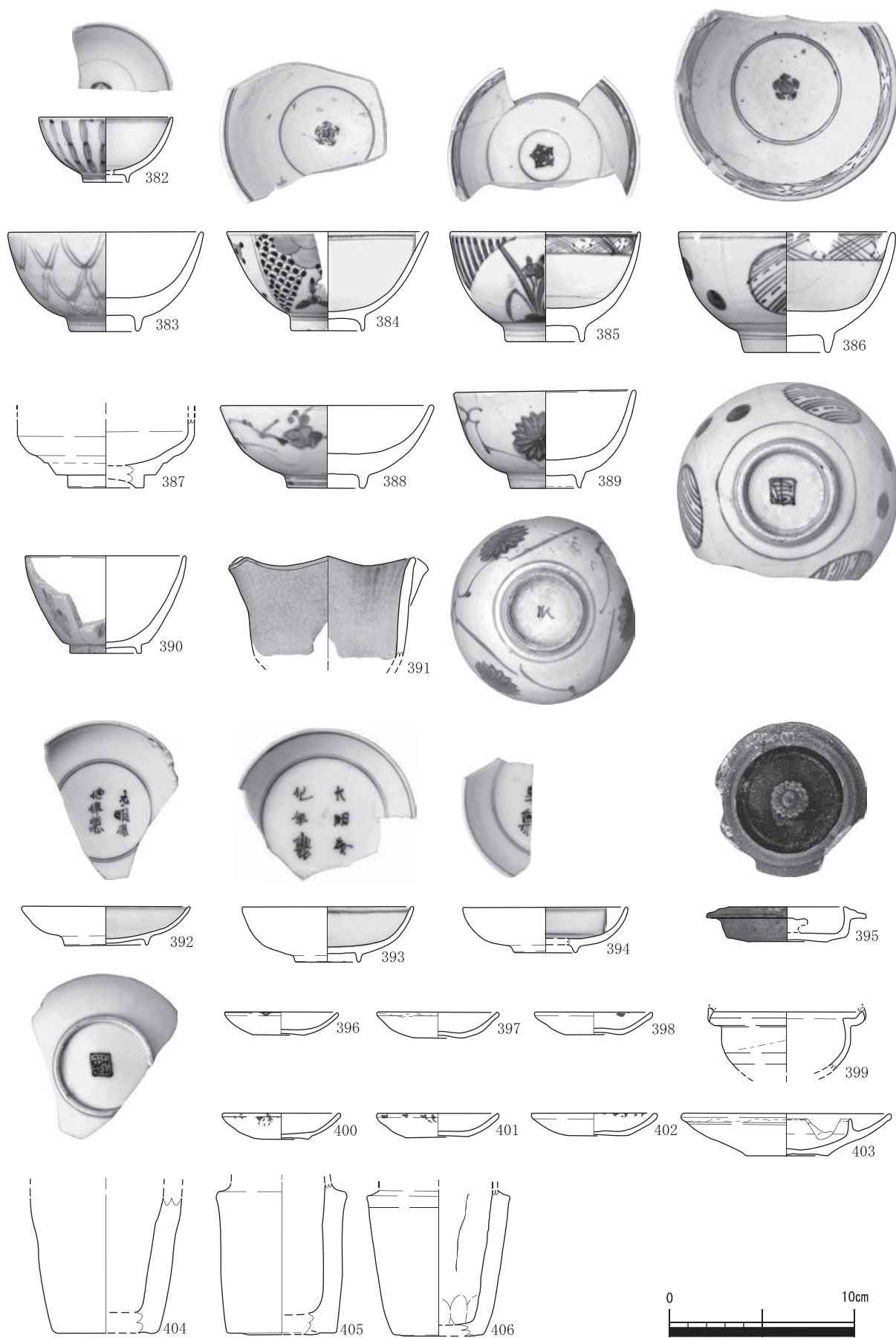


第99图 070土坑出土遗物(2)



第100図 070土坑出土遺物（3）

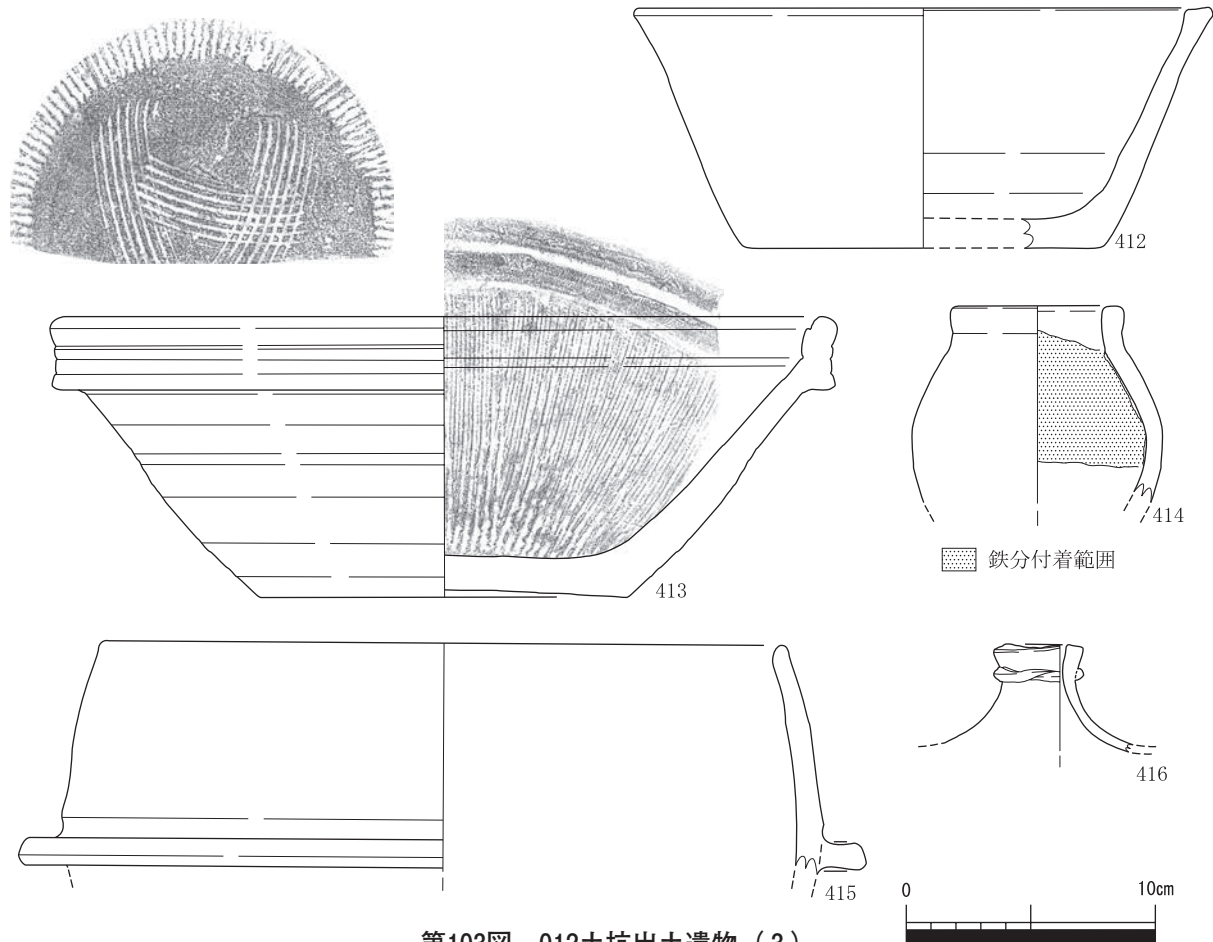
上もあるものや、丁寧に整えられた面が作られているものもあった。何らかの構築物の一部が廃棄されたようである。このほか、陶磁器類も数多く出土した。肥前磁器は染付半球碗（341・342）・青磁染付碗（343）のほか、いわゆる「くらわんか碗」が主体となる。口縁部に圈線を巡らす染付端反碗（346）は、19世紀代にみられる端反碗とは異なるものである。高台無釉白磁皿（351・352）は、第2面の遺構で出土している皿よりさらに口径が小さく、口径約9.0cmを測る。そして、蛇の目釉剥ぎ部分にはアルミナを塗る。このタイプの皿は灯明皿として使用されているものが多く、他の遺構から出土している皿も灯明皿に使用されている。陶器では、肥前陶器が姿を消し、瀬戸美濃・京焼系陶器が増える。瀬戸美濃には、掛分碗（345）などの食膳具は少ないが、灰釉片口鉢（355）や灰釉香炉（347）、鉄釉壺（356）などの器種が出土している。灰釉香炉（347）は口縁部に敲打痕がぐるりと巡り、灰落しとして使用されている。瀬戸美濃陶器には鉄釉壺（356）のような壺・甕は、ほとんど出土していない。一方で、信楽腰白壺（354）のような信楽の壺は、出土数は少ないものの、近世を通して出土している。京焼系陶器は、鉄釉土鍋（357）のほか、端反小碗などが出土している。これらの土瓶・土鍋は第2面の遺構からはほとんど出土しておらず、18世紀中葉から後葉にかけて普遍化するようである。土師質土器では、ロクロ成形の皿（348・349）が出土している。口径はいずれも約6.5cmを測る。このロクロ成形の皿も第2面の遺構ではみられない。このほか、堺で焼成されたと考えられる刻印をもつ、土師質土器風炉が出土した（358）。正面下半部に、隅丸方形内「大小路口山之喜東」の刻印が押される。内面中央部分以下は煤が付着しておらず、そこまで灰を入れて使用していたと考えられる。また、土師質土器甕が2個体出土



第101图 012土坑出土遗物（1）



第102図 012土坑出土遺物（2）

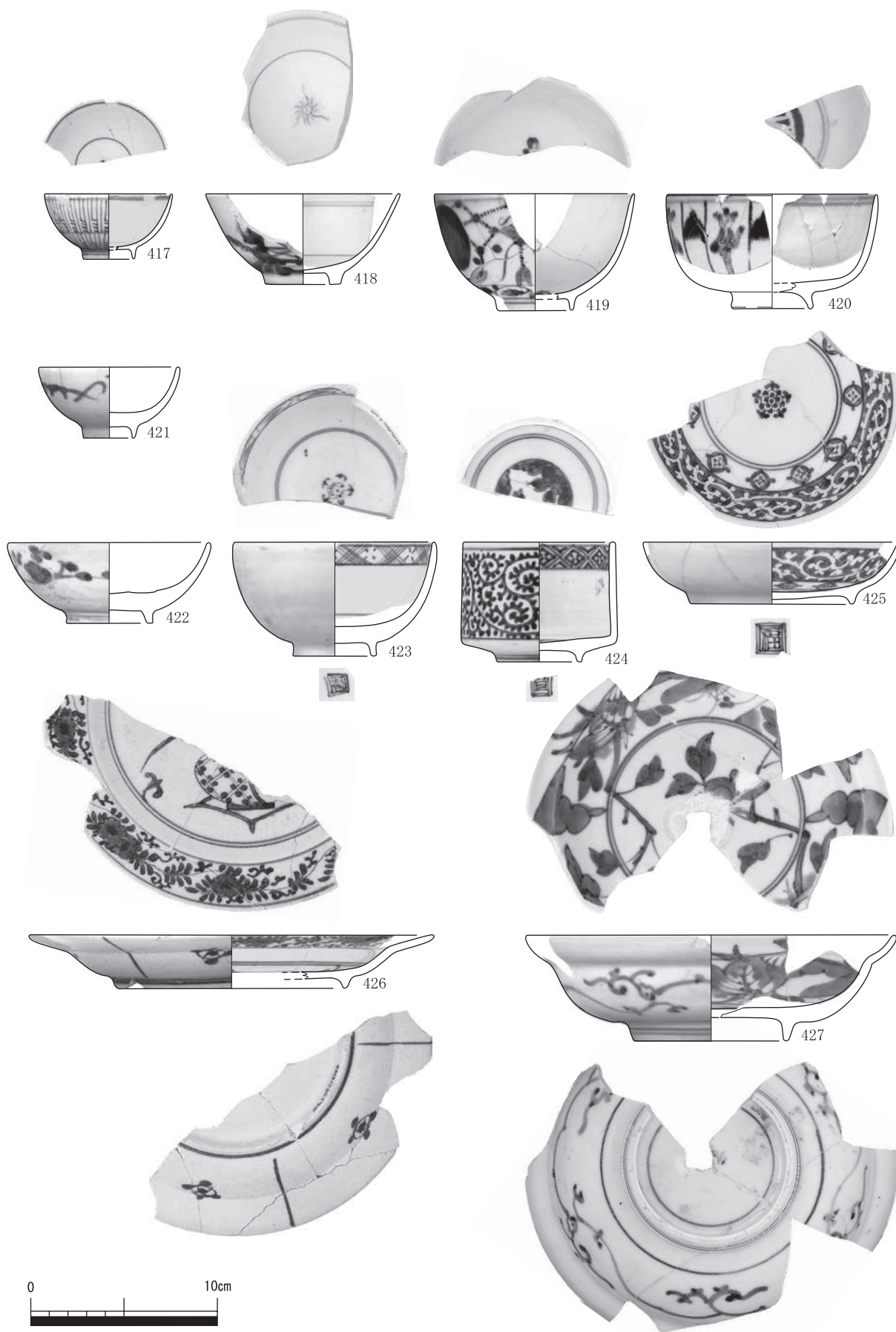


第103図 012土坑出土遺物（3）

しており、口径70.9cm（528）、口径49.9cm・器高60.8cm（529）を測る。大型の甕で、内面に白い附着物がみられることから、便甕に使用されていたのだろう。これらの出土遺物の中心年代は18世紀前葉から中葉であるが、一部後葉にかかる遺物があり、遺物の廃棄年代は18世紀後葉であると考えられる。

070土坑（第98～100図） この土坑は、122土坑の上辺で切り合う廃棄土坑である。肥前磁器は青磁染付碗（367）や丸窓文碗（368）などの厚手碗のほか、小広東碗（361）・広東碗が主体となる。鉢類の出土が目立ち、青磁染付蛇の目凹型高台輪花鉢（371）は、高台内に筒江窯の「筒」銘が記される。また、染付輪花鉢（370）には焼き継ぎ痕がみられる。瀬戸美濃陶器は、これまでの遺構でも見られたような灰釉片口鉢（374）・灰釉汁次（375）のほか、刷毛目文碗（366）や灰釉小杯（373）・陶胎染付など、122土坑ではほとんどみられなかった食膳具が出土している。播鉢は堺播鉢（381）が大半で、丹波播鉢（380）は少量出土するのみである。このほか、若干ではあるが、貿易陶磁器も出土している。中国製染付輪花皿（369）は、いわゆる「古染付」と呼ばれるタイプのもので、見込みいっぱい波文様を描き、高台内には「大明成化年製」の銘が記される。このほか、ベトナム製陶器鉄絵鉢（372）も出土している。このように、070土坑の遺物廃棄年代は肥前磁器端反碗や瀬戸美濃磁器がみられないこと、下層の122土坑の年代から、18世紀後葉～末頃であると考えられる。

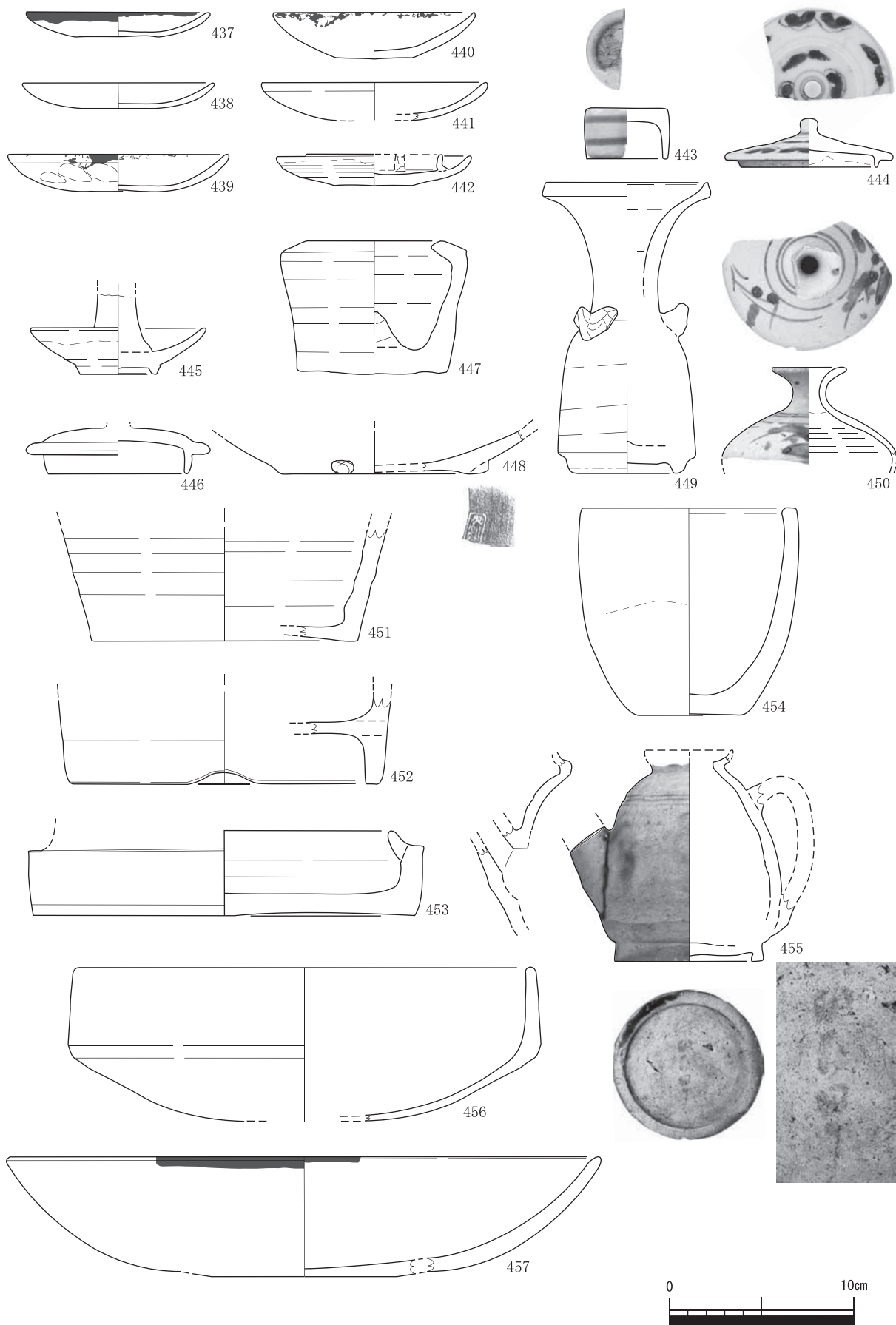
012土坑（第101～103図） この遺構からは多量の陶磁器が出土した。出土した遺物の中には17世紀末～18世紀前葉の遺物が多く含まれており、遺構を埋める際の土に混入していた可能性がある。この遺構から出土した肥前磁器は、小広東碗（382・384）・広東碗のほか、梅枝文（388）・丸窓文（386）・コンニャク印判文（389）を描く、いわゆる「くらわんか碗」を主体とする。蛇の目凹型高台染付鉢（411）



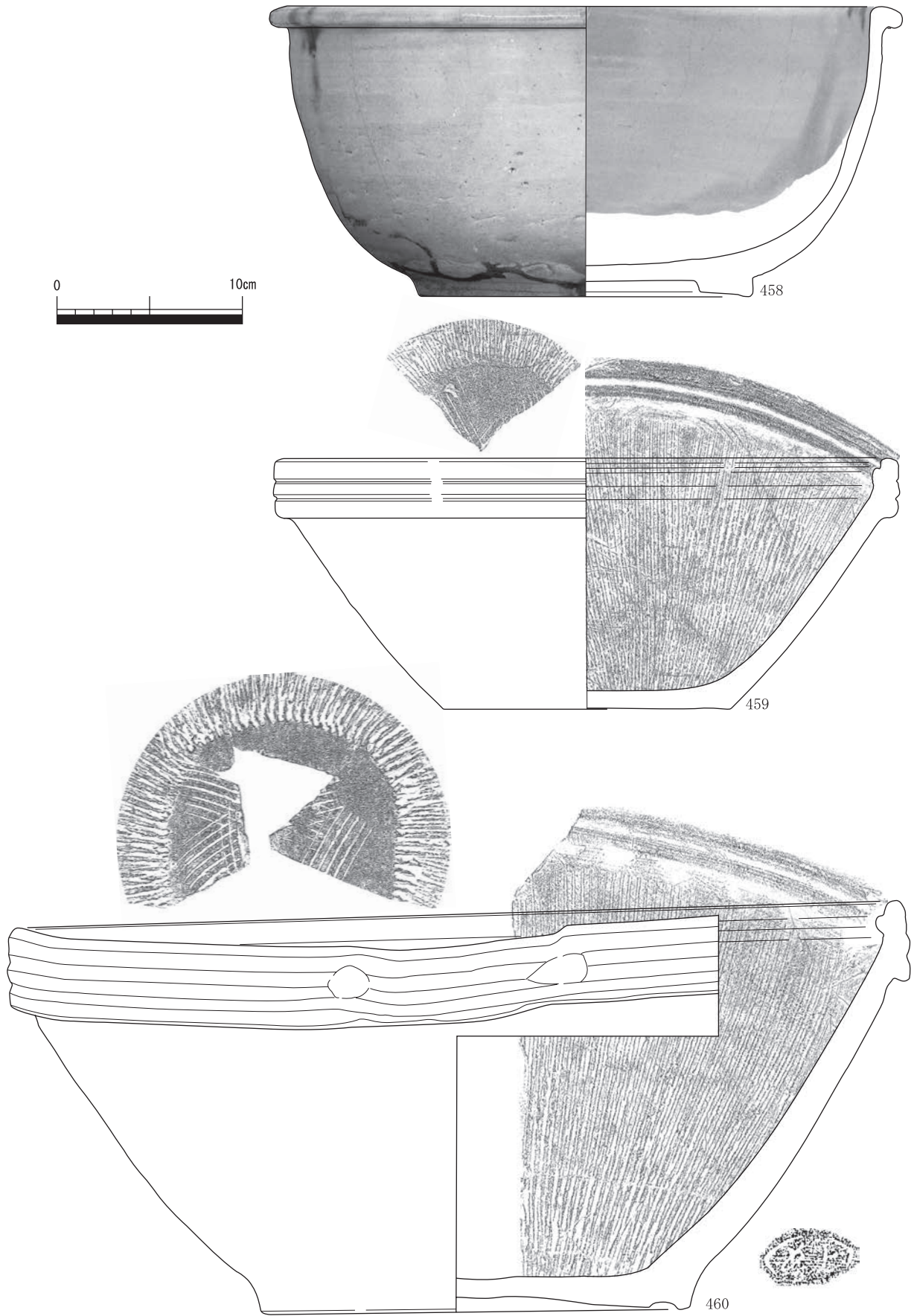
第104图 016土坑出土遗物 (1)



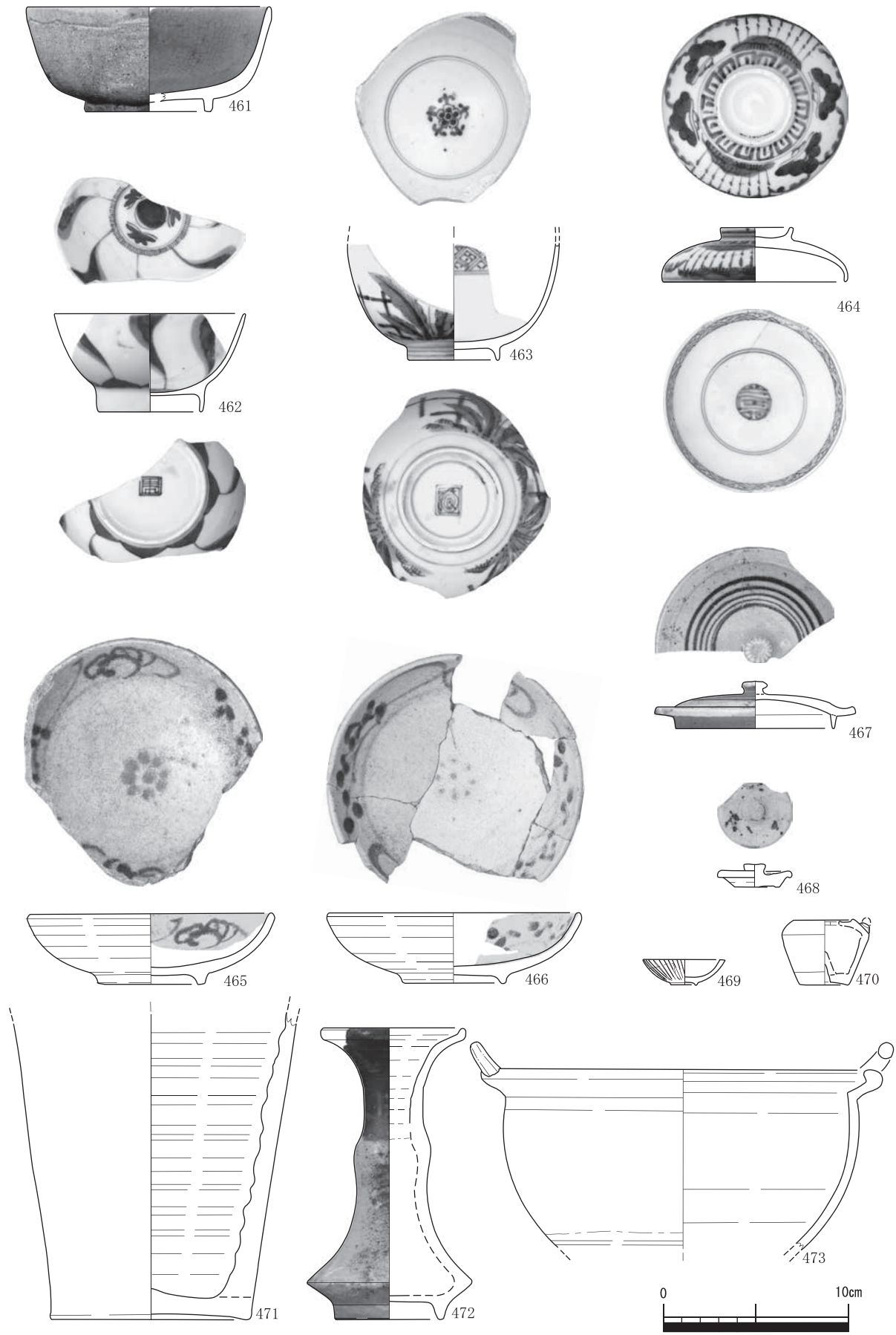
第105図 016土坑出土遺物（2）



第106图 016土坑出土遗物 (3)



第107図 016土坑出土遺物（4）



第108図 003井戸出土遺物

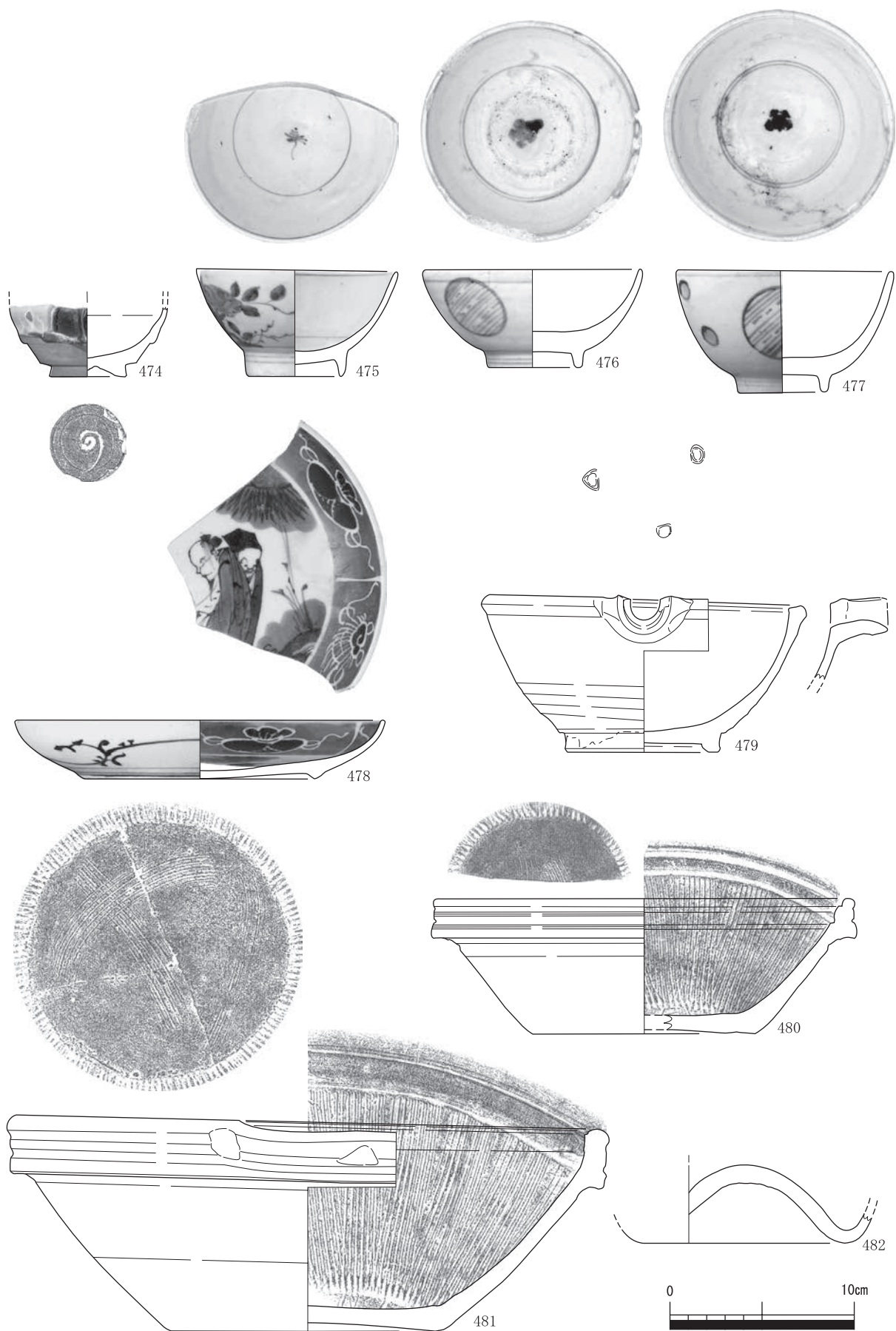
は高台内に「富貴長春」の銘が記され、焼き継ぎが施される。陶器では、この時期に初めて萩藁灰釉碗(387)やピラ掛け碗が出土する。また、京焼系陶器の出土量が増え、銚絵相形碗(390)や、土瓶、土鍋(399)、灯火具(403)などが出土する。器種・量とも豊富になる。瀬戸美濃では陶胎染付には珍しい鉢(391)が出土している。播鉢のほとんどは堺播鉢であるが、播鉢以外にも胎土や底部の処理の仕方などから、堺のものとみられる鉢(412)やお歯黒壺(414)などの遺物が出土した。土師質土器皿は出土量が減少する。一方で、土師質土器ロクロ成形皿、軟質施釉陶器皿(396~398・400~402)は増加する。このほか、珍しいものとしては、オランダ製のワインボトルが出土した(416)。ガラスは緑色に発色し、首の部分にはガラス紐を巻きつける。口の部分しか残存していないが、形態から角瓶である。出土遺物の多くは18世紀末までのものであり、肥前磁器端反碗も出土していない。しかし、ワインボトルが19世紀代に多くみられるタイプであることや、19世紀代にまで入る年代観をもつ遺物も多いことから、18世紀後半~19世紀初頭まで年代幅をもたせて考えたい。

016土坑(第104~107図) 012土坑のすぐ傍で検出された廃棄土坑である。出土遺物の年代観は070土坑とほとんど変わらず、18世紀後葉~末と考える。その中でこの遺構の特徴的な遺物として、口径約22cmの肥前磁器染付鉢(435・436)が数個体出土していることがあげられる。蛇の目凹型高台で、部分的に文様は異なるが、揃い鉢として所有されていたと考えられる。この他に揃い組で出土しているのは、官人を描いた蓋付きの望料碗(420・434)で、数個体分の破片が見つかっている。陶器では、様々な産地の灯火具が目をついた。備前灯明皿(440)・瀬戸美濃鉄釉灯明受皿(442)・産地不明陶器鉄釉有脚灯明皿(445)・堺灯火具(447)、土師質土器皿(437~439)など多種多彩である。また、土師質土器灯明皿の中には、口径31.8cmを測る大型のものがある(457)。これは外面を丁寧に回転ヘラ削りしており、ほかの土師質土器皿とは異なる。これだけ大きな皿には相当量の油を入れることができ、どのような場で使用されていたものであるか気になるところである。堺播鉢は012土坑と同様に多く出土している。中には内面全面に白い付着物が覆っている播鉢(459・460)もある。特に口径46.8cmを測る播鉢(460)は一般に出土するもの(口径30cm位)よりも大型である。

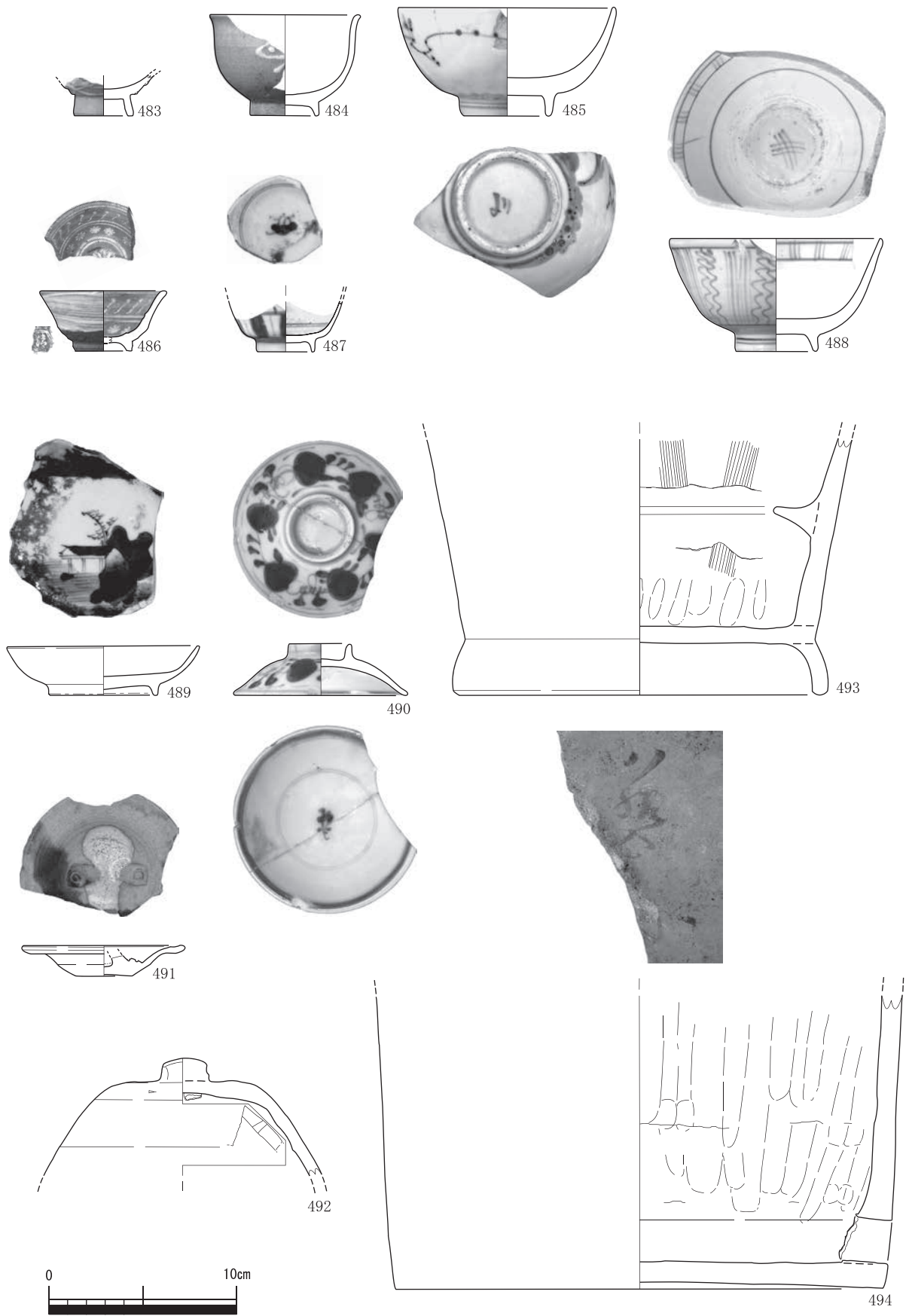
003井戸(第108図) この遺構も016土坑と様相は変わらず、肥前磁器広東碗(462)や小広東碗・青磁染付碗などを主体とする。瀬戸美濃陶胎染付皿(465・466)は揃い皿であり、くらわんか手の皿の模倣品である。

054溝(第109図) この溝は、調査地中央に走る通りの側溝である。ここからは大量の瓦と共に陶磁器類が出土した。出土した瓦の中には刻印を押したものも多い(766・767・777)。特筆すべき遺物としては、フラスコ型のオランダ製ワインボトルがあげられる。緑色のガラス製で、底部にポンテマークが残る(482)。相伴する遺物は先の角瓶(416)が出土した012土坑とほぼ同じ様相を示し、18世紀後葉~19世紀初頭の年代観を示す。

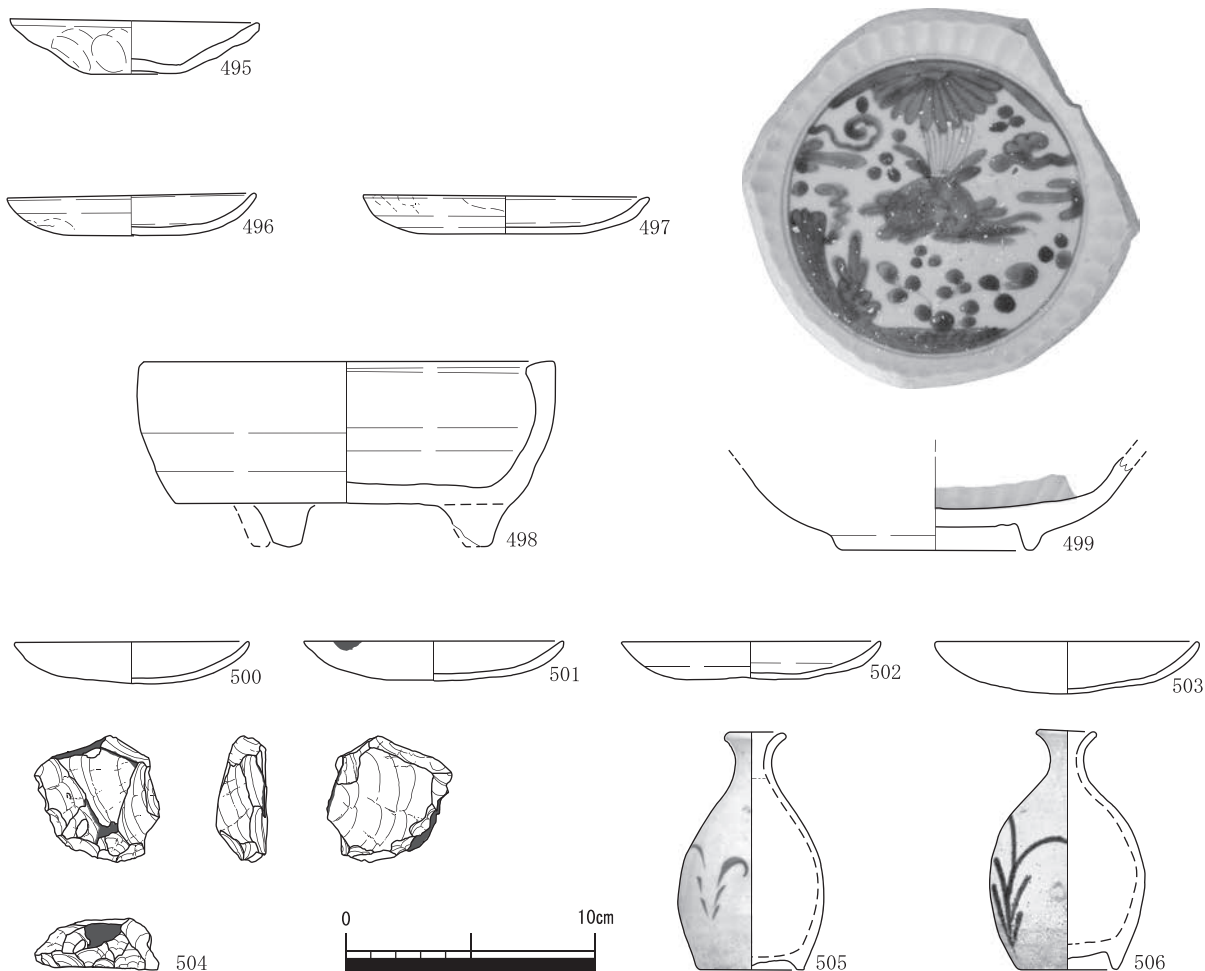
006井戸(第110図) この井戸から出土した遺物は、19世紀前葉~中葉までの年代観をもち、この井戸の廃絶時期を示していると考えられる。19世紀に入ることがよくわかる遺物としては、瀬戸美濃磁器染付小杯(487)が出土している。肥前磁器は、染付端反碗(488)や楼閣山水文輪花皿(489)などがみられ、新しい様相を示す。京焼陶器三島手小杯(486)は、内面に象嵌、外面に刷毛目文を施す。高台際に「清」の六角印が押され、清水六兵衛家の刻印である。このほか、土師質土器には、用途不明なものがある(494)。粘土巻上げ成形で、内面には縦方向のヘラナデ痕が強く残る。底部際に直径2.1cmの穴が開けられており、そこから内容物を出すと考えられるが、何に使用するものか不明である。見



第109図 054溝出土遺物



第110図 006井戸出土遺物



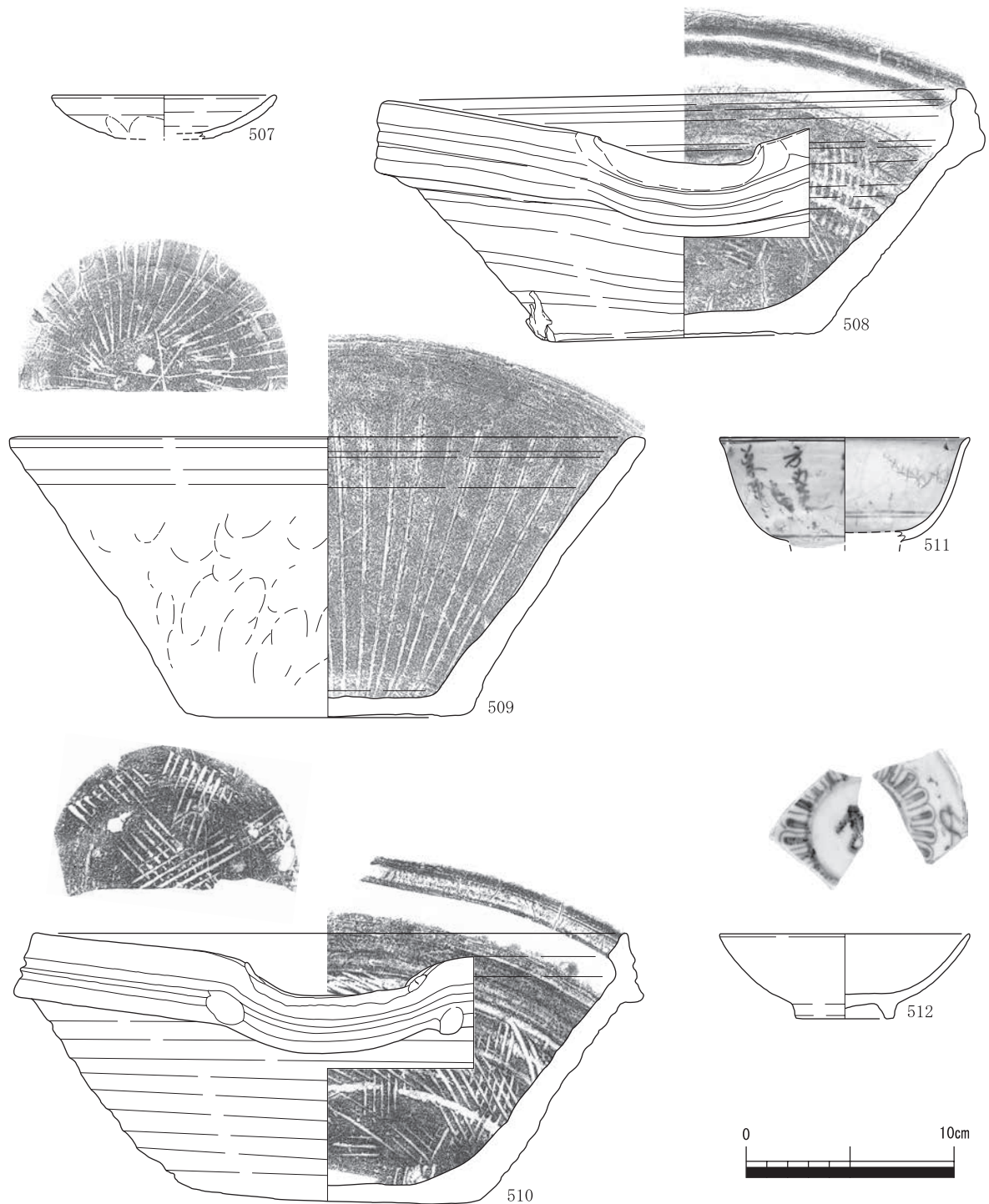
第111図 099小穴・685地鎮遺構出土遺物

込みには墨書が施されている。

地鎮遺構（第111図） 中世では明確な地鎮遺構はみられなかったが、中世整地土Ⅰから、地鎮に使用されたと考えられる土師質土器皿（495）が出土している。見込みには、五芒星・カーン（不動明王を示す梵字）、側面には九字・「仁王般若経」・「宇（？）賀福神」・「天如□□」と書かれている（図版21-5）。近世では、検出状況などから地鎮と考えられる遺構が2箇所見つかった。

685地鎮遺構（第111図） 肥前磁器染付皿（499）の上に瓦質土器火鉢（498）を伏せた状態で検出された（第64図）。その状態で取り上げ後に洗浄すると、中から土師質土器皿が2個体重なって出土した（496・497）。肥前磁器染付皿は口縁部を打ち欠いて、瓦質土器火鉢の大きさに合わせている。出土遺物の年代は肥前磁器染付皿や土師質土器皿の年代から17世紀中葉～後葉である。しかし、出土遺物の年代と出土層位の年代との間には若干の幅がある。出土層位は17世紀後葉～18世紀前葉であり、ここに埋められたのはその時期の古い段階であると考えられる。

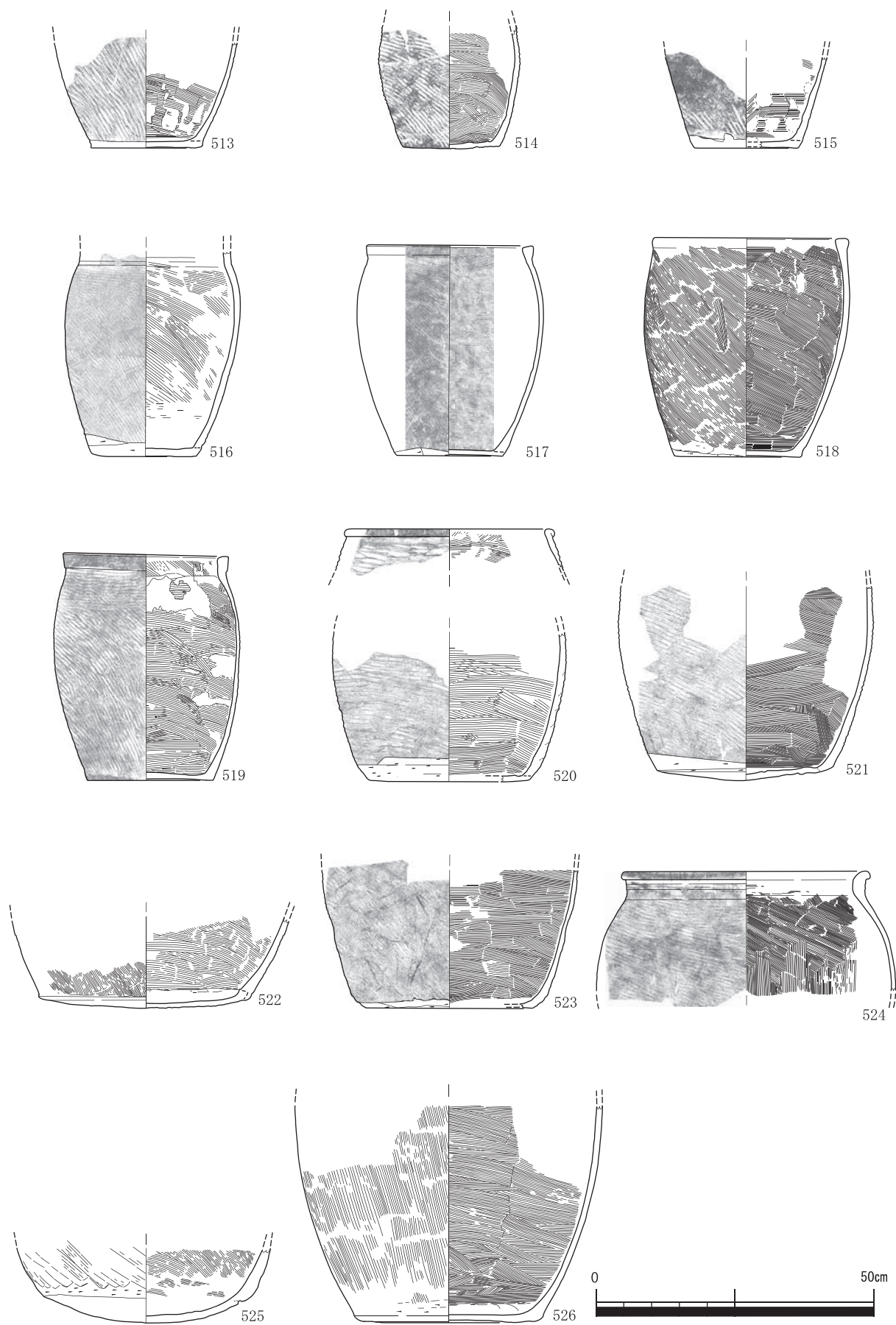
099小穴（第111図） 第1面で検出したこの遺構は、出土状況や遺物が一様に完形であることなどから、祭祀に係る遺構であると考えた（第63図）。ここからは、土師質土器皿4個体（500～503）、肥前磁器染付瓶2個体（505・506）、サヌカイト製火打石1個体（504）が出土した。また、肥前陶器掛分碗の小片も出土している。土師質土器皿は口径約10cmを測り、内1個体は、灯明皿として使用されている（501）。肥前磁器染付瓶が17世紀中葉、土師質土器皿も17世紀代の遺構から出土するものと共通する。出土遺物の年代観からは17世紀中葉～後葉であると考えられるが、検出面が第1面であり、遺構と



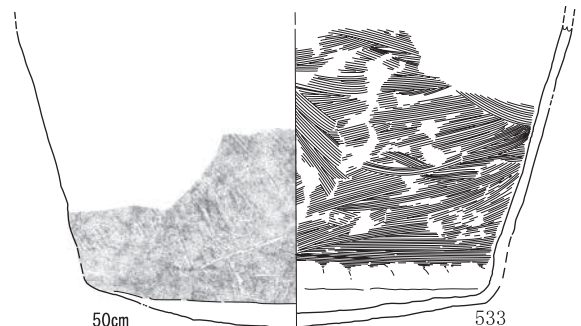
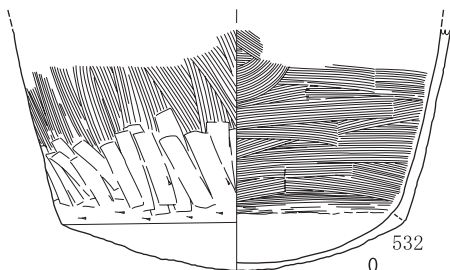
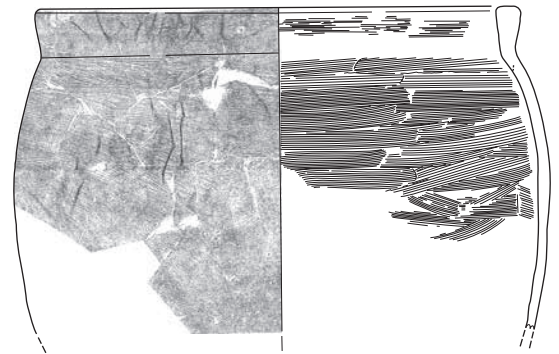
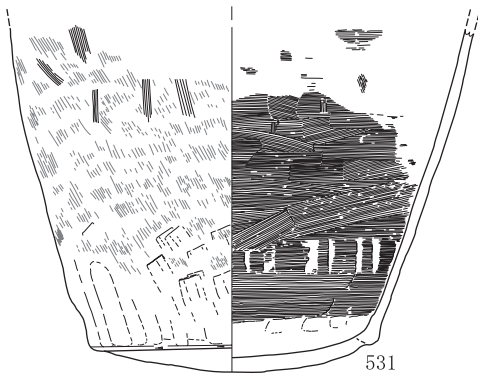
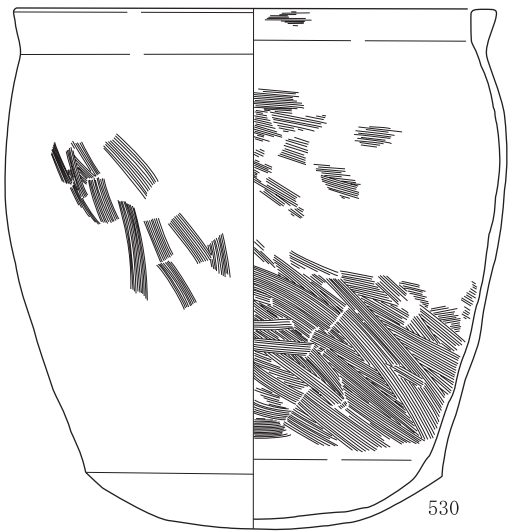
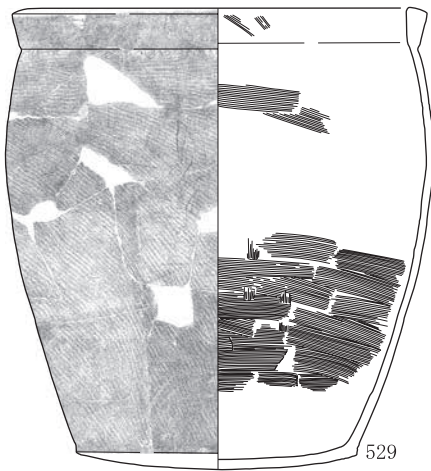
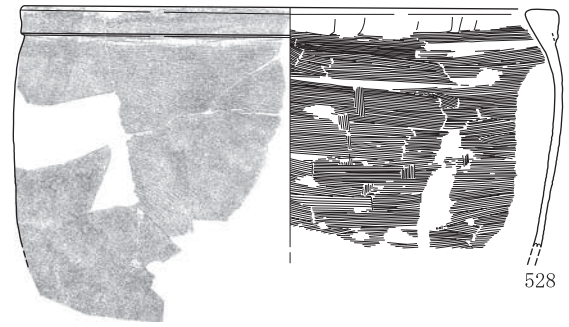
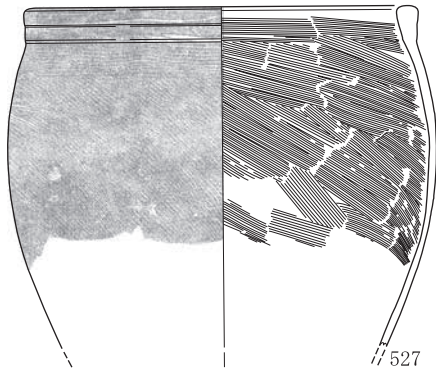
第112図 埋甕共伴遺物

しては江戸後期の遺構であると考えざるを得ない。

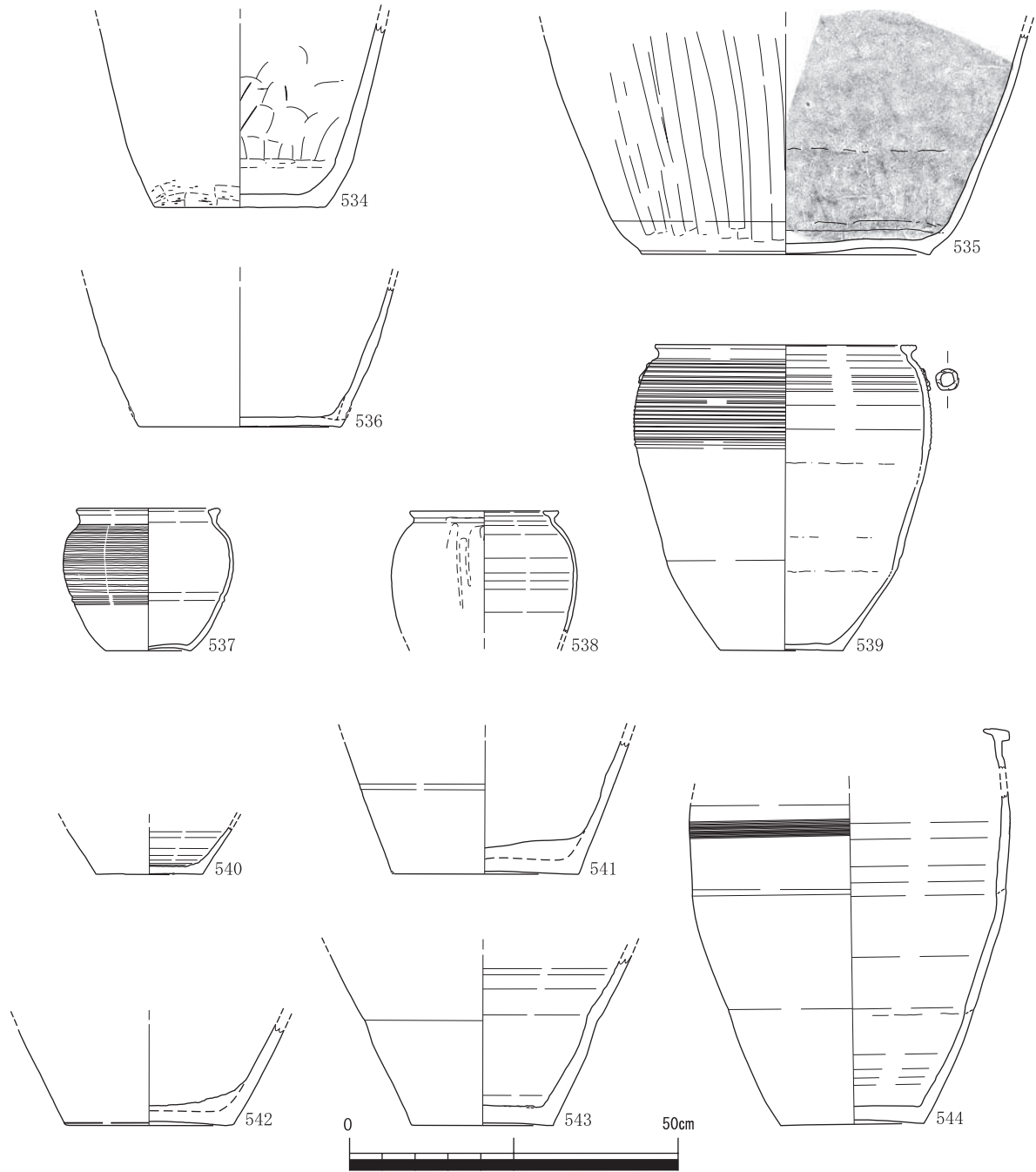
埋甕遺構（第112～115図） 今回の調査では中世から近世まで数多くの埋甕遺構を検出した。その多くは便甕として使用されていると考えられる。第6面までは、瓦質土器甕（524）のように頸部が立ち上がり、口縁が玉縁状の甕が出土している。第5面からは、瓦質土器と土師質土器の判別しにくいものや、土師質土器の甕が出土している。その土師質土器甕の頸部ははっきりせず、口縁部は玉縁（520）のもので出土している。第7～5面の間には大型の備前甕が多く出土しているが、これらは埋められた状態で検出されるものはほとんどない。第4面以降は、口縁部が方形の土師質土器甕が埋甕に使用され



第113図 遺構・埋甕遺構出土甕（1）



第114図 遺構・埋甕遺構出土甕（2）

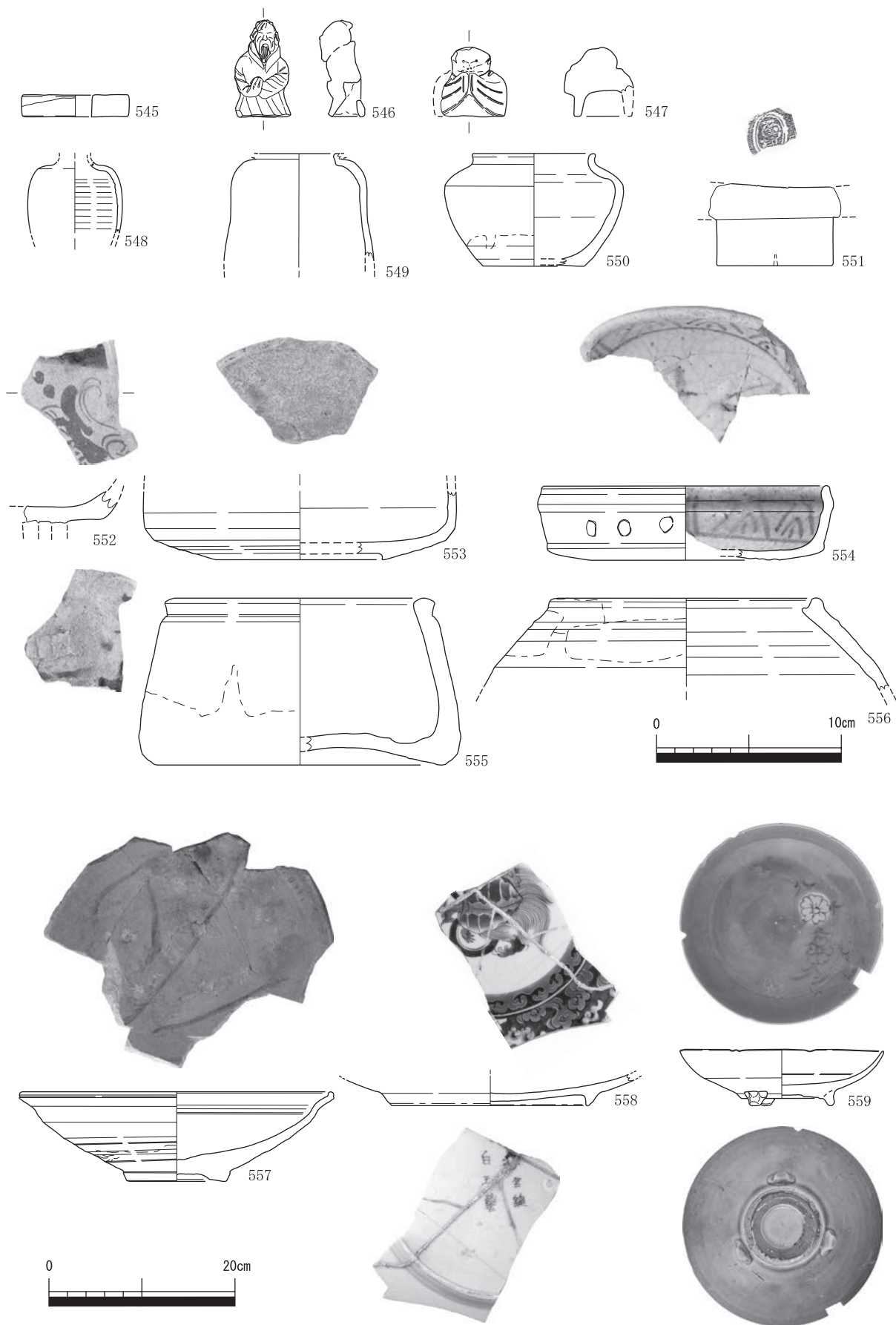


第115図 遺構・埋甕遺構出土甕（3）

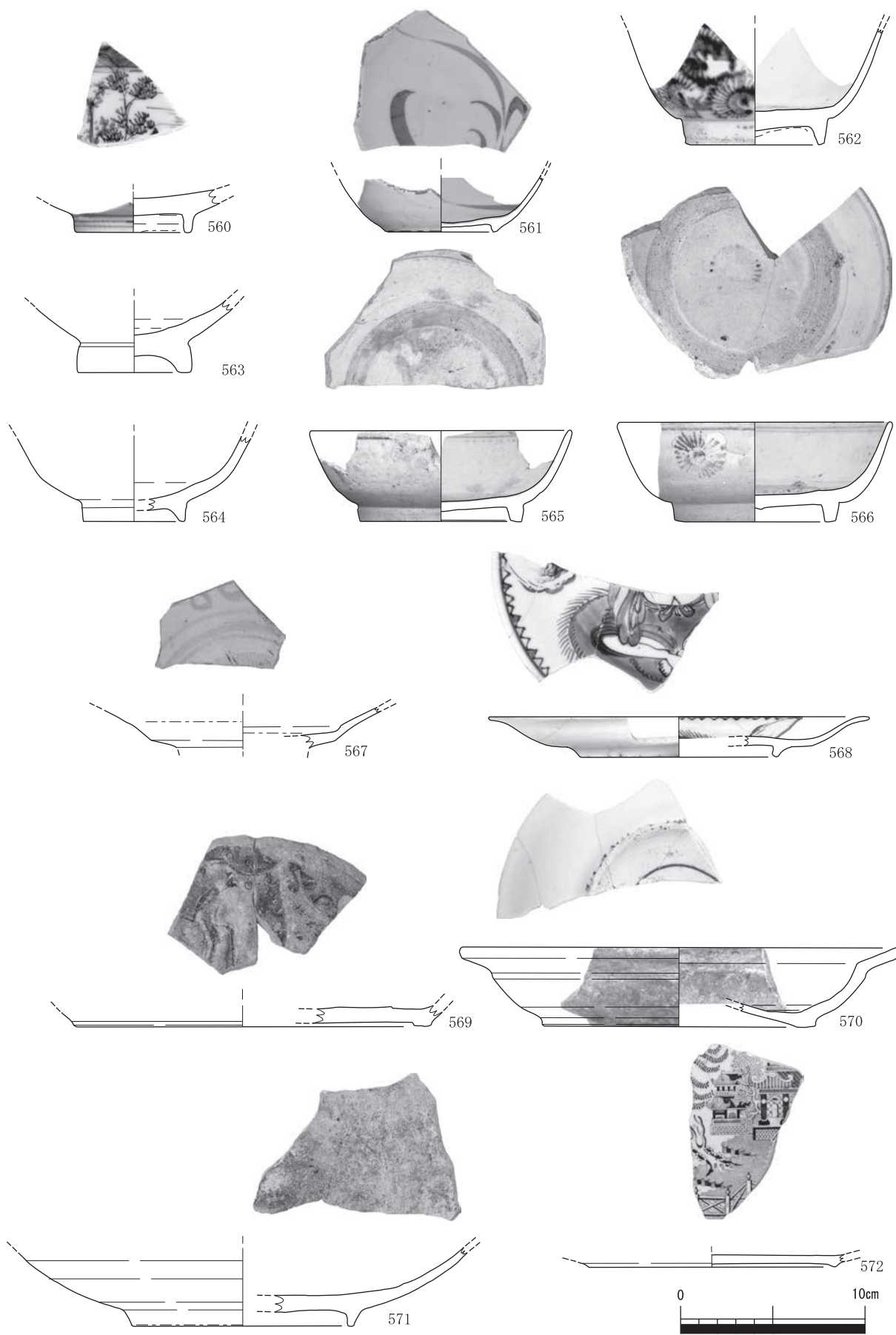
ている。大きさは口径30～35cm・器高約40cm、口径50～65cm・器高60～70cmの2サイズのものが多い。このほか、近世では廃棄土坑より出土した丹波甕や肥前陶器甕にも便甕として使用されていた痕跡を残すものもある。しかし、陶器甕が埋設された状態のものは少ない。これが、第1面の19世紀代の埋甕遺構になると、陶器甕が多用されるようになる。とくに、幕末～明治時代の遺構になると大谷甕が出土するようになる（541～544）。この大谷甕のほとんどに内面に厚く漆喰が貼られている（541～543）。

近世遺構・層出土遺物（第116～118図） ここでは、相伴遺物が少ないため取り上げなかった遺構や、包含層出土遺物などを報告したい。

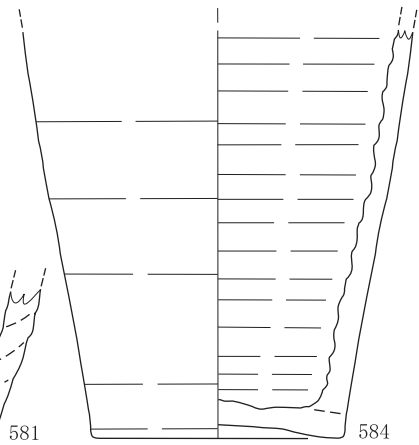
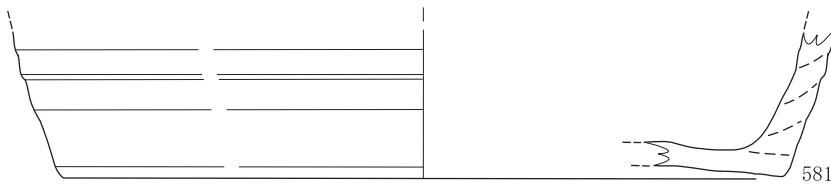
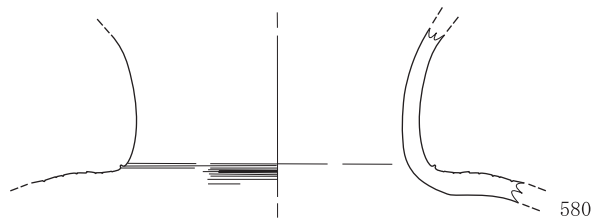
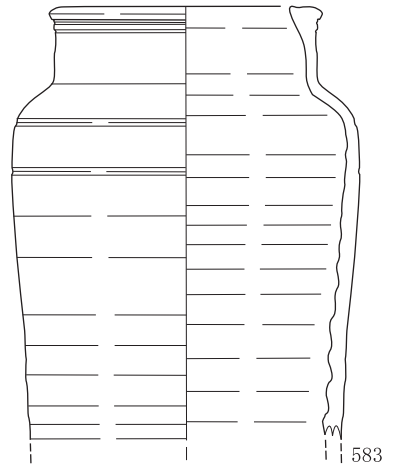
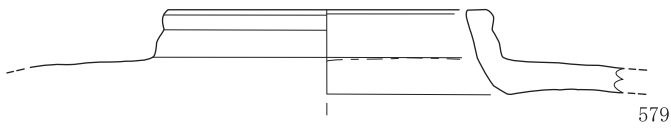
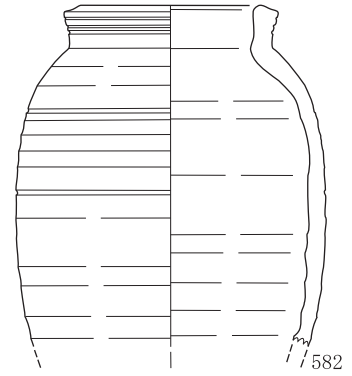
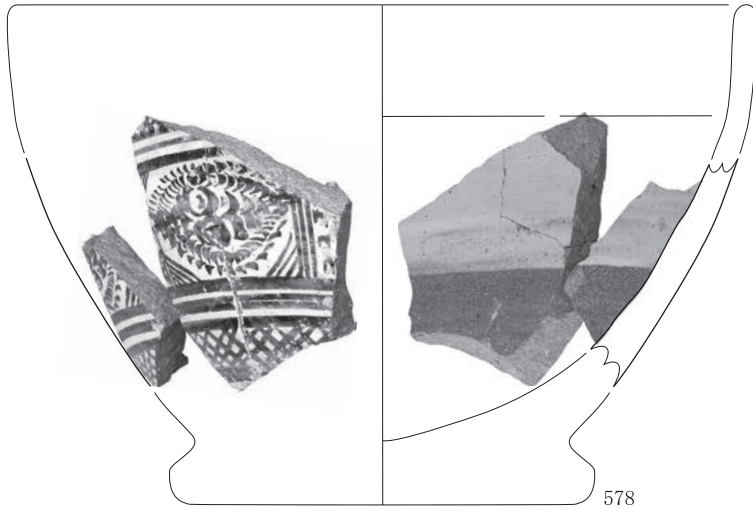
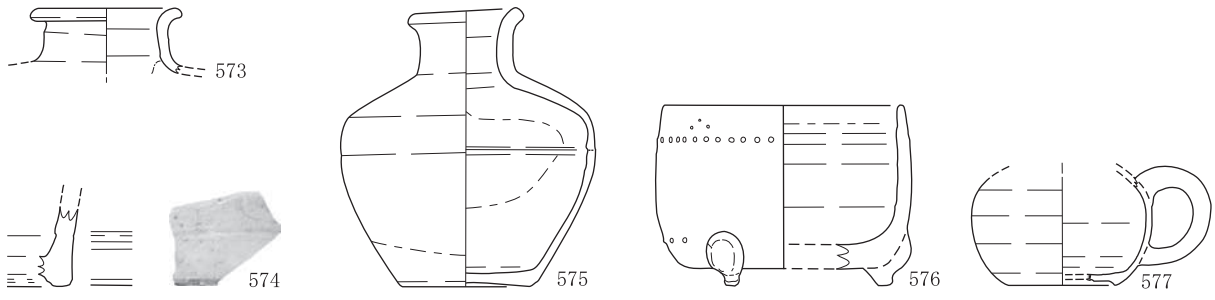
今回の調査で出土した遺物の中には、茶碗・茶入・茶壺・水指・建水・風炉・香合・懐石具・茶臼などの茶道具がある。出土した茶入の多くは瀬戸美濃茶入（548・550）で、そのほか備前や肥前陶器・肥



第116図 近世遺構・層出土遺物（1）



第117図 近世遺構・層出土遺物（2）



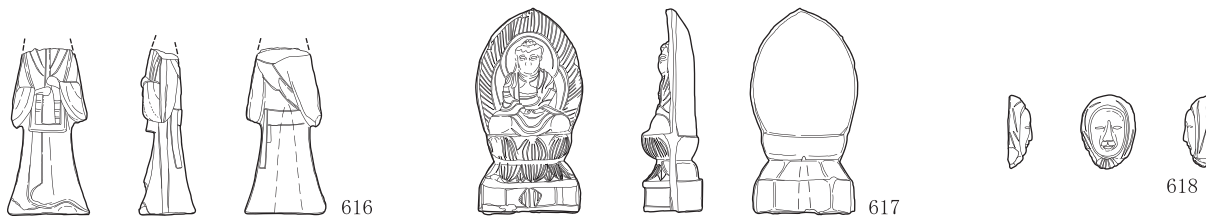
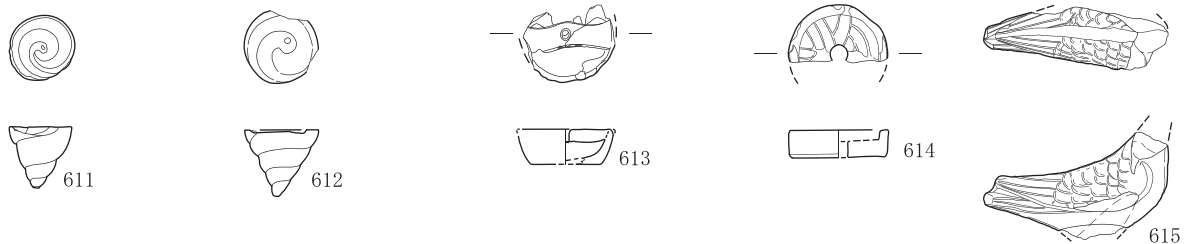
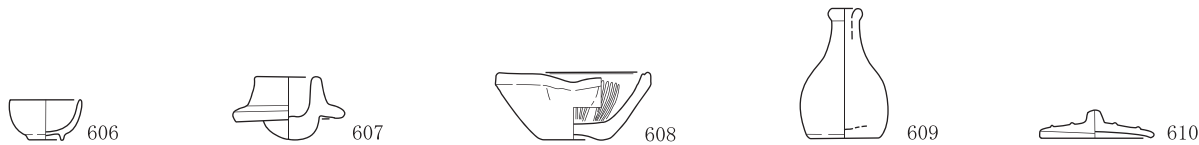
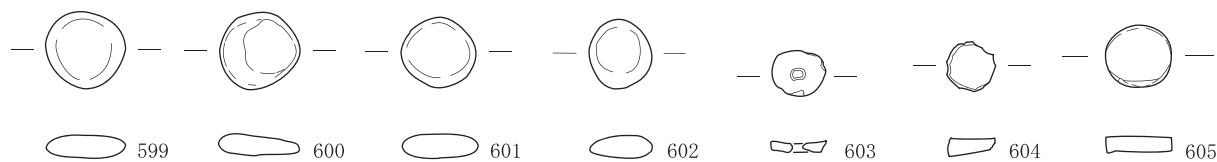
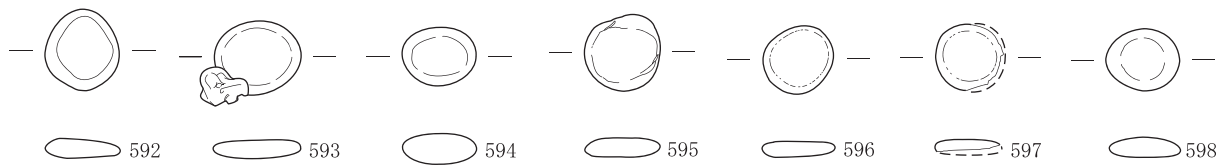
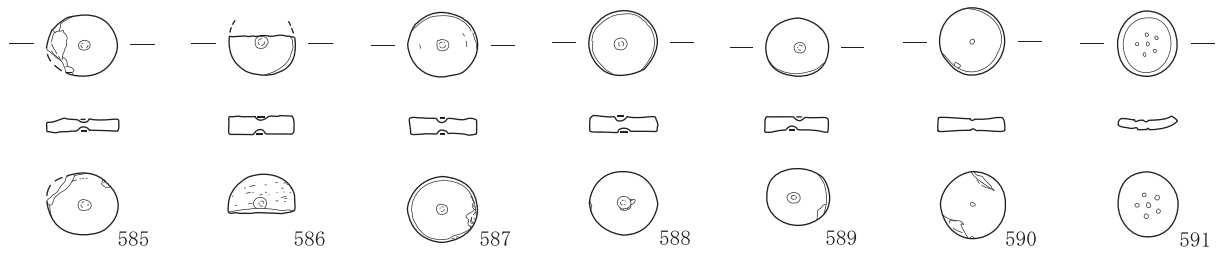
第118図 近世遺構・層出土遺物（3）

前磁器のものがみられた。備前茶入(549)は形態から、水注の可能性もある。軟質施釉陶器香合蓋は、狸香合もしくは猿香合と呼ばれるもので、猿が官人服を着ている。全面に柿釉を掛け、釉薬は膜を張ったというより、胎土に染み込んだようである(547)。丹波水指(556)は、肩部に塗土を刷毛で巡らし、装飾している。脚部のみ出土した瓦質土器風炉(551)の見込みには、二重の小判印内に「西村」の刻印が押されている。土風炉師の「西村善五郎」を意識した刻印か。このほか、織部(552)や黄瀬戸(553)・志野(554)などの向付も出土したが、第4面の遺構からはほとんど出土しなかった。

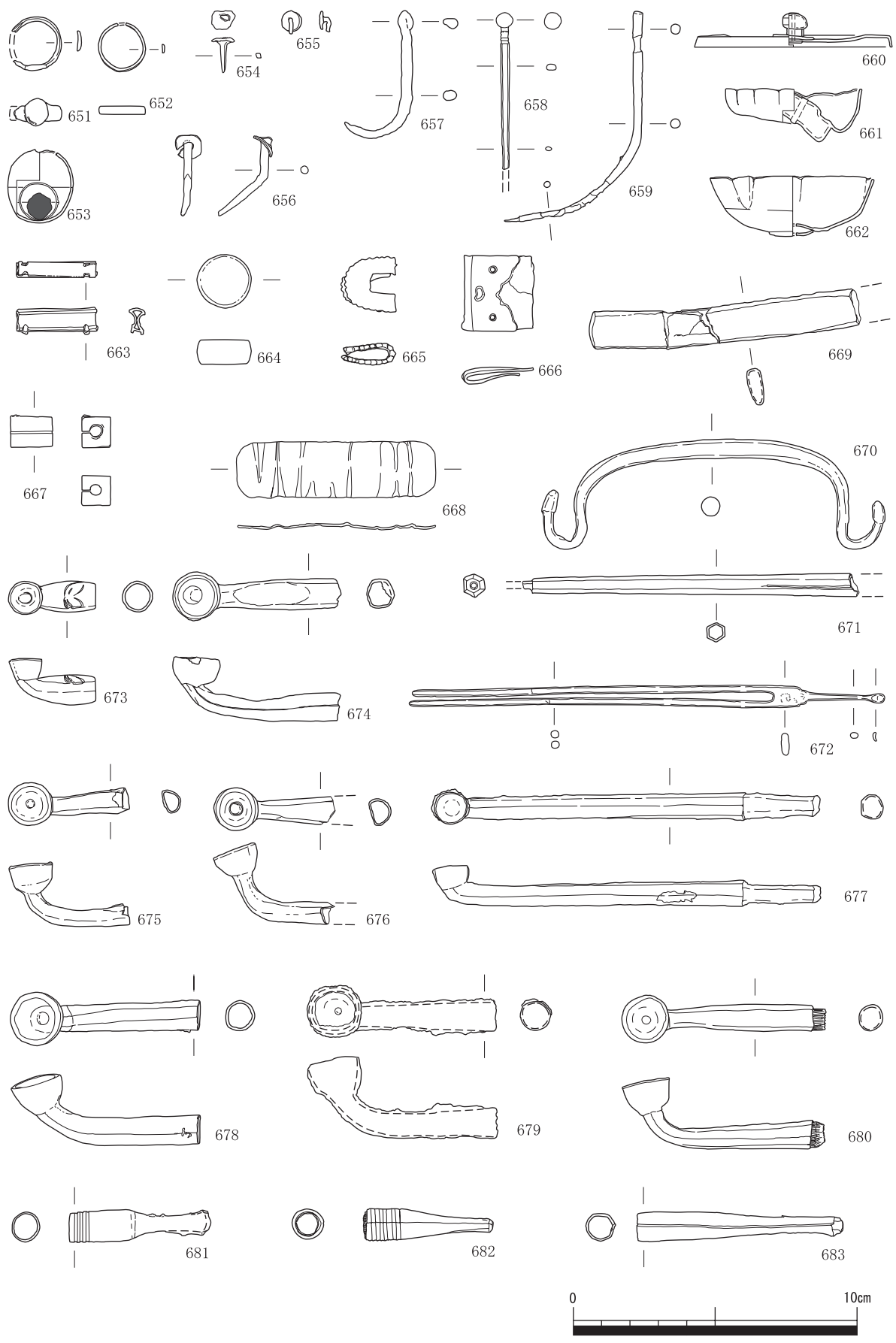
近世になると貿易陶磁器は極端に出土量が減少するが、近世に入ってから貿易によってもたらされたもの、骨董として取引されたと考えられるものも出土している。多くはやはり中国製陶磁器であるが、ベトナム・タイ・イギリスの陶磁器も出土した。近世に入ってから輸入された中国製染付には、スタンプ文碗(562)や色絵皿(568)などがある。色絵皿(568)は天啓赤絵と呼ばれるもので、高台内に圏線を描いたにも関わらず、透明釉を掛けなかったために茶色に発色している。中国製陶器は近世のものにはほとんどなく、いずれも中世段階のものである(575・577)。宜興窯急須(577)は、器壁は薄く、丁寧な作りである。底部に刻印の方形輪郭が少し残る。出土したのが盛土であるため、年代については不明である。東南アジア陶磁器の中で一番出土量の多かったものはベトナム製焼締陶器長胴壺(582～584)である。これに続き、菊花スタンプ文を押した、いわゆる「お日様マーク」の鉢が目立つ(565・566)。この鉢には、スタンプを押す前に白化粧を施したものと、生地に直接スタンプを施し、透明釉を掛けるものがみられる。この他、類例が無いものに、タイ製陶器鉄絵突鉢(578)がある。外面から内面中程まで白化粧を施した上に鉄絵を描き、透明釉を掛ける。宋胡録とも呼ばれるものである。類品には、富山市佐藤記念美術館所蔵の伝世品が知られており、茶道具として伝えられている。今回出土したものはこの伝世品よりも大型である。ヨーロッパ製陶磁器では、イギリス製銅版転写皿が出土している(572)。楼閣図と柳の木が描かれており、ウィローパターンの名称で知られる。近世においてもこのような様々な貿易陶磁器が出土することは、堺環濠都市遺跡の性格をよく表しているといえるだろう。

玩具(第119図) 第7面669土坑からは焼けた陶磁器と共に白黒のおはじき大の遺物がまとまって出土した。黒色の碁石状のもの(593～602)は10個体出土し、長径2cm前後を測る。珪質頁岩製である。一方白色のもの(585～591)は貝製で、長径1.7cm前後を測り、表裏面共に中央部に1箇所窪みをつける。1個体のみ6箇所窪みをもつものがある(591)。黒色の石は碁石の可能性はあるが、貝製の白とあわせて盤双六の駒として使用されていたものである可能性がある。近世に入ると土人形・ミニチュア類が出土する。中世にも土人形は出土しているが(171)、それに続くものは無い。今回の調査では、18世紀前葉を上限とする遺構から出土するものが早く、18世紀後半には出土量が増加する。

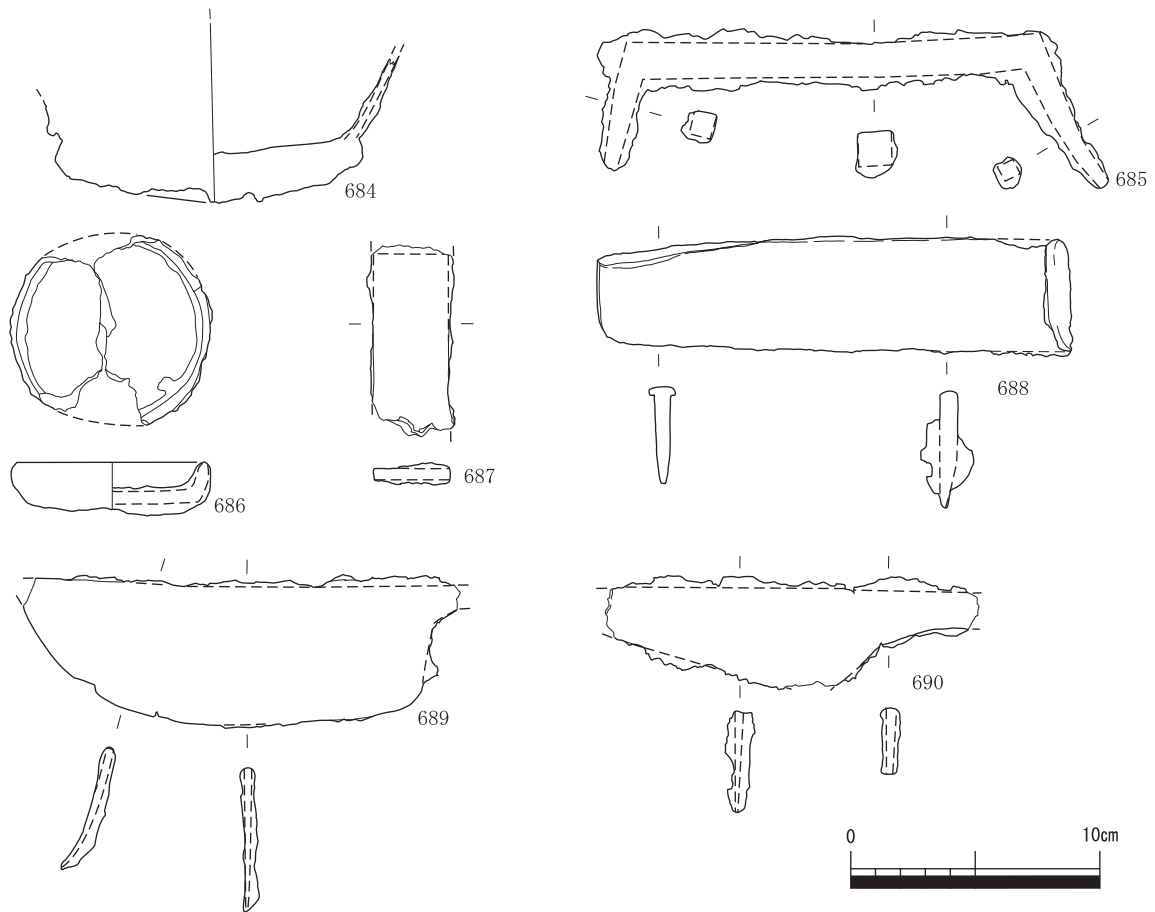
銅製品(第120・121図) 金属製品で一番多く見つかったのは銭貨で、約150枚出土した。多くは中世の面から出土しており、災害後の整地や焼土層に忘れ去られたものが多いのだろう。銅製品では煙管(673～683)や簪(672)、鈴(653)など色々な種類のものが見つかったが、用途不明なものも多い。鈴(653)は、X線写真をみると厚さ約1mmの二重構造の中に、塊が写っている(図版25-5)。一番外側の表面には一部金箔が残っており、金貼りの鈴であったようである。108埋甕からは2個の指輪(651・652)が見つかった。銀製とみられる指輪(651)は、板状に伸ばしたものを輪にし、接合部分に円盤状の飾りをつけ、六角形が彫り込まれている。この指輪の類品としては、長崎市興前町遺跡から出土した青銅製指輪がある。この指輪も板状の青銅を輪にして作られているが、今回出土のものより接合部の処理は丁寧である。その接合部に六角形の円盤を貼り付け、その表面に唐草?状の文様を彫り込み、



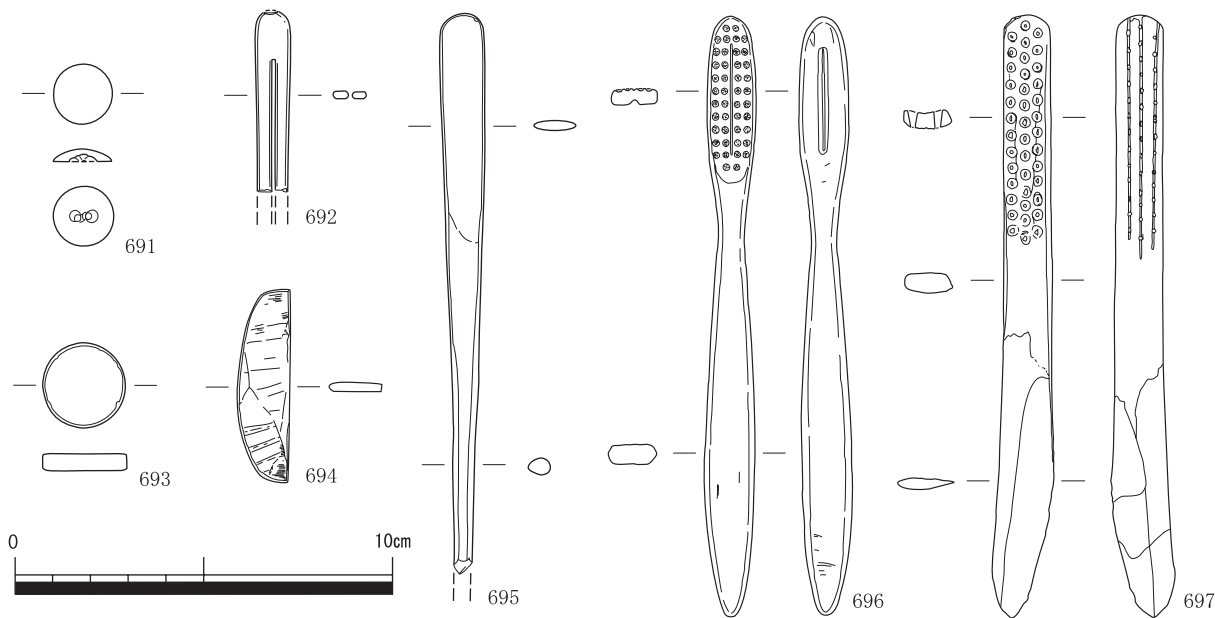
第119图 玩具



第121图 銅製品



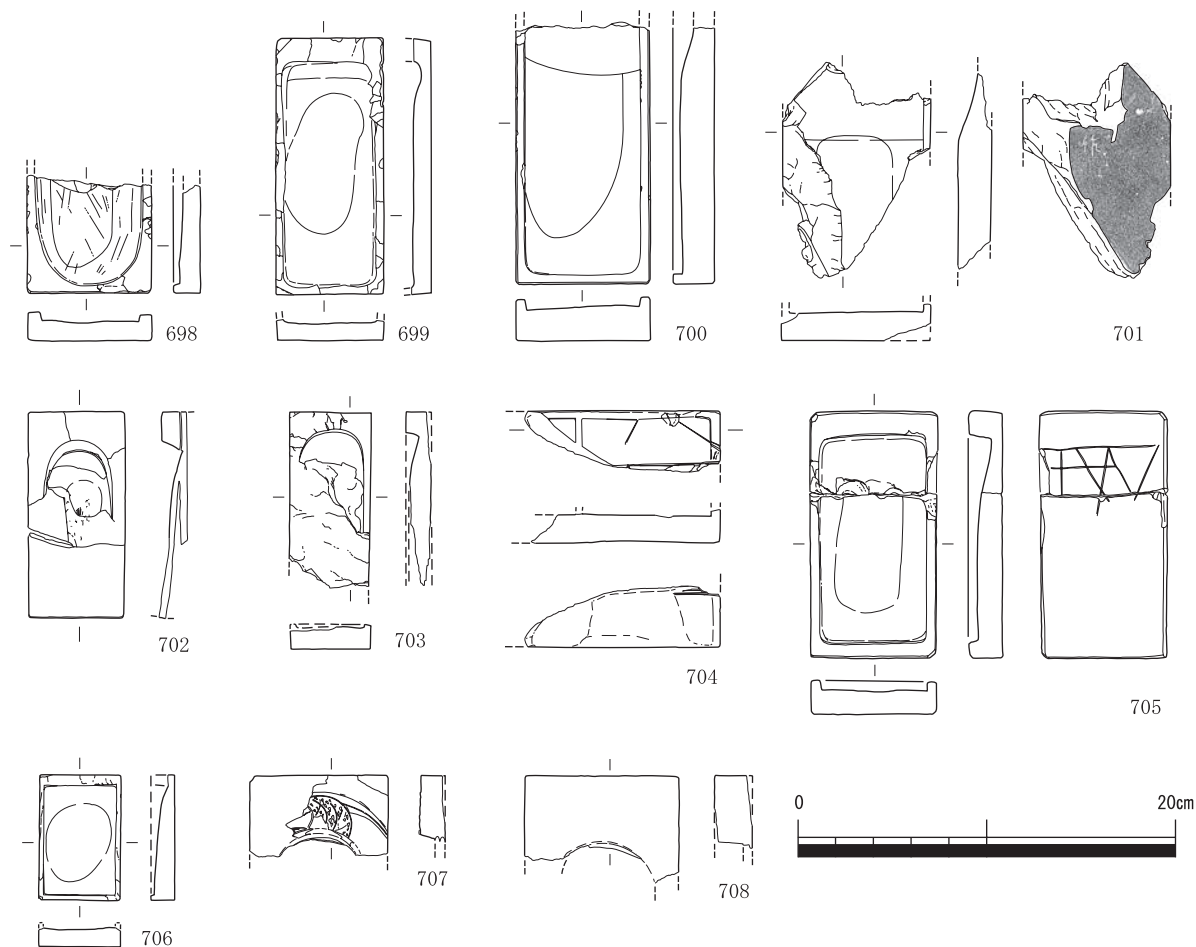
第122図 鉄製品



第123図 骨製品

リング部分には溝が3条巡っている。今回指輪が出土した108埋甕は、掘方から瀬戸美濃磁器染付端反碗が出土していること、108埋甕と対で使用されていたと考えられる、109埋甕の覆土から明治時代の銭貨（649・650）が出土していることなどから、幕末～明治時代の遺構であると考えられる。

鉄製品（第122図） 鉄製品の中で一番多く出土したのは鉄釘である。元の形状を留めている遺物



第124図 硯

の中には、鍋 (684)・鉈 (688)・包丁 (690)・鏝 (685) のほか、皿状のもの (686) がある。鉈は、上端部が使用の際に叩かれて潰れている状況がよくわかる。

骨製品 (第123図) 骨製品には、簪 (692)・笄 (695)・櫛髷 (697) のように化粧に関するものから、ボタン (691) や歯ブラシ (696) も出土した。櫛髷は柄の部分削ってヘラに転用している。

石製品 (第124～127図) 硯は色々な石材のものが出土し、中には瓦質硯 (705) もある。傾向としては、中世の硯の多くは海部のコーナーが丸いものが多い (702・703・707・708)、四角いものは近世に多い (699～701)。そして、中世には凝灰質頁岩製の硯が多く、近世の硯には黒色頁岩製・流紋岩質頁岩製が多い傾向にある。中世整地土Ⅲより出土した凝灰質頁岩製硯は、中央部で仕切られており、残存している右側を反転すると約15cmとなり、大型の硯である。赤間硯の可能性もある (704)。

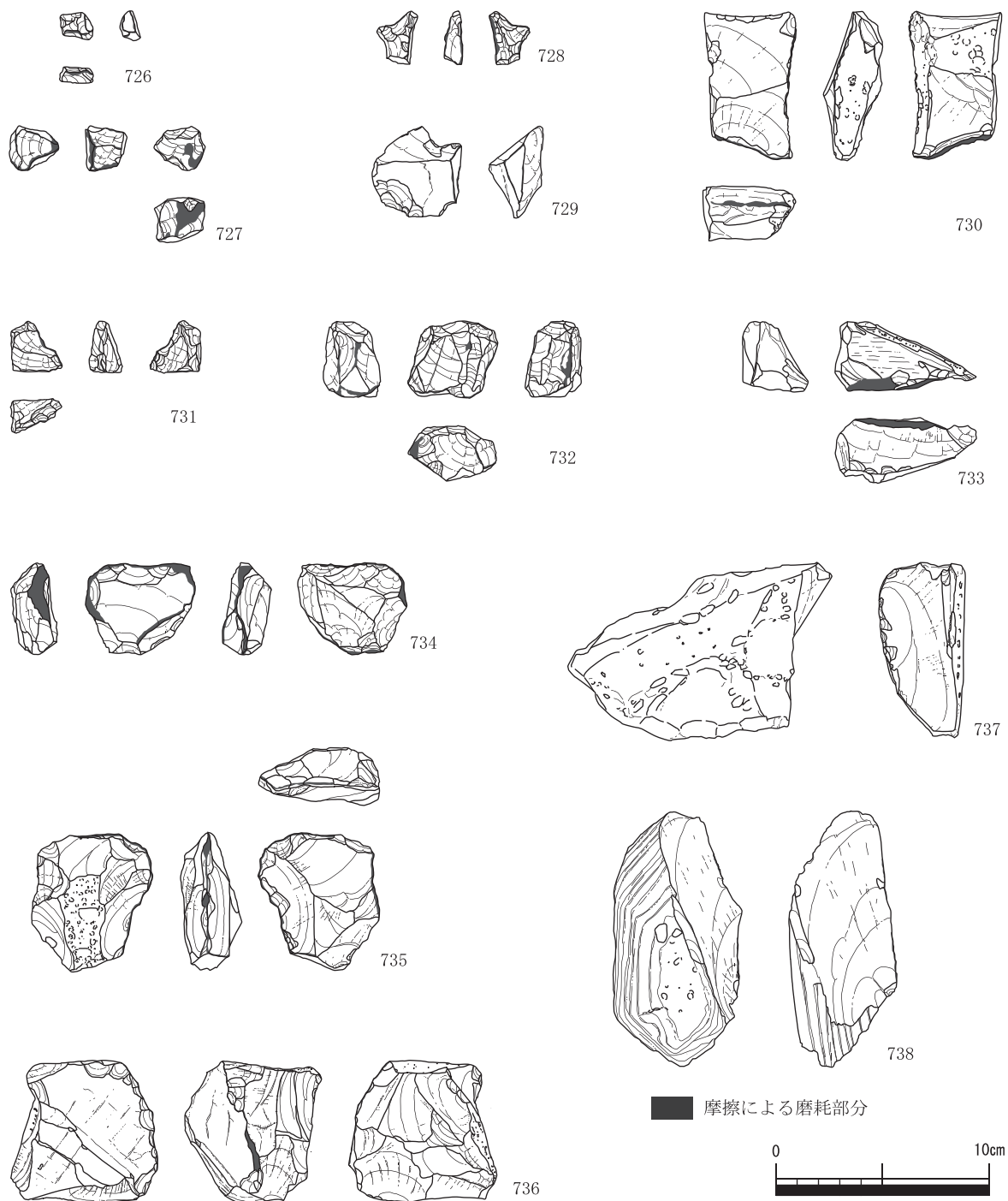
砥石もまた硯と同様に様々な石材がみられた。出土した砥石の大半は中砥 (710～722) で、珪質頁岩製が多い。仕上砥 (709)・粗砥 (723・724) は数が少なかった。花崗岩質砂岩製の粗砥には、和歌山産 (田辺層群白浜累層) と考えられるものが見つかった (723・724)。

火打石は中世の面からサヌカイト製 (733～738)、近世に入るとサヌカイト製に加えてチャート製 (726～729・731・732) が出土した。チャート製の火打石は18世紀に入ると出土が目立ちだし、19世紀代に入ると出土量が増加する傾向がみられた。

このほか、一石五輪塔 (739～741)・蓮座 (743・744) などの石造物や、錘 (742) や茶臼 (746)・臼 (747・748) などが出土した。礫岩製の部材は、特に001・002土坑から同様のものが多く出土した (745)。



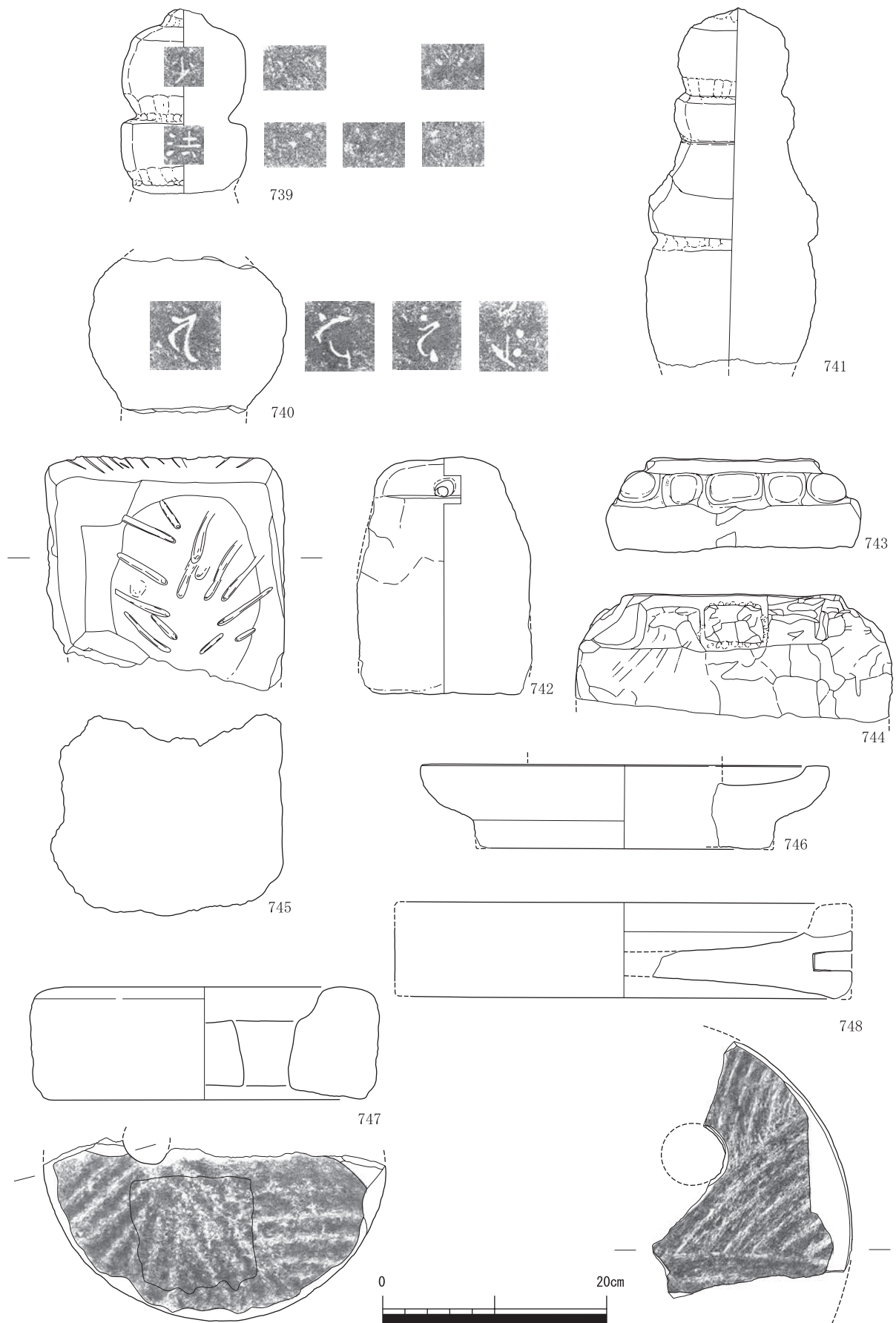
第125図 砥石



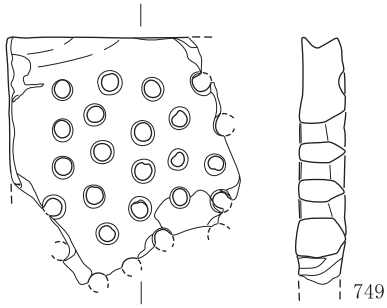
第126図 火打石

いずれも全面が赤く焼けており、相当の熱を受ける場所で使用されていたことがわかる。この石は竈の構築材として使用されている例が多い。竈に使用されていたとすれば、石材の大きさから一般家庭の竈に伴うものではなく、商業用の竈に伴うと考えられる。001・002土坑以外の遺構からは、家庭用竈に使用するサイズのもの（長さ20cm以上、幅約12cm、厚さ約7cm）も出土している。

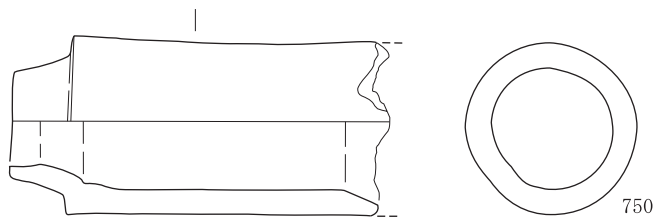
瓦質製品（第128・129図） 堺環濠都市遺跡では、遺跡内で瓦生産などを行なっているためか、屋根瓦以外の瓦質製構築部材が出土している。古いものでは円筒形の井戸枠、それに続く埴状の井戸枠瓦があり、今回もいくつかの井戸で使用されている（753）。この他、排水用と考えられる、瓦管（750）・U字状の溝枠部材（752）なども出土した。埴に多くの穴を穿孔したもの（749）は、側面に「V」字状



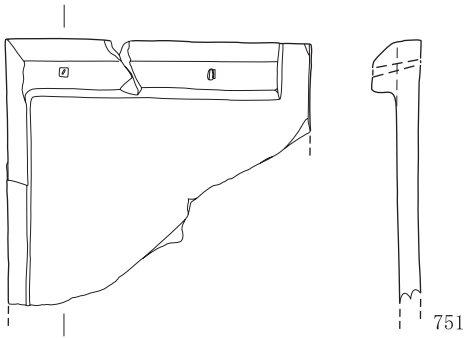
第127図 石造物



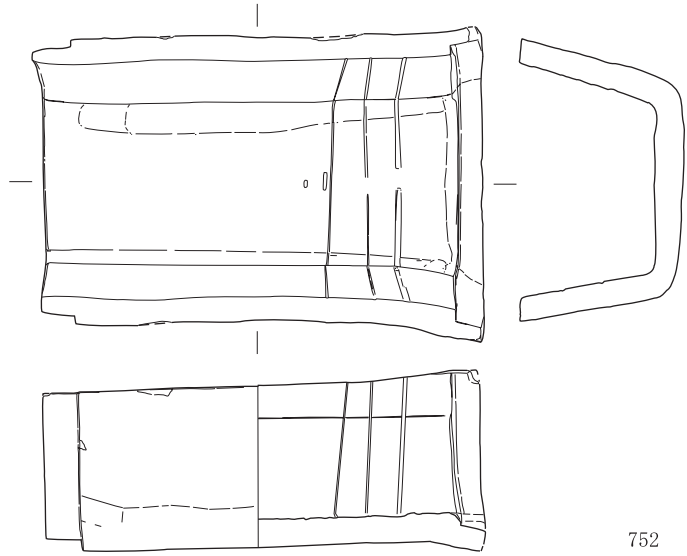
749



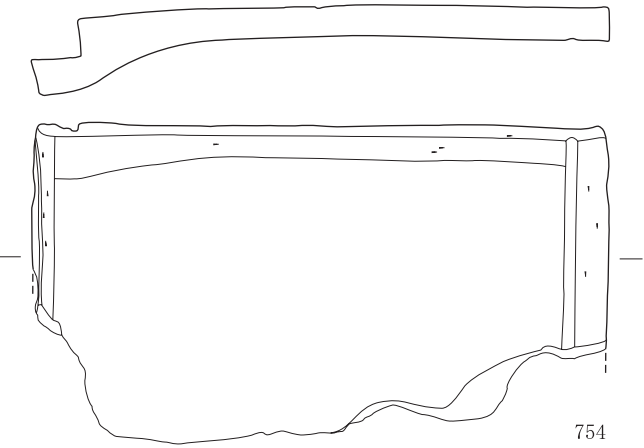
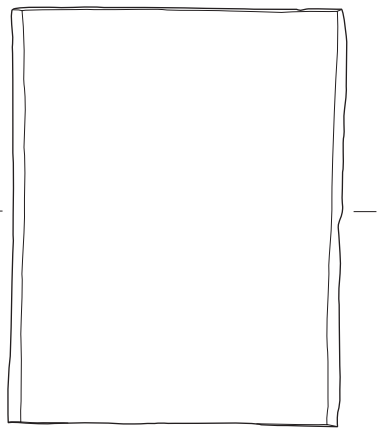
750



751



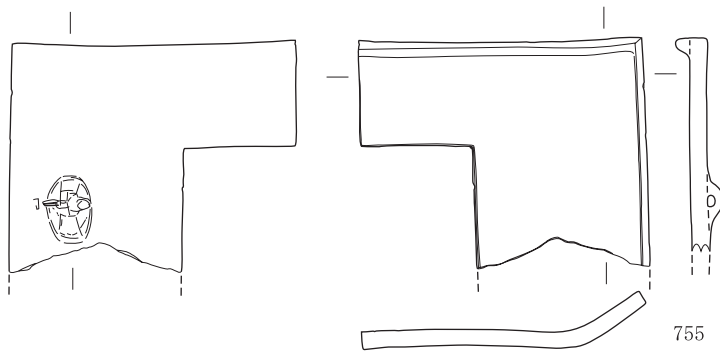
752



754

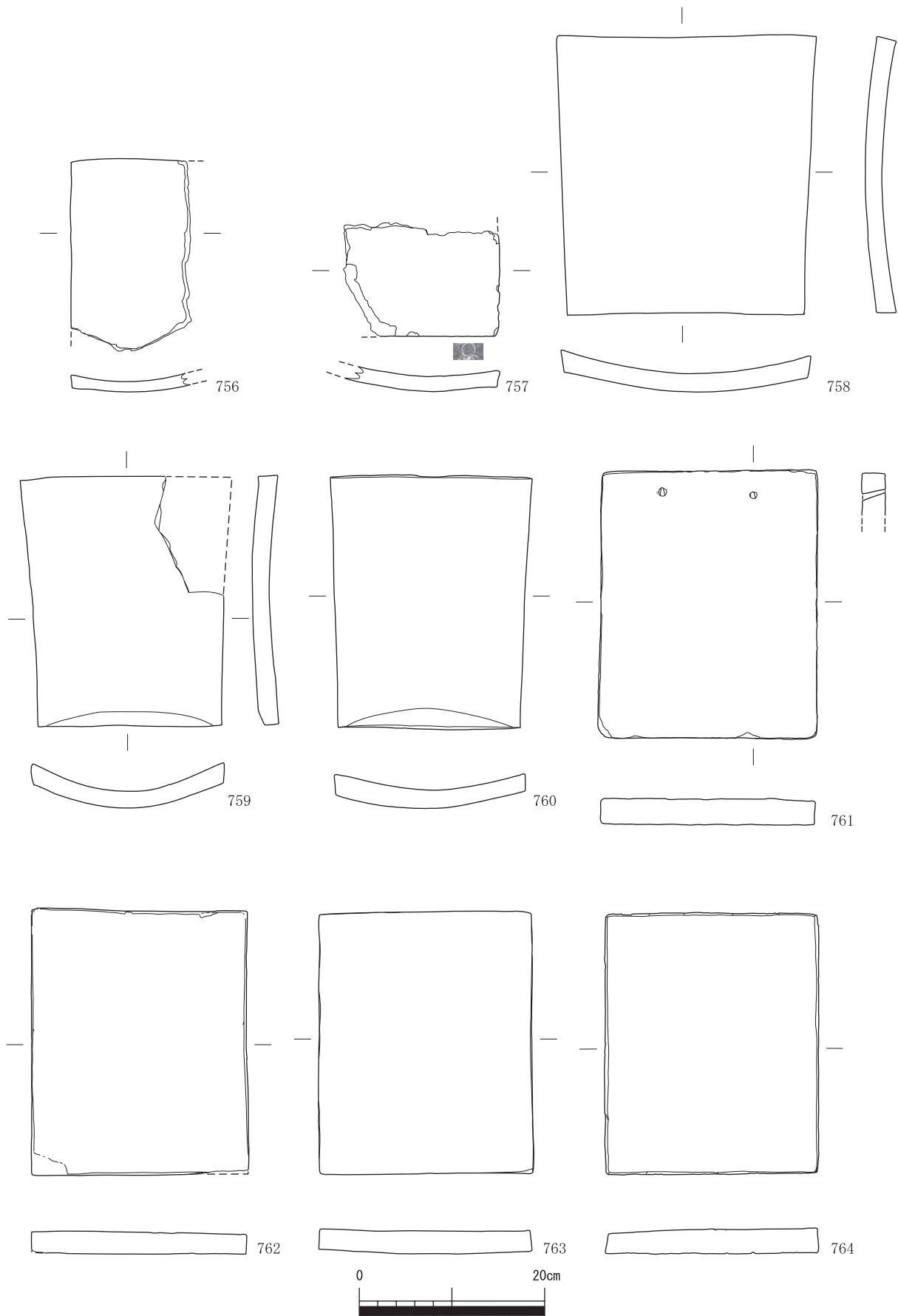


753

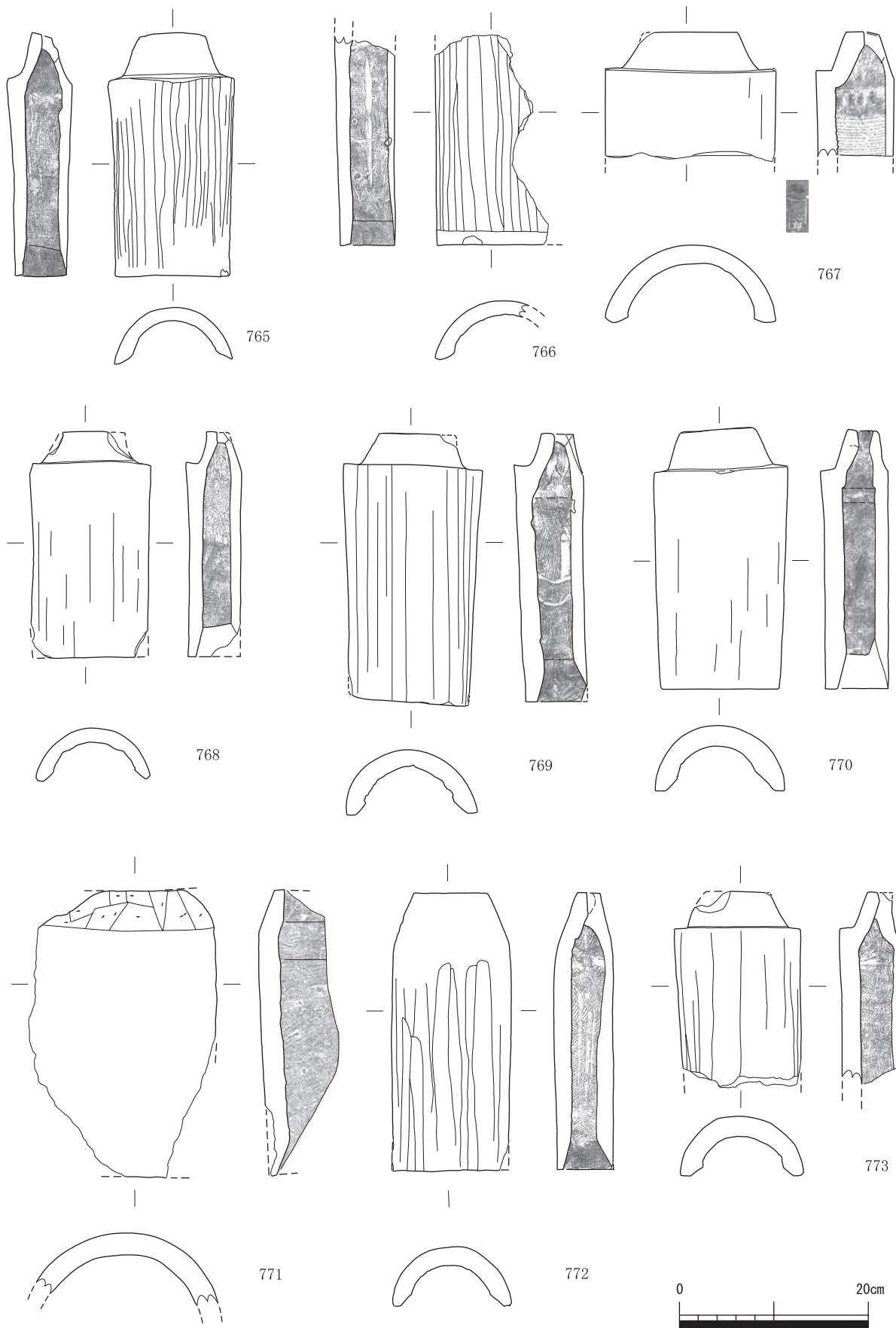


755

第128図 瓦質製品



第129図 平瓦・塼



第130图 丸瓦



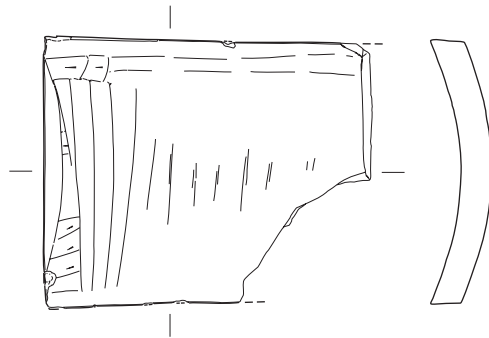
774



775



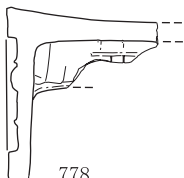
776



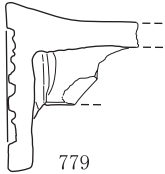
781



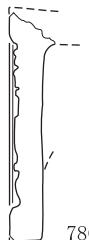
777



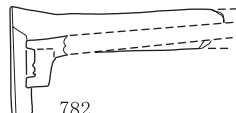
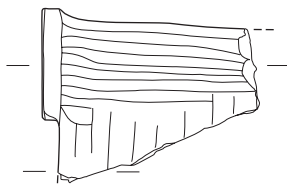
778



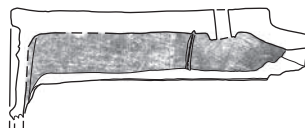
779



780



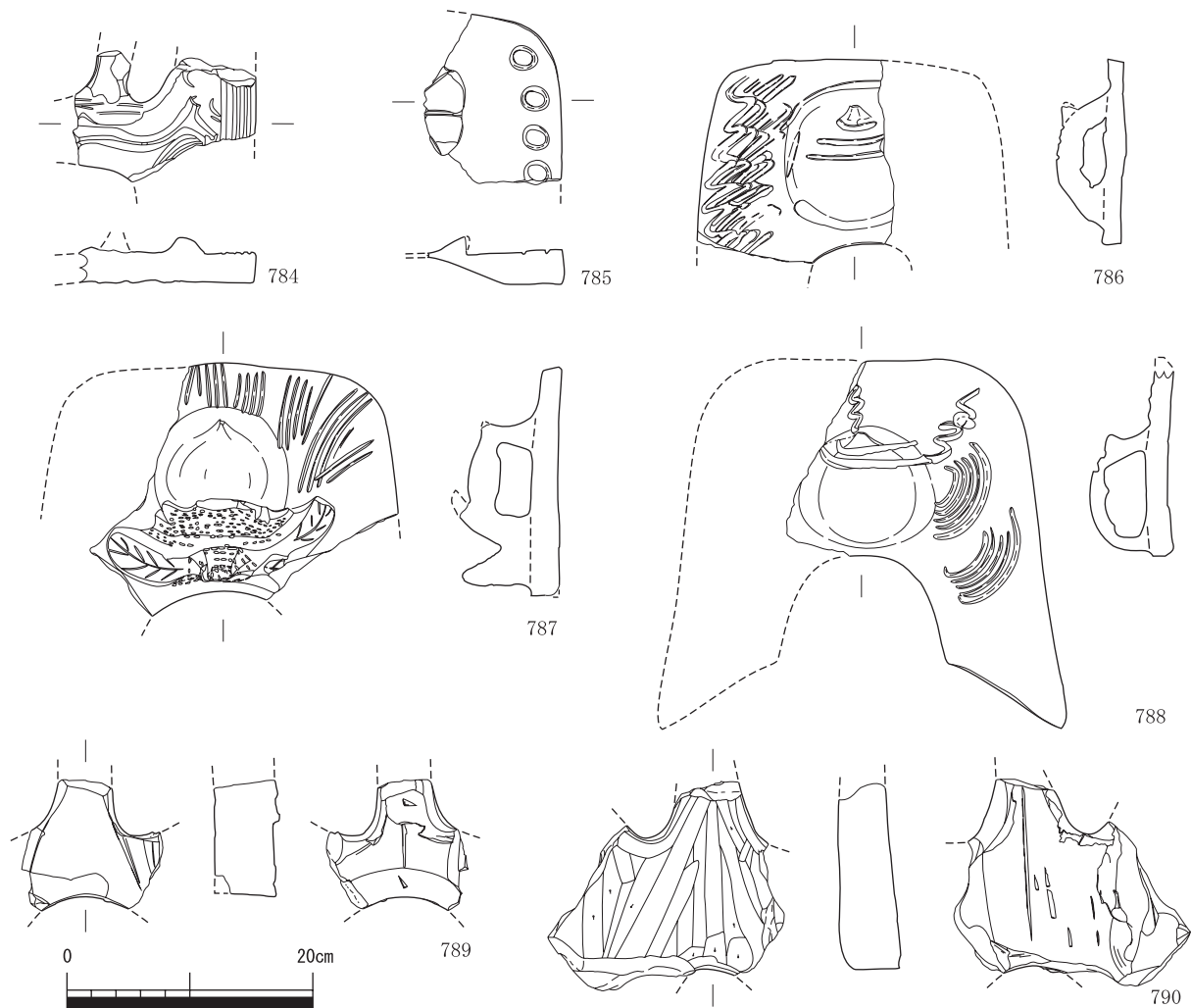
782



783



第131図 軒瓦



第132図 鬼瓦

の溝が切られており、何かに噛合せて使用するのだろうが用途不明である。厚さなど細部は異なるが、数個体出土している。反対に使用状況が良くわかるものには塙列建物に使用された塙がある（761～764）。2箇所穿孔をもつ塙（761）もあるが、使用場所など特に異なる点はみられなかった。

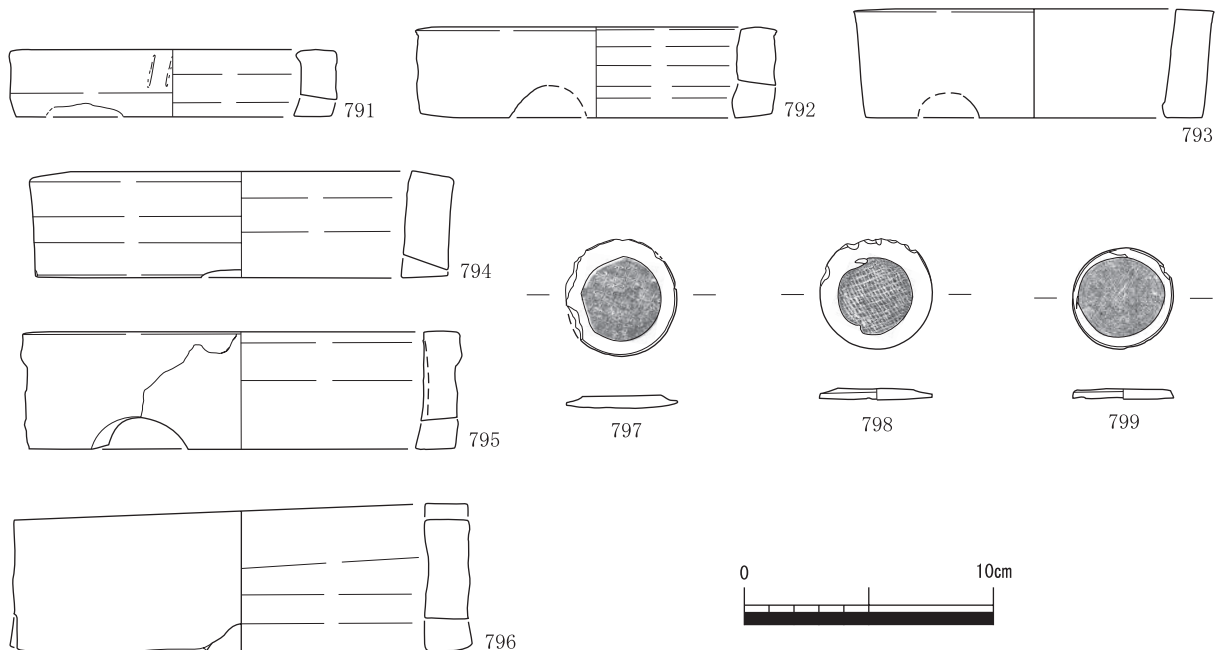
屋根瓦（第128～132図、表4） 屋根瓦は中世整地土Ⅲから近世まで大量に出土した。軒椀瓦は006井戸（19世紀前葉～中葉）から出土しているが、調査地全体では極少量しか出土していない。しかし第2次世界大戦の焼土層からは大量に出土しており、近代に入り、椀瓦葺の建物が建ったと考えられる。また珍しい瓦には、天窓瓦がある（755）。凹面は丁寧に調整され、凸面は未調整である。現在の天窓瓦と酷似しており、17世紀末～18世紀前葉の遺構から出土している。このほか、鬼瓦も様々な形態のものが出土した。最も多いのは火炎宝珠をつけた瓦（786・788）で、宝珠部分が桃の瓦もある（787）。また、全体像はわからない瓦（789・790）は、裏側にヘラ描きで線が描かれており、製作の際の基準線であると考えられる。18世紀代に入る遺構からは、刻印を押した瓦が出土するようになる（表4）。今回の調査では、136土坑から出土した刻印瓦が最も早い例である。

窯業関係遺物（第133図） 塙焼については、既存の調査により塙環濠都市遺跡東辺部で瓦と共に多く焼成していたことが知られる。今回の調査地内で焼物を焼成していた痕跡は見出せないが、塙焼の窯道具が出土している（791～796）。調査地も塙環濠都市遺跡東辺に位置することから、近辺で焼成さ

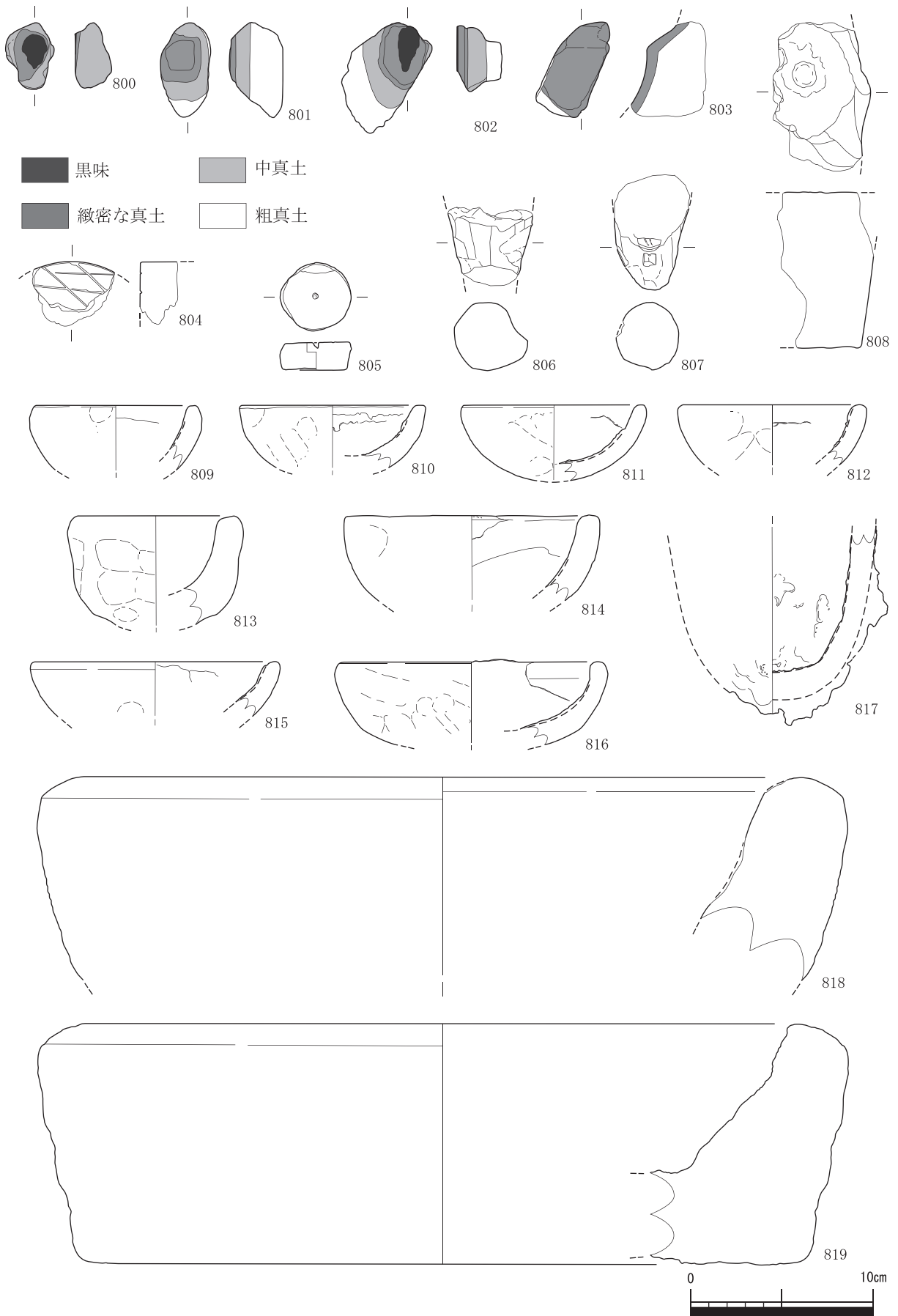


刻印 NO.	遺物 番号	刻印銘	種類	遺構 層位	出土遺構年代	刻印 NO.	遺物 番号	刻印銘	種類	遺構 層位	出土遺構年代
1	—	○	平瓦	473井戸	19世紀前半	8	767	塚泉 湊喜三郎	丸瓦	054溝	18世紀末~19世紀初頭
2	757	—	平瓦	136土坑	17世紀末~18世紀前葉	9	—	喜太郎	軒平瓦	006井戸	19世紀前葉~中葉
3	—	「塚」○囲い	平瓦	275土坑	18世紀末~19世紀初頭	10	—	塚北喜十良	平瓦	054溝	18世紀末~19世紀初頭
4	—	「塚」○囲い	平瓦	136土坑	17世紀末~18世紀前葉	11	—	塚丹治利右衛門	平瓦	攪乱	—
5	—	谷傳兵衛	軒平瓦	054溝	18世紀末~19世紀初頭	12	—	塚改丹治利右衛門	平瓦	攪乱	—
6	779	—	軒平瓦	054溝	18世紀末~19世紀初頭	13	—	利兵衛	平瓦	攪乱	—
7	—	塚瓦惣	軒平瓦	284土坑	19世紀前葉~中葉	14	—	・・瓦利	平瓦	攪乱	—
—	—	塚瓦師	軒平瓦	002土坑	18世紀末~19世紀初頭	15	—	七兵衛	平瓦	攪乱	—
—	—	—	軒平瓦	028井戸	19世紀前半	16	—	塚嘉右衛門	丸瓦	122土坑	18世紀後葉
—	—	—	軒平瓦	006井戸	19世紀前葉~中葉	17	—	・・衛	平瓦	136土坑	17世紀末~18世紀前葉

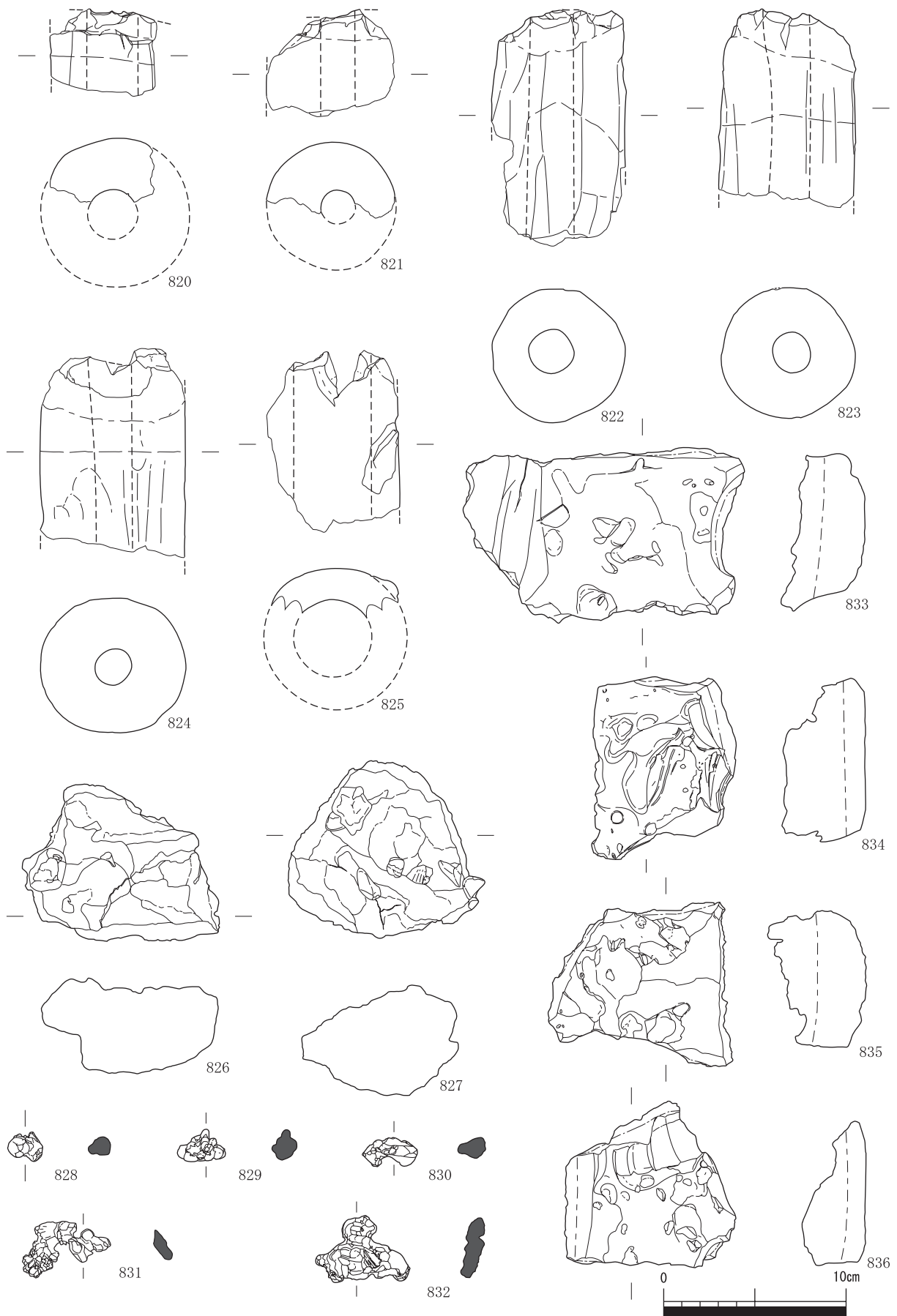
表 4 瓦刻印一覽



第133図 窯業関係遺物



第134図 鑄・鍛造関係遺物（1）



第135図 鑄・鍛造関係遺物(2)

NO.	遺物番号	遺構(層)	口径(cm)	備考	NO.	遺物番号	遺構(層)	口径(cm)	備考
1	813	東側溝(0~50cm)	8.4		6	811	中世整地土Ⅱ	9.9	胎土内粉殻あり
2	810	415増列建物掘方	10.0	胎土内粉殻あり	7	816	中世整地土Ⅱ	14.5	胎土内粉殻あり
3	814	527井戸	13.6	胎土内粉殻あり	8	815	中世整地土Ⅲ	13.1	胎土内粉殻あり
4	809	中世整地土Ⅰ	8.7	胎土内粉殻あり	9	—	天正整地土	8.6	
5	—	中世整地土Ⅰ	12.0		10	812	617土坑	9.8	砂礫多く含む

表5 とりべ法量

NO.	遺物番号	遺構(層)	法量(cm)		NO.	遺物番号	遺構(層)	法量(cm)		NO.	遺物番号	遺構(層)	法量(cm)	
			外径	内径				外径	内径				外径	内径
1	—	中世整地土Ⅰ	6.7	2.7	20	—	中世整地土Ⅰ	7.2	2.4	39	—	天正整地土	7.8	2.4
2	—	中世整地土Ⅰ	6.8	2.5	21	—	中世整地土Ⅰ	7.2	2.8	40	—	近世整地土	6.6	2.2
3	—	中世整地土Ⅰ	6.0	2.8	22	—	中世整地土Ⅱ	6.2	3.0	41	—	078土坑	5.6	4.7
4	—	中世整地土Ⅰ	7.4	2.6	23	—	中世整地土Ⅱ	6.4	2.4	42	—	136土坑	7.0	2.2
5	—	中世整地土Ⅰ	6.8	3.6	24	—	中世整地土Ⅱ	8.0	2.0	43	—	106土坑	7.0	2.6
6	820	中世整地土Ⅰ	7.8	2.6	25	—	天正整地土	7.8	2.6	44	—	122土坑	7.0	3.4
7	—	中世整地土Ⅰ	7.8	3.6	26	821	天正整地土	6.4	2.0	45	—	205土坑	11.2	4.8
8	—	中世整地土Ⅰ	8.2	2.6	27	—	天正整地土	7.8	2.4	46	—	268溝	7.6	2.6
9	—	中世整地土Ⅰ	11.8	2.6	28	—	天正整地土	7.1	2.3	47	—	北側溝	7.4	3.0
10	—	中世整地土Ⅰ	6.4	2.6	29	—	天正整地土	7.3	2.4	48	—	攪乱	6.6	8.1
11	—	中世整地土Ⅰ	5.6	2.4	30	—	天正整地土	7.2	2.4	49	—	474溝	7.0	2.8
12	—	中世整地土Ⅰ	7.8	2.6	31	—	天正整地土	7.0	2.4	50	—	423土坑	7.0	2.6
13	—	中世整地土Ⅰ	6.4	2.8	32	—	天正整地土	7.2	2.4	51	825	010土坑	8.8	4.6
14	—	中世整地土Ⅰ	7.0	2.6	33	—	天正整地土	7.0	2.0	52	—	563小穴	7.4	2.6
15	824	中世整地土Ⅰ	7.8	2.3	34	—	天正整地土	6.4	2.6	53	—	518土坑	6.6	2.8
16	—	中世整地土Ⅰ	5.4	2.6	35	—	天正整地土	7.8	5.7	54	—	510井戸	7.8	2.0
17	—	中世整地土Ⅰ	8.0	3.5	36	823	天正整地土	7.2	2.5	55	822	648土坑	13.1	2.5
18	—	中世整地土Ⅰ	7.5	3.0	37	—	天正整地土	8.4	2.8	56	—	中世整地土Ⅲ	5.4	2.8
19	—	中世整地土Ⅰ	7.6	2.8	38	—	天正整地土	3.8	1.6					

表6 羽口法量

れていた可能性がある。

一方で、中国景德鎮窯系の窯道具も見つかった(797~799)。磁器焼成時の熱収縮による破損を防ぐために使用されるもので、肥前では「ハマ」と呼ばれている窯道具である。直径約4cmを測り、上面に布目痕が残る。焼成時にのせた製品の台痕跡があり、高台径約3.5cmを測る。このような遺物は長崎や江戸など一部の限られた遺跡で出土しており、中国製磁器を大量消費していた、堺環濠都市遺跡ならではの遺物であろう。

鋳・鍛造関係遺物(第134・135図、表5・6) 今回の調査では、鋳型(800~804・808)、三叉状土製品(806・807)、鳥目(805)、とりべ(809~816)、埴塙(817)、羽口(820~825)、炉壁(833~836)、銅滓(828~832)、鉄滓(826・827)など、多くの金属製品作成に関わる遺物が出土した。これらの遺物は第1面から第7面まで全ての面で出土している。まとめて遺物が出土した469土坑からは、鉄滓・炭化物などと共に鍋の鋳型もしくは溶解炉の一部と考えられる遺物(818・819)が出土した。ここからは、図示できないほど細片の鋳型も多く出土している。他から出土した鋳型の多くも細片であり、何の鋳型であるかわかるものはない。しかし、途中で屈曲する鋳型(803)は形態から、鍋の口縁部である可能性がある。また、鋳型(808)は他の鋳型や、一般的にみられる土師質土器とは全く異なる胎土であることなどから鋳型とした。残存する1面には丸い小さな窪みがあり、鋳型を合わせる凹凸部分の可能性がある。今回鋳・鍛造関係の遺物の中で一番数多く出土したのは鉄滓であるが、その次に多かったのは羽口である。羽口の内外径を計測できるものだけでも56個体を数える(表6)。一部内径が4.0~8.0cm代と大きなものがあるが、ほとんどは、内径2.0~3.0cm代を測る。羽口ほどではないが、とりべも多く出土した。しかし細片が多く、法量の測れるものは少ない(表5)。口径8.4cmを測るもの(813)が最も小さく、最大のものは14.5cm(816)を測る。また、出土した全てのとりべ・埴塙には銅が付着しており、銅製品の製造に関係する遺物であることがわかる。しかし、鋳・鍛造関係遺物の多くは鉄滓であり、銅・鉄両方、もしくは、時期を異にしてそれぞれの生産が行なわれていたと考えられる。

第4章 自然遺存体

第1節 SKT959地点出土の貝類

ここではSKT959地点の調査で出土した貝類について報告する。同定作業には現生標本と図鑑〔吉良哲明1954・波部忠重1961・東正雄1982〕を利用しており、大阪市立自然史博物館の石井久夫氏よりご教示を賜った。個体数に関して腹足綱は殻口数を、二枚貝綱は左右殻頂数の多数の方を原則として採用している。本調査では16世紀後半から明治時代にかけての遺構や包含層から20種以上、4339個体の貝類が出土した（表7）。

（1）貝種構成

まず、資料全体の貝種構成についてみると、鹹水性種が計4304個体と99%以上を占めており、他はヤマトシジミ・マガキなど汽水性種が計29個体、オオタニシ・イケチョウガイなど淡水性種は計3個体、陸性種はクチベニマイマイである可能性が高いオナジマイマイ科が計3個体といずれも少量である。それらの大半は食用種であるが、オナジマイマイ科は調査地付近で生息していたものの混入で、オリイレボラは他の食用種に紛れて持ち込まれたものとみられる。また、鹹水性種のほとんどは調査地周辺の近海で捕獲可能なものであるが、外洋性のチョウセンハマグリや有棘型のサザエなど、遠隔地で捕獲された可能性があるものも含まれている。一方、淡水性種のイケチョウガイは琵琶湖・淀川水系に生息していたものとみられるが、殻の内側には光沢のある真珠層があることから、装飾品として持ち込まれた可能性もある。

種別の構成に関しては、ハマグリが54.7%、シオフキが27.7%と両方で80%以上を占め、サルボウが4.7%、サザエが3.0%、バイ・アカニシ・ムラサキガイ・アカガイ・ツメタガイが1%台と続く。ただし、後述する通り本資料の約7割は埴列建物の床下に敷き詰められた貝層から出土したものであり、そうした構成がそのまま当地における食生活の実態を反映したものであるとは即断できない。

次に個別の貝種をみると、サルボウとハマグリには幼貝が少量含まれており、サザエ・ツメタガイ・アカニシ・テングニシ・バイ・マダカアワビ・アカガイには、身を取り出す際などの調理痕とみられる挟りや孔が観察された。また、貝製品としては近世整地土Ⅱからイタヤガイの右殻を用いた貝杓子が1点、第4面の347小穴から貝製基石が1点出土しているほか、109甕（明治時代か）と028井戸（19世紀前半）からバイ独楽が各1点出土した。バイ独楽は殻口の直上を水平に切断し、切り口を丁寧に研磨しており、内部に詰め物をした形跡はない。当遺跡のSKT960地点調査のほか、兵庫県伊丹郷町・明石城武家屋敷跡、大阪府中之島6丁目所在遺跡・堂島蔵屋敷跡などで出土例があるが、全国的には極めて少ない。本資料は時期の明らかな遺構から出土している点でも重要な資料であるといえる。

（2）主要な出土遺構とその貝種構成

前述した通り、今回の調査では遺構によって出土量の偏りが著しく、また建築資材として貝殻を再利用している埴列建物のように特殊な性格をもつ遺構が含まれることから、以下では主要な遺構についてその出土状況や貝種構成について触れる。

a. 096土坑 第1面において検出した、近世後期の大型土坑である。8種、50個体の貝類が出土しており、そのうちハマグリが82%を占める。覆土はほとんどが灰層で占められており、11層に分かれてい

る。貝類の出土を確認したのは1・5～8・10・11層であるが、1・6・7層では少量である。

当遺構から出土したハマグリは大部分は5・8層から出土しているもので、5層からは24%にあたる10個体が、8層からは約半数にあたる20個体が出土している。一方、10層からはハマグリが4個体、遺構の底部からはハマグリが4個体とサルボウが3個体出土している。

遺構からは、中国染付磁器、肥前陶磁器、土師質・瓦質土器、瓦片なども出土している。

b. 118土坑 第2面において検出した、17世紀後葉～18世紀前半に比定できる遺構である。木板が粘土化したと考えられる層が遺構の壁に沿った状態で検出されており、覆土の大部分が灰層であることから、木枠の中に灰を充填したと考えられる。

覆土は12層に分かれており、これらのうち3層や6層に貝類が多く含まれていた。本遺構からは9種、240個体の貝類が出土しており、そのうちハマグリが93%を占める。ハマグリは殻高平均値は25.6mm（計測数131個体）と小型である。また、サルボウには幼貝が含まれていた。

出土遺物には肥前陶磁器や土師質土器、瓦がみられるが、いずれも小破片であった。

c. 374土坑 慶長20年に被災した162塙列建物を切り込んだ廃棄土坑である。本遺構からは4種、56個体の貝類が出土し、そのうちサルボウが82%、ハマグリが11%を占めており、他の貝種は微量である。

出土遺物のうち大半が瓦であるが、中国製染付磁器、備前陶器、肥前磁器なども含まれていて、17世紀後半代に形成された土坑と考えられる。

d. 162塙列建物 第4面において検出した、慶長20年の火災によって廃絶された蔵である。床下の貝層は、建物内の掘方底面に配された礫層の上に、2～4cm程度の厚さで敷かれたものである。その上には、焼土や炭、焼けた瓦などを多量に含んだ、被災時の堆積層がのる。

床下の貝層からは9種、1632個体の貝類が出土した。ハマグリが88%、シオフキが11%を占めており、その他は微量である。ハマグリは殻高平均値は30.8mmである（計測数40個体）。また、魚骨が1点含まれていた。

一方、建物の被災によって堆積した焼土、炭化物、焼瓦などを多量に含む覆土からは、8種、95個体の貝類が出土している。このうちハマグリが79%、サルボウが11%を占めている。

この建物は、南半分のみを調査したにすぎないが、礎石配置や床下の構造は丁寧に施されている。また中国製染付・青磁・白磁、絵唐津、肥前陶器などがまとまって出土し、茶陶とみられるものもある。

e. 301塙列建物 第4面において調査区の南端で検出した建物である。162塙列建物と同様、慶長20年の火災により廃絶された蔵である。建物の北西隅を検出したのみにとどまり、さらに他の2つの遺構に切り込まれているため、遺存状況は162塙列建物と比べてあまり良好ではない。

検出した僅かな範囲では、全体に敷き詰められた貝層を確認できる。この貝層からは308個体の貝類が出土しており、2種のみが確認されている。ハマグリが155個体、シオフキが153個体であり、ほぼ同じ割合を占めている。ハマグリは殻高平均値は26.1mmである（計測数13個体）。

f. 415塙列建物 第5面において検出した、天正3年の火災により廃絶された蔵である。床下の貝層は、ベース層上を覆う粘質土のさらに上に敷かれたもので、やや砂質の粘質土が混じる。層厚は4～6cm程度である。この貝層の広がり、建物内の大部分に及んでいる。

この床下の貝層からは6種、772個体の貝類が出土した。シオフキが90%、ハマグリが9%を占めており、他は微量である。

一方、建物廃絶時に堆積したと考えられる、焼土や炭化物などを含む覆土からは、ハマグリとシオフ

検出面・層名	時期・主要遺構名	フネガイ科	アカガイ	サルボウ	イタヤガイ	マフキ	イタボフキ	ハマグリ	チヨウセンハマグリ	カガミガイ	アサリ	シオフキ	ムラサキガイ	ヤマトシジミ	イケチヨウガイ	タニシ科	オオタニシ	アワビ類	マダカアワビ	クロアワビ	サザエ	ツメタガイ	ボウシユウボラ	アカニシ	テングニシ	バイ	オリレボラ	オナジマイマイ科
近現代遺構計	近現代		1	4			1														殻2(有棘型1) 蓋1					1**		
第1面遺構計	19c前葉～18c後半	1	12	11		1	1	69		2	2		21					3	2		殻3、蓋1	2	1	9		11**	1	
	016土坑							2											○									
	001土坑						1																					
	003井戸							1																				
	050土坑							1																1				
	096土坑		2	3	○			41											○		殻1、蓋1					2	1	
	122土坑	○	2	4		1		7			1										殻2	1	1			3		
第2面遺構計	(18c前半～)17c後葉	○	14	17*		1	6	262		2	4		1	1?				2	2	2	殻15(有棘型2) 蓋3	10	6		8			
	118土坑	○		8*	○			223		2	3		1								殻1					1		
	121瓦組側溝							1																				
	121瓦組側溝掘方																				殻1							
	136土坑		6			1		3											○		殻4(有棘型1) 蓋1			1		1		
	137土坑		2	3			3	12							1?						殻4	5	4			2		
	160井戸		○																	1								
	161土坑		6	1			3	5											○	1	殻2	3	1			2		
第3面遺構計	17c後葉～17c前葉	○	7	66		1	53				7									1	1					25		
	268側溝																								2			
	350側溝			1				2														1						
	374土坑			46				6																		3		
第4面遺構計	17c前葉～16c後葉		2	31				1694		1	332		1								殻10(有棘型3) 蓋4	11	1			15	1	
	162塙列建物貝層			17	○			1433		1	174		1									2				3	1	
	162塙列建物内			10				75			4								○		殻1、蓋2	1	1			2		
	301塙列建物貝層							155			153																	
	625埋壘			1				20			1										殻8(有棘型3)							
第5面遺構計	16c後半	○		7				147		1	835	62									1		7			1		
	414塙列建物内			1																				1				
	415塙列建物貝層	○		3				71		1	695	1											1					
	415塙列建物内							1			1																	
	416塙列建物貝層			3				71			138	61									殻1							
第6面遺構計	16c中葉							1																	1			
近世整地土一括	近世	○	1	6		1		20		1	3										殻6、蓋2	2	1					
灰色砂質土層(整地層)	17c前葉～18c中葉	○	1	2		1?		4			1										殻1	2	1			1		
近世整地土I	～19c前葉		2	1				2																		1		
近世整地土II	18c中葉～17c後葉	○	12	5	1**			29*		1	3		2	1							殻9(有棘型2)	3	1			7		
近世整地土III	17c後葉～17c中葉		1	10	2		2	8		1	1										殻4	5	3	1		5		
包含層その他	17c後葉以前		2	4																	殻3	1	3					
慶長整地土	17c前葉～1615年			3				2			1										殻6(有棘型1) 蓋2	2	3			1		
慶長整地土～慶長焼土	17c前葉～1615年			1			3	4													殻3	1	2			2		
慶長整地土以下一括	17c前葉以前			1																	殻3							
灰層一括	1575年～1615年			1																	殻1							
天正整地土	1575年～1615年		2	6			1	18			4									2	殻8、蓋2	3	6			2		
中世整地土I	16c後葉～16c中葉			2				2	1												殻2			7				
中世整地土II	16c中葉			3				2													殻7(有棘型1)	1	2					
中世整地土III	16c前葉～15c後半																				殻1			8				
攪乱他			6	21			1?	56		1	9	1?	1					1	2	3	殻17(有棘型2) 蓋2	1	8			7	2	

○は殻頂・殻口が出土しておらず個体数は不明であるが、破片から存在が確認されたもの。*は幼貝を含む。**は貝製品含む。

表7 SKT959地点出土貝類一覧

キがそれぞれ1個体ずつ出土しているのみである。中国製染付磁器、備前陶器、土師・瓦質土器、瓦が出土した。

g. 416埴列建物 第5面で検出した遺構で、415埴列建物と同じく天正3年の火災により廃絶された蔵である。床面の遺存状況が悪く、貝層は建物の中央部分にのみ残存していた。

本貝層からは5種、274個体の貝類が出土した。シオフキが50%、ハマグリが26%、ムラサキガイが22%を占める。

出土遺物には、中国製染付磁器・青磁・黄釉陶器、備前陶器、茶臼などがある。茶の湯に関する遺物が目立ち、162埴列建物と同様、所有者の性格が反映されている。

(3) 埴列建物出土貝類について

今回の調査では4つの埴列建物から、床下に敷き詰められた合計2986個体の貝類が出土した。このように、貝殻を床下に敷き詰めた埴列建物は、当遺跡における既往の調査でも数多く検出されており、蔵として使用されたとみられる埴列建物の、防湿を目的としたものと考えられている。しかしながら、遺物としての認識が薄く、取り上げられることが稀であったこともあり、貝種構成をはじめその内容はほとんど分かっていなかった。表7で掲載した資料のうち、建築時に床下へ敷き詰められた貝層から出土した資料は「162埴列建物貝層」・「301埴列建物貝層」・「415埴列建物貝層」・「416埴列建物貝層」などである。一方、「162埴列建物内」・「414埴列建物内」・「415埴列建物内」は建物廃絶後の覆土から出土した資料であり、性格が異なるものである。

これらの埴列建物貝層出土資料はいずれもハマグリとシオフキが主要種として高い比率を占めているが、埴列建物貝層以外の資料（以下、「その他」資料）の貝種構成を比較すると、よりその特徴が明確になる。「その他」資料ではシオフキが主要種となっているものはなく、ムラサキガイもほぼ埴列建物貝層資料でのみ含まれる貝種である。301埴列建物貝層資料にみられるように構成貝種が限定されており、比較的多くの貝種から構成されている場合でも種別の量的な偏りが大きい。特に腹足綱（巻貝）の占める割合が「その他」資料では27%であるのに対し、埴列建物貝層出土資料では0.3%にとどまっております。アカニシやサザエなど大型種では一層その傾向が明瞭である。

埴列建物貝層出土資料はほぼ全てが食用種から構成されていることから、食料残滓として廃棄された貝殻が二次的に利用された可能性が高い。しかしながら、調査地周辺における食料残滓としての貝種構成を反映していると考えられる「その他」資料と比べ、明確な内容の差異が確認されたことは、埴列建物貝層資料が別の場所から持ち込まれたり、貝種を選別した上で再利用された可能性が高いことを示している。

また、ハマグリを例にとると埴列建物貝層出土資料の破損率の高さが目立つ。母体資料の個体数と、そのうち殻高値の計測が可能であった個体数の割合をみると、廃棄土坑とみられる118土坑資料では223個体中で131個体（59%）であるのに対し、162埴列建物貝層資料では1433個体中で40個体（3%）、301埴列建物貝層資料では155個体中で13個体（8%）にとどまる。防湿効果を高めるために砕かれた後、床下に敷き詰められた可能性があるといえよう。

引用・参考文献

東正雄1982、『原色日本陸産貝類図鑑』保育社

吉良哲明1954、『原色日本貝類図鑑』保育社

波部忠重1961、『続原色日本貝類図鑑』保育社

第2節 SKT959地点出土の脊椎動物遺存体

(1) 概要

脊椎動物遺存体は16世紀から17世紀を中心として、近現代までの遺構および整地土から出土している。総破片点数は253点にのぼり、種類と部位が同定できたのは135点を数える。その内訳は魚類68点、哺乳類60点、爬虫類3点、鳥類2点である。種類を同定できなかったものを含めて、魚類2点、鳥類1点、哺乳類2点に解体痕が、魚類1点に火熱を受けた痕跡が見られる。本報告では、種類を同定した動物遺存体うち、近現代のものを除いて、16世紀から19世紀前半までの遺存体について報告する。

(2) 種類別および遺構別の特徴

魚類はマダイとハマ属が最も多く9点ずつ出土しており、トビウオ科が8点、コチ科が7点、タイ科が6点と続く。ニシン科、エソ科、メゴチ、ボラ科、トビオウ科、アマダイ属、ハタ科、ウシノシタ科の8種は本遺跡において初出となる。この他にエイ・サメ類、ブリ属、シイラ、タイ科が出土している。マダイの前頭骨は、正中線に沿って真二つに切断されている。哺乳類はニホンジカが最も多く23点、次いでイヌが21点出土しており、この両種をあわせると哺乳類の73%を占める。この他にイノシシ、ウマ、ネコ、ネズミ科、ヒトが出土している。爬虫類はイシガメ、クサガメを含むバタゲールガメ科が2点、スポンが1点のみ、鳥類はカモ科が1点のみ出土している。

16世紀の335埋甕では動物遺存体が最も多く出土しており、そのほとんどが魚類である。これらの魚類遺存体は、種類や部位が不明なものを合わせて総計115点にのぼり、短期間に廃棄されたと考えられる。17世紀中葉の172土坑、17世紀後葉の171土坑からは、イヌだけが出土している。172土坑では左右1対の橈骨と尺骨が出土しており、このほか中手骨1点が出土している。171土坑では左右1対の脛骨と腓骨が出土しており、このほか頭蓋骨、上腕骨、尺骨、踵骨などが部分的に出土している。両遺構から出土したイヌは重複する部位もないことから、それぞれ同一の個体である可能性が高い。

(3) 考察

当地点から出土した動物遺存体は魚類が最も多く、本遺跡の従来の報告で知られていない8種を新たに同定した。これら8種は、いずれも豊臣後期（16世紀後半）の大坂城下町跡魚市場跡から出土しているものばかりで、市場で流通していたと考えられる。ニシン科はマイワシ、コノシロ、サッパといったイワシの仲間、沿岸の表層を遊泳する魚類である。また、エソ科、メゴチ、コチ科、ウシノシタ科は沿岸の底層に、ハタ科やマダイは沿岸から離れた中層から底層に、ブリも沿岸から離れた表層に生息する。シイラやトビウオ科は外洋性の魚類で、瀬戸内海で漁獲されることは希であることから、太平洋での漁獲が想定される。16世紀の堺では、豊富な種類の魚類が近海の大坂湾や紀州灘などの外洋で漁獲、流通しており、町の人々が賞味したのであろう。また、堺で水揚げされた水産物は、他所へ出荷していたことも考えられるだろう。

哺乳類は魚類に次ぐ出土量で、そのほとんどがニホンジカとイヌである。ニホンジカは頭蓋骨と四肢骨ばかりで、胴部の椎骨や肋骨は出土していない。骨角器の素材として利用される中手骨、中足骨がやや多く出土しているように見えるが、出土量が乏しいことや整地土からの出土が多いこと、製作に伴う未製品や廃材が出土していないことから、骨角器の製作にともなう廃棄物とは考えにくい。出土した骨に解体痕は見られないが、付着する肉量の多い上腕骨、橈骨、大腿骨、脛骨といった四肢骨が多く、食料になったと考えられる。頭蓋骨が1点出土しているが、椎骨が全くないことから、別の場所で解体さ

れた後に四肢が流通していたことが想定される。頭蓋骨は枝角が生えたオスで、まだ分枝していない若い個体である。イヌは先述のように、171土坑、172土坑から同一個体と思われるものが出土しており、埋葬の可能性を考慮すると屋敷内で飼育されたのかもしれない。また、埋葬されていない個体もあることから、町場を徘徊する野良犬もいたであろう。ウマ、イノシシ、ネコ、ネズミ科は出土量が乏しく、これらが食料になったことを積極的に示すことはできない。しかし、イノシシはニホンジカと同様に食料になった可能性が高い。

鳥類や爬虫類は出土量が非常に少ないが、カモ科やスッポンは縄文時代より食料として重要な種類である。これらは中近世遺跡からも一般的に出土し、食料になった可能性は高い。バタグールガメ科は日本に在来の淡水産のイシガメかクサガメと考えられるが、これは食料であったかどうか明らかではない。

(4) まとめ

当地点から出土した動物遺存体のうち、魚類、ニホンジカ、イノシシ、カモ科、スッポンは食料になったと考えられる。出土した魚種は豊富で、16世紀の漁業や水産物の流通を知ることができる貴重な資料である。ニホンジカは別の場所で解体された後に、肉を目的として四肢だけが流通していた可能性が

時期	遺構名	大分類	小分類	部位	左	右	一	計				
1575年～1615年	天正整地土	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	1			1				
				橈骨		1		1				
15c後半～16c前葉	中世整地土Ⅲ	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ ニホンジカ?	上腕骨		1		1				
				大腿骨?	? 1			1				
16c中葉	中世整地土Ⅱ	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨		1		1				
				中足骨		1		1				
				橈骨	1			1				
				脛骨		1		1				
16c中葉～後葉	中世整地土Ⅰ	哺乳綱	イヌ	上腕骨		1		1				
				脛骨	1			1				
			イノシシ/ニホンジカ ニホンジカ	肩甲骨		1		1				
				中手骨			1	1				
				中足骨	1			1				
				脛骨	2			2				
16c代	335埋堯	硬骨魚綱	アジ科 アマダイ属 ウシノシタ科 エイ・サメ類 エソ科 コチ科 タイ科 トビウオ科 ニシン科 ハタ科 ハモ属 ヒラメ ブリ属 マダイ メゴチ ニホンジカ ネズミ科 ヒト	背鰭棘			1	1				
				歯骨		1		1				
				前上顎骨		1		1				
				椎骨			1	1				
				椎骨			1	1				
				角舌骨		1		1				
				前上顎骨	1			1				
				椎骨			1	1				
				方骨	1			1				
				間鰓蓋骨		1		1				
				口蓋骨	1			1				
				主上顎骨	1			1				
				椎骨			1	1				
				椎骨			8	8				
				椎骨			2	2				
				角舌骨+上舌骨	1			1				
				歯骨	1			1				
				鋤骨			1	1				
				椎骨			7	7				
				角骨			1	1				
				椎骨		1		1				
				主上顎骨	2			2				
				前頭骨			1	1				
				前鰓蓋骨		1		1				
				椎骨			2	2				
				椎骨			1	1				
				頭蓋骨		1		1				
				下顎骨	1			1				
				遊離歯	? 1			1				
				1615年～17世紀前葉	慶長整地土・火災層	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	1
						哺乳綱	ウマ	遊離歯	1			1
						哺乳綱	ニホンジカ ネズミ科	大腿骨 大腿骨		1		1
				17c前葉	162埴列建物	硬骨魚綱	ブリ属	椎骨			1	1
187溝	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨			1		1				
17c前葉～	103土坑	哺乳綱	イヌ	中手骨		1		1				
	162埴列建物上面整地土	硬骨魚綱	クロダイ属? タイ科	方骨 口蓋骨	1			1				
17c前葉～中葉	194土坑	哺乳綱	ニホンジカ	指骨 大腿骨			1	1				
	014井戸	硬骨魚綱	タイ科 マダイ	椎骨 基後頭骨			1	1				

表 8 SKT959地点出土動物遺存体集計表 (1)

時期	遺構名	大分類	小分類	部位	左	右	一	計	
17c中葉	104埋堊	硬骨魚綱	シイラ	歯骨		1		1	
	121溝	哺乳綱	イヌ	中手骨	1			1	
	172土坑	哺乳綱	イヌ	尺骨	1	1		2	
				中手骨	1			1	
	171土坑	哺乳綱	イヌ	腕骨	1	1		2	
				指骨			1	1	
				尺骨	1			1	
				上腕骨		1		1	
				頭蓋骨			1	1	
				遊離歯	2			2	
				肋骨			1	1	
				脛骨	1	1		2	
	17c中葉～後葉	125土坑	哺乳綱	イノシシ／ニホンジカ	肋骨			1	1
		287土坑	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1	1
近世整地層Ⅲ		哺乳綱	ニホンジカ	尺骨		1		1	
				中足骨	1	1		2	
				腕骨		1		1	
				脛骨	1			1	
17c後葉		161土坑	哺乳綱	ニホンジカ	腹甲板		1	1	
17c後葉～18c前葉		近世整地層Ⅱ	哺乳綱	ネコ	上腕骨	1		1	
17c末～18c前葉		136土坑	鳥綱	カモ科	大腿骨		1	1	
18c後～末		016土坑	哺乳綱	イヌ	尺骨		1		1
	070土坑	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨		1		1	
				中手骨	1			1	
	122土坑	哺乳綱	イノシシ	硬骨魚綱	マダイ	1			1
				哺乳綱	イノシシ	肩甲骨		1	
	19c前葉	078井戸	哺乳綱	バタグールガメ科	背甲板	1			1
19c前半	294土坑	哺乳綱	ネコ	脛骨	1			1	
19c前葉～	近世整地層Ⅰ	哺乳綱	ネコ	背甲板		1		1	
				大腿骨	1			1	
	第7面	621溝(状遺構)	哺乳綱	ウマ	遊離歯	1			1
					椎骨			1	1
第5面	449小穴	哺乳綱	カモ科?	上腕骨	1			1	
				中足骨	1			1	
第3面	193土坑	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨				1	
				アジ科		1		1	
	402埋堊	硬骨魚綱	コチ科	歯骨	1			1	
				角骨		1		1	
				基髁骨	1			1	
			ボラ科	椎骨			2	2	

表9 SKT959地点出土動物遺存体集計表(2)

指摘される。171土坑と172土坑から出土したイヌは埋葬された可能性がある。その他の種類については、出土量が乏しいことから食料となったのか明らかではない。

第3節 SKT959地点出土の珊瑚化石

整地土内より珊瑚化石が出土した。3点はキクメイシ科、1点は磨耗が著しく同定が困難であるがハマサンゴ科であろうとの分析結果を得た。産地については不明であるが、奄美大島以南に多いものの、黒潮の影響を受けて紀伊半島南部付近にも生息するとのことである。

遺構に伴って出土したのは1点だけで、他の3点は整地土内からの出土である。しかし、慶長20年の火災面上の整地土およびそれを挟む前後の時期の整地土であり、近接した時期内に埋没している。

No.2が出土した161土坑は、調査地北隅に位置する廃棄土坑である。大量の灰と共に、コンテナ20箱の瓦が廃棄されていた。家屋の片付けのために形成された土坑と考えられるが、灰が充填されたような状態であることから、火災による家屋の片付けとは言い切れない。なおこの遺構の廃絶時期から、堺絵図にみられる中川屋元章の屋敷地内に当たっていると推測される。その他3点については、出土地点での偏在は認められないが、No.3も中川屋元章の屋敷地範囲から出土している点は注目され、意図的に珊瑚を入手した可能性が高い。しかもNo.2と同じトゲキクメイシ属に属する。

『和漢三才図会』には「菊銘石」(きくめいせき)として、キクメイシ科珊瑚が取り上げられ、盆栽の飾りと共に「金屑丸」という解毒薬の材料に用いられたことが記されている。しかも「多くは南海紀州から出る」とされている。これに従えば、調査地から出土した珊瑚化石も紀伊半島南部で採れた可能性がある。

ただし、『河盛家世界地図屏風』には「志やむろ」（シヤム）から日本へ珊瑚を運んだとの記載がある。珊瑚種の特定はできないが、琉球を含む南海貿易によりもたらされた可能性は否定できないであろう。また和薬材と中川屋元章との関係も、不明ながら留意される。

珊瑚化石の種同定については大阪市立自然史博物館長山西良平氏、同館学芸員石田 惣氏、京都大学瀬戸臨海実験場深見裕伸氏にお願いした。また珊瑚に関する文献については、なにわの海の時空館学芸員市川 創氏よりご教示・提供を受けた。

No.	種 類	出土遺構・整地土	グリッド	年 代	長	幅	厚	備 考
1	キクメイシ科キクメイシ属	近世整地土Ⅲ	F5-9-20B-1c	17世紀後葉～17世紀中葉	11	10	8	
2	キクメイシ科トゲキクメイシ属	161土坑	F5-9-20B-1a	17世紀後半	7	6	7	
3	キクメイシ科トゲキクメイシ属	中世整地土Ⅰ	F5-9-20B-2a	16世紀後葉～16世紀中葉	6	5	3	
4	ハマサンゴ科	慶長整地土	F5-9-19B-10c	17世紀前葉～1615年	8	6	8	磨耗著しい

表10 SKT959地点出土珊瑚化石一覧

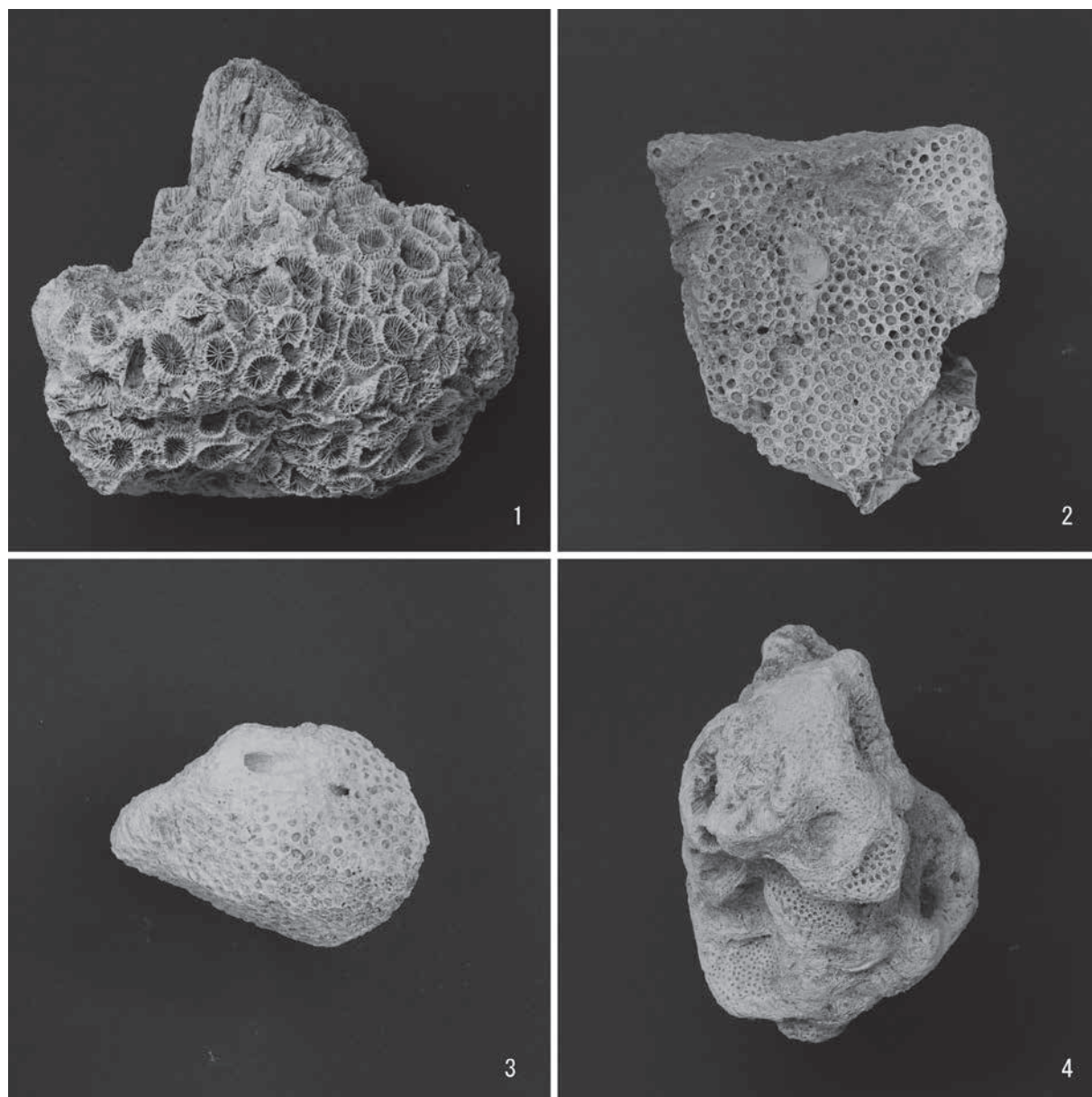


写真1 SKT959地点出土珊瑚化石

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷

7面を数える検出面において673基の遺構を確認した。各面は、その上下を整地土によって挟まれているので、上下で年代差がある。ところが遺構の中には、上下で重複しているため検出面が下がったものの、整地土の流入により掘り込み面で輪郭が捉えられなかったものがあり、検出面がその形成、あるいは廃絶時期を示すとは限らない遺構もある。したがって、出土遺物や配置状況も勘案して、各面における同一時期の遺構を改めて抽出した。その面を遺構面と呼ぶ。この遺構面の年代は、第1～7面と呼んだ検出面と同じである。

なお第3章第2節と重複する内容もあるが、遺構の変遷状況を説明する上で必要なので、御寛容願いたい。

(1) 第7遺構面

15世紀後半～16世紀前葉に形成された整地土（中世整地土Ⅲ）上に広がる遺構群である。本調査地では最初の町屋形成期にあたり、16世紀中葉（～16世紀前半）に時期比定できる。この第7遺構面から慶長20年の大坂夏の陣の被災面（第4遺構面）までは、町割はほぼ正方位である。

この面では、塙列建物あるいは礎石建物は検出されなかった。ただし、屋敷地割に関わるとみられる溝、火災に遭った面やその焼土の片付けのための土坑、そして便槽の可能性のある土坑などが認められ、町屋の様相の一端を窺い知ることができた。

屋敷地割に関わるとみられる溝は、断片的に検出されただけだが、585-630溝である。585-630溝が形成する軸線は、第6遺構面以降、第4遺構面まで屋敷地の境界として踏襲されているので、この付近の町割の基軸線であった。この軸線を挟んで背割りされた屋敷地が東西に並んでいたとみられる。

この軸の西10mには647-654溝が認められる。このラインもまた屋敷地境を示すのか、それとも屋敷地内のひとつの区画を形成するのかわかり不明であるが、第6遺構面では530塙列建物の東辺にほぼ一致していることから、このラインもまた一定期間有効に機能していたといえる。なおこのラインからさらに西5mに、硬質化した662通路が存在し、さらにその北延長先には669焼土域が位置することから、これらの遺構は有機的に結び付いていたとみられる。

669焼土域は、火災によって硬化した面である。焼土はほとんど片付けられていたが、被熱した揃いの中国製染付皿が出土した。近在する652・677土坑や650土坑の覆土には、焼土が多量に含まれていたため、火災焼土がそこで処理されたのであろう。したがって、662通路を通じて入る家屋が、669焼土域付近に建っていた可能性が極めて高い。

662通路と区画溝である654溝に挟まれて、657土坑と660土坑が存在する。便槽と考えられる遺構である。この2基の土坑が屋敷地内のどのような空間に位置していたかは不明だが、おそらく屋外に設けられたのであろう。また2基が同時期かどうか不明である。

なお654溝と直交方向に延びる621-622溝（状遺構）もまた区画溝の痕跡の可能性はあるが、検出した範囲が短く、実状は不明である。

この面で確認できた井戸は、1基だけである。630溝の東に位置する681井戸である。屋敷地境を形成

する585-630溝ラインの東際にあたり、屋敷地の最奥に設けられていた。なおこの面に比定できる埋甕は、確認できなかった。

このように建物の存在は認められなかったものの、その被災に関連するとみられる遺構や、便所、井戸の存在からも、この第7遺構面に町屋が形成されていたことは間違いがない。ただし、遺構の分布状況からすると、第5・4遺構面で認められるほどの稠密さはなかったといえる。

(2) 第6遺構面

この面も16世紀中葉に比定できる。第7面とほとんど時間差が認められないことから、第7遺構面と第6遺構面の間の中世整地土Ⅱの形成は極めて短期間であったとみられる。この第6遺構面になって、建物の存在を確認することができた。

第6遺構面でまず注目されるのは、572溝を始めとした区画溝の存在である。第7遺構面では、調査地周辺の町割の基本軸と考えられる585-630溝が認められたが、この遺構面でもそれを踏襲した501-572溝が存在する。溝は断片的にしか存在していないが、これは第7遺構面でも同様であった。

572溝からは小破片ながら備前や瀬戸美濃の陶器、土師質土器、瓦質土器が出土し、16世紀中葉に年代比定できる。この572溝の北約2m先に、東西方向に延びる溝の痕跡が認められる。561溝である。さらにその西方延長には、南北方向の溝の痕跡である543溝が存在する。561溝からは出土遺物はなかったが、543溝からは備前陶器、土師質土器、瓦質土器などが出土した。いずれも小破片であり、遺物の年代相は不詳であるが、遺構面の年代と矛盾することはない。この4基の溝により、屋敷地割がなされたと考えられる。

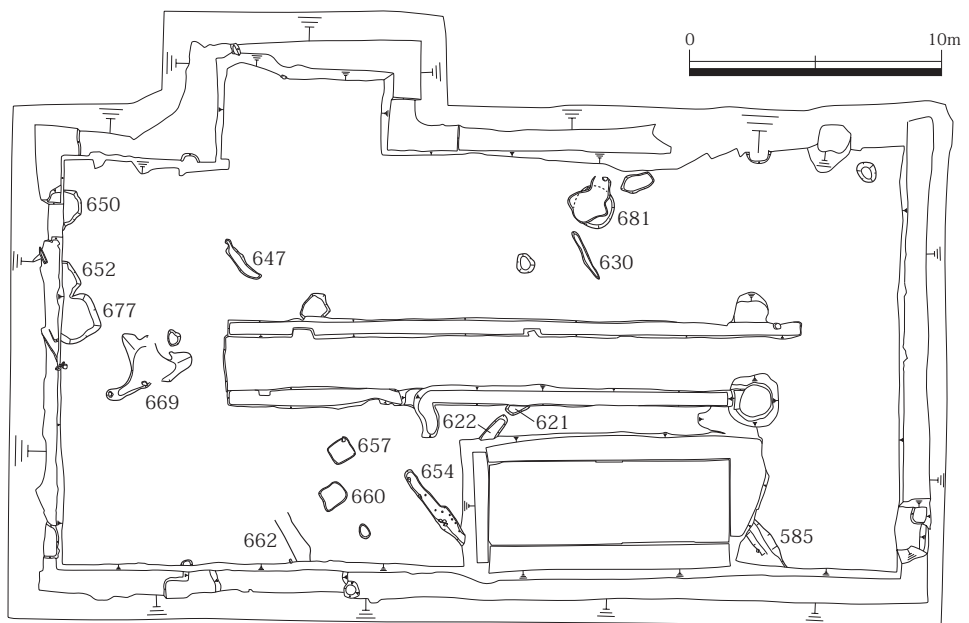
この第6遺構面では塙列建物2棟と礎石建物4棟が検出された。そのうち礎石建物2棟は、調査地東辺に位置している。581礎石建物と582礎石建物である。両建物を分ける遺構の存在は認められず、ひとつの屋敷地内にあつたと考えられる。さらに、581礎石建物と、その西に位置する501溝との間には遺構が存在しないことから、ここには通路があつたとみられる。なお第5遺構面では同じ位置に硬質面が認められた。この南東部の2棟の建物のうち、582礎石建物の北辺と、その北西に存在する583礎石建物の現状の南辺との間には約4mの距離があり、遺構がほとんどみられないことから、ここにも通路の存在を想定することができよう。したがって、501-527溝を基本軸として、調査地は東西に分割され、さらに通路によって南北方向に細分されたと考えられる。

ところで、530塙列建物や584礎石建物が建つ屋敷地の地割は変則的である。先に、この面における区画溝を挙げたが、それにしたがえば、530塙列建物の裏にあたる東の一画が空地であつたとみられるのである。この点は重要で、第5・4遺構面ではこの部分に金属製品の工房とみられる独立した屋敷地が設けられている。なお530塙列建物の入口は東向きと考えられるので、この空地方向から建物に入ることになる。この点もまた、空地の存在を確かなものとする。

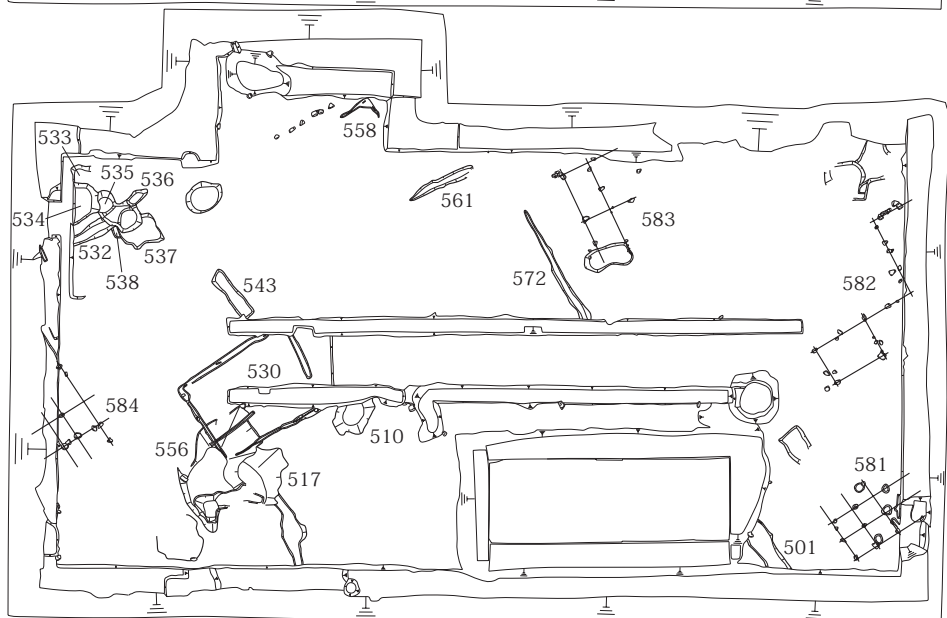
この第6遺構面におけるもう1棟の塙列建物は、調査地北辺で検出された558塙列建物である。北東隅が確認できただけである。ただ、530塙列建物とは別の屋敷地に建っていると推定できる。

第6遺構面で検出された井戸は、1基だけであつた。530塙列建物の南東約1mにある510井戸である。建物の東辺よりさらに東にあり、空地内にかかっている。この井戸からは備前陶器（甕・壺）、土師質土器（皿・羽釜・鉢）、瓦質土器（火舎・甕）のほか、羽口・鉄滓などの鉄製品製作に関連する遺物、石臼、砥石が出土した。井戸の近くには、530塙列建物に先行する556・517焼土域があり、金属製品の製作工房跡と考えられる。よって井戸から出土したものは、この556・517焼土域から排出されたのかも

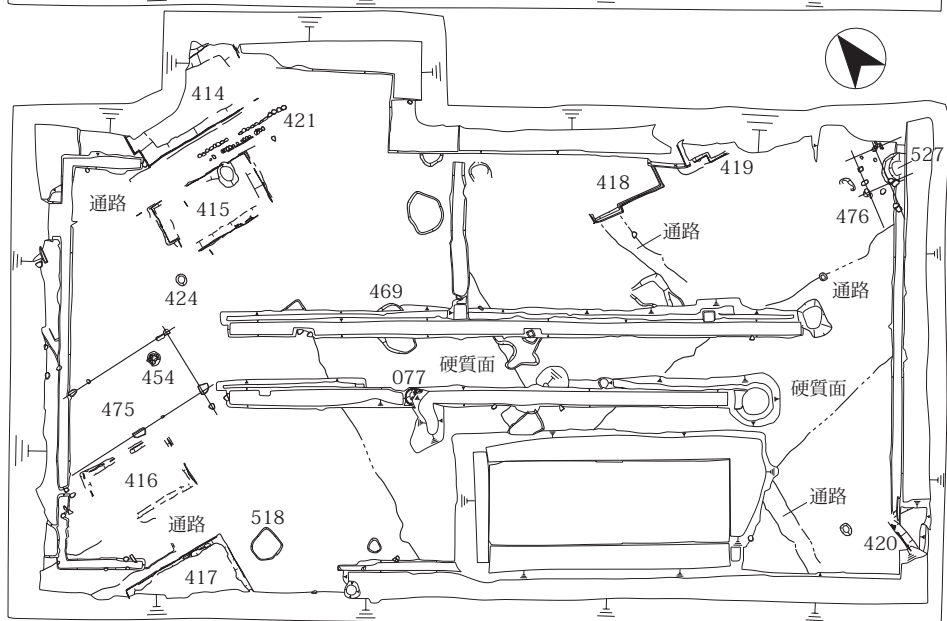
第7
遺構面



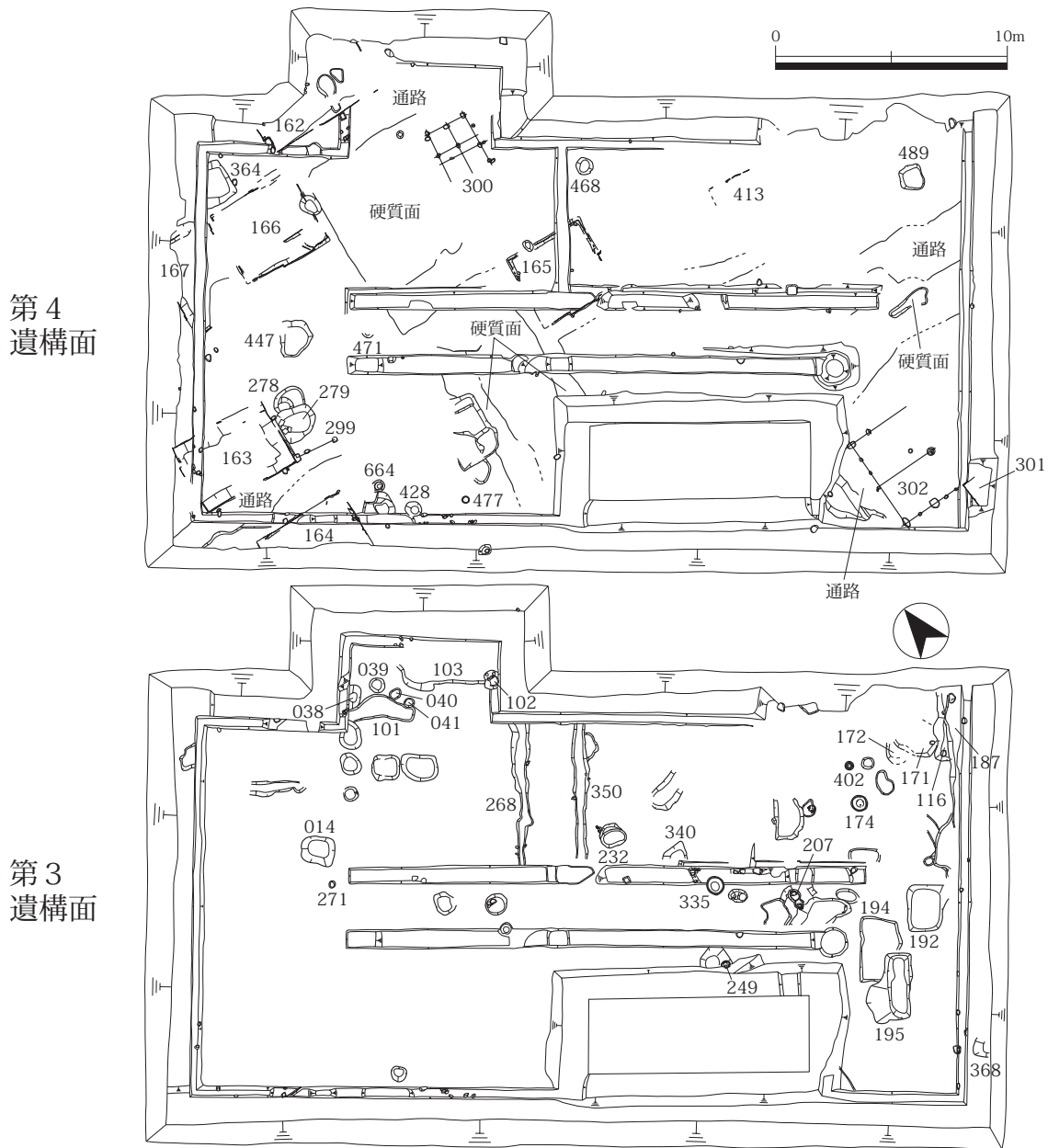
第6
遺構面



第5
遺構面



第136図 遺構の変遷 (第7～5遺構面)



第137図 遺構の変遷 (第4・3遺構面)

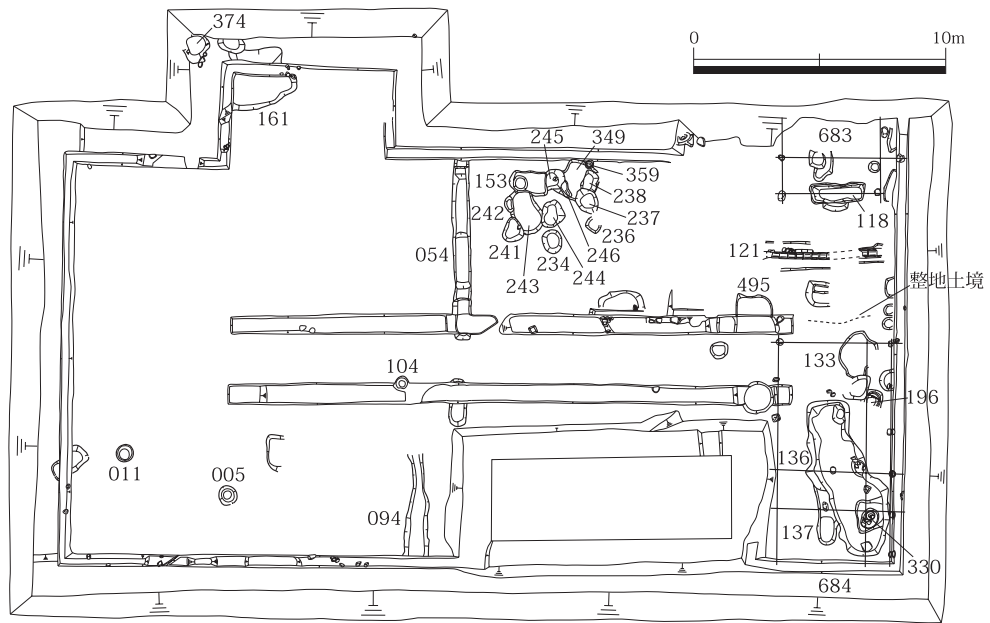
知れない。ただ、陶器や土器、あるいは石製品は、被災した530号建物の片付けに伴って投棄されたものの可能性が高い。なおこの段階で井戸は機能を失うが、次の第5遺構面では井戸の位置が、工房を設けた中央の屋敷地の範囲に含まれるので、第6遺構面の被災後に廃絶したとしても矛盾はない。

この第6遺構面に比定することができる埋蔵は認められなかった。これは、家屋の存在がまだ希薄な状況であるためかも知れない。とはいえ、この第6遺構面の段階になると、第7遺構面で企画された屋敷地割を基本的に踏襲しつつ、町屋の形成がより進展している。

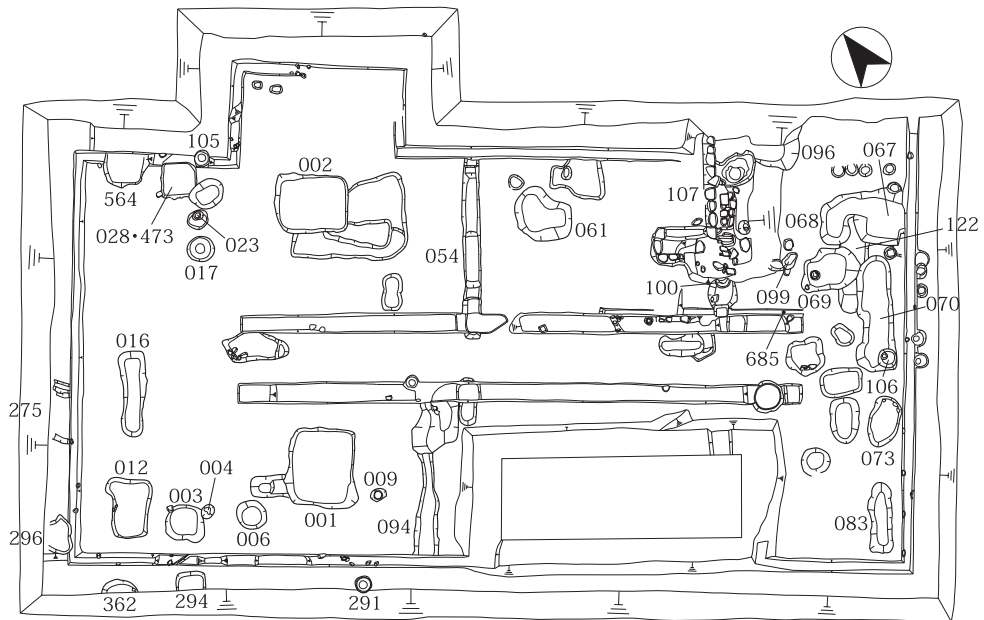
(3) 第5遺構面

この面の遺構は、16世紀後半代、天正3（1575）年までに形成されたものである。堺の町の中心部では、天正3年の火災による焼土が厚く堆積しているが、本調査地ではほとんどみられず、中世整地土Iによる高上げの低い東西両辺付近で若干認められた程度である。この遺構面の段階になると、塙列建物が多く立ち並び、町屋群の様相がより鮮明となる。

第2
遺構面



第1
遺構面



第138図 遺構の変遷 (第2・1遺構面)

この面では、第6遺構面で認められた501-572溝と同軸上にある区画溝の存在は認められなかった。しかし、420埵列建物の西3mに、南北方向の硬質面があり、通路と考えられることから、第7・6遺構面と同じ位置で屋敷地割の基軸線が設定されていたと考えられる。この軸線を挟んで、東西に屋敷地は分けられるが、調査地中央付近では建物の存在が認められない1辺14m程の区画が残る。

この区画の西に、416・417埵列建物や475礎石建物が存在する。416埵列建物と417埵列建物との間には、硬質化した通路があり、これにより屋敷地が分割されている。また417埵列建物の背後には、被災後の片付けのために掘削されたとみられる518土坑が存在し、その東辺と475礎石建物の東辺とが一致することから、そのラインが各屋敷地の背にあたる。

これらの建物に対して、414埵列建物と415埵列建物はより東にあり、屋敷地背の位置が異なる。両建物の間には、やはり硬質化した通路が東西方向に延びているので、これを挟んで屋敷地が分かれている。

この通路の南辺に沿って、礫組みの421側溝が延びている。側溝は414埵列建物に伴う。通路の東端と

414埵列建物の東辺がほぼ一致しているので、それぞれの屋敷地は、その付近を背にしていたと考えられる。とすれば、先述した調査地中央の空閑地中程まで、屋敷地は東に伸び出ていることになる。

ところが、両屋敷地背と一致する区画ラインは、中央の空閑地には存在しない。一方、この空閑地の東では、東西方向の幅2m程の通路が東から入り込み、その付近を南北に分割している。また通路の南には硬質面が広がる。この調査地東域の南半では、先述した南北通路も認められることから、南からこの屋敷地に入ることが可能であった。恐らく長尾街道とを結ぶ通路であろう。東域南半では、420埵列建物が検出されただけである。しかし東西方向の通路の南に広がる硬質面が土間の痕跡だとすれば、通路に沿った建物が存在していたことになる。

一方、東域北半では418・419埵列建物と476礎石建物の3棟の建物が認められた。2棟の埵列建物は、それぞれ南向きの入口を設け、418埵列建物では、先述の東から入る通路に取り付く南北通路が入口正面に伸びている。このように、調査地の東域北半の屋敷地は東から西へ入る通路によって東方に存在する通りと結び付いていた。

調査地の東・西域および北域の様相は捉えることができるが、それに対して、そうした屋敷地に囲まれた中央付近がいずれの屋敷地の境界とも整合せず、空閑地として残ることは、既述した通りである。ところが、この場所には、建物の存在が認められないとはいえ、土地利用の在り方を暗示する2つの遺構が認められた。ひとつは、10×6mの規模で広がる硬質面である。いまひとつは、この硬質面の北辺中央で検出された469土坑である。

469土坑からは、多量の鉄滓や炉壁、炭化物が出土していて、鉄製品の製作に関わった遺構である。そして硬質面は叩き締められた土間の痕跡と考えられる。礎石の並びなど、建物構造が復元できる遺構は認められなかったが、建物が存在していたことは十分に推定できる。

またこの空閑地は、第6遺構面で認められた530埵列建物東方の空地を拡張して成立したものと考えられる。ただ、第6遺構面段階では、530埵列建物などと同じ敷地の範囲なので西から入ったであろうが、この第5遺構面段階では、東方の通りとつながる東西方向の通路によって出入りしたとみられる。

この面に比定できる埋甕は、077埋甕と424埋甕の2基である。424埋甕は415埵列建物の南西1m程にあるので、この建物が建つ屋敷地に設置されたものであろう。一方、077埋甕は、先述の調査地中央の屋敷地内の硬質面のほぼ中央に位置している。埋甕の上部を天正期の火災後の整地土が覆っているので、この第5遺構面以前のものである。その掘方の標高と、残存する甕の大きさから推測してこの遺構面に位置付けたが、しかし、第6遺構面に伴う可能性も残る。

井戸は、調査地の北東隅で1基検出された。527井戸である。覆土からは備前陶器、土師質土器、瓦質土器および金属製品の製作に関わる遺物などが出土した。遺物の年代相から、この第5遺構面に比定した。しかも476礎石建物の礎石の一部は、この井戸の上ののる。

(4) 第4遺構面

この面の遺構は、天正3(1575)年の火災後から慶長20(1615)年の火災までの間に形成されたものである。この面でも建物が数多く検出された。埵列建物8棟、礎石建物3棟を数える。

この遺構面の上部には、地点によって厚薄差はあるが、大坂夏の陣の火災層が広がっている。天正3年の被災面と同じく、調査地の東西辺付近で焼土層が厚い。

この第4遺構面の屋敷地割は、基本的に第5遺構面のそれを踏襲している。すなわち、調査地中央付近に硬質面の認められる一画が存在し、それを挟んで東西に屋敷地が分かれる。

調査地西域の屋敷地は、調査地内で4区画を数える点も同じである。ただ、163塼列建物の東辺が299礎石建物や164塼列建物の東辺とほぼ一致していることから、この部分の屋敷地の背は第5遺構面段階に比べて西に寄って、敷地が狭くなっていたとみられる。なお162塼列建物は、第5遺構面の414塼列建物と同位置にあり、この屋敷地には変化がなかった。

調査地東域でも、東方の通りから延びる東西方向の通路が存在し、それによって南北それぞれに屋敷地が分割されている。南半では、長尾街道とつながっていたと考えられる南北方向の通路により出入りをしてきたとみられる点は第5遺構面と同じである。この範囲には301塼列建物と302礎石建物が建ち、それらの北には土間の痕跡の可能性がある硬質面が広がっている点も第5遺構面とほぼ等しい。

一方北半の状況については、不明瞭である。この範囲には413塼列建物が存在する。入口の位置が特定できないが、165塼列建物と北辺を揃えていることから、南向きの建物の可能性が高い。とすれば、東西方向の通路北辺の一角からこの建物が建つ北半の屋敷地へ往来したとみられ、北半ほぼ全域がひとつの屋敷地であったと考えられる。

そして、調査地中央付近であるが、第5遺構面で検出された範囲よりも広がり、15×18m程の屋敷地規模と想定できる。この第4遺構面段階では、硬質面のほか、2棟の塼列建物と1棟の礎石建物が認められた。166塼列建物、165塼列建物および300礎石建物である。2棟の塼列建物は、7m程離れて位置している。しかも建物は南北方向に8mずれている。その一方、ともに南向きの入口が設けられ、共通した建物向きをとる。したがってこの範囲がひとつの屋敷地であったことは確実である。おそらく第5遺構面でも建物は存在したのであろうが、被災とその後の整地により、痕跡が消滅した可能性が高い。

2棟の塼列建物に挟まれるように、5×7.5mの範囲で硬質面が広がる。硬質面はさらに南へも断片的ながら延びている。また、165塼列建物の正面にあたる南辺に沿って東西方向の通路が延びている。通路は建物の南東隅で終わっているため、西の硬質面側から入るためのものであろう。また第5遺構面と同じく、この硬質面は土間の痕跡であり、本来はその上に建物があったと推測できる。

なおこの面では、第5遺構面の469土坑のように、この屋敷地の生業を示す遺構は存在しなかった。しかし、第5遺構面に引き続いて金属製品の製作に関わっていた可能性が高い。

土坑のうち、163塼列建物の東辺に近接して検出された278・279土坑は、その塼列建物や299礎石建物の廃材を処理するための廃棄土坑である。ともに瓦や塼、焼土が多量に廃棄されていた。調査地北西隅に位置する364土坑にも焼土が多量に投棄されていて、壁土も出土した。おそらく162塼列建物の廃材を処理した土坑であろう。447土坑にも焼土が多量に包含されていた。166塼列建物、あるいは硬質面上に存在したと推測される建物の片付けに伴うものであろう。

この面に比定される井戸は489井戸の1基だけである。調査地北東隅に位置している。上述のように、この付近の屋敷地の在り方次第だが、この井戸と413塼列建物が同一屋敷地内にあったとみられる。

第4遺構面に位置付けることができると考える埋甕は、5基認められた。いずれも中央の屋敷地内にある。その周囲の各屋敷地では、表間口付近に埋甕を設置していたのかも知れない。

このように、第5遺構面から第4遺構面にかけての変化は小さく、屋敷地の広さに多少の違いはあっても、各屋敷地自体はほぼ固定化されていたとみられる。ただ唯一屋敷地の再編がなされた可能性があるのは、調査地東域の北半である。

(5) 第3遺構面

この面の遺構は、慶長20(1615)年の大坂夏の陣の被災後から17世紀後葉にかけて形成されたもので

ある。よって被災後に再編成された、新しい地割に基いた町屋群であり、その地割はほぼ現在まで続いている。

この面でもまず留意されるのは、268溝と350溝を側溝とした通りの存在である。調査地中央を縦断するように、北東－南西方向に延びている。通り幅は、側溝の内側で約2 m、外側まで含むと3 m強を測る。この通りを挟んだ両街区とも水落町である。「水落」の名称が何に由来するかは不詳であるが、千利休の弟子の一人である水落宗恵に関わる可能性がひとつにはあろう。ともかくも、通りを挟んで異なる街区ではあるが、町名は同じである。

ところで両溝とも、中央トレンチ以南には延びていない。後述する第2・1遺構面で検出された側溝でも途中で存在が認められなくなった。その場合、溝の掘方に高低差があり、浅い部分が上面の削平により消滅したとみられる。この268・350溝の未検出部分についても、同様の理由が当てはまる。

両溝からは17世紀中葉の遺物が出土している。268溝では中国製染付・白磁、備前・瀬戸美濃・丹波・肥前の陶器、肥前磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、埴など、350溝では中国製染付、備前・瀬戸美濃・信楽・肥前の陶器、肥前磁器、土師質土器、瓦、鉄滓、壁土など、多種の遺物がみられる。この状況から、遺構埋没時の混入品とは考えがたく、側溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

なお第2・1面で検出された通りの側溝のうち、094溝はこの面の268溝と同一軸線上にあるが、054溝はこの面の350溝より約1 m南西に位置している。したがって、第2遺構面が形成される17世紀後葉までに、側溝を内寄りに掘り直したと考えられる。

この通りによって街区が東西に分割される。通りの西では、屋敷地の境界を示す遺構状況はみられない。元禄2年の堺絵図によれば、この調査地西半範囲に該当する屋敷地はほぼ一つであった。ただしその状況が、この時期の遺構面にまで遡り得るかは不明である。

埋甕は102埋甕と271埋甕の2基が認められ、そのうち102埋甕は通り際に位置している。271埋甕は中央トレンチ西端の北西0.3mにあり、014井戸とも近接している。第2遺構面東半および第1遺構面で明確になる屋敷地境が中央トレンチとほぼ一致した位置にあることから、271埋甕は屋敷地境付近にあった可能性が高い。さらに遺構全体の広がりをもみても、北半に偏在している。したがって、中央トレンチを挟んで南と北で屋敷地が分かれていた可能性が高い。

ところで、101焼土域には2面の焼土面があり、方形を呈する被熱硬化部分が3箇所認められた。粘土帯などの存在がみられないことから、竈とは考えがたい。陶磁器の小破片が僅かに出土したのみで、遺構の性格を示す根拠はないが、038土坑や039～041小穴、および103土坑の覆土中には焼土が含まれていて、101焼土域と関連するとみられる。また先述した556・517焼土域が青銅器の鑄造に関連する点を考え合わせると、この101焼土域もまた金属製品の生産に関わった遺構と推測することができよう。第5・4遺構面の中央屋敷地の金属製品工房を継承しているのかも知れない。

通りの東では、廃棄土坑である192土坑の直線的な北東辺と、中央トレンチの延長線とがほぼ等しいラインにあることから、ここに屋敷地境があったとみられる。

この境は堺絵図の鯛屋仁右衛門と銭屋長十郎の屋敷地境と一致しているので、慶長20年に町割が改編されて以降、元禄2年までこの部分の屋敷地割に変化はなかった。

元禄2年段階の銭屋長十郎の屋敷地にあたる範囲では、2基の廃棄土坑(192・195土坑)が存在する。192土坑からは、瓦を中心にしてコンテナ40箱分の遺物が出土した。中国製染付、備前・丹波・肥前の陶器、肥前磁器、土師質土器、瓦質土器、竈石なども含まれ、家屋の廃材と共に日用品も投棄されてい

る。一方、195土坑では、瓦の包含はさほど多くない。出土遺物には中国製染付（皿・碗）、備前（甕・播鉢）・丹波（甕・鉢）・肥前（瓶）の陶器、肥前磁器（碗・皿・鉢）、土師質土器（皿・焼塩壺）、瓦質土器（火鉢・甕）、石臼などがあり、主に日用品が廃棄されたとみられる。なお194土坑は現状0.1mほどの深さしかなく、廃棄土坑とは呼びがたいが、中国製染付、ベトナム製長胴壺、備前（甕・播鉢）・丹波（播鉢）・肥前（鉢・向付・皿・碗）の陶器、肥前磁器、土師質土器（皿・焙烙・羽釜・焼塩壺）、瓦質土器（羽釜・火鉢）、砥石などが出土していて、やはり屋敷地内から出たとみられる廃棄物が数多く含まれている。この192・194・195土坑の形成場所は、屋敷地の裏庭にあたっているであろう。

194土坑の西5.5mに249埋甕、北2.5mに207合甕、北6.5mに335埋甕が設けられている。家屋との関係は不明であるが、249埋甕は家屋内にあった可能性が高い。また335埋甕が屋敷地境に位置していることから、その南西には通りから入る通路があったのかも知れない。

なお調査地南隅に、灰を多包した368土坑が存在する。

通りの東の北半の状況については不明な点が多いが、187土坑が調査地東辺に沿って5.5mにわたって南西方向に延びていて、堺絵図にみられる屋敷地境を越えている。この土坑の廃棄年代は17世紀前半である。この187土坑と重複して、17世紀中葉に年代比定される116土坑が形成されている。116土坑は187土坑に類似した位置と形状であるが、南西辺は第2遺構面の118土坑と揃っている。したがって、町割当初は、調査地東半を2分割して屋敷地が設けられたが、17世紀中葉頃に3分割され、元禄2年の絵図に示された状況へ変遷したと考えられる。

埋甕は2基認められる。174埋甕と402埋甕である。2基は、南にある194土坑の南西辺の北東延長上にあることから、ともに家屋際に位置していたとみられる。

また171・172土坑の覆土には焼土が含まれていて、172土坑からは17世紀中葉頃の遺物が出土している。2基の土坑は、この付近で生じた火災の片付けに伴うものと考えられ、この火災により屋敷地割が変化した可能性がある。灰を多包した土坑には、232・340土坑がある。ともに中央トレンチの北辺付近にあるが、屋敷地内における位置関係を示す状況はみられない。ただ、232土坑は350溝の東約0.5mにあり、表庭に設けられたものかも知れない。

(6) 第2遺構面

第2遺構面は、おおむね17世紀後葉に形成された遺構群であるが、18世紀前葉に下るものも含まれる。この遺構面が、元禄2年作成の堺絵図に描かれた屋敷地割に最も近い時期のものである。

この面では、第3面に引き続き調査地を東西2分する通りによって街区が分かれる。ただし、町屋形成当初の側溝はいったん埋まり、第1面で検出された054・094溝が通りの新たな側溝になったと考えられる。なお先述したように、054溝が350溝よりも約1m内寄りに設けられたことで、第3遺構面よりも第2・1面では側溝間隔が1m狭まる。通り幅は、側溝内側間で1.2m、外側まで含むと2.5mを測る。

この面でも通りの西範囲での屋敷地の様相は判然としない。北半では161土坑と374土坑が存在する。161土坑からは灰と瓦が、374土坑からも瓦が多量に出土した。ともに家屋廃材の片付けのために掘削された可能性がある。161土坑では焼土の存在は顕著ではなく、灰の成因が火災と関わらないと考える。よって161土坑については、火災廃材処理のための掘方と捉えてよいか疑問は残る。

南半では005・011・104埋甕が存在し、なかでも104埋甕は通りの脇に位置している。これら以外に生活空間の復元の手掛かりとなる遺構はみられない。堺絵図によると元禄2年段階では通りの西はほぼ中川屋元章の屋敷地であった。北辺付近が奈良屋勘右衛門、南辺付近が三宅佐左衛門の屋敷地の可能性も

あるが、地割をなす区画や遺構の位置状況が認められないことから、調査範囲内は中川屋元章の屋敷地だけとみてよかろう。したがって161・374土坑の廃棄物も、その屋敷から出されたものである。なお161土坑からは、和薬材となるキクメイシ科の珊瑚化石が出土している。

一方、通りの東では、遺構が多くみられ、屋敷地の様相を一定程度復元することができる。堺絵図によると、通りの東は3軒の屋敷地に分かれている。所有者は北から紺屋吉兵衛、鯛屋仁右衛門、銭屋長十郎である。絵図と調査地の対応から、銭屋長十郎と鯛屋仁右衛門の屋敷地境界が調査地東半のほぼ中央に位置するとみられ、中央トレンチ北東先で確認された整地土の境目がそれに該当しよう。とすれば、鯛屋仁右衛門屋敷地の間口は2間であるので、その敷地は118土坑の南西辺付近までとなる。

検出遺構に基づいて、堺絵図に記されている各屋敷地の様相をみていく。調査地東域の南半を占める銭屋長十郎の屋敷地には、旧団地の浄化槽が西半にあるため、東辺付近の様相しかわからないが、そこには684礎石建物が存在する。ただしこの建物は、136土坑の埋没後に建てられているので、屋敷形成の中では後出する。

銭屋長十郎の屋敷地は奥行11間なので、調査地東辺よりさらに5 m程東に屋敷地の背があることになる。調査地東辺近くで196・330埋甕が認められ、684礎石建物と重複する位置にある。

この敷地内で注目されるのが、136・137土坑および133土坑である。前2者は瓦を中心とした廃材を投棄した廃棄土坑である。133土坑もまた廃棄土坑の可能性が考えられるが、これは日常の廃棄物を処理するためのものであろう。いずれにせよ、銭屋長十郎の屋敷から出された廃棄物であるが、その中に中国製五彩皿・色絵皿・華南三彩盤・清朝三彩皿、朝鮮王朝製白磁、ベトナム製長胴壺・焼締壺が含まれている点は注目される。ことに中国南方や東南アジアの製品が目立つ点は、屋敷地の所有者が意図的に買い求めたためといえる。

調査地東域の中央部にあたる鯛屋仁右衛門の屋敷地で注目されるのは、ほぼ中央を横断する121排水溝と、その南西の屋敷地際に位置する495井戸である。121排水溝は北西側が107搾場遺構により崩されていて、排水元の様相は不明であるが、現状の北西端が054溝から11m奥にあたるので、家屋内に排水元があったと考えられる。また121排水溝と495井戸とは約0.5mしか離れていないので、両者は関連するのかもしれない。この屋敷地範囲では、建物の存在は確認できない。北西部分では長径30cm程の礫が散在していて、動かされた礎石の可能性はあるものの、それにしても表間口付近での様相が捉えられない。なおこの屋敷地の奥行は8間と記されているので、調査地東辺が屋敷地の背にあたる。

調査地北にあたる紺屋吉兵衛の屋敷地は、118土坑の南西辺付近が境界である。これは683礎石建物の南妻部分でもある。この礎石建物と土坑とは重複する位置にあるが、先後関係は不明である。ただ先述した684礎石建物が137土坑より後出して建てられていて、683礎石建物は684礎石建物とほぼ同じ並びで建っているので、118土坑より後出する可能性は高い。なお118土坑の廃棄年代は17世紀末～18世紀前葉で、136土坑と同時期である。

118土坑は、掘方内に木枠を組み、その中に灰を充填した土坑である。灰が廃棄された遺構はこの屋敷地の表付近にも重複して掘削されているが、118土坑では丁寧に灰を納めるという状況であった。所有者の職業と関連した遺構かもしれないが、詳細は不明である。

359埋甕は054溝から5 m奥に入った位置にある。家屋の正面に設けられたのかもしれない。上述の灰が投棄された236～238・241・245土坑、242小穴を始めとする土坑・小穴群もまた、前庭に掘られたとみられる。それらの土坑・小穴からは小破片であるが中国製染付・青磁、備前・京焼系・丹波・肥前の

陶器、肥前磁器、土師質土器、火打石などが出土していて、日常生活の廃棄物も投棄されていた。

この屋敷地奥行は16間、通りに面する西間口の広さの記載はないが、絵図から判断するとおよそ3間半とみられる。なお東間口は10間半である。したがって、調査地内で認められた遺構の状況は、屋敷地の半分程度を捉えているにすぎない。よって、廃棄物の処理場も、調査地外にさらに数多く存在したと考えられる。

(7) 第1遺構面

第1遺構面は18世紀後葉以降の遺構を全て含む。したがって、廃絶時期が明治時代に入る遺構も含まれている。最終段階が明治時代に入るとみられる主な遺構は、107搾場遺構、その東から南に広がる089～092小穴（埋甕痕）、108～112埋甕、065井戸、064・067・068・075・085土坑などである。

この第1遺構面でも第2遺構面に引き続き、調査地の中央を縦断する054・094溝を側溝とした通りによって街区が分かれる。

通りの西では、中央トレンチを軸として南北それぞれに同種の遺構が対称的に存在している。まず1辺5m程の方形の廃棄土坑（001・002土坑）が、094溝の延長線より約2.5m西に入った位置に存在する。001土坑と002土坑では長軸方向が異なるが、通りからの距離はほぼ等しい。土坑から3m程北西方向に井戸が存在する。北半に位置する028井戸は、下層で検出された261土坑、473井戸と同一である。本来の掘方は方形であった。一方南半には003井戸がある。この井戸も方形を呈している。ただ001土坑と003井戸の間には006井戸があり、この点は北半と異なる。006井戸には、多量の瓦が投棄されていた。

003井戸と接して004埋甕が設けられている。北の屋敷地では、105埋甕と直列するように023・017埋甕も存在する。さらにその奥には、南北双方で廃棄土坑が北東－南西方向に並んでいる。南半では012・016土坑、北半では564土坑である。通りの側溝からおおよそ10mの距離である。

この廃棄土坑が存在するあたりから裏庭になるのかも知れない。南半では012・016土坑を取り囲むように、拡張部分においても廃棄土坑が存在する。そのうち275土坑は18世紀末～19世紀初頭に年代付けられるが、294・296・362土坑は19世紀前半（第2四半期）とみられ、やや新しい時期のものである。これらの廃棄土坑の形成後に、酒蔵として土地がまとめられたのであろう。

この対称をなす遺構の在り方は、南北の屋敷地がほぼ等しい構造であったことを示している。堺絵図によれば、17世紀後葉段階の調査地西半は、ほぼ中川屋元章の屋敷地であった。よって、その後のいずれかの時期に南北が分割されたのであろうが、その際両地は掛屋（借家）として同類の構造をもつ家屋が建てられたのではないかと想像する。

ところで、012・016・564土坑はほぼ直列しているが、この東西いずれかにこれらの廃棄土坑の位置を規定する家屋や屋敷地の境があったと考えられる。そして井戸や埋甕が屋外にあったとすれば、それらは裏庭に設けられていたことになる。

堺絵図では、通りの西の屋敷地の奥行は10間と記されているので、井戸や埋甕の位置からさらに10m西に屋敷地の境界があり、それまで裏庭が続いていたことになる。無論、ここにも家屋の建てられていた可能性は否定できないが、上述したように掛屋であった可能性、そして016土坑などが境界に沿って形成されたように並ぶことからすれば、通りから10m程の地点で東西方向にも分割され、中川屋元章の屋敷地は都合4区画に細分された可能性がある。そして012・016・564土坑は各屋敷地の縁辺に沿って形成されたと考えられる。この場合、通りから西方に入る通路は、南北に屋敷地を分割し、かつ016土坑の北東辺にあたる軸線上に幅1m程度の広さで存在したのであろう。

一方、通りの東についてみると、122土坑の南西辺および685地鎮遺構は、第2遺構面で検出された整地土の境と位置が一致していることから、ここに南北の屋敷地の境界があったとみられる。このラインは、先に通りの西で想定した屋敷地境と一致する。つまり、通りの東西両街区とも、中央トレンチにほぼ沿って屋敷地が分割されていた。ただし、122土坑を切り込んだ070土坑は、そのラインと重なる位置に掘削されている。122土坑は18世紀後葉、070土坑は18世紀後葉～末に年代比定され、122土坑が廃棄され、070土坑が掘削されるまでの僅かな期間内に、屋敷地がひとつにまとめられたとみられる。とすれば、通りの西における屋敷地の統合より早く東では統合がなされ、酒蔵が構築されたのであろう。

堺絵図によると、通りの東は3軒の屋敷地に分割されていて、それぞれの奥行は16間、8間、11間であった。070土坑の北東辺が054溝から16mの位置にあり、069・122土坑はそれより西寄りにある。よってこれらの廃棄土坑は堺絵図にみられる鯛屋仁右衛門の屋敷地に対応する敷地の奥端にあるとみられる。なお122土坑を切り込み、東に延びる067土坑や068土坑からは近代の遺物が出土しているので、屋敷地統合後の遺構である。これらに対して、061土坑は表庭に設けられたものである。壁土も含まれるが、堺（播鉢）・備前（瓶）・京焼系・丹波（甕）の陶器、肥前磁器（染付碗、青磁碗）、土師質土器（甕・火鉢）、瓦、火打石が出土し、日常生活の廃棄物を処理したものであろう。

100埋甕は054溝から9m程南東に位置している。通りの西では004埋甕が094溝より8m離れて存在し、017埋甕もほぼ同様の位置関係にある。100埋甕付近は家屋の奥端にあたっていよう。また099小穴や685地鎮遺構は、屋敷地の南端付近に位置することになる。

070土坑の北東に揃って073土坑や083土坑が形成されている。これらも廃棄物の処理のための土坑である。堺絵図では銭屋長十郎屋敷地にあたり、元禄2年段階では奥行11間である。ところが奥行8間とみられる屋敷地の廃棄土坑と位置や長軸方向が揃っていて、ここに南北に通る共通した屋敷地境が存在した可能性が高い。通りの西の状況と同じく、元禄2年以降に屋敷地割が再編されたと考えられる。

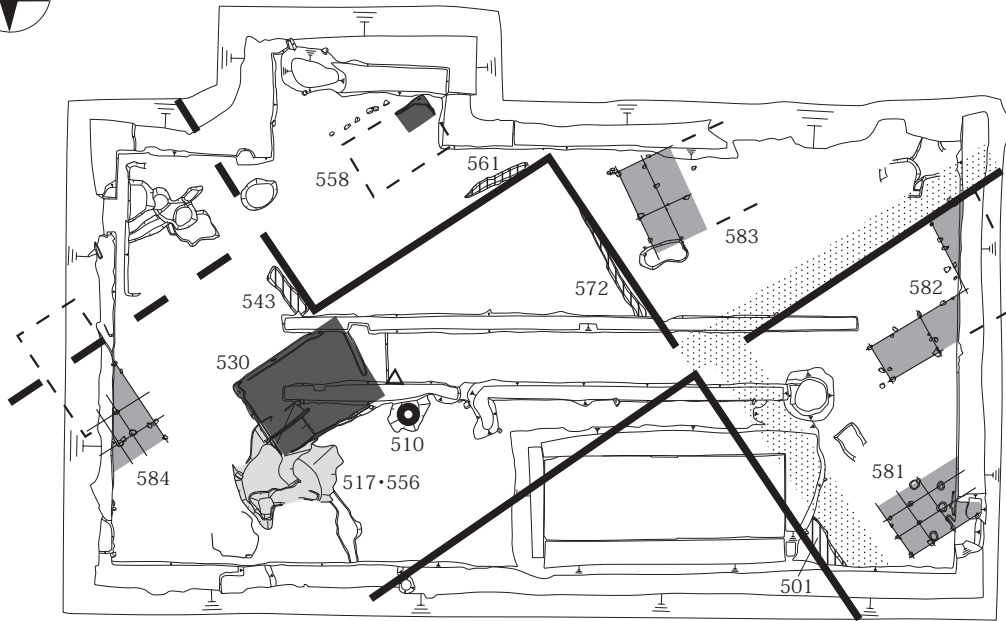
第2節 天文期～慶長20年の屋敷地割の一様相

第7・6遺構面は16世紀中葉に年代比定ができる。天文22（1553）年に起こった火災と関連する可能性が高い。ただ、両遺構面とも火災の片付けに伴うとみられる遺構が存在する一方、ともに被災を明瞭に示す状況も認められず、いずれの面と対応させてよいか不明である。第7遺構面と第6遺構面との間に形成された中世整地土Ⅱの中にも、焼土が多量に含まれた状況はみられなかった。

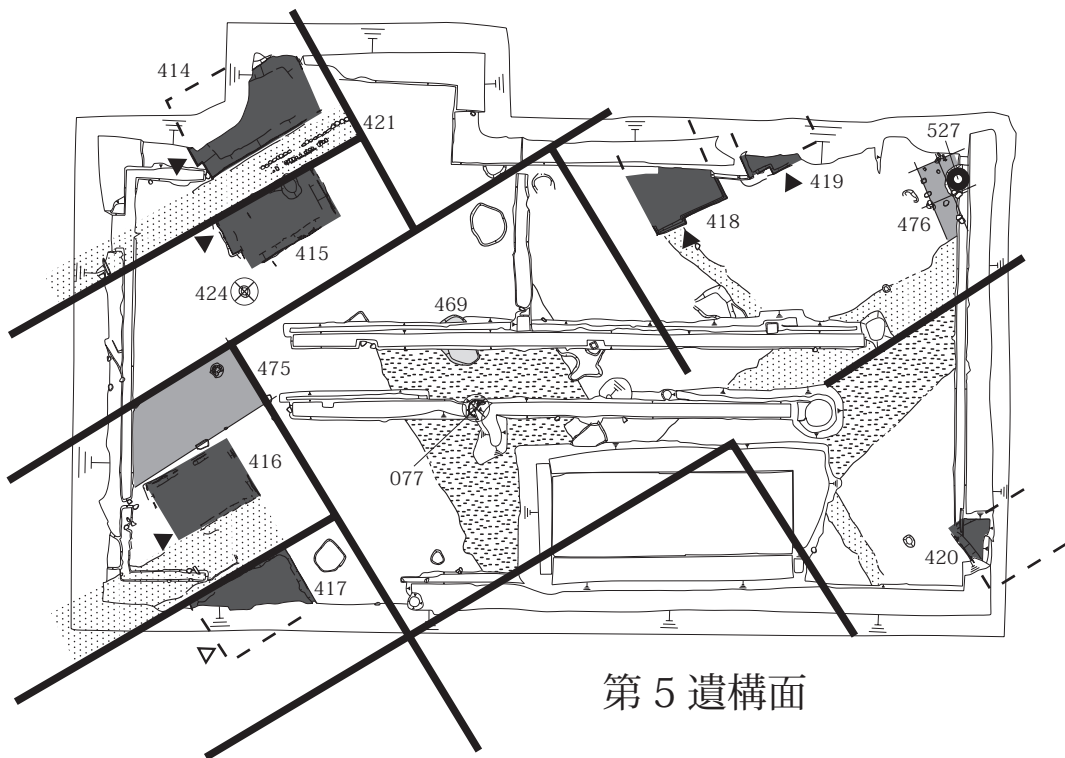
だがその後、天正3年の火災、および慶長20年の大坂夏の陣による被災により、町屋はその都度建て直された。その段階で屋敷地割が改変される可能性はあったが、既述したように、第5遺構面と第4遺構面の間での変化は非常に小さなものであった。

ところで、中世段階の堺においては、基本的に短冊型に分割された地割により屋敷地が設定されていると考えられている。本調査地においても、そうした状況は大まかには認められた。先にみたように、第7遺構面段階の585-630溝が、周辺地割の基本軸である。これを基に、東西に街区が分割され、それぞれの外方に位置する南北方向の通りに対して各屋敷地の間口が向いていたと考えられる。

こうした状況は、調査地西域の第6～4遺構面で顕著である。各屋敷地は、その境界に沿って設けた通路によって西に位置する通りと結び付いていた。一方、調査地東域でも、北半の屋敷地は3面の遺構面の期間中を通じて、東西通路によって東方の通りと出入りをしてきた。ただ、東域南半の屋敷地だけは、南北通路によって長尾街道と直接結び付いていたようである。しかしその一画を除くと、長尾街道



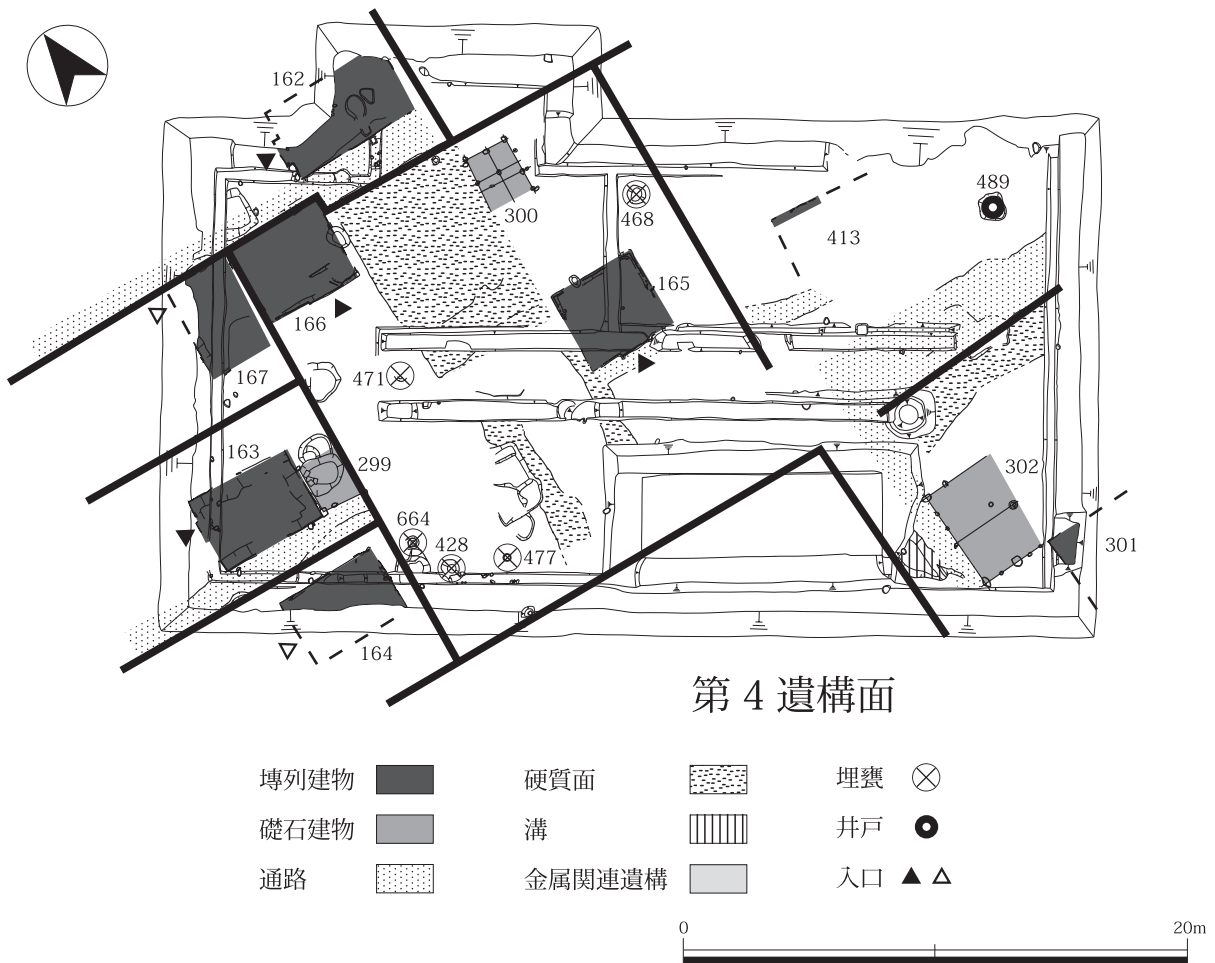
第6遺構面



第5遺構面



第139圖 第6・5遺構面屋敷地概念



第140図 第4遺構面屋敷地概念

へとつながる通路の存在は確認できない。がともかくも、本調査地においても各屋敷地は、基本的には通りに面して間口を設けていたといえる。

ところが、調査地中央付近だけが様相を異にしている。ここでは、現状三方を屋敷地に囲われ、おそらく調査地外にあたる南にもまた屋敷地が存在したであろうから、四周を屋敷地に囲まれた閉塞的な空間であったといえる。この状況は、第5・4遺構面で認められる。第6遺構面では、その形状だけは類似しているが、ひとつの屋敷地内の裏にあたる空地であった。そしてその閉ざされた空間に、金属製品を製作する工房が建物と共に設けられた。

本調査地における金属製品の生産を示す古い段階の遺構は、第6遺構面の556・517焼土域である。そこからは銅滓が出土したが、銅製品だけでなく、鉄製品も製作していた可能性は充分にある。この工房をもった屋敷地の東奥部分が第5・4遺構面の金属工房の屋敷地にあたる。つまり、第6遺構面の状況が第5・4遺構面へとつながっている。

第6遺構面段階の空地の北には558埵列建物が位置している。この面の区画溝の在り方を勘案すると、異なる屋敷地に建っていると考えられる。したがって、530埵列建物の建つ屋敷地は、南東部の一画だけが突出し、空地になっていたのであろう。たくましく想像すれば、この空地が天文期以降に独立した屋敷地となり、天正3年の火災後はその範囲を拡大して金属製品の工房を営み続けたのではないか。

屋敷地群の一画に、金属製品のみならず、各種の工房が存在することは、堺の町では少なからず知られている。SKT822地点では、埵列建物や礎石建物と混在して金属生産関連遺物を出土した遺構が存在

する。その様相は本調査地と似ているが、SKT822地点ではその遺構の多くが表通りに面するとみられている。本調査地のように屋敷地に囲まれ、奥まった場所に設けられた例は極めて少ないであろう。

ただ、本調査地でみられた変則的な屋敷地割や工房の存在は、天文期の第6遺構面における工房の存在との関係で生じた、偶然的な状況であったともいえる。しかしそうした状況が、本調査地における天文期～慶長期にかけての屋敷地割の複雑さを生み出した原因とみることができよう。

参考文献

- 朝尾直弘 1995『都市と近世社会を考える 信長・秀吉から綱吉の時代まで』（朝日新聞社）
- 泉 澄一 1981『堺』（教育社歴史新書〈日本史〉64）（株式会社教育社）
- 池上裕子ほか 1995『クロニク戦国全史』（株式会社講談社）
- 伊藤 毅 2007『町屋と町並み』（日本史リブレット35）（株式会社山川出版社）
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2（日本貿易陶磁研究会）
- 江戸遺跡研究会 2001『図説 江戸考古学研究事典』（柏書房）
- 大橋康二 1989『肥前陶磁』（考古学ライブラリー55）（ニューサイエンス社）
- 小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2（日本貿易陶磁研究会）
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
- 堺市博物館 2006『茶道具拝見—出土品から見た堺の茶の湯—』
- 佐藤亜聖 1996「大和における瓦質土器の展開と画期」『中近世土器の基礎研究』XI（日本中世土器研究会）
- 柴田圭子 2001「16世紀中葉の輸入陶磁器の再評—中国・四国地方の遺跡を中心に—」『中世土器研究論集』（日本中世土器研究会）
- 白神典之 1992「堺播鉢考」『東洋陶磁』19 東洋陶磁学会
- 鋤柄俊夫 1989「大阪府南部の瓦質土器生産（2）」『中近世土器の基礎研究』V（日本中世土器研究会）
- 鈴木裕子 2001「ベトナム産印判手鉄絵菊花文深皿について—江戸、長崎、インドネシア、バシテンの出土資料を中心に—」『東京考古』19（東京考古学談話会）
- 瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史 陶磁史篇』四、『瀬戸市史 陶磁史篇』五
- 瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史 陶磁史篇』六
- 十河良和 1996「堺環濠都市遺跡出土の土師質土器・炮烙について」『関西近世考古学研究』IV（関西近世考古学研究会）
- 中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』（真陽社）
- 續伸一郎 1994「中世都市堺—都市空間とその構造—」『都市空間—中世都市研究1—』（新人物往来社）
- 續伸一郎 2007「瓦器から瓦質へ—堺市域の出土資料を中心として—」大阪歴史学会研究報告資料
- 續伸一郎 2007「大坂の瓦質土器」『瓦質土器の出現と定着—瓦質土器を考える—（前編）』第26回中世土器研究会大会資料（日本中世土器研究会）
- 坪井利弘 1976『日本の瓦屋根』（理工学社）
- 寺島良安 1970『和漢三才図会』（株式会社 東京美術）
- 東京都庭園美術館 2000『指輪—古代エジプトから20世紀まで—』（淡交社）
- 土岐市教育委員会 2002『元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書』
- 土山健史 1989「堺環濠都市遺跡における15・16世紀の在り土器」『中近世土器の基礎研究』V（日本中世土器研究会）
- 土山健史 1992「埴列建物について」『関西近世考古学研究』III（関西近世考古学研究会）

- 難波洋三 1992「徳川氏大坂城期の炮烙」『難波宮址の研究』九（(財)大阪市文化財協会）
- 根津美術館 1993『南蛮・島物—南海請来の茶陶—』
- 野田芳正 1992「中世都市 堺—「新町」の形成—」『関西近世考古学研究』Ⅲ（関西近世考古学研究会）
- 乗岡 実 2005「備前」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集（全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会）
- 長谷川眞 2005「丹波」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集（全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会）
- 長谷川眞 2006「丹波 近世丹波焼の諸相」『江戸時代のやきもの—生産と流通—』（(財)瀬戸市文化財振興財団埋蔵文化財センター）
- 畑中英二 2006「近世の信楽」『江戸時代のやきもの—生産と流通—』記念講演会シンポジウム資料集（(財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター）
- 前田書店 1977『元禄二己巳歳堺大絵図』
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2（日本貿易陶磁研究会）
- 森村健一 2004「国際貿易都市堺の近世都市建築と屋敷地の構成」『関西近世考古学研究』XⅡ（関西近世考古学研究会）
- 森本朝子 2000「日本出土の東南アジア産陶磁器の様相」『貿易陶磁研究』No.20（日本貿易陶磁研究会）
- 矢内一磨 2004「幕末の堺商人について—慶応2年「菅梅講名記」より—」『堺市博物館報』第23号
- 山脇悌二郎 1995『近世日本の医薬文化』（平凡社選書155）（株式会社平凡社）
- 吉田 豊 2005「江戸時代堺の産業一覧」『堺市博物館報』第24号

* 堺環濠都市遺跡に関する堺市教育委員会、大阪府教育委員会の発掘調査報告書については割愛した。

SKT959地点に関しては、以下の発表資料がある。本書で触れることのできなかった点を記したものがあるので、併読していただきたい。ただ、本書と重複する内容については、本書を最終見解とする。

【紙上発表資料】

- 三木弘「堺環濠都市遺跡出土 ヨーロッパ製品」『OCCH』No.36（財団法人大阪府文化財センター）2007
- 三木弘「堺における貿易品流通について」『交流・流通・交通の考古学』（第13回近畿ブロック埋蔵文化財研修会発表要旨集）（全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議）2007
- 三木弘・渡辺晴香「堺の酒造業について—SKT959地点の調査成果とその位置付け—」『大阪文化財研究』32号（財団法人大阪府文化財センター）2007
- 三木弘・渡辺晴香「堺環濠都市遺跡（SKT959地点）の調査成果」『17世紀の陶磁器と社会』（関西近世考古学研究15）（関西近世考古学研究会）2007
- 三木弘「発掘された堺2007 SKT959地点の調査」『発掘された大阪2007—水都大阪の国際交流史—』（大阪府立弥生文化博物館）2008
- 三木弘・新海正博ほか「「自由都市」の町屋と4条の濠—大阪府堺環濠都市遺跡」『季刊考古学』第102号（雄山閣出版株式会社）2008
- 三木弘・渡辺晴香「近世堺の町屋様相の一断章—SKT959地点の調査成果とその位置付け（2）—」『大阪文化財研究』33号（財団法人大阪府文化財センター）2008

【口頭発表資料】

- 三木弘「堺環濠都市遺跡を掘る—SKT959地点の調査成果—」堺を知る会地域講座 2007年8月5日
- 三木弘・小林恒孝・渡辺晴香「慶長～天文期の町屋・断章—SKT959地点の調査成果—」1617会 2007年11月17日

遺構一覽表

遺物觀察表

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
001	3.1	2.8	0.58	(廃棄)土坑	第1面	18C末~19C初	第1面	1片10cm程度に割られた瓦片多量出土
002	2.9	2.4	0.38	(廃棄)土坑	第1面	18C末~19C初	第1面	1片10cm程度に割られた瓦片多量出土
003	1.5	1.4	2.05	井戸	第1面	18C末~19C初	第1面	方形。検出面から2m下で底面。底部平坦
004	0.6	0.5	0.02	埋壘	第1面		第1面	甕底3/4のみ遺存
005	0.8	0.7	0.36	埋壘	第1面	18C前	第2面	胴部下半遺存。側部に穿孔
006	1.3	1.1	-	井戸	第1面	19C前、19C中	第1面	瓦多量廃棄(検出面下1~1.5m間に集中)。底未確認
007	0.7	0.7	0.17	小穴	第1面	17C前、17C中	第3面	掘方明瞭。壁面やや不整
008	0.8	0.7	0.57	土坑	第1面			壁垂直に立上る
009	0.7	0.5	0.39	小穴(雨落?)	第1面		第1面	瓦4枚方形に並べる
010	3.0	2.1*	0.67	土坑	第1面	16C末~17C第1四半	第4面	焼土・焼瓦多量。正方位軸
011	0.7	0.7	0.61	埋壘	第1面	17C末~18C初	第2面	底部割られている。瓦多包
012	2.3	1.8	0.40	(廃棄)土坑	第1面	18C後~19C初	第1面	底面に人頭大の5石並ぶ
014	1.4	1.2	1.02	井戸	第1面	17C前、17C中	第3面	方形を呈する。掘方明瞭。T.P.1.7mで底面
015	0.5	0.5	0.40	小穴	第1面			上部攪乱受ける
016	3.4	1.0	0.84	(廃棄)土坑	第1面	18C後	第1面	上部攪乱受ける。長方形
017	1.1	1.0	0.55	埋壘	第1面	近現代	第1面	備前甕使用。砂のみ堆積
018	1.1	0.9	0.36	土坑	第1面			底面・壁面不整
019	0.8	0.6	0.32	小穴	第1面			壁垂直に立上る
020	0.8	0.7	0.28	小穴	第1面			壁垂直に立上る。掘方明瞭
021	0.4	0.3	0.04	小穴	第1面			掘方浅い
022	0.6	0.6	0.10	小穴	第1面			掘方浅い
023	0.4	0.4	0.08	埋壘	第1面	近現代	第1面	甕底部のみ遺存
024	0.9	0.8	0.03	土坑	第1面	近現代	第1面	掘方明瞭。漆喰含む
025	0.5	0.4	0.05	小穴	第1面			底部起伏あり
026	0.3	0.3	0.15	小穴	第1面			掘方浅い
027	1.4	1.1	0.52	土坑	第1面	近現代	第1面	壁面の立上り不整。掘方明瞭
028	1.0	0.9	-	井戸	第1面	19C前(第2四半)	第1面	瓦多量廃棄(検出面下0.8~1.2m間に集中)。底未確認。216土坑・473井戸と同一
029	0.3	0.3	0.16	小穴	第1面			壁の立上り明瞭
030	0.7	0.6	0.09	小穴	第1面	17C前	第3面	壁の立上り明瞭
031	1.0	0.8	0.44	土坑	第1面	17C中	第3面	壁垂直に立上る
032	1.1	1.1	0.74	土坑	第1面	17C前	第3面	002土坑に切り込まれる
033	2.2*	1.1	0.57	土坑	第1面	18C後	第1面	西端に人頭大礫集中
034	0.7	0.5	0.25	小穴	第1面	17C後	第1面	033土坑を切り込む。掘方明瞭
035	0.8*	0.9	0.16	土坑	第1面			底部ほぼ平坦
036	0.6	0.4	0.13	小穴	第1面			浅いが掘方明瞭
037	1.1*	1.0	0.35	土坑	第1面	17C前	第3面	底面南方に下降
038	1.1*	0.5*	0.35	土坑	第1面	17C前	第3面	焼土含む
039	0.7	0.6	0.14	小穴	第1面	17C前	第3面	焼土含む
040	0.6	0.4	0.01	小穴	第1面		第3面	焼土若干含む
041	0.5	0.4	0.09	小穴	第1面		第3面	焼土・炭化物含む
042	0.4	0.3	0.08	小穴	第1面		第1面	掘方浅い
043	0.5	0.3	0.06	小穴	第1面		第1面	掘方浅い
044	2.5*	1.4*	0.34	土坑	第1面	17C後	第2面	焼土・灰含む。161土坑と同一
045	1.0	0.8*	0.21	土坑	第1面	17C前、17C中	第3面	壁面の立上り不整
046	0.4	0.4	0.11	小穴	第1面			045土坑切り込む。浅いが掘方明瞭
047	0.6	0.6	0.06	小穴	第1面			掘方浅い
048	1.0	0.9	0.20	土坑	第1面	17C中	第3面	浅い。人頭大礫含む
049	2.4*	0.7	0.34	溝	第1面	17C中	第3面	砂・砂質土堆積。西方へ下降
050	4.6	3.4	0.36	土坑	第1面	18C後	第1面	中央掘り残された方形。掘方明瞭
051	3.7*	1.1	-	硬質面	第1面		第4面	第4面に伴うか。厚5cmの砂利混じり
052	1.7	1.3	0.17	土坑	第1面			底面・壁面不整
053	1.4	0.8	0.37	土坑	第1面	18C末~19C初	第1面	長方形。掘方明瞭。底部やや不整
054	10.5	0.7	0.90	溝	第1面	18C末~19C初	第1面	通り側溝。壁面垂直に立上る。2箇所に掘り残りあり。瓦小片多包
055	0.9*	0.7*	0.16	小穴	第1面			砂・砂質土堆積
056	0.6	0.5	0.16	小穴	第1面			壁面の立上り不整
057	0.6	0.6	0.10	小穴	第1面	18C末~19C初	第1面	掘方浅い
058	1.0	0.4	0.20	小穴	第1面			溝状。底部起伏あり
059	0.6	0.4	0.12	小穴	第1面		第1面	060土坑を切り込む
060	2.2	1.6	0.13	土坑	第1面	18C後	第1面	不定形。掘方やや浅い
061	2.2	2.2	0.44	(廃棄)土坑	第1面	18C後	第1面	掘方やや浅い
062	0.5	0.4	0.22	小穴	第1面			掘方明瞭
063	0.8	0.5*	0.21	小穴	第1面			080小穴と一体化の可能性。底部碗状
064	1.7	1.2	0.18	土坑	第1面	近現代	第1面	072土坑を切り込む
065	1.3	1.2*	-	井戸	第1面	近現代	第1面	井戸枠瓦(現状12段・深3.2m)。下部に長80cm、幅15cmの木板並べる(現状2段・深1.1m)。第2次世界大戦焼土充満。底未確認
066	0.3*	0.3	0.02	埋壘	第2面		第1面	底部のみ遺存
067	2.2*	1.4	0.59	土坑	第1面	近現代	第1面	068土坑を切り込む
068	3.3*	2.0	0.44	土坑	第1面	近現代	第1面	隅丸長方形を呈する
069	2.4	1.8	0.36	(廃棄)土坑	第1面	18C末~19C初	第1面	底部方形
070	4.6	1.6	0.36	(廃棄)土坑	第1面	18C後~末	第1面	長方形。掘方明瞭
071	0.6*	0.8	0.36	土坑	第1面	17C後	第2面	掘方明瞭。底部平坦
072	1.0	0.9	0.43	土坑	第1面	17C末~18C第1四半	第2面	掘方明瞭。壁直線的に立上る
073	2.1	1.2	0.53	(廃棄)土坑	第1面	18C後	第1面	完形に近い瓦多包
074	0.7	0.6	0.11	埋壘	第1面	18C後	第1面	底部のみ遺存。掘方大きめ
075	1.8	1.2	0.38	土坑	第1面	19C前(第2四半)	第1面	長方形。掘方明瞭
076	1.2	1.1	0.45	土坑	第1面	18C後	第1面	掘方明瞭。底部平坦
077	0.7	0.4*	0.30	埋壘	第6面		第5面	大型甕・下半のみ遺存。欠損部に天正製地土のる
078	1.1*	1.2	0.52	土坑	第1面	17C末~18C第1四半、19C前(第2四半)	第1面	遺物量多い。井戸の可能性あり
079	0.5*	0.6	0.18	漆喰容器	第1面		第1面	漆喰を方形に固めた容器を埋置
080	0.7*	0.9	0.08	小穴	第1面			掘方浅い。063小穴と一体化の可能性
081	0.6*	0.7	0.40	小穴	第1面			底部起伏あり
082	1.8	0.9*	0.24	土坑	第1面	18C後	第1面	不定形。掘方やや浅い
083	2.8	1.0	0.51	(廃棄)土坑	第1面	18C末(~19C初)	第1面	壁面の立上り不整。掘方明瞭
084	0.6*	0.3*	0.03	小穴	第1面			掘方浅い

遺構一覧表 1

主要遺物
陶器(堺/播鉢, 瀬戸美濃/げんこつ茶碗・太白手皿, 京焼系/土鍋, 丹波/播鉢, 肥前/鉢), 磁器(肥前/くらわんか皿・くらわんか碗・広東碗), 土師(焜炉・焙烙・小火鉢), 軟陶(灯明受皿), 瓦質(火鉢?), 瓦(道具瓦, 井戸椀瓦)
貿易(中国染付/盤), 陶器(備前/瓶, 肥前/内野山窯系皿・砂目皿), 磁器(肥前/広東碗・染付碗・染付筒形碗), 土師(十能), 瓦(井戸椀瓦), 石(甕石・U字溝材?)
貿易(中国染付/大明年化年銘・白磁皿), 陶器(堺/播鉢, 備前/大甕, 京焼系/土瓶・土鍋・灯明皿・煎焼・土瓶蓋, 瀬戸美濃/志野蓋・碗・太白手皿・仏花瓶), 軟陶(ミニチュア鳩笛・たんころ)
陶器(信楽/甕)
貿易(中国染付/白磁), 磁器(肥前/染付猪口・初期伊万里), 土師(湊甕・皿), 瓦
貿易(中国染付/皿, 漳州/盤), 陶器(堺/播鉢・鉢, 京焼系/土瓶・土鍋・三鳥小杯・灰入貫入碗・土鍋蓋・灰釉灯明皿・灯明受皿・餗皿・行平蓋, 瀬戸美濃/緑釉植木鉢・太白手・火鉢, 萩/ピラ掛け), 磁器(肥前/端反碗・広東碗・蛇ノ目凹形高台・染付碗・端反鉢, 瀬戸美濃/端反碗・碗蓋), 土師(甕・焙烙・土人形・焜炉・火消壺), 瓦質(火鉢, 焜炉), 瓦(井戸椀瓦, 軒浅瓦), 石(砥石, 石臼)
陶器(肥前/京焼風碗), 磁器(染付碗), 瓦
陶器(備前/甕), 土師(湊甕, 皿), 瓦質(製品, ミニチュア羽釜), 瓦
貿易(中国染付), 陶器(備前/甕・胎土目碗・小壺?), 肥前/碗, 瀬戸美濃/灰釉丸皿), 土師(湊甕, 小皿, 甕, 土鍾), 瓦, 壁土
陶器(備前/水差?), 磁器(肥前/碗), 土師(湊甕, 甕), 瓦
陶器(堺/播鉢・鉢, 京焼系/灯明受皿・土瓶), 磁器(染付鉢・筒型碗), 土師(焜炉), 瓦(井戸椀瓦), 石臼, ガラス瓶
貿易(中国染付/碗・小碗・大盤, 漳州/大盤, 景德/白磁皿), 陶器(備前/播鉢, 丹波/播鉢, 瀬戸美濃/菊皿, 肥前/胎土目皿・鉄絵・砂目三鳥平), 土師(焙烙, 小皿, 皿), 瓦質(火鉢), 瓦, 鉄釘, 加工円盤
貿易(中国染付/皿), 土師(皿), 瓦
貿易(中国青磁/皿), 陶器(備前/徳利, 丹波/壺, 肥前/呉器手碗), 磁器(肥前/染付碗), 土師(皿, ミニチュア瓶, 焙烙), 瓦質, 軟陶(瓶(鉢))
陶器(備前/甕・播鉢, 丹波/播鉢), 木製柱
土師(湊甕), 瓦(井戸椀瓦?)
貿易(中国白磁), 土師(湊甕), 瓦
土師(風炉), 瓦, 壁土
土師, 和泉砂岩片
陶器(備前/甕), 砥石
陶器(丹波/?/甕, 信楽/甕)
陶器(京焼系/土瓶, 信楽/甕, 瀬戸美濃/鉄釉水注, 大谷/甕), 瓦質
貿易(中国白磁/端反皿), 陶器(堺/甕), 瓦, ガラス, 鉄釘, 埴塙
貿易(ベトナム/長胴壺), 陶器(堺/植木鉢・播鉢, 京焼系/土瓶・土鍋・行平蓋・灯明受皿, 丹波/徳利, 瀬戸美濃/植木鉢, 萩/ピラ掛け, 産地不明/灯火具), 磁器(肥前/端反碗・染付端反碗・染付碗・青磁香炉・戸車, 瀬戸美濃/端反碗), 軟陶(灯火具), 瓦質(炉壇), 瓦(井戸椀瓦), 土鍾, 火打石, 鉄滓, 銅製品, 甕石
壁土
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/播鉢), 磁器(肥前/碗), 瓦, 砥石, 鉄滓
貿易(中国染付/碗), 陶器(堺/甕), 磁器(肥前/青磁碗), 瓦
貿易(中国染付/鉢), 陶器(備前/播鉢・壺, 肥前, 瀬戸美濃/天目・志野皿), 磁器(肥前, 産地不明), 土師(十能, 皿), 瓦, 鉄滓, 甕石
貿易(中国染付, 中国白磁/皿), 陶器(備前/播鉢・甕, 京焼系/灯明受皿, 瀬戸美濃/志野皿), 磁器(肥前/染付筒型碗), 土師(湊甕, 焙烙, 羽釜), 瓦, 鉄釘,
土師(湊甕)
土師(湊甕), 瓦
陶器(備前/壺), 瓦
貿易(中国染付), 陶器(肥前/鉄絵・灰釉碗), 土師(湊甕), 瓦
貿易(中国白磁), 陶器(肥前/灰釉皿)
陶器(瀬戸美濃/天目, 肥前/鉢), 土師(湊甕)
土師(甕)
貿易(中国白磁/碗), 陶器(肥前/呉器手碗・鉢・大平鉢, 丹波/播鉢・甕), 磁器(肥前/三股青磁大皿・染付碗), 土師(焙烙, 甕, 湊甕, 方形火鉢), 瓦, 鉄滓, 羽口
貿易(中国染付/碗), 土師(羽釜, 小型羽釜, 湊甕), 瓦, 鉄滓?, 錆型?, 火打石
壁土
土師(焙烙)
陶器(肥前), 瓦質(火鉢), 瓦, 硯
陶器(備前/甕, 肥前/灰釉碗), 磁器(肥前/一重網目碗), 土師(湊甕, 灯明皿)
貿易(中国染付/皿, 朝鮮白磁), 陶器(備前, 肥前/呉器手碗, 瀬戸美濃/志野), 磁器(肥前/青磁染付筒形碗・コンニャク判碗), 土師(湊甕・皿), 瓦質(羽釜), 鉄釘, 甕石, 漆喰
土師(湊甕)
陶器(肥前/碗), 土師(湊甕), 瓦質土器, 瓦
陶器(京焼系/土瓶, 丹波/播鉢, 肥前/呉器手碗), 磁器(肥前/くらわんか), 土師(甕, 羽釜), 瓦(井戸椀瓦)
陶器(堺/播鉢・鉢, 京焼系/貫入碗・端反碗・土瓶・灰釉片口, 瀬戸美濃/鎗茶碗, 片口, 丹波/徳利, 肥前/瓶・壺・色絵小杯, 萩/薬灰釉, 産地不明/四耳壺), 磁器(肥前/染付碗・広東碗・くらわんか・端反碗?・丸窓文碗・小広東碗・染付鉢・青磁鉢), 土師(火鉢, 焙烙, 風炉, 人形), 瓦(井戸椀瓦, 刻印瓦), 砥石, 銅製把手, 鉄製品, 火打石
磁器(肥前), 土師
土師(大和型羽釜), 瓦
陶器(備前/甕), さな
陶器(瀬戸美濃/碗), 瓦
瓦
陶器(堺/播鉢, 京焼系/灰釉水注・灯明皿・水注, 丹波/徳利), 磁器(肥前/色絵白・白磁碗・陶胎染付香炉, 青磁染付碗, 染付筒形碗), 土師(皿), 瓦, 銅銭, 火打石
陶器(堺/播鉢, 備前/瓶, 京焼系, 丹波/甕), 磁器(肥前/半球碗・青磁染付碗・筒形碗・染付碗), 土師(甕, 火鉢), 瓦, 火打石, 漆喰
瓦
土師(焙烙), 瓦
陶器(堺/播鉢, 京焼系/鉄釉土瓶・鉄釉土鍋・土鍋, 瀬戸美濃/京焼風平碗?, 丹波/甕, 肥前/内野山窯系皿・灰釉碗), 磁器(肥前/筒形碗・くらわんか皿・輪花鉢), 土師(皿, 焙烙), 瓦(井戸椀瓦, 棧瓦), 甕石, ガラス, 鉄釘
陶磁器, 瓦(棧瓦, 焼瓦), 竜山石, コンクリート, 壁土, 第2次大戦焼土
土師(湊小甕, 湊甕)
陶器, 磁器
貿易(中国染付/碗, 華南/緑釉), 陶器(備前/甕, 信楽/甕, 肥前/刷毛目鉢), 磁器(肥前/染付碗・染付鉢), 瓦質(羽釜), 瓦(菊瓦), 骨製歯ブラシ, ガラス瓶, 漆喰
陶器(堺/播鉢, 京焼系/土瓶蓋・土鍋, 瀬戸美濃/京焼風平碗), 磁器(肥前/染付碗蓋), 土師(炉壇), 瓦, 甕石, 銅銭
陶器(堺/播鉢・鉢, 備前/甕, 京焼系/碗・平碗・鉄釉土瓶, 瀬戸美濃/水注・片口・壺・雑巾手碗, 常滑/土瓶, 丹波/甕・壺, 信楽/甕, 肥前/播鉢・内野山窯系皿・刷毛目文碗・甕), 磁器(肥前/染付輪花鉢・広東碗蓋・染付碗・筒形碗, 青磁染付碗, 染付丸窓文碗), 土師(焜炉, 焙烙, 人形), 瓦(井戸椀瓦), 甕石, 炉壁, 壁土
陶器(丹波/播鉢), 磁器(肥前/型紙摺碗・三股青磁), 土師(焙烙), 瓦, 壁土
陶器(堺/播鉢, 肥前/染付碗, 刷平目鉢, 京焼風色絵鉢), 磁器(肥前/コンニャク判染付碗), 土師(皿, 湊甕)
貿易(中国染付/小杯), 陶器(肥前/播野皿・刷毛目鉢・碗), 磁器(肥前/くらわんか染付碗・端反鉢), 土師(湊甕, 皿, 火消壺, たんころ), 瓦
磁器(肥前/染付碗・雨降文染付皿・そば猪口), 土師(湊焼, 甕, 皿, 焙烙), 瓦
貿易(ベトナム/甕), 陶器(京焼系/土瓶・灰釉貫八碗・灰釉土瓶, 丹波/甕・徳利), 磁器(肥前/青磁染付碗・筒型碗), 土師(十能, 柿釉灯明皿, 火消蛸壺, 焙烙), 軟陶(灯明皿), 瓦
陶器(堺/播鉢, 丹波/播鉢), 磁器(肥前/筒形碗・磁器・小広東碗・筒形蓋物), 土師(羽釜), 軟陶(施釉灯火具), 瓦, 漆喰, 火打石
陶器(備前/甕), 瓦
貿易(ベトナム/長胴壺), 陶器(堺/播鉢, 京焼系/丸碗・土鍋, 肥前/内野山窯系皿), 磁器(肥前/白磁碗・染付碗), 土師(皿, 焙烙), 瓦, さな, 砥石, 鉄滓, 羽口
陶器(堺/播鉢), 瓦, 鉄釘, 漆喰
瓦
陶器(瀬戸美濃/ソバ茶碗?), 土師(湊甕), 瓦
陶器(丹波/甕・茶入), 磁器(肥前/蓋付碗), 土師(深草刻印赤白胎土火入(墨書あり)), 瓦
陶器(堺/播鉢, 京焼系/貫入碗・灰釉土鍋・土瓶, 瀬戸美濃/鉄釉甕, 萩/薬灰釉碗, 産地不明/播鉢), 磁器(肥前/広東碗・小広東碗・斜格子文皿, 線描蓋物蓋), 土師(焙烙, 蠟燭型灯火具, 焜炉, 甕), 瓦, 硯, 壁土
貿易(中国染付), 陶器(瀬戸美濃/鉄釉天目), 鉄釘

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
085	1.7	1.5	0.26	土坑	第1面	19C前(第2四半)	第1面	底面・壁面不整
086	0.5	0.5	0.07	埋壘	第1面	近現代	第1面	壘底に平瓦。その上に炭化物層
087	0.6	0.5	0.09	埋壘	第1面	近現代	第1面	壘底上に漆喰厚く貼る。瓦・炭化物堆積
088	1.0	0.7	0.17	小穴	第1面	近現代	第1面	底面・壁面不整
089	0.6	0.5	0.10	小穴(埋壘)	第1面		第1面	掘方のみ。底面に漆喰貼る
090	0.5*	0.5	0.15	小穴(埋壘)	第1面		第1面	掘方のみ。底面に漆喰貼る
091	0.5	0.5	0.18	小穴(埋壘)	第1面	19C中	第1面	掘方のみ。底面に漆喰貼る
092	0.5	0.4	0.14	小穴(埋壘)	第1面		第1面	掘方のみ。砂堆積
093	2.0*	1.8	0.86	(廃棄)土坑	第1面		第1面	瓦多包。094溝切り込む
094	4.0*	1.0	0.65	溝	第1面	17C前	第1面	通り側溝。壁面垂直に立上る
095	1.6	1.2	0.87	土坑	第1面	17C中	第3面	002土坑の底面で検出。掘方明瞭
096	1.9*	1.8*	1.34	土坑(灰溜)	第1面	17C末～18C前	第1面	灰充滿。灰は北方に下降堆積
097	0.6*	0.4*	0.11	小穴	第1面			107搾場遺構に切り込まれる。浅い
098	0.7	0.4*	0.10	小穴	第1面			107搾場遺構に切り込まれる。浅い
099	0.8	0.5	0.12	小穴(地鏡)	第1面	17C中～後	第1面	現状掘方浅い
100	0.4*	0.6	0.76	埋壘	第1面		第1面	078土坑を切り込み、107搾場遺構に切り込まれる
101	2.8*	1.1	0.03	焼土域	第1面	17C前、17C中	第3面	焼土面2枚。方形被熱硬化面3箇所
102	0.8	0.6*	0.41	埋壘	第1面		第3面	壘大半欠落
103	4.3*	2.2*	0.47	土坑	第1面	17C前、17C中	第3面	焼土含む。101土坑と関連?
104	0.6	0.5*	0.11	埋壘	第1面	17C中	第2面	底部のみ遺存。側部に穿孔
105	0.7	0.6	0.26	埋壘	第1面	近現代	第1面	底部のみ遺存
106	0.8	0.8	0.73	土坑(雨落?)	第1面		第1面	丸瓦・平瓦を円形に組む
107	5.2*	5.0	1.56	搾場遺構	第1面		第1面	近世末～現代の酒蔵・搾場
108	0.6	0.6*	0.38	埋壘	第1面	近現代	第1面	胴部下半遺存。指輪2点出土
109	0.6*	0.5*	0.51	埋壘	第1面	近現代	第1面	胴部下半遺存
110	0.6	0.4*	0.08	埋壘	第1面	近現代	第1面	底部のみ遺存
111	0.7*	0.7*	0.45	埋壘	第1面	近現代	第1面	胴部下半遺存
112	0.6	0.4*	0.06	埋壘	第1面	近現代	第1面	底部のみ遺存
113	1.0*	0.4*	0.05	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
114	0.5	0.5	0.06	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
115	1.3	0.4*	0.02	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
116	2.9	1.1*	0.01	土坑	第2面	17C中	第3面	不定形。掘方や浅い
117	1.1	0.6*	0.11	土坑	第2面		第1面	不定形。底面・壁面不整。121溝切り込む
118	2.2	0.8	0.19	土坑(灰溜)	第2面	17C末～18C第1四半	第2面	木板方形に組む。灰充滿
119	0.6	0.6	0.08	小穴	第2面	17C前	第3面	掘方浅い
120	0.5	0.5	0.04	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
121	2.4*	0.6	0.25	(排水)溝	第2面	17C中	第2面	瓦質U字溝材を直列。排水溝
122	4.1	1.1	0.95	(廃棄)土坑	第2面	18C後	第1面	壁垂直に立上る。瓦・漆喰多包
123	0.4	0.4	0.16	小穴	第2面	18C末	第1面	掘方明瞭
124	0.3	0.3	0.02	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
125	1.0	0.9	0.27	土坑	第2面	17C中	第2面	方形。掘方明瞭
126	1.3	0.6*	0.19	土坑	第2面	17C前	第3面	壁垂直に立上る。深さあり
127	0.5	0.5	0.12	小穴	第2面		第2面	掘方明瞭
128	0.4	0.4	0.09	小穴	第2面		第2面	断面播鉢状
129	2.6	1.0*	0.15	土坑	第2面	17C前	第3面	東方になだらかに下降
130	0.7	0.4*	0.12	小穴	第2面	17C後	第2面	掘方明瞭
131	0.5	0.4*	0.18	小穴	第2面		第2面	掘方明瞭
132	0.5	0.4*	0.22	小穴	第2面	17C後	第2面	掘方明瞭
133	1.9	1.5	0.23	土坑	第2面	17C末～18C前	第2面	壁垂直に立上る。瓦・礫出土
134	0.3	0.2	0.08	小穴	第2面		第1面	掘方明瞭
135	0.4*	0.4*	0.13	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
136	6.3	2.3	0.43	(廃棄)土坑	第2面	17C末～18C初	第2面	137土坑と重複。瓦多包。焼土・炭化物含む
137	5.7*	0.7*	1.00	(廃棄)土坑	第2面	17C後	第2面	灰・瓦多包
138	1.2*	0.6*	0.09	溝	第2面	17C前	第3面	側溝。灰含む
139	0.6*	0.6	0.15	小穴	第2面		第2面	掘方明瞭
140	0.7*	0.6	0.24	小穴	第2面	17C中	第2面	掘方明瞭
141	0.5	0.4	0.09	小穴	第2面		第2面	掘方明瞭
142	0.9	0.2*	0.15	土坑(灰溜)	第2面		第2面	灰を充滿。大半欠損
143	2.3	1.1*	0.74	土坑	第2面	17C前、17C中	第3面	壁垂直に立上る。粘性欠く。褐色砂質土堆積
144	0.9*	0.1*	0.08	土坑(灰溜)	第2面		第2面	大半が143土坑に切り込まれる
145	0.7	0.7	0.13	小穴	第2面		第2面	規模の割りに遺物量多い
146	1.2*	1.0	0.07	土坑	第2面	17C前	第3面	掘方浅い。底部平坦
147	1.9	0.9	0.23	小穴	第2面		第2面	掘方明瞭
148	1.9	0.7*	0.29	土坑	第2面	17C末～18前	第2面	底面・壁面不整
149	0.5	0.5	0.06	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
150	0.4	0.3	0.04	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
151	0.7	0.6	0.05	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
152	0.7	0.6	0.07	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
153	1.4	1.0	0.36	土坑	第2面	17C後、18C末～19C初	第2面	底部起伏あり
154	0.8	0.7	0.09	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
155	1.5	0.5	0.05	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
156	0.5	0.3	0.05	瓦質材立遺構	第2面		第2面	瓦質板材を障壁状に立てる。現状掘方浅い。南面に煤付着。北面に縦溝入る
157	0.7	0.5*	0.15	小穴	第2面		第2面	灰充滿
158	1.6	1.1*	0.06	土坑	第2面		第2面	掘方浅い
159	0.6*	0.6	0.02	小穴	第2面		第2面	掘方浅い
160	1.1	0.6*	—	井戸	第1面	17C末～18C前	第2面	162埵列建物拡張時に検出。底末確認
161	2.1	0.6*	1.47	土坑(灰溜)	第1面	17C後	第2面	162埵列建物拡張時に検出。044土坑と同一。遺構時期は第2面
162	5.5	2.8	0.30	埵列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	床下面(貝・砂利敷)遺存良好。根太痕認められる。礎石遺存

遺構一覧表 2

主要遺物
陶器(堺/播鉢、京焼系/土瓶・行平蓋、丹波/德利)、磁器(肥前/染付鉢・青磁染付鉢、瀬戸美濃/端反碗)、瓦(道具瓦)、砥石、鉄滓
銅線
銅銭
陶器(備前、京焼系/土瓶(鍋))、磁器(肥前/白磁人形)、土師(焙烙)、ガラス、銅銭
磁器(肥前/蛇ノ目凹型高台皿、瀬戸美濃/端反小杯)、土師(焙烙)、瓦、煙管羅宇、銅銭
貿易(中国白磁/皿)、陶器(備前/大甕)、土師(湊甕・甕蓋)、瓦、埴、硯、壁土
貿易(中国染付/碗)、陶器(備前/甕)、土師(湊甕、皿)、瓦、砥石
陶器(備前/播鉢、瀬戸美濃/志野)、磁器(初期伊万里、産地不明)、土師(湊甕)、硯
貿易(中国青磁/皿)、陶器(肥前/刷毛目大鉢・京焼風平碗・呉器手碗・内野山窯系皿、丹波/德利・播鉢)、磁器(肥前/染付・一重網目碗・碗・青磁鉢・白磁碗・高台無袖皿・陶胎染付)、土師(湊甕、火鉢、焙烙、皿、人形)、瓦質(火消壺蓋、甕?)、瓦、鉄釘、サヌカイト(火打石)
磁器(肥前/染付碗)、瓦
陶器(京焼系)、土師(皿)、土師(ミニチュア碗)、瓦
陶器(肥前/京焼風・呉器手碗・内野山窯系碗)、磁器(肥前/染付碗・染付瓶)、土師(皿)、瓦質土器、瓦、火打石
陶器(丹波/甕・播鉢)、磁器(肥前/染付一重網目文碗)、土師(湊甕、焙烙)、瓦
貿易(中国染付/碗)、陶器(肥前/鉄絵皿、瀬戸美濃/志野皿)
貿易(中国染付、中国白磁)、土師(湊甕)、鉄釘
貿易(中国染付/皿、ベトナム?)、陶器(肥前/鉄絵鉢、備前/大甕・播鉢、産地不明/壺)、土師(湊甕、羽釜)、瓦、鉄滓
貿易(中国染付)、陶器(備前/甕)、磁器(肥前/染付碗・青磁天目碗)、土師(湊甕、皿)、瓦
貿易(中国染付)、陶器(瀬戸美濃/志野菊皿)、土師(湊甕、焙烙)、瓦、壁土、火打石(チャート)、レンガ
貿易(中国色絵/皿)、磁器(肥前/染付油壺・白磁碗・くらわんか)、土師(焙烙、皿)、瓦、羽口、電石、硯
貿易(中国染付/皿・蛸手碗・碗(輪花・龍文)、中国青磁/蓮弁文碗、ベトナム/長胴壺)、陶器(堺/播鉢・焼台、備前/斜目播鉢・播鉢・甕、京焼系/筒形碗・土鍋、京焼風鉢、瀬戸美濃/天目・志野袖皿・志野皿、丹波/播鉢・小壺(お園黒壺)・甕、肥前/鉢・染付皿・刷毛目文鉢・溝縁皿(砂目)・内野山窯系皿・内野山窯系碗・播鉢・碗・刷毛目鉢・刷毛目瓶(茶入)・小瓶・三島平鉢・鉄絵皿・京焼風陶器碗・染付碗・色絵水注・呉器手碗)、磁器(肥前/青磁皿・仏飯具・白磁菊皿・碗・染付碗(一重網目文・コンニャク判)・染付皿(蛇ノ目高台)・青磁碗・青磁天目形碗・白磁高台無袖碗)、土師(焙烙、皿、焼塩壺、焼塩壺蓋、湊甕、人形、火鉢)、瓦質(羽釜、鉢、火鉢)、瓦(U字溝材)、鉄釘、鉄板、煙管吸口、砥石、電石、龜山石、サヌカイト、漆喰、炉壁?、レンガ、ガラス、埴輪
磁器(瀬戸美濃/染付端反碗)、指輪
陶器(備前/甕)、磁器(肥前/青磁線香立)、瓦、銅銭、ボタン
貿易(中国白磁?/香炉)、陶器(備前/播鉢、肥前/甕)、磁器(肥前/染付碗)、瓦、鉄釘
陶器(肥前)、磁器(肥前/端反碗)、土師(湊甕)、瓦、ガラス小瓶、鉄滓?
磁器(肥前/染付碗)、瓦
土師、瓦(宝珠瓦)
土師(皿)、銅製品
陶器(瀬戸美濃/志野向付、肥前/瓶)、磁器(肥前/染付碗)、土師(火鉢、皿)、瓦、加工円盤、鉄釘
土師(十能)、瓦
陶器(肥前/三島平鉢)、磁器(肥前/碗・皿(高台無袖))、土師(皿、焙烙)、瓦
陶器(備前/大甕、肥前/砂目溝縁皿)、磁器(肥前/一重網目文碗・染付小杯)、土師(皿、十能)、火打石(サヌカイト)
瓦
貿易(中国染付、同安窯系皿、中国白磁)、陶器(備前/甕、肥前/皿)、磁器(肥前/白磁鉄軸掛分碗・染付碗)、土師(皿、大和型羽釜)、瓦質(火鉢、U字溝材)、瓦、鉄釘、火打石(サヌカイト)、砥石
貿易(中国青磁/蓮弁文碗、ベトナム/染付鉢)、陶器(堺/播鉢・焼台、京焼系/土鍋・筒形碗・平碗・丸碗・煎碗、瀬戸美濃/甕・壺・腰白壺・香炉・片口・灰釉片口・灰落、肥前/内野山窯系皿・呉器手碗)、磁器(肥前/染付碗・青磁染付碗・くらわんか皿・端反碗・染付皿・陶胎染付碗)、土師(湊甕・湊甕蓋、焙烙、皿、焔炉、風炉、蛸壺、甕)、瓦(井戸枠瓦?、特殊瓦、側溝用瓦)、ミニチュア杯台、鉄釘、羽口、埴埴?、鉄滓、電石、石臼、銅銭、煙管、火打石(チャート)、漆喰
土師(湊甕)
貿易(漳州、ベトナム/長胴壺)、陶器(丹波/播鉢)、磁器(肥前/染付瓶・染付碗)、土師(湊甕、皿)
貿易(中国染付)、陶器(備前/瓶、肥前)、土師(大和型羽釜)、瓦、壁土
瓦器(皿)、瓦
土師(湊甕、皿)、瓦
陶器(丹波/播鉢)、磁器(肥前/碗)、土師(大和型羽釜、羽釜、皿、風炉)、瓦、鉄滓、羽口
陶器(丹波/播鉢、肥前/呉器手碗)、磁器(肥前/青磁碗)、土師(焙烙、焼塩壺)、須恵器(杯蓋)
貿易(漳州)、陶器(備前/甕、肥前/溝縁皿)、土師(皿)、加工円盤、火打石(サヌカイト)
陶器(肥前/皿)、土師(湊甕、焙烙、焔炉)、瓦
貿易(中国五彩/皿、華南三彩/盤)、陶器(備前/鉢・皿・甕、肥前/刷毛目鉢・三島手碗・呉器手碗)、磁器(肥前/染付碗・くらわんか皿・染付瓶、色絵香油壺、白磁兎水滴)、土師(湊甕、大和型羽釜、柿袖灯明受皿、皿)、瓦質(火鉢)、瓦、鉄釘、火打石(サヌカイト)、砥石
陶器(丹波)
貿易(中国色絵/皿、清朝三彩/皿、ベトナム/甕(波状文))、陶器(堺/播鉢、備前/播鉢・甕・水注・灯明皿、京焼系/土鍋・土瓶、瀬戸美濃/四耳壺・水注形茶入・火入?・杉なり碗、丹波/播鉢、肥前/内野山窯系碗・刷毛目鉢・呉器手碗・京焼風)、磁器(肥前/染付碗・染付皿・陶胎染付香炉・染付瓶・染付仏飯具・色絵碗・青磁鉢)、土師(湊甕、皿、焙烙、火鉢、焼塩壺)、瓦質(羽釜)、瓦(鳥塗)、鉄釘、火打石(サヌカイト・チャート)、電石、砥石
貿易(中国染付/皿、朝鮮白磁、ベトナム/長胴壺)、陶器(備前/甕・播鉢、瀬戸美濃/壺・香炉・碗・蛤釉碗、丹波/播鉢、肥前/呉器手碗・刷毛目鉢・内野山窯系)、磁器(肥前/一重網目碗・染付皿(高台小)・染付碗・染付杯・色絵碗・染付瓶)、土師(湊甕、皿、焙烙、甕、十能、火鉢)、軟陶(銚子)、瓦質(瓦灯(火消壺蓋))、瓦、石(硯、石臼、砥石)、鉄滓、鉄釘、煙管
陶器(備前、上野・高取系/瓶)、瓦
陶器(備前/甕)、土師(皿)、瓦
磁器(肥前/染付碗(高台無袖))、土師(皿)
土師(皿)、平瓦
陶器(備前/大甕)、磁器(肥前/染付碗・色絵香油壺)、土師(湊甕、焙烙)、瓦、電石
陶器(丹波?、肥前/瓶)、土師(湊甕)、瓦
陶器(備前/播鉢・甕、瀬戸美濃/黄釉丸皿)、磁器(肥前/天目)、土師(湊甕)、瓦質(湊甕)、瓦、鉄滓
陶器(肥前/碗・皿)、土師(皿)、瓦
貿易(漳州)、磁器(肥前/染付碗)、瓦
土師
磁器(肥前/碗)、土師(大和型羽釜、羽釜、焙烙、焔炉)、瓦、鉄滓
貿易(中国白磁)、瓦
大瓦
貿易(中国白磁/端反皿)、土師(皿)、瓦
瓦
貿易(漳州/盤、景德/皿)、陶器(堺/播鉢、肥前/碗)、磁器(肥前/染付碗・白磁押皿)、土師(皿、羽釜)、瓦、火打石(サヌカイト)
貿易(中国染付)、陶器(備前/甕・播鉢・德利・瓶類、丹波/播鉢・甕、肥前/呉器手碗・砂目皿・鉢・三島平鉢・刷毛目鉢・水滴・内野山窯系)、磁器(肥前/染付皿・染付碗・青磁皿・一重網目文碗・三股青磁)、土師(湊甕、皿、羽釜、焼塩壺、焙烙、皿、小皿、人形)、瓦、埴、鉄釘、電石、サヌカイト
貿易(中国染付/碗・皿、景德鎮、中国青磁/菊皿、中国白磁/皿、中国黒釉/瓶?)、ベトナム/長胴壺)、陶器(備前/瓶・甕・播鉢、信楽?、丹波/播鉢、肥前/唐津(鉄絵鉢・灰釉碗・鉢・碗・皿・鉄絵向付)・瓶・呉器手碗)、磁器(肥前/染付碗・青磁碗・天目形碗)、土師(湊甕、大和型羽釜、焼塩壺蓋、皿、羽釜)、瓦質(甕)、瓦、砥石、瓦質鉢?、鉄釘、銅銭、石臼、壁土

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
163	4.3	3.0	—	埴列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	4辺確認。埴列掘方広め。貝層僅か残る
164	4.2	2.6*	0.18	埴列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	南辺以外確認。床下遺存状況悪い
165	3.5	3.2	—	埴列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	4辺確認。入口部広い。横長形状
166	4.0	3.3	—	埴列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	4辺確認。床下遺存状況悪い
167	4.1	3.0	—	埴列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	4辺確認。遺存状況悪い
168	0.7*	0.6	0.28	(廃棄)土坑	第3面		第2面	瓦片多包。焼土含む
169	1.1*	0.7	0.29	(廃棄)土坑	第3面		第2面	瓦片多包
170	1.0	0.9	0.22	土坑	第3面	16C末～17C第1四半	第2面	焼土含む。底部平坦
171	1.4	1.3	0.30	土坑	第3面	17C前、17C中	第3面	焼土含む。底部起伏あり
172	0.9*	0.6*	0.28	土坑	第3面	17C中	第3面	焼土・砂質土堆積。壁垂直に立上る
173	0.6	0.5	0.17	埋壘	第3面			砂質土堆積。底部抜かれている
174	0.7	0.7	0.37	埋壘	第3面		第3面	121溝に切り込まれる。上部に焼土・炭化物・砂質土堆積
175	0.6	0.5	0.30	小穴	第3面			壁垂直に立上る。掘方明瞭
176	1.0	0.8	0.06	小穴	第3面	17C前	第3面	掘方浅い
177	0.6	0.5	0.12	小穴	第3面			掘方明瞭
178	0.7	0.7	0.07	小穴	第3面			掘方浅い
179	0.7	0.4	0.07	小穴	第3面			不定形。掘方浅い
180	0.3	0.3	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
181	0.7*	0.6	0.17	小穴	第3面	16C代		壁垂直に立上る。掘方明瞭
182	0.4*	0.2*	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
183	1.0	0.4*	0.05	土坑	第3面			掘方浅い
184	0.6	0.3	0.08	小穴	第3面			掘方浅い
185	0.5	0.4*	0.04	小穴	第3面			掘方浅い
186	0.5	0.3	0.03	小穴	第3面			掘方浅い
187	5.5*	0.9*	0.20	土坑	第3面	17C前	第3面	壁垂直に立上る。南端浅い(0.10m)
188	1.2*	0.5	0.06	土坑	第3面	17C前	第3面	壁垂直に立上る。掘方浅い
189	2.2*	1.2*	0.14	土坑	第3面		第3面	底面・壁面不整
190	0.5	0.4	0.05	小穴	第3面	17C前	第3面	掘方浅い
191	1.4	0.6*	0.09	土坑	第3面			底面・壁面不整
192	2.0	1.8*	1.29	(廃棄)土坑	第3面	17C前、17C中	第3面	拳大礫充滿。瓦多包。遺物量コンテナ40箱
193	1.1	0.7	0.09	土坑	第3面			方形。掘方浅い
194	2.8	1.8	0.12	土坑	第3面	17C前、17C中	第3面	方形。掘方浅い
195	2.8	1.9	0.86	(廃棄)土坑	第3面	16C末～17C第1四半、17C後	第3面	136・137土坑に切り込まれる。遺物多い
196	0.8	0.6*	0.44	埋壘	第3面		第2面	壘下半のみ遺存。底部抜かれている
197	1.3	1.1	0.29	土坑	第3面			底部起伏あり
198	0.4	0.2	0.06	小穴	第3面			掘方明瞭
199	0.5	0.5	0.07	小穴	第3面			壁垂直に立上る。底部平坦
200	0.7	0.3*	0.18	土坑	第3面			壁垂直に立上る
201	0.5	0.4*	0.07	小穴	第3面			不定形。掘方浅い
202	0.3	0.3	0.07	小穴	第3面			掘方明瞭。断面播鉢状
203	1.5	1.1	0.10	土坑	第3面			掘方浅い
204	1.9	1.1	0.05	土坑	第3面	17C後	第2面	掘方浅い
205	1.2	0.4*	0.07	土坑	第3面			掘方浅い
206	0.5	0.4	0.30	小穴	第3面			壁垂直に立上る。底部起伏あり
207	0.8*	0.5	0.30	合壘	第3面	17C前	第3面	備前播鉢1/4破片伏せた湊賽2個体を合口
208	0.4*	0.3*	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
209	2.1*	1.1*	0.21	土坑	第3面	18C後	第1面	不定形。底面・壁面不整
210	1.3	0.6*	0.05	土坑	第3面			209土坑と一体か?
211	0.8	0.6	0.29	小穴	第3面	17C中	第3面	底面に礫あり。礎石?
212	0.5	0.3	0.04	小穴	第3面			掘方浅い
213	0.5	0.3	0.02	小穴	第3面			掘方浅い
214	0.4	0.2	0.03	小穴	第3面			掘方浅い
215	0.4	0.2*	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
216	1.9	0.9*	0.09	土坑	第3面		第1面	不定形。底面・壁面不整。掘方浅い。028井戸・473井戸と同一
217	0.6	0.5*	0.17	小穴	第3面			掘方明瞭
218	1.3	0.8*	0.42	(廃棄)土坑	第3面	17C前	第3面	瓦多包
219	1.2	0.4*	0.69	土坑	第3面			底面・壁面不整。掘方浅い
220	3.8	1.0*	—	硬質面	第3面			周囲より若干硬質
221	1.2	1.0*	1.27	土坑	第3面	16C代		掘方明瞭。断面播鉢状
222	0.3	0.3	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
223	0.6	0.4	0.05	小穴	第3面			掘方浅い
224	1.5	0.8*	0.02	土坑	第3面			掘方浅い
225	0.7	0.4*	0.30	土坑	第3面			灰混じり砂質土堆積
226	1.8	0.5	0.43	小穴	第3面			壁垂直に立上る
227	0.4	0.4	0.37	小穴	第3面			壁垂直に立上る。底部平坦
228	0.5	0.4*	0.03	小穴	第3面			掘方浅い
229	0.5	0.4	0.02	小穴	第3面			掘方浅い
230	0.7	0.2*	0.20	小穴(灰溜)	第3面			灰充滿。中間に炭化物層
231	0.8	0.4*	0.21	小穴(灰溜)	第3面			灰充滿
232	1.1	0.8	0.32	土坑(灰溜)	第3面	17C前	第3面	西半灰充滿・東半砂質土堆積。壁垂直に立上る
233	1.0	0.3*	0.13	土坑	第3面	17C前	第3面	232土坑に切り込まれる
234	0.9	0.8	0.33	土坑	第3面		第2面	灰若干。砂質土堆積
235	1.8*	1.1	0.20	土坑	第3面		第3面	掘方明瞭。砂質土堆積
236	0.6	0.3*	0.18	土坑(灰溜)	第3面	17C後	第2面	灰充滿
237	1.1*	0.9	0.42	土坑(灰溜)	第3面	17C後	第2面	灰充滿(砂質土含む)。掘方明瞭
238	0.8*	0.6	0.38	土坑(灰溜)	第3面		第2面	灰充滿。掘方明瞭
239	0.4	0.3	0.04	小穴	第3面			掘方浅い
240	0.3	0.3	0.02	小穴	第3面			掘方浅い
241	1.0	0.8	0.19	土坑(灰溜)	第3面	17C中	第2面	灰混じり砂質土堆積。断面播鉢状
242	0.7	0.3	0.23	小穴(灰溜)	第3面		第2面	灰混じり砂質土堆積。断面播鉢状
243	1.9	1.1	0.25	土坑	第3面	17C後	第2面	掘方浅い。瓦・壁土・拳大礫含む
244	1.1	0.9	0.41	土坑	第3面		第2面	灰混じり砂質土堆積。掘方明瞭。瓦・壁土含む
245	1.3	0.8	0.40	土坑(灰溜)	第3面		第2面	灰が柱状に堆積。周囲は砂質土
246	0.6*	0.3	0.19	小穴	第3面	17C末～18C初	第2面	不定形。漆喰・拳大礫含む
247	0.7	0.3*	0.04	小穴	第3面			大半欠損
248	0.8	0.6*	0.45	小穴	第3面			掘方明瞭

主要遺物
貿易(中国染付/碗, 中国青磁/碗, 中国白磁), 陶器(備前/播鉢), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 銅錢, 須惠器, サヌカイト
貿易(中国染付/皿, 景德・漳州, 中国白磁/皿, 中国褐釉/壺, 朝鮮/皿, ベトナム/長胴壺?), 陶器(備前/甕, 肥前/小杯, 鉄釉甕), 土師(湊甕, 皿), 瓦質(風炉), 瓦, 埴
陶器(備前/甕, 丹波(信楽)), 土師(湊甕, 羽釜), 瓦, 埴, 砥石?
貿易(中国染付), 陶器(備前/播鉢・甕・瓶, 瀬戸美濃/天目碗), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 埴, 壁土
貿易(中国染付/碗, 中国青磁), 陶器(備前/播鉢・甕, 瓶?), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿, 焙烙), 銅錢, 壁土
土師(湊甕), 瓦, 砥石
陶器(備前/播鉢・瓶・甕, 肥前/碗), 土師(湊甕, 皿, 火消壺), 瓦, 鉄釘
貿易(中国白磁/皿), 陶器(備前/播鉢・甕, 瀬戸美濃/天目碗), 土師(湊甕, 皿, 焔炉)
陶器(瀬戸美濃/天目碗, 肥前/灰釉碗), 土師(大和型羽釜), 瓦
貿易(中国染付/皿, ベトナム/長胴壺), 陶器(埴/播鉢, 備前/甕・瓶・播鉢, 瀬戸美濃/鉄釉天目碗, 肥前/鉄絵向付・碗・初期伊万里碗), 土師(湊甕, 皿, 大和型羽釜), 瓦, 鉄釘, 鉄片, 砥石, 壁土, 漆喰
貿易(中国青磁/香炉, 中国染付/碗), 陶器(瀬戸美濃/端反皿), 土師(湊甕, 皿)
貿易(中国染付/碗), 陶器(肥前/白釉碗), 土師(湊甕, 皿, 甕)
貿易(中国青磁/碗), 土師(焼塩壺)
貿易(中国染付/皿, ベトナム/鉢(蓋)), 瓦, 壁土
土師(皿, 焼塩壺蓋), 丸瓦, 羽口,
土師
陶器(備前/壺?)
貿易(中国染付/皿), 磁器(肥前/初期伊万里皿, 陶胎染付香炉), 土師(皿), 瓦, 埴, 壁土
陶器(瀬戸美濃/天目碗), 瓦
土師
瓦
貿易(中国染付/碗), 陶器(肥前/砂目皿), 土師(湊甕, 大和型羽釜, 鉢, 皿), 瓦質(火消壺蓋), 瓦, 火打石(サヌカイト)
陶器(肥前/碗), 瓦, 壁土
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前/鉢), 磁器(肥前/碗), 土師(皿)
貿易(中国染付/碗, 中国白磁/皿), 陶器(備前/播鉢), 瓦, 壁土
土師(大和型羽釜), 瓦
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕・播鉢, 丹波/播鉢, 肥前/刷毛目碗・灰釉碗), 磁器(肥前/染付碗・皿・染付小杯・染付皿・一重網目文碗・青磁碗), 土師(湊甕, 湊甕蓋, 皿, 焙烙), 瓦質(火鉢, 風炉?), 瓦(井戸椀瓦, 宝珠(鬼)瓦・鬼瓦, U字溝瓦), 甕石, 砥石, 鉄釘, 煙管
土師(皿)
貿易(中国染付/香合蓋・碗, ベトナム/長胴壺), 陶器(備前/甕・播鉢, 丹波/播鉢(ヘラ描き), 肥前/鉄絵(鉢・皿・向付)・鉢・灰釉碗・瓶・胎土目皿), 磁器(肥前/染付碗), 土師(皿, 焙烙, 羽釜, 焼塩壺), 瓦質(羽釜, 火鉢), 瓦, 鉄滓, 砥石
貿易(中国染付/皿・碗), 陶器(備前/甕・播鉢, 丹波/甕・大平鉢, 肥前/瓶), 磁器(肥前/染付碗・染付皿・三股青磁鉢), 土師(皿, 焼塩壺), 瓦質(火鉢, 甕), 瓦, 石臼
陶器(備前/播鉢・甕, 丹波/壺?), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿), 瓦(井戸椀瓦), 鉄滓, サヌカイト
貿易(中国染付/碗), 土師(皿), 瓦, 硯
土師
瓦
瓦
陶器(肥前/皿), 瓦
貿易(中国白磁/端反碗), 陶器(備前/播鉢), 土師(湊甕), 瓦
陶器(丹波/播鉢, 肥前/内野山窯系統), 磁器(肥前/染付碗・青磁碗), 土師(湊甕, 皿, 焙烙), 瓦
磁器(肥前/染付碗・型打(染付皿)), 土師(湊甕), 瓦, 羽口
貿易(中国染付/皿), 土師(皿)
陶器(備前/播鉢(斜目)), 土師(湊甕, 皿, 焼塩壺), 瓦質(瓦灯), 瓦
陶器(丹波/?甕, 肥前/刷毛目鉢), 磁器(肥前/染付筒形碗), 瓦, 漆喰
土師(皿), 瓦
陶器(丹波/播鉢), 磁器(肥前/一重網目文碗・青磁碗)
陶器(備前/甕)
土師(湊甕), 瓦
土師(焙烙), 瓦
貿易(中国染付/碗, 中国白磁/皿, タイ/壺), 陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/灰釉碗・志野丸皿), 磁器(肥前/白磁小杯), 土師(湊甕), 瓦
貿易(中国白磁/皿, 中国南方/壺), 陶器(備前/甕・瓶), 磁器(肥前/磁器染付碗), 瓦, 砥石, 瓦質鎌?
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕・壺, 瀬戸美濃/壺), 土師(播磨型焙烙), 瓦質(皿), 瓦, 壁土
磁器(肥前/染付碗)
磁器(肥前), 土師(湊甕)
土師(皿), 瓦, 砥石
軟陶(人形), 瓦
土師, 瓦
貿易(中国白磁/皿), 瓦
陶器(備前/甕・壺, 肥前/内野山窯系統・呉器手碗), 磁器(肥前/一重網目文碗・染付碗), 土師(播磨型焙烙, 焙烙), 瓦, 鉄滓, 炉壁?
貿易(中国青磁/蓮弁文碗), 陶器(肥前/鉄絵), 瓦質, 瓦
貿易(中国青磁/蓮弁文碗), 陶器(備前/甕), 磁器(肥前/青磁碗), 瓦質(火鉢・皿), 瓦
陶器(丹波/火入, 肥前/刷毛目碗), 磁器(肥前/一重網目文碗), 土師(皿), 瓦質(鉢・羽釜), 埴, 瓦, 漆喰
貿易(中国染付, 中国青磁/碗), 陶器(丹波/甕), 磁器(肥前/白磁碗), サヌカイト, 鉄製品
貿易(中国染付/皿(魚)), 陶器(肥前/内野山窯系統・壺), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, ヘソ皿, 皿), 漆喰, サヌカイト
貿易(中国染付/皿), 陶器(丹波/播鉢), 磁器(肥前/福寿宝文天目碗・青磁碗・染付皿・染付碗), 土師(湊甕, 焼塩壺), 漆喰
磁器(肥前/一重網目文碗), 土師(甕)
陶器(備前, 肥前/内野山窯系皿), 瓦質, 瓦, 壁土
土師(湊甕・焙烙), 瓦(U字溝材), 漆喰(壁土)
陶器(京焼系/鉄釉鍋, 備前/播鉢), 漆喰
陶器(肥前/呉器手碗・碗), 瓦, 漆喰
陶器(備前/徳利), 瓦質(鉢), 瓦, 石唐臼, 漆喰
陶器(備前/甕), 磁器(肥前/白磁皿), 瓦, 鉄滓, 漆喰

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
249	0.4	0.3	0.08	埋藏	第3面		第3面	甕下半のみ遺存
250	0.9	0.2*	0.03	小穴	第3面			掘方浅い
251	0.9	0.5	0.04	小穴	第4面			掘方浅い
252	0.3	0.3	0.10	小穴	第4面			掘方明瞭
253	0.4	0.2	0.12	小穴	第4面			断面播鉢状
254	0.4	0.3	0.07	小穴	第4面			掘方浅い。底部起伏あり
255	0.4	0.3	0.13	小穴	第4面	17C前		底面・壁面不整
256	0.9	0.4	0.12	小穴	第4面			壁垂直に立上る
257	0.3	0.3	0.17	小穴	第4面			掘方明瞭。柱穴状
258	0.3	0.3	0.16	小穴	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	掘方明瞭。柱穴状
259	0.3*	0.3	0.13	小穴	第4面			底部碗状
260	1.7	0.8	0.17	土坑	第4面			不定形。底部起伏あり
261	1.2*	0.9	0.42	土坑	第4面	19C前(第2四半)	第1面	028井戸の掘り残し。方形。掘方明瞭
262	1.0	0.7	0.29	土坑(灰溜)	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	灰充滿。166増列建物を取り込む
263	0.3	0.3	0.07	小穴	第4面			掘方明瞭。底部碗状
264	0.9	0.7	0.06	土坑	第4面			掘方浅い。底部平坦
265	1.2*	0.5*	0.18	土坑	第4面	16C代		方形。底面・壁面不整
266	0.4*	0.4	0.11	小穴	第4面			底部平坦
267	0.4	0.3	0.09	小穴	第4面			底面・壁面不整
268	6.1*	0.9	0.26	溝	第4面	17C前、17C中	第3面	通り側溝。壁面垂直に立上る。094溝とつながる?
269	1.0	0.9	0.07	土坑	第4面			方形。掘方明瞭・浅い
270	0.7	0.5	0.13	小穴	第4面			炭化物多包
271	0.3	0.3	0.02	埋藏	第4面	17C前	第3面	底部のみ遺存。小型
272	0.7*	0.6*	0.03	小穴	第4面			167増列建物切り込む。焼土充滿
274	1.0	0.8	0.40	土坑	第4面	17C中、18C後	第2面	方形。163増列建物切り込む。焼土含む。掘方明瞭
275	2.0	0.6*	0.31	(廃棄)土坑	第4面	18C末～19C初	第1面	方形とみられる。瓦多包
276	0.7	0.4	0.23	小穴	第4面			底面・壁面不整
277	0.9	0.5	0.07	小穴	第4面			掘方浅い
278	1.4	0.5*	0.80	(廃棄)土坑	第4面	16C末	第4面	279土坑に切り込まれる。焼土充滿。焼瓦多包
279	1.7*	1.5	0.90	(廃棄)土坑	第4面	17C前	第4面	163増列建物の廃棄土坑。焼瓦多包。底面に薄落込む
280	1.5	1.3	0.38	土坑	第4面			003井戸と同一。黄色砂質土(粗質)堆積
281	0.9	0.6*	0.50	土坑	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	不定形。底面・壁面不整。廃棄土坑?
282	0.8	0.8	0.17	小穴	第4面			壁面不整。底部起伏あり
283	0.6	0.5	0.15	小穴	第4面			壁面不整。底部平坦
284	1.6*	0.9	0.66	土坑	第4面	19C前(第2四半)、19C中	第1面	長方形。壁面垂直に立上る。底部平坦
285	0.5	0.4	0.16	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
286	0.4	0.4	0.30	小穴	第4面			壁面不整。断面播鉢状
287	1.4	0.7*	0.32	土坑	第4面	17C中、17C後	第2面	方形。壁面垂直に立上る。底部平坦
288	0.9	0.4*	0.12	土坑	第4面			不定形。掘方や浅い
289	0.4*	0.5	0.14	小穴	第4面			底面・壁面不整
290	0.7*	0.6*	0.08	土坑	第4面			掘方浅い。底部起伏あり
291	0.7	0.7	0.30	埋藏	第4面		第1面	甕下半のみ遺存
292	0.7	0.5	0.15	小穴	第4面			底部平坦。礎石の抜取穴?
293	0.5	0.4	0.18	小穴	第4面			掘方や浅い。礎石の抜取穴?
294	1.2	0.8*	0.55	(廃棄)土坑	第4面	19C前(第2四半)	第1面	方形。壁面垂直に立上る。底部平坦。上部に第2次世界大戦焼土のる
295	0.6*	0.6	0.19	小穴	第4面			不定形。底部起伏あり
296	1.6	1.0*	0.57	(廃棄)土坑	第4面	19C前(第2四半)	第1面	方形。瓦多包
297	0.5*	0.4*	0.25	小穴	第4面	16C代		不定形。壁面垂直に立上る
298	0.6	0.3*	0.22	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
299	2.0	1.8	—	礎石建物	第4面		第4面	163増列建物背後の建物。16cm角の柱材。南脇に通路
300	2.5*	2.0*	—	礎石建物	第4面		第4面	建物の全容不明。礎石やや小振り
301	1.3*	0.3*	0.28	増列建物	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	北西隅のみ確認。床下掘込む。礎石あり
302	4.4*	2.8*	—	礎石建物	第4面		第4面	礎石に大小あり。16cm角の柱材。301増列建物の母屋?
303	0.3	0.3	0.15	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
304	1.2	0.9*	0.06	土坑	第4面			掘方浅い。壁面不整
305	0.5	0.4	0.13	小穴	第4面			掘方比較的明瞭。底部平坦
306	1.4*	1.0	0.26	土坑	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	長方形。底面・壁面不整
307	0.3	0.2	0.09	小穴	第4面			掘方浅い
308	0.4	0.3	0.08	小穴	第4面			掘方浅い
309	0.8	0.5*	0.05	小穴	第4面			掘方浅い。底部平坦
310	0.5*	0.4	0.08	小穴	第4面			底面・壁面不整
311	0.6*	0.4*	0.09	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
312	0.7*	0.3*	0.08	小穴	第4面			底部起伏あり
313	0.3	0.2	0.18	小穴	第4面			底面・壁面不整
314	0.9	0.6	0.10	小穴	第4面			底面・壁面不整。底面に小礫分布
315	1.2*	0.6*	0.10	土坑	第4面			掘方浅い。底部平坦
316	0.5	0.5	0.18	埋藏	第4面			甕下半のみ遺存。底部抜かれている
317	2.0	0.8	0.09	土坑	第4面		第4面	長方形。底部起伏あり
318	0.7	0.6	0.14	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
319	1.0*	0.6	0.12	土坑	第4面	17C前	第3面	底部平坦。壁面不整
320	0.7	0.6	0.24	土坑	第4面	16C代		掘方明瞭。底部碗状
321	1.6*	1.2	0.19	土坑	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦
322	2.4*	0.8*	0.82	(廃棄)土坑	第4面			瓦を中心に遺物出土。大きさに比して遺物量少なめ
323	0.4	0.4	0.40	小穴	第4面			壁面垂直に立上る。底部平坦・断面碗状
324	0.3	0.3	0.12	小穴	第4面			底面・壁面不整。柱穴状
325	1.7*	0.8	0.09	土坑	第4面			不定形。掘方浅い
326	0.6	0.6	0.52	小穴	第4面			2段掘り状。上半断面播鉢状・下半柱穴状
327	1.2	0.7	0.06	土坑	第4面			不定形。掘方浅い
328	0.4	0.4	0.09	小穴	第4面			底面中央に礫あり。礎石?
329	0.4	0.4*	0.17	小穴	第4面			底面・壁面不整
330	0.4	0.4	0.24	埋藏	第4面	17C後	第2面	甕上半逆位に設置。土師質皿等重なって出土
331	0.8	0.7	0.25	土坑	第4面	17C後	第2面	壁面垂直に立上る
332	1.7	1.3	0.26	土坑	第4面	17C後	第2面	方形。底部起伏あり。壁面不整
333	1.0	0.7*	0.14	土坑	第4面			掘方や浅い。焼土含む
334	0.4	0.3	0.16	小穴	第4面			不定形。底部起伏あり

主要遺物
土師(湊甕), 瓦, 鉄釘, 壁土
貿易(中国染付/碗), 土師(皿), 加工円盤
土師(湊甕)
陶器(肥前/灰釉碗)
陶器(肥前/鉄絵), 土師, 鉄釘
貿易(中国染付/皿), 陶器(瀬戸美濃/織部), 瓦
瓦
貿易(中国染付/碗), 土師(湊甕, 鉢), 瓦
陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/灰釉皿, 丹波/播鉢, 肥前/鉄絵), 土師(火鉢), 瓦質(火鉢), 瓦
陶器(瀬戸美濃/志野), 土師(皿), 瓦
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前), 土師(湊甕), 瓦器(碗), 鉄釘
貿易(中国染付/皿・碗, 中国白磁/碗), 陶器(備前/甕・瓶・播鉢・大平鉢, 瀬戸美濃/天目, 丹波/播鉢, 肥前/皿・碗), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕蓋(朱塗), 皿, 焼塩壺, 羽釜, 焜炉), 瓦質(火舎), 瓦, 埴, 鉄釘, 土錘, 銅製品, 羽口
陶器(備前/播鉢), 土師(皿)
瓦, 埴
陶器(肥前/皿), 土師(湊甕, 皿), 須恵器
貿易(中国色絵/碗), 陶器(備前/壺・播鉢, 京焼系/土瓶, 瀬戸美濃/茶入, 丹波/甕, 信楽/甕), 磁器(肥前/磁器碗・染付碗・小広東碗), 瓦質(火鉢), 瓦
陶器(堺/播鉢, 京焼系/丸碗・土鍋・土瓶蓋・土瓶, 産地不明/灯明具), 磁器(肥前/染付碗・丸窓文碗・扇文皿・染付蓋), 土師(湊甕, 皿, 焙烙, 人形, さな), 軟陶(灯明皿, 火入, 焜炉), 瓦, 埴塙?, 炉壁?, 鉄釘, 鉄滓, 硯, 電石, 漆喰
瓦
瓦
貿易(中国染付/芙蓉手), 陶器(備前/播鉢・甕, 瀬戸美濃/志野), 土師(湊甕, 皿, 鉢, 甕, 焼塩壺), 瓦質(鍋), 瓦(鬼瓦(桃)), 埴, 茶臼
陶器(備前/甕・大甕・播鉢, 瀬戸美濃/志野丸皿, 信楽/壺, 肥前/鉄絵皿, 伊賀), 土師(皿, 大和型羽釜), 瓦質(火舎, 播鉢), 瓦(鬼瓦), 埴, 壁土
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕), 瓦質(火舎), 瓦
陶器(備前/播鉢), 土師(皿)
土師(皿), 瓦
陶器(堺/播鉢・植木鉢, 備前/甕, 京焼系/灯明皿・灯芯押え・行平鍋蓋・土瓶, 肥前/呉器手碗), 磁器(肥前/白磁輪花鉢?・端反碗, 瀬戸美濃/染付端反碗), 土師(焜炉, 焙烙), 軟陶(乗燭, 鍋), 瓦質(焜炉), 瓦(軒丸瓦(刻印あり)), 電石, 銅線, 銅銭, 煙管, 鉄釘
陶器(備前/播鉢), 瓦
貿易(中国白磁/皿)
貿易(景徳/碗, 漳州/碗, 中国色絵/皿), 陶器(備前/瓶, 丹波/播鉢, 信楽/壺?, 肥前/灰釉碗・呉器手碗), 磁器(肥前/染付碗・墨彈皿), 土師(皿, 焜炉, 焙烙), 瓦, 電石
土師(皿), 瓦
瓦, 壁土
土師(湊甕), 瓦(鬼瓦?), 鉄釘, 銅銭
瓦
貿易(中国白磁/皿), 瓦
貿易(中国染付), 陶器(堺/播鉢, 備前/甕・播鉢, 京焼系/土瓶・灯明皿・土瓶蓋・土鍋蓋・丸碗・貫入小碗, 瀬戸美濃/天目碗・片口鉢・瓶, 肥前/瓶・皿), 磁器(肥前/染付碗蓋・染付広東碗・小広東碗・端反碗・碗・染付瓶), 土師(湊甕, 焙烙, 炬燵, 柿釉皿, 人形), 瓦(道具瓦), 埴, 電石, 鉄釘, 銅製品, 漆喰, 火打石(チャート), ミニチュア羽釜
瓦, 壁土
陶器(堺/植木鉢・播鉢, 京焼系/土鍋・土瓶・小杉碗・平碗・土瓶蓋・色絵端反碗, 瀬戸美濃/雑巾平碗・水鉢, 丹波/甕, 肥前/砂目皿・呉器手碗), 磁器(肥前/青磁染付碗・染付八字高台碗・染付筒形碗・染付広東碗), 土師(皿, 焙烙, 火鉢?, 人形(鳥居), 五徳, 火消壺蓋, 焜炉), 瓦(「南郷坊」銘軒丸瓦, 棧瓦), 埴, 銅銭, 銅線, 鉄包丁, 鉄滓, 骨製罨, 硯, 火打石(チャート), 漆喰
瓦
土師(湊甕), 瓦
陶器(備前/甕), 土師(湊甕), 瓦
土師(湊甕), 瓦
瓦
瓦
陶器(備前/甕), 土師(火鉢), 砥石
土師
鉄釘
土師(皿), 瓦, 鉄滓
土師(湊甕), 瓦
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕, 肥前/瓶), 土師(湊甕), 瓦
陶器(備前/甕・播鉢), 土師(湊甕), 瓦
陶器(信楽/水滴), 土師(湊甕, 焼塩壺, 焙烙), 瓦
貿易(中国染付, 漳州), 陶器(備前/瓶), 瓦
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前/甕・播鉢), 土師(湊鉢, 大和型羽釜, 焜炉), 瓦
貿易(中国染付/皿・碗), 陶器(備前/甕・播鉢・壺, 肥前/胎土目皿), 磁器(肥前/染付碗), 瓦
陶器(備前/播鉢), 瓦
土師, 瓦
陶器(肥前), 土師, 瓦, 壁土
土師(湊甕)
瓦
瓦
瓦
陶器(肥前/緑釉香炉・内野山窯系香炉・呉器手碗), 磁器(肥前/白磁猪口・一重網目文染付碗), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 土鈴, 鉄釘, 火打石(サヌカイト)
貿易(中国染付/皿), 陶器(丹波/播鉢), 磁器(肥前/白磁蛇ノ目釉鉢皿・白磁端反小杯・一重網目文染付碗・灯芯押え人形), 土師(湊甕, 皿, 焙烙), 瓦器, 鉄釘
貿易(中国染付/皿・方形皿?), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿, 焙烙, 十能), 瓦, 壁土, サヌカイト
瓦
瓦

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
335	0.8	0.7	0.57	埋藏	第4面	16C代	第3面	大型甕・下半のみ遺存。黄褐色粗砂質土堆積。遺物多い
336	0.4*	0.4*	0.13	小穴	第4面			底面・壁面不整
337	0.7	0.6	0.17	小穴	第4面			底面・壁面不整
338	0.6	0.6	0.13	小穴	第4面			底面・壁面不整
339	0.7	0.7	0.21	土坑(灰溜)	第4面			底面・壁面不整。灰充滿
340	1.1*	0.7*	0.30	土坑(灰溜)	第4面	17C中	第3面	底面・壁面不整。灰充滿
341	0.3	0.3	0.25	小穴	第4面			瓦堆積。底部平坦
342	0.7	0.7	0.32	土坑	第4面			底部平坦。壁面不整
343	0.5	0.4	0.08	小穴	第4面			底部平坦。壁面不整。掘方浅い
344	1.2*	0.6*	0.11	土坑	第4面	17C前	第3面	底部平坦。壁面不整
345	0.3	0.2	0.12	小穴	第4面			底部平坦。壁面不整
346	0.3	0.3	0.05	小穴	第4面			掘方浅い
347	0.5*	0.2	0.10	小穴	第4面			底部・壁面不整。灰含む
348	0.7*	0.4*	0.26	土坑	第4面			方形。底部起伏あり
349	1.7*	1.6	0.29	土坑	第4面	17C後	第2面	底面・壁面不整
350	5.8*	0.7	0.18	溝	第4面	17C中	第3面	通り側溝。壁面垂直に立上る。粗砂・砂質土堆積
352	0.9*	0.5	0.09	小穴	第4面			掘方浅い
353	0.4	0.3	0.05	小穴	第4面			掘方浅い
354	1.9	0.4	0.09	小穴	第4面			掘方浅い
355	0.7*	0.5	0.23	土坑	第4面	18C末～19C初	第1面	275土坑に切り込まれる。焼土多包した茶褐色土堆積
356	1.9	1.2	0.21	土坑	第4面			不定形。底部起伏あり。壁面不整
357	2.0	1.4	0.36	溝	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	側溝。不定形。焼土多包した茶褐色土堆積
358	1.0	0.7*	0.09	土坑	第4面			底面・壁面不整。掘方浅い
359	0.4	0.3	0.12	埋藏	第4面	17C中、17C後	第2面	底部のみ遺存
360	0.8*	0.3*	0.12	小穴	第4面			底部起伏あり
361	0.7	0.5	0.13	小穴	第4面			底面・壁面不整
362	1.5*	0.6*	0.15	(廃棄)土坑	第4面	19C前(第2四半)	第1面	壁面垂直に立上る。底部碗状。上部に第2次世界大戦焼土のる
363	1.0*	0.8*	0.58	土坑	第4面	17C前	第3面	不定形。焼土・焼瓦含む
364	1.8*	1.5*	0.58	土坑	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	方形。焼土多包した茶褐色土堆積。大きさに比して遺物量少ない
365	1.8	1.0*	0.16	土坑	第4面	17C前	第3面	方形。瓦多包
366	1.3	1.0*	0.61	土坑	第4面	17C前	第4面	方形。壁面垂直に立上る。焼土・焼瓦多包。164埴列建物の廃棄土坑?
367	0.6*	0.6	1.22	土坑(灰溜)	第4面	17C中、17C後	第2面	大半が調査区外。灰充滿
368	0.7*	0.7*	0.41	土坑(灰溜)	第4面	17C前	第3面	301埴列建物を切り込む。灰充滿
369	0.7	0.2*	0.09	土坑	第4面			301埴列建物を切り込む。焼土含む茶褐色砂質土堆積
370	0.6	0.3*	0.18	小穴	第4面			164埴列建物を切り込む。焼土含む茶褐色砂質土堆積
371	0.4	0.2*	0.19	小穴	第4面			164埴列建物を切り込む。焼土含む茶褐色砂質土堆積
372	0.3	0.2	0.21	小穴	第4面			164埴列建物を切り込む。焼土含む茶褐色砂質土堆積
373	0.7	0.5*	0.14	小穴	第4面	16C末～17C第1四半	第4面	底部起伏あり。黄色粘質土堆積
374	1.1*	1.1	0.22	(廃棄)土坑	第4面	17C中、17C後	第2面	162埴列建物切り込む。瓦多包
375	0.6*	0.5	0.09	小穴	第4面			163埴列建物切り込む。不定形
376	0.5	0.3	0.12	小穴	第1面			掘方明瞭
377	0.5	0.3	0.10	小穴	第1面			掘方明瞭
378	0.7	0.5	0.18	小穴	第1面			礫含む
379	0.3	0.3	0.12	小穴	第1面			掘方明瞭
380	0.8*	0.5*	0.05	小穴	第2面			不定形。掘方や浅い
381	0.3	0.3	0.05	小穴	第2面			掘方明瞭
382	0.6	0.2	0.16	小穴	第2面			掘方明瞭
383	0.5	0.4	0.10	小穴	第2面		第1面	底中央に礫あり
384	0.5	0.3	0.06	小穴	第2面		第1面	掘方明瞭
385	0.6	0.5*	0.05	小穴	第2面		第1面	掘方浅い
386	0.6	0.3	0.11	小穴	第2面			掘方明瞭
387	0.5	0.4*	0.11	小穴	第2面			掘方明瞭
388	0.5	0.4	0.07	小穴	第2面			掘方浅い
389	0.5	0.5	0.14	小穴	第2面			掘方明瞭
390	0.6	0.5	0.14	小穴	第2面			掘方明瞭
391	0.4	0.2	0.04	小穴	第2面			大半欠損
392	0.6	0.5*	0.17	小穴	第2面			掘方明瞭
393	0.6	0.5	0.12	小穴	第3面			掘方明瞭
394	0.6	0.4*	0.10	小穴	第3面			掘方明瞭
395	0.5	0.5	0.10	小穴	第3面			掘方明瞭
396	0.3	0.3	0.04	小穴	第3面			掘方浅い
397	0.5	0.3	0.04	小穴	第3面			掘方浅い
398	0.6	0.5*	0.07	小穴	第3面			掘方や浅い
399	0.6	0.2*	0.15	小穴(灰溜)	第3面			灰充滿
400	0.3	0.3	0.12	小穴(灰溜)	第3面			灰充滿
401	0.6	0.4*	0.10	小穴	第3面			掘方明瞭
402	0.4	0.4	0.42	埋藏	第3面		第3面	口縁部以下完形。瓦等出土遺物多い
403	0.7	0.5	0.10	小穴	第4面			掘方明瞭・浅い
404	0.3	0.3	0.13	小穴	第4面			掘方明瞭
405	0.5	0.3	0.08	小穴	第4面			掘方明瞭
406	0.3	0.1*	0.12	小穴	第4面			掘方浅い
407	0.7	0.3*	0.23	土坑	第4面			掘方明瞭
408	0.3	0.3	0.09	小穴	第4面			掘方明瞭
409	0.7	0.5	0.05	小穴	第4面			掘方浅い
410	0.3	0.1	0.04	小穴	第4面			掘方浅い
411	0.5	0.5	0.04	小穴	第4面			不定形。掘方浅い
412	0.7*	0.5	0.09	小穴	第4面			掘方浅い
413	2.0*	0.1*	—	埴列建物	第4面		第4面	北・西片の一部残るのみ。遺存状況悪い
414	5.4	2.8	—	埴列建物	第5面		第5面	162埴列建物の下層。4辺確認。埴掘方広い
415	4.0	2.4	—	埴列建物	第5面		第5面	4辺確認。埴掘方上に礎石並ぶ。貝敷広がる
416	3.8	2.2	—	埴列建物	第5面		第5面	3辺確認。埴の残り悪い。掘方内に礎石
417	4.3	2.6*	—	埴列建物	第5面		第5面	3辺確認。埴の残り悪い
418	3.0	0-3*	—	埴列建物	第5面		第5面	3辺確認。埴の残り悪い。入口広い
419	1.7*	0.9*	—	埴列建物	第5面		第5面	2辺・入口口確認
420	1.3*	0.8*	—	埴列建物	第5面		第5面	北西隅のみ確認。礎石あり
421	4.0*	0.5*	0.20	側溝	第5面		第5面	掘方肩に礫並べる。南が高い
422	0.9*	0.6	0.19	小穴	第5面			底面・壁面不整
423	1.2	1.0	0.49	土坑	第5面	16C後	第5面	壁面垂直に立上る。底部起伏あり
424	0.5	0.4	0.28	埋藏	第5面		第5面	甕下半のみ遺存
427	0.8	0.5	0.06	小穴	第5面			掘方浅い。覆土炭化物含む
428	0.7	0.6	0.32	埋藏	第5面	16C後	第4面	甕下半のみ遺存。西の一部が崩れた状態で埋没

主要遺物
貿易(中国染付, 中国白磁, 窯道具(ハマ)), 陶器(備前/甕, 瀬戸美濃/灰釉皿, 肥前/碗), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 鉄釘, 銅銭
陶器(備前/播鉢), 土師(湊鉢, 皿)
土師(鍋?)
土師(皿), 瓦
貿易(中国染付/皿, 中国青磁/皿), 磁器(肥前/三股青磁), 土師(皿), 瓦
瓦
陶器(備前/播鉢, 肥前/三島平皿), 土師(湊甕), 瓦質(湊甕), 瓦
陶器(肥前/碗), 土師(大和型羽釜), 瓦
瓦
陶器(鉄釉甕), 瓦
貿易(中国白磁/皿, ベトナム/長胴壺), 陶器(備前/播鉢), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 銅製品, 甕石, 漆喰
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前/瓶(ヘラ描き), 瀬戸美濃/天目, 信楽/壺, 肥前/片口, 産地不明/焼締甕), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿, 大和型羽釜), 瓦, 鉄滓, 鉄片, 壁土
瓦, 茶臼, 壁土
土師, 瓦, 壁土
瓦
陶器(信楽/甕?), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 鉄釘
瓦, 壁土
貿易(中国白磁/碗, 中国青磁), 陶器(備前/播鉢・茶入?), 土師(皿, 大和型羽釜), 瓦, 硯
瓦
貿易(中国染付/皿), 陶器(肥前/砂目皿), 土師(湊甕), 瓦, 煙管
貿易(ベトナム/長胴壺), 平瓦, 鉄釘, 壁土
陶器(堺/播鉢・お歯黒壺, 京焼系/山水土瓶, 産地不明/鉢), 瓦(棧瓦), ガラス蓋, 壁土
陶器(備前/播鉢・甕), 土師(皿), 瓦, 壁土
貿易(景德, 中国染付/碗, 中国白磁/皿, 朝鮮?), 陶器(備前/壺・瓶・甕・播鉢, 肥前/片口鉢), 土師(湊甕, 皿), 瓦, 埴, 鉄釘, 壁土
貿易(中国染付/碗, タイ/壺), 陶器(備前/播鉢・甕, 瀬戸美濃/天目・志野, 肥前/皿・碗), 土師(湊甕), 瓦質(羽釜), 瓦
陶器(備前/甕, 瀬戸美濃/壺?), 土師(焜炉), 瓦質(火舎), 瓦, 壁土
陶器(備前/壺?, 萩?), 磁器(肥前/染付皿), 土師(大和型羽釜), 瓦, サマカイト
陶器(備前/甕・播鉢, 丹波/播鉢), 埴
陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/志野), 瓦
貿易(中国?/壺), 陶器(肥前/瓶), 瓦
貿易(漳州/皿), 瓦
貿易(漳州/皿), 瓦
貿易(漳州/皿), 瓦
貿易(中国染付/皿, ベトナム), 陶器(備前/建水・甕), 磁器(肥前/染付碗), 瓦, 甕石, 鉄釘, 一石五輪
貿易(中国染付), 埴
瓦, 漆喰
陶器(京焼系/煎碗), 磁器(肥前/染付碗(見込み蛇ノ目)), 瓦
瓦
磁器(肥前/初期伊万里瓶), 土師(皿, 焙烙)
瓦
瓦
貿易(中国染付/小杯), 陶器(肥前/碗), 瓦
陶器(備前), 磁器(肥前/染付皿), 瓦
貿易(ベトナム/長胴壺), 陶器(備前/瓶), 土師(皿), 瓦
磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 皿)
陶器(瀬戸美濃?), 土師, 瓦
陶器(肥前/内野山窯系統), 磁器(肥前/染付碗)
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前/甕), 瓦
陶器(肥前/三島手), 瓦質, 甕石
瓦
貿易(中国染付/碗, ベトナム/長胴壺), 磁器(肥前/染付碗), 土師(皿, 焙烙)
陶器(肥前), 瓦
磁器(肥前/染付皿), 瓦, 銅銭
磁器(肥前/染付碗), 瓦
陶器(肥前/折縁皿), 瓦
瓦, 壁土
貿易(中国染付/碗), 陶器(肥前/皿), 土師(湊甕, 皿, 播磨型鍋)
陶器(備前/瓶, 肥前/呉器手碗), 土師(湊甕)
陶器(肥前), 磁器(肥前/染付碗)
陶器(備前/甕)
貿易(漳州/皿, 中国染付/碗・蓋), 陶器(備前/甕, 肥前/鉢・刷毛目皿・碗), 土師(皿), 瓦
貿易(中国染付), 陶器(瀬戸美濃/茶入, 肥前/溝縁皿・碗), 磁器(肥前/染付碗), 土師(湊甕, 焜炉), 鉄釘, 砥石, 銅銭
陶器(丹波/播鉢, 肥前/碗・皿・播鉢), 土師(皿), 瓦質(焜炉?), 瓦
磁器(肥前/碗), 土師(焙烙)
土師(湊甕), 瓦
瓦
陶器(備前/壺, 瀬戸美濃/天目?)
土師(鉢)
貿易(中国染付/皿, 中国白磁/皿, ベトナム/長胴壺), 陶器(備前/播鉢・甕・瓶・片口, 肥前/瓶), 土師(皿), 瓦, 鉄釘, 銅銭, 銅製品, 埴
貿易(中国染付), 陶器(備前/播鉢・瓶・片口・甕), 土師(湊甕, 湊鉢, 皿, 焜炉), 瓦質(羽釜, 片口, 皿), 瓦, 羽口, 鉄滓, とりべ, 銅銭, 鉄製品, 鉄釘, 壁土, 埴
貿易(中国青磁/碗, 中国染付/皿・碗, 中国黄釉/壺), 陶器(備前/甕・播鉢・小壺・瓶), 磁器(肥前), 土師(皿, 湊甕), 瓦質(火鉢), 瓦, 銅銭, 茶臼
土師(皿), 焜壁?
埴
陶器(備前/甕), 瓦質(羽釜), 瓦, 埴
貿易(中国青磁/碗, 中国染付, 中国?/壺), 陶器(備前/大甕・播鉢), 土師(皿), 瓦
土師(湊甕), 瓦, 銅銭
貿易(中国染付/碗・皿), 陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/天目, 丹波/大平鉢), 土師(大和型羽釜)
土師(湊甕)
陶器(備前/瓶), 土師(湊甕, 大和型羽釜), 瓦, 鉄滓

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
429	0.6	0.5	0.20	小穴	第5面	16C後	第5面	壁面垂直に立上る。底部起伏あり
430	0.4	0.3	0.36	小穴	第5面			壁面垂直に立上る。底部起伏あり
431	1.3	1.2	0.13	土坑	第5面	16C後	第5面	壁面垂直に立上る。底部ほぼ平坦
432	0.6	0.4	0.05	小穴	第5面			掘方浅い。底部起伏あり
433	0.9	0.4*	0.19	土坑	第5面	16C後	第5面	468埋裏切り込む。壁面不整。底部平坦
434	1.3	1.1	0.40	土坑	第5面			433土坑切り込み、468埋裏に切られる。覆土炭化物含む
435	0.5*	0.5	0.18	小穴	第5面			壁面不整。底部平坦
436	1.6	0.7	0.24	土坑	第5面			435小穴切り込む。掘方明瞭
437	0.3	0.3	0.24	小穴	第5面			掘方明瞭。柱穴状
438	0.6	0.5	0.05	小穴	第5面			底面・壁面不整。掘方浅い
439	0.5*	0.5*	0.08	小穴	第5面	17C前	第3面	419増列建物切り込む。底部起伏あり
440	0.7	0.5	0.10	小穴	第5面		第4面	底面・壁面不整。掘方浅い
441	1.7	0.6	0.18	土坑	第4面	16C末	第4面	162増列建物切り込む。底部起伏あり
442	0.4	0.4	0.08	小穴	第5面			掘方明瞭・浅い
443	0.5	0.4	0.13	小穴	第5面	17C前	第4面	底面・壁面不整。底部起伏あり
444	0.3	0.3	0.09	小穴	第5面			417増列建物切り込む。掘方浅い
445	0.5	0.5	0.10	小穴	第5面			底面・壁面不整。掘方浅い
446	2.0	1.4	0.27	土坑	第5面	16C後	第5面	不定形。掘方明瞭。底部起伏あり
447	0.8	0.7	0.33	土坑	第5面	17C前	第4面	焼土多包。壁面垂直に立上る。底部起伏あり
448	0.9	0.7	0.31	土坑	第5面			焼土含む。壁面垂直に立上る。底部起伏あり
449	0.6	0.4*	0.17	小穴	第5面			底面・壁面不整
450	1.0	0.4*	0.23	土坑	第5面	16C後	第5面	断面播鉢状。壁面やや不整
451	0.9	0.8	0.25	土坑	第5面			断面播鉢状。壁面やや不整
452	1.8*	1.4*	0.19	土坑	第5面	16C後	第5面	不定形。焼土含む。底部平坦
453	1.2	0.7	0.28	土坑	第5面			447土坑切り込む
454	0.6	0.5	0.30	土坑(雨落?)	第5面			平行並べの丸瓦2枚を4段重ね、上辺を拳大礫で囲い、平瓦1枚立てる。453土坑に切れ、447土坑を切り込む
455	0.3	0.3	0.16	小穴	第5面			底部平坦
456	0.4	0.3	0.18	小穴	第5面			底部平坦
457	0.3	0.3	0.12	小穴	第5面			底部平坦
458	0.4	0.4	0.07	小穴	第5面			掘方浅い。底部平坦
459	0.5	0.3	0.22	小穴	第5面			底部平坦
460	1.2	0.4	0.07	土坑	第5面			掘方浅い。底部平坦
461	0.5	0.4	0.11	小穴	第5面			壁面垂直に立上る。底部ほぼ平坦
462	0.4	0.3	0.18	小穴	第5面			底部起伏あり
463	0.7	0.5	0.20	土坑(雨落?)	第5面			拳大礫充填
464	0.4	0.2*	0.17	小穴	第5面			断面播鉢状
465	0.5	0.4*	0.19	小穴	第5面			底面・壁面不整
466	1.4	0.9	0.15	土坑	第5面	17C前、17C後	第2面	底面・壁面不整。332土坑の下部?
467	0.7	0.5	0.06	小穴	第5面			掘方浅い
468	0.8	0.6	0.32	埋裏	第5面		第4面	甕下半のみ遺存。上半は内部に落ち込む
469	2.1	1.9*	0.17	土坑	第5面	16C後	第5面	上半焼土・下半炭化物多包。炭化物層硬化
470	1.2	1.0	0.11	土坑	第5面	16C中		焼土・炭化物含む。掘方浅い
471	0.5	0.2*	0.25	埋裏	第5面		第4面	甕下半のみ遺存。遺存状況悪い。底部抜かれている
472	0.6	0.1*	0.37	小穴(雨落?)	第5面			拳大礫充填
473	2.8	2.7	—	井戸	第5面	19C前(第2四半)	第1面	028井戸(216土坑)の掘り残し。壁面垂直に立上る。黄色系砂質土堆積。T.P.1.83mで底面
474	1.0*	0.2	0.23	溝(状遺構)	第5面			壁面垂直に立上る。掘方明瞭
475	4.8*	3.6*	—	礎石建物	第5面		第5面	大型礎石あり。配列不明瞭。20cm角の柱材?
476	2.8*	1.6*	—	礎石建物	第5面		第5面	配列やや不明瞭。20cm角の柱材
477	3.2	3.0	0.20	埋裏	第5面		第4面	甕下半のみ遺存
478	0.9*	0.7	0.12	小穴	第6面			掘方浅い。底部起伏あり
479	0.4	0.3	0.06	小穴	第6面		第6面	掘方明瞭・浅い
480	0.8	0.4	0.28	小穴	第6面			南半で1段下がり柱穴状
481	0.4	0.4	0.07	小穴	第6面		第6面	底面・壁面不整
482	0.4	0.3	0.12	小穴	第6面		第6面	掘方明瞭・浅い
483	0.2	0.2	0.30	小穴	第6面		第6面	柱穴状
484	0.4	0.4	0.21	小穴	第6面		第6面	掘方明瞭
485	0.3	0.3	0.12	小穴	第6面			掘方明瞭
486	0.5	0.4	0.25	小穴	第6面			掘方明瞭
487	1.1*	0.9	0.24	土坑	第6面	16C前、16C中	第6面	方形。壁面垂直に立上る。底部ほぼ平坦
488	1.3	1.2	0.10	土坑	第6面		第6面	不定形。焼土含む
489	1.1	1.0	—	井戸	第6面	17C前	第4面	方形。壁面垂直に立上る。底未確認。下部は682井戸
490	0.3	0.3	0.08	小穴	第6面			底面・壁面不整
491	0.6	0.6	0.10	小穴	第6面			底面・壁面不整。掘方浅い
492	0.4	0.3*	0.16	小穴	第6面			掘方明瞭
493	0.7	0.6	0.14	小穴	第6面			底面・壁面不整
494	0.7	0.7	0.16	小穴	第6面			底面・壁面不整。断面碗状
495	1.4	1.0	0.75	井戸	第6面	17C末～18C第1四半	第2面	ややオーバーハングする。瓦多包。湧水著しい。T.P.1.4mで底面
497	0.6*	0.3	0.13	小穴	第6面			底面・壁面不整
498	0.6	0.6	0.14	小穴	第6面			掘方明瞭
499	1.5	0.9*	0.34	土坑	第6面	16C後	第5面	長方形。焼土多包。壁面垂直に立上る
500	0.6	0.3*	0.07	小穴	第6面			壁面垂直に立上る。底部平坦
501	2.3*	1.0	0.18	溝	第6面	17C前	第6面	357溝の前側溝。底面に人頭大礫分布。底部起伏あり
502	0.3	0.3	0.25	小穴	第6面			柱穴状
503	0.5	0.4	0.17	小穴	第6面			掘方明瞭
504	0.2	0.2	0.21	小穴	第6面			柱穴状
505	0.5	0.5	0.32	小穴	第6面			掘方明瞭
506	0.7	0.2	0.13	小穴	第6面			底面・壁面不整
507	0.6	0.6	0.27	小穴	第6面			掘方明瞭。底部平坦
508	0.6	0.5	0.21	小穴	第6面			掘方明瞭。底部平坦
509	0.8	0.6	0.15	小穴	第6面			底面・壁面不整
510	1.6*	1.2	0.70	井戸?	第6面		第6面	下半に人頭大礫充填。湧水著しい。T.P.1.55mで底面
511	0.3	0.2	0.16	小穴	第6面			底面・壁面不整
512	1.2	0.6	0.19	土坑	第6面			底面・壁面不整
513	0.2*	0.2	0.23	小穴	第6面			柱穴状
514	0.4	0.2	0.07	小穴	第6面			底面・壁面不整
515	0.9	0.3	0.07	小穴	第6面			壁面不整。底部平坦
516	3.0*	1.0	0.03	土坑	第6面		第6面	不定形。焼土多包
517	2.1	1.9	0.12	焼土域	第6面		第6面	556焼土域とともに被熱面(硬化)なす。
518	1.3	1.3	0.21	(廃棄)土坑	第6面	16C後	第5面	上に281土坑(第4面)が重なる。天正被災面の廃棄土坑?
519	1.9	1.8	—	焼土域	第6面		第6面	厚5cm程の硬化焼土面。炭化物含む

主要遺物429
貿易(中国染付/碗, 中国白磁/皿), 土師(湊甕), 瓦質(皿)
貿易(中国染付), 土師(湊甕), 瓦, 埴輪?
貿易(中国染付), 陶器(備前/丹波/播鉢), 土師(皿, 甕, 大和型羽釜), 瓦質(甕), 瓦, サヌカイト
貿易(中国染付), 陶器(備前/甕), 土師(湊甕, 皿), 瓦
貿易(中国染付/碗), 陶器(備前/甕・播鉢), 土師(湊甕, 皿, 焙烙, 大和型羽釜), 瓦(井戸椀瓦?)
陶器(肥前/碗), 土師(人形)
貿易(中国染付/碗), 陶器(肥前/刷毛目鉢), 磁器(肥前/染付碗・染付瓶), 瓦, 漆喰
瓦, 漆喰
貿易(中国染付), 陶器(備前/播鉢, 肥前/碗, 産地不明), 土師(皿), 瓦, 鉄釘
陶器(備前/大甕), 瓦, 鉄釘
貿易(中国染付), 陶器(備前/大甕・甕・瓶・壺, 丹波/播鉢(一本播目), 肥前/鉢・碗), 瓦
陶器(丹波/播鉢)
貿易(中国白磁/皿, 中国青磁), 瓦
貿易(中国染付, 中国褐釉), 陶器(備前/大甕・播鉢, 肥前/鉄絵皿・砂目皿), 土師(湊甕(玉縁), 皿), 瓦, 砥石, 鋳型?
貿易(中国染付, 中国白磁), 陶器(備前/瓶, 肥前/瓶), 土師(湊甕, 皿)
土師
貿易(中国白磁/皿), 陶器(備前/壺, 瀬戸美濃/天目), 土師(湊甕, 皿, 羽釜)
貿易(中国青磁/碗, 中国白磁/皿), 陶器(備前/大甕・壺), 土師(皿, 火舎?, 火鉢), 銅銭
陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/皿), 瓦
土師(人形), 瓦
土師(皿), 埴, 壁土
土師(湊甕), 瓦
土師(皿), 瓦
瓦
貿易(中国青磁/碗), 陶器(備前/片口), 土師(皿)
陶器(肥前/碗), 土師(大和型羽釜), 瓦
土師(皿), 壁土
陶器(備前/播鉢・大平鉢, 丹波/播鉢), 土師(湊甕, 皿), 瓦質(角火鉢), 瓦
貿易(中国染付), 陶器(備前/播鉢・甕), 土師(湊甕)
貿易(中国染付), 陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃), 土師(焔炉?), 鉄滓(大型有)
貿易(中国染付/碗), 土師(播磨型鍋), 瓦質(鉢)
陶器(備前/播鉢), 土師(羽釜), 瓦
貿易(ベトナム), 陶器(堺/播鉢・植木鉢, 京焼系/土鍋・行平・行平蓋・土瓶・鉢, 瀬戸美濃/植木鉢・赤絵端反小杯・緑釉植木鉢・染付端反碗・馬ノ目皿, 信楽/甕, 萩/ピラ掛け), 磁器(肥前/染付大皿), 土師(湊甕, 焙烙), 瓦(棧瓦, 刻印瓦, 井戸椀瓦), 電石, 鉄釘
羽口, 壁土
土師, 鉄製品
貿易(中国染付/皿), 土師, 瓦
磁器(肥前), 瓦
土師(皿, 焙烙)
瓦質
瓦
瓦質(鉢), 瓦
土師
陶器(備前/甕, 瀬戸美濃/皿), 土師(湊甕)
瓦質(甕(玉縁), 羽釜, 火鉢)
陶器(肥前/碗), 瓦(井戸椀瓦?)
陶器(丹波/甕), 瓦質(甕)
土師
陶器(瀬戸美濃/天目), 羽口
陶器(備前/壺), 土師(湊甕)
貿易(ベトナム/長胴壺), 陶器(堺/焼台, 備前/播鉢, 肥前/甕・刷毛目平鉢・内野山窯系碗・呉器手碗), 磁器(肥前), 土師(焙烙), 瓦(井戸椀瓦), 電石, 漆喰
瓦質(鉢)
瓦
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕・播鉢, 肥前/碗), 土師(甕(玉縁))
土師(甕(玉縁)), 平瓦
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/壺, 瀬戸美濃/黄瀬戸皿, 肥前/皿), 土師(皿, 大和型羽釜), 硯, 鉄釘, 鉄製品
瓦質, 土師
貿易(朝鮮/皿), 土師(羽釜, 甕)
陶器(備前/播鉢), 土師(甕), 瓦
瓦質, 瓦
瓦
陶器(備前/甕・大甕・壺), 土師(皿, 羽釜, 鉢), 瓦質(火鉢, 甕), 羽口, 鉄滓, 鉄釘, 石臼, 砥石
土師
陶器(備前/壺)
瓦質(火舎)
瓦質
陶器(備前/甕), 瓦質
土師, 瓦質(鉢), 鉄製品
貿易(景德/皿, 漳州/皿), 陶器(備前/甕), 土師(湊甕), 瓦, 壁土
埴

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
520	1.0	0.4*	0.07	小穴	第6面			底面・壁面不整。掘方浅い
521	0.8*	0.8	0.27	土坑	第6面			断面播鉢状。拳大礫・遺物多包。廃棄土坑?
522	0.5	0.3	0.03	小穴	第6面			掘方浅い
523	0.6	0.3	0.03	小穴	第6面			底面・壁面不整。掘方浅い
524	0.6	0.3*	0.06	小穴	第6面			掘方明瞭・浅い
525	1.2	0.3*	0.14	土坑	第6面			掘方明瞭。起伏あり。焼土多包
527	1.2	1.0*	0.69	井戸	第6面		第5面	方形。湧水著しい。T.P.1.6mで底面
528	1.9*	1.9	0.39	土坑	第6面			488土坑を切り込む。焼土充滿。底部平坦
529	0.7	0.5	0.20	埋壘	第6面			口縁部～胴上半を設置。胴下半抜かれている
530	5.0	3.8	—	埴列建物	第6面		第6面	遺存状況悪い。埴掘方・抜取溝4辺確認。556焼土域を若干埋めて構築
531	0.3	0.3	0.08	小穴	第6面			掘方浅い。断面播鉢状
532	1.8*	0.6	0.10	土坑	第6面		第6面	焼土充滿。溝状
533	0.8*	0.7*	0.08	土坑	第6面		第6面	焼土充滿。掘方浅い。底部平坦
534	1.7	1.1*	0.18	土坑	第6面		第6面	焼土充滿。掘方浅い。533土坑切り込む
535	2.1	1.1	0.34	土坑	第6面		第6面	焼土充滿。掘方浅い。536・534土坑に切り込まれる
536	0.9	0.5	0.13	土坑	第6面		第6面	掘方明瞭。535土坑切り込む
537	1.5	1.4	0.28	土坑	第6面		第6面	焼土充滿。底部起伏著しい。535土坑に切り込まれる
538	0.5*	0.2*	0.07	小穴	第6面		第6面	底面・壁面不整。掘方浅い。532・535・537土坑に切り込まれる
539	0.5	0.5	0.12	小穴	第6面			底面・壁面不整。掘方浅い
540	1.6	1.1	0.27	土坑	第6面	16C前、16C中	第6面	掘方明瞭。底部碗状
541	0.9	0.6	0.22	土坑	第6面			方形。掘方明瞭。底部起伏あり
542	1.7*	0.2	0.17	溝	第6面			壁面垂直に立上る。底部起伏あり
543	2.3	0.6	0.13	溝	第6面		第6面	長方形。掘方明瞭。底部平坦
544	0.5	0.4	0.09	小穴	第6面			底面・壁面不整
546	0.7	0.6	0.16	小穴	第6面			掘方明瞭。底部碗状
547	0.5	0.4	0.27	小穴	第6面			柱穴状。底部平坦
548	0.3	0.3	0.22	小穴	第6面			柱穴状。底部平坦
549	0.7	0.5	0.11	小穴	第6面			掘方明瞭
550	0.3*	0.2	0.05	小穴	第6面			底面・壁面不整。底部碗状
551	0.3	0.3	0.07	小穴	第6面			掘方浅い
552	0.3	0.3	0.11	小穴	第6面			掘方明瞭。底部碗状
553	0.5	0.4	0.12	小穴	第6面			柱穴状。底部平坦
554	0.6	0.5	0.17	小穴	第6面			掘方明瞭。断面播鉢状
555	0.3	0.3	0.16	小穴	第6面			柱穴状。底面に拳大礫
556	3.9	3.0	0.16	焼土域	第6面	16C中	第6面	被熱硬化面(厚5~10cm)。浅い掘方あり。530埴列建物に先行
557	0.3	0.3	0.10	小穴	第6面			柱穴状
558	0.2	0.2	0.01	埴列建物	第6面		第6面	遺存状況悪く北・東辺の一部のみ確認
559	0.9	0.5*	0.17	土坑	第6面	16C後	第5面	掘方明瞭。底部碗状
560	1.3	1.1	0.15	土坑	第6面			掘方明瞭。底部平坦
561	2.8	0.4	0.07	溝	第6面		第6面	区画溝。572溝と一体
562	0.4	0.3	0.15	小穴	第6面			掘方明瞭
563	0.5	0.4	0.30	小穴	第6面			掘方明瞭。底部平坦
564	1.8	1.2*	0.39	(廃棄)土坑	第6面	18C末~19C初	第1面	第1面検出攪乱の下部
565	1.8	1.4	0.16	土坑	第6面			南西部一段下がる。北部ならかに立上る
566	0.7	0.4	0.22	小穴	第6面			壁面垂直に立上る。底部平坦
567	0.5	0.4	0.23	小穴	第6面			壁面垂直に立上る。底部碗状
568	0.8	0.7	0.19	小穴	第6面			底面・壁面不整
569	0.5	0.5	0.19	小穴	第6面			底面・壁面不整。断面播鉢状
570	0.7	0.4*	0.11	小穴	第6面			底面・壁面不整
571	0.4	0.4	0.16	小穴	第6面			掘方明瞭
572	4.9*	0.5	0.15	溝	第6面	16C前、16C中	第6面	区画溝。561溝と一体
573	0.7	0.5	0.19	小穴	第6面			掘方明瞭。底部碗状
574	0.3	0.3	0.14	小穴	第6面			柱穴状
575	0.3	0.2	0.12	小穴	第6面			底部起伏あり。断面播鉢状
576	2.0	0.9	0.16	土坑	第6面	16C中	第6面	掘方明瞭。底部やや起伏あり
577	0.4	0.3	0.09	小穴	第6面			掘方浅い
578	1.7	1.1*	0.09	土坑	第6面			不定形。掘方明瞭・浅い
579	0.2	0.2	0.07	小穴	第6面			掘方明瞭・浅い
580	1.1	0.7	0.04	小穴	第6面			底面・壁面不整
581	3.2*	2.5*	—	礎石建物	第6面		第6面	配列一程度確認できるが全容不明
582	5.8*	5.0*	—	礎石建物	第6面		第6面	2棟の建物隣接している可能性あり
583	3.3*	2.2*	—	礎石建物	第6面		第6面	配列やや不明瞭。全容不明
584	3.5*	1.2*	—	礎石建物	第6面		第6面	配列やや不明瞭。全容不明
585	2.3*	0.8	0.15	溝	第7面		第7面	501溝(第6面)の前身側溝
586	1.4	0.3*	0.05	土坑	第7面			掘方浅い
587	0.4	0.4	0.20	小穴	第7面			底面・壁面不整
590	0.4	0.3	0.03	小穴	第7面			掘方浅い
591	0.5	0.4	0.10	小穴	第7面	16C末	第5面	掘方浅い
592	0.4	0.4	0.13	小穴	第7面			掘方浅い
593	0.2	0.2	0.05	小穴	第7面			掘方浅い
594	0.4	0.3	0.18	小穴	第7面			柱穴状
595	0.6	0.5	0.04	小穴	第7面			掘方浅い
596	0.4	0.4	0.25	小穴	第7面			掘方明瞭
597	0.6	0.5	0.09	小穴	第7面			掘方浅い
598	0.4	0.3	0.05	小穴	第7面			掘方浅い
599	0.4	0.3	0.06	小穴	第7面			掘方浅い
600	0.3	0.3	0.04	小穴	第7面			掘方浅い
601	0.5	0.3*	0.10	小穴	第7面			掘方浅い
602	0.6	0.4	0.11	小穴	第7面			掘方浅い
603	0.6	0.4	0.03	小穴	第7面			掘方浅い
604	0.4	0.4	0.17	小穴	第7面			掘方明瞭
605	0.3	0.3	0.02	小穴	第7面			掘方浅い
606	0.8	0.7	0.12	小穴	第7面			底面・壁面不整
607	0.5	0.4	0.12	小穴	第7面			底面・壁面不整
608	0.4	0.3	0.16	小穴	第7面			底面・壁面不整
609	0.5	0.5	0.11	小穴	第7面			掘方浅い
610	0.3	0.3	0.07	小穴	第7面			掘方浅い
611	0.4	0.2	0.06	小穴	第7面			掘方浅い
612	0.8	0.7	0.24	小穴	第7面	15C後	第7面	掘方明瞭
613	0.2	0.2	0.05	小穴	第7面			掘方浅い
614	0.7	0.4	0.26	小穴	第7面	16C中~後	第5面	底面・壁面不整

主要遺物
貿易(中国褐釉/四耳壺, 中国青磁/皿), 陶器(備前/甕・壺, 丹波/甕), 土師(大和型羽釜), 茶臼
陶器(備前/甕), 土師(湊甕)
貿易(中国褐釉/四耳壺), 陶器(備前/甕), 土師(湊甕, 羽釜, 鉢, 皿, 播磨型埴), 瓦質(鉢), とりべ, 羽口, 鉄滓
貿易(中国青磁), 陶器(備前/甕・壺), 磁器(肥前), 土師(湊甕, 播磨型埴), 瓦質(羽釜), 銅製品
瓦質(甕, 羽釜)
貿易(中国染付/皿), 陶器(備前/甕・壺), 土師(皿), 瓦質, 瓦, 埴
土師, 瓦質
陶器(備前/播鉢・壺), 土師(甕), 鉄釘
土師(皿), 瓦質(火鉢), 埴
貿易(中国染付/皿, 中国白磁/皿), 陶器(備前/甕), 土師(皿), 埴, 壁土
土師(湊甕), 埴
陶器(備前), 土師(皿)
埴
陶器(備前/播鉢), 土師(皿, 羽釜), 瓦質(風炉)
陶器(備前/甕), 瓦質
陶器(備前/甕・壺・皿), 土師, 瓦質, 瓦, 鉄滓
瓦質
瓦質
貿易(朝鮮?), 陶器(肥前), 土師(湊甕), 瓦
土師
貿易(中国染付/皿), 陶器, 土師(皿), 鉄釘
貿易(朝鮮白磁/皿, 朝鮮陶器), 陶器(備前/甕・壺・播鉢), 土師(湊甕, 皿, 羽釜), 瓦, 銅滓, 銅製品, サヌカイト, 壁土
土師(大和型羽釜)
貿易(中国染付/皿), 土師
土師, 羽口
陶器(埴/播鉢, 京焼系/片口, 肥前/刷毛目鉢), 磁器(肥前/染付端反碗, 染付皿), 瓦, 銅銭, 銅製品, 龜石, 漆喰
陶器(備前), 土師(皿), 瓦質(鉢・甕)
土師(皿), 瓦質(羽釜), 鉄滓
陶器(備前/播鉢), 土師(甕)
貿易(朝鮮/瓶?), 瓦
陶器(備前/甕, 瀬戸美濃/皿), 土師(湊甕, 播磨型埴), 瓦質(鉢, 火鉢)
陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/鉢), 土師(鉢, 皿), 鉄製品, サヌカイト
土師(甕(玉縁)), 瓦質(鉢), 埴輪
陶器(備前/甕), 土師(羽釜, 皿)
瓦質(皿)
五輪塔
貿易(中国白磁/皿)
陶器(備前/播鉢), 瓦質(甕, 皿), 土師(甕蓋, 皿), 瓦, 銅製品
陶器(備前)
陶器(備前/播鉢)
陶器(備前)
瓦
瓦
瓦, 壁土
備前
土師(甕)
土師, 瓦
土師(皿)
土師
貿易(中国染付/碗), 瓦質(羽釜)
陶器(肥前/皿), 土師(皿), 瓦

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構種	検出面	遺物年代	遺構面	遺構の特徴
615	0.9	0.6	0.32	小穴	第7面			底面・壁面不整
616	0.3	0.3	0.13	小穴	第7面	16C中～後	第5面	底面・壁面不整
617	1.5	1.0	0.25	土坑	第7面	16C中～後	第5面	掘方明瞭
618	1.0	0.7	0.14	小穴	第7面			掘方明瞭
619	0.4	0.3	0.10	小穴	第7面			掘方浅い
620	0.9*	0.3	0.04	溝(状遺構)	第7面			掘方浅い
621	0.9	0.4*	0.15	溝(状遺構)	第7面		第7面	622溝と一体で区画溝をなす?
622	1.1*	0.8	0.22	溝(状遺構)	第7面		第7面	621溝と一体で区画溝をなす?
623	0.8	0.4	0.19	小穴	第7面			底面・壁面不整
624	1.5	0.8	0.11	土坑	第7面			掘方浅い
625	0.8	0.6	0.02	埋鉢	第7面	17C前	第3面	埋鉢2個体を正位で重ねる
626	1.8*	1.3	0.23	土坑	第7面	17C前、17C中	第3面	625埋鉢切り込む。不定形
627	1.3	0.8	0.13	土坑	第7面	16C中	第7面	掘方浅い
628	0.5	0.4	0.07	小穴	第7面			掘方浅い
629	2.0	1.7	0.10	土坑	第7面	16C中	第7面	掘方浅い。681井戸切り込む・遺物巻き上がりの可能性あり
630	2.1	0.3	0.06	溝(状遺構)	第7面		第7面	区画溝の可能性
631	1.0	0.6	0.04	小穴	第7面			掘方浅い
632	0.8	0.7	0.19	小穴	第7面	15C後	第7面	拳大礫充填
633	0.4	0.3	0.14	小穴	第7面			底面・壁面不整
634	0.3	0.2	0.15	小穴	第7面			底面・壁面不整
635	0.3	0.2	0.09	小穴	第7面			掘方浅い
636	0.3	0.2	0.11	小穴	第7面			掘方浅い
637	0.5	0.4	0.06	小穴	第7面			掘方浅い
638	0.5	0.2	0.05	小穴	第7面			掘方浅い
639	1.1	0.9*	0.16	土坑	第7面	16C中	第7面	不定形。底面・壁面不整
640	0.5	0.4*	0.05	小穴	第7面			掘方浅い
642	0.6	0.2	0.03	小穴	第7面			掘方浅い
643	0.8	0.6*	0.16	土坑	第7面			不定形。底面・壁面不整
644	1.3	1.0	0.13	土坑	第7面	17C前	第3面	不定形。底面・壁面不整。095土坑の下部の可能性?
645	0.5	0.5	0.01	小穴	第7面			掘方浅い
646	0.9	0.8	0.06	土坑	第7面	17C前	第3面	掘方浅い。032土坑の下部の可能性?
647	2.0	0.4	0.10	溝(状遺構)	第7面	16C前、16C中	第7面	区画溝の可能性。654溝と一体?
648	0.9	0.6	0.09	土坑	第7面			掘方浅い
649	0.3	0.3	0.02	小穴	第7面			掘方浅い
650	1.6	0.7*	0.11	土坑	第7面		第7面	焼土充填
651	0.4	0.3	0.14	小穴	第7面			底面・壁面不整
652	1.6	0.7	0.36	土坑	第7面		第7面	677土坑と一体。掘方明瞭。焼土含む
653	0.5	0.3	0.04	小穴	第7面			掘方浅い
654	3.7*	0.7	0.30	溝	第7面	16C中	第7面	区画溝。底面に杭痕直列。東壁沿いに木板痕
655	1.6	1.1	0.29	土坑	第7面			方形。掘方明瞭。底部平坦
656	0.6	0.4	0.10	小穴	第7面			掘方浅い
657	0.9	0.9	0.18	土坑	第7面		第7面	方形。4辺に木板痕。壁際に杭痕。繊維状有機物(炭化)底上にあり。木枠便所の可能性
658	0.6	0.5	0.17	小穴	第7面			掘方明瞭
659	0.6	0.4	0.19	小穴	第7面	16C中	第7面	掘方明瞭。底面に礫
660	1.0	0.9	0.20	土坑	第7面	第7面	第7面	方形。底面に杭痕。木枠便所の可能性
661	0.3	0.3	0.09	小穴	第7面			掘方浅い
662	2.1*	0.7	0.02	通路?	第7面			硬質面
663	2.1	0.4*	0.29	土坑	第7面			不定形。底面・壁面不整
664	0.5	0.5	0.26	埋鉢	第7面	16C末～17C第1四半	第4面	甕下半のみ遺存。本来は第4面からの掘方
665	1.5	1.4	0.33	土坑	第7面			掘方明瞭。底部平坦
666	0.3	0.3	0.08	小穴	第7面			掘方浅い
667	0.2	0.2	0.14	小穴	第7面			掘方明瞭。焼土含む
668	0.8	0.7	0.24	小穴	第7面			669焼土域切り込む。掘方明瞭
669	3.7	2.8	0.08	焼土域	第7面	16C中	第7面	不定形。浅い掘方あり。部分的に被熱硬化。器面発砲した中国染付皿
670	1.2	0.4	0.24	小穴	第7面			底面・壁面不整
671	0.7	0.5	0.18	小穴	第7面	16C中	第7面	掘方明瞭。底面に礫
672	0.4	0.3	0.16	小穴	第7面			掘方明瞭
673	0.4	0.3	0.11	小穴	第7面			掘方浅い
674	0.3	0.2	0.06	小穴	第7面			掘方浅い
675	0.4	0.3	0.14	小穴	第7面			柱穴状
676	0.5	0.2*	0.08	小穴	第7面			掘方浅い
677	1.8*	1.7*	0.29	土坑	第7面		第7面	652土坑と一体。掘方明瞭。焼土含む
678	0.5	0.2*	0.19	小穴	第7面	15C後	第7面	柱穴状
679	0.3	0.3	0.12	小穴	第7面			柱穴状
681	1.7	1.6	—	井戸	第7面	15C中	第7面	湧水著しく底未確認
682	0.8	0.7	—	井戸	地山面			489井戸(第6面)の下部。井戸椀瓦(1周10枚・内径68cm)。底部未確認。出土瓦被熱
683	2.8*	5.0*	—	礎石建物	第2面		第2面	配列一程度確認できるが全容不明
684	8.6*	4.8*	—	礎石建物	第2面		第2面	配列確認できる(東辺礎石直列)
685	—	—	—	地鎮遺構	近整II	17中～後	第1面	瓦質火鉢に土師皿2枚を入れ初期伊万里皿で蓋をし逆位にして近世整地土II形成時に埋める

*は現状値
在地製土師質土器・瓦質土器については「湊」と表記した
13, 273, 351, 425, 426, 496, 526, 545, 588, 589, 641, 680 欠番

主要遺物
陶器(備前/甕), 土師(皿), 瓦, 壁土
貿易(中国染付/碗), 瓦質
陶器(備前), 土師(湊甕), 瓦, 鉄滓
陶器(備前/播鉢), 土師(皿), 瓦質(皿)
土師, 瓦
貿易(中国白磁), 土師
瓦質, 壁土
陶器(備前/壺), 土師, 瓦質, 壁土
土師(皿), 瓦
陶器(備前/播鉢), 土師(甕), 瓦質(羽釜), 瓦
陶器(丹波/播鉢, 肥前/碗・皿), 土師(甕, 皿), 瓦, 羽口, 鉄釘
貿易(中国染付), 陶器(丹波/播鉢, 肥前/刷毛目鉢・播鉢・甕・碗), 磁器(肥前/青磁碗), 土師(皿, 甕, 大和型羽釜), 瓦
瓦質(鉢), 瓦
貿易(中国青磁/碗), 陶器(備前, 信楽/壺?), 土師(皿), 瓦質
土師(皿), 瓦質(釜)
土師(皿)
陶器(備前/播鉢・甕・壺, 丹波/甕), 土師(甕), 瓦質(花瓶), 瓦
瓦
土師(皿), 瓦
土師(皿), 瓦
貿易(中国染付/皿), 埴
瓦質(羽釜)
瓦
土師(皿), 瓦質(皿)
壁土
瓦質(皿, 鉢), 壁土
陶器(備前/播鉢, 瀬戸美濃/皿), 土師(皿, 鍋)
陶器(備前/播鉢), 瓦質(羽釜, 甕)
貿易(中国青磁/碗), 土師, 瓦質
瓦質(皿, 羽釜)
貿易(中国染付/碗), 瓦質(皿)
陶器(備前/甕), 瓦質, 瓦
陶器(備前/甕・壺)
貿易(漳州/皿), 陶器(備前/甕), 土師(大和型羽釜)
貿易(中国染付/碗), 土師(皿), 瓦, 鉄滓
瓦質
陶器(備前/播鉢), 瓦, 壁土
貿易(中国染付/小杯・皿), 陶器(備前/甕), 基石, 貝製双六駒, 硯
土師(羽釜, 皿), 瓦質(羽釜)
瓦質(皿, 羽釜)
瓦質, 壁土
瓦, 壁土
土師
陶器(備前)
瓦
貿易(中国染付/小杯・皿), 陶器(備前/甕), 基石, 貝製双六駒
瓦質(甕), 瓦
瓦質(皿, 羽釜)
貿易(中国青磁), 瓦, 壁土
磁器(肥前/初期伊万里皿), 土師(皿), 瓦質(火鉢)

遺物観察表 1

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
1	252	中世整地土Ⅲ	瀬戸美濃陶器皿	灰釉
2	619	中世整地土Ⅲ	瀬戸美濃陶器端反皿	灰釉 大窯1期
3	265	中世整地土Ⅲ	備前皿	灯明皿として使用
4	635	中世整地土Ⅲ	朝鮮王朝製陶器碗	全面灰釉施釉 見込み・高台に砂目痕 見込み渦状 混入の可能性あり
5	562	中世整地土Ⅲ	中国製白磁皿	見込み花文スタンプ 高台内朱描きあり
6	267	中世整地土Ⅲ	中国製青磁碗	外面蓮弁文 双魚文 高台内蛇の目状に釉剥ぎ
7	264	中世整地土Ⅲ	中国製磁器染付皿	見込み主取り獅子文 外面牡丹唐草文 小野皿B1群 景德鎮窯系
8	564	中世整地土Ⅲ	中国製磁器染付端反皿	見込みに玉取獅子文 外面唐草文 景德鎮窯系 小野皿B1群
9	580	中世整地土Ⅲ	中国製青磁碗	見込みに花文スタンプ 高台内無釉 上田青磁碗E類
10	579	中世整地土Ⅲ	中国製青磁碗	見込みに花文と双魚文スタンプ 高台内蛇の目状に釉剥ぎ 上田青磁碗E類 焼成悪く釉葉黄色
11	581	中世整地土Ⅲ	中国製青磁碗	見込みに格子文スタンプ 高台内蛇の目状に釉剥ぎ 上田青磁碗B類
12	561	中世整地土Ⅲ	肥前磁器染付碗	内面蓮文 外面芭蕉文 景德鎮窯系 小野皿C1群
13	951	中世整地土Ⅲ	瀬戸美濃陶器大皿	灰釉 内底面砂目痕2箇所
14	607	中世整地土Ⅲ	瀬戸美濃陶器大皿	灰釉 外面底部に墨書 内面目痕2箇所有り 古瀬戸後期様式Ⅳ期 被熱痕有り
15	563	中世整地土Ⅲ	中国製軟質施釉陶器瓶	外面は緑釉 内面・底部は無釉 体部を段継ぎ 中国華南産
16	248	中世整地土Ⅲ	備前壺	肩部に波状文
17	253	中世整地土Ⅲ	備前壺	底径14.4cm
18	244	中世整地土Ⅲ	備前播鉢	播目単位7本以上 乗岡中世5期
19	243	中世整地土Ⅲ	備前播鉢	播目単位7本 乗岡中世5期
20	842	中世整地土Ⅲ	常滑壺	13~14c?
21	968	中央トレンチ南 深掘り	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.5cm
22	269	中世整地土Ⅲ	土師質土器皿	体部ユビオサ工後口縁部ナデ調整 ヘソ皿 口径7.6cm
23	965	中央トレンチ南 深掘り	土師質土器皿	ヘソ皿 口径8.4cm
24	247	中世整地土Ⅲ	土師質土器皿	体部ユビオサ工後口縁部ナデ調整ヘソ皿 口径8.6cm
25	257	中世整地土Ⅲ	土師質土器皿	体部ユビオサ工後口縁部ナデ調整 口径14.1cm
26	970	中央トレンチ南 深掘り	土師質土器皿	口径14.9cm
27	274	中世整地土Ⅲ	土師質土器皿	内面不定方向ハケ調整後口縁部横ナデ調整 口径6.6cm
28	271	中世整地土Ⅲ	瓦質土器皿	口縁端部内側に少し折り曲げる口縁部横ナデ調整 内面放射状ハケ調整 口径9.0cm
29	964	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器皿	内面丁字ハケ調整 口径9.7cm
30	963	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器皿	内面丁字ハケ調整 口径9.7cm
31	971	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器皿	内面丁字ハケ調整 口径11.0cm
32	266	中世整地土Ⅲ	土師質土器播鉢	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 粗い櫛目による播目 擦目6本単位
33	972	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器播鉢	外面ヘラ削り
34	268	中世整地土Ⅲ	瓦質土器播鉢	外面ヘラ削り
35	276	中世整地土Ⅲ	瓦質土器花瓶	外面スタンプ文 外面体部・頸部縦方向ミガキ 内外面口縁部横方向ミガキ 脚・体・頸部を接合
36	975	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
37	974	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
38	973	中央トレンチ南 深掘り	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
39	255	中世整地土Ⅲ	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
40	1038	681井戸	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径8.3cm
41	396	632小穴	瓦質土器花瓶	外面ミガキ 外面スタンプ文 底部・体部・口縁部を接合
42	465	612小穴	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
43	843	681井戸	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
44	844	681井戸	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部スス付着
45	849	632小穴	丹波甕	外面自然釉
46	549	669焼土域	中国製磁器染付小杯	口径6.4cm
47	548	669焼土域	中国製磁器染付小杯	口径7.5cm
48	540	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
49	545	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
50	542	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から底部無釉 小野皿C群
51	544	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
52	539	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
53	547	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 外面無文 碁筋底 外面底部際から底部無釉 小野皿C群 2枚敷着
54	546	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み華弁文 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群 2枚敷着
55	543	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み主取り獅子文 口鏤 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
56	541	669焼土域	中国製磁器染付皿	見込み主取り獅子文 口鏤 碁筋底 外面底部際から畳付まで無釉 底部内透明釉 小野皿C群
57	358	第7面焼土層	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径7.5cm
58	281	第7面焼土層	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径7.0cm
59	357	第7面焼土層	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径7.8cm
60	356	第7面焼土層	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.5cm
61	421	654溝	備前播鉢	乗岡中世5期
62	422	654溝	備前播鉢	乗岡中世6期
63	608	654溝	瀬戸美濃陶器丸皿	灰釉 全面施釉
64	870	654溝	土師質土器埴	外面平行タタキ 難波A類 十河A-V類
65	558	中世整地土Ⅱ	中国製白磁皿	底部に墨書「ニ」 見込みに重ね積みの高台痕4箇所
66	559	中世整地土Ⅱ	中国製白磁皿	灯明皿に転用 見込みに重ね積みの高台痕4箇所 口縁部灯芯痕有
67	557	中世整地土Ⅱ	中国製白磁皿	底部に墨書「○+」 見込み蛇の目釉剥ぎ
68	575	中世整地土Ⅱ	中国製青磁椀花皿	見込みスタンプ文
69	576	中世整地土Ⅱ	中国製青磁椀花皿	見込みスタンプ文
70	560	中世整地土Ⅱ	中国製白磁小杯	底部に墨書
71	1126	中世整地土Ⅱ	朝鮮王朝製陶器皿	灰釉 口径10.3cm・器高3.6cm・高台径4.5cm
72	556	中世整地土Ⅱ	中国製磁器染付碗	見込み蓮文 外面 小野皿D群Ⅳ類
73	577	中世整地土Ⅱ	中国製青磁碗	見込み花文スタンプ文 線描き蓮弁文 高台内無釉
74	605	中世整地土Ⅱ	瀬戸美濃陶器大皿	灰釉 内面目痕有 古瀬戸後期様式Ⅳ期
75	296	中世整地土Ⅱ	信楽甕	底径16.3cm
76	848	中世整地土Ⅱ	信楽壺	口径13.0cm
77	590	中世整地土Ⅱ	備前壺	るい座の様なもの肩に有り
78	282	中世整地土Ⅱ	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径6.4cm
79	283	中世整地土Ⅱ	瓦質土器ミニチュア羽釜	被熱により赤く変色
80	338	中世整地土Ⅱ	瓦質土器火鉢	3脚 外面ヘラナデ
81	278	中世整地土Ⅱ	瓦質土器火鉢	3脚 外面にスタンプ文 内面に使用時の様ラインあり 全体に被熱
82	287	中世整地土Ⅱ	瓦質土器花瓶	外面スタンプ文 底部・体部・口縁部を接合
83	279	中世整地土Ⅱ	瓦質土器鉢	内面ミガキ 外面ハケによるかきあげ 大和産か
84	468	中世整地土Ⅱ	瓦質土器火鉢	内面ヘラナデ 外面ヘラミガキ
85	317	中世整地土Ⅱ	土師質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 鋳部貼付
86	286	中世整地土Ⅱ	瓦質土器甕	外面平行タタキ 内面細かいハケ調整
87	354	556焼土域床上焼土層	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径6.0cm
88	351	556焼土域床上焼土層	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径6.2cm
89	355	556焼土域床上焼土層	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径7.7cm
90	360	556焼土域床上焼土層	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径7.5cm
91	352	556焼土域床上焼土層	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径8.0cm
92	353	556焼土域床上焼土層	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.6cm
93	959	556焼土域床上焼土層	備前皿	口径9.8cm

遺物観察表 2

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
94	394	510井戸	土師質土器皿	口径14.35cm
95	431	510井戸	備前壺	接合痕内面に赤色の付着物
96	432	510井戸	備前壺	口径13.7cm
97	433	510井戸	瓦質土器火鉢	外面ヘラミガキ
98	285	510井戸	備前四耳壺	口縁部から肩かけて厚く自然釉が掛かる 熱により表面焼け爛れている
99	866	521土坑	中国製青磁皿	口径24.0cm・器高6.2cm・高台径10.1cm
100	847	521土坑	丹波甕	外面自然釉
101	439	527井戸	中国製陶器四耳壺	外面褐釉 内面無釉 全面に被熱
102	628	573小穴	瀬戸美濃陶器鉢	灰釉 古瀬戸後期様式Ⅳ期端反
103	1079	543溝	土師質土器播鉢	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 櫛掻きの播目
104	440	543溝	備前水屋甕	口径29.5cm
105	586	中世整地土Ⅰ	備前皿	底部糸切痕 被熱痕跡有
106	950	中世整地土Ⅰ	瀬戸美濃陶器端反皿	全面灰釉施釉 大窯2段階
107	614	中世整地土Ⅰ	瀬戸美濃陶器端反皿	全面灰釉施釉 大窯2段階
108	609	中世整地土Ⅰ	瀬戸美濃陶器端反皿	全面灰釉施釉 高台内輪ドナ痕有 大窯2段階
109	634	中世整地土Ⅰ	朝鮮王朝製陶器碗	胎土が褐色を呈し、その上に灰釉が掛かる 砂粒の細かい小さな砂目痕有り
110	636	中世整地土Ⅰ	朝鮮王朝製白磁碗	見込みに目痕 胎土は軟質 全面施釉
111	632	中世整地土Ⅰ	朝鮮王朝製陶器皿	見込み渦を彫る 渦高台 粉引 全面に灰釉 灯明皿に転用 胎土目か
112	633	中世整地土Ⅰ	朝鮮王朝製陶器碗	全面施釉 灰釉か 全体に被熱が激しい
113	840	中世整地土Ⅰ	中国製磁器染付皿	見込み龍字文 内外面梵字文 碁筋底 口径10.4cm・底径2.8cm 小野皿C群Ⅱ類
114	552	中世整地土Ⅰ	中国製磁器染付皿	見込み十字花文 灯明皿に転用
115	573	中世整地土Ⅰ	中国製青磁碗	外面線描き蓮弁文 見込み花文スタンプ文 高台内無釉 上田青磁碗B類
116	603	中世整地土Ⅰ	瀬戸美濃陶器天目碗	鬼板の上から天目釉を掛ける 大窯3段階前半
117	574	中世整地土Ⅰ	中国製青磁碗	外面片切蓮弁文 内面片切彫り唐草文か 高台内蛇の目状に剥ぐ 上田青磁碗B類
118	318	中世整地土Ⅰ	丹波甕	外面自然釉厚く掛かる 長谷川甕B1類
119	588	中世整地土Ⅰ	備前鉢	口縁部にヘラ記号
120	687	中世整地土Ⅰ	中国製陶器双耳壺	外面黄釉 内面無釉 胎土精緻
121	660	中世整地土Ⅰ	中国製陶器壺	中国製か 外面ハケ調整(4本/1cm) 体部外面に鉄泥を塗る 胎土は赤褐色を呈す
122	686	中世整地土Ⅰ	中国製陶器五耳壺	黒釉 外面焼成時に発泡し煎餅状
123	685	中世整地土Ⅰ	中国製陶器四耳壺	黒釉 外面に焼成時の重ね焼痕?が巡る
124	688	中世整地土Ⅰ	中国製陶器壺	黒釉 外面に焼成時の重ね焼痕?が巡る
125	332	中世整地土Ⅰ	土師質土器皿	見込みハケ調整後ナデ調整 口径5.1cm
126	333	中世整地土Ⅰ	土師質土器皿	ヘソ皿 口縁部灯芯痕有、口径9.5cm(長径)
127	313	中世整地土Ⅰ	土師質土器皿	体部ユビオサエ後に口縁部ナデ調整 京都系土師皿を意識 口径11.2cm 口縁部灯芯痕有
128	312	中世整地土Ⅰ	瓦質土器皿	見込み粗いハケ調整後口縁部横ナデ調整 口径6.8cm 器厚3mm
129	336	中世整地土Ⅰ	土師質土器壺蓋	蓋上面に渦巻き状のヘラ彫り
130	292	中世整地土Ⅰ	瓦質土器火鉢	3脚 外面ヘラミガキ 外面スタンプ文
131	290	中世整地土Ⅰ	瓦質土器火鉢	外面縦方向の粗いヘラミガキ 外面渦巻き文スタンプ
132	307	中世整地土Ⅰ	土師質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面粗いハケ調整
133	316	中世整地土Ⅰ	土師質土器羽釜	外面横方向ヘラ削り 内面ハケ調整
134	841	中世整地土Ⅰ	土師質土器播鉢	外面ヘラ削り 内面ハケ調整 播目7本本位か 被熱痕有
135	308	中世整地土Ⅰ	瓦質土器火鉢	外面ミガキ
136	289	中世整地土Ⅰ	土師質土器羽釜	内面ナデ調整 大和型
137	295	中世整地土Ⅰ	土師質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整
138	315	中世整地土Ⅰ	土師質土器羽釜	外面横方向ヘラ削り 内面ハケ調整
139	340	第5面焼土層	土師質土器皿	口径6.4cm
140	341	第5面焼土層	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.4cm
141	345	第5面焼土層	土師質土器皿	口径8.6cm
142	343	第5面焼土層	土師質土器皿	口径10.8cm
143	339	第5面焼土層	土師質土器皿	内面丁寧なハケ調整後、口縁部横ナデ 口径17.0cm
144	342	第5面焼土層	土師質土器焼壺壺蓋	口径4.2cm 手つね成形
145	852	第5面焼土層	土師質土器壺	胎土精緻 底部墨書有 粘土紐巻上げ成形 内面指オサエ痕顕著
146	531	第5面焼土層	中国製青磁碗	外面線彫り文様
147	532	第5面焼土層	中国製青磁皿	景德鎮窯系
148	571	第5面焼土層	中国製磁器染付皿	底部に銘 小野皿B群
149	427	414埴列建物	中国製白磁端反皿	口径11.5cm
150	533	第5面焼土層	中国製磁器染付皿	見込み・外面樹下人物文 小野皿B2群
151	426	414埴列建物	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径6.8cm
152	1019	415埴列建物	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径6.55cm
153	416	415埴列建物	瓦質土器皿	内面ハケ調整 口径6.5cm
154	1018	415埴列建物	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.65cm
155	417	415埴列建物	土師質土器皿	ヘソ皿 口径7.8cm
156	1017	415埴列建物	土師質土器皿	口径8.85cm
157	429	416埴列建物	備前播鉢	播目単位14本 栗岡中世6期
158	418	415埴列建物	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り 内面ハケ調整
159	1016	415埴列建物	瓦質土器羽釜	外面ヘラ削り
160	415	415埴列建物	土師質土器甕	玉縁口縁 外面平行タタキ 内面ハケ調整
161	568	518土坑	中国製磁器青花皿	見込み龍文 小野皿E群XⅡ類 被熱の為ただれている
162	565	470土坑	中国製磁器染付碗	小野碗C群Ⅲ類
163	436	452土坑	備前壺	口径11.4cm
164	420	585溝	土師質土器皿	口径10.8cm
165	435	452土坑	土師質土器皿	口径9.7cm
166	437	518土坑	土師質土器羽釜	大和型
167	385	452土坑	瓦質土器火鉢	3脚 外面渦巻き文スタンプ 外面ヘラミガキ
168	389	470土坑	土師質土器焙烙	外面平行タタキ 十河A-V類
169	390	470土坑	瓦質土器鉢	外面ハケ調整 内面ミガキ
170	395	585溝	土師質土器甕蓋	口径28.2cm
171	387	455小穴	土師質土器人形	型作り成形 側面の合わせ目をヘラナデ
172	534	天正整地土	中国製磁器染付小杯	外面葡萄文 見込み花卉文 底部「□□年造」銘 碁筋底
173	535	天正整地土	中国製磁器染付小杯	外面唐草文 見込み花卉文 底部「福」銘
174	536	天正整地土	中国製磁器染付皿	見込み草花文 小野C群
175	537	天正整地土	中国製青磁椀花皿	口径13.5cm
176	638	天正整地土	肥前陶器皿	藁灰釉
177	551	天正整地土	中国製磁器皿	見込み釉剥ぎ
178	643	天正整地土	肥前陶器端反皿	灰釉 底部墨書あり
179	651	天正整地土	肥前陶器皿	灰釉 見込み砂目4箇所
180	637	天正整地土	朝鮮王朝製白磁皿	見込み細長い砂目痕3箇所 砂粒白色で細かい
181	656	天正整地土	肥前陶器碗	灰釉
182	652	天正整地土	肥前陶器碗	口径10.0cm
183	640	天正整地土	肥前陶器片口鉢	大橋Ⅰ期
184	644	天正整地土	肥前陶器碗	灰釉
185	621	天正整地土	瀬戸美濃陶器天目碗	口径11.4cm
186	616	天正整地土	瀬戸美濃陶器天目碗	内反り高台 鬼板を掛ける

遺物観察表 3

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
187	630	天正整地土	朝鮮王朝製白磁碗	見込み・畳付砂目5箇所 砂目は砂粒粗い 透明釉を全面施釉 高台内溝状
188	646	天正整地土	肥前陶器鉄絵鉢	3脚 平面形方形 底部萐筍底状 粉殻付着 (415埴列建物上流土)
189	622	天正整地土	瀬戸美濃陶器水注	鉄釉
190	595	天正整地土	備前鉢	口径15.3cm
191	324	天正整地土	肥前陶器鉄絵香合	削り出し高台 底部際に胎土目もしくは脚の痕跡 全体に被熱
192	167	天正整地土	瀬戸美濃陶器水指	鉄釉
193	592	天正整地土	備前蓋	口径6.0cm
194	675	天正整地土	中国製陶器鉄絵壺	内面は鉄釉もしくは透明釉 頸部際には沈線が巡る 口縁部無釉葉 被熱により器面がはげる
195	591	天正整地土	備前水指	口縁部は蓋受状
196	326	天正整地土	土師質土器ミニチュア羽釜	外面剥落の為調整不明瞭
197	363	天正整地土	土師質土器羽釜	内面ハケ調整 大和型
198	401	天正整地土	備前播鉢	播目単位9本 乗岡中世6期
199	349	天正整地土	土師質土器甕蓋	口径20.5cm 内面ハケ調整
200	925	天正整地土	備前播鉢	播目単位15本 乗岡中世6期b
201	497	162埴列建物	中国製白磁小杯	景德鎮窯系
202	500	162埴列建物	中国製白磁碗	体部型押文 景德鎮窯系
203	498	162埴列建物	中国製白磁碗	体部型押文 景德鎮窯系
204	486	162埴列建物	中国製磁器染付碗	漳州窯系
205	481	162埴列建物	中国製磁器輪花皿	見込み楼閣山水文 外面唐草文 口縁部蓮瓣文 景德鎮窯系
206	507	162埴列建物	中国製磁器染付皿	見込み唐文 口縁部草花文 景德鎮窯系
207	484	162埴列建物	中国製磁器染付皿	底部「修」銘か 見込み擬人化された猿が鞠で遊んでいる 小野E群 景德鎮窯系
208	480	162埴列建物	中国製磁器染付皿	底部「重園線内「弘治年造」銘 見込み樹下人物文 外面華唐草文 小野E群 景德鎮窯系
209	300	162埴列建物	中国製磁器青花皿	見込み宝文 景德鎮窯系
210	502	162埴列建物焼土	中国製磁器染付皿	見込み孔雀文 底部に砂粒多量に付着 漳州窯系
211	485	162埴列建物	中国製磁器染付皿	見込み獅子文 小野皿E群XII類 景德鎮窯系
212	483	162埴列建物	中国製磁器青花皿	見込み獅子文 小野皿E群XII類 景德鎮窯系
213	499	162埴列建物	中国製磁器染付皿	内面体部宝文 外面唐草文 小野皿E群XIII類
214	496	162埴列建物	中国製磁器染付皿	内面体部宝文 外面唐草文 小野皿E群XIII類
215	504	162埴列建物	中国製磁器染付皿	見込み鳳凰文 底部砂粒多量に付着 漳州窯系
216	495	162埴列建物	中国製磁器染付鉢	兜鉢 漳州窯系
217	501	162埴列建物	中国製磁器染付皿	見込み鳥文 漳州窯系
218	476	162埴列建物	中国製磁器染付輪花皿	名山手 見込み花虫文 景德鎮窯系
219	479	162埴列建物	中国製磁器輪花皿	名山手 草花文 景德鎮窯系
220	477	162埴列建物	中国製磁器染付輪花皿	名山手 景德鎮窯系
221	473	162埴列建物	中国製磁器染付輪花皿	名山手 見込み鳥文 景德鎮窯系
222	475	162埴列建物	中国製磁器染付輪花鉢	芙蓉手 萐筍底 景德鎮窯系
223	474	162埴列建物	中国製磁器染付輪花鉢	芙蓉手 見込み鳥文 外面草花文 萐筍底 景德鎮窯系
224	503	162埴列建物	中国製磁器染付皿	漳州窯系 底部砂粒多量に付着
225	516	162埴列建物	瀬戸美濃陶器皿	灰釉
226	510	162埴列建物	肥前陶器碗	灰釉 大橋I期
227	653	162埴列建物	肥前陶器碗	灰釉 口径11.2cm
228	508	162埴列建物	肥前陶器鉄絵変形皿	大橋I期
229	649	162埴列建物	肥前陶器鉄絵皿	大橋I期
230	505	162埴列建物	肥前陶器鉄絵鉢	見込み胎目痕4箇所あり 片口鉢か 大橋I期
231	506	163埴列建物	肥前陶器皿	灰釉 胎土目痕有 粉殻痕 大橋I期
232	517	162埴列建物焼土	備前壺	口径13.4cm
233	511	162埴列建物	備前壺	底径9.8cm
234	867	163埴列建物	産地不明陶器水指	外面下半部に鉄錆 上半部に灰釉 底径9.6cm
235	512	162埴列建物	備前大平鉢	口径32.2cm
236	514	162埴列建物	肥前陶器鉢	全体に鉄釉を掛け、灰釉(黄灰釉か?)を降りかける 福岡あたりのものか
237	1078	279土坑	土師質土器皿	口径7.4cm
238	378	010土坑	土師質土器皿	内面ハケ調整 口径4.8cm
239	780	010土坑	肥前陶器碗	灰釉 大橋I期
240	779	010土坑	肥前陶器壺	灰釉 肥前もしくは福岡
241	361	279土坑	瀬戸美濃陶器鉄絵皿	高台内無釉 鉄絵後長石釉を掛ける 被熱痕有り 志野織部
242	674	489井戸	瀬戸美濃陶器丸皿	灰釉全面施釉 目痕有
243	1080	279土坑	備前大甕	口径61.0cm
244	362	279土坑	瀬戸美濃陶器鉄絵皿	高台内無釉 鉄絵後長石釉を掛ける 被熱痕有り 志野織部
245	673	489井戸	瀬戸美濃陶器鉄絵皿	見込み目痕あり 高台内無釉 志野織部
246	515	慶長焼土層	中国製磁器染付皿	見込み鹿文 漳州窯系 底部砂粒多量に付着
247	671	489井戸	中国製磁器染付碗	見込み花卉文 外面唐草文 漳州窯系
248	672	489井戸	中国製磁器染付皿	名山手 景德鎮窯系
249	670	489井戸	中国製白磁皿	景德鎮窯系
250	679	014井戸	肥前陶器碗	灰釉 底部右回転糸切痕 大橋I期
251	680	014井戸	肥前陶器碗	灰釉 胎土目 大橋I期
252	132	014井戸	肥前陶器皿	三鳥手刷毛目文 丁寧な砂目痕4箇所 内面刷毛目文 見込み菊花スタンプ 全面施釉
253	126	014井戸	肥前陶器鉄絵脚付鉢	中国製青磁の脚付を意識か 大橋I期
254	131	014井戸	肥前陶器鉄絵皿	胎土目積み 大橋I期
255	681	014井戸	中国製磁器染付碗	外面華唐草文 漳州窯系粗製
256	133	014井戸	中国製磁器染付皿	底部に多量の砂粒付着 漳州窯系
257	129	014井戸	土師質土器皿	手づくね 口径5.6cm
258	684	014井戸	土師質土器皿	手づくね 全体にス付着 見込みに強く圈線を残す 口径10.0cm
259	128	014井戸	土師質土器皿	手づくね 底部墨書有 口径10.5cm
260	683	014井戸	土師質土器皿	手づくね ス付着 口縁部灯芯痕有 口径11.6cm
261	124	014井戸	土師質土器焙烙	外面平行タタキ 難波A類
262	125	014井戸	備前播鉢	乗岡近世I期C
263	134	014井戸	上野・高取系陶器播鉢	前面鉄釉 ナメ交差播目
264	123	014井戸	丹波播鉢	播目単位5本 長谷川I B2クシ
265	865	192土坑	肥前陶器甕	口縁部無釉 焼成不良のため釉葉発色悪い 灰釉か 口径21.2cm
266	714	192土坑	丹波播鉢	播目7本単位 陶片痕5ヶ所 長谷川II A類
267	397	626土坑	土師質土器皿	手づくね 口径12.6cm 全面煤付着
268	641	626土坑	肥前陶器播鉢	内外面口縁部付近鉄釉 播目8本単位? 胎土目積み
269	178	161土坑	肥前陶器染付碗	一重網目文
270	174	161土坑	肥前陶器碗	壘付無釉
271	179	161土坑	肥前陶器掛分碗	内野山窯系 呉器手
272	175	161土坑	肥前陶器染付皿	高台無釉 釉剥き部分に鉄泥 大橋III期
273	392	161土坑	肥前陶器青磁鉢	陰刻 見込み草文 波佐見
274	783	161土坑	備前鉢	建水か
275	176	161土坑	土師質土器皿	手づくね 口縁部灯芯痕有 口径10.4cm
276	868	161土坑	瀬戸美濃陶器壺	外面鉄釉 内面無釉 高台径16.0cm
277	172	161土坑	土師質土器焼塩壺	「御壺師塚湊伊織」刻印有
278	173	161土坑	土師質土器焼塩壺	口径5.6cm・器高8.6cm
279	171	161土坑	土師質土器焙烙	難波B類

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
280	181	161土坑	備前擂鉢	擂目単位14本 乗岡近世2b期
281	180	161土坑	信楽擂鉢	全面泥漿 畑中3期新段階
282	182	161土坑	備前擂鉢	擂目単位10本 乗岡近世2期
283	781	161土坑	丹波擂鉢	擂目単位8本 長谷川IVA類
284	782	161土坑	丹波擂鉢	擂目単位9本 長谷川IVA類
285	522	160井戸	肥前磁器染付碗	高台内方形内渦幅
286	523	160井戸	肥前磁器染付碗	高台内一重圓線
287	527	160井戸	土師質土器灯明皿	手つくね 口縁部灯芯痕有、口径9.2cm
288	521	160井戸	土師質土器灯明皿	手つくね スス付着 口縁部灯芯痕有、口径10.7cm
289	524	160井戸	肥前磁器染付皿	高台無釉 蛇の目釉剥ぎ
290	530	160井戸	肥前陶器三鳥手鉢	鉄釉を掛けた上に象嵌を施し、透明釉を掛ける 砂胎土目
291	518	160井戸	肥前磁器染付瓶	外面雪輪に柳文
292	529	160井戸	塚擂鉢	擂目12本単位 白神I型式 焼台痕
293	453	137土坑	肥前磁器染付碗	外面花文 大橋Ⅲ期
294	753	137土坑	肥前磁器染付碗	外面一重網目文
295	208	137土坑	肥前磁器碗	肥前ではない? 釉薬は白濁し、透明釉ではなく青磁釉の可能性
296	207	137土坑	肥前陶器碗	呉器手 緑釉を流し掛ける
297	211	137土坑	肥前磁器染付端反小杯	高台内「大明成化年製」銘 外面牡丹文 大橋Ⅲ期
298	210	137土坑	瀬戸美濃陶器茶入	鉄釉 肩衝茶入
299	205	137土坑	肥前磁器染付皿	見込み草花文 内面体部華唐草文 高台量付砂多量に付着
300	631	137土坑	朝鮮王朝製白磁皿	見込みに砂目4箇所 砂目の砂粒は細い
301	460	137土坑	朝鮮王朝製白磁皿	見込み・量付に砂目痕 砂目の砂粒は細い
302	209	137土坑	肥前磁器染付蓋物蓋	口径8.2cm
303	213	137土坑	肥前磁器染付合子	高台内「大明成化年製」銘 輸出目的製品か?
304	212	137土坑	肥前陶器壺	鉄釉 口縁部内面蓋受状になる
305	206	137土坑	瀬戸美濃陶器香炉	口縁部は敲打痕があり、灰落しに転用か
306	493	137土坑	ベトナム製陶器長胴壺	内面に強く口ロ口目が残る
307	204	137土坑	土師質土器焙烙	外面体部左上がりの掻き目 底部と体部境を面取り 難波C類
308	443	136土坑	肥前磁器染付碗	外面草花文 高台内一重圓線
309	367	136土坑	肥前磁器染付碗	外面草花文
310	157	136土坑	肥前磁器染付碗	外面楓文
311	140	136土坑	肥前陶器掛分碗	内野山窯系
312	136	136土坑	肥前陶器開口碗	高台などのつくりは呉器手碗と共通
313	137	136土坑	肥前陶器碗	曇灰釉 高台無釉
314	291	136土坑	肥前陶器碗	京焼風 相形碗形 口縁部と高台は鉄錆 体部は灰釉
315	138	136土坑	肥前陶器染付蓋物	外面梅樹文 高台内方形内「福」銘
316	161	136土坑	肥前磁器染付皿	波佐見焼
317	159	136土坑	肥前磁器蓋物蓋	口径7.2cm つまみ径3.4cm
318	156	136土坑	肥前磁器染付皿	高台無釉 蛇の目釉剥ぎ
319	158	136土坑	肥前磁器染付変形皿	内面丸散し文 底部「大明」銘
320	139	136土坑	肥前磁器染付仏飯具	唐草文 17c第4四半~18c初
321	154	136土坑	肥前陶器皿	刷毛目文に鉄釉・緑釉 砂胎土目積み
322	463	136土坑	中国製軟質施釉陶器皿	緑釉地に鉄釉で輪郭を描き中を黄・白・紫で塗る 高台内に指跡 中国華南産?
323	325	136土坑	中国製磁器色絵皿	高台に砂粒が多く付着している 呉須赤絵 漳州窯系
324	146	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口径5.9cm
325	148	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口径6.9cm
326	150	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口縁部灯芯痕有 口径9.8cm
327	144	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口縁部灯芯痕有 口径9.6cm
328	149	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口径10.8cm
329	151	136土坑	土師質土器皿	手つくね 口縁部灯芯痕有 口径11.65cm
330	143	136土坑	土師質土師皿	手つくね 口径12.3cm
331	142	136土坑	軟質施釉陶器餐水入	前面施釉 底部に布目痕
332	166	136土坑	土師質土器焙烙	外面体部ハケ調整 難波B類
333	170	136土坑	土師質土器焙烙	外面体部ハケ調整 難波B類
334	145	136土坑	土師質土器燒塩壺	「御壺塩師塚湊伊織」刻印
335	168	136土坑	土師質土器燒塩壺	「御壺塩師塚見など伊織」刻印
336	141	136土坑	瀬戸美濃陶器水注	底部右回転糸切痕有 口径3.6cm・底径5.0cm 鉄釉
337	153	136土坑	備前水注	底径6.8cm
338	203	136土坑	備前擂鉢	擂目9本単位 貼り付高台 乗岡近世3期
339	850	136土坑	ベトナム製陶器五耳壺	肩部線刻と波状文
340	259	136土坑	肥前陶器甕	鉄釉 内外面に格子目痕 18c代か
341	49	122土坑	肥前磁器染付半球碗	見込み・外面花文
342	51	122土坑	肥前磁器染付半球碗	外面花文
343	45	122土坑	肥前磁器青磁染付碗	見込み手描き五弁花文
344	63	122土坑	肥前磁器白磁碗	口錆 口径9.8cm・高台径4.1cm
345	43	122土坑	瀬戸美濃陶器掛分碗	外面下半部に鉄釉 内面から外面上半部に灰釉
346	50	122土坑	肥前磁器染付端反碗	見込み蛇の目釉剥ぎ 口径12.4cm・器高6.0cm
347	41	122土坑	瀬戸美濃陶器香炉	灰釉 口縁部に敲打痕あり灰落しとして使用か
348	60	122土坑	土師質土器皿	口ク口成形 二寸口縁部灯芯痕有 口径6.6cm
349	61	122土坑	土師質土器皿	口ク口成形 口縁部灯芯痕有 口径6.5cm
350	59	122土坑	土師質土器皿	口縁部灯芯痕有 口径10.6cm
351	46	122土坑	肥前磁器白磁皿	蛇の目釉剥ぎ
352	48	122土坑	肥前磁器白磁皿	高台無釉 蛇の目釉剥ぎ 灯明皿として使用か
353	47	122土坑	肥前磁器染付皿	底部渦幅 外面1周する唐草文
354	62	122土坑	信楽壺	臍白壺
355	44	122土坑	瀬戸美濃陶器片口鉢	灰釉 見込みに目痕3箇所
356	42	122土坑	瀬戸美濃陶器壺	鉄釉 口径13.7cm・器高16.3cm・底径9.5cm
357	40	122土坑	京焼系陶器土鍋	口径20.0cm
358	52	122土坑	土師質土器風炉	正面下半部に刻印「大小路口山之喜東」
359	219	070土坑	肥前磁器染付碗	外面雨降り文
360	227	070土坑	肥前磁器色絵碗	蛇の目釉剥ぎ 釉剥ぎ部に鉄錆
361	216	070土坑	肥前磁器染付小広東碗	外面竹笹文
362	230	070土坑	京焼陶器平碗	鉄絵染付 見込みに草文
363	217	070土坑	肥前磁器染付広東碗蓋	口径10.4cm・つまみ径4.2cm
364	215	070土坑	肥前磁器白磁碗	朝顔形碗
365	224	070土坑	肥前陶器開口碗	高台のつくりは呉器手碗と共通する
366	221	070土坑	瀬戸美濃陶器碗	内外面刷毛目文
367	225	070土坑	肥前磁器青磁染付碗	見込み手描き五弁花文 高台内方形内渦幅
368	220	070土坑	肥前磁器染付碗	外面丸窓文 見込みコンヤク印判五弁花文 蛇の目釉剥ぎ
369	226	070土坑	中国製磁器染付輪花皿	古染付 製作り 見込み波文 口錆 高台内「大明成化年製」銘
370	214	070土坑	肥前磁器染付輪花鉢	外面樓閣文・波頭文 焼継ぎ痕有り
371	231	070土坑	肥前磁器青磁染付輪花鉢	蛇の目凹型高台 簡江窯
372	471	070土坑	ベトナム製陶器鉄絵鉢	外面・見込み菊花スタンプ文 蛇の目釉剥ぎ 高台無釉

遺物観察表 5

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
373	232	070土坑	瀬戸美濃陶器小杯	灰釉 高台無釉
374	222	070土坑	瀬戸美濃陶器片口鉢	灰釉 見込み目痕
375	233	070土坑	瀬戸美濃陶器汁次	灰釉 口径4.8cm・器高11.4cm・高台径7.4cm
376	218	070土坑	肥前磁器白磁鉢	蛇の目凹型高台 陰刻文
377	229	070土坑	丹波壺	肩に自然袖掛かる
378	775	070土坑	丹波壺	口縁上端部条線
379	223	070土坑	土師質土器焙烙	把手に2箇所穿孔するが貫通しない
380	776	070土坑	丹波播鉢	高台付
381	228	070土坑	塚播鉢	見込みウールマーク 播目7本単位 白神Ⅱ類
382	109	012土坑	肥前磁器染付小広東碗	口径7.3cm・高台径2.5cm
383	119	012土坑	肥前磁器染付碗	二重編目文
384	122	012土坑	肥前磁器染付小広東碗	見込み手描き五弁花文
385	110	012土坑	肥前磁器染付碗	高蒲文
386	116	012土坑	肥前磁器染付碗	丸窓文
387	120	012土坑	萩碗	藁灰釉 ケスリ出し高台
388	113	012土坑	肥前磁器染付碗	梅枝文
389	118	012土坑	肥前磁器染付碗	コンニャク印判による菊花文
390	117	012土坑	京焼系陶器碗	鏤絵 小杉碗 楕形碗形
391	90	012土坑	瀬戸美濃陶器胎染付輪花鉢	口径(最大)10.6cm 太白手
392	99	012土坑	肥前磁器染付皿	ロク口成形見込みに「大明成化年製」
393	102	012土坑	肥前磁器染付皿	見込みに「大明成化年製」
394	103	012土坑	肥前磁器染付皿	見込みに「大明成化年製」
395	104	012土坑	京焼系陶器土瓶蓋	鉄釉 底径3.9cm
396	93	012土坑	土師質土器皿	ロク口成形内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり 口径6.0cm
397	96	012土坑	軟質施釉陶器灯明皿	鉛釉 口縁部灯芯痕有内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり
398	98	012土坑	軟質施釉陶器灯明皿	鉛釉 口縁部灯芯痕有内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり
399	200	012土坑	京焼系陶器鉄釉土鍋	ミニチュア土鍋 口径8.2cm
400	97	012土坑	軟質施釉陶器灯明皿	鉛釉 口縁部灯芯痕有内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり
401	94	012土坑	軟質施釉陶器灯明皿	鉛釉 口縁部灯芯痕有内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり
402	95	012土坑	軟質施釉陶器灯明皿	鉛釉 口縁部灯芯痕有内外面スス付着 底部右回転糸切り痕あり
403	106	012土坑	京焼系陶器灯明受皿	灰釉 口径11.0cm・受皿径6.8cm
404	91	012土坑	土師質土器焼塩壺	板作り成形
405	92	012土坑	土師質土器焼塩壺	板作り成形
406	121	012土坑	土師質土器焼塩壺	板作り成形
407	105	012土坑	肥前磁器青磁染付皿	楼閣山水文
408	112	012土坑	肥前磁器染付皿	見込み手描き五弁花文・芝垣文 高台内二重方形内渦福 外面1周する唐草文
409	108	012土坑	肥前磁器染付六角鉢	高台内「□□年造」銘
410	101	012土坑	肥前磁器染付皿	高台内渦福 外面唐草文 内面扇文
411	100	012土坑	肥前磁器染付鉢	高台内蛇の目凹型高台 ハマの痕跡 外面唐草文 内面牡丹文 高台内「富貴長春」
412	107	012土坑	塚播鉢	口径22.1cm・器高9.6cm・底径14.0cm
413	114	012土坑	塚播鉢	播目単位8本 白神Ⅱ類
414	111	012土坑	塚お歯黒壺	内面に鉄分付着
415	89	012土坑	土師質土器羽釜	頸部スス付着
416	758	012土坑	蘭製ワインボトル	緑色ガラス製 口径3.6cm・厚さ0.4cm
417	29	016土坑	肥前磁器染付小広東碗	梵字文
418	9	016土坑	肥前磁器染付小広東碗	蛇の目高台 見込みに火災宝珠
419	1	016土坑	肥前磁器染付碗	外面環珞文
420	7	016土坑	肥前磁器染付碗	望料碗 高台ハの字に開く 外面官人文
421	79	016土坑	肥前磁器染付小杯	笹文
422	31	016土坑	肥前磁器染付碗	梅枝文
423	32	016土坑	肥前磁器青磁染付碗	見込み手描き五弁花文 高台内二重方形に渦福
424	30	016土坑	肥前磁器染付筒形碗	蛸唐草文 筒江銘
425	10	016土坑	肥前磁器青磁染付皿	内面蛸唐草文・七宝繫文 高台内二重方形に角福 見込み手描き五弁花
426	8	016土坑	肥前磁器染付皿	芙蓉手 内面花籠文 輸出用のデザイン
427	21	016土坑	肥前磁器染付皿	外面唐草文見込み中央に穿孔
428	239	016土坑	瀬戸美濃陶器碗	灰釉 高台無釉 内面付着物有
429	6	016土坑	肥前陶胎染付猪口	楼閣山水文
430	12	016土坑	京焼系陶器色絵半球碗	高台無釉 赤・緑で笹文
431	238	016土坑	瀬戸美濃陶器碗	口径11.9cm
432	11	016土坑	瀬戸美濃陶器輪花皿	豊付け部を除き長石釉施釉 全体に貫入
433	27	016土坑	肥前磁器青磁染付碗蓋	内面コンニャク印判文五弁花文
434	13	016土坑	肥前磁器染付碗蓋	望料碗蓋 外面官人文 内面寿字文
435	18	016土坑	肥前磁器青磁染付鉢	蛇の目凹型高台 外面唐草文 高台内二重方形内渦福
436	20	016土坑	肥前磁器青磁染付鉢	蛇の目凹型高台 見込み松竹梅文 高台内「富貴長春」
437	242	016土坑	土師質土器皿	手づくね 口縁部灯芯痕有、口径9.9cm
438	25	016土坑	土師質土器皿	手づくね 口径10.2cm
439	28	016土坑	土師質土器皿	手づくね 口縁部灯芯痕有 口径11.8cm
440	3	016土坑	備前灯明皿	底部回転へラ削り後丁寧なナデ調整 口縁部灯芯痕有
441	236	016土坑	土師質土器皿	手づくね 口径11.9cm
442	235	016土坑	瀬戸美濃陶器灯明受皿	鉄釉
443	22	016土坑	肥前磁器染付壺茶入蓋	体部圏線 上面青海波文 伝世品
444	5	016土坑	肥前磁器染付蓋	口径7.1cm
445	234	016土坑	産地不明陶器有脚灯明皿	鉄釉 高台無釉 削り出し高台 皿部と胴部は別つくり
446	4	016土坑	京焼系陶器土瓶蓋	内面無釉 外面鉄釉
447	237	016土坑	塚灯火具	使用痕跡は認められないが、形態から灯火具か
448	2	016土坑	産地不明陶器土瓶	灰釉 底部際に刻印有り
449	17	016土坑	肥前磁器青磁瓶	口径8.7cm
450	19	016土坑	肥前磁器染付香油壺	外面草花文
451	240	016土坑	塚壺	内面付着物有
452	35	016土坑	瓦質土器焔炉	底径16.4cm
453	34	016土坑	瓦質土器灯火具	瓦灯の下部
454	14	016土坑	瀬戸美濃陶器銭壺	鉄釉 底部右回転糸切り痕有り 登窯第3段階第8小期 口縁部を打ち欠いており、灰落しに転用か
455	37	016土坑	瀬戸美濃陶器汁次	灰釉 肩部に沈線 外面緑釉流し掛け 高台内墨書あり
456	36	016土坑	土師質土器焙烙	体部際面取り 難波D類
457	38	016土坑	土師質土器皿	口縁部灯芯痕有 口径31.8cm
458	15	016土坑	瀬戸美濃陶器練鉢	見込みに4箇所目痕 高台無釉 口縁部に緑釉流し掛け 登窯3期(第9小期?)
459	16	016土坑	塚播鉢	内面付着物有 播目単位10本 白神分類Ⅰ類
460	39	016土坑	塚播鉢	内面付着物有 播目単位7本 白神分類Ⅰ類 扇面の中に「中上」刻印(第107図刻印:原寸)
461	85	003井戸	京焼系陶器掛分碗	サビ釉と灰釉掛分け 18c頃
462	77	003井戸	肥前磁器染付広東碗	内外面捻文
463	78	003井戸	肥前磁器染付碗	外面垣根に芭蕉文 見込み手描き五弁花文 高台内二重方形内渦福
464	80	003井戸	肥前磁器染付碗蓋	外面松文 内面寿字文 望料碗蓋
465	87	003井戸	瀬戸美濃陶器胎染付皿	太白手

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
466	86	003井戸	瀬戸美濃陶胎染付皿	太白手
467	84	003井戸	京焼系陶器土瓶蓋	鏤絵 つまみ径1.35cm
468	83	003井戸	瀬戸美濃陶器鉄絵蓋	志野 茶入れもしくは水注蓋か 鉄絵
469	76	003井戸	肥前磁器白磁紅皿	型押し成形
470	81	003井戸	軟質施釉陶器乗燗	底径4.7cm
471	491	003井戸	ベトナム製陶器長胴壺	底径10.8cm
472	82	003井戸	肥前磁器花瓶	二彩 上半部鉄釉 下半部灰釉 鉄釉・緑釉で笹文
473	88	003井戸	京焼系陶器土鍋	鉄釉
474	410	054溝	萩碗	霽灰釉 渦高台
475	411	054溝	肥前磁器染付広東碗	外面花文
476	406	054溝	肥前磁器染付碗	外面丸窓文 見込みコンニャク印判文五弁花文 蛇の目釉剥ぎ
477	402	054溝	肥前磁器染付碗	外面丸窓文 見込みコンニャク印判文五弁花文 蛇の目釉剥ぎ
478	856	054溝	肥前磁器染付皿	内面人物文 体部室文 外面唐草文 高台内円錐ピン痕 墨弾き技法
479	409	054溝	瀬戸美濃陶器片口鉢	灰釉 見込み目跡3箇所
480	408	054溝	備前播鉢	播目単位10本 白神Ⅱ類
481	407	054溝	堺播鉢	播目単位9本 白神Ⅱ類 見込みウールマーク
482	759	054溝	蘭製ワインボトル	緑色ガラス 全体に風化 底部内ボンテマーク 厚さ約1.0cm
483	70	006井戸	萩ピラ掛け碗	高台無釉
484	73	006井戸	京焼系陶器端反碗	灰釉 イッチンによる文様
485	68	006井戸	肥前磁器染付碗	雪輪梅枝文
486	74	006井戸	京焼陶器小杯	刷毛目文 象嵌(三島手) 清水六角印有
487	69	006井戸	瀬戸美濃磁器染付小杯	梅枝文
488	72	006井戸	肥前磁器染付端反碗	蛇の目釉剥ぎ
489	67	006井戸	肥前磁器染付輪花皿	楼閣山水文
490	71	006井戸	瀬戸美濃磁器染付碗蓋	焼痕あり
491	66	006井戸	京焼系陶器土瓶蓋	部分的に灰釉を掛ける 2次焼成を受けている
492	787	006井戸	備前灯火具蓋	体部に透かしによる切込み文様 内外面ス付着
493	64	006井戸	瓦質土器焔炉	外面ミカキ 内面突起貼り付けの為の挿ぎ
494	75	006井戸	土師質土器不明品	内面見込みに墨書 粘土ヒモ巻上げ成型 底部際に2.1cmの穴
495	851	中世整地土Ⅰ	土師質土器皿	手づくね ヘソ皿 見込みに墨書
496	1081	685地鎮遺構	土師質土器皿	手づくね 口径9.9cm
497	1082	685地鎮遺構	土師質土器皿	手づくね 口径11.35cm
498	1086	685地鎮遺構	瓦質土器火鉢	口径16.5cm
499	1085	685地鎮遺構	肥前磁器染付皿	底径7.6cm
500	767	099小穴	土師質土器皿	手づくね 口径9.4cm
501	766	099小穴	土師質土器皿	手づくね 口径部灯芯痕有 口径10.3cm
502	768	099小穴	土師質土器皿	手づくね 口径10.5cm(長径)
503	769	099小穴	土師質土器皿	手づくね 口径10.4cm
504	765	099小穴	火打石	サヌカイト製 60.37g
505	763	099小穴	肥前磁器染付瓶	完形 体部草文
506	764	099小穴	肥前磁器染付瓶	完形 体部に融着痕有 体部草文
507	366	625埋鉢	土師質土器皿	手づくね 口径10.45cm
508	365	625埋鉢	備前播鉢	播目12本単位 乗岡近世1期
509	364	625埋鉢	丹波播鉢	1本播目 長谷川ⅠA1類
510	302	207合甕	備前播鉢	外面口く目強い 播目9本単位 乗岡近世1期 若干被熱痕有り
511	567	402埋甕	中国製磁器染付碗	外面文字文 小野碗F群(森Vb類) 漳州窯系
512	566	402埋甕	中国製磁器染付碗	小野碗F群 漳州窯系
513	1024	359埋甕	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径19.25cm
514	977	477埋甕	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面タタキ痕 外面底部際はへら削り 底径18.1cm
515	808	625埋鉢	土師質土器甕	外面タタキ調整 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径18.0cm
516	1027	1123小穴	土師質土器甕	外面平行タタキ調整 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径18.8cm
517	303	207合甕(南側)	土師質土器甕	外面平行タタキ 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 口径29.0cm・底径19.0cm・器高37.8cm
518	978	207合甕(北側)	土師質土器甕	内外面共にハケ調整 外面底部際はへら削り 口径33.6cm・底径21.4cm・器高39.7cm
519	976	402埋甕	土師質土器甕	口径28.2cm・底径22.5cm・器高40.6cm
520	1048	424埋甕	土師質土器甕	外面平行タタキ調整 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径29.0cm
521	1050	535土坑	土師質土器甕	外面平行タタキ調整 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径30.8cm
522	1042	074埋甕	土師質土器甕	内面横方向・外面縦方向ハケ 外面底部際はへら削り調整 内面付着物有り 底径38.5cm
523	1041	471埋甕	土師質土器甕	外面平行タタキ調整 内面ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径30.0cm
524	298	529埋甕	瓦質土器甕	内面ハケ調整 外面平行タタキ痕 ハケは細かい 口径41.1cm
525	1023	104埋甕	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面斜め方向ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径35.3cm
526	370	100埋甕	土師質土器甕	内面横方向・外面縦方向ハケ調整 外面底部際はへら削り 底径33.7cm
527	1073	196埋甕	土師質土器甕	外面タタキ調整 内面ハケ調整 口径48.3cm
528	1044	122土坑	土師質土器甕	内面横方向ハケ調整 外面粗いハケ調整 口径70.9cm
529	550	122土坑	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面タタキ調整 口径49.9cm・底径36.6cm・器高60.8cm
530	1074	335埋甕	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面粗いハケ調整 口径63.0cm・底径47.5cm・器高69.4cm
531	273	174埋甕	土師質土器甕	内面ハケ調整 外面粗いハケ調整 底径38.2cm
532	583	105埋甕	土師質土器甕	内面横方向ハケ調整 外面縦方向ハケ調整 底径46.1cm
533	1043	468埋甕	土師質土器甕	内面横方向ハケ調整 外面粗いハケ調整 外面底部際はへら削り 口径63.3cm・底径50.0cm
534	1026	664埋甕	備前甕	乗岡近世Ⅰ期 底部外面網目 底径26.4cm
535	376	077埋甕	備前甕	底径43.3cm
536	888	中世整地土Ⅲ	備前甕	底径30.7cm
537	770	061土坑	丹波甕	底部自然釉 焼成時の歪み有り 口径21.0cm・底径12.7cm・器高21.5cm
538	805	085土坑	丹波甕	口径23.0cm 口径縁部から内面灰釉 外面赤土部の上から鉄釉流し掛け 口径23.0cm
539	979	082土坑	丹波甕	体部に不遊環 成形時に2回段継ぎ 口径40.1cm・底径18.8cm・器高47.8cm
540	1045	004埋甕	信楽甕	内外面鉄釉 底部無釉 内面重ね焼痕? 底径17.6cm
541	1022	112埋甕	大谷甕	外面鉄釉 内面見込みに漆喰 底径28.5cm
542	1025	110埋甕	大谷甕	外面鉄釉 見込みに漆喰 底径26.2cm
543	1039	086埋甕	大谷甕	外面鉄釉 底部外面墨書? 見込みに漆喰 底径22.0cm
544	1040	108埋甕	大谷甕	外面鉄釉 底径22.2cm
545	245	028井戸	肥前磁器白磁戸車	使用のため磨耗
546	337	331土坑	肥前磁器白磁灯芯押	製作? 顔部分のみ無釉
547	379	北土手掘張部	軟質施釉陶器猿香合	胎土に砂粒多く含む 猿香合 猿は官服を着て手を合わせる 外面は柿釉
548	625	403小穴	瀬戸美濃陶器茶入	鉄釉 肩衝茶入
549	784	082土坑	備前茶入	器高6.8cm
550	846	攪乱3	瀬戸美濃陶器茶入	口径6.6cm・器高6.1cm・底径5.5cm 鬼板の上から鉄釉を掛ける 底部曇り擦れ激しい 内海
551	845	近世整地土Ⅲ	瓦質土器焔炉	二重圏線内「西村」小判印
552	375	258小穴	瀬戸美濃鉄絵鉢	縁部 脚付向付 型押し成形 鉄絵→透明釉→銅緑釉 内面布目痕 底部無釉
553	807	中央トレンチ北側	瀬戸美濃陶器鉢	黄瀬戸
554	803	116土坑	瀬戸美濃鉄絵鉢	志野
555	596	374土坑	備前鉢	体部下半部に塗土
556	806	東側溝	丹波水指	口径縁部は蓋受状 外面塗土で装飾
557	647	107搾場遺構	肥前陶器鉄絵皿	大橋Ⅰ期 見込みに胎土目4箇所有
558	391	473井戸	肥前磁器染付皿	見込み亀文 高台内「金鎖白玉」銘 焼痕あり

遺物観察表 7

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
559	980	近世整地土Ⅱ	肥前磁器青磁染付有脚鉢	ほぼ完形 高台内蛇の目状に鉄泥を塗る(チャコ痕有) 見込み花文部分を除き青磁釉
560	455	近世整地土Ⅱ	中国製磁器染付鉢	見込みに樹木の枝を呉須で描き、釉裏紅により紅葉を表現する
561	572	近世整地土Ⅱ	中国製磁器染付皿	畚付から高台内無釉
562	457	近世整地土Ⅲ	中国製磁器印判手碗	見込み蛇の目釉剥ぎ 高台畚付け無釉
563	459	107搾場遺構	朝鮮王朝製白磁碗	全面施釉 畚付に砂付着
564	461	南側溝	朝鮮王朝製白磁碗	全面施釉 見込み・畚付に砂目痕
565	469	灰色砂質土層	ベトナム製陶器鉄絵鉢	白化粧上に鉄絵菊花スタンプ文を施し、透明釉を掛ける 内面蛇の目釉剥ぎ
566	470	灰色整地土(含攪乱)	ベトナム製陶器鉄絵鉢	白化粧上に鉄絵菊花スタンプ文を施し、透明釉を掛ける 内面蛇の目釉剥ぎ
567	284	107搾場遺構	ベトナム製陶器鉄絵皿	鉄絵後白濁した釉薬をかける 見込み蛇の目釉剥ぎ
568	447	133土坑	中国製磁器色絵皿	天啓赤絵 景德鎮 人物があぐらをかいている
569	448	133土坑	中国製軟質施釉陶器皿	三彩 印花魚海老文か 全体に被熱 華南産
570	458	068土坑	中国製軟質施釉陶器皿	底部無釉薬 釉薬の剥離が激しい 華南産
571	1010	106土坑	中国製軟質施釉陶器皿	外面白釉 内面緑地に黄色で文様を描く 高台径11.9cm
572	446	盛土	イギリス製銅版転写皿	硬質陶器(軟質磁器)
573	690	194土坑	中国製陶器壺	灰釉
574	454	西側溝	中国製青白磁壺	梅瓶 12~13c
575	464	294土坑	中国製陶器瓶	黒釉 体部中央に段継ぎ 被熱により変色
576	456	110埋壘掘方	中国製白磁香炉	3脚
577	462	盛土一括	中国製陶器急須	宜興窯 底部内に刻印有
578	489	近世整地土Ⅲ	タイ製陶器鉄絵突鉢	宋胡録 外面白化粧後鉄絵 内面体部中央まで白化粧 全体に透明釉 スコタイ産
579	53	近世整地土	中国製陶器壺	褐釉
580	487	218土坑	タイ製陶器壺	体部に条線が巡る 15世紀後半頃のものか シサチャナライ産
581	490	攪乱一括浄化槽脇	ベトナム製陶器壺	胎土は紋胎状 土坑136出土壺(339)と同一個体か
582	494	東側溝	ベトナム製陶器長胴壺	口径7.2cm
583	1046	078土坑・近世整地土Ⅱ	ベトナム製陶器長胴壺	口径16.3cm
584	492	068・125土坑	ベトナム製陶器長胴壺	内面に白い付着物有
585	796	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.8cm・厚さ0.3cm
586	797	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.7cm・厚さ0.4cm
587	798	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.8cm・厚さ0.4cm
588	799	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.7cm・厚さ0.4cm
589	800	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.7cm・厚さ0.4cm
590	801	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.7cm・厚さ0.3cm
591	802	669焼土域	貝製双六駒	表裏面中央に1箇所窪み 最大径1.6cm・厚さ0.2cm
592	513	162埴列建物	碁石	黒色珪質頁岩
593	661	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.0cm・厚さ0.5cm ガラス質付着
594	662	669焼土域	碁石	凝灰質頁岩 最大径2.0cm・厚さ0.8cm
595	788	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.0cm・厚さ0.5cm
596	789	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径1.9cm・厚さ0.4cm
597	790	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径1.8cm
598	791	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.0cm・厚さ0.5cm
599	792	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.1cm・厚さ0.6cm
600	793	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.1cm・厚さ0.5cm
601	794	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径2.0cm・厚さ0.7cm
602	795	669焼土域	碁石	黒色珪質頁岩 最大径1.9cm・厚さ0.6cm
603	666	中世整地土Ⅱ	貝製駒	最大径2.0cm・幅1.8cm・厚さ約0.3cm
604	202	116土坑	肥前磁器加工円盤	最大径2.0cm・厚さ1.9cm
605	655	中世整地土Ⅰ	貝製双六駒	最大径1.8cm・厚さ0.4cm
606	201	098小穴	肥前磁器ミニチュア	染付楼閣山水文碗
607	183	012土坑	土師質土器ミニチュア	全体にキラコ残る 羽釜
608	192	016土坑	土師質土器ミニチュア	播鉢 型造り成形 全面にキラコ付着 播目単位6本
609	187	016土坑	土師質土器ミニチュア	德利 ロクロ成形
610	241	016土坑	土師質土器ミニチュア	蓋 表・裏共にキラコ付着
611	760	109埋壘	バイ貝製独楽	バイ貝上部を切って作成
612	761	028井戸	土師質土器バイ独楽	焼成良好にぶい橙色 バイ独楽の模倣品
613	196	整地土Ⅱ	土師質土器ミニチュア	灯火具 一部鉛釉がかかる
614	184	慶長整地土~焼土層	土師質土器ミニチュア	型抜き成形 上面にキラコ残る 石臼
615	185	近世整地土Ⅰ	土師質土器土人形	型合わせ成形 表面ドロキラ残る 鳥
616	189	攪乱(西土手)	土師質土器人形	型合わせ成形 表面にドロキラ残る 底部に穿孔 虚無僧
617	384	435小穴	土師質土器人形	型合わせ成形 外面キラコ残る 底部に穿孔 仏像
618	186	006井戸	土師質土器面子	型抜き成形 頬かむりをした男性
619	193	294土坑	土師質土器土人形	型合わせ成形 部分的ドロキラ残る 猫
620	1142	中世整地土Ⅱ	銅銭	治平元宝
621	1137	中世整地土Ⅱ	銅銭	元豊通宝
622	1138	中世整地土Ⅱ	銅銭	熙寧元宝
623	1140	中世整地土Ⅱ	銅銭	皇宋通宝
624	1139	中世整地土Ⅱ	銅銭	元豊通宝
625	1136	中世整地土Ⅰ	銅銭	皇宋通宝
626	1130	中世整地土Ⅰ	銅銭	元祐通宝
627	1131	中世整地土Ⅰ	銅銭	元豊通宝
628	1134	中世整地土Ⅰ	銅銭	至和元宝
629	1132	中世整地土Ⅰ	銅銭	天聖元宝
630	1154	第5面焼土層	銅銭	元祐通宝 416埴列建物上
631	1150	第5面焼土層	銅銭	祥符通宝 416埴列建物上
632	1153	第5面焼土層	銅銭	熙寧元宝 416埴列建物上
633	1152	第5面焼土層	銅銭	皇宋通宝 416埴列建物上
634	1166	第5面焼土層	銅銭	聖宋元宝 416埴列建物上
635	1151	第5面焼土層	銅銭	政和通宝 416埴列建物上
636	1155	第5面焼土層	銅銭	皇宋通宝
637	1156	第5面焼土層	銅銭	元豊通宝
638	1174	天正整地土	銅銭	元豊通宝
639	1129	天正整地土	銅銭	開元通宝
640	1160	天正整地土	銅銭	永樂通宝
641	1161	天正整地土	銅銭	政和通宝
642	1158	天正整地土	銅銭	政和通宝
643	1162	天正整地土	銅銭	至和元宝
644	1164	167埴列建物	銅銭	政和通宝
645	1170	慶長焼土層	銅銭	淳熙元宝
646	1171	291埋壘	銅銭	寛永通宝
647	1167	096土坑	銅銭	寛永通宝
648	1172	122土坑	銅銭	寛永通宝
649	1144	109埋壘	銅銭	一銭
650	1146	109埋壘	銅銭	二銭
651	756	108埋壘	銀製指輪	リング径約2.0cm・幅0.7cm リング部分は丸みを持たせたかまぼこ形

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
652	757	108埋藏	銅製指輪	リング径約1.6cm・幅0.3cm リング部分は丸みを持たせたかまぼこ形
653	755	天正整地土	銅製鈴	外：高さ(残) 2.6cm・幅2.3cm、中：高さ1.3cm・幅1.4cm、内：径約0.9cm
654	945	灰色砂質土層	銅製鉄	長さ1.2cm・厚さ0.2cm
655	944	068土坑	銅製鉄	長さ0.7cm・幅0.8cm・厚さ0.1cm
656	936	362土坑	銅製鉄	長さ2.8cm・厚さ0.2cm
657	934	灰色整地土(含攪乱)	銅製掛金具?	長さ4.5cm・厚さ0.4cm
658	939	天正整地土	銅製火箸?	六角形 長さ5.5cm・厚さ0.6cm
659	937	556焼土域	銅製不明品	長さ7.6cm・厚さ0.3cm
660	754	016土坑	銅製蓋	口径6.9cm・器高1.2cm・つまみ径0.85cm
661	752	天正整地土	銅製不明品	輪花形
662	751	南側溝	銅製不明品	輪花形
663	749	528土坑	銅製不明品	四隅に切り込みを入れ、脚状のものをつくる
664	750	天正整地土	銅製不明品	分銅か? 直径1.4cm・高さ0.9cm
665	942	414埴列建物	銅製止金具?	長さ1.9cm・幅1.9cm・厚さ0.1cm
666	941	天正整地土	銅製飾り金具	長さ2.6cm・幅2.7cm・厚さ0.1cm
667	747	349小穴	銅製不明品	「公家町」(京都市埋蔵文化財研究所2004)に類例あり
668	943	564土坑	銅製品 板状不明	長さ7.0cm・幅2.0cm・厚さ0.05cm
669	746	137土坑	銅製小柄	長さ9.6cm・厚さ0.5cm
670	745	054溝	銅製把手	長さ12.1cm・厚さ3.9cm
671	748	414埴列建物	銅製火箸	長さ11.9cm・厚さ0.6cm
672	935	灰褐色砂質土	銅製簪	長さ16.7cm・厚さ0.3cm 渦巻き状の文様
673	739	284土坑	銅製煙管(雁首)	上面に文様が彫られる 長さ3.1cm
674	736	122土坑	銅製煙管(雁首)	残存長6.0cm
675	734	137土坑	銅製煙管(雁首)	残存長4.3cm
676	737	慶長整地土～焼土層	銅製煙管(雁首)	残存長4.3cm
677	741	091小穴	銅製煙管	延べ煙管 残存長13.7cm
678	735	近世整地土Ⅱ	銅製煙管(雁首)	長さ2.5cm
679	742	359埋藏	銅製煙管(雁首)	残存長6.65cm
680	740	162埴列建物上面	銅製煙管(雁首)	長さ7.2cm
681	744	攪乱一括浄化槽脇	銅製煙管(吸口)	残存長5.0cm
682	733	075土坑	銅製煙管(吸口)	羅字が残る 残存長1.1cm
683	743	107搾場遺構	銅製煙管(吸口)	残存長7.25cm
684	853	第5面焼土層	鉄製鍋	鉄錆・炭等付着 厚さ約0.3cm
685	929	慶長焼土層	鉄製鏡	全長20.4cm・厚さ1.3cm
686	927	207合葬	鉄製皿	口径7.5cm・器高2.1cm
687	930	107搾場遺構	鉄製不明品	残存長7.7cm・厚さ0.5cm
688	931	中世整地土Ⅰ	鉄製鉈	長さ19.0cm・幅4.7cm・厚さ0.7cm 上面に使用時に叩き潰れた痕が残る
689	926	第5面焼土層	鉄製包丁	残存長17.5cm・幅5.9cm・厚さ0.3cm 鍛造
690	932	296土坑	鉄製包丁	残存長15.0cm・残存幅4.1cm・厚さ0.3cm 鍛造
691	664	137土坑	骨製ボタン	径1.6cm・最大厚0.3cm
692	667	296土坑	骨製簪	厚さ0.2cm・残存長4.7cm
693	663	161土坑	骨製不明品	双六駒か? 径2.2cm・厚さ0.5cm
694	1052	162埴列建物	骨製不明品	長さ5.1cm・幅1.4cm・厚さ0.2cm
695	668	近世整地土Ⅰ	骨製筭	最大厚0.4cm・残存長14.8cm
696	961	068土坑	骨製歯ブラシ	毛を埋め込む部分は貫通していない
697	962	近世整地土Ⅱ	骨製櫛	裏面に3条縦筋を彫り、毛を埋め込む部分の穴を開ける基準にする 柄を削った痕跡
698	711	192土坑	石製硯	黒色頁岩
699	710	048土坑	石製硯	黒色頁岩
700	713	275土坑	石製硯	流紋岩質凝灰岩 愛媛県虎間石か?
701	706	016土坑	石製硯	珪質頁岩 底面に「～作」銘有 仕上げよりやや粗め
702	709	669焼土域	石製硯	凝灰質頁岩 被熱による歪み有
703	705	中世整地土Ⅱ	石製硯	凝灰質頁岩
704	33	中世整地土Ⅲ	石製硯	凝灰質頁岩 赤間石か? 砥石転用面あり
705	703	137土坑	瓦製硯	裏面に刻み痕あり
706	712	中世整地土Ⅱ	石製硯	黒色頁岩
707	704	第6面	石製硯	凝灰質頁岩 上面に文様(鳥か?)を彫る
708	707	669焼土域	石製硯	凝灰質頁岩
709	721	天正整地土	石製砥石	珪質砂岩 仕上げ 2面使用
710	731	中世整地土Ⅰ	石製砥石	流紋岩質凝灰岩 愛媛県虎間石か 中砥 2面使用
711	717	122土坑	石製砥石	凝灰岩製 中砥 2面使用
712	729	中世整地土Ⅰ	石製砥石	黒色頁岩 中砥 2面使用
713	726	天正整地土	石製砥石	流紋岩質凝灰岩 中砥 4面使用
714	728	中世整地土Ⅰ	石製砥石	黒色頁岩 中砥 2面使用
715	718	133土坑	石製砥石	黒色頁岩 中砥 3面使用
716	716	022小穴	石製砥石	流紋岩質凝灰岩 愛媛県虎間石か? 中砥 3面使用
717	724	天正整地土	石製砥石	黒色頁岩 青砥 中砥 1面使用
718	725	第5面焼土層	石製砥石	黒色頁岩 中砥 1面使用
719	723	403小穴	石製砥石	黒色頁岩 中砥 2面使用
720	727	中世整地土Ⅰ	石製砥石	緑色片岩 中砥 2面使用
721	719	137土坑	石製砥石	粘板岩 中砥 1面使用
722	722	天正整地土	石製砥石	片状ホルンフェルス 中砥 1面使用
723	720	301埴列建物上面土	石製砥石	花崗岩質砂岩 粗砥 慶長(～近世) 4面使用
724	730	中世整地土Ⅰ	石製砥石	花崗岩質砂岩 白浜付近産出のものか 粗砥 4面使用
725	715	006井戸	石製砥石	流紋岩質凝灰岩 中砥 4面使用
726	700	016土坑	火打石	チャート 1.84g
727	701	122土坑	火打石	チャート 12.77g
728	702	366土坑	火打石	チャート 3.92g
729	1186	366土坑	火打石	チャート 27.24g
730	695	118土坑	火打石	サヌカイト 90.91g
731	1187	366土坑	火打石	チャート 7.52g
732	699	016土坑	火打石	チャート 43.78g
733	698	431土坑	火打石	サヌカイト 52.09g
734	697	237土坑	火打石	サヌカイト 52.07g
735	696	118土坑	火打石	サヌカイト 97.70g
736	693	近世整地土Ⅱ	火打石	サヌカイト 278.95g
737	692	045土坑	火打石	サヌカイト 399.28g
738	694	天正整地土	火打石	サヌカイト 400.77g
739	1021	374土坑	石製一石五輪塔	砂岩製 刻文字有 残存高16.5cm
740	858	天正整地土	石製一石五輪塔	花崗岩製 水輪部 最大径17.6cm
741	1020	中央トレンチ南側	石製一石五輪塔	花崗岩製 刻文字有 残存高32.0cm
742	857	近世整地土Ⅱ	石製鐘	砂岩製 ほぼ完形
743	331	第6面面検出	石製連座	砂岩製
744	334	天正期面検出	石製連座	砂岩製 刻文字有

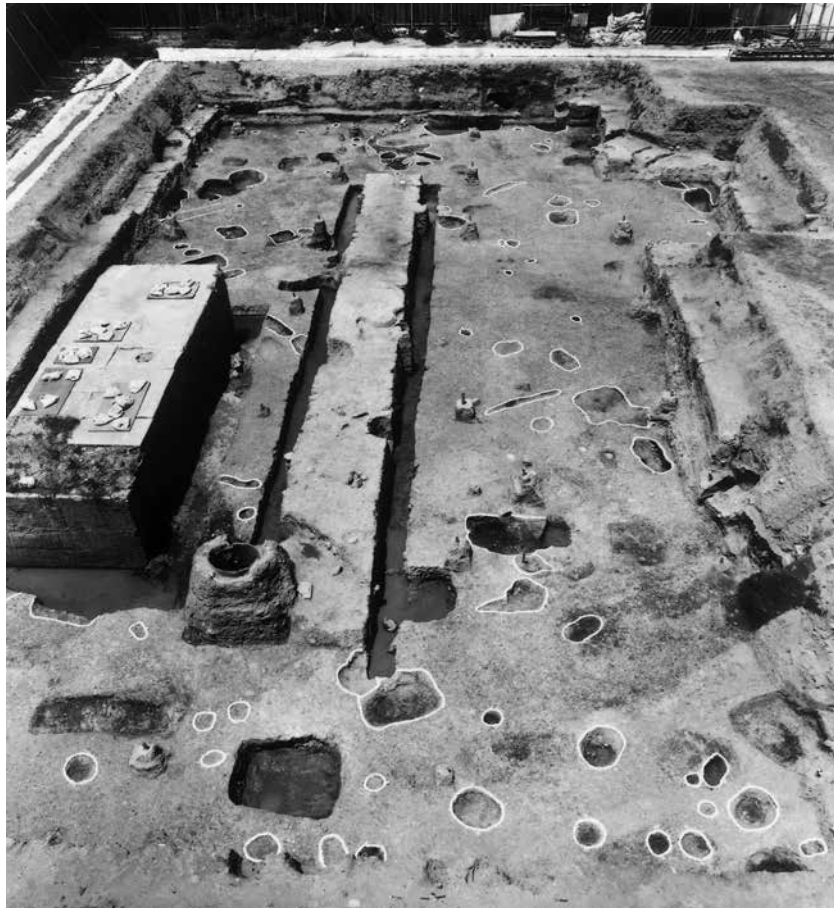
遺物観察表 9

遺物番号	実測番号	遺構番号・層位	遺物名	備考
745	26	第2面検出礎石	石製不明品	礫岩 全体に強い被熱
746	293	374土坑周辺土手	石製茶臼	砂岩
747	762	489井戸	石製石臼	花崗岩製 播目6本 被熱痕跡あり 礎石に転用した際にのっていた角柱の痕跡
748	115	012土坑	石製石臼	砂岩 播目7本
749	836	天正整地土	瓦質不明品	厚さ4.0cm 側面はV字状 用途不明
750	828	天正整地土	瓦質管	残存長29.9cm・残存幅13.6cm・厚さ2.0cm
751	820	296土坑	瓦質不明品	穿孔部に金属が入っている 平坦面は未調整 残存長20.9cm・残存幅24.2cm・高さ1.7cm
752	854	121溝	瓦質U字溝材	完形面2枚有 長さ34.4cm・幅22.2cm・厚さ12.4cm
753	821	489井戸	瓦質井戸枠	長さ32.9cm・幅26.0cm・厚さ2.7cm
754	810	156瓦質材立遺構	瓦質不明品	長さ45.7cm・残存幅25.2cm・厚さ2.4cm
755	814	160井戸	天窓用瓦	把手状のものが付いている面は未調整 残存長縦18.8cm・横23.7cm・厚さ1.3cm
756	403	054溝	平瓦	残存長20.6cm・残存幅12.9cm・厚さ1.1cm
757	162	136土坑	平瓦	「○」の刻印 残存長12.1cm・残存幅16.6cm・厚さ1.6cm
758	811	中世整地土Ⅰ	平瓦	長さ29.8cm・幅27.7cm・厚さ2.0cm
759	812	162増列建物	平瓦	長さ26.6cm・残存幅20.5cm・厚さ1.8cm
760	815	454土坑	平瓦	長さ26.7cm・幅19.5cm・厚さ1.9cm
761	708	414増列建物	埴	2箇所穿孔有 長さ28.7cm・幅23.1cm・厚さ2.7cm
762	1075	162増列建物	埴	長さ28.7cm・幅23.2cm・厚さ2.4cm
763	1091	162増列建物	埴	長さ28.0cm・幅22.9cm・厚さ2.2cm
764	54	414増列建物	埴	へらによる線刻有 長さ28.1cm・幅23.55cm・厚さ1.9cm
765	164	136土坑	丸瓦	長さ25.6cm・幅12.3cm・器高5.9cm・厚さ1.4cm
766	404	054溝	丸瓦	コビキB 凹面に竹管状の「◎」痕跡 残存長22.3cm・残存幅12.2cm・高さ6.1cm・厚さ1.5cm
767	822	054溝	丸瓦	凸面「堺泉 漢喜三郎」刻印有 凹面に櫛状工具による強い線条痕跡あり
768	825	489井戸	丸瓦	コビキB 長さ24.0cm・幅12.2cm・高さ5.55cm・厚さ1.5cm
769	823	162増列建物東西ベルト	丸瓦	コビキA 吊り輪痕跡あり 長さ28.2cm・幅13.3cm・高さ7.0cm・幅1.8cm
770	824	454土坑	丸瓦	コビキA 長さ28.1cm・幅14.2cm・高さ7.1cm・厚さ2.2cm
771	829	446土坑	丸瓦	長さ30.7cm・幅19.2cm・厚さ2.3cm
772	827	天正整地土	丸瓦	コビキA 凹面棒タキ痕 長さ29.2cm・幅12.5cm・高さ6.3cm・厚さ1.95cm
773	826	279土坑	丸瓦	コビキA 残存長19.5cm・幅12.2cm・高さ6.4cm・厚さ2.3cm
774	818	中世整地土Ⅱ	軒平瓦	唐草文様 平瓦部厚さ2.0cm
775	817	121溝	軒平瓦	唐草文様 瓦当部厚さ2.7cm
776	819	中世整地土Ⅱ	軒平瓦	宝珠唐草文様 平瓦部厚さ1.9cm
777	405	054溝	軒丸瓦	巴文瓦当上部刻印「堺」有 丸瓦部厚さ2.1cm・瓦当部径13.5cm
778	839	284土坑	軒丸瓦	コビキB 丸瓦部厚さ1.5cm・瓦当部径13.8cm 瓦当部「堺瓦忽」刻印有 連珠16個
779	838	489井戸	軒丸瓦	丸瓦部厚さ2.0cm・瓦当部径13.0cm
780	833	296土坑	軒丸瓦	瓦当部「南御坊」 瓦当部径18.0cm以上・瓦当部厚さ2.6cm
781	816	279土坑	軒平瓦	残存長25.7cm・平瓦厚さ2.2cm
782	65	006井戸	棧瓦	瓦当面キヤコ付着 残存長17.0cm
783	165	136土坑	軒丸瓦	三巴文右巻き・珠文数8・釘孔1 丸瓦部厚さ1.0cm・瓦当部径13.3cm
784	669	489井戸	鬼瓦	厚さ2.5cm へら彫り・貼り付けによる装飾
785	834	天正整地土	鬼瓦	厚さ2.8cm
786	832	114小穴	鬼瓦	火炎宝珠 厚さ1.2cm 宝珠部貼り付け 宝珠部裏面把手有
787	831	278土坑	鬼瓦	桃 厚さ2.3cm
788	830	192土坑	鬼瓦	火炎宝珠 厚さ1.7cm
789	835	167増列建物	鬼瓦	増掘方(内側)より出土 厚さ5.0cm
790	837	天正整地土	鬼瓦	厚さ4.8cm
791	860	近世整地土Ⅰ	埴窯道具	円筒形焼台 径13.1cm・高さ2.7cm
792	861	070土坑	埴窯道具	円筒形焼台 径14.4cm・高さ3.7cm
793	859	016土坑	埴窯道具	円筒形焼台 径14.4cm・高さ4.4cm
794	862	近世整地土Ⅱ	埴窯道具	円筒形焼台 径17.0cm・高さ4.3cm
795	864	495井戸	埴窯道具	円筒形焼台 径17.5cm・高さ4.7cm
796	863	122土坑	埴窯道具	円筒形焼台 径18.2cm・高さ5.6cm
797	450	335埋壘	中国製磁器窯道具	景德鎮窯系窯道具 上面布目痕 径4.0cm・厚さ0.4cm 上面の高台痕跡高台径3.6cm
798	451	灰色砂質土層(整地土)	中国製磁器窯道具	景德鎮窯系窯道具 上面布目痕 上面の高台痕跡高台径3.5cm
799	691	攪乱	中国製磁器窯道具	景德鎮窯系窯道具 上面布目痕
800	1083	045土坑	鋳型	黒味が残る 最大長3.6cm・最大幅2.7cm・残存長2.0cm
801	1053	447土坑	鋳型	最大長5.2cm・最大幅2.6cm・残存厚2.9cm
802	1056	中世整地土Ⅰ	鋳型	黒味が残る 最大長6.1cm・最大幅5.0cm・残存厚2.5cm
803	1055	中世整地土Ⅰ	鋳型	かすかに黒味痕跡有 鋳型成形時の挽いた痕が残る 最大長5.0cm・最大幅2.9cm・残存厚3.5cm
804	1051	天正整地土	鋳型	粗型 上面斜格子状刻み目 最大長3.5cm・最大幅4.4cm・残存厚2.0cm
805	191	慶長整地面~火災面	烏目?	増列建物上面出土 瓦転用
806	1061	天正整地土	三叉状土製品	残存長4.4cm・残存幅4.65cm
807	1064	447土坑	三叉状土製品	残存長6.3cm・残存幅4.2cm
808	1057	中世整地土Ⅰ	鋳型	大型の鋳型の一部か? 厚さ8.5cm
809	1102	中世整地土Ⅰ	とりべ	口径8.65cm
810	1059	415増列建物増列掘方	とりべ	銅付着 口径10.0cm
811	1060	中世整地土Ⅱ	とりべ	銅付着 口径9.9cm
812	1058	617土坑	とりべ	0.3~0.5cm大の礫含む 砂利を多く含む 銅(赤色)付着 口径9.75cm
813	1101	東側溝	とりべ	外面指オサ工痕顕著 口縁部横ナデ 口径8.4cm
814	1063	527井戸	とりべ	銅付着 口径13.6cm
815	1103	中世整地土Ⅲ	とりべ	口径13.05cm
816	1062	中世整地土Ⅱ	とりべ	銅付着 口径14.5cm
817	1087	275土坑	掛鍋	最大胴部径11.4cm・残存高10.9cm 内面銅付着
818	890	469土坑	鋳型	溶解炉の可能性あり
819	889	469土坑	鋳型	溶解炉の可能性あり
820	1094	中世整地土Ⅰ	羽口	スラグ付着被熱による変色
821	1096	天正整地土	羽口	スラグ付着被熱による変色
822	1065	648埋壘	羽口	スラグ付着
823	1066	天正整地土	羽口	スラグ付着
824	1067	中世整地土Ⅰ	羽口	スラグ付着
825	1099	010土坑	羽口	被熱による変色
826	1088	中世整地土Ⅰ	鉄滓	423.99g 炭が絡む
827	1049	中世整地土Ⅰ	鉄滓	502.35g 炭が絡む
828	1084	中世整地土Ⅰ	銅滓	6.22g
829	472	中世整地土Ⅰ	銅滓	9.63g
830	1047	中世整地土Ⅰ	銅滓	12.62g
831	1090	中世整地土Ⅰ	銅滓	24.80g
832	1089	中世整地土Ⅱ	銅滓	40.85g
833	1072	070土坑	炉壁	内面に不純物大量に付着
834	1069	122土坑	炉壁	内面に不純物大量に付着
835	1068	136土坑	炉壁	内面に不純物大量に付着
836	1071	近世整地土Ⅱ	炉壁	内面に不純物大量に付着

图

版

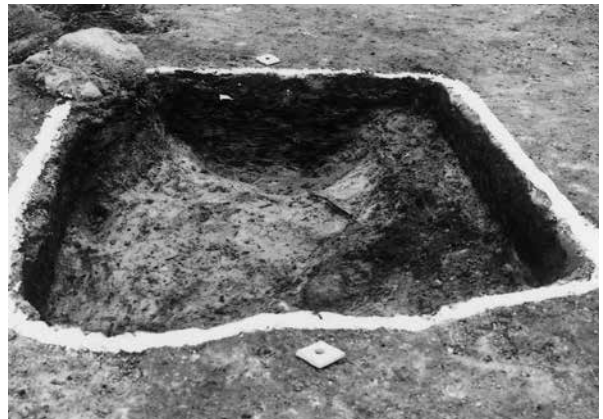




1 第7面/全景（南東から）



2 654溝/全景（北から）



3 657土坑/全景（西から）

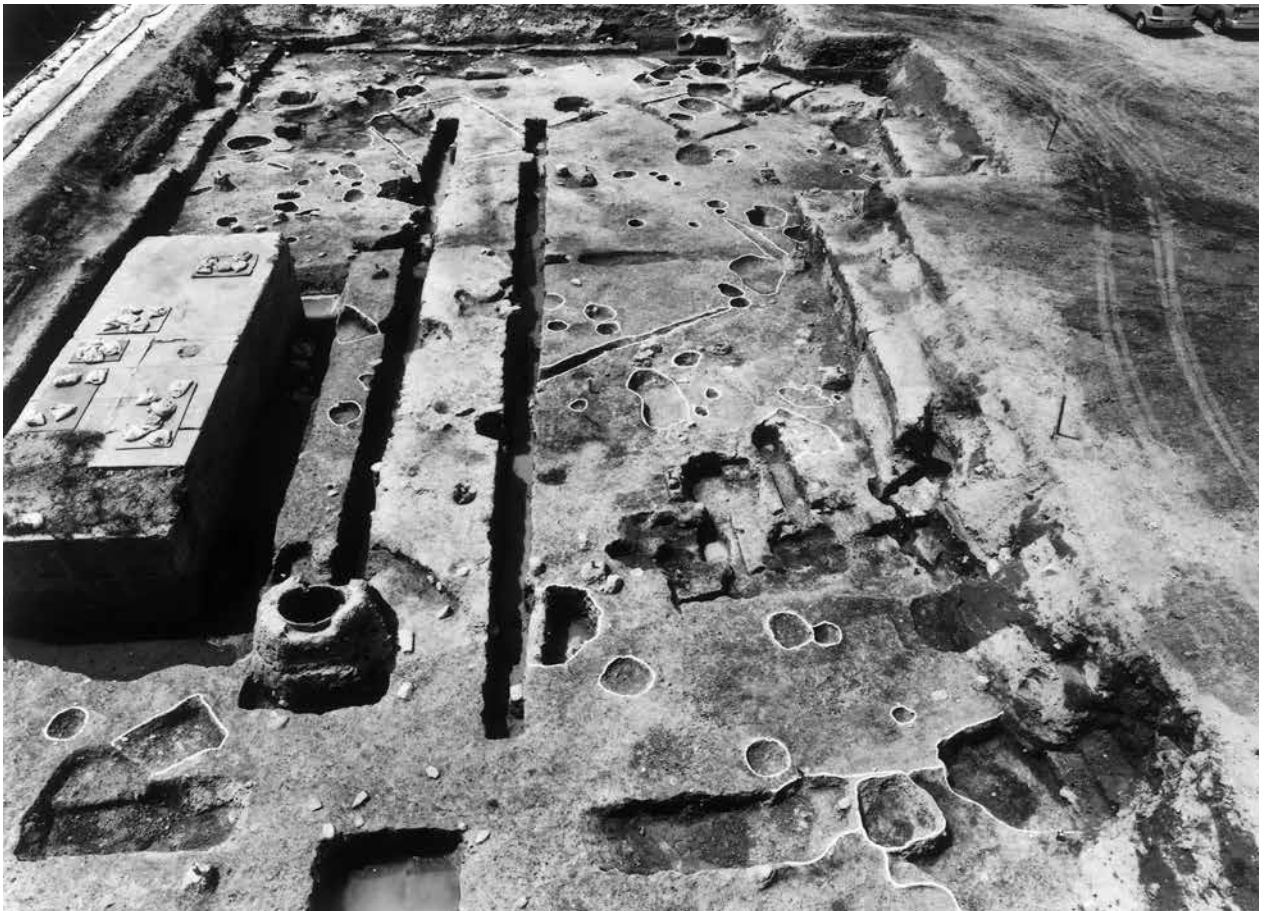


4 669焼土域/全景（東から）

図版2 第6面



1 第6面／全景（北東から）



2 第6面／全景（南東から）



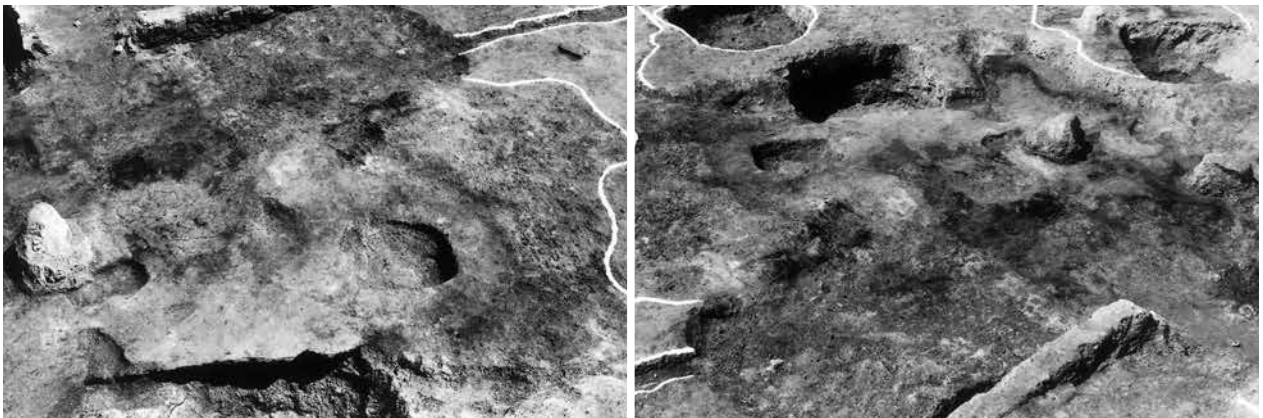
1 530埴列建物／全景（西から）



2 581礎石建物／全景（北から）

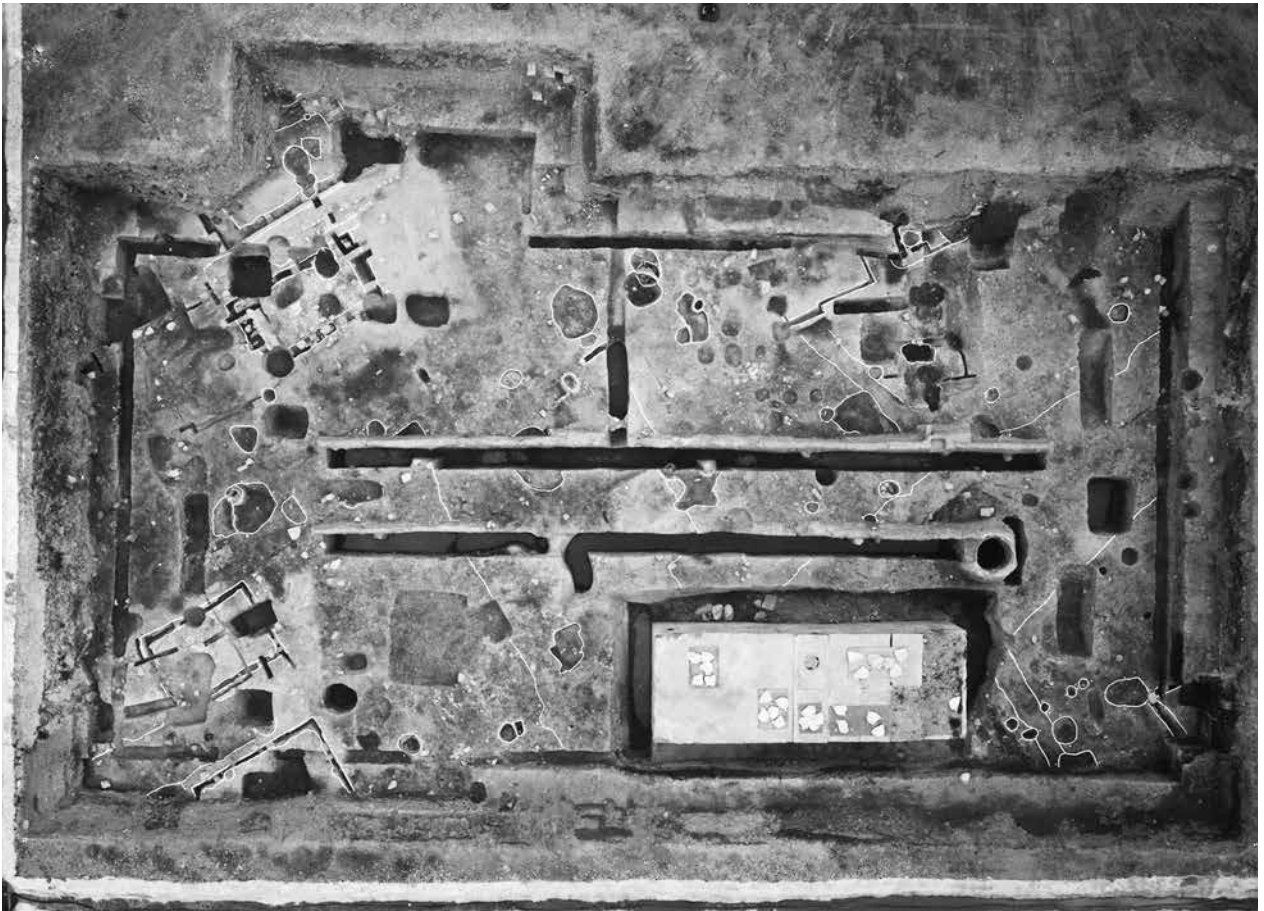


3 582礎石建物／全景（北から）



4 556・517焼土域 左：全景（南西から） 右：全景（東から）

図版4 第5面



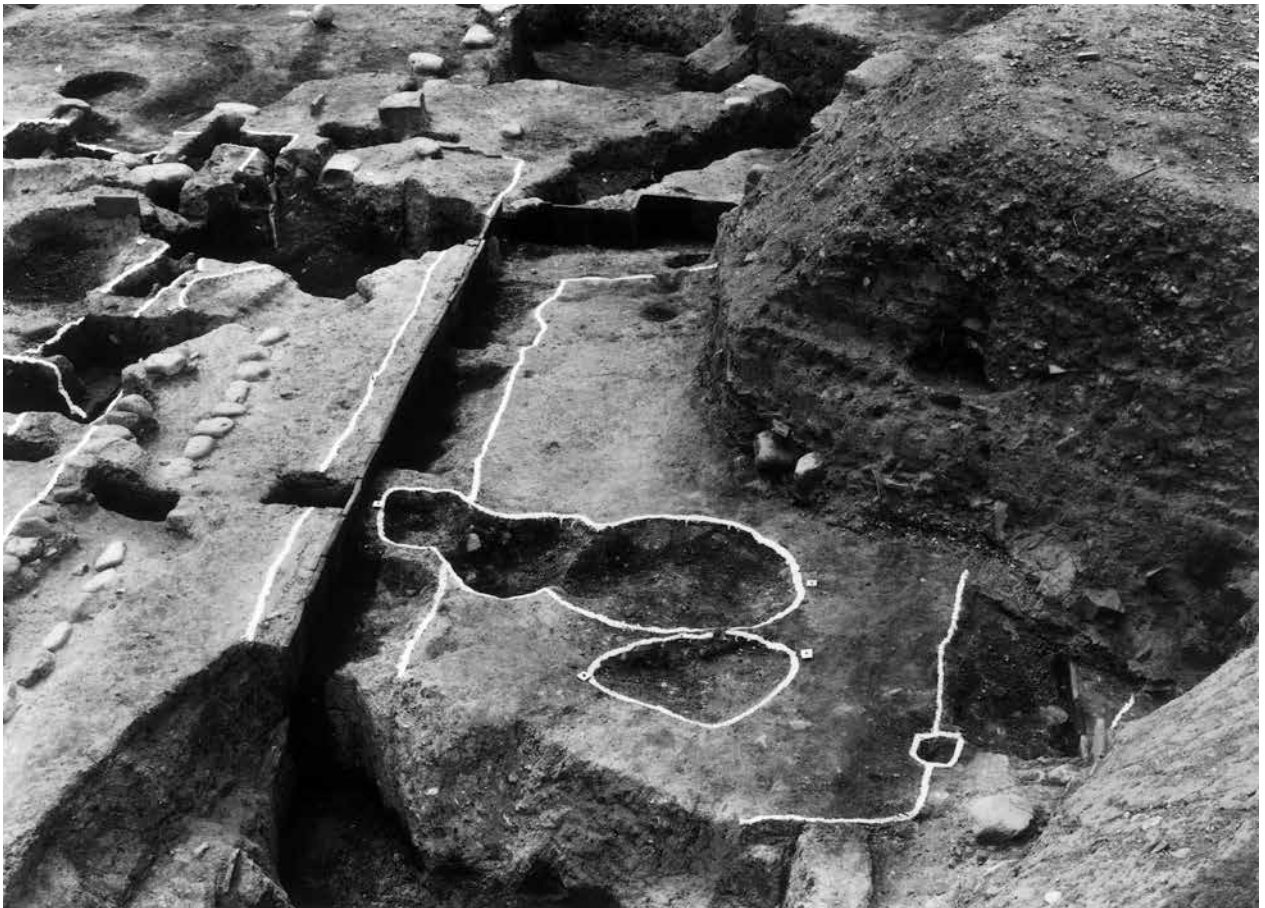
1 第5面／全景（垂直）



2 416号列建物／全景（西から）



1 415埴列建物／全景（西から）



2 414埴列建物／全景（東から）

図版6 第5面



1 419埴列建物／全景（北東から）



2 418埴列建物／全景（北から）



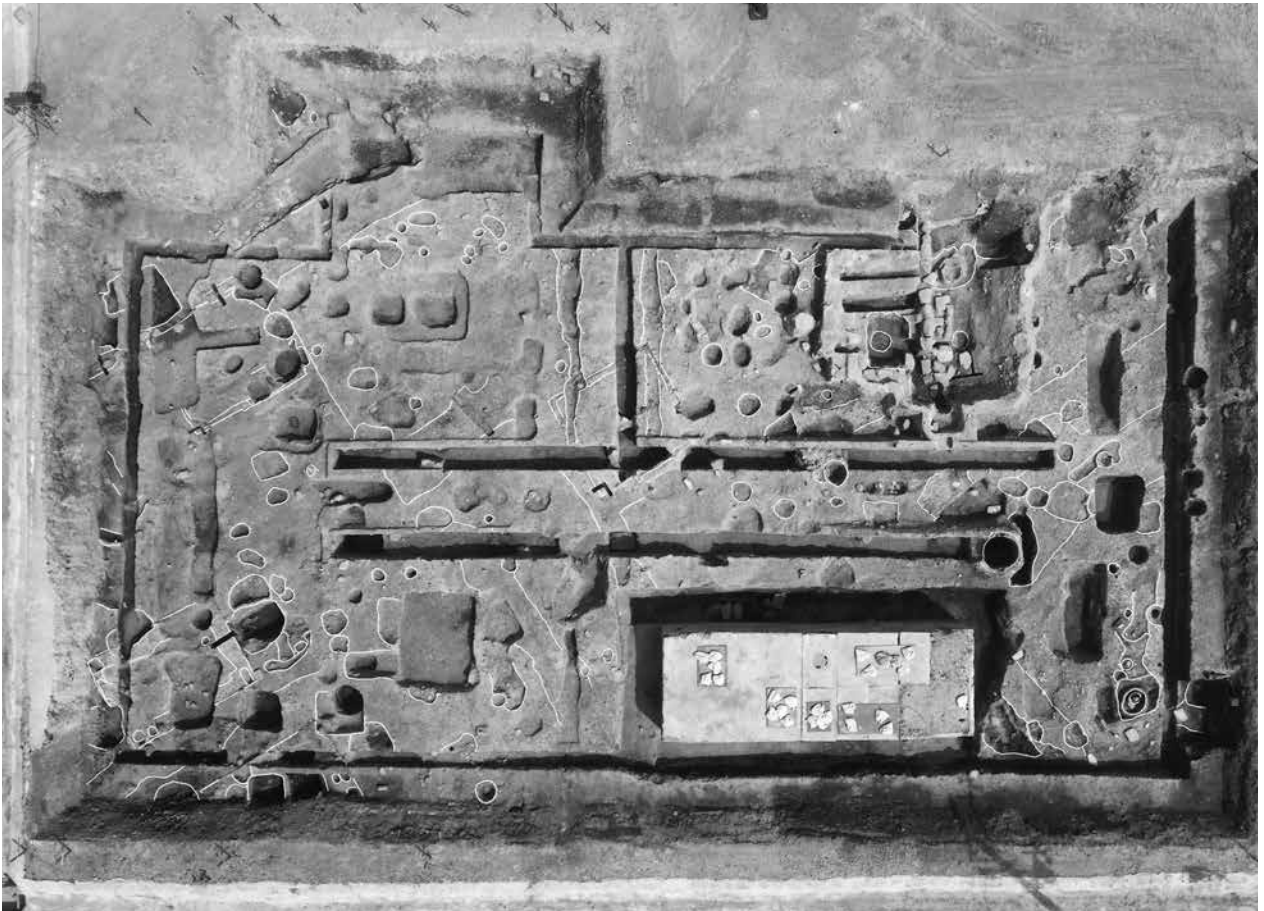
3 421側溝／全景（東から）



4 454土坑／全景（東から）



5 417埴列建物 左：全景（東から） 右上：東辺（北西から） 右下：北辺（南西から）



1 第4面／全景（垂直）



2 162号建物／礎石検出状況（西から）

図版 8 第 4 面



1 162埴列建物／床下検出状況（西から）



2 162埴列建物／全景（東から）



3 162埴列建物／入口部（西から）



4 163埴列建物／全景（北から）



1 165樽列建物／全景（南西から）



2 164樽列建物／全景（南東から）



3 166樽列建物／全景（北から）



4 167樽列建物／西辺（南東から）

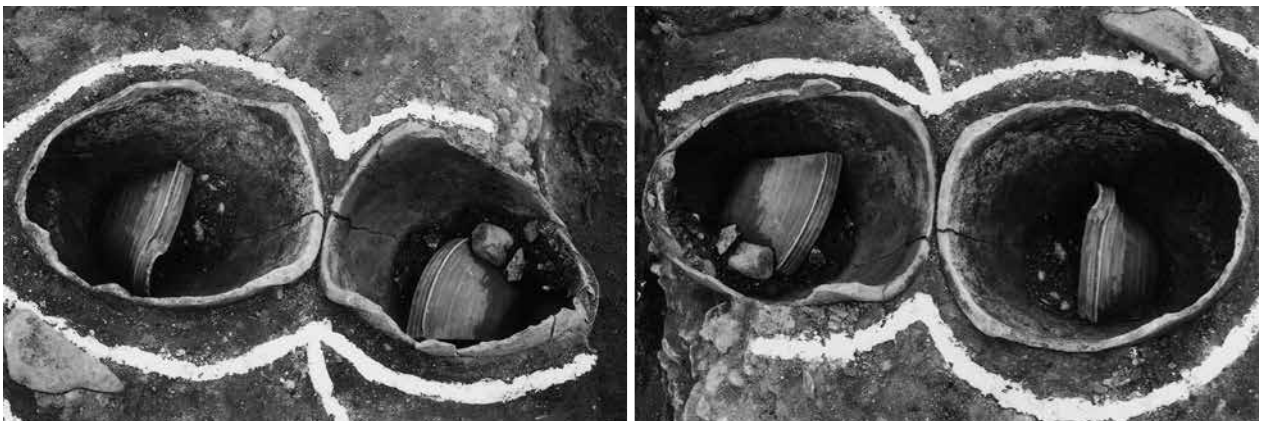


5 301樽列建物／西隅（北東から）

図版10 第3面



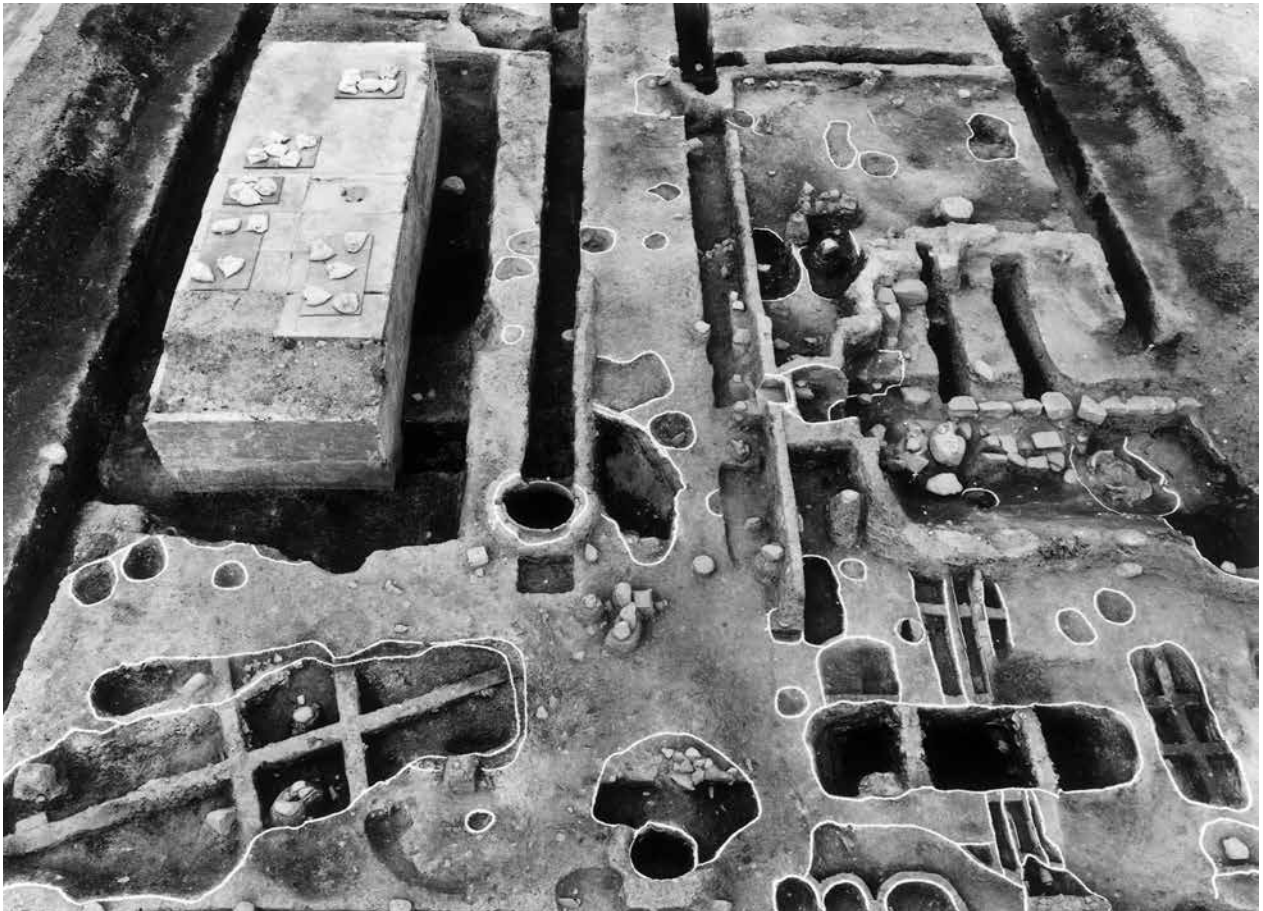
1 第3面／全景（北東から）



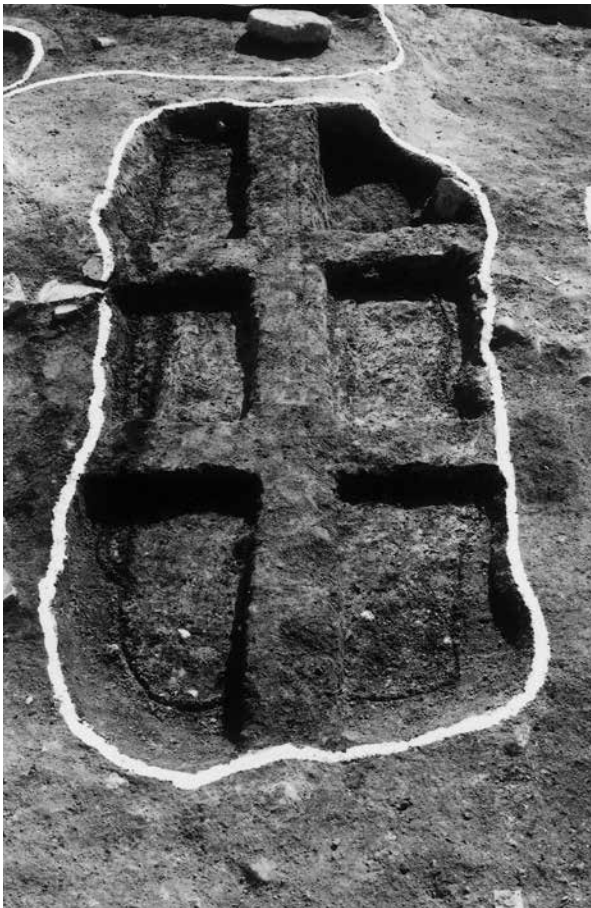
2 207合甕 左：全景（北西から） 右：全景（南東から）



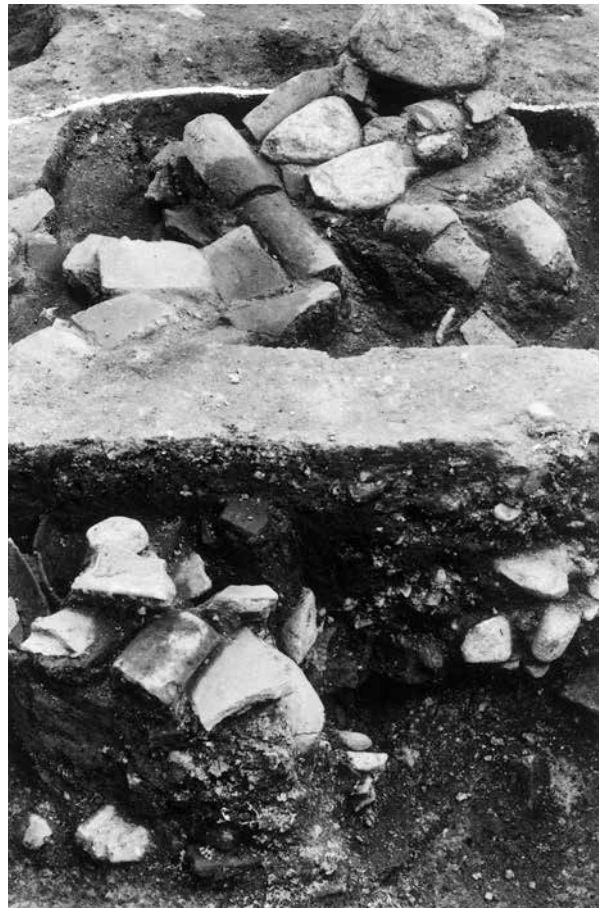
3 192土坑 左：土層断面（北から） 右：全景（東から）



1 第2面／全景（南東から）

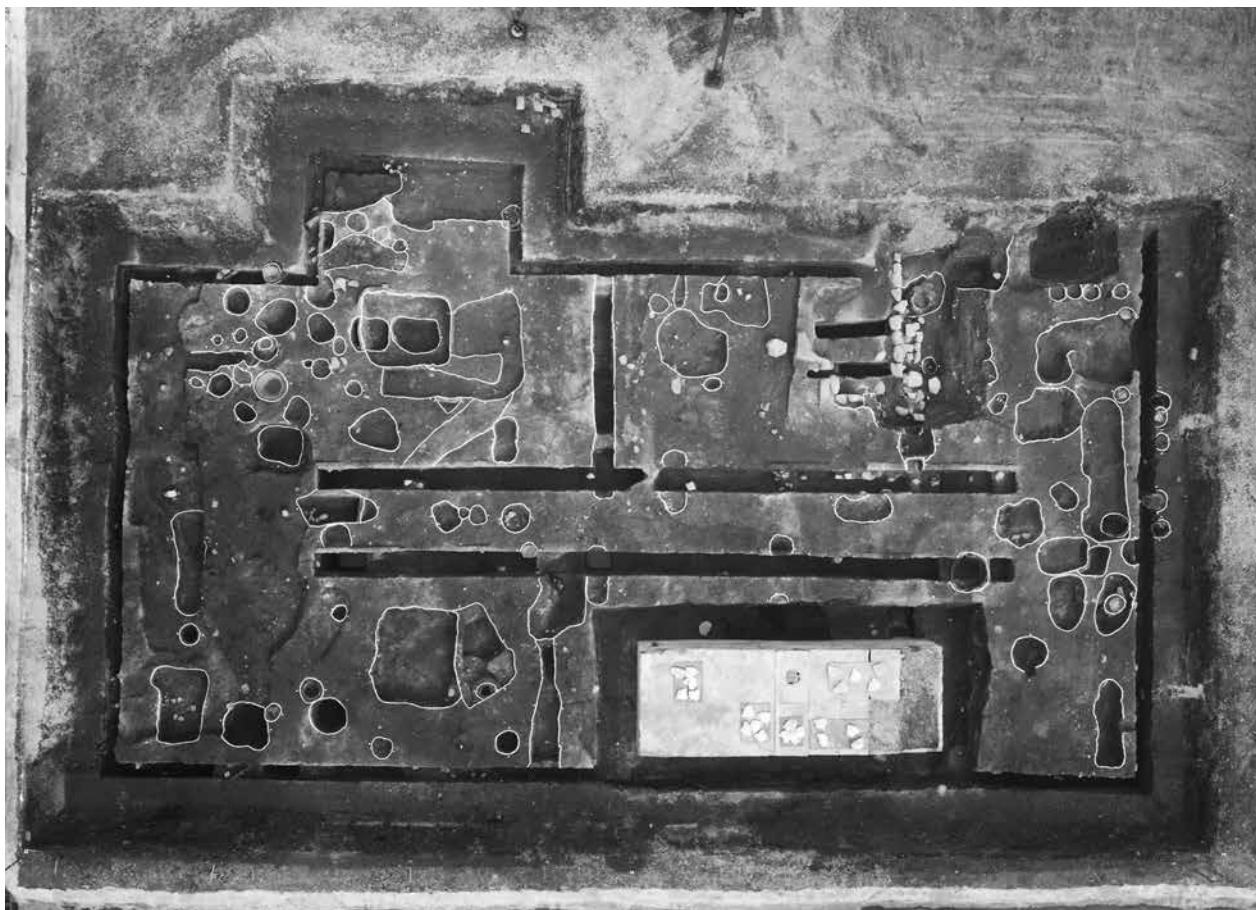


2 118土坑／検出状況（北西から）

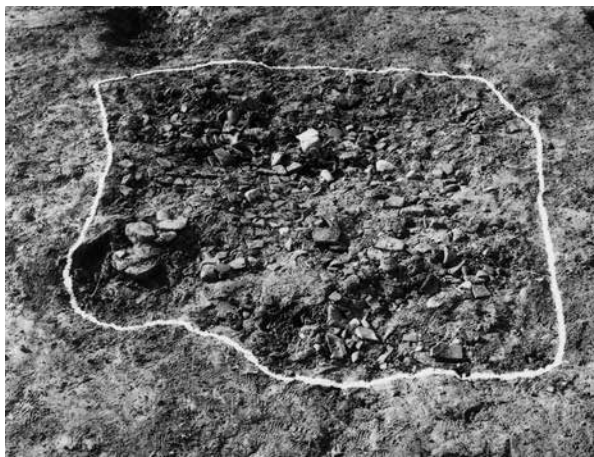


3 136土坑／遺物出土状況（北西から）

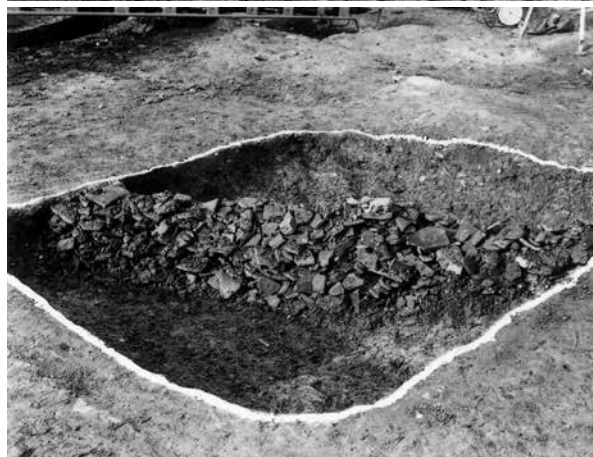
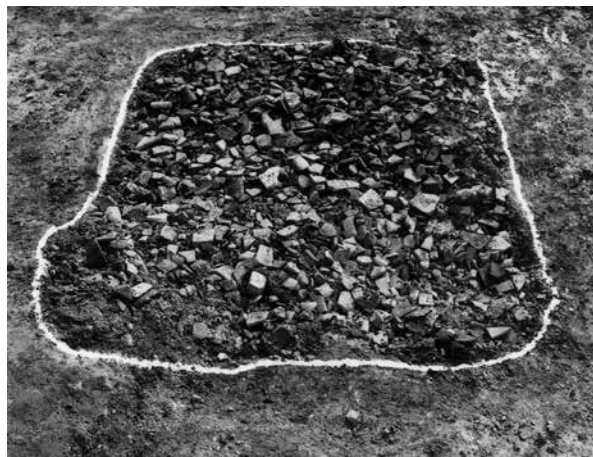
図版12 第1面



1 第1面／全景（垂直）



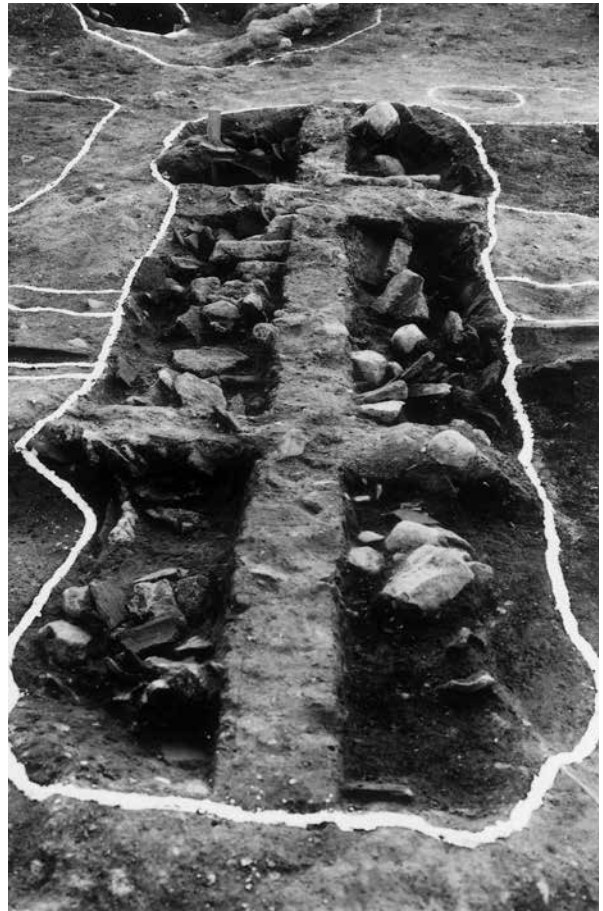
2 001土坑 上：遺物出土状況（北東から）
下：土層断面（東から）



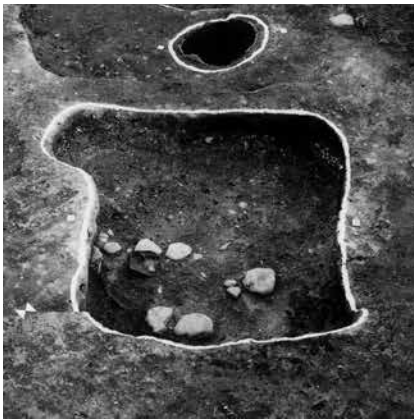
3 002土坑 上：遺物出土状況（北西から）
下：土層断面（東から）



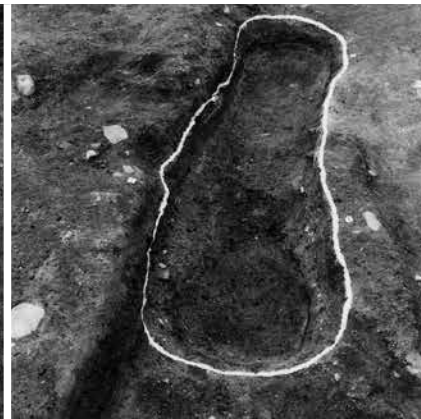
1 099地鎮遺構／全景（南西から）



2 122土坑／遺物出土状況（北東から）



3 012土坑／全景（南西から）



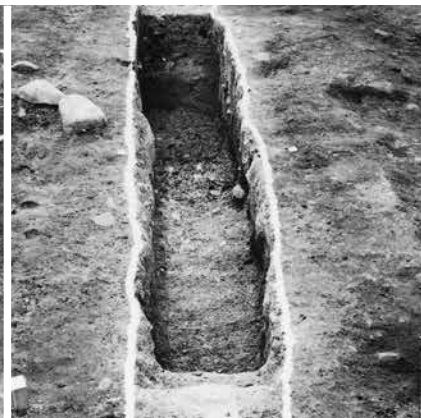
4 016土坑／全景（北東から）



5 106土坑／全景（北西から）



6 003井戸／全景（南西から）

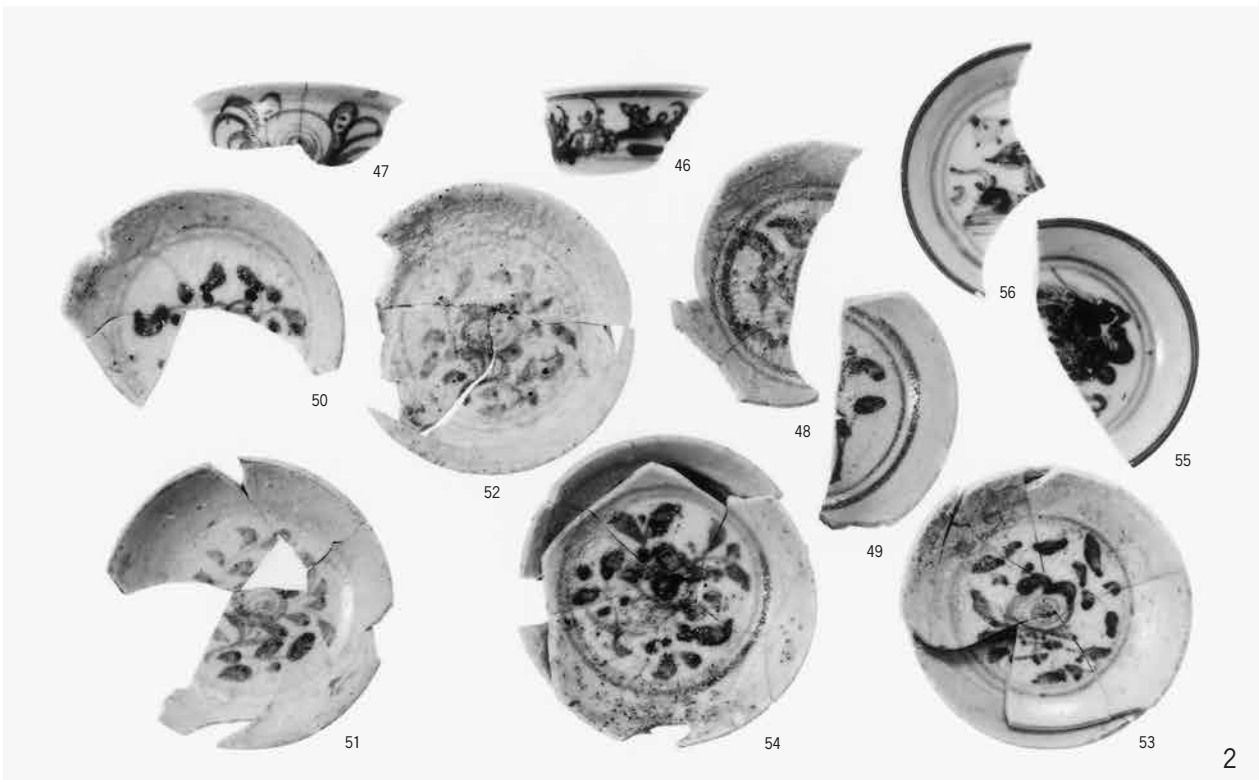
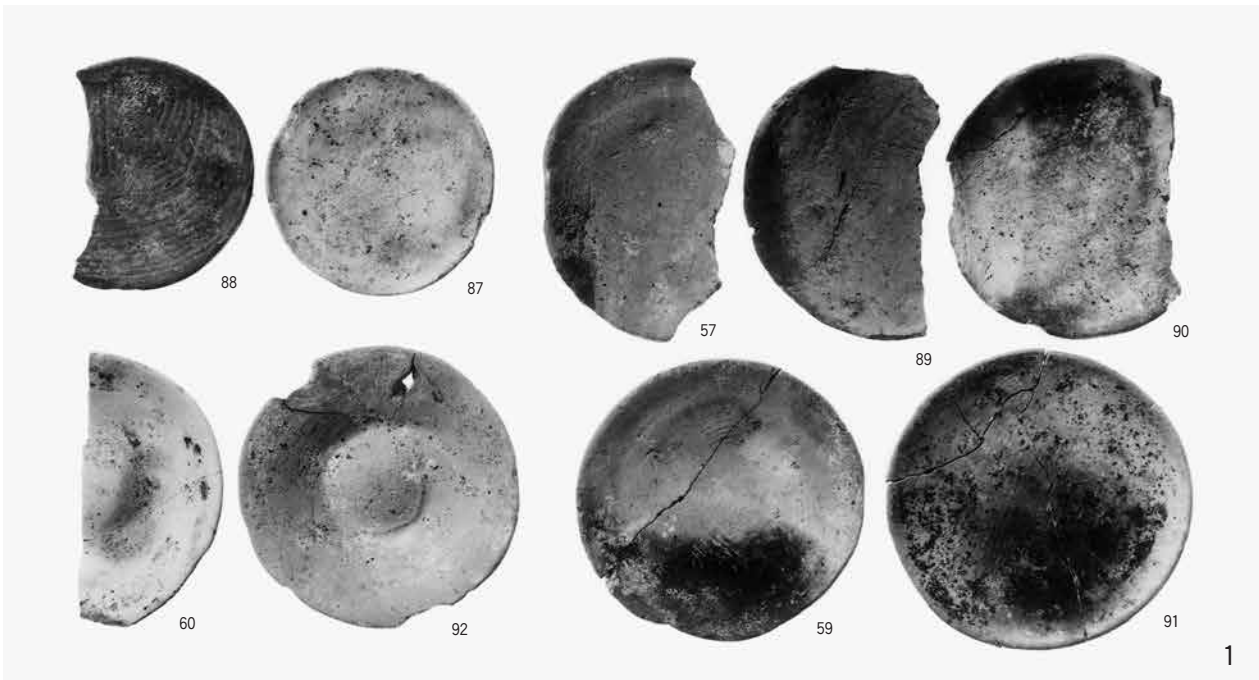


7 054溝／全景（北東から）

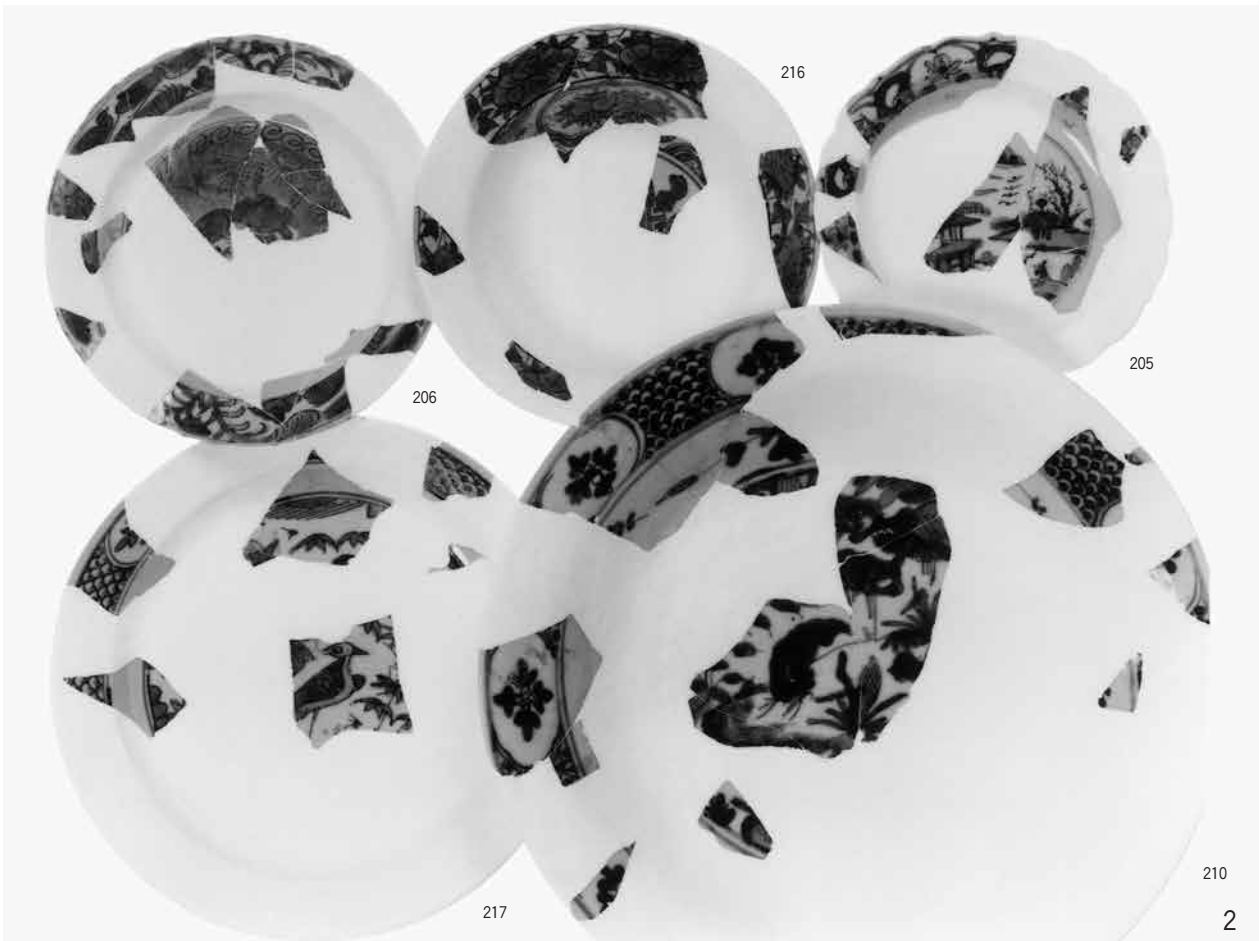
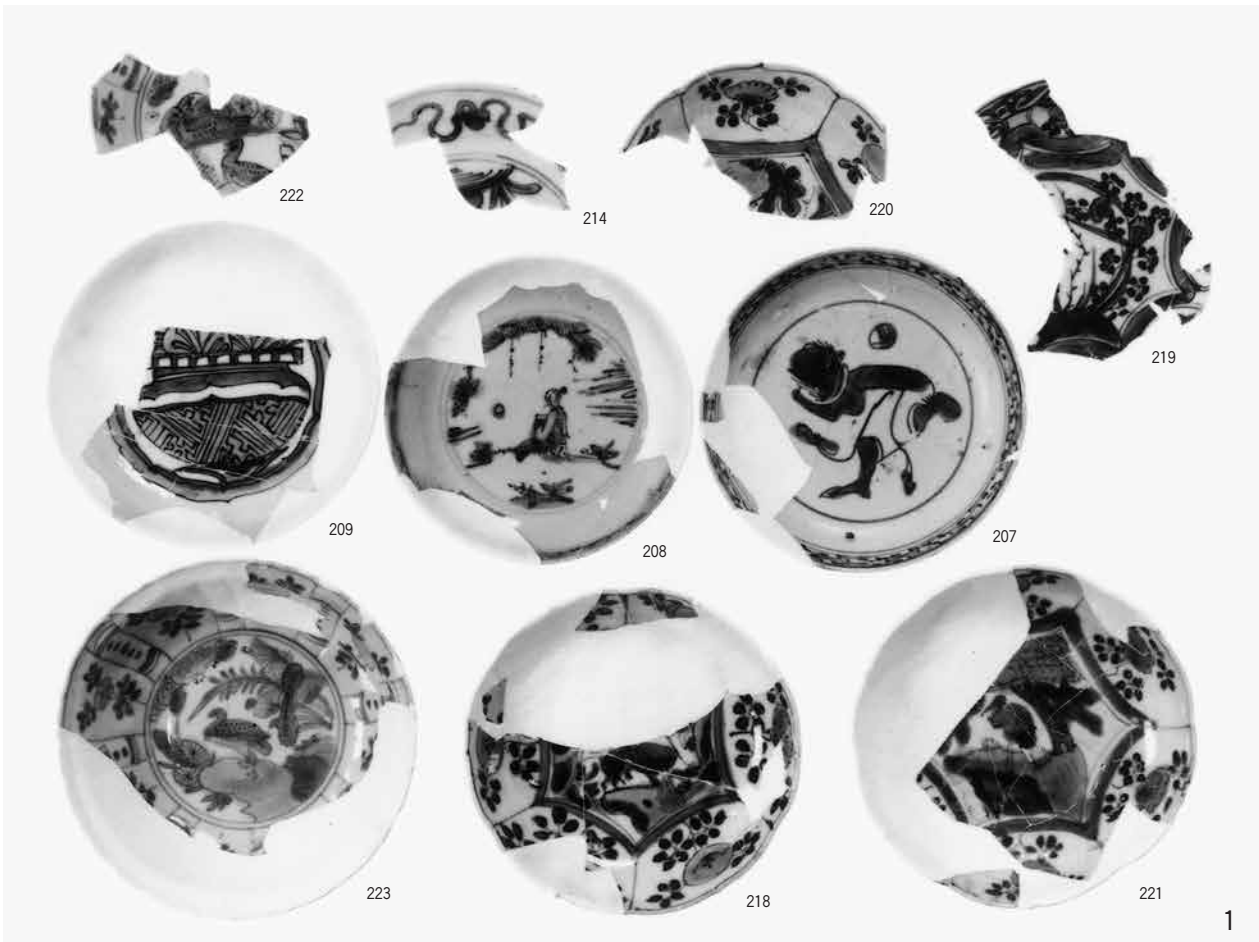


8 094溝／全景（南西から）

図版14 出土遺物（1）



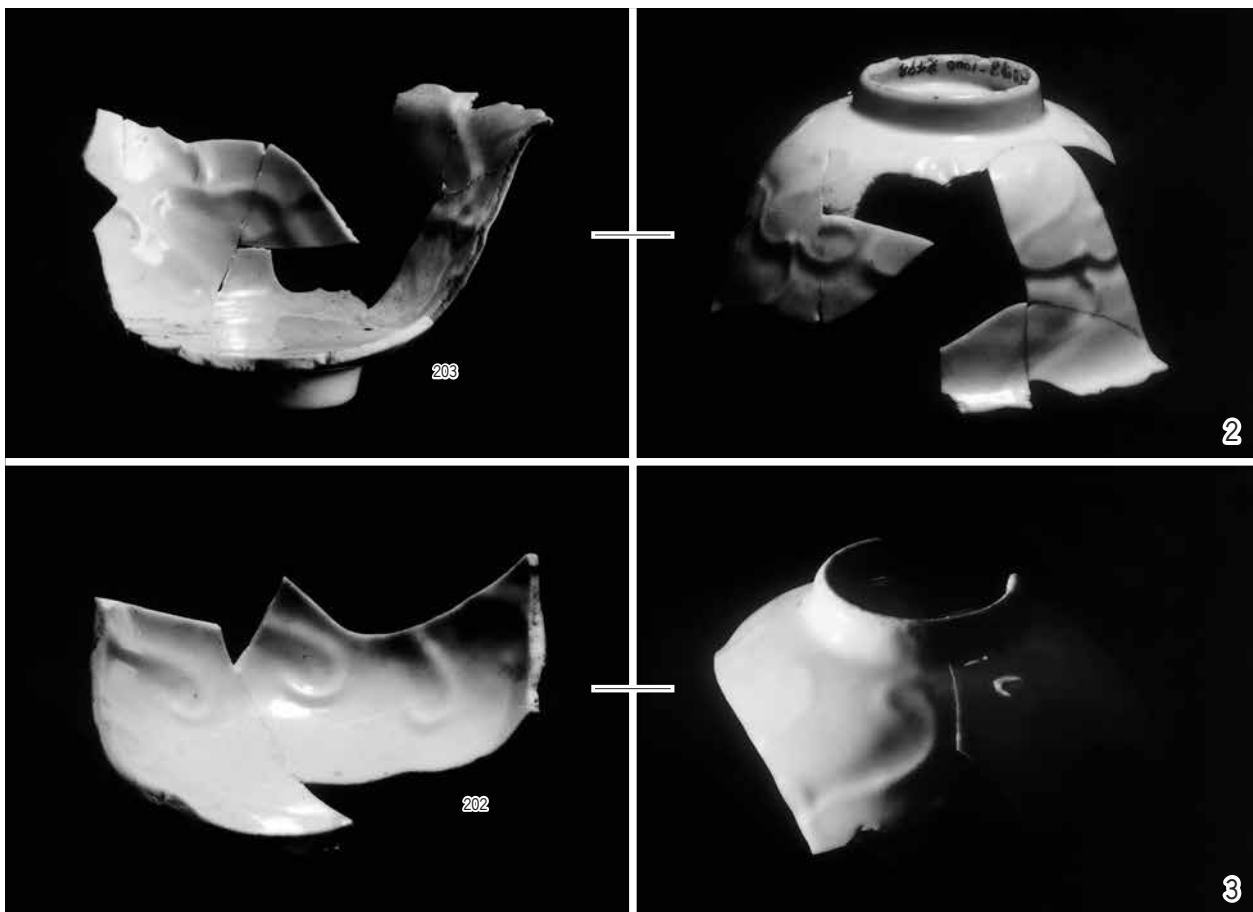
1 第6・7面焼土層出土遺物 2 669焼土域（第7面焼土）出土遺物
3・4 681井戸出土遺物



1 162号埴列建物出土中国製染付

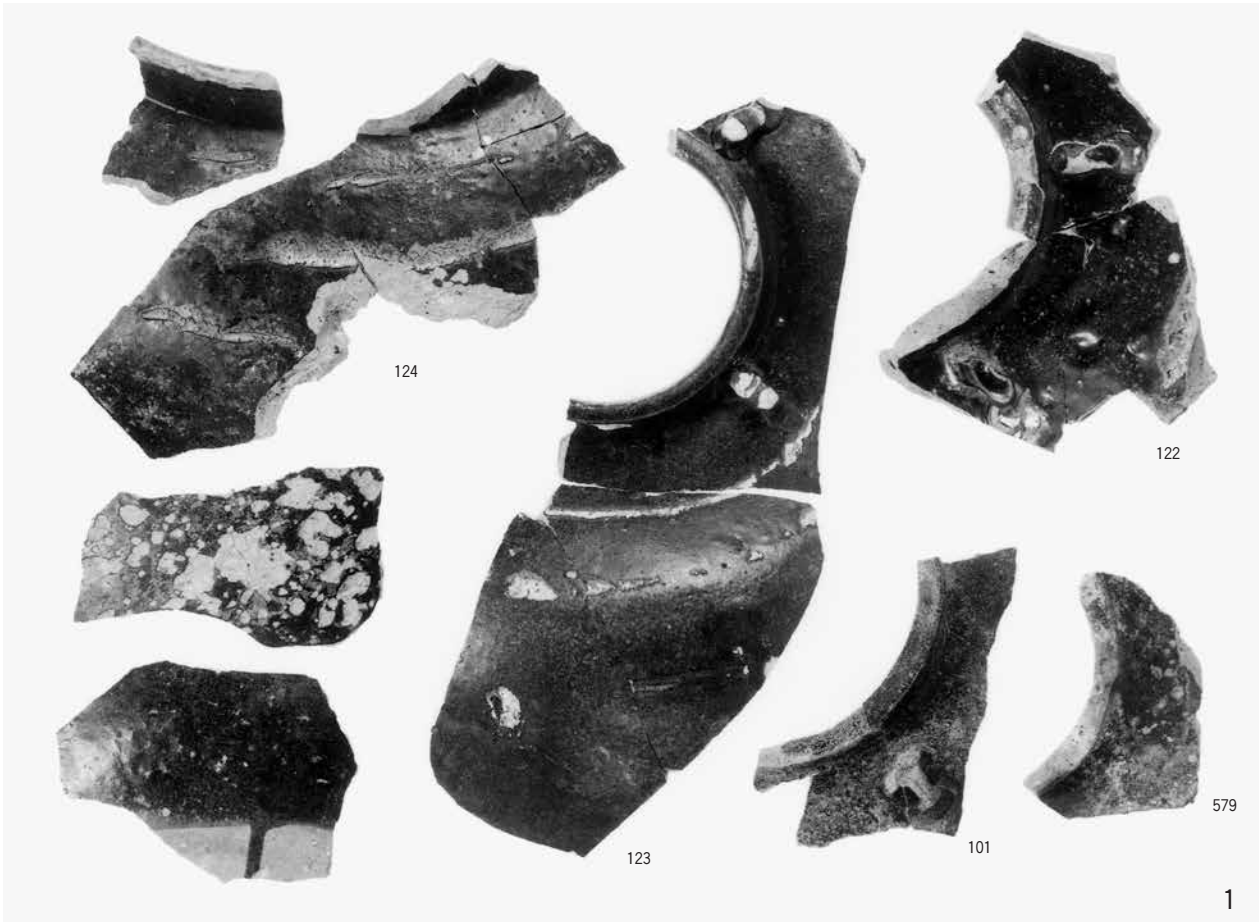
2 162号埴列建物出土中国製染付

図版16 出土遺物（3）



1 162樽列建物出土国産陶器

2・3 162樽列建物出土中国製白磁碗



2



3



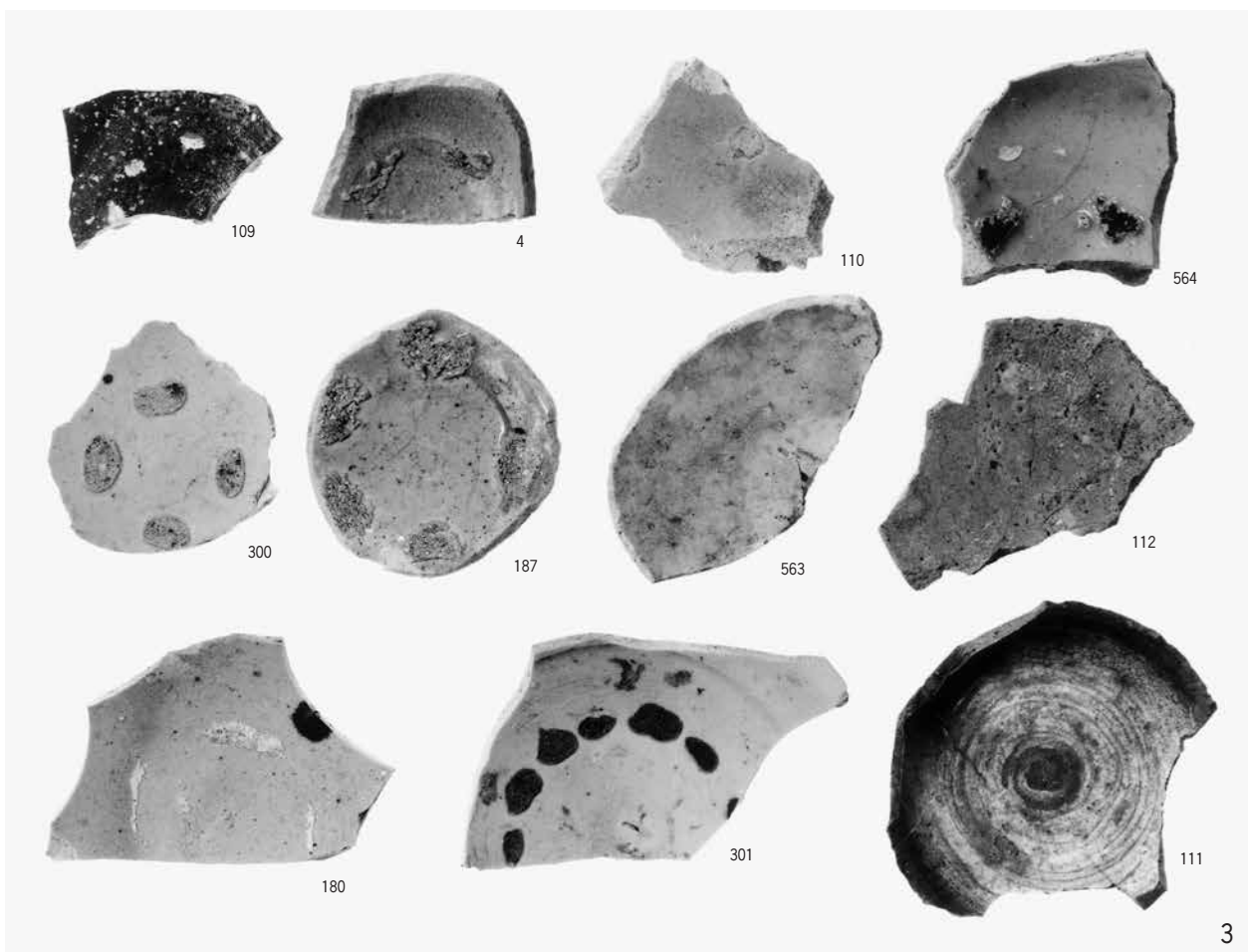
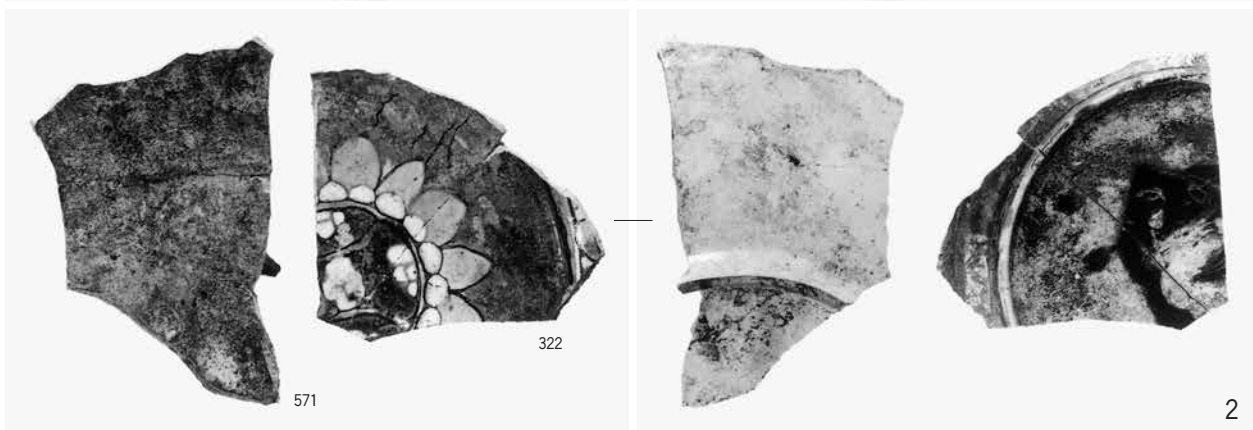
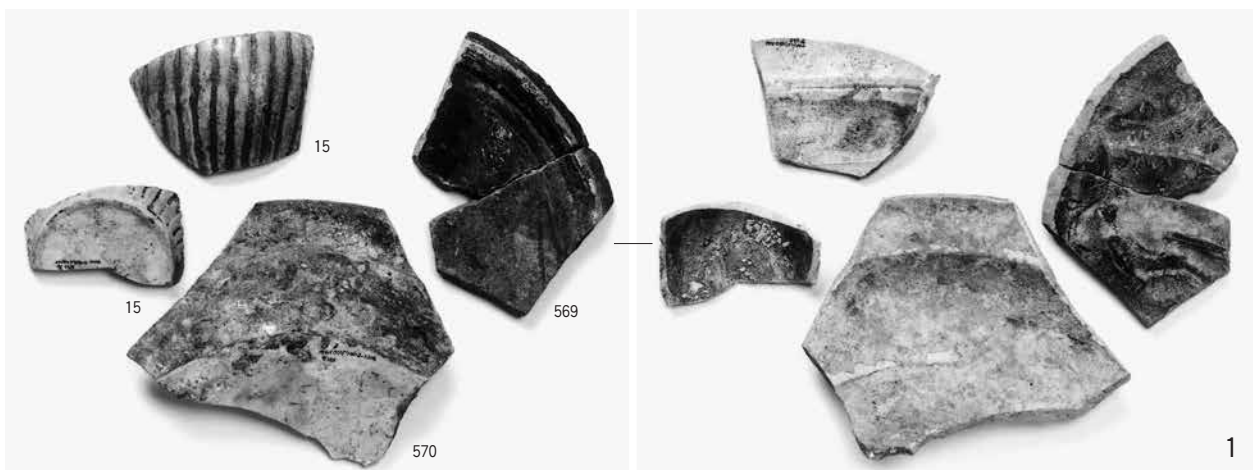
4



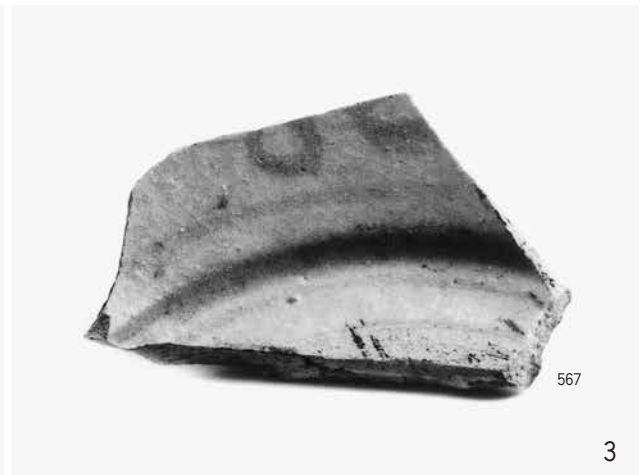
5

1 中国製陶器壺 2 中国製陶器黄釉壺 3 中国製陶器黒釉瓶
4 中国製陶器鉄絵壺 5 中国製宜興窯急須

図版18 出土遺物（5）



1 中国製軟質施釉陶器（明代） 2 中国製軟質施釉陶器（清代）
3 朝鮮王朝製陶磁器

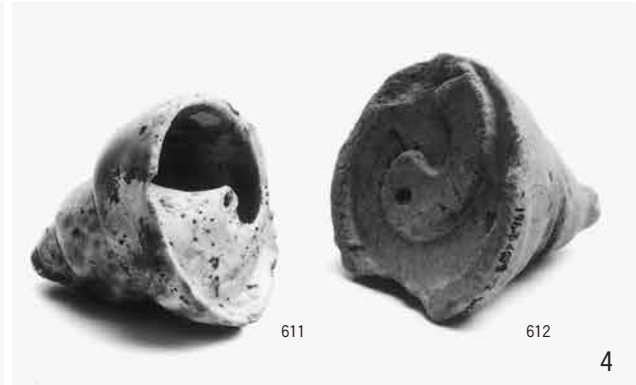
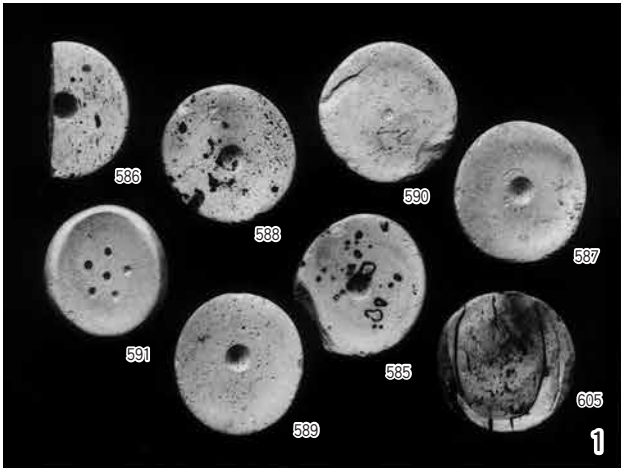


1 東南アジア製陶器壺 2 タイ製鉄絵突鉢 3 ベトナム製陶器鉄絵皿
4 オランダ製ワインボトル 5 ベトナム製陶器鉄絵鉢

図版20 出土遺物（7）

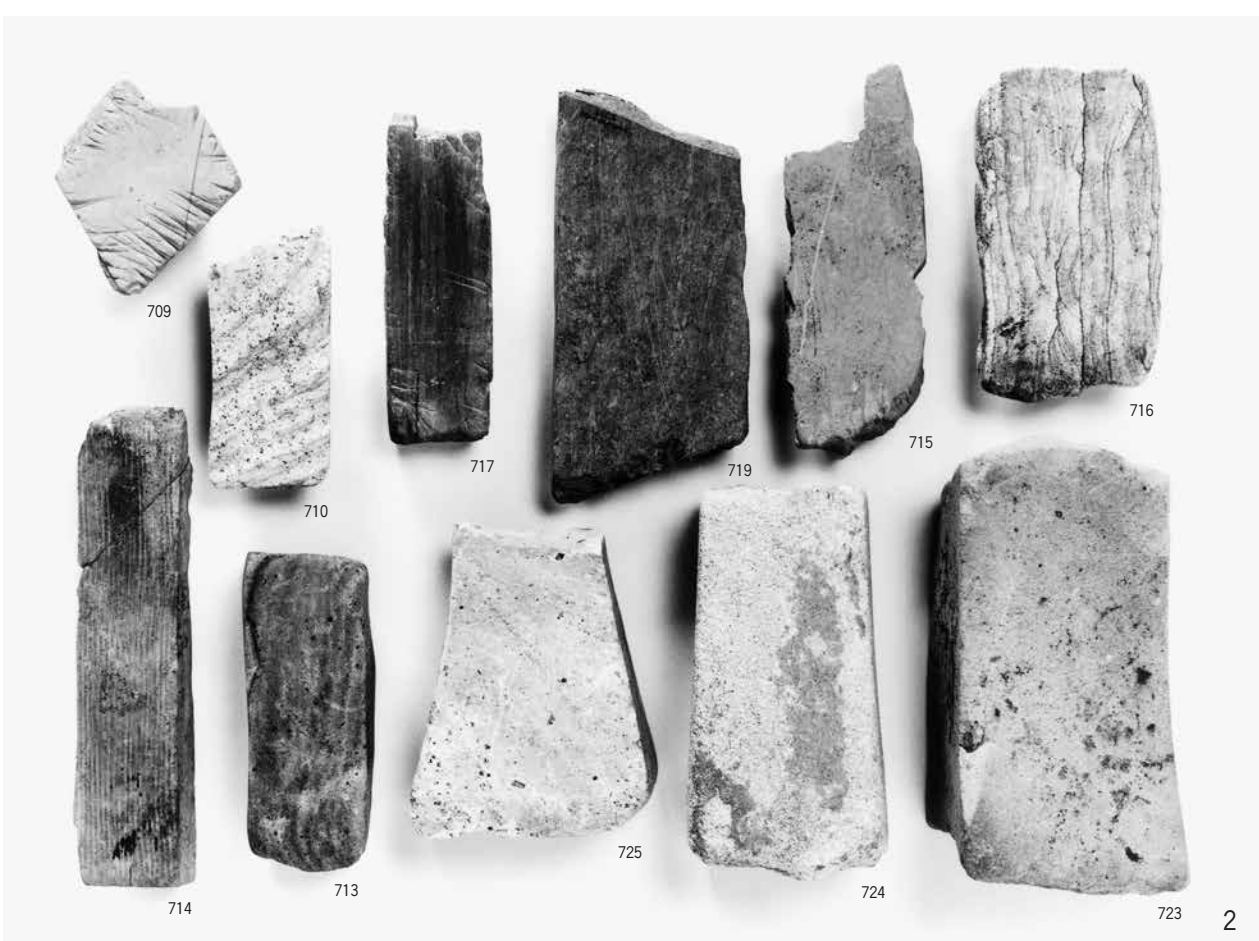


1～4 ベトナム製陶器長胴壺

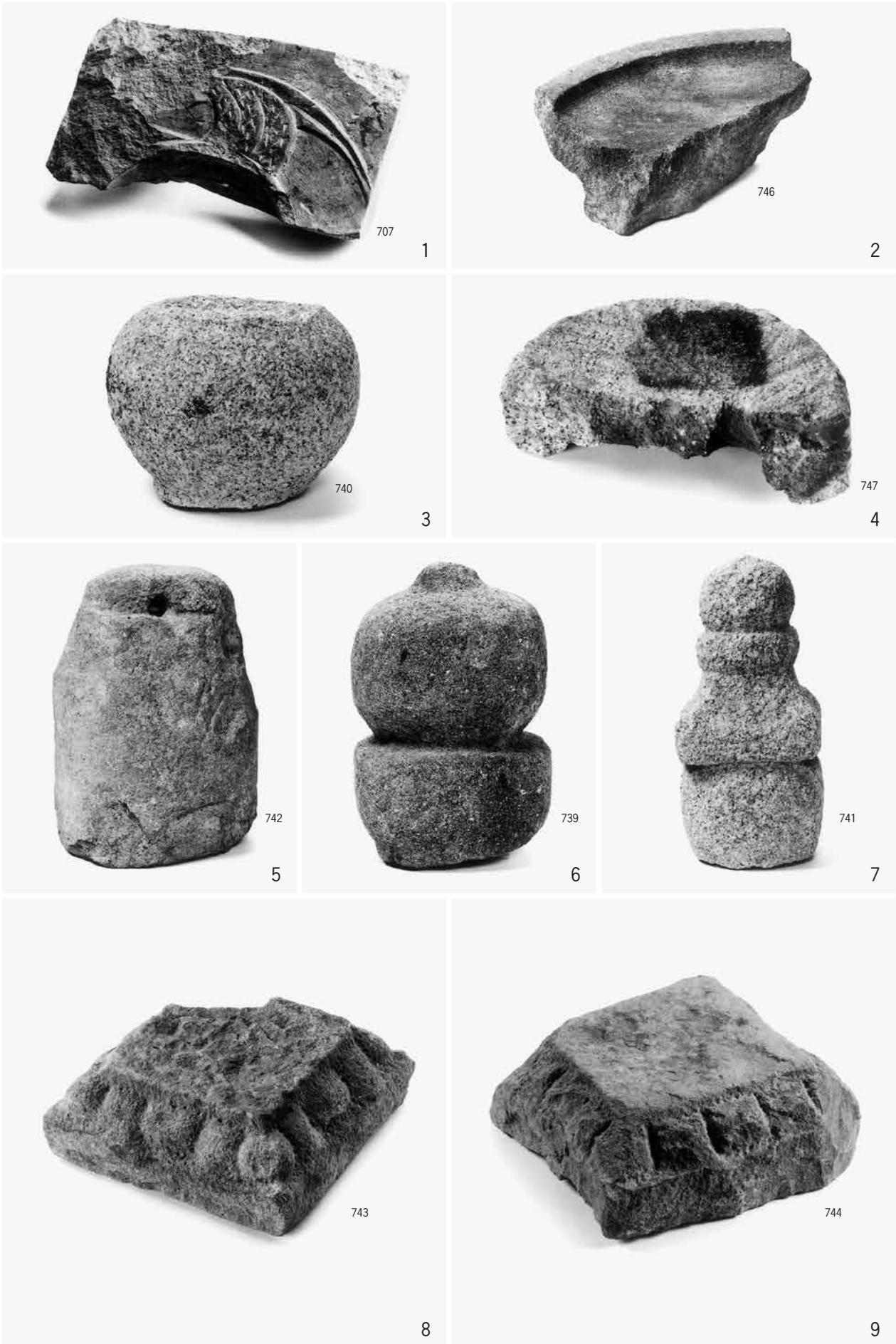


1 貝製駒 2 基石 3 土人形 4 バイ独楽・土製模倣バイ独楽 5・6 墨書土器

図版22 出土遺物（9）

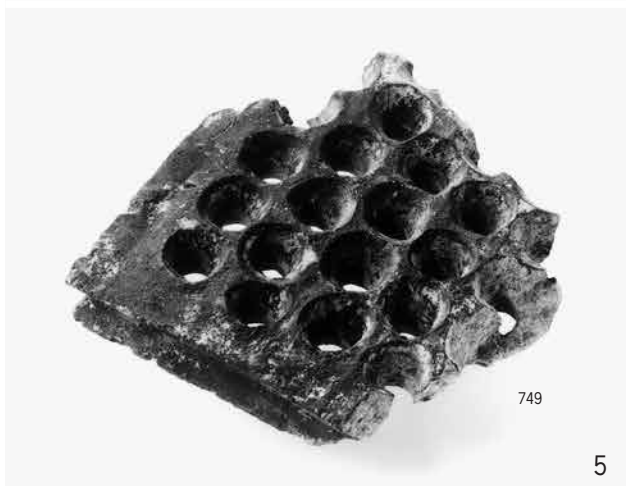
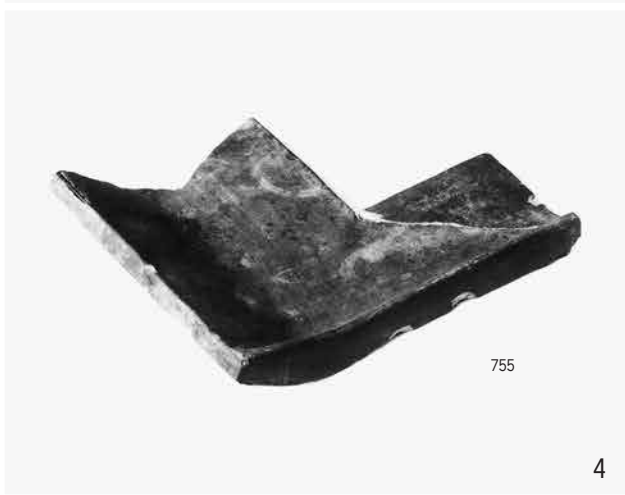
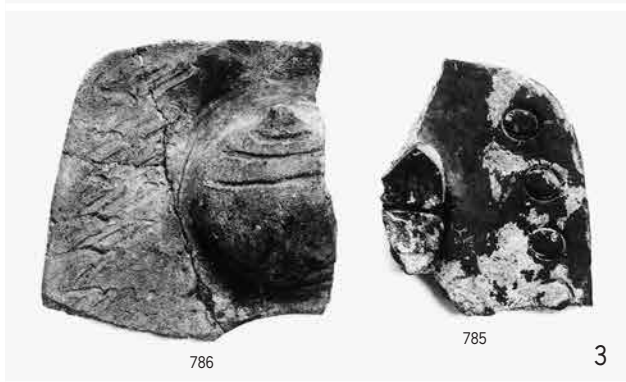
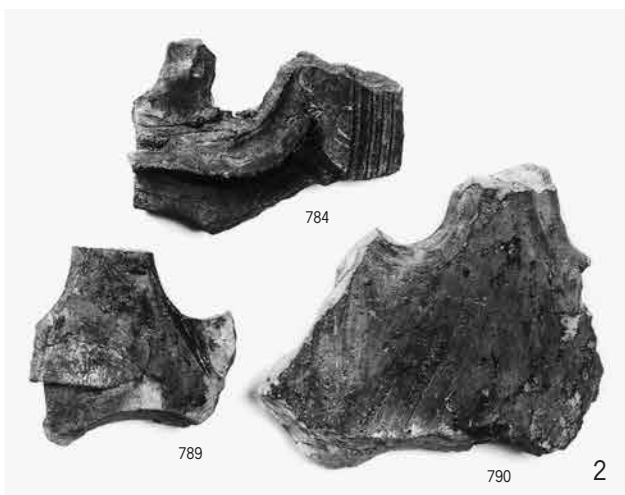
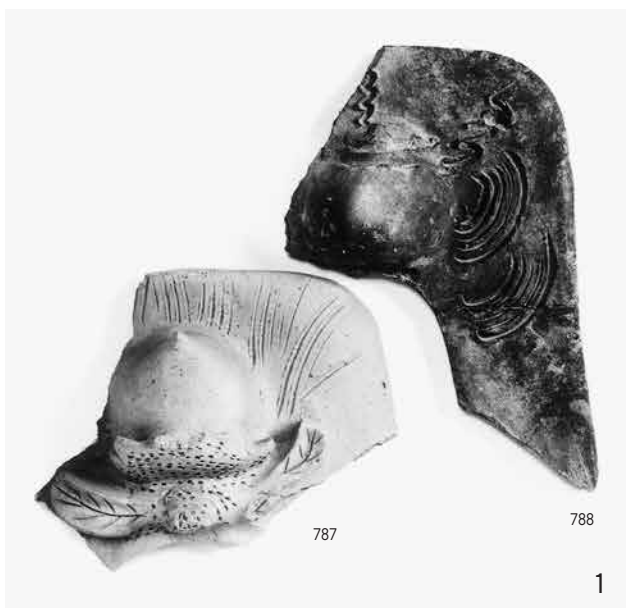


1 砥石 2 硯

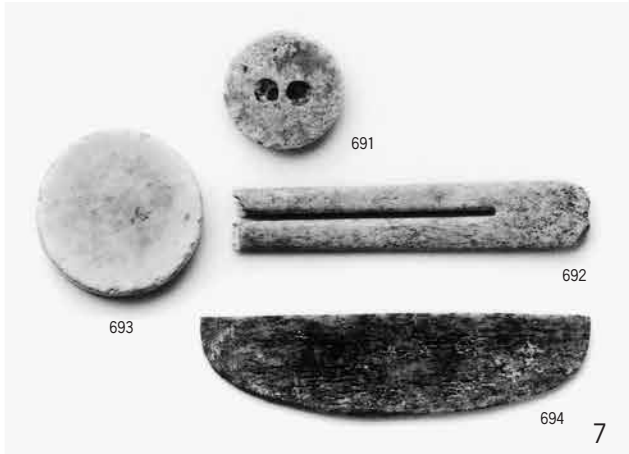
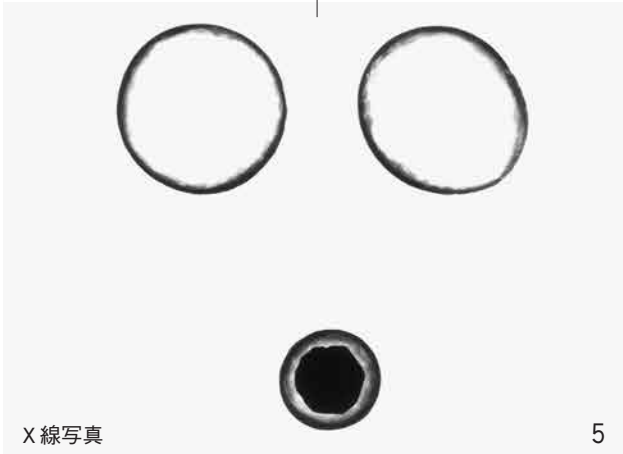
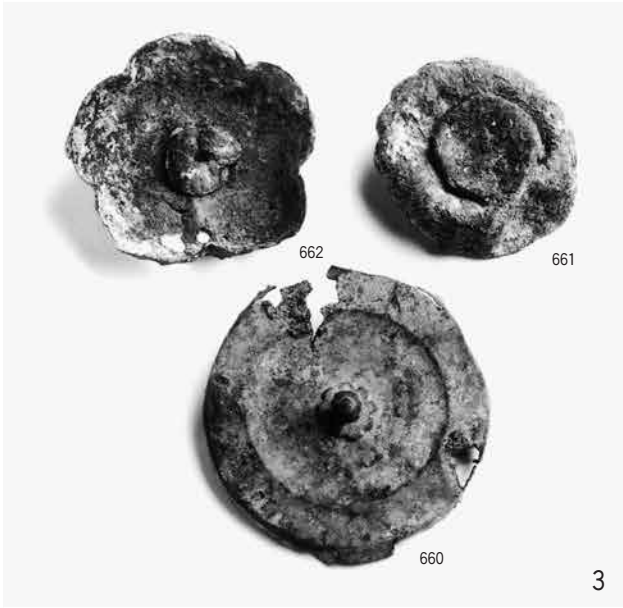
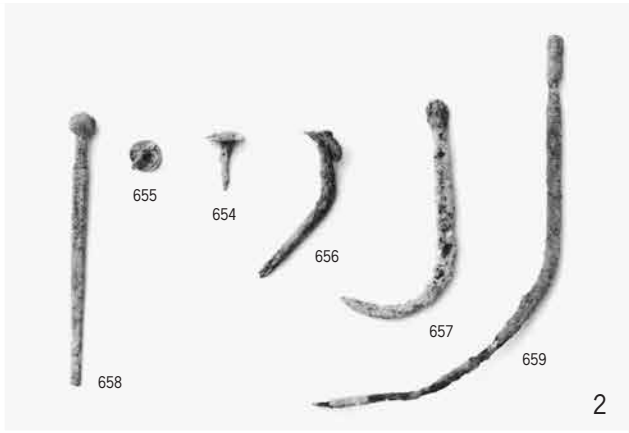
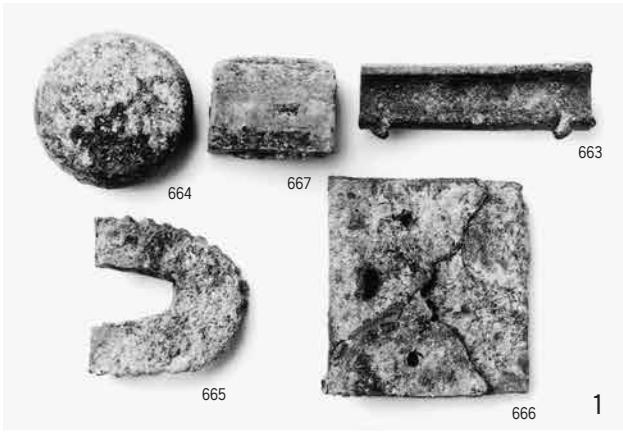


1 硯 2 砂岩製茶臼 3 花崗岩製一石五輪塔 4 石臼に残る焼柱痕跡
5 砂岩製石錘 6 砂岩製一石五輪塔 7 花崗岩製一石五輪塔 8・9 砂岩製蓮座

図版24 出土遺物 (11)



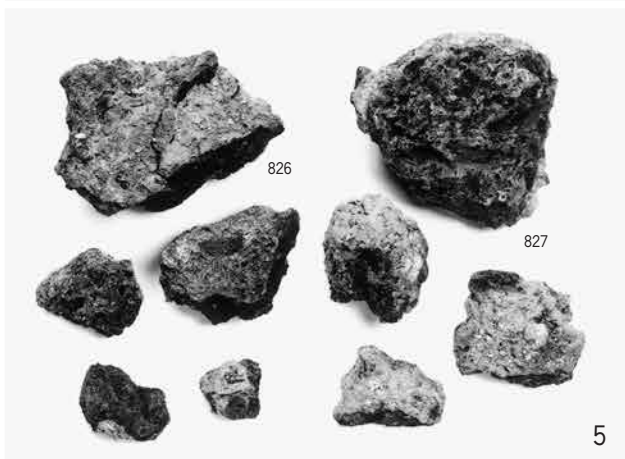
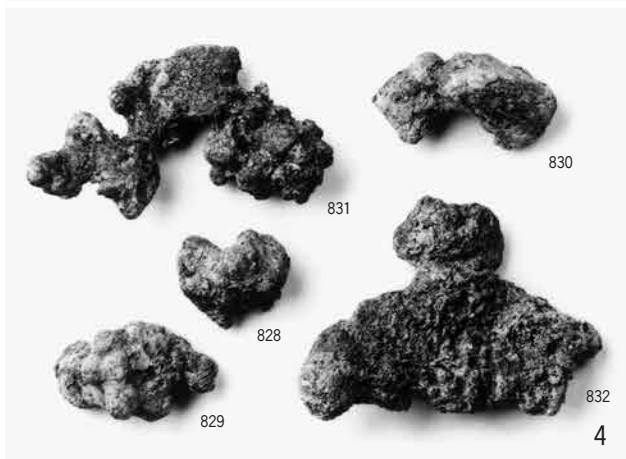
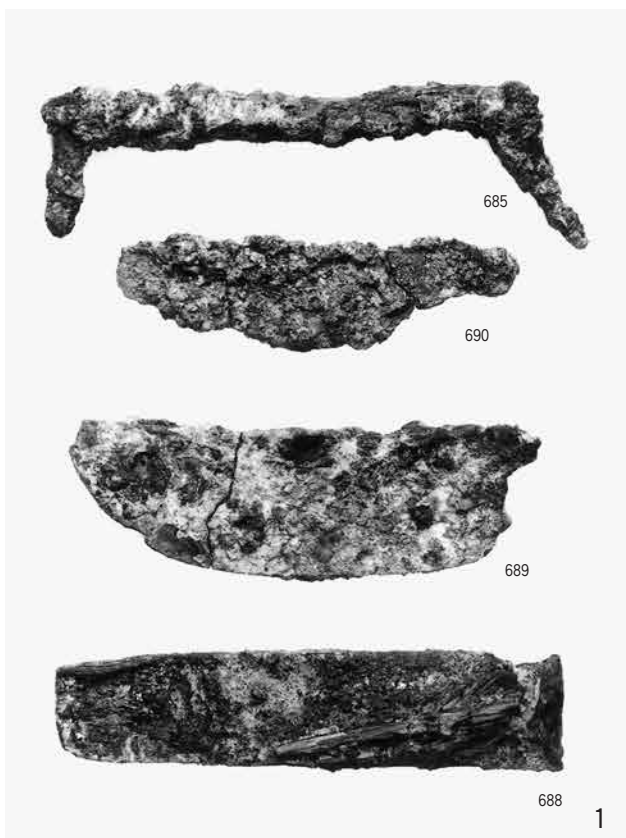
1～3 鬼瓦 4 天窓瓦 5・6 瓦質不明品 7 瓦質管 8 瓦質U字溝材



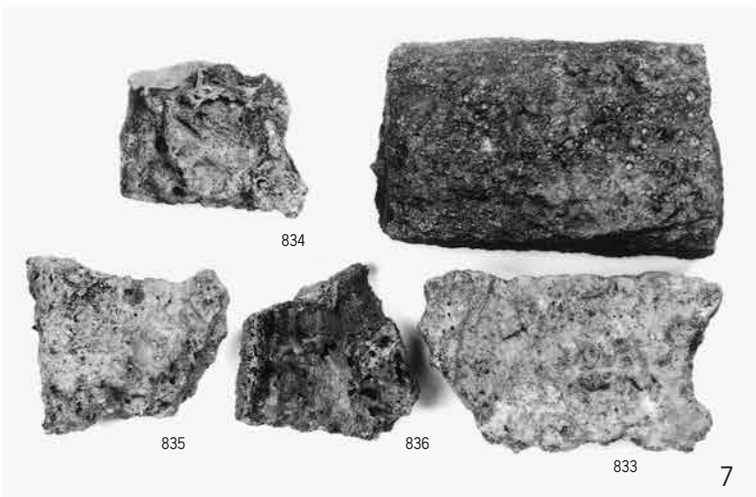
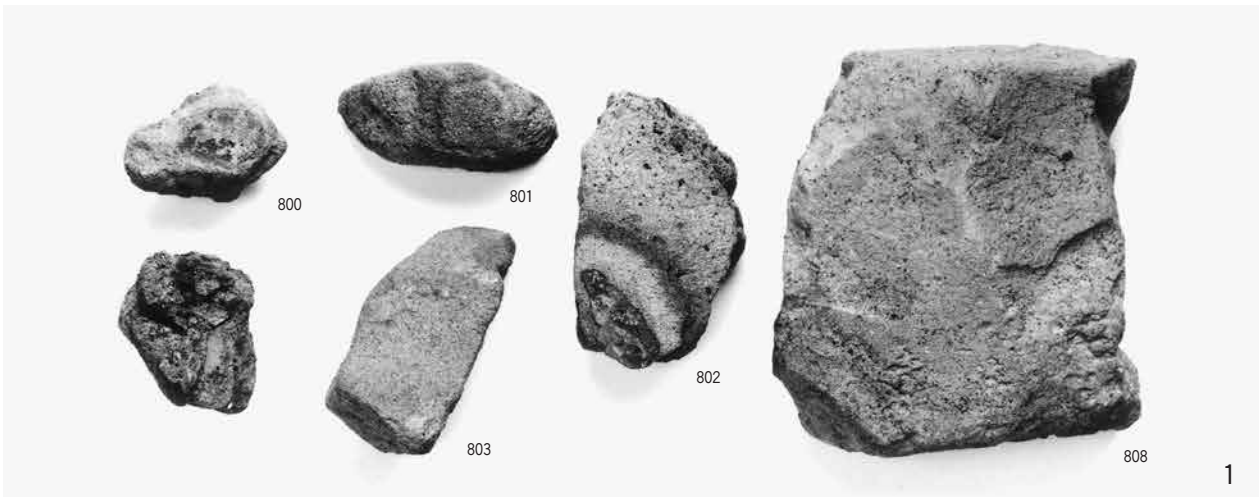
X線写真

1～4 銅製品 5 銅製鈴 6・7 骨製品

図版26 出土遺物 (13)



1 ~ 3 鉄製品 4 銅滓 5 鉄滓 6 鋳型



1・2 鋳型 3 三叉状土製品 4 とりべ 5 羽口 6 坩堝 7 炉壁

報 告 書 抄 録

ふりがな	さかいかんごうとしいせき1							
書名	堺環濠都市遺跡 I (SKT959地点)							
副書名	戎之町団地建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第177集							
編著者名	三木弘 渡辺晴香 小林恒孝 池田研 松井章 丸山真史							
編集機関	財団法人 大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 Tel.072 (299) 8791							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さかいかんごうとし 堺環濠都市 いせき 遺跡(SKT959)	さかいし 堺市堺区戎之 ちょうびがし 町東4丁地内	27201	6	34° 34' 41"	135° 28' 44"	20061206 ～ 20070531	473㎡	団地建替え
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
堺環濠都市 遺跡	都市	中世	塙列建物、礎石建物、通路、埋甕、溝、井戸、焼土域	中国製青磁・白磁・染付、ベトナム製陶器、備前陶器、丹波陶器、土師質土器、瓦質土器、瓦、鉄・銅滓		大坂夏の陣被災面を含め、4面の生活面を検出。3面で町屋の様相を確認。		
		近世	側溝、排水溝、廃棄土坑、埋甕、井戸、搾場遺構(酒蔵)	中国製染付、タイ製陶器、ベトナム製陶磁器、肥前磁器、瀬戸美濃磁器、堺陶器、京焼系陶器、瓦		17世紀中葉～19世紀前葉の3面の生活面を検出。各面で屋敷地の様相を確認。		
要約	15世紀後葉～16世紀前葉に最初の整地がなされて以降、19世紀前葉までの7面の生活面を検出した。第4面が大坂夏の陣(慶長20年、1615年)の被災面に当たり、その上下で町割が異なる。この調査地で最初に町屋が形成されたのが16世紀中葉。天正3年および慶長20年の被災面では、複数の塙列建物と礎石建物が検出され、町屋群の様相が明らかになった。近世期の3面の生活面では、通りを挟んで分割された複数の屋敷地を検出した。各屋敷地内では廃棄土坑が掘られていて、それぞれの生活様相を知ることができた。また近世末～近代に構築された酒蔵の搾場が見つかり、堺の酒造業に関する具体的な資料を得ることができた。							

Summary

The Osaka Center for Cultural Heritage excavated the Sakai Moated City Site (Sakai Kangou-toshi Site) at 4 Ebisunochi-higashi, Sakai-ku, Sakai-shi, Osaka from Dec. 2006 to May 2007. The excavated area is approximately 470 m².

This is a site of a commercial city during the medieval and modern periods. The city was first developed around the 14th century A.D. During the later half of the 15th century, the citizens were engaged with trades with China and South East Asian countries, which eventually led to the economical development of the whole city. The city was autonomously governed by the merchant citizens. A moat was built around the city for defense purpose during the middle of the 16th century, however, it was reburied in 1586 by Toyotomi Hideyoshi's order. In 1615, the city was completely destroyed by fire due to the Osaka-Natsunojin battle. It was rebuilt immediately afterwards according to the Edo government's new city plans.

The part of the city belonging to the middle 16th century to the first half of the 19th century was revealed by the current excavation. The remains of buildings, storage houses, roads, toilets and wells were found. There was also a large garbage pit. Factories for manufacturing iron and bronze tools which existed before 1615 and rice wine factories dating to the Edo period were found. There are 673 finds in total and we were able to understand the transformation of the city through 7 phases. Included in the finds are traded objects such as Chinese pottery and porcelain, Korean porcelain, Vietnamese pottery and porcelain, Thai pottery, English porcelain and wine bottles made in Holland. Local potteries include various types made in different areas like Hizen, Bizen, Shigaraki, Seto and Sakai. Local porcelains were made in Hizen and Seto-Mino. By this excavation, we were able to confirm the development and the prosperity of the city.

(translated by Akane Ikeuchi)

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第177集

堺環濠都市遺跡Ⅰ
(SKT959地点)

戎之町団地建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 2008年3月31日

編集・発行 財団法人 大阪府文化財センター
〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号

印刷・編集 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300